

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第576集

おお だいら の

大平野Ⅱ遺跡発掘調査報告書

胆沢ダム建設事業関連遺跡発掘調査

2011

国土交通省東北地方整備局
胆沢ダム工事事務所
(財)岩手県文化振興事業団

大平野Ⅱ遺跡発掘調査報告書

胆沢ダム建設事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、胆沢ダム建設事業に関連して平成18年度から4年にわたり発掘調査された奥州市胆沢区大平野II遺跡の調査成果をまとめたものです。

今回の調査により、縄文時代前期後葉、中期末～後期初頭、後期後葉頃の集落跡と、中世の炉跡・焼土造構群などが検出されました。このほか遺物では、縄文時代草創期の石器や弥生時代の土器片も出土し、この地域におけるかつての様相が明らかになってきました。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての关心や理解につながると同時に、その保護や活用、研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所、奥州市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成23年3月

財團法人 岩手県文化振興事業団
理事長 池田克典

例　　言

- 1 本報告書は、岩手県奥州市胆沢区若柳字大平野1-132ほかに所在する大平野Ⅱ遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の調査は、胆沢ダム建設事業に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所と岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課との協議を経て、国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所の委託を受けた（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 岩手県遺跡台帳における遺跡番号は「NE30-2300」、遺跡略号「ODN II - 06・07・08・09」である。
- 4 調査に関わる期間・面積、担当者は次のとおりである。

平成18年度

野外調査……期　間　平成18年6月1日～11月7日

面　積　36,500m²

担当者　丸山浩治・平野祐・菊池昌彦

室内整理……期　間　平成18年12月1日～平成19年3月30日

担当者　丸山浩治・平野祐

平成19年度

野外調査……期　間　平成19年6月25日～10月25日

面　積　29,600m²（トレンチ調査終了分を含め71,300m²終了）

担当者　濱田宏・木戸口俊子

室内整理……期　間　平成19年11月15日～平成20年3月31日

担当者　濱田宏

平成20年度

野外調査……期　間　平成20年6月2日～11月14日（途中6月14日より約2ヶ月の中断）

面　積　11,750m²

担当者　濱田宏・藤原大輔・村木敬・藤田祐

室内整理……期　間　平成20年11月15日～平成21年3月31日

担当者　濱田宏・藤原大輔

平成21年度

野外調査……期　間　平成21年6月1日～6月30日

面　積　600m²

担当者　濱田宏・藤田祐

室内整理……期　間　平成21年7月1日～9月31日

平成21年12月1日～平成22年3月31日

担当者　濱田宏

- 5 報告書の執筆は、第Ⅰ章を国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所、第Ⅱ～Ⅳ章を丸山・平野、第Ⅵ章を濱田・村木、それ以外を濱田が担当した。全体の編集・構成は濱田が行った。
- 6 試料の分析・鑑定は次の機関・団体に委託した。

放射性炭素年代測定……株式会社 加速器分析研究所

- 石器石材鑑定……………花崗岩研究会
- 7 空中写真撮影は東邦航空株式会社に委託した。
- 8 調査および報告書作成にあたり、次の方々から御指導・ご助言をいただいた（順不同・敬称略）。
佐々木いく子・石崎高臣・朴沢志津江（奥州市教育委員会）、茅野嘉雄（青森県埋蔵文化財調査センター）
- 9 発掘調査資料は、全て岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 10 調査成果は当センターホームページ、調査概報等に発表してきたが、本書の内容が優先するものである。

凡　　例

1 遺構実測図の用例は、下記のとおりである。

(1) 遺構実測図の縮尺は、基本的に次のとおりである。ただし一部異なるものもあるため各図にスケールおよび縮尺を付した。

堅穴住居状遺構	1/50
土坑	1/40
炉跡・焼土遺構・焼土等廃棄遺構	1/40
溝跡	1/100
柱穴状土坑	1/100

なお、断面はすべて1/40である。

(2) 推定線は破線で示した。

(3) 層位の表記には、基本層序にローマ数字、各遺構埋土にアラビア数字を使用した。

(4) 土層色調の観察には、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」を使用した。
混入物量（%）の目安もこれを参考にした。

(5) 図面中の土器は「p」、石器および礫は「s」の略号で表記した。

2 遺物実測図の用例は下記のとおりである。

(1) 各遺物の縮尺は、基本的に次のとおりである。ただし一部異なるものもあるため各図にスケールおよび縮尺を付した。

縄文土器	1/3
剥片石器・石核	2/3
礫石器	1/3
土師質土器	1/3

(2) 計測値は、残存値の場合（ ）で表記した。

3 遺物の掲載番号については、調査年度毎に平成18年度土器1～53、石器S 1～36、土師器・土師質土器H 1～8、平成19年度土器101～140、弥生土器Y 1、石器S 101～120、平成20・21年度土器・土製品201～746、石器S 201～400とした。

4 国土地理院発行の地形図を転載したものは、図中に図幅名と縮尺を付した。

5 引用・参考文献については、I～III章はⅢ章末に、それ以外はⅨ章末に記した。

6 4カ年分の遺構配置図は、附図として巻尾に掲載した。

目 次

I 調査に至る経過	1
II 遺跡の立地と環境	1
1 遺跡の位置	2
2 地形と地質	2
(1) 地理的環境と調査区の微地形	2
(2) 地 質	2
3 基本土層	7
4 歴史的環境と周辺の遺跡	8
III 調査と整理の方法	11
1 野外調査	11
(1) 調査経過	11
(2) グリッド設定	14
(3) 粗掘・遺構検出・試掘調査	15
(4) 遺構の調査方法・遺物の取り上げ方	16
(5) 遺構の名称	16
(6) 遺構内土壤の採取と水洗選別	17
(7) 写真撮影	18
2 室内整理	18
(1) 遺物整理の方法	18
(2) 写真撮影	18
IV 平成18年度調査	20
1 検出遺構	20
(1) 堅穴住居状遺構	20
(2) 土器埋設遺構	22
(3) 土 坑	24
(4) 炉跡(カマド状遺構)・焼土遺構・焼土等廃棄遺構	33
(5) 溝 跡	50
(6) 柱穴状土坑	54
2 出土遺物	58
(1) 縄文土器	58
(2) 石 器	59
(3) 石製品	62
(4) 土師器	62
(5) 土師質土器	62

V 平成19年度調査	81
1 検出遺構	81
(1) 堀立柱建物跡	81
(2) 土坑	81
(3) 炉跡（カマド状遺構）・焼土遺構	90
(4) 炭窯跡	95
(5) 柱列	99
(6) 柱穴状土坑	102
2 出土遺物	104
(1) 繩文土器	104
(2) 弥生土器	105
(3) 石器	105
VI 平成20年度調査	116
1 検出遺構	116
(1) 壴穴住居跡	116
(2) 壴穴住居状遺構	127
(3) 土器埋設遺構	127
(4) 土坑	129
(5) 焼土遺構	152
(6) 旧石器時代の石器集中区	154
2 出土遺物	154
(1) 掘載遺物について	154
(2) 旧石器時代の遺物	156
VII 平成21年度調査	157
1 検出遺構	157
(1) 土坑	157
(2) 集石	159
(3) 柱穴状土坑	159
(4) 小寒沢氾濫部の遺物包含層について	162
2 出土遺物	163
(1) 繩文土器	163
(2) 土製品	164
(3) 石器	164
(4) 石製品	165
VIII 自然科学的分析	239
1 平成18年度放射性炭素年代測定（AMS測定）結果報告書	239
2 平成20年度放射性炭素年代測定（AMS測定）結果報告書	240
3 平成21年度放射性炭素年代測定（AMS測定）結果報告書	241

IX 総 括	242
1 時代別の様相	242
(1) 旧 石 器 時 代	
(2) 繩 文 時 代	
(3) 弥 生 時 代	
(4) 中 世	
(5) 近 世 以 降	
2 配石住居について	243
報告書抄録	349

図版目次

第1図 遺跡の位置	1	第42図 31~35号土坑	88
第2図 地形分類・表層地質図	4	第43図 36・37号土坑	89
第3図 傾斜区分・水系図	5	第44図 12~15・18号炉跡	91
第4図 基本土層	6	第45図 16・17号炉跡	93
第5図 遺跡の周辺	9	第46図 18~20号炉跡	94
第6図 周辺地形と年度別本調査区範囲	12	第47図 1号炭窯跡（1）	96
第7図 グリッド配置図	14	第48図 1号炭窯跡（2）	97
第8図 平成18・19年度調査全体図	17	第49図 2号炭窯跡	98
第9図 1・2号穴住居状遺構	21	第50図 3号炭窯跡	99
第10図 1・2号土器埋設遺構、 1~3・6号土坑	23	第51図 1・2柱列、Ⅲ区柱穴群	100
第11図 4・5・7~9号土坑	26	第52図 3~6柱列とその周辺の柱穴群	101
第12図 10~15号土坑、12号焼上遺構	29	第53図 繩文土器（6）	107
第13図 16~20号土坑	31	第54図 繩文土器（7）	108
第14図 1・2号炉跡	34	第55図 石器（8）	109
第15図 3~5号炉跡	36	第56図 石器（9）	110
第16図 6~8・11号炉跡	38	第57図 石器（10）	111
第17図 9・10号炉跡	41	第58図 石器（11）	112
第18図 1~8号焼土遺構	43	第59図 石器（12）	113
第19図 9~11・13~17号焼土遺構	46	第60図 1・2号堅穴住居跡	117
第20図 1~5号焼上等炭窯遺構	49	第61図 3号堅穴住居跡	119
第21図 1・2号溝	51	第62図 4号堅穴住居跡	120
第22図 3~5号溝	53	第63図 5号堅穴住居跡	121
第23図 PP1~11	55	第64図 6号堅穴住居跡	122
第24図 PP12~25・35	56	第65図 7号堅穴住居跡	124
第25図 PP26~34・36	57	第66図 8号堅穴住居跡	125
第26図 繩文土器（1）	63	第67図 9号堅穴住居跡	126
第27図 繩文土器（2）	64	第68図 3号堅穴住居状遺構	128
第28図 繩文土器（3）	65	第69図 3号土器埋設遺構、38~40号土坑	130
第29図 繩文土器（4）	66	第70図 41~45号土坑	133
第30図 繩文土器（5）	67	第71図 46~49・51号土坑	135
第31図 石器（1）	68	第72図 50・52・53号土坑	137
第32図 石器（2）	69	第73図 54・55号土坑	139
第33図 石器（3）	70	第74図 56~61号土坑	141
第34図 石器（4）	71	第75図 62~67号土坑	144
第35図 石器（5）	72	第76図 68~72号土坑	147
第36図 石器（6）	73	第77図 73~76号土坑	150
第37図 石器（7）	74	第78図 77~81号土坑、21号焼土遺構	153
第38図 上部器・土師質土器	75	第79図 石器（13）	154
第39図 1号掘立柱建物跡	82	第80図 旧石器分布図	155
第40図 21~25号土坑	84	第81図 82~84号土坑、1号集石	158
第41図 26~30号土坑	87	第82図 柱穴状土坑（1）	160
		第83図 柱穴状土坑（2）	161

第 84 図 小寒沢氾濫部平面図	162	第115図 石器 (16)	197
第 85 図 縄文土器 (8)	167	第116図 石器 (17)	198
第 86 図 縄文土器 (9)	168	第117図 石器 (18)	199
第 87 図 縄文土器 (10)	169	第118図 石器 (19)	200
第 88 図 縄文土器 (11)	170	第119図 石器 (20)	201
第 89 図 縄文土器 (12)	171	第120図 石器 (21)	202
第 90 図 縄文土器 (13)	172	第121図 石器 (22)	203
第 91 図 縄文土器 (14)	173	第122図 石器 (23)	204
第 92 図 縄文土器 (15)	174	第123図 石器 (24)	205
第 93 図 縄文土器 (16)	175	第124図 石器 (25)	206
第 94 図 縄文土器 (17)	176	第125図 石器 (26)	207
第 95 図 縄文土器 (18)	177	第126図 石器 (27)	208
第 96 図 縄文土器 (19)	178	第127図 石器 (28)	209
第 97 図 縄文土器 (20)	179	第128図 石器 (29)	210
第 98 図 縄文土器 (21)	180	第129図 石器 (30)	211
第 99 図 縄文土器 (22)	181	第130図 石器 (31)	212
第100図 縄文土器 (23)	182	第131図 石器 (32)	213
第101図 縄文土器 (24)	183	第132図 石器 (33)	214
第102図 縄文土器 (25)	184	第133図 石器 (34)	215
第103図 縄文土器 (26)	185	第134図 石器 (35)	216
第104図 縄文土器 (27)	186	第135図 石器 (36)	217
第105図 縄文土器 (28)	187	第136図 石器 (37)	218
第106図 縄文土器 (29)	188	第137図 石器 (38)	219
第107図 縄文土器 (30)	189	第138図 石器 (39)	220
第108図 縄文土器 (31)	190	第139図 石器 (40)	221
第109図 縄文土器 (32)	191	第140図 石器 (41)	222
第110図 縄文土器 (33)	192	第141図 石器 (42)	223
第111図 縄文土器 (34)	193	第142図 石器 (43)	224
第112図 縄文土器 (35)	194	第143図 石器 (44)	225
第113図 石器 (14)	195	第144図 石器 (45)	226
第114図 石器 (15)	196		

表 目 次

<平成18年度調査>

第1表 周辺の遺跡一覧	10	第9表 土師質土器・土師器地点別出土量	80
第2表 フローテーション用土壤採取地点と量	17	第10表 土師器・土師質土器観察表	80
第3表 枝穴状遺構土層記と計測値	54	<平成19年度調査>	
第4表 縄文土器地点別出土量	76	第11表 杖穴状土坑土層記と計測値	102
第5表 石器地点別出土量	77	第12表 縄文土器地点別出土量	114
第6表 石材別出土量(剥片・素材)	77	第13表 石器地点別出土量	114
第7表 縄文土器観察表	78	第14表 縄文・弥生土器観察表	115
第8表 石器観察表	79	第15表 石器観察表	115

<平成20・21年度調査>

第16表 平成21年度調査柱穴上坑観察表	159	第19表 造構内石器・石製品出土量	235
第17表 楯文土器地点別出土量	227	第20表 石器地点別出土量	235
第18表 楯文土器・上製品観察表	228	第21表 石器・石製品観察表	236

写真図版目次

写真図版1 平成18年度航空写真	247	写真図版38 5号堅穴住居跡	284
写真図版2 調査前風景・基本土層	248	写真図版39 6号堅穴住居跡	285
写真図版3 1号堅穴住居状遺構	249	写真図版40 7号堅穴住居跡	286
写真図版4 2号堅穴住居状遺構	250	写真図版41 8号堅穴住居跡	287
写真図版5 1・2号土器埋設遺構	251	写真図版42 9号堅穴住居跡	288
写真図版6 1～3号土坑	252	写真図版43 3号堅穴住居状遺構	289
写真図版7 4～7・9号土坑	253	写真図版44 38～41号土坑	290
写真図版8 8・10～12号土坑	254	写真図版45 42～45号土坑	291
写真図版9 13～16号土坑	255	写真図版46 46～49・51号土坑	292
写真図版10 17～20号土坑	256	写真図版47 50・52～54号土坑	293
写真図版11 1～3号炉跡	257	写真図版48 3号土器埋設遺構ほか	294
写真図版12 3～5号炉跡	258	写真図版49 58～61号土坑	295
写真図版13 6～8号炉跡	259	写真図版50 62～65号土坑	296
写真図版14 9～11号炉跡	260	写真図版51 66・68～70号土坑	297
写真図版15 1～4号焼土遺構	261	写真図版52 71～74号土坑	298
写真図版16 5・7～9号焼土遺構	262	写真図版53 75～78号土坑	299
写真図版17 10～13・15号焼土遺構	263	写真図版54 79～81号土坑、21号焼土	300
写真図版18 16・17号焼土遺構ほか	264	写真図版55 82～84号土坑、1号集石	301
写真図版19 2～5焼土等廐棄遺構	265	写真図版56 平成18年度調査出土遺物（1）	302
写真図版20 1・2・4号溝跡	266	写真図版57 平成18年度調査出土遺物（2）	303
写真図版21 3・5号溝跡	267	写真図版58 平成18年度調査出土遺物（3）	304
写真図版22 平成19年度航空写真ほか	268	写真図版59 平成18年度調査出土遺物（4）	305
写真図版23 21～24号土坑	269	写真図版60 平成18年度調査出土遺物（5）	306
写真図版24 25～28号土坑	270	写真図版61 平成18年度調査出土遺物（6）	307
写真図版25 29～32号土坑	271	写真図版62 平成18年度調査出土遺物（7）	308
写真図版26 33～36号土坑	272	写真図版63 平成19年度調査出土遺物（1）	309
写真図版27 37号土坑、12～14号炉跡	273	写真図版64 平成19年度調査出土遺物（2）	310
写真図版28 15～18号炉跡	274	写真図版65 平成19年度調査出土遺物（3）	311
写真図版29 18～20号焼土遺構ほか	275	写真図版66 平成19年度調査出土遺物（4）	312
写真図版30 1～3号炭窯跡	276	写真図版67 平成20・21年度出土遺物（1）	313
写真図版31 1～6号柱列ほか	277	写真図版68 平成20・21年度出土遺物（2）	314
写真図版32 平成20年度航空写真	278	写真図版69 平成20・21年度出土遺物（3）	315
写真図版33 航空写真・旧石器出土状況	279	写真図版70 平成20・21年度出土遺物（4）	316
写真図版34 1号堅穴住居跡	280	写真図版71 平成20・21年度出土遺物（5）	317
写真図版35 2号堅穴住居跡	281	写真図版72 平成20・21年度出土遺物（6）	318
写真図版36 3号堅穴住居跡	282	写真図版73 平成20・21年度出土遺物（7）	319
写真図版37 4号堅穴住居跡	283	写真図版74 平成20・21年度出土遺物（8）	320

写真図版75	平成20・21年度出土遺物（9）	321
写真図版76	平成20・21年度出土遺物（10）	322
写真図版77	平成20・21年度出土遺物（11）	323
写真図版78	平成20・21年度出土遺物（12）	324
写真図版79	平成20・21年度出土遺物（13）	325
写真図版80	平成20・21年度出土遺物（14）	326
写真図版81	平成20・21年度出土遺物（15）	327
写真図版82	平成20・21年度出土遺物（16）	328
写真図版83	平成20・21年度出土遺物（17）	329
写真図版84	平成20・21年度出土遺物（18）	330
写真図版85	平成20・21年度出土遺物（19）	331
写真図版86	平成20・21年度出土遺物（20）	332
写真図版87	平成20・21年度出土遺物（21）	333
写真図版88	平成20・21年度出土遺物（22）	334
写真図版89	平成20・21年度出土遺物（23）	335
写真図版90	平成20・21年度出土遺物（24）	336
写真図版91	平成20・21年度出土遺物（25）	337
写真図版92	平成20・21年度出土遺物（26）	338
写真図版93	平成20・21年度出土遺物（27）	339
写真図版94	平成20・21年度出土遺物（28）	340
写真図版95	平成20・21年度出土遺物（29）	341
写真図版96	平成20・21年度出土遺物（30）	342
写真図版97	平成20・21年度出土遺物（31）	343
写真図版98	平成20・21年度出土遺物（32）	344
写真図版99	平成20・21年度出土遺物（33）	345
写真図版100	平成20・21年度出土遺物（34）	346
写真図版101	平成20・21年度出土遺物（35）	347

I 調査に至る経過

大平野Ⅱ遺跡は、「胆沢ダム建設事業」に伴い、その事業区域内に位置することから、発掘調査を実施することとなったものである。

胆沢ダムは、北上川右支川胆沢川に建設中の堤体高132m、堤頂標高723m、総貯水容量1億4,300万m³の中央コア型ロックフィルダムであり、その目的に洪水調節・河川環境保全等のための流水維持・かんがい用水・水道用水・水力発電を有する多目的ダムである。

胆沢ダム建設事業は、平成2年5月11日に「胆沢ダムの建設に関する基本計画」が官報告示されて建設着手し、その後平成12年6月14日に基本計画変更が官報告示され、事業費及び工期改定を行い現在に至っている（当初工期：平成11年度～変更工期：平成25年度）。

埋蔵文化財の取り扱いについては、事業に先立ち昭和58年10月に建設省（現国土交通省）新石器ダム調査事務所（昭和63年4月に胆沢ダム工事事務所に組織改正）から、ダム事業区域内における埋蔵文化財の有無を岩手県教育委員会に照会し、周知地区864,000m²、可能性有地区490,000m²を確認した。その後は、水没面積4,400,000m²を含む事業区域内における埋蔵文化財の包蔵地について、毎年度、各工事の実施に先立って岩手県教育委員会との協議を行なながら、計画的に調査を実施してきているところである。

胆沢ダム建設事業に関する大平野Ⅱ遺跡の埋蔵文化財調査は、ダム建設に伴う付替市道屎前櫻木半線の道路工事に必要となる盛土材の採取地や受入地などで、必要な区域（約221,000m²）を実施することとし、平成17年3月25日付け国東整胆調設第56号により、胆沢ダム工事事務所長から岩手県教育委員会に試掘調査の依頼を行った。

依頼を受けた岩手県教育委員会が平成17年5月30日～7月29日にかけて試掘調査を実施した結果、遺構密度は疎らではあるが、広範囲にわたって縄文時代前期と縄文時代後期の集落跡が確認されたため、当該区域について平成17年10月3日付け教生第1005号にて「発掘調査が必要」である旨、胆沢ダム工事事務所長に回答があった。

この回答に基づき岩手県教育委員会と協議し、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターに委託して発掘調査を実施することになったものである。

（国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所）

II 遺跡の立地と環境

1 遺跡の位置

大平野Ⅱ遺跡は、岩手県奥州市胆沢区若柳字大平野に所在し（第1図）、奥州市胆沢総合支所の西方約18km、石淵ダムの南西約4kmに位置する。地形図上では、国土地理院発行の1:50,000地形図「焼石岳」図幅に含まれ、北緯39度05分34秒、東経140度52分05秒にあたる。

2 地形と地質

（1）地理的環境と調査区の微地形（第2・3図）

奥州市胆沢区の西部には奥羽脊梁山脈があり、同区と秋田県境の付近には標高1,000m級の山々が南北に連なる。ここに源を發した胆沢川が東方に流れ、広大な胆沢扇状地を形成しながら同市水沢区にて北上川と合流する。本遺跡は奥羽山脈の東縁部にあり、北西から延びる丘陵褶野の南東向き緩斜面上に立地する。標高はおよそ358~371mである。本遺跡の南西側には前川が北東側に流れる。胆沢川上流域には山間地を縫って流れる多数の小河川が存在するが、前川もその中の一つであり、石淵ダムのダム湖西側にて胆沢川と合流する。各河川とも立地的な環境から水平開析範囲は狭く、平坦面はほとんど發達していない。前川は胆沢川の支流中最大規模で、その流域には他の支流から見れば唯一ともいえる広さの河岸段丘が形成されている。中でも、本遺跡の位置する大平野付近には最大規模の平坦面が形成されているが、その成因は前川の開析作用に加え、西方山地から東流し前川に合流する小寒沢、大寒沢などさらなる支流による丘陵開析と扇状地形成運動が関係している。これにより本遺跡付近には東南向きの緩斜面が東北から西南方向に広く延びており、その距離は約1.2km、幅も300m以上に及ぶ。

（丸山）

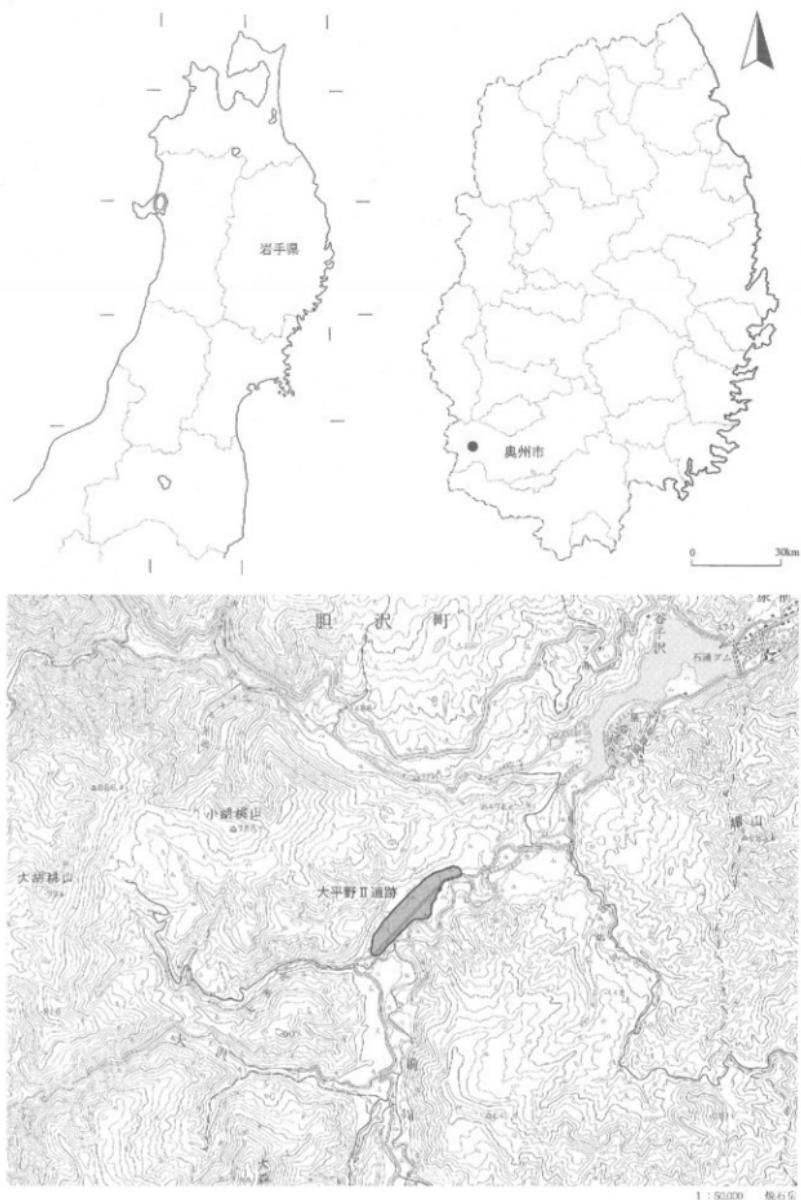
（2）地質

奥羽脊梁山脈は、中新世以降のグリーンタフ（緑色凝灰岩）変動によって形成され、新第三系および火山岩類を主体とする褶曲山地で、現在も活動している火山帯である。

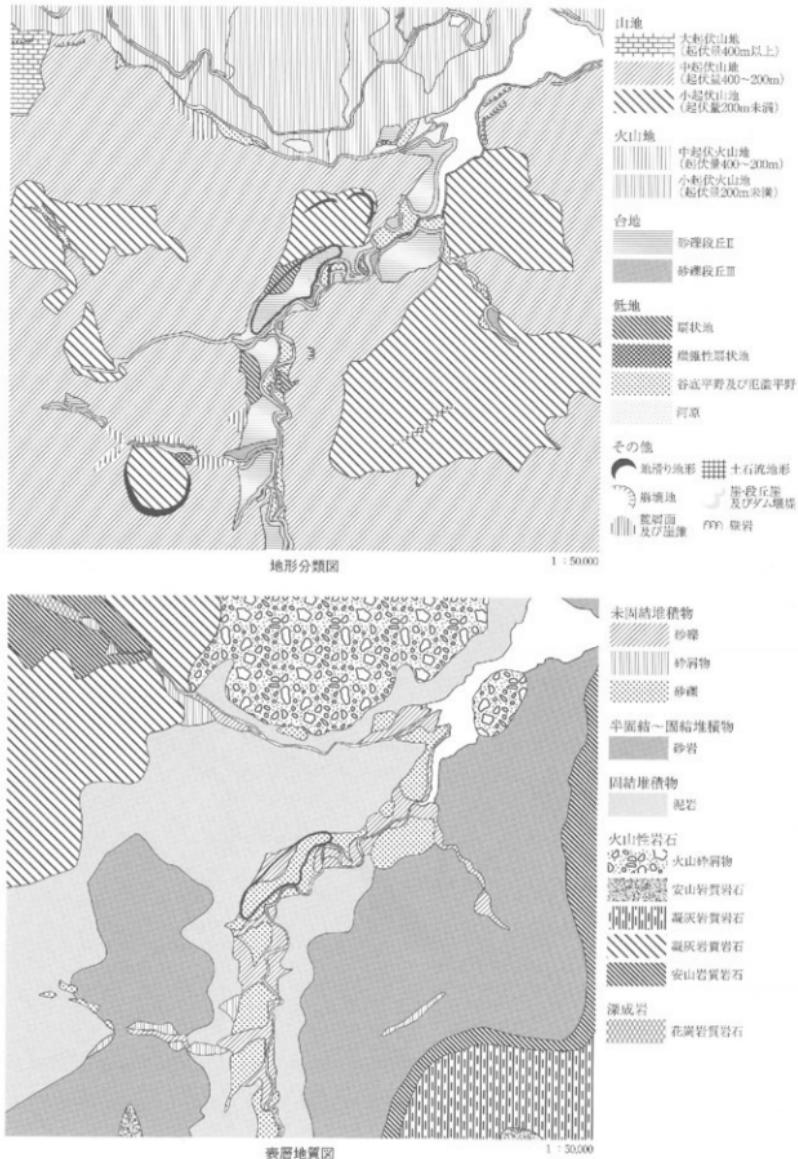
この地域を構成する地質の基盤は古生層および花崗岩で、笹森山、下鉢山、桑原岳付近に分布している。さらに第四系の新規火山岩類がこれらを貫入あるいは被覆している。新規火山岩類は、焼石岳、笹森山、大森山、高檜能山、雨出森、鈴ヶ森といった点在のしかたで分布し、火山碎屑堆積物が新規火山の周辺山麓部に分布しているとともに、山地と接する部分は崖錐性堆積物が覆い、河床付近には河岸段丘堆積物が広く分布しており、表層の堆積物は、胆沢川の扇状地堆積、火山碎屑岩、崖錐・土石流堆積物などがある。

本遺跡周辺の基盤は、新第三系中新世前川層の固結堆積物の泥岩であって、硬質頁岩、砂質頁岩、細粒砂岩からなる。岩相はこれらの地層が互層して分布するため、地すべりが起こりやすいところもある。

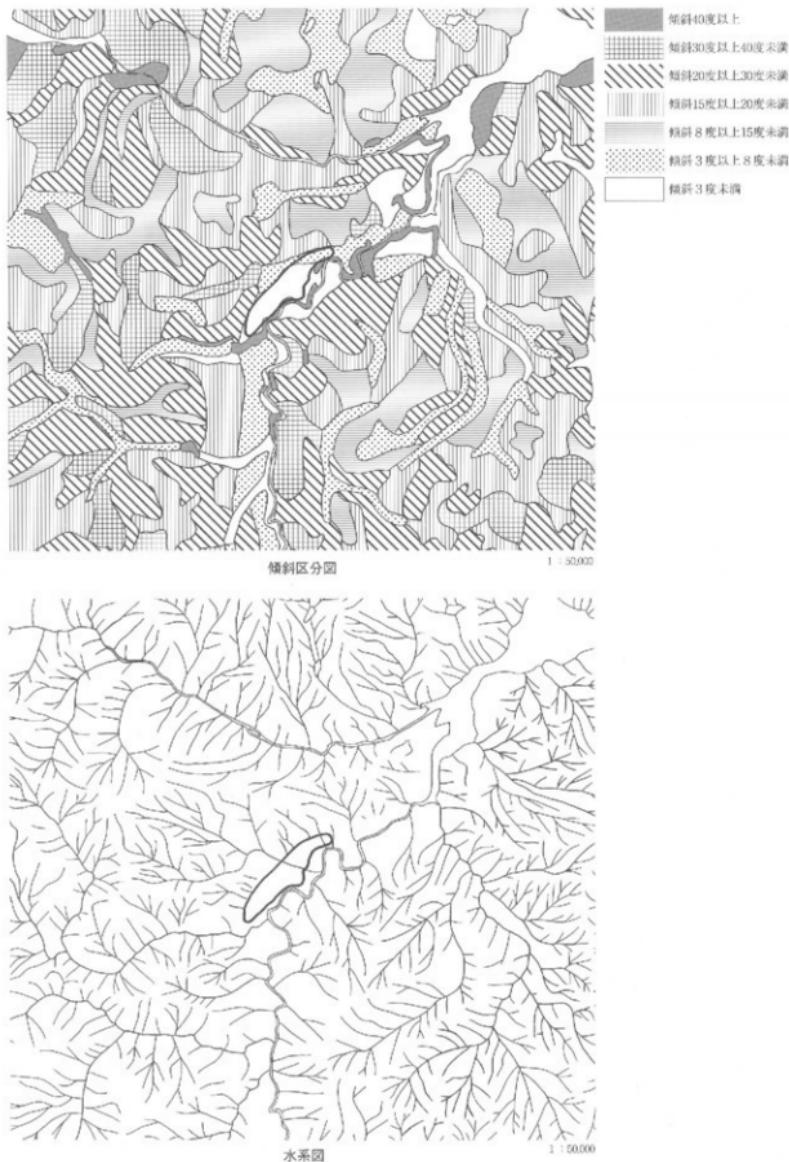
本遺跡の表層地質は、この基盤岩を覆う第四系沖積世段丘堆積物からなる。沖積層は、後背地の地質の状態から、火山岩の礫を主体とした未固結堆積物である粗粒堆積物の分布が優勢である。礫の多くはこぶし大から人頭大程度の大きさで、さらに大きなものも少なくない。礫の種類は、火山岩が主



第1図 道路の位置



第2図 地形分類・表層地質図

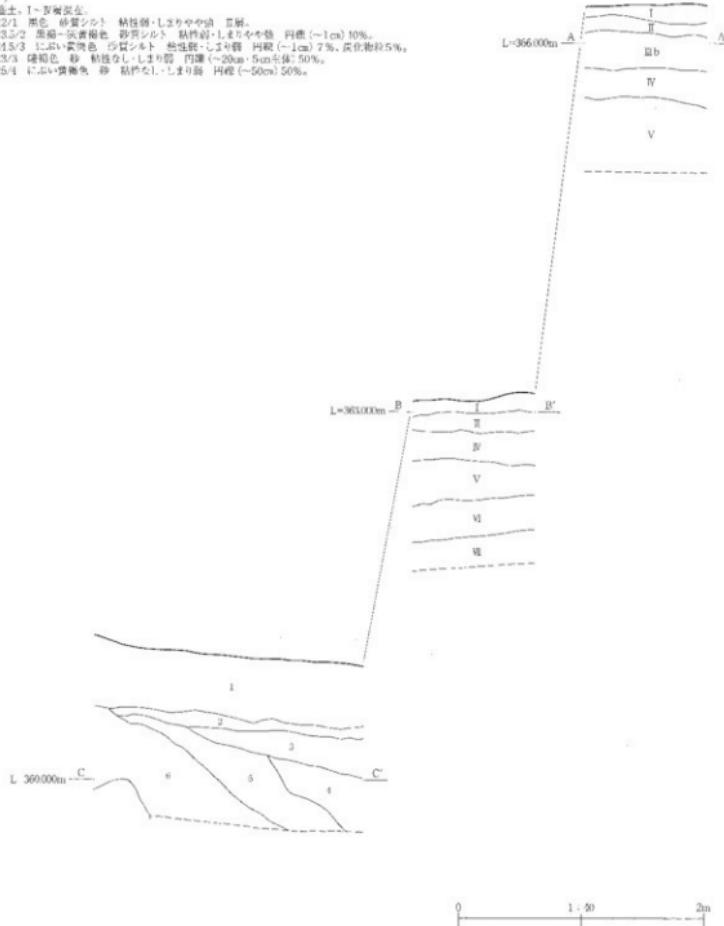


第3図 傾斜区分・水系図

- (A-A') (B-B')
- I D0YR3/1 黒紫色 シルト 粘性中・しまり弱 斑状。
 - II D0YR3/2 黒紫色 シルト 粘性弱・しまり弱 小川の道跡 僗出面。
 - IIIa D0YR3/3 黒紫色 シルト 粘性中・しまり中 且角と並列の断層帶。
 - IIIb D0YR5/6 黒紫色 シルト 粘性中・しまり中 内陸 (-5cm) 3%、局所的に粘性に短縮。凹凸面内堆積。
 - IV D0YR4/3 にかい 黑紫色 シルト 粘性中・しまり中 地質により内陸 (-30cm) 多量、泥炭化度高。
 - V D0YR6/6 黒紫色 シルト 粘性中・しまり強 内陸 (-30cm・2m-3cm 1体) 5%、局所的に多量、泥炭化度高。
 - VI D0YR5/1 にかい 黑紫色 シルト 粘性弱・しまり強 内陸 (-20cm・10cm 1体) 40%、
 - VI D0YR5/4 にかい 黑紫色 砂 粘性なし・しまり弱 内陸 (-20cm・10cm+4cm) 40%。

(C-C')

- 1 稼代盛土。I-莎草炭灰。
- 2 D0YR2/1 黑色、の葉シルト、粘性弱・しまりやや弱、直屈。
- 3 D0YR3/5/2 黒色-灰青褐色、莎草シルト、粘性弱・しまりやや強、内陸 (-1cm) 10%。
- 4 D0YR2/5/3 にかい 黑紫色、莎草シルト、粘性弱・しまり弱、内陸 (-1cm) 7%、炭化物粒 5%。
- 5 D0YR3/3 硫酸化、砂、粘性なし・しまり弱、内陸 (-20cm・5cm 1体) 50%。
- 6 D0YR5/4 にかい 黑紫色、砂、粘性なし・しまり弱、内陸 (-50cm) 50%。



第4図 基本土層

倒的に多い。礫は円磨度があまり高くなく、亜角礫ないし角礫程度である。

また、断続的に本固結堆積物の第四系洪積世層状地・段丘堆積物が分布する。砂礫は主として火山岩の礫で、大きさは卵大から人頭大のものが多く、後背地の地質によって大きさが多少異なってくる。

(平野)

3 基本土層

4カ年での調査範囲は広大であり、地点により堆積土層に差異がある（第4図、写真図版2）。

A-A'・B-B'

- I 層：10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中・しまり弱 現表土。
 - II 層：10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり弱。中世の遺構検出面。
 - III a層：10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中・しまり中。II層とIV層の漸移層。遺物の存在から局所的に認識。自然堆積であり、広義の遺物包含層。本来はこれより広範囲に広がっていたものと思われる。
 - III b層：10YR5/6 黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 円礫（～5cm）5%混入。局所的に筋状に堆積。旧河道内に堆積したものと思われる。
 - IV 層：10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 地点により円礫（～30cm）多量に混入。遺構検出面。
 - V 層：10YR6/6 明黄褐色 シルト 粘性中・しまり強 円礫（～30cmで2～3cm主体）5%、地点により多量混入。遺構検出面。
 - VI 層：10YR6/4 にぶい黄橙色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 円礫（～30cmで10cm主体）40%混入。
 - VII 層：10YR5/4 にぶい黄褐色 砂 粘性なし・しまり弱 円礫（～30cmで10cm主体）40%混入。
- 小寒沢周辺（C-C'）
- 1 層：現代盛土。I～IV層混在。
 - 2 層：10YR2/1 黒色 砂質シルト 粘性弱・しまりやや強 II層。
 - 3 層：10YR3.5/2 黒褐色～灰黄褐色 砂質シルト 粘性弱・しまりやや強 円礫（～1cm）10%混入。
 - 4 層：10YR4.5/3 にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり弱 円礫（～1cm）7%、炭化物粒5%混入。
 - 5 層：10YR3/3 暗褐色 砂 粘性なし・しまり弱 円礫（～20cmで5cm主体）50%混入。
 - 6 層：10YR5/4 にぶい黄褐色 砂 粘性なし・しまり弱 円礫（～50cm）50%混入。

近代における水田耕作、林道整備、レジャーランド建設等による地形改変が殊のほか大きく、II～IV層は削平され残存しない部分が多い（特に北東部）。

III層のaとbは成因的に全く異なるものであるが、その前後関係が不明であること、II層とIV層の間に介在することからいずれもIII層とした上で細別した。

調査区北東部は、北側丘陵から流入する雨水などにより小川が網目状に流れている。このため湿地帯が形成されており、その下位土層におけるシルト～粘土層はグライ化し、砂礫層が複数枚発達している。

小寒沢左岸近辺は、同河川による浸食作用で1段低くなってしまっており、確認できたところでは1~3m程度の段丘崖が形成されている。低位部は侵食後の河川堆積により他所と様相を全く異にしており、砂礫層の発達が著しい。(基本土層C-C')

4 歴史的環境と周辺の遺跡

本遺跡周辺の歴史的環境について、遺跡から概観する。対象範囲は、本遺跡を中心とした半径10km圏内とし、これを第5図・第1表に示した。この範囲内には、奥州市胆沢区の他、同市衣川区、一関市の一部が含まれる。なおここでは、本遺跡にて検出された造構の時期、すなわち縄文時代と中世の遺跡についてのみ詳述する。

縄文時代の遺跡として認知されているものは、本遺跡を含め46箇所存在する。平根原I・II(5・6)、坪測I~III(7~9)、下嵐江I~III(10~12)、谷子沢(13)、渋民沢(14)は本遺跡と同様に前川流域の山間地に立地している。いずれも半径4km圏内である。発掘調査が行われておらず、詳細は不明である。蜂谷(16)、屎前I・II(17・18)、下屎前I・II(19・20)は本遺跡の北~北東側、胆沢川左岸に位置しており、蜂谷以外は胆沢川にほど近い谷間に立地している。うち、蜂谷、屎前II、下屎前I・IIでは胆沢ダム建設関連で発掘調査が行われており、屎前IIと下屎前Iで縄文時代早期末~前期初頭・中期・後期・晚期の住居跡が確認され、集落域であったことが判明している。また、屎前IIと下屎前IIでは大木10式土器が出土している。No23~32、35~40、42~44、46、47、49~53は胆沢扇状地扇頂に立地する遺跡である。大清水上(29)は前期後葉の大木5式期の大集落跡で、住居跡が環状に配置されている。遺物には、宮城県城で多く出土しているイチジク形土製品、奥羽山脈を越えた秋田県城に多い燕尾形石製品など他地域との関係を示す遺物が出土していることも特徴的で、該期の拠点集落と考えられている。この他、早・中・後・晚期の土器も出土しており、時間軸的にも連続と用いられた土地であったことが分かる。上萩森(39)は後期旧石器時代の遺跡として著名であるが、その上部からは早期の土器が出土している。南中沢(47)は、発掘調査の結果遺構未検出であったものの、後・晚期の土器と土偶・土版・耳栓などの土製品や石刀などの石製品が出土している。岳山(48)は胆沢川左岸の丘陵内に位置しており、後・晚期の遺物が確認されている。また、祭時A(54)、櫻木平(56)は本遺跡南方の丘陵内、磐井川左岸に位置する。前者では中・後期、後者では中期の遺物が出土している。

中世に比定される遺跡は、渋民沢(14)、下屎前I(19)、松山寺(33)、小谷館(34)、鹿合館(45)の5箇所が知られている。渋民沢は本遺跡よりさらに山中に入った前川上流域に立地しており、中世末期に「渋民沢銀山」があったとされる場所である。該期の幕壇や寺院跡が存在したとされるが、詳細は不明である。松山寺と小谷館は増沢沿いの山地内にあり、文字通り前者は寺院跡、後者は中世城館とされている。鹿合館は胆沢川の左岸に立地する中世末期の城館跡で、空堀跡、土塁跡、掘立柱建物跡、石敷跡などが確認されている。

中世の遺跡は、生活面の高さや造構の形態的性格、遺物量の少なさなどから実存数に対する認知率が低いと思われ、既知のものは城館跡など大規模な地形改変を行なった非一般的なものに偏るのが現状である。そんな中で、本遺跡で検出された多数の炉跡および焼土遺構は、日常的か非日常的かは別として、これまであまり認知されてこなかった該期の活動形態を示す物として重要である。(丸山)



第5図 遺跡の周辺

III 調査と整理の方法

1 野外調査

(1) 調査経過

第1次調査（平成18年度調査）

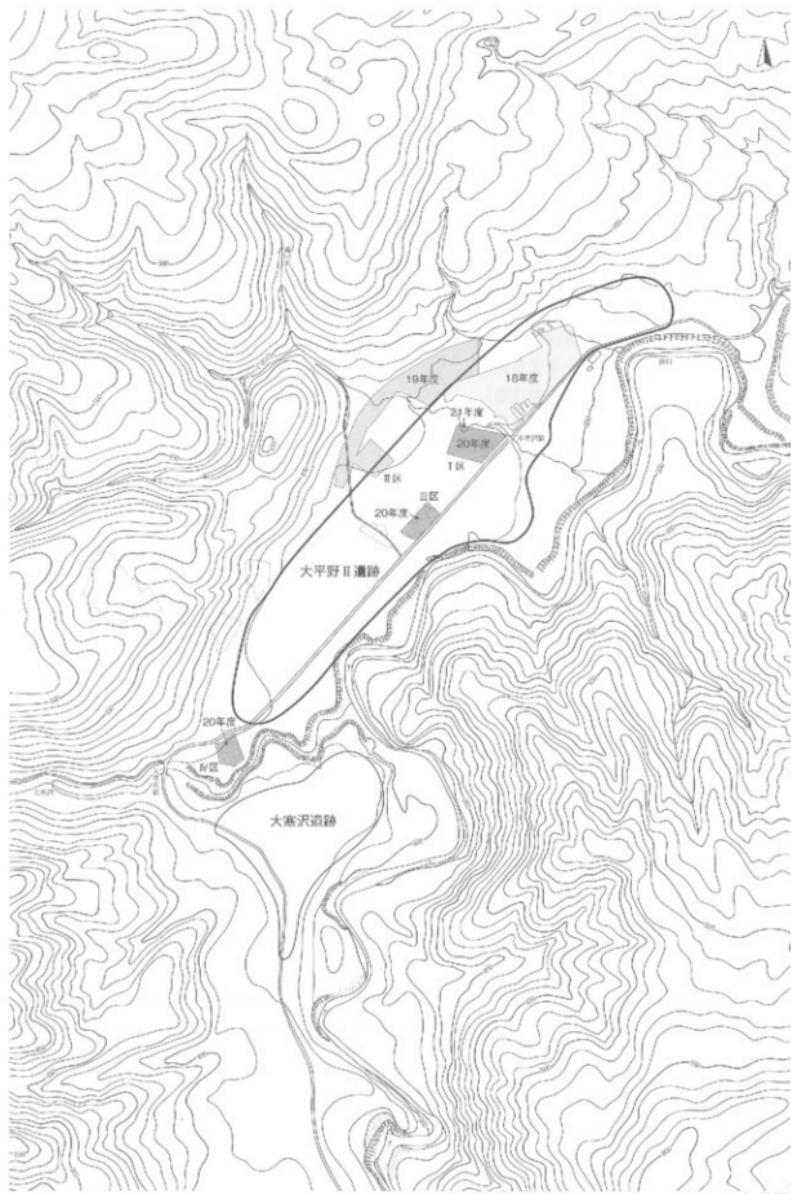
当初の調査対象面積は、北東側の15,000m²であった。しかし、表土の厚さ、土層残存状態、遺構・遺物検出数とともに予想を下回ったことから進行が早まり、また委託者からの要望もあって最終的に21,500m²拡張し、合計調査面積は36,500m²となった。

- 5月23日 現地確認。
6月1日 資材搬入。調査区内刈り払い、試掘開始。
6月5日 重機搬入。残土置場整備。
6月6日 表土除去開始（重機使用）。
6月8日 遺構検出開始。
6月21日 遺構精査開始。
6月28日 基準杭打設。
7月3日 C～D X IV グリッド付近4,200m²の部分終了確認。残土置場の確保に関連し実施。今時点での調査進行状況から、当初調査区外南西側の拡張が決定。
7月4日 調査区北東部湿地帯調査に先立ち、北辺をトレレンチ調査（重機による試掘）。遺構・遺物確認されず、同試掘坑を排水路として利用。
7月13日 委託者との拡張区の調査環境整備（樹木伐採）に関わる現地打ち合わせ。
8月10日 当初調査対象面積15,000m²の実質的な調査終了。
8月17日 拡張区試掘トレレンチ掘削（重機使用）、遺構検出開始。
8月28日 拡張区表土除去開始（重機使用）。
8月31日 拡張区樹木伐採完了。
9月4日 拡張区精査開始。
9月22日 当初調査区の残り10,800m²および拡張区小牟沢流域3,300m²の計14,100m²を対象とする部分終了確認。残土置場の確保に関連し実施。
10月12日 重機による掘削終了。
10月24日 小山内課長補佐、菊池調査員調査支援（小山内課長補佐は10月31日まで、菊池調査員は11月2日まで）。
- 11月1日 航空写真撮影。
11月7日 野外調査終了。資材搬出、撤収。（丸山）

第2次調査（平成19年度調査）

当初の調査対象面積は、平成18年度調査区の北西側10,000m²であった。ところが前年度の調査同様、遺構の検出数および遺物の出土量が予想を大きく下回ったことから、途中数回の協議を経て、次年度以降の調査予定箇所の試掘調査およびそれによる一部本調査が追加された。

第2次調査における最終的な調査実績は、対象面積80,000m²、発掘調査面積29,600m²（追加分を含む本調査面積19,600m²と試掘調査による実掘削面積約10,000m²の合計）、調査終了面積71,300m²と集計



第6図 周辺地形と年度別本調査区範囲

1 : 10,000

され、未了となった8,700m²については次年度以降の調査対象となった。

- 6月6日 現地確認。
- 6月25日 坪測II遺跡から資材を搬入し調査開始。プレハブ周辺の環境整備を行う。
- 6月27日 重機による表土掘削開始。
- 7月4日 調査範囲確認のため、委託者と打ち合わせ。
- 8月1日 T事用道路センター杭No179～190までの試掘調査を実施するが、遺構・遺物とも確認されず。あわせて、道路センターNo203付近～212まで人力による試掘調査を開始。
- 8月8日 1回目の終了確認と協議。当初予定面積10,000m²と上記試掘範囲の調査終了。盆明け以後、小寒沢南西約66,000m²（うち6,000m²は上記試掘調査による追加分）の調査が決定。
- 8月20日 重機走路確保のための敷設工事を行う。
- 8月21日 重機による追加調査区（6,000m²）の表土掘削開始。
- 9月7日 台風による豪雨のため石淵ダムから現場へ入れず。これによる路肩の部分的な崩落あり。
- 9月11日 重機による小寒沢南西側調査区（60,000m²）の試掘調査開始。遺構・遺物が確認できる箇所の絞り込みを行う。
- 10月5日 2回目の終了確認と協議。追加分6,000m²の調査終了とトレンチ調査の詳細を報告。60,000m²のうち、遺構・遺物が確認された3箇所のエリアを設定。その合計12,300m²の本調査が決定される。このうち、遺構密度が薄い3,600m²については今年度終了させることとなる。
- 10月11日 上記追加分3,600m²の調査に着手する。重機による表土除去開始。
- 10月22日 胆沢観光協会主催「紅葉の洪民銀山をゆく」会の見学者25名が来訪。
- 10月24日 敷設板の取り外し工事と運搬を行う。
- 10月25日 野外調査終了。資材を下嵐江I・II遺跡事務所へ搬出。
- （11月4日 下嵐江I・II遺跡と同日に空中写真撮影実施）

第3次調査（平成20年度調査）

平成20年度の調査対象面積は、前年度の試掘調査で本調査が必要と判断された8,700m²に、遺跡南西端のT事用道路分2,100m²を加えた10,800m²であった。途中、調査を開始して12日後に発生した「岩手・宮城内陸地震」により、およそ2ヶ月間の調査中断を余儀なくされ、さらに再開後の天候不順も重なって調査は思うように捗らなかった。このような状況の中、委託者と県生涯学習文化課を交えた数回の協議を経て、同時に調査を行っていた下嵐江遺跡の調査員と作業員が本遺跡に増員となり、最終的には11,150m²の調査を終えた。内訳は、本調査分8,100m²（600m²未だ）とT事用道路分3,050m²（950m²増）である。この調査未了区600m²については、次年度以降の調査に繰り越されることとなった。

- 6月2日 坪測II遺跡の資材整理後搬入する。プレハブ周辺の環境整備を行う。
- 6月4日 重機による表土掘削・土砂運搬を開始。
- 6月14日 午前8時43分「岩手・宮城内陸地震」発生。以後約2ヶ月間現場閉鎖。調査員はしばらくセンターにて情報収集・調査データの整理等を行う。
- 6月18日 地震後、初めて下嵐江遺跡と本遺跡の状況確認を行う。大平野遺跡へは前川橋奥の崖崩落により車両は通行不能。徒歩で現場に向かう。プレハブ本体及び建物内は予想よりも損傷少なし。出動簿と一部機器を回収。
- 6月25日 胆沢ダム学習館にて胆沢ダム安全管理等講習会。浜田参加。
- 8月7日 調査を再開する。重機による表土掘削のみ。

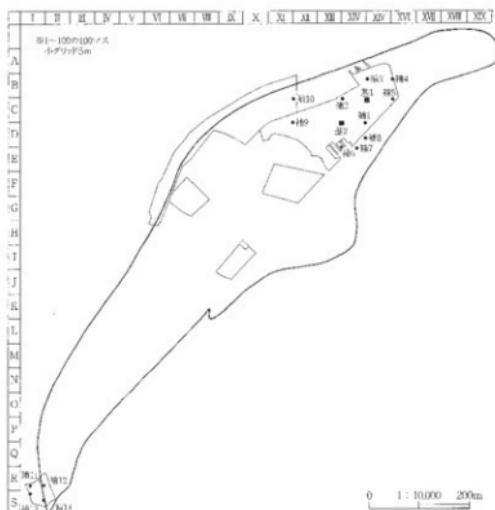
- 8月19日～28日 天候不良と胆沢川の増水で現場閉鎖が続く。
- 8月29日 調査再開。現場の環境整備を行う。
- 9月5日 胆沢ダム学習館にて県生涯学習文化課を交えて今後の調査方針について協議。
- 9月24日 遺跡南西部の工事用道路分(2,100m²)に着手する。重機を搬入し掘削開始。
- 9月29日 下嵐江Ⅰ・Ⅱ遺跡の調査員2名、作業員23名が合流。
- 10月3日 調査の進行状況について協議。
- 11月5日 セスナ機による空中写真撮影(東邦航空)
- 11月10日 終了確認。
- 11月14日 資材積み込み。野外調査終了。
- 第4次調査(平成21年度調査)**
- 平成21年度は、前年度未了となった600m²を対象として実施した。当初の調査期間は4月いっぱいの予定であったが、現場までの道路事情が悪く、また雪解け水による胆沢川の増水のため、調査は6月の一ヶ月間に変更となった。それまでは、5月の連休明けから下嵐江Ⅰ・Ⅱ遺跡の調査を行っている。
- 6月1日 資材搬入。周辺の環境整備を行い調査開始。
- 6月2旬 終了確認。
- 6月30日 調査終了。 (濱田)

(2) グリッド設定

大平野Ⅱ遺跡として示されている範囲(第7図)は、270,000m²にわたる広大なものである。4カ年の調査により、全体の44%の調査を終えることとなつたが、調査開始当初は面積が定まっておらず、本調査対象範囲から外れた部分以外の遺跡全域を視野に入れておく必要があった。加えて、初年度以降の調査が実施される可能性もあったことから、共通のグリッドで把握すること目的として、遺跡全体をカバーするようなグリッドを設けた。

グリッド設定にあたっては世界測地系の座標を用い、このメッシュに沿うよう設定した。起点は北西方向である。大グリッドの規模は50m角とし、北から南へ向かってA～Mのアルファベット大文字、西から東へ向かってI～VIIのローマ数字を付した。各大グリッド内をさらに5m角で100分割し、北西隅から東へ、統いて南へ1～100のアラビア数字を付し、小グリッドを設定した。小グリッドの呼称方法は、大小のグリッドの組み合わせにより「A I 01」、「F IV 37」のようになる。

グリッド設定時には、第1次調査で打設した3級基準点2本、補助点



第7図 グリッド配置図

10本の計12本を使用し、それ以降の調査の際もこれらを用いた。成果は以下のとおりである。

基準点1 (C X V01)	X = -100700.000	Y = 3000.000	H = 360.910m
基準点2 (D X IV01)	X = -100750.000	Y = 2950.000	H = 363.337m
補助点1 (D X V01)	X = -100750.000	Y = 3000.000	H = 360.615m
補助点2 (C X IV01)	X = -100700.000	Y = 2950.000	H = 363.072m
補助点3 (B X V21)	X = -100660.000	Y = 3000.000	H = 360.774m
補助点4 (B X VI21)	X = -100660.000	Y = 3050.000	H = 358.702m
補助点5 (C X VI01)	X = -100700.000	Y = 3050.000	H = 359.174m
補助点6 (E X IV01)	X = -100800.000	Y = 2950.000	H = 361.386m
補助点7 (E X IV07)	X = -100800.000	Y = 2980.000	H = 360.657m
補助点8 (D X V61)	X = -100780.000	Y = 3000.000	H = 360.755m
補助点9 (D X II01)	X = -100750.000	Y = 2850.000	H = 367.087m
補助点10 (C X II01)	X = -100700.000	Y = 2850.000	H = 370.564m

なお、平成20年度IV区（工事用道路分）の調査時には、これとは別に3級基準点2点と補助点4点の設置を外部委託し、それを使用した。成果値は以下のとおりである。

基準点1	X = -101496.406	Y = 2310.745	H = 371.846m
基準点2	X = -101503.367	Y = 2385.141	H = 369.860m
補助点11 (R I 85)	X = -101490.000	Y = 2320.000	H = 371.663m
補助点12 (R II 85)	X = -101490.000	Y = 2350.000	H = 370.851m
補助点13 (S I 25)	X = -101510.000	Y = 2320.000	H = 371.684m
補助点14 (S II 41)	X = -101520.000	Y = 2350.000	H = 370.403m

(3) 粗掘・遺構検出・試掘調査

・第1次調査（平成18年度調査）

最初に、岩手県教育委員会生涯学習文化課により実施された試掘結果に基づき、遺構・遺物既検出の試掘坑（トレンチ）を掘削し、その検出層位と状態、および堆積土層の確認と把頭を行なった。同作業を実施したトレンチは、第1次調査の1回目（当初調査予定15,000m²分）がT15～20、同2回目（拡張区21,500m²分）がT1～3・6・12・13の計12本である（トレンチ名はいずれも生文課命名）。作業に際しては、遺構・遺物検出付近はその検出面まで、それ以外の部分は最終遺構検出面と想定される褐色土（V層）をめやすに掘り下げ、層理面にて検出を順次行なった。褐色土面到達後はさらに30cm下まで掘り抜き、より下位に黒色土層がないか確認している。結果、主たる検出面はIV層上面（残存部のみ）、V層上面の2面とし、それぞれ検出・精査を実施している。削平を受けIV層以上が飛んでいる箇所が非常に多く、大半はV層中で検出している。

一方、生文課試掘で遺構の検出されなかったA～C刈グリッド以東に関しては、生文課トレンチ間に新たにトレンチを設定し、重機による試掘を行ない遺構・遺物の検出を実施した。検出層位は各層理面である。結果、遺構・遺物とも確認されず、同部分の調査はこれで終了としている。また、未試掘であった小寒沢北岸D～E XII～XIIIグリッド付近、および若柳林道北脇のD～E X III～X IVグリッド付近には、5～7m間隔で新たにトレンチを設定し、同様に重機による試掘を行なった。その結果、E X IIIグリッドからは焼跡および焼上遺構が各1基検出されたことから、通常の調査を実施した。これ以外は遺構・遺物ともに確認されず調査終了とした。

(丸山)

・第2次調査（平成19年度調査）

平成19年度の調査は、当初前年度調査区の北側の一部と南西側に隣接する区域だけが対象であったが、最終的にはその数倍の面積を扱うこととなった。その経緯は既述のとおりであるが、ここで詳細を記しておく。

調査は、まず附図に示したB区:10,000m²の本調査と、A区およびB区の工事用道路分の試掘調査（トレンチA～V）に取りかかった。加えて、人力による工事用道路箇所C区の試掘調査（トレンチa～f）を実施し、その箇所6,000m²の本調査も行ったが、いずれの区域においても遺構・遺物が極めて少ないとため、平成18年度同様、次年度以降の調査予定地を再び試掘調査して、埋蔵文化財が分布する範囲の絞り込みを行うこととなった（D区: 60,000m²）。このD区の絞り込みには2週間ほどの期間を費やした（重機パケット幅：2 m × 総長：5,000m = 約10,000m²掘削）が、全く遺構・遺物の出ない範囲が全体の1/5を占める結果となった。その後に行われた委託者と県教委文史課との協議では、調査者がその範囲を除く概ね3つのブロック、面積合計12,300m²の調査が必要（D区 - (I) : 5,200m²・(II) : 3,600m²・(III) : 3,500m²）と報告。現地を確認のあと了承された。このうち遺構密度が低い（II）3,600m²については19年度中に調査を終了し、(I)と(III)の合計8,700m²については、次年度以降に本調査を実施することとなった。

・第3次調査（平成20年度調査）

平成20年度の調査は、当該年度に継続された木調査分8,700m²（I区5,200m²とIII区3,500m²）に、新規に工事用道路分2,100m²を加えた10,800m²を対象に実施した。地盤以降の状況は既述のとおりである。なお、平成20年度は、試掘調査および調査範囲の絞り込み等の作業を行っていない。

・第4次調査（平成20年度調査）

平成21年度は、前年度未了となった600m²を対象に行った。第4次調査でも試掘および範囲の絞り込みは行っていない。
(濱田)

（4）遺構の調査方法・遺物の取り上げ方

堅穴住居状遺構の調査は四分法で、その他の遺構については二分法を原則として、それぞれ堆積土層観察用のセクションベルトを設け、土層を観察しながら精査を進めた。この際、土層の堆積状態、遺物の出土状態、遺構の完掘状況を中心に写真撮影および実測を順次行なった。

遺物の取り上げ方は、遺構内出土分については遺構名と出土層位名または相対的層位（上位、中位、下位、床・底面直上、床・底面）を記し、このうち床・底面直上以下出土分については出土位置も記録した。遺構外出土分はグリッド毎に層位を記して取り上げた。

（5）遺構の名称

個々の遺構名については、野外調査時に欠番が生じたものなどに対し室内整理時に連番となるよう名称変更を行なった（平成18年度）。変更した遺構の新旧名称の対応は以下のとおりである。（丸山）

旧名	新名
13号土坑	→ 7号炉跡
22号土坑	→ 18号土坑
24号土坑	→ 13号土坑
7号炉跡	→ 10号焼土遺構
4号焼土遺構	→ 2号焼土等廐室遺構
10号焼土遺構	→ 10号炉跡
15号焼土遺構	→ 3号焼土等廐室遺構

旧名	新名
17号炕上遺構	→ 1号焼土等廐室遺構
18号焼土遺構	→ 4号焼土遺構
19号炕上遺構	→ 17号焼土遺構
20号焼土遺構	→ 11号炉跡
21号炕上遺構	→ 15号焼土遺構
1号炭化物集中	→ 4号焼土等廐室遺構
2号炭化物集中	→ 5号焼土等廐室遺構

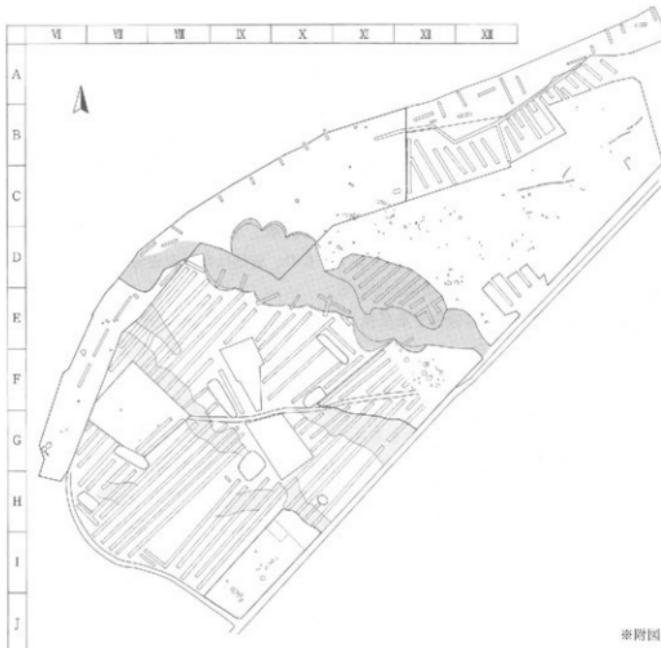
なお、同種の遺構は年度ごとに連番となるよう調整したが、柱穴に関しては18年度は「PP○」、19年度は「PP○07」、20年度は「PP○08」というように、西暦の下2桁を付することで全く同じ遺構名が存在しないようにした。

(6) 遺構内土壤の採取と水洗選別

土坑、炉跡、焼土等廐棄遺構の埋土をサンプリングし、水洗選別による微細自然遺物の回収を行なった。土壤は一度袋から出して乾燥させた後、10リットルのバケツ中で水洗した。炭化浮遊物を0.5mmメッシュのフリイで回収する作業を数回繰り返した後、沈殿物を1mmメッシュのフリイで回収した。浮遊物はアルミホイル上にのせ保管・乾燥した後、肉眼あるいは15倍のルーペ下で自然遺物の1次選別を行なった。なお、サンプル採取地点および実施土壤量は右表のとおりである。

第2表 フローテーション用土壤採取地点と量

遺構名	実施量 (ℓ)	遺構名	実施量 (ℓ)
8号土坑 1層	3.4	1号焼土等廐棄遺構 1層	27.4
7号炉跡 2層	0.6	3号焼土等廐棄遺構 2層	4
5号炉跡 9層	1.6	4号焼土等廐棄遺構 1層	1
8号炉跡 4層	4.1	4号焼土等廐棄遺構 2層	1.2
11号炉跡 3層	3.7		



第8図 平成18・19年度調査全体図

(7) 写 真 摄 影

写真撮影にあたっては、35mmモノクローム・カラーリバーサル、および 6×9 cm判モノクロームの3種のフィルムを使用し、さらにデジタルカメラをメモ的に使用した。撮影にあたっては、撮影状況を記した「撮影カード」を事前に写し、整理時の混乱を防止した。その他、調査終了間際にセスナ機による航空写真撮影を年度毎に実施した（平成21年度調査を除く）。

2 室 内 整 理

(1) 遺物整理の方法

遺物は、各種別に分類したのち出土地点ごとに重量計測を行ない、接合作業を実施して掲載分と不掲載分に細分類し、前者については仮番号を付し登録を行なった。登録にあたっては、複数年度調査資料を種別ごとにまとめたため、種別ごとに異なる種類の番号を付している。

なお、掲載遺物の選択に際しては、各遺物種別共通してまず第1に出土地点を優先し、I層あるいは擾乱出土遺物は基本的に除外した。遺構別および遺物種別毎の出土量については次章に詳しく記述している。各遺物種別の掲載基準は下記のとおりである。

本報告書では、出土遺物量の記載をすべてgあるいはkg単位での重量表記とした。石器については点数記載を主とし、これに重量記載を併記している。また、石器類は事前にトゥールと剥片および素材に分類し、トゥールについては個々に仮番号を付して登録台帳作成と計量を行っている。剥片および素材については個々の計量はせず、母岩別分類を実施した後、土器と同様に出土地点単位で計量し、また遺物数を数えて出土地点および母岩別分類結果と重量・点数を記載した台帳を作成している。

縄文土器

- a. 掲載遺物の選択基準…文様および形態変化が集中するため口縁部が残存するものを優先している。 5×5 cm以上且つ20g以上という基準に適うものを掲載した（平成19年度以降を除く）。胴部は器形を復元できるものおよび特徴的な文様を有するもの、底部は底径が復元できるものおよび底面に調整痕が残存するものに限定して掲載している。
- b. 実測…文様の表現については客観性を重要視し、拓本を多用した。径の推定可能なもの（1/4以上残存）は復元実測を行なった。

石器

- a. 掲載遺物の選択基準…遺構内出土分以外は完形品を優先して掲載した。点数の多い器種については、完形品であっても不掲載としたものもある。

- b. 実測…調整部位や打面・打点など、最低限必要と判断した部位のみ展開し、省力化に努めた。

土師器・土師質土器

- a. 掲載遺物の選択基準…出土点数が少ないと、および遺物の希少性（土師質土器）を鑑み胴部片以外の全点を掲載した。
- b. 実測…径の推定可能なもの（1/4以上残存）は復元実測を行なった。

(2) 写 真 摄 影

当センター写真室において、専属の期限付職員がデジタル一眼レフカメラ（キャノン製）を用い撮影した。

（丸山）

引用・参考文献

- (以下、「(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター」→「(財) 岩文理」、「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書」→「岩文理調報」と省略)
- 胆沢町教育委員会 1978 『上萩森遺跡』胆沢町埋蔵文化財調査報告書第10集
 1985 『大清水』遺跡調査報告書』胆沢町埋蔵文化財調査報告書第15集
 1988 『上萩森遺跡調査報告書』胆沢町埋蔵文化財調査報告書第19集
 1990 『鹿合鉢跡調査報告書』胆沢町埋蔵文化財調査報告書第20集
- 岩手県農政部構造改善課 1981 『土地分類基本調査 煙石岳』
- 岩手県教育委員会 2005 『岩手県遺跡台帳』(CD-ROM版)
- 経済企画庁総合開発局国土調査課 1974 『縮尺20万分の1 土地分類図付属資料(岩手県)』
- (財) 岩文理 1997 『下原前Ⅰ遺跡免掘調査報告書』岩文理調報第252集
 1998 『下原前Ⅳ遺跡免掘調査報告書』岩文理調報第269集
 1999 『下原前Ⅱ遺跡A地区免掘調査報告書』岩文理調報第288集
 1999 『岩手県埋蔵文化財免掘調査情報(平成10年度)』岩文理調報第311集
 2000 『下原前Ⅱ遺跡B地区免掘調査報告書』岩文理調報第343集
 2001 『大清水遺跡免掘調査報告書』岩文理調報第373集
 2002 『岩手県埋蔵文化財免掘調査概報(平成13年度)』岩文理調報第397集
 2004 『岩手県埋蔵文化財免掘調査概報(平成15年度)』岩文理調報第455集
 2006 『大清水上遺跡免掘調査報告書』岩文理調報第475集
- 中川久夫 1981 『北上川流域地質図(二十万分の1) 説明書』(株)長谷地質事務所

IV 平成18年度調査

1 検出遺構

今回の調査で検出された遺構は、竪穴住居状遺構2基、土器埋設遺構2基、土坑20基、炉跡10基（カマド状遺構含む）、焼土遺構17基、焼土等廃棄遺構5基、溝跡5条、柱穴状土坑36個である。

（1）竪穴住居状遺構

2基検出された。地点は調査区南西部小寒沢近くの段丘上位面縁辺で、2基隣接している。周辺には土器埋設遺構や土坑が集中しており、居住エリアと推定される。

なお、竪穴の構築に関して、自然地形中の窪地を利用し若干の掘削を加えただけの簡易なものと推定され、2基とも共通する。

1号竪穴住居状遺構

遺構（第9図、写真図版3）

【位置・検出状況】D X II 100グリッド付近に位置する。IV層中位からV層上面で検出された。周辺には2号竪穴住居状遺構、1・2号土器埋設遺構、多数の土坑が集中している。

【微地形】3～4度で南側に下る緩斜面である。

【規模・平面形】斜面下方にあたる南部の立ち上がりは検出できていない。認知できなかった可能性もあるが、本来の形状を大きく損ねてはいないと思われる。開口部規模は、東一西2.65mで、平面形は不整円形あるいは不整半円形と推定される。

【埋土】黒褐色シルトの單層である（3層）。III a・IV層ブロック及び10cm程度までの円礫が混じる。

【壁・底面】底面はほぼ水平であるが、弱い凹凸が見られる。強い平垣化意識は看取されない。壁は南側以外で確認され、45度程度で立ち上がる。検出面から底面までの深さは、北壁で11cmを測る。

【柱穴・ピット】なし。

遺物（第26・27・31図、写真図版56）

底面中央付近に土器集中、東壁付近に円礫集中が確認された。後者は周辺基本上層に多量に含まれるもので、人為的な搬入・集積とは考えにくい。

【繩文土器】底面および埋土から3567.38g出土し、3組4点・2,181.93gを掲載した（1～3）。1は底面中央出土、2・3は埋土出土である。

【石器】埋土から1点・5286g出土し、掲載した（S 1）。二次加工ある剥片である。

時期 底面出土土器の様相から、縄文時代中期最終末と考えられる。

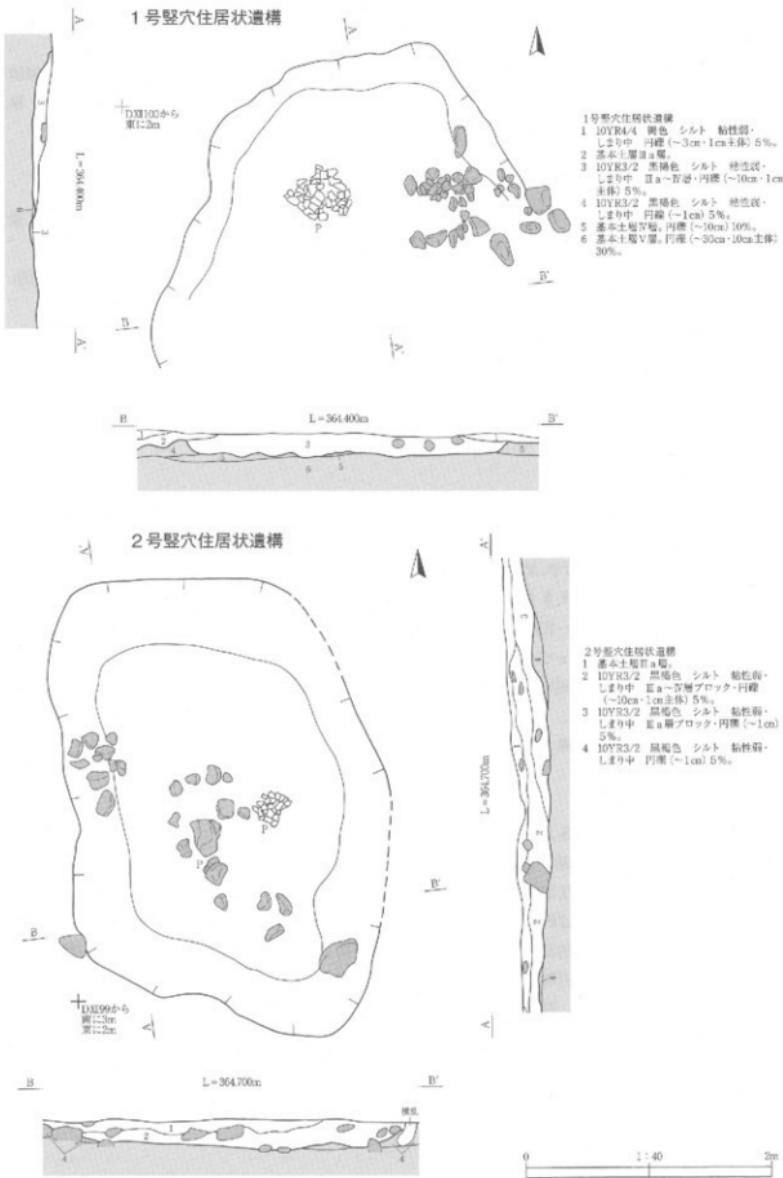
2号竪穴住居状遺構

遺構（第9図、写真図版4）

【位置・検出状況】D X II 99グリッド付近に位置する。IV層中位からV層上面で検出された。周辺には1号竪穴住居状遺構、1・2号土器埋設遺構、多数の土坑が集中している。

【微地形】3～4度で南側に下る緩斜面である。

【規模・平面形】開口部径北西一南東3.31×北東一南西2.26mの不整な橢円形を呈する。



第9図 1・2号竪穴住居状遺構

〔埋土〕 2層に分層される（2・3層）。黒褐色シルト主体で、Ⅲa・Ⅳ層ブロックおよび10cm程度までの円礫が混じる。

〔壁・底面〕 底面は中央部がやや窪み、全体的に皿状を呈する。弱い凹凸も見られ、強い平坦化意識は看取されない。壁の立ち上がりも緩やかで、北・東・西壁で20~30度、南壁は10度程度である。検出面から底面までの深さは、北壁付近で17cmを測る。

〔柱穴・ピット〕 なし。

遺物（第27図、写真図版56）

底面中央付近に土器集中、西壁中央および底面中央から南東部にかけて円礫集中が確認された。後者は周辺基本土層に多量に含まれるもので、人為的な搬入・集積とは考えにくい。

〔縄文土器〕 底面および埋土から2,996.41g出土し、8点・661.67gを掲載した（4~11）。4~7は底面、8~11は埋土出土である。

〔石器〕 埋土から1点・9.75g出土した。頁岩5の剥片である。

時期 底面出土土器の様相から、縄文時代中期最終末と考えられる。

（2）土器埋設遺構

1号土器埋設遺構

遺構（第10図、写真図版5）

〔位置・検出状況〕 DXⅢ91グリッドに位置する。Ⅳ層中で検出された。1号竪穴住居状遺構が隣接する。竪穴住居状遺構、土器埋設遺構、土坑が集中する区域である。

〔規模・平面形〕 イチジク形で、北側が舌状に約25cm張り出す。規模は、北一南96×東一西59cmを測る。

〔構築方法・埋土〕 上述の大きさで深さ10cm程度の小土坑を掘削し、その南端部に土器下半部を正立状態で据え、周辺の円礫（～10cm程度）で土器底部を固定している。埋土は黒褐色土で人為を窺わせる混入物が見られない。よって土器設置後の自然流入の可能性が高い。

遺物（第27図、写真図版56）

〔縄文土器〕 254.74g出土し、1点・173.70gを掲載した（12）。埋設土器である。

時期 土器の様相から、縄文時代中期末葉頃の所産と思われる。

2号土器埋設遺構

遺構（第10図、写真図版5）

〔位置・検出状況〕 DXⅡ98~99グリッドに位置する。Ⅳ層中で検出された。2号竪穴住居状遺構、14号土坑が隣接する。竪穴住居状遺構、土器埋設遺構、土坑が集中する区域である。

〔規模・平面形〕 遺構の範囲は約60cmで、平面形は方形基調である。南端中央に土器が設置されている。

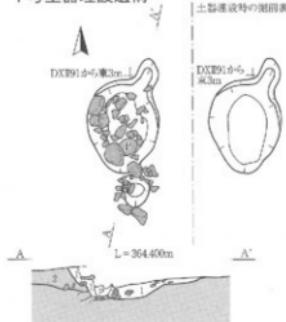
〔構築方法・埋土〕 開口部径32×23cmの楕円形で、深さ約5cmの小土坑を掘削し、そこに土器下半部を正立状態で据え、周辺の円礫（～30cm）で土器周囲を固定している。さらに、土器北側に20cm前後の扁平礫を3点配している。埋土は黒褐色土で人為を窺わせる混入物が見られず、1号埋設土器遺構と同様に土器設置後の自然流入の可能性が高い。

遺物（第27図、写真図版56）

〔縄文土器〕 859.75g出土し、1点・764.90gを掲載した（13）。埋設土器である。

時期 土器の様相から、縄文時代中期末葉頃の所産と思われる。

1号土器埋設遺構



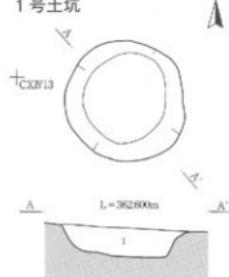
1号土器埋設遺構

- 1 10YR2.5/2 黒褐色 シルト 熟性弱・しまり中。
2 基本土層Ⅲa層。

2号土器埋設遺構



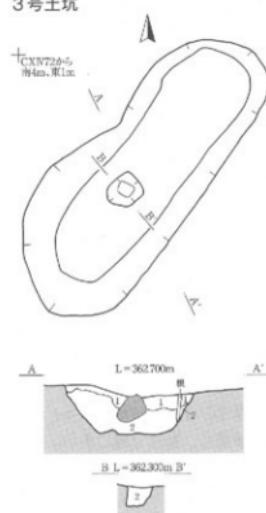
1号土坑



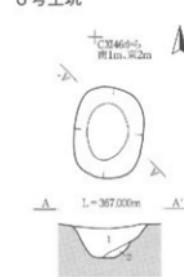
1号土坑

- 1 10YR4-3 に近い黄褐色 シルト 熟性中・しまり中
炭化物粒3%。

3号土坑



6号土坑



2号土坑

- 1 10YR3/3褐色地・10YR4/4褐色・10VR5/5黄褐色
シルトの風土 (6:2:2) 熟性弱・しまり弱
炭化物粒5%。人為堆積。
2 10YR3/3褐色地・10YR4/6褐色シルトの風土 (8:2)
熟性弱・しまり弱 炭化物粒3%。人為堆積。
3 10YR4/4褐色・10VR5/5黄褐色シルトの風土 (7:3)
熟性弱・しまり弱 炭化物粒1%。人為堆積。

3号土坑

- 1 10YR3/2 黒褐色 シルト 熟性中・しまり中
V層ブロック (~5m) 7%、炭化物粒5%。人為堆積。
2 V層と10YR3/2黒褐色シルトの風土 (6:4)
熟性中・しまり強 炭化物粒1%。人為堆積。

6号土坑

- 1 725VR3/3 黄褐色 硅土質シルト 熟性中・しまり中
褐色シルトブロック7%、円錐 (~1cm) 3%、炭化物粒1%。
2 725VR3/2 黑褐色 シルト 熟性中・しまり中
炭化物粒5%。



第10図 1・2号土器埋設遺構、1～3・6号土坑

(3) 七 坑

1号土坑

遺構（第10図、写真図版6）

【位置・検出状況】C X IV13グリッドに位置する。I層直下のV層中で検出された。

【規模・平面形】開口部径102×98cmの円形を呈する。

【埋土】にぶい黄褐色土の单層である。人為堆積の可能性がある。

【壁・底面】断面は逆台形状を呈し、壁は約60度で立ち上がる。検出面から底面までの深さは、最深部で24cmを測る。

遺物 なし。

時期 不明である。

2号土坑

遺構（第10図、写真図版6）

【位置・検出状況】C X IV72グリッド付近に位置する。I層直下のV層中で検出された。

【規模・平面形】開口部径114×91cmの楕円形を呈する。隅丸方形に近い。底面中央付近には開口部径35×30cmの副穴が存在する。開口部径は隅丸方形であるが、中位から円形となる。

【埋土】主体部1層、副穴内2層の計3層に分層される。いずれもV層以下の基本土層が多量に混じる。人為堆積（埋め戻し）と思われる。

【壁・底面】断面は逆台形状を呈し、上位が外傾する。検出面から底面までの深さは最深部で24cm、副穴は底面下27cmを測る。

遺物 なし。

時期 不明であるが、埋土の状態から縄文時代の可能性は低く、それより新しい。

3号土坑

遺構（第10図、写真図版6）

【位置・検出状況】C X IV72・82グリッドに位置する。I層直下のV層中で検出された。

【規模・平面形】開口部径は北東—南西269×北西—南東113cmの長楕円形を呈する。底面中央南西寄りには、開口部径29×24cmで楕円形を呈する副穴が存在する。

【埋土】2層に分層される。主体部下部と副穴内の堆積土は同一である。いずれもV層以下の基本土層が混じ、特に2層に多い。人為堆積（埋め戻し）と思われる。

【壁・底面】断面は逆台形状を呈する。検出面から底面までの深さは最深部で39cm、副穴は底面下17cmを測る。

遺物 副穴埋土から炭化したオニグルミ1点が出土した。

時期 不明であるが、埋土の状態から縄文時代の可能性は低く、それより新しい。

4号土坑

遺構（第11図、写真図版7）

【位置・検出状況】D X 30グリッドに位置する。I層直下のIV層中で検出された。

【規模・平面形】開口部径は北東—南西248×北西—南東119cmの長楕円形を呈する。

〔埋土〕 5層に分層される。褐色土主体で、最下層に円礫が多量に混じる。自然堆積と思われる。
 〔壁・底面〕 底面幅は開口部の半分以下で狭い。断面は逆台形状を呈する。検出面から底面までの深さは、最深部で38cmを測る。

遺物〔縄文土器〕 4層から10.29g出土した。いずれも地紋のみの細片である。

時期 不明である。

5号土坑

遺構（第11図、写真図版7）

〔位置・検出状況〕 DX I 24グリッドに位置する。IV層上面で検出された。9号土坑と重複し、これに切られる。

〔規模・平面形〕 西側が重複で焼失しているため不明であるが、楕円形を呈していたものと推定される。開口部長は残存部分の最大値で113cmを測る。

〔埋土〕 4層に分層される。層毎に水平に近く堆積しており、色調もばらばらである。1層には土器片が多量に混じる。人為堆積と考えられる。

〔壁・底面〕 断面は逆台形状を呈し、底面は平坦である。検出面から底面までの深さは、最深部で32cmを測る。

遺物（第28・31図、写真図版56）

〔縄文土器〕 1・3層から1,197.77g出土し、1点掲載した（14）。9号土坑出土分と接合したものであるが、量的主体は本遺構にある。

〔石製品〕 1層から1点・6.25g出土し、掲載した（S 2）。砂岩製の玉類である。

時期 土器の様相から、縄文時代後期後葉と考えられる。なお、本遺構は遺物の出土状態および埋土の様相から土坑墓と推定される。

6号土坑

遺構（第10図、写真図版7）

〔位置・検出状況〕 DX I 46グリッドに位置する。I層直下のV層中で検出された。

〔規模・平面形〕 開口部径73×57cmの楕円形を呈する。

〔埋土〕 2層に分層される。暗褐色土主体で、自然堆積と思われる。

〔壁・底面〕 断面は逆台形状を呈する。検出面から底面までの深さは、最深部で27cmを測る。

遺物 なし。

時期 不明である。

7号土坑

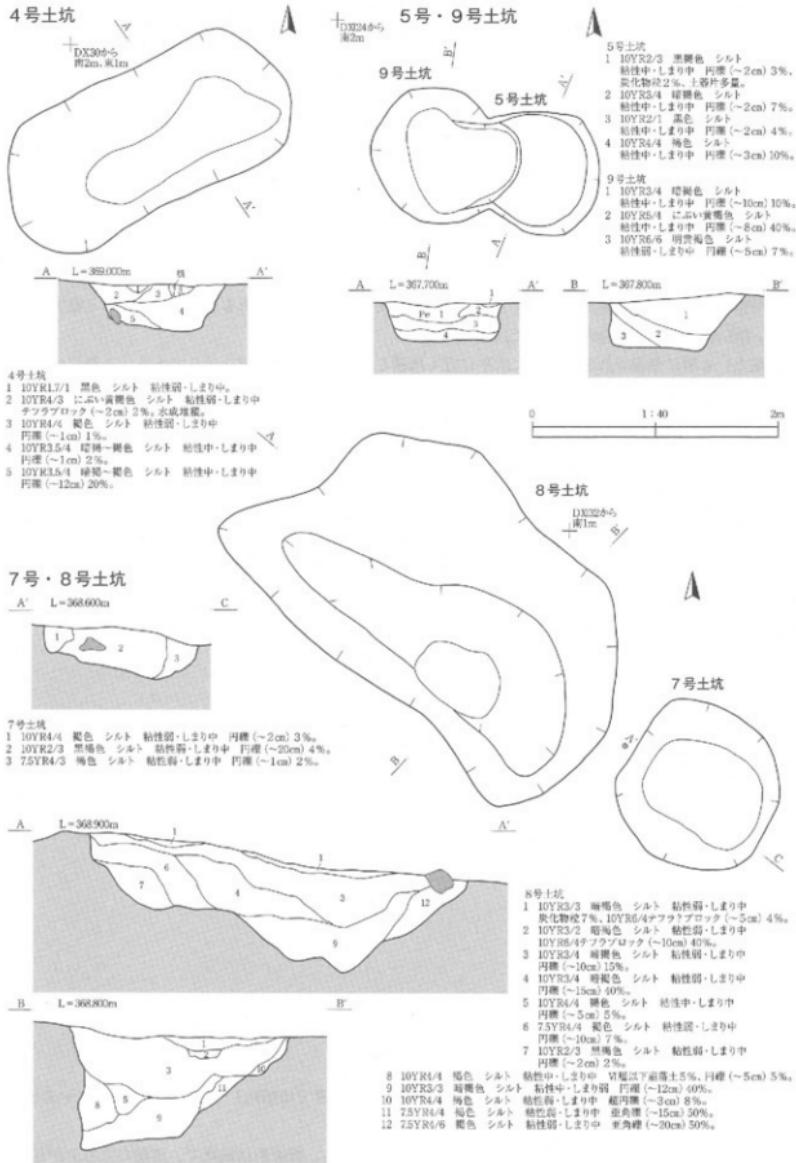
遺構（第11図、写真図版7）

〔位置・検出状況〕 DX I 32グリッドに位置する。IV層中からV層上面で検出された。8号土坑と隣接している。

〔規模・平面形〕 開口部径145×133cmのはば円形を呈する。

〔埋土〕 3層に分層される。おもに縦位に色調が異なり、通常では想定しづらい様相を呈しているが、人為か否か判然としない。

〔壁・底面〕 底面は周辺地形と同様に南東側へ傾斜している。断面形は椀状で、南壁の立ち上がりが



第11図 4・5・7～9号土坑

緩い。検出面から底面までの深さは、最深部で43cmを測る。

遺物〔縄文土器〕2層から265g出土した。地紋のみの細片である。

時期 不明である。

8号土坑

遺構（第11図、写真図版8）

〔位置・検出状況〕DX I 31・32グリッドに位置する。IV層中からV層上面で検出された。7号土坑と隣接している。

〔規模・平面形〕開口部径は北西—南東354×北東—南西205cmの不整長楕円形を呈する。

〔埋土〕12層に分層される。暗褐色～褐色土主体で、円礫や亜角礫が多量に混じる。斜面上方の北西側から流入した自然堆積と思われる。

〔壁・底面〕底面は不整形で、平坦面はほとんどない。北東部は凹凸を交えながらダラダラと立ち上がる。南西壁は垂直に近い。北東壁は45度前後である。この様相から、本来は南東部にあった円形に近い土坑が、北西側からの雨水等の流入により同方向に広がったものと推定される。検出面から底面までの深さは、最深部で83cmを測る。

遺物〔石器〕2層から2点・12.57g出土した。頁岩7の剥片である。

時期 不明である。

9号土坑

遺構（第11図、写真図版7）

〔位置・検出状況〕DX I 24グリッドに位置する。IV層上面で検出された。5号土坑と重複し、これを切る。

〔規模・平面形〕開口部径123×110cmの楕円形を呈する。

〔埋土〕3層に分層される。斜面上方から流入したような堆積状況を示す。

〔壁・底面〕西側重複部分は壁上位が未検出で状態不明であるが、底部付近が膨らみオーバーハングしていた可能性がある。他部分の断面は不整な台形状で、南側は垂直に近い角度で、西～北は外傾して立ち上がる。検出面から底面までの深さは、最深部で47cmを測る。

遺物（第28図、写真図版56）

〔縄文土器〕1・2層から136.73g出土し、1点掲載した(14)。5号土坑出土分と接合したもので、本遺構には主体的な在り方はなく、5号土坑から巻き込んだものと思われる。

時期 重複関係から5号土坑より新しい。時期的には大きく乖離するものとは考えにくく、縄文時代後期後葉と推定される。

10号土坑

遺構（第12図、写真図版8）

〔位置・検出状況〕DX II 79グリッドに位置する。IV層中で検出された。11号土坑が隣接する。この区域は、竪穴住居状遺構、土器埋設遺構、土坑が集中する区域である。

〔規模・平面形〕開口部径76×66cmの楕円形を呈し、底面もこれに類する。

〔埋土〕4層に分層される。黒褐色土主体で、3層はV層の混じる壁崩落土である。自然堆積と考えられる。

1 検出遺構

〔壁・底面〕 底面は皿状で、壁は下部が微妙にオーバーハングしてほぼ垂直に立ち上がる。検出面から底面までの深さは、最深部で44cmを測る。

遺物 なし。

時期 検出面から1・2号竪穴住居状遺構と同時期と推定される。

11号土坑

遺構（第12図、写真図版8）

〔位置・検出状況〕 D X II 79~80グリッドに位置する。IV層中で検出された。10号土坑が隣接する。この区域は、竪穴住居状遺構、土器埋設遺構、土坑が集中する区域である。

〔規模・平面形〕 開口部径108×95cmの楕円形を呈する。底面形態も同様だが、狭い。

〔埋土〕 12層に分層される。黒褐色シルト主体で混入土が少なく、自然堆積と考えられる。

〔壁・底面〕 断面が碗状を呈し、東側は下部が垂直に近く上部が外傾する。西側は底部から外傾する。検出面から底面までの深さは、最深部で59cmを測る。

遺物 なし。

時期 検出面から1・2号竪穴住居状遺構と同時期と推定される。

12号土坑

遺構（第12図、写真図版8）

〔位置・検出状況〕 D X II 90グリッドに位置する。IV層中で検出された。竪穴住居状遺構、土器埋設遺構、土坑が集中する区域である。

〔規模・平面形〕 開口部径98×85cmの楕円形を呈する。底面形もこれに類するが、幾分北西側にずれる。

〔埋土〕 7層に分層される。4・7層にはV層崩落土が多量に混じる。自然堆積と考えられる。

〔壁・底面〕 底面は皿状で、壁は北西側がオーバーハングしている。南東側は急角度で外傾する。検出面から底面までの深さは、最深部で44cmを測る。

遺物 なし。

時期 検出面から1・2号竪穴住居状遺構と同時期と推定される。

13号土坑

遺構（第12図、写真図版9）

〔位置・検出状況〕 C X I 90グリッドに位置する。II層下位からIV層上面で検出された。同グリッド付近は炉跡・焼土遺構の集中域で、12号焼土が隣接する。

〔規模・平面形〕 開口部径117×109cmの楕円形を呈する。底面形もこれに類する。

〔埋土〕 3層に分層される。自然堆積と考えられる。

〔壁・底面〕 底面には多少の凹凸が見られる。壁は東側の傾斜が緩い。検出面から底面までの深さは、最深部で22cmを測る。

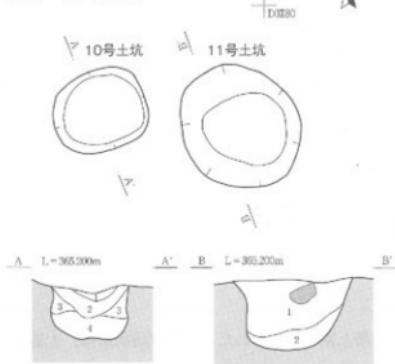
遺物 なし。

時期 検出面から周辺の炉跡および焼土遺構と同時期と推定される。

14号土坑

遺構（第12図、写真図版9）

10号・11号土坑

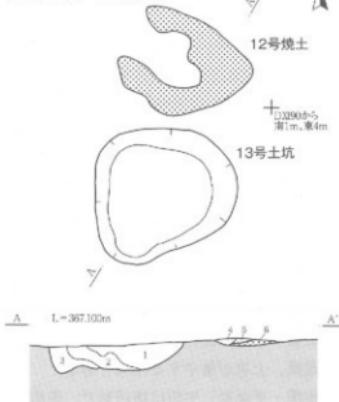


- 10号土坑
 1 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 内縫 ($\sim 3cm \cdot 1cm$ 主体) 5%。
 2 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 内縫 ($\sim 5cm$) 5%。
 3 2層と10YR6-6紫褐色シルトの混土(8:2) 粘性弱・しまり中 内縫 ($\sim 5cm$) 5%。
 4 10YR2.5/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 内縫 ($\sim 5cm \cdot 1cm$ 主体) 7%。

11号土坑

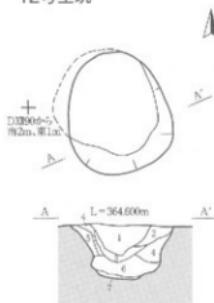
- 1 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 内縫 ($\sim 20cm \cdot 3cm$ 主体) 10%。
 2 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 内縫 ($\sim 10cm \cdot 5cm$ 主体) 20%。

13号土坑 12号焼土



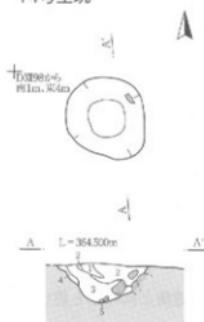
- 13号土坑
 1 10YR3/3 紫褐色 シルト 粘性弱・しまり中 内縫 ($\sim 2cm$) 3%。
 2 10YR4/4 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり中。
 3 10YR3/4 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり弱。
 12号焼土
 4 10YR4/4 黑褐色・5YR8/6-7灰褐色の複合シルトの混土(8:2)。
 5 10YR4/4 黑褐色・粘土質シルト 粘性弱・しまり中。
 6 5YR4/6-8 灰褐色 シルト 粘性中・しまり強 焼土。

12号土坑



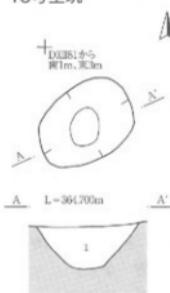
- 12号土坑
 1 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 内縫 ($\sim 3cm \cdot 1cm$ 主体) 3%。
 2 10YR3/3 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり中 内縫 ($\sim 3cm \cdot 1cm$ 主体) 3%。
 3 10YR3/3 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり中。
 4 10YR2/2 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり中 内縫 ($\sim 3cm \cdot 1cm$ 主体) 3%。
 5 10YR3/1 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり中 内縫 ($\sim 3cm \cdot 1cm$ 主体) 3%。
 6 10YR3/2 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり強 内縫 ($\sim 3cm \cdot 1cm$ 主体) 3%。
 7 V面と10YR3/2黑褐色シルトの混土(5:5) 粘性弱・しまり強 内縫 ($\sim 3cm \cdot 1cm$ 主体) 3%。

14号土坑



- 14号土坑
 1 10YR2/2 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり中 機坑?
 2 10YR3/2 黑褐色・灰黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 腐化物2%、鉄出面に板土ブロック。
 3 2層と10YR5/4に近い紫褐色シルトの混土(6:4) 粘性中・しまり中。
 4 10YR3.5/2 黑褐色・灰黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 ブロック状。

15号土坑



- 15号土坑
 1 10YR2.2-10YR3/2黑褐色シルトの
上(5:5) 粘性弱・しまり中
内縫 ($\sim 5cm \cdot 1cm$ 主体) 7%。

0 1:40 2m

第12図 10～15号土坑、12号焼土遺構

【位置・検出状況】D X II 98グリッドに位置する。IV層上面で検出された。竪穴住居状遺構、土器埋設遺構、土坑が集中する区域である。

【規模・平面形】開口部径73×66cmのほぼ円形を呈する。

【埋土】4層に分層される。1層は後世の攪乱、3層は人為堆積と考えられる。検出面で焼土ブロックを確認したが、局所的で薄く、異地性である。

【壁・底面】断面は擂鉢形で、底面の平坦面は狭い。検出面から底面までの深さは、最深部で28cmを測る。

遺物 なし。

時期 検出面から1・2号竪穴住居状遺構と同時期と推定される。

15号土坑

遺構（第12図、写真図版9）

【位置・検出状況】D X III 81グリッドに位置する。IV層上面で検出された。竪穴住居状遺構、土器埋設遺構、土坑が集中する区域である。

【規模・平面形】平面は稍円形で、底面は比較的円形である。開口部径は84×61cmである。

【埋土】黒褐色土主体の單層である。自然堆積と考えられる。

【壁・底面】断面は擂鉢形で、底面の平坦面は狭い。検出面から底面までの深さは、最深部で42cmを測る。

遺物 なし。

時期 検出面から1・2号竪穴住居状遺構と同時期と推定される。

16号土坑

遺構（第13図、写真図版9）

【位置・検出状況】D X II 87グリッドに位置する。IV層上面で検出された。竪穴住居状遺構、土器埋設遺構、土坑が集中する区域である。

【規模・平面形】北一南方向に長軸を持つ長楕円形を呈する。開口部径は142×64cmである。南西部に柱穴状の掘り込みがあるが、その性格は不明である。

【埋土】2層に分層される。

【壁・底面】断面は逆台形を成す。底面は周辺微地形と同様に南側へ下る。検出面から底面までの深さは、最深部で46cmを測る。

遺物 なし。

時期 検出面から1・2号竪穴住居状遺構と同時期と推定される。

17号土坑

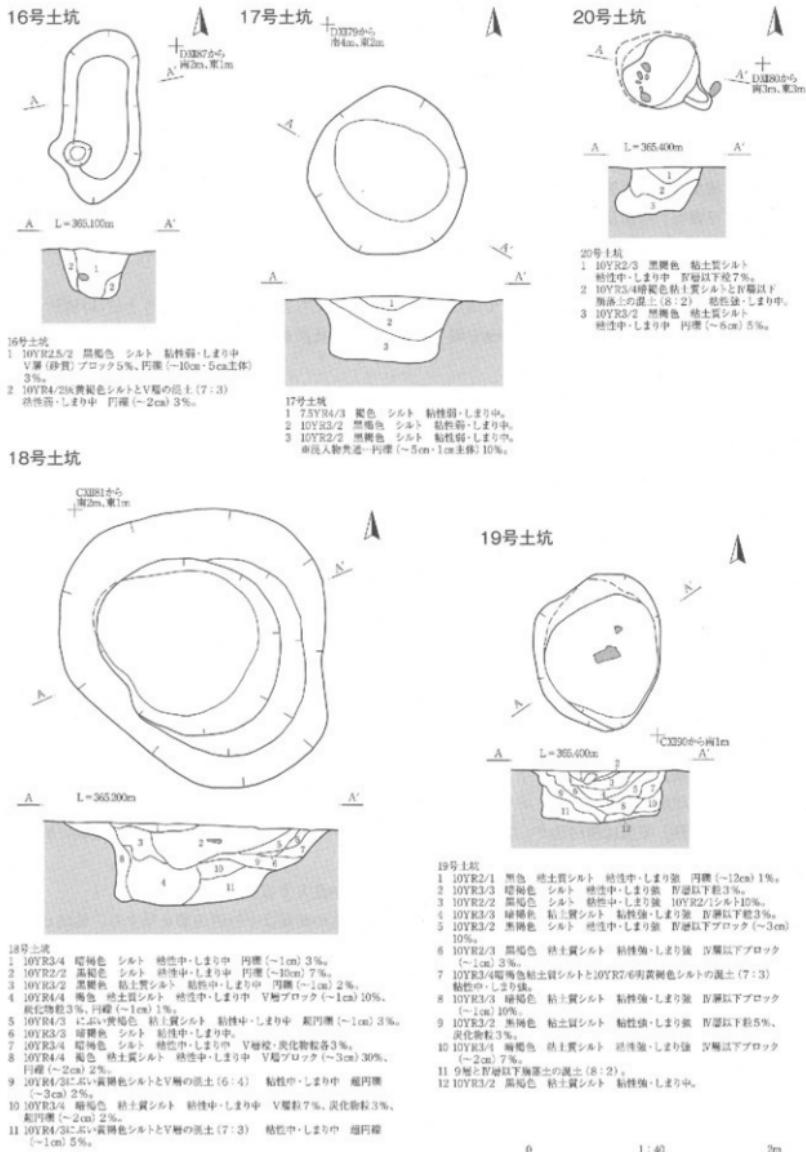
遺構（第13図、写真図版10）

【位置・検出状況】D X II 79～80グリッドに位置する。V層上面で検出された。竪穴住居状遺構、土器埋設遺構、土坑が集中する区域である。

【規模・平面形】開口部径137×130cmのほぼ円形を呈する。

【埋土】3層に分層される。1層のみ褐色土、他は黒褐色土である。自然堆積と考えられる。

【壁・底面】ビーカー状を呈し、開口部付近が外に広がる。検出面から底面までの深さは、最深部で



第13図 16~20号土坑

53cmを測る。

遺物 なし。

時期 検出面から1・2号竪穴住居状遺構と同時期と推定される。

18号土坑

遺構（第13図、写真図版10）

【位置・検出状況】C X III 81グリッドに位置する。V層上面で検出された。

【規模・平面形】平面は楕円形で、底面は比較的円形である。開口部径は248×211cmである。

【埋土】11層に分層される。4～11層にはIV層以下のブロックが多く混入する。4層は埋土中位から底面まで縦長に堆積しており、何らかの人为的な痕跡と理解される。

【壁・底面】壁は底面から半分程度までは垂直に近い角度で立ち上がるが、それより上位は外側へ広がる。検出面からの深さは最深部で66cmを測る。検出面から底面までの深さは最深部で71cmを測る。

遺物 なし。

時期 不明である。

19号土坑

遺構（第13図、写真図版10）

【位置・検出状況】C X II 89グリッドに位置する。V層上面で検出された。

【規模・平面形】開口部径126×109cmの楕円形を呈する。

【埋土】12層に分層される。東半にIV層以下のブロックが多く混入する。

【壁・底面】北側はオーバーハングするが、他はビーカー状を呈する。検出面からの深さは最深部で42cmを測る。

遺物 なし。

時期 不明である。

20号土坑

遺構（第13図、写真図版10）

【位置・検出状況】C X II 80グリッドに位置する。V層上面で検出された。

【規模・平面形】平面は楕円形で、北西部がオーバーハングしている。反対側の南東部は舌状に約20cm張り出す。円形部の開口部径は64×49cmである。

【埋土】3層に分層される。2層にはIV層以下のブロックが混入する。

【壁・底面】北西側はオーバーハングしており、北西～南東の断面は平行四辺形を呈する。他はビーカー状を呈する。検出面からの深さは最深部で39cmを測る。

遺物 なし。

時期 不明である。

(4) 炉跡（カマド状遺構）・焼土遺構・焼土等廃棄遺構

今回の調査では、火の使用痕跡の認められる遺構が相対的に多く検出された。遺構形状や埋土の状態によって以下のように細別している。

- ① 何らかの施設を構築し、その場で燃焼行為が行なわれているもの…炉跡
うち、プランが長楕円形で煙道部が存在し、焼土横断面が「U」字形を呈するもの…カマド状遺構
- ② 施設の構築が確認されず、焼土のみ存在するもの…焼土遺構
- ③ その場での燃焼行為が認められず、掘り込みまたは窪みに異地性の比熱物が堆積するもの…焼土等廃棄土坑
- ④ に関しては、遺構形状から見れば土坑に分類されるものであるが、性格面、焼土関連遺構という観点を重視しここに含めた。

以下、炉跡（カマド状遺構含む）、焼土遺構、焼土等廃棄遺構の順に記述する。

a 炉跡

1号炉跡（カマド状遺構）

遺構（第14図、写真図版11）

【位置・検出状況】 C X IV 51グリッドに位置する。I層直下のV層面にて検出された。北東側に2号炉跡が近接する。

【規模・平面形・底面形】 北西—南東方向に長軸を持つ長楕円形を呈する。開口部規模は244×108cmを測る。南東半の幅が若干広く、掘り込みも深い。中央付近で一段高くなり、北西方向に徐々に立ち上がる。北西端の幅は狭く、同方向に煙道が延びていたものと思われる。検出面から底面までの深さは、最深部で23cmを測る。

【土層】 焼土を含め7層に分層される。6層は炭化物層で、7層焼土直上に堆積している。

【燃焼部】 4・7層で、遺構底面の中央から北西部に存在する。平面形は北西方向を頭とする「U」字形で、一段高くなる遺構中央部が焚口と思われる。焼土の横断面も「U」字形を呈する。厚さは8cmである。

遺物（第31図、写真図版58）

【右器】 1層から砥石1点・2471.80g（S 3）、3層から円形碟1点・131.13gが出土した（S 4）。

時期 本遺構単体としては不明である。ただし、同種遺構（2号・5号炉跡）の使用年代から、14世紀の可能性が高い。

2号炉跡（カマド状遺構）

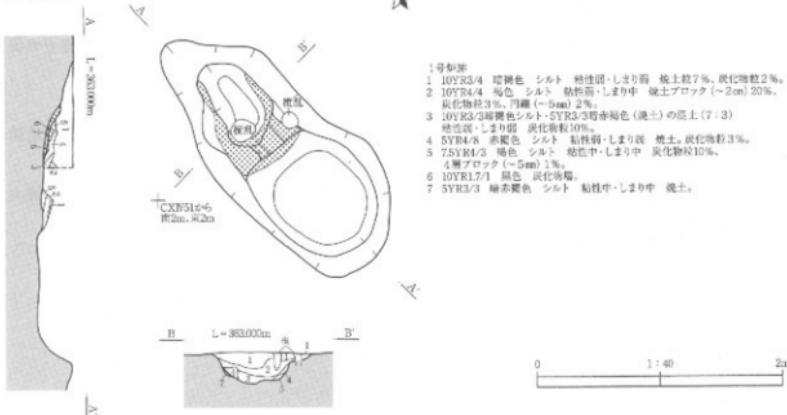
遺構（第14図、写真図版11）

【位置・検出状況】 C X IV 42グリッドに位置する。I層直下のV層面にて検出された。南西側に1号炉跡が近接する。

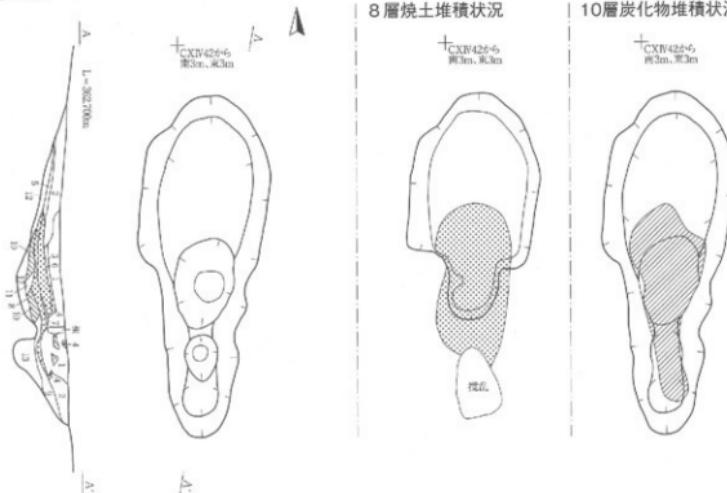
【規模・平面形・底面形】 北—南方向に長軸を持つ長楕円形を呈する。北半の幅が広く、中央から南部は狭い。開口部径は278×104cmを測る。底面は中央部が深く、南側に一度立ち上がってから再び柱穴状に窪む。北半は凹凸なく徐々に立ち上がる。煙道は南側へ延びていたものと思われる。検出面から底面までの深さは、最深部で43cmを測る。

【土層】 焼土を含め13層に分層される。中位の4・6・8層が焼土である。7・10層は炭化物の単純

1号炉跡



2号炉跡



第14図 1・2号炉跡

層で、7層は6・8層焼土に挟まれ、10層は8層焼土下位に位置する。10層は遺構構築時に湿気除去のため設置された炭層と考えられる。また、7層は局所的に存在することから10層とは性格を異にするものと捉えられ、燃料と推定される。4層は局所的・断続的であり天井崩落土と考えられる。

【燃焼部】6・8層で、遺構中央から南部に位置する。平面形は遺構と同方向の長楕円形である。横断面は実測していないが、「U」字形を呈することを確認している。厚さは、8層が7cm、6層が8cmである。

遺物 なし。

時期 遺構形態からは古代以降としか判断できない。このため、埋土10層から検出した炭化物に対し、AMS法による放射性炭素年代測定を実施した。これによる年代値は、 ^{14}C 年代で $580 \pm 30\text{yrBP}$ (Libby Age・ $\delta 13\text{C}$ の補正あり)、較正暦年代は61.3%の信頼度で1300~1370AD、34.1%の信頼度で1380~1420ADの可能性があるとしている(図版第1節参照)。同様の年代測定は、本遺構と同種である5号炉跡、および閑連遺構と推定している17号焼土遺構でも実施しており、その測定結果は本遺構と極めて近い。よって、エラーの可能性は極めて低く、本遺構の使用年代は14世紀である可能性が高い。

3号炉跡（カマド状遺構）

遺構（第15図、写真図版11・12）

【位置・検出状況】CXV41グリッドに位置する。I層直下のV層面にて検出された。全体的に削平を受けているが、特に北西側は深く、残存していない。重機キャタピラ痕等が顕著な状態であった。

【規模・平面形・底面形】長楕円形を呈する。長軸方向は北東一南西で、開口部規模は130以上×51cmを測る。底面は長軸方向に橈状を呈する。検出面から底面までの深さは、最深部で14cmを測る。

【上層】焼土を含め7層に分層される。2・4・6層は遺構構築土の残骸である。5層は炭化物層で、7層焼土の直上に堆積している。

【燃焼部】遺構南西半部の底面に存在する（7層）。横断面は「U」字形を呈する。厚さは3cmである。おそらく、北東側に焚口があり、南西端に廻出しがあったものと推定される。

遺物 なし。

時期 本遺構単体としては不明である。ただし、同種遺構（2号・5号炉跡）の使用年代から、14世紀の可能性が高い。

4号炉跡

遺構（第15図、写真図版12）

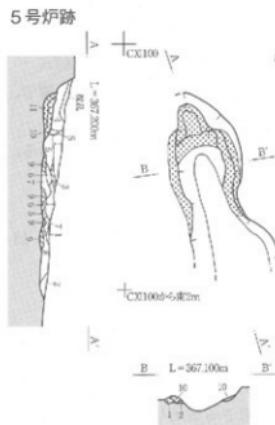
【位置・検出状況】EXIII44グリッドに位置する。小寒沢に近く、段丘下位面に位置する。検出面は基本土層のC-C'のII層直下3層上面である。焼土と、その上部に被さる被熱したデイサイト、砂岩角礫混じりの砂質シルトで構成される。

【規模・平面形】焼土は不整な長楕円形で、長軸方向は北一南である。規模は162×89cmである。この上位に被さる砂質シルトは北半部でのみ確認されたが、土質での見分けが難しく被熱礫の混入をもって判断しているため、本来はこれより広範囲に存在した可能性がある。確認範囲は東西に長い不整長楕円形で、165×91cmである。

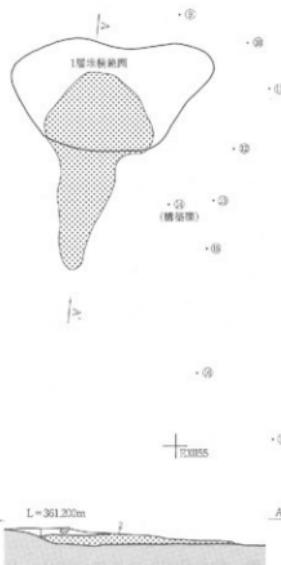
【土層】上述のように、被熱したデイサイトおよび砂岩の角礫が混入する灰黄褐色砂質シルトが堆積している。遺構構築土の残骸と考えられる。



- 3号跡
 1 5YRA4/6 赤褐色 シルト 粘性弱・しまり中 焼土。
 2 2.5YR5/8赤褐色(淡) (淡)-10YR5/4に似る黄褐色シルトの混土(3:5)
 3 5YR4/3 黄褐色(淡) 混土。
 4 5YVA4赤褐色(淡) (淡)-10YR4/4褐色シルトの混土(3:4) 粘性弱・しまり弱
 硫化物強3%。
 5 3-4層と7.5YR6/2赤褐色シルトの混土 粘性中・しまり弱 硫化物強50%
 硫化物強3%。
 6 2.5YR5/8赤褐色(淡) (淡)-10YR5/4に似る黄褐色シルトの混土(3:5)
 烧土中・しまり弱 硫化物強20%。焼土と壤土層。
 7 2.5YR4/3 に似る赤褐色 シルト 粘性中・しまり中 混土。



- 5号跡
 1 10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱・しまり中 烧土強 (~2cm) 1%。
 2 10YR3/4 細褐色 シルト 粘性質シルト 粘性中・しまり中 混土ブロック (~2cm) 10%。
 3 5YR1/7I 黄褐色 硫化物強。
 4 5YR4/3 黄褐色(淡) シルト 粘性弱・しまり中 混土粒5%、硫化物強 (~5cm) 2%。
 5 10YR2/3 陸褐色 シルト 粘性中・しまり中 混土ブロック (~1cm) 硫化物粒各3%。
 6 10YR3/3 陸褐色 シルト 粘性中・しまり中 混土ブロック (~1cm) 2%。
 V型ブロック (~1cm) 30%、硫化物強2%。
 7 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性中・しまり中 内窓 (~1cm) 2%。
 8 10YR4/2 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり中。
 9 10YR1/7I 黄色 硫化物強。
 10 SYR5/8 明赤褐色 シルト 粘性弱・しまり強 烧土。
 11 5YR5/4 に似る赤褐色 シルト 粘性弱・しまり強 烧土。



- 6号跡
 1 10YR4/2 灰黄褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり中
 硫化物強 (ダイライト角部) 20%、表上、硫化物強10%。
 2 2.5YR6/8 明赤褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり中 烧土。



第15図 3～5号炉跡

〔燃焼部・底面形〕燃焼部の断面は平坦で、立体的に構築した痕跡は確認されない。厚さは9cmを測る。検出面から底面までの深さは、最深部で6cmを測る。

遺物（第38図、写真図版58）

〔土師質土器〕1層から56.79g、本遺構周辺基本土層3層上面（検出面）から2,101.37g出土し、（第15図①～⑬・⑯～⑰）4点・1,231.30g掲載した（H 1～4）。

時期 共伴した土師質土器が時期決定資料となるが、類例に乏しく、「土師質」という以外は比定材料がないため古代以降というに止まる。ただし、これに同種遺構（2号・5号炉跡）の使用年代を加味すれば、14世紀の可能性が高いといえる。
(丸山)

5号炉跡（カマド状遺構）

遺構（第15図、写真図版12）

〔位置・検出状況〕C X I 100グリッドに位置する。II層下位からIV層上面で検出された。遺構南側および西側一部は削平などの影響もあり、検出できていない。同グリッド付近は炉跡・焼土遺構の中域である。

〔規模・平面形・底面形〕北一南方向に長軸を持つ長楕円形であったと推定される。幅は中央部が窄まり、北・南部は広がる。北部は端部に向かって吸口状に狭くなる。同部は煙道と考えられる。開口部径は150以上×65cmを測る。底面は凹凸が少なく、セクションB-B'付近から北側が徐々に立ち上がる。検出面から底面までの深さは、最深部で16cmを測る。

〔土層〕焼土を含め12層に分層される。うち、埋土は1～9層で、7・8層以外には焼土ブロックや炭化物粒が混入している。3・9層は炭化物の単純層である。遺構を構成するものか、単なる燃料かは判断できない。

〔燃焼部〕遺構中央から北部にかけて存在する。平面形は南側を頭とする「U」字形で、横断面も「U」字形を呈する。燃焼度により10～12の3層に分層され、厚さは8cmを測る。

遺物 なし。 (平野)

時期 遺構形態からは古代以降としか判断できない。このため、埋土10層から検出した炭化物に対し、AMS法による放射性炭素年代測定を実施した。これによる年代値は、14C年代で 610 ± 30 yrBP (Libby Age・ $\delta^{13}\text{C}$ の補正あり)、較正暦年代は95.4%の信頼度で1290～1410ADの可能性があるとしている（緒章第1節参照）。これは、5号炉跡および17号焼土遺構の測定結果と極めて近い。よって、本遺構の使用年代は14世紀前後である可能性が高い。
(丸山)

6号炉跡

遺構（第16図、写真図版13）

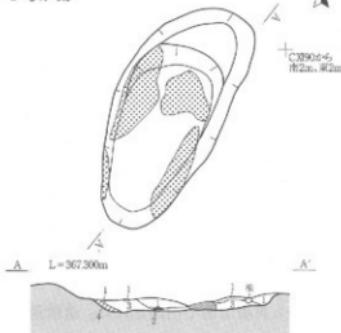
〔位置・検出状況〕C X I 90グリッドに位置する。II層下位からIV層上面で検出された。同グリッド付近は炉跡・焼土遺構の中域である。

〔規模・平面形・底面形〕北東一南西方向に長軸を持つ長楕円形を呈する。開口部径は195×92cmである。底面は北東部が1段高くなる。検出面から底面までの深さは、最深部で20cmを測る。

〔土層〕調査時の不備により上部層の記録が欠落している。残存層は4層に分層される。1・3・4層には焼土ブロックや炭化物粒が混入し、特に1層には多量に混じる。2層は炭化物の単純層で、断続的に確認される。

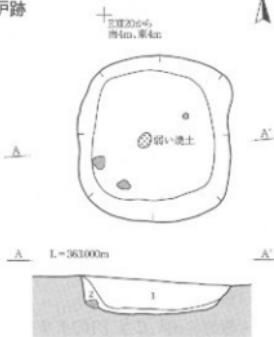
〔燃焼部〕北東部高位面を除く範囲の底～壁面に確認される。広範囲に広がるが焼成が弱く、断続的

6号炉跡



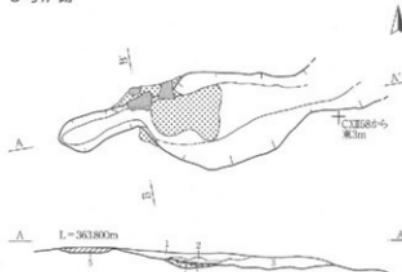
- 6号炉跡
- 1 5YR4/5 灰褐色 シルト 粘性中・しまり強 漆土ブロック (~3cm) 20%、炭化物5%。
 - 2 5YR4/4 黑色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 漆土ブロック (~1cm) 7%、炭化物2%。
 - 3 10YR4/4 褐色 シルト 粘性中・しまり中 炭化物3%。
 - 4 10YR1/1 黒色 炭化物無。

7号炉跡



- 7号炉跡
- 1 10YR4/3 に弱い黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 内層 (~1cm) 5%、炭化物5%。
 - 2 10YR4/3 に弱い黄褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 炭化物30%、内層 (~1cm) 5%。底面中央付近に弱い焼土。

8号炉跡



- 8号炉跡
- 1 10YR5/6 黄褐色 シルト 粘性中・しまり中。
 - 2 10YR5/6 黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 硫土粒20%、炭化物7%。
 - 3 10YR5/3 黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 硫土粒10%、炭化物5%。
 - 4 10YR1/1 黑色 炭化物。
 - 5 10YR2/1 黑色 炭化物 硫土粒8%。
 - 6 25YR1/8 非赤褐色 シルト 粘性中・しまり中 烧土。

11号炉跡



- 11号炉跡
- 1 10YR4/4 黑色 シルト 粘性弱・しまり中 烟土・炭化物5%。
 - 2 1層と2.5YR5/8明赤褐色シルト(燒土)の混土(5:5) 粘性弱・しまり中 炭化物5%。
 - 3 1~2層と2.5YR3/2暗赤褐色シルト(燒土)の混土(4:3:3) 粘性弱・しまり中 炭化物7%。
 - 4 25YR5/8 明赤褐色 シルト 粘性弱・しまり中 烧土。

0 1:40 2m

第16図 6~8・11号炉跡

である。

遺物 底面から直径20cm超の礫が出土した。石器ではない。廃棄された構築材の可能性がある。

時期 本遺構単体としては不明である。ただし、検出面が同一で焼土関連遺構である5号炉跡の使用年代から、14世紀の可能性が高い。
(平野)

7号炉跡（炭窯？）

遺構 (第16図、写真図版13)

【位置・検出状況】 E X II 20~30グリッドに位置する。IV層上面で検出された。

【規模・平面形・底面形】 開口部は北—南126×東—西125cmの隅丸方形を呈する。底部形もこれに類する。検出面から底面までの深さは、最深部で30cmを測る。

【土層】 2層に分層される。1層は自然堆積である。2層には炭化物が多量に含まれる。

【燃焼部】 底面中央に弱い焼土が観察される。

遺物

【縄文土器】 2層から7.05g出土した。地紋のみの細片である。

時期 不明である。
(丸山)

8号炉跡（カマド状遺構）

遺構 (第16図、写真図版13)

【位置・検出状況】 C X III 58グリッドに位置する。III b層上面で検出された。本来はII層中で構築されたものと思われるが、II層と構築土の判別が不可能であった。よって検出面が下がったため、遺構上部および東部の様相は不明である。なお、同付近には北西—南東方向に旧河道跡が存在し、遺構はこの右岸付近にあたる。本遺構構築・使用時には同旧河道は埋没しており、恒常的な流水はない。

【規模・平面形・底面形】 西—東方向に長軸を持つ長楕円形であったと推定される。幅は中央部が膨らみ、西側は端部に向かって吸口状に狭く張り出す。同部は煙道と考えられる。開口部径は266以上×81cmで、煙道部の長さは65cmを測る。底面は凹凸が少なく、西側に向かってごく緩く立ち上がる。検出面から底面までの深さは、最深部で14cmを測る。

【土層】 焼土を含め6層に分層される。うち、埋土は1~5層で、2・3層には炭化物粒が、3層には焼土ブロックが混じる。4・5層は炭化物の単純層である。遺構を構成するものか、単なる燃料かは判断できない。

【燃焼部】 遺構中央から西部にかけて存在する。中央部では底面に、西部では両壁部分に形成されている。厚さは5cmを測る。

遺物 なし。

時期 本遺構単体としては不明である。ただし、同種遺構（2・5号炉跡）の使用年代から、14世紀の可能性が高い。
(平野)

9号炉跡（カマド状遺構）

遺構 (第17図、写真図版14)

【位置・検出状況】 D X III 29~39グリッドに位置する。II層中で検出された。大部分が生文課の試掘トレンチに掛かっており、V層上面まで消失している。

【規模・平面形・底面形】 南—北方向に長軸を持ち、「十」字形を呈する。開口部は長軸が282cm、幅

は最も広い中央南寄りで143cmを測る。同部には燃焼部が存在する。南側は端部に向かって吸口状に狭くなる。北半は70cm前後ではほぼ一定幅である。底面は「十」の交差部分が最も深く、これ以北は緩やかに、反対の煙道側は約30度で比較的急角度で立ち上がる。検出面から底面までの深さは、最深部で47cmを測る。

〔土層〕 焼土を含め15層に分層され、最下位の15層を除く1～14層が埋土である。中位の5層、下位の12層は焼土で、5層はある段階の作業面（燃焼面）と思われる。14層は炭化物の単純層で、最下部焼土直上に位置する。7層および11層は黄灰色の粘土を含み、遺構構築土と思われる。

〔燃焼部〕 底面の15層および中位の5層が作業面と考えられ、時間差がある。前者は煙道付け根付近の両壁に焼土を形成しており、横断面は「U」字形を呈する。厚さは2cm程度である。間層を挟み、5層は「十」の交差部分を中心に楕円形に広がる。断面は椀状で、北側はフラットである。厚さは4cmを測る。平面的な特徴として、中央部の径約30cm範囲に焼土が形成されていないことが上げられる。

遺物 なし。

時期 本遺構単体としては不明である。ただし、同種造構（2・5号炉跡）の使用年代から、14世紀の可能性が高い。

10号炉跡（炭窯？）

遺構（第17図、写真図版14）

〔位置・検出状況〕 D X II02グリッドに位置する。II層下位からIV層上面で検出された。同グリッド付近は炉跡・焼土遺構の集中域である。

〔規模・平面形・底面形〕 開口部は北西—南東225×東—西172cmの楕円形を呈する。底部は北東半が豆状に深く、特に南東部が深い。検出面から底面までの深さは、最深部で19cmを測る。

〔土層〕 6層に分層される。6層は底面直上に堆積する炭化物の単純層、4層は中位に広がる焼土層である。いずれも南東部に局所的に堆積している。その他、各層に焼土ブロックや炭化物粒が多量に混入する。

〔燃焼部〕 底面全域に弱い焼土が斑状に観察される。

遺物 なし。

時期 本遺構単体としては不明である。ただし、検出面が同一で焼土窯遺構である5号炉跡の使用年代から、14世紀の可能性が高い。

11号炉跡

遺構（第16図、写真図版14）

〔位置・検出状況〕 D X IV33グリッドに位置する。I層直下のV層中で検出された。

〔規模・平面形・底面形〕 円形土坑の南東側に太い舌状部が接続したような形をしており、全体的には北西—南東方向に長軸を持ち、北西部の幅が広い長楕円形を呈する。開口部径は202×117cmを測る。底面は北東側円形部が深く、舌状部は一段高くなり浅い。検出面から底面までの深さは、最深部で39cmを測る。

〔土層〕 4層に分層される。埋土は1～3層である。下位の2～3層には焼土が多量に混入する。

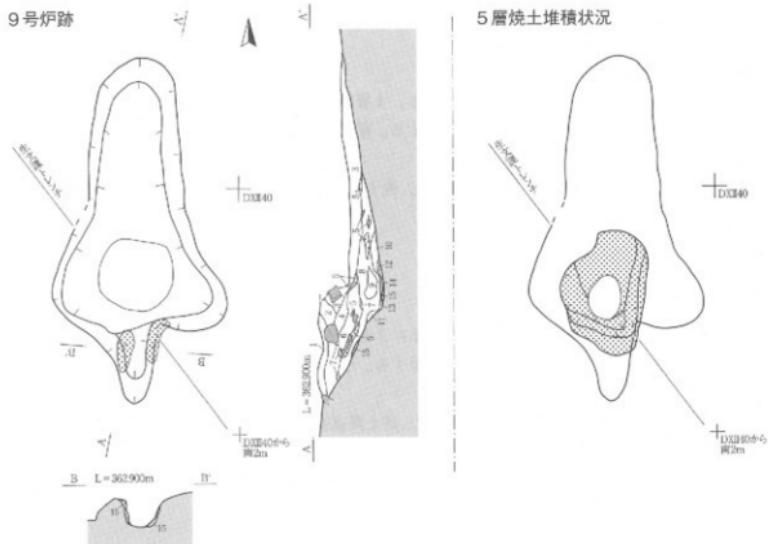
〔燃焼部〕 北東側円形部の壁上部に確認される。弱い焼土で、厚さは3cm程度である。

遺物 なし。

時期 不明である。

(丸山)

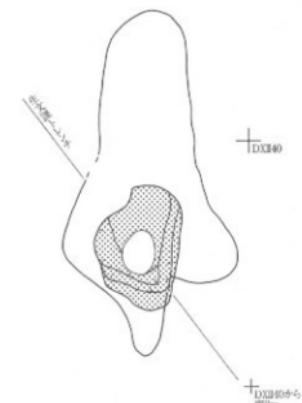
9号炉跡



9号炉跡

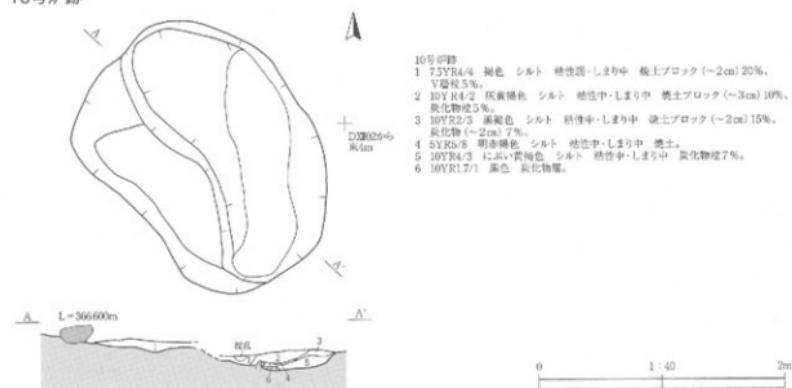
- 1 2SY4/2 灰灰黑色 シルト 粘性中・しまり中 焼土・炭化物粒3%。
- 2 2SY4/3 オリーブ褐色 シルト 粘性中・しまり中 烧土・炭化物粒3%。
- 3 2SY4/2 灰灰黑色 シルト 粘性中・しまり中 烧土・炭化物粒5%。
- 4 2SY4/2 灰灰黑色 シルト 粘性中・しまり中 烧土・炭化物粒10%。
- 5 SYR6-8 黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 烧土ブロック。
- 6 2SY3/2 黑褐色・4/2暗光黄色・5/2・暗灰黑色シルトの混土(4:4:2) 粘性中・しまり中 烧土・炭化物粒10%。
- 7 ZSY6/1 黄褐色 粘土 粘性低・しまり強 烧土と見われる。
- 8 2SY3/2 黑褐色・5/2暗灰黑色・10YR2/1黑色シルトの混土(4:4:2) 粘性中・しまり中 烧土・炭化物粒10%。

5層焼土堆積状況



- 9 10YR2/1黒色・2SY3/2灰灰黑色シルトの混土(5:5) 粘性中・しまり弱 烧土・炭化物粒20%。
- 10 2SY3/2 黑褐色(赤土)・7SYR3/2灰褐色シルトの混土 粘性中・しまり弱 烧土・炭化物粒10%。
- 11 2SY3/1灰灰褐色土と2SY4/2灰灰黑色シルトの混土(5:5) 粘性中・しまり弱 烧化物粒20%, 烧土粒5%。
- 12 SYR6/8 黄褐色 シルト 粘性高・しまり中 烧土。
- 13 7SYR3/1 黑褐色 シルト 粘性中・しまり中 烧土粒1%。
- 14 10YR1L7/1 黑色 炭化物塊。
- 15 SYR6/8 板色 シルト 粘性弱・しまり中 烧土。

10号炉跡



第17図 9・10号炉跡

b 焼土遺構

1号焼土遺構

遺構（第18図、写真図版15）

【位置・検出状況】C X IV50グリッドに位置する。I層直下のV層中で検出された。

【規模・平面形・厚さ】54×43cmの楕円形を呈する。厚さは10cmである。

遺物 なし。

時期 本遺構単体としては不明である。ただし、焼土関連遺構で近接する2号炉跡の使用年代から、14世紀の可能性が高い。

2号焼土遺構

遺構（第18図、写真図版15）

【位置・検出状況】C X IV82グリッドに位置する。I層直下のV層中で検出された。

【規模・平面形・厚さ】73×68cmの不整円形を呈する。厚さは9cmである。

遺物 なし。

時期 本遺構単体としては不明である。ただし、焼土関連遺構で近接する2号炉跡の使用年代から、14世紀の可能性が高い。

3号焼土遺構

遺構（第18図、写真図版15）

【位置・検出状況】C X IV71グリッドに位置する。I層直下のV層中で検出された。

【規模・平面形・厚さ】18×10cmの長楕円形を呈する。厚さ2cmで焼成が弱く、焼土下部と考えられる。上位は大きく削平されている。

遺物 なし。

時期 本遺構単体としては不明である。ただし、焼土関連遺構で近接する2号炉跡の使用年代から、14世紀の可能性が高い。

4号焼土遺構

遺構（第18図、写真図版15）

【位置・検出状況】D X IV11グリッドに位置する。I層直下のV層中で検出された。

【規模・平面形・厚さ】55×46cmの楕円形を呈する。厚さは2cmである。上位は大きく削平されている。

遺物 なし。

時期 本遺構単体としては不明である。ただし、焼土関連遺構で近接する2号炉跡の使用年代から、14世紀の可能性が高い。

5号焼土遺構

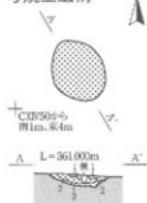
遺構（第18図、写真図版16）

【位置・検出状況】C X IV85・95グリッドに位置する。I層直下のV層中で検出された。

【規模・平面形・厚さ】検出面では90×60cmの範囲に3ブロックが確認された。上位が削平されており、また擾乱も著しいため、本来の状態が不明である。厚さは6cmを測る。

遺物 なし。

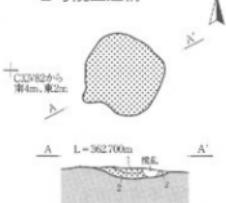
1号焼土遺構



1号土遺構

- 1 7SYR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり良。
- 2 2.5YR4/8 赤褐色 シルト 粘性弱・しまり弱。
焼土。
- 3 7SYR4/3 閑色 シルト 粘性中・しまり中。
弱・燒土。

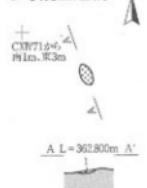
2号焼土遺構



2号焼土遺構

- 1 2.5YR5/8 明赤褐色 シルト 粘性弱・しまり中。
燒土。
- 2 2.5YR3/4 暗赤褐色 シルト 粘性中・しまり中。
弱・燒土。

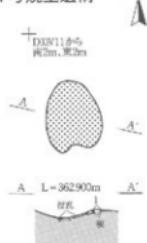
3号焼土遺構



3号土遺構

- 1 SYR6/8 暗色 シルト 粘性中・しまり中。
弱・燒土。

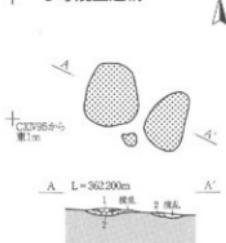
4号焼土遺構



4号土遺構

- 1 2.5YR4/6 暗褐色 シルト
粘性弱・しまり良。燒土。

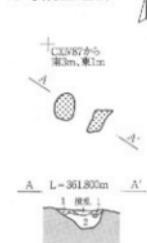
5号焼土遺構



5号土遺構

- 1 2.5YR5/8 明暗褐色 シルト 粘性弱・しまり中。
燒土。
- 2 2.5YR3/4 暗赤褐色 シルト 粘性中・しまり中。
弱・燒土。

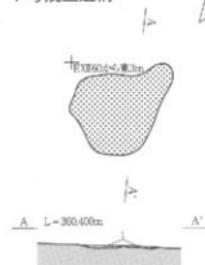
6号焼土遺構



6号土遺構

- 1 2.5YR5/8 暗赤褐色 シルト
粘性弱・しまり中。燒土。
- 2 IV層とI層(?)に混じる褐色シルト(燒土)
の底土(7:3) 粘性中・しまり良。

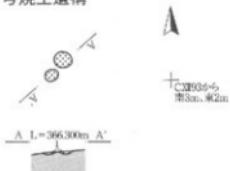
7号焼土遺構



7号土遺構

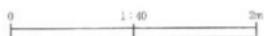
- 1 2.5YR4/3 にぼい赤褐色 シルト 粘性弱・しまり弱。
弱・燒土。2.5YR5/8焼土ブロック(~1cm) 5%。
炭化物質3%。

8号焼土遺構



8号土遺構

- 1 5YR5/6 明赤褐色 シルト
粘性中・しまり中。燒土。
炭化物質(~1cm) 1%。



第18図 1～8号焼土遺構

時期 本遺構単体としては不明である。ただし、焼土関連遺構で近接する2号炉跡の使用年代から、14世紀の可能性が高い。

6号焼土遺構

遺構（第18図）

【位置・検出状況】C X IV 87グリッドに位置する。I層直下のV層中で検出された。

【規模・平面形・厚さ】検出面では45×20cmの範囲に2ブロックが確認された。上位が削平されており、また擾乱も著しいため、本来的な状態が不明である。厚さは4cmを測る。

遺物 なし。

時期 本遺構単体としては不明である。ただし、焼土関連遺構で近接する2号炉跡の使用年代から、14世紀の可能性が高い。

7号焼土遺構

遺構（第18図、写真図版16）

【位置・検出状況】E X III 60グリッドに位置する。小堀沢に近く、段丘下位面に位置する。検出面は基本土層のC-C'のII層直下3層上面である。

【規模・平面形・厚さ】イチジクのような不整形で、90×72を測る。厚さは2cmを測る。

遺物 なし。

時期 4号炉跡と同様の被熱跡が出されていることから、これに関連する廃棄遺構と考えられる。よって時期もこれと同様の中世以後、14世紀の可能性が高い。
(丸山)

8号焼土遺構

遺構（第18図、写真図版16）

【位置・検出状況】C X II 93グリッドに位置する。II層下位からIV層上面で検出された。同グリッド付近は炉跡・焼土遺構の集中域である。

【規模・平面形・厚さ】検出面では30×15cmの範囲に2ブロックが確認された。上位が削平されており、また擾乱も著しいため、本来的な状態が不明である。厚さは2cmを測る。

遺物 なし。

時期 本遺構単体としては不明である。ただし、検出面が同一で焼土関連遺構である5号炉跡の使用年代から、14世紀の可能性が高い。
(平野)

9号焼土遺構

遺構（第19図、写真図版16）

【位置・検出状況】C X II 94グリッドに位置する。II層下位からIV層上面で検出された。同グリッド付近は炉跡・焼土遺構の集中域である。

【規模・平面形・厚さ】検出面では130×100cmの範囲に4ブロックが確認された。単体は70cm以下で、いずれも不整形である。上位が幾分割平されているため、本来的な状態が不明である。厚さは4cmを測る。

遺物 なし。

時期 本遺構単体としては不明である。ただし、検出面が同一で焼土関連遺構である5号炉跡の使

用年代から、14世紀の可能性が高い。

10号焼土遺構

遺構（第19図、写真図版17）

【位置・検出状況】D X I 19グリッドに位置する。II層下位からIV層上面で検出された。同グリッド付近は炉跡・焼土遺構の集中域である。

【規模・平面形・厚さ】落花生のような不整形で、45×25cmを測る。厚さは1cm以下でごく薄い。焼成も弱く、本来的な燃焼面ではなく上位が消失しているものと思われる。

遺物 なし。

時期 本遺構単体としては不明である。ただし、検出面が同一で焼土関連遺構である5号炉跡の使用年代から、14世紀の可能性が高い。

11号焼土遺構

遺構（第19図、写真図版17）

【位置・検出状況】C X I 80グリッドに位置する。II層下位からIV層上面で検出された。同グリッド付近は炉跡・焼土遺構の集中域である。

【規模・平面形・厚さ】カシューナッツのような不整形で、45×31cmを測る。厚さは1cm以下でごく薄い。焼成も弱く、本来的な燃焼面ではなく上位が消失しているものと思われる。

遺物 なし。

時期 本遺構単体としては不明である。ただし、検出面が同一で焼土関連遺構である5号炉跡の使用年代から、14世紀の可能性が高い。

12号焼土遺構

遺構（第12図、写真図版17）

【位置・検出状況】C X I 90グリッドに位置する。II層下位からIV層上面で検出された。同グリッド付近は炉跡・焼土遺構の集中域で、13号土坑が隣接する。

【規模・平面形・厚さ】北西側に開口する馬蹄形で、111×81cmを測る。堆積状況から攪乱を受けている可能性が高く、本来的な形状を示しているか不明である。

【土層】3層に分層され、最下層の6層が現地性の焼土である。上位2層は攪拌されている。

遺物 なし。

時期 本遺構単体としては不明である。ただし、検出面が同一で焼土関連遺構である5号炉跡の使用年代から、14世紀の可能性が高い。

13号焼土遺構

遺構（第19図、写真図版17）

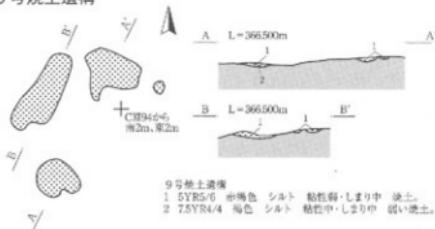
【位置・検出状況】C X I 79グリッドに位置する。II層下位からIV層上面で検出された。同グリッド付近は炉跡・焼土遺構の集中域である。

【規模・平面形・厚さ】不整形を呈し、2ブロックに分かれる。全域の範囲は長軸89・短軸54cmである。厚さは4cmである。焼成は弱く、本来的な燃焼面ではなく上位が消失しているものと思われる。

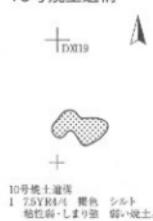
遺物 なし。

1 検出遺構

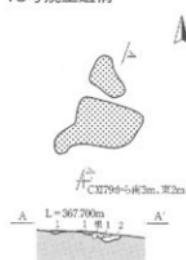
9号焼土遺構



10号焼土遺構

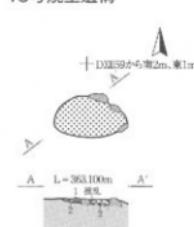


13号焼土遺構



13号焼土遺構
1 7.5YR4/6 棕褐色 シルト 粘性弱・しまり強
弱い燒土。表面に焼土ブロック(～1cm) 10%。
2 10YR2/2 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり中
焼土ブロック(～1cm) 7%。

15号焼土遺構



15号焼土遺構
1 2.5YR5/6 明赤褐色 シルト
粘性弱・しまり弱 弱い燒土。
2 5YR4/4 にぶい赤褐色 シルト
粘性弱・しまり弱 弱い燒土。

11号焼土遺構



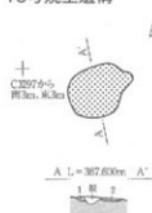
11号焼土遺構
1 7.5YR4/4 黄褐色 シルト
粘性弱・しまり中 弱い燒土。
焼土ブロック(～1cm) 5%。

14号焼土遺構



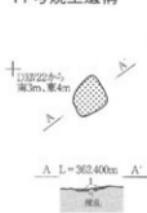
14号焼土遺構
1 10YR3/4 橙褐色 シルト
粘性中・しまり中 弱い燒土。
焼土ブロック(～1cm) 7%。
腐化強度 3%。

16号焼土遺構



16号焼土遺構
1 5YR4/6 棕褐色 シルト 粘性弱・しまり中
弱い燒土。土壤中に10YR2/2シルト20% (混在)。
2 7.5YR3/4 黄褐色 シルト 粘性中・しまり中
弱い燒土。燒土粒3%。

17号焼土遺構



17号焼土遺構
1 5YR5/8 明赤褐色 シルト
粘性弱・しまり弱 弱い燒土。

0 1:40 2m

第19図 9~11・13~17号焼土遺構

時期 本遺構単体としては不明である。ただし、検出面が同一で焼土関連遺構である5号炉跡の使用年代から、14世紀の可能性が高い。

14号焼土遺構

遺構（第19図）

【位置・検出状況】CX I 89グリッドに位置する。II層下位からIV層上面で検出された。同グリッド付近は炉跡・焼土遺構の集中域である。

【規模・平面形・厚さ】92×42cmの南北に長い長楕円形を呈する。厚さは1cm以下でごく薄い。焼成も弱く、本来的な燃焼面ではなく上位が消失しているものと思われる。

遺物 なし。

時期 本遺構単体としては不明である。ただし、検出面が同一で焼土関連遺構である5号炉跡の使用年代から、14世紀の可能性が高い。
(平野)

15号焼土遺構

遺構（第19図、写真図版17）

【位置・検出状況】DX III 59グリッドに位置する。I層直下のII層下位からIV層上面で検出された。

【規模・平面形・厚さ】東一西方向に長軸を持つ60×34cmの楕円形を呈する。厚さは5cmである。

遺物 なし。

時期 本遺構単体としては不明である。ただし、類似遺構と同時期の可能性が高く、14世紀と考えたい。
(丸山)

16号焼土遺構

遺構（第19図、写真図版18）

【位置・検出状況】CX I 97グリッドに位置する。II層下位からIV層上面で検出された。同グリッド付近は炉跡・焼土遺構の集中域である。

【規模・平面形・厚さ】55×40cmの不整な楕円形を呈する。厚さは4cmである。焼成は弱く、本来的な燃焼面ではなく上位が消失しているものと思われる。

遺物 なし。

時期 本遺構単体としては不明である。ただし、検出面が同一で焼土関連遺構である5号炉跡の使用年代から、14世紀の可能性が高い。
(平野)

17号焼土遺構

遺構（第19図、写真図版18）

【位置・検出状況】DX IV 22グリッドに位置する。I層直下のV層中で検出された。

【規模・平面形・厚さ】楕円形で、34×28cmを測る。厚さは1cm足らずで、上位が飛ばされ下位のみ残存したものと思われる。

遺物 なし。

時期 本遺構単体としては不明であるが、類似遺構と同時期の可能性が高く、14世紀を考えたい。
(丸山)

c 焼土等廃棄遺構

1号焼土等廃棄遺構

遺構（第20図、写真図版18）

【位置・検出状況】D X II 23グリッドに位置する。IV層中で検出された。小形の浅い土坑に焼土、炭化物、骨片などを廃棄した状態である。

【規模・平面形】平面は楕円形を呈する。開口部規模は92×59cmを測り、検出面から底面までの深さは概ね7~8cmである。

【埋土】黒褐色シルト主体の單層で、炭化物粒、焼土ブロックのほか、2cm以下の骨片が混じる。

【壁・底面】断面は楕形を呈する。底面形態は実測時の不手際により未記録である。（平野）

遺物 フローテーションにより埋土中から骨片を微量検出した。

時期 遺構形態からの年代推定是不可能である。このため、埋土中から検出した炭化物に対し、AMS法による放射性炭素年代測定を実施した。これによる年代値は、14C年代で 610 ± 30 yrBP (Libby Age・ $\delta^{13}\text{C}$ の補正あり)、較正歴年代は95.4%の信頼度で1290~1410ADの可能性があるとしている（Ⅶ章第1節参照）。これは、2号炉跡および5号炉跡の測定結果と極めて近い。（丸山）

2号焼土等廃棄遺構

遺構（第20図、写真図版18・19）

【位置・検出状況】C X IV 84グリッドに位置する。I層直下のV層中で検出された。

【規模・平面形】北西一南東方向に長軸を持つ長楕円形と推定されるが、南側の削平が激しく残存せず、不明である。残存規模は開口部で160以上×121cmを測る。

【埋土】2層に分層される。2層は焼土ブロックが多量に混じる。いずれも人為堆積（廃棄）と考えられる。

【壁・底面】断面は皿状を呈し、底面は小凹凸が顕著である。検出面から底面までの深さは、最深部で15cmを測る。

遺物 なし。

時期 本遺構単体としては不明である。ただし、焼土関連遺構で近接する2号炉跡の使用年代から、14世紀の可能性が高い。（丸山）

3号焼土等廃棄遺構

遺構（第20図、写真図版19）

【位置・検出状況】D X I 08グリッドに位置する。II層下位からIV層上面で検出された。同グリッド付近は炉跡・焼土遺構の集中域である。浅い土坑（窪み）に焼土、炭化物などを廃棄した状態である。

【規模・平面形】北一南に長軸を持つ不整な楕円形で、規模は開口部で131×91cmを測る。

【埋土】4層に分層される。2~4層は焼土ブロックが多量に混じり、人為堆積（廃棄）と考えられる。

【壁・底面】底面は小さい凹凸が多く平坦でない。範囲は開口部径に対して狭く、壁はごく緩やかに立ち上がり皿状を呈する。検出面から底面までの深さは、最深部で29cmを測る。

遺物 なし。

時期 本遺構単体としては不明である。ただし、検出面が同一で焼土関連遺構である5号炉跡の使用年代から、14世紀の可能性が高い。（平野）

1号焼土等廃棄遺構

+ DX03から
南4m、東2m



1号焼土等廃棄遺構

- 1 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘化物 (~3cm) 8%、骨片 7%、
- 2 焼土ブロック (~1cm) 3%。

2号焼土等廃棄遺構

+ CX03から
南2m、東3m



焼土

A L=362.00m

2.9m

段丘
段丘

3号焼土等廃棄遺構

+ DX03から
南3m、東1m



3号焼土等廃棄遺構

- 1 10YR4/4 開けた シルト 粘性中・しまり弱 円盤 (~15cm) 7%。
- 2 10YR4/4 開けた シルト 粘性弱・しまり弱 ブロック (~2cm) 20%、
- 3 7.5YR5/6暗緑色・5YR4/8赤褐色シルト(焼土) (7.3) 粘性弱・しまり弱 V形ブロック (~1cm) 7%、深井層 (~3cm) 2%、
- 4 7.5YR4/4 開けた シルト 粘性中・しまり中 焼土粒10%。

5号焼土等廃棄遺構

+ DX03から
北3m、東4m



5号焼土等廃棄遺構

- 1 7.5YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 粘化物7%、
- 2 7.5YR3/3 塗褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 粘化物3%。

4号焼土等廃棄遺構

+ DX03から
南3m、東2m

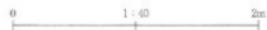


L=360.00m

2.9m

4号焼土等廃棄遺構

- 1 10YR6/4 に深い黄褐色 砂 粘性なし・しまり弱、
- 2 10YR6/4 に深い黄褐色 砂 粘性なし・しまり弱 粘化物10%、
- 3 全体的に黒く濃る
- 4 10YR6/4 に深い黄褐色 砂 粘性なし・しまり弱 粘化物3%。



第20図 1～5号焼土等廃棄遺構

4号焼土等廃棄遺構

遺構（第20図、写真図版19）

【位置・検出状況】EX III 55グリッドに位置する。小寒沢に近く、段丘下位面に位置する。検出面は基本土層のC-C'のⅡ層直下3層上面で、4号炉跡と近接する。小形の浅い土坑に焼土、炭化物、骨片などを廃棄した状態である。

【規模・平面形】東西に長軸を持つ柄鏡状の不整形で、西側が舌状に張り出す。規模は開口部で219×166cmを測る。

【埋土】3層に分層される。いずれもにぶい黄褐色砂主体で、2層は炭化物粒が多く全体的に黒く濁る。各層に被熱したディサイトおよび砂岩の角礫が混入する。2・3層は人為堆積（廃棄）と考えられる。

【壁・底面】底面は小さい凹凸が多く平坦でなく、西側舌状部が1段高くなる。全体的に浅く、断面は皿状を呈する。南部は不明である。検出面から底面までの深さは、最深部で19cmを測る。

遺物（第38図、写真図版58）

【縄文土器】2層から29.30g出土した。いずれも地紋のみの細片である。

【土師質土器】2層から27.55g出土し、掲載した（H5）。

時期 4号炉跡と同様の被熱礫および土師質土器が出土していることから、これに関連する廃棄遺構と考えられる。よって時期もこれと同様の中世以後、14世紀の可能性が高い。（丸山）

5号焼土等廃棄遺構

遺構（第20図、写真図版19）

【位置・検出状況】DX 60グリッドに位置する。I層直下のV層中で検出された。浅い土坑（窪み）に炭化物を廃棄した状態である。

【規模・平面形】開口部径69×64cmの橢円形を呈する。

【埋土】2層に分層される。いずれも炭化物粒を遺構周辺より多く含む。

【壁・底面】断面は皿状を呈し、底面は狭い。検出面から底面までの深さは、最深部で11cmを測る。

遺物 なし。

時期 不明である。（平野）

（5）溝 跡

いずれも削平の著しい箇所においてI層直下から検出されている。出土遺物もなく、時期の特定はできない。

1号溝跡

遺構（第21図、写真図版20）

【位置・検出状況】CX IVグリッドの中央部に位置する。I層直下のV層中で検出された。

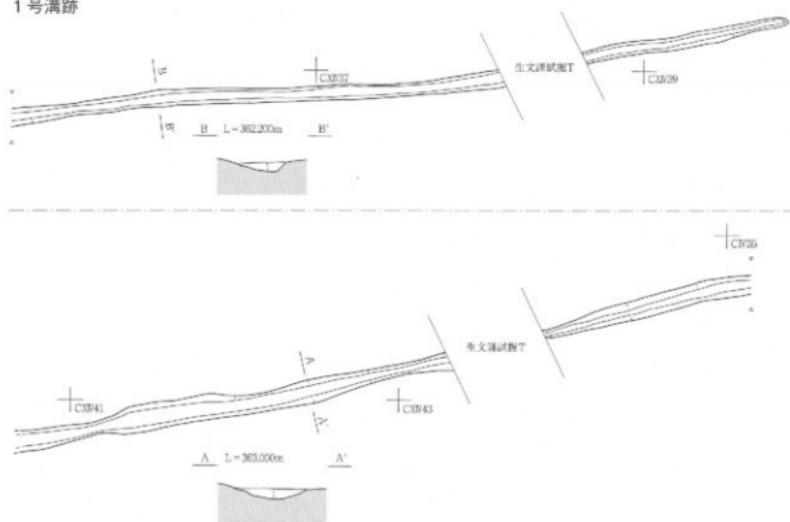
【規模・平面形・断面形】等高線にはば並行して西→東方向に直線的に延びる。本来はさらに両方向へ続いていたものと推定される。確認できた長さは46.7mで、上幅は85cm以下、検出面からの深さは10cm以下である。断面形は皿～椀状を呈する。

【埋土】黒色土の単層で、所々にV層ブロックが少量混じる。自然堆積の様相を呈する。

遺物 なし。

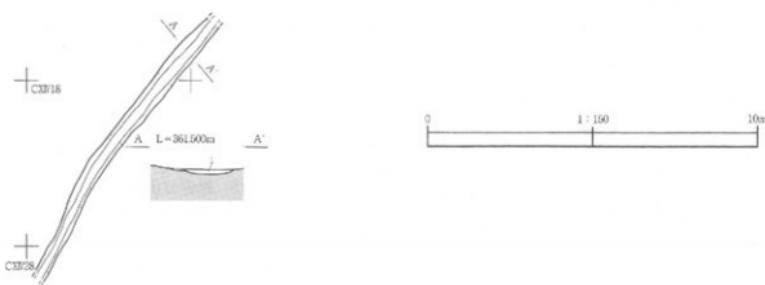
時期 不明であるが、埋土の様相から相対的に新しく、昭和の水田耕作に関わる可能性がある。

1号溝跡



1号溝跡
I 10YR2/1 黒色 シルト 粘性中・しまり中 10YR6/3ブロック(～5mm) 5%, 団粒(～5cm) 3%。

2号溝跡



2号溝跡
I 10YR2/1 黒色 シルト 粘性中・しまり良。

第21図 1・2号溝

2号溝跡

遺構（第21図、写真図版20）

【位置・検出状況】 C X IV 18グリッド周辺に位置する。I層直下のV層中で検出された。

【規模・平面形・断面形】 等高線と斜行方向の北東—南西に直線的に延びる。本来はさらに両方向へ続いているものと推定される。確認できた長さは9.3mで、上幅は65cm以下、検出面からの深さは5cm以下である。断面形は皿状を呈する。

【埋土】 黒色土の単層である。自然堆積の様相を呈する。

遺物 なし。

時期 不明であるが、埋土の様相から相対的に新しく、昭和の水田耕作に関わる可能性がある。

3号溝跡

遺構（第22図、写真図版21）

【位置・検出状況】 B X V 66・57・58グリッド付近に位置する。I層直下のV層中で検出された。

【規模・平面形・断面形】 等高線にはほぼ並行して北東—南西方向に直線的に延びる。本来はさらに両方向へ続いているものと推定される。確認できた長さは19.8mで、上幅は84cm以下、検出面からの深さは6cm以下である。断面形は皿状を呈する。

【埋土】 黒色土の単層で、所々にV層ブロックが少量混じる。自然堆積の様相を呈する。

遺物 なし。

時期 不明であるが、埋土の様相から相対的に新しく、昭和の水田耕作に関わる可能性がある。

4号溝跡

遺構（第22図、写真図版20）

【位置・検出状況】 B X V 98・C X V 08グリッド付近に位置する。I層直下のV層中で検出された。

【規模・平面形・断面形】 鍵状を呈する。ただし本来は長方形を呈していた可能性が高い。確認できた規模は、南西側8.9m、北西側4.8m、北東側1.4mで、上幅は最も広い北西隅で1.34m、直線部分は38cm以下である。検出面からの深さは13cm以下で、断面形は皿状を呈する。

【埋土】 黒色土の単層で、所々にV層ブロックが少量混じる。自然堆積の様相を呈する。

遺物 なし。

時期 不明であるが、埋土の様相から相対的に新しく、昭和の水田耕作に関わる可能性がある。

5号溝跡

遺構（第22図、写真図版21）

【位置・検出状況】 B X V 39・40グリッド周辺に位置する。I層直下のV層中で検出された。

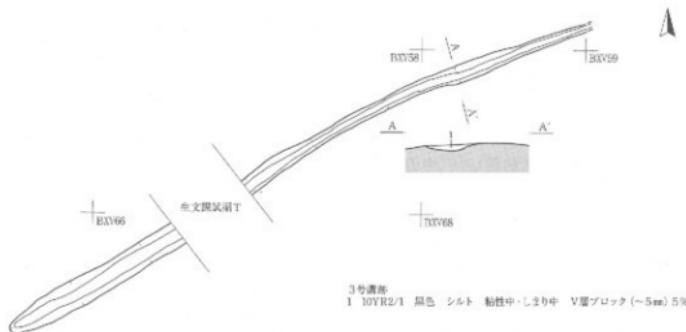
【規模・平面形・断面形】 等高線にはほぼ並行して北東—南西方向に延び、微妙に山側へ弧を描く。本来はさらに両方向へ続いているものと推定される。確認できた長さは15.6mで、上幅は53cm以下、検出面からの深さは12cm以下である。断面形は皿～椀状を呈する。

【埋土】 黒色土の単層で、所々にV層ブロックが少量混じる。自然堆積の様相を呈する。

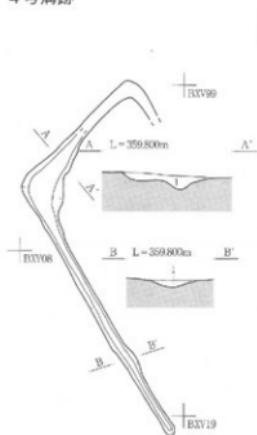
遺物 なし。

時期 不明であるが、埋土の様相から相対的に新しく、昭和の水田耕作に関わる可能性がある。

3号溝跡



4号溝跡



5号溝跡



4号溝跡
1 10YR2/1 黒色 シルト 粘性中・しまり中 V層ブロック (~5mm) 5%.



第22図 3～5号溝

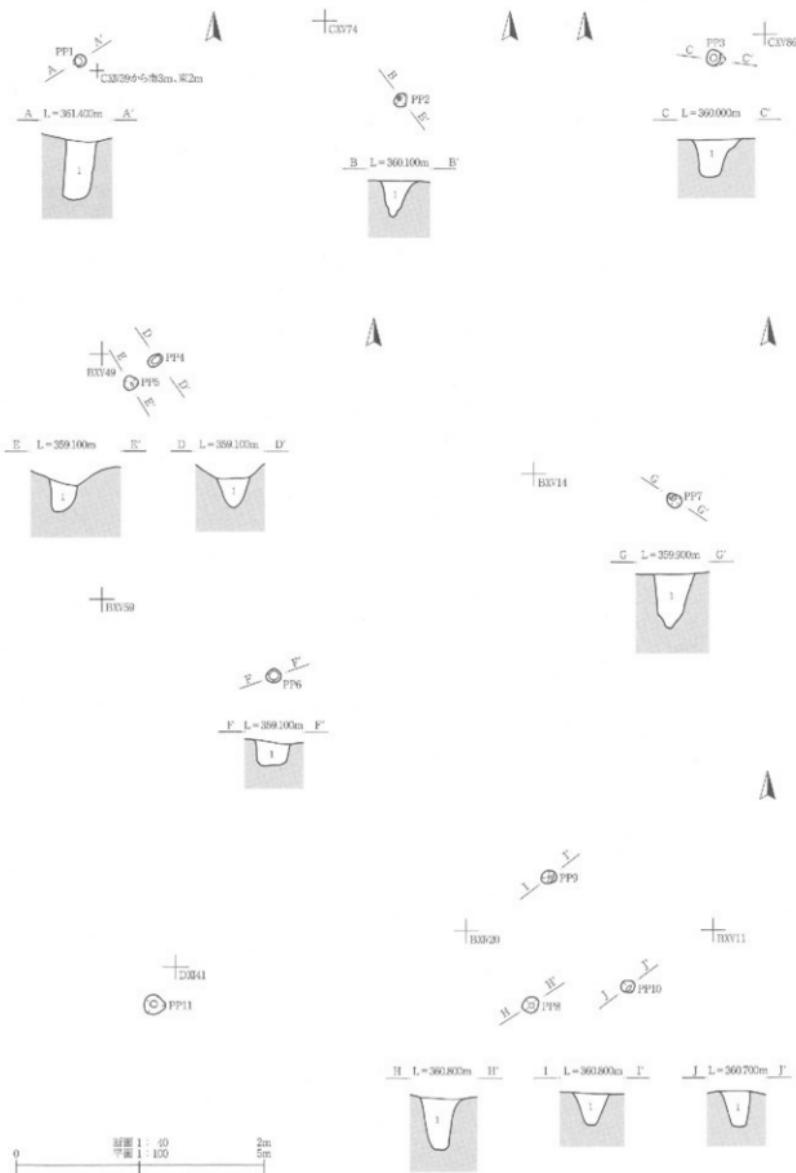
(6) 柱穴状土坑

開口部径が約50cm以下の小ビットを柱穴状土坑として登録（第23～25図）した。明瞭な配置が見られず、また柱旗および柱埋土も確認されないことから柱穴として機能したとは断定できない。総数は36個で、調査区全域に散在する。埋土はⅡ層起源と思われる黒色～黒褐色シルトで構成される場合が多く、構築時期は比較的新しい（中世以降）と考えられるが、断定要因が全くなく詳細は不明である。

(丸山)

第3表 柱穴状遺構土層記と計測値

遺構名	土層記記	開口部径(cm) 長軸 短軸	深さ(cm)	底面標高(m)	備考
PP1(06)	10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中・しまり弱 10YR5-3シルトブロック 2%	25 23	47	360.746	
PP2(06)	10YR2/1 黒色シルトとV層の混土(5:4) 粘性中・しまり強	32 30	30	359.701	
PP3(06)	10YR3-1 黒褐色シルトとN-V層の混土(5:4:1) 粘性弱・しまり弱 円錐(~2cm)	40 33	31	359.515	
PP4(06)	10YR3-1 黒褐色シルトとV層砂利混土(5:5) 粘性弱・しまり弱 円錐(~2cm) 10%	33 23	27	358.617	5号溝跡より古
PP5(06)	10YR3-1 黒褐色シルトとV層砂利の混土(5:5) 粘性弱・しまり弱 円錐(~2cm) 10%	30 27	34	358.639	5号溝跡より古
PP6(06)	10YR1/1 黒色 シルト 粘性中・しまり強 V層ブロック・底層に10%。	30 26	22	358.822	
PP7(06)	7.5YR1/1 黒色 シルト 粘性中・しまり弱 7.5YR6-4砂質シルトブロック(~2cm) 2%	31 27	38	359.431	
PP8(06)	7.5YR3/1-2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 V層以下ブロック(~1cm) 3%、炭化物2%、無鉄モザイク入る。	35 32	47	360.171	
PP9(06)	10YR2/3 黒褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり弱 V層以下ブロック 5%、炭化物 控3%。	29 25	26	360.423	
PP10(06)	10YR2/2 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり中 V層以下ブロック 7%、炭化物 3%、円錐(~7cm) 1%。	28 27	31	360.291	
PP11(06)	10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり強 円錐(~2cm) 5%、炭化物粒(~1cm) 2%	44 42	30	367.926	
PP12(06)	7.5YR2/1 黑色 シルト 粘性弱・しまり中 10YR5-6砂質シルトブロック(~2cm) 5%、炭化物粒 4%。	67 37	48	367.883	
PP13(06)	10YR3/4 黒褐色 シルト 粘性中・しまり中 10YR5/4シルトブロック(~5mm) 3%。 1 10YR1/1 黑色 シルト 粘性弱・しまり中 10YR5/4シルトブロック(~1cm) 2%、V層(~1cm) 1%。 2 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中。 3 10YR1/1 黑色 シルト 粘性中・しまり中。	31 18	73	368.520	
PP14(06)	4 10YR1/3 にい黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 円錐(~2cm) 2%。 5 10YR1/1 黑色 シルト 粘性中・しまり弱。 6 5層と10YR5/4にい黄褐色シルトの混土(7:3) 粘性弱・しまり弱 円錐(~2cm) 2%。	48 43	50	363.999	
PP15(06)	7.5YR4/3 棕褐色 シルト 粘性弱・しまり中 円錐(~8cm) 7%。	33 25	36	368.885	
PP16(06)	7.5YR4/4 棕褐色 -7.5YR2/1黒色シルトの混土(B:2) 粘性中・L2寸中 細円錐(~5mm) 3%。	35 29	19	368.092	
PP17(06)	7.5YR4/6 棕褐色 シルト 粘性中・しまり中。	34 32	44	368.855	
PP18(06)	10YR2-3 黑褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中。	28 26	31	365.435	
PP19(06)	10YR3-2 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり強 炭化物粒 5%。	44 35	34	365.644	
PP20(06)	10YR2/3 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり強 円錐(~1cm) 7%、炭化物粒 4%。	32 22	27	365.930	
PP21(06)	10YR3/3 棕褐色 シルト 粘性弱・しまり中 V層粒 3%。	31 30	34	365.960	
PP22(06)	10YR2/3 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり中 炭化物粒 2%。	35 31	20	365.907	
PP23(06)	7.5YR3/2 黑褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 V層粒 7%。	61 53	34	365.214	
PP24(06)	7.5YR3/3 棕褐色 シルト 粘性弱・しまり中 V層ブロック(~2cm) 1%。	32 32	22	365.566	
PP25(06)	10YR2/3 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり強 円錐(~1cm) 4%、炭化物粒 1%。	20 19	21	366.050	
PP26(06)	7.5YR3/4 棕褐色 シルト 粘性弱・しまり中 V層粒 4%。	38 28	28	366.048	
PP27(06)	10YR3-3 黑褐色 -10YR4/4砂質粘土質シルトの混土(6:4) 粘性中・しまり中 円 錐(~2cm) 2%。	38 30	30	364.897	
PP28(06)	10YR3/4 棕褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり弱 3角錐(~4cm) 2%。	30 26	34	365.216	
PP29(06)	10YR2/1 黑褐色 -10YR3/4砂質粘土質シルトの混土(8:2) 粘性中・しまり中。	31 27	23	365.679	
PP30(06)	10YR2/1 黑色 シルト 粘性中・しまり中 V層粒 7%。	30 24	23	363.442	
PP31(06)	10YR4/2 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり強 10YR2/2シルトブロック(~1cm) 10%、V層粒 3%。	29 27	26	363.467	
PP32(06)	10YR3/1 黑褐色 シルト 粘性中・しまり強 V層ブロック(~2cm) 5%、炭化物 粒 2%。	31 30	25	363.420	
PP33(06)	10YR3/3 棕褐色 シルト 粘性中・しまり中 V層ブロック(~1cm) 7%。	28 25	28	361.987	
PP34(06)	10YR2/2 黑褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 炭化物(~3cm) 5%、円錐 (~5cm) 4%。	36 35	46	362.368	
PP35(06)	7.5YR3/3 棕褐色 シルト 粘性強・しまり中 V層ブロック(~2cm) 5%。	31 27	36	365.870	
PP36(06)	10YR3/2 黑褐色 シルト 粘性中・しまり弱 V層ブロック(~2cm) 5%。	37 24	15	362.094	

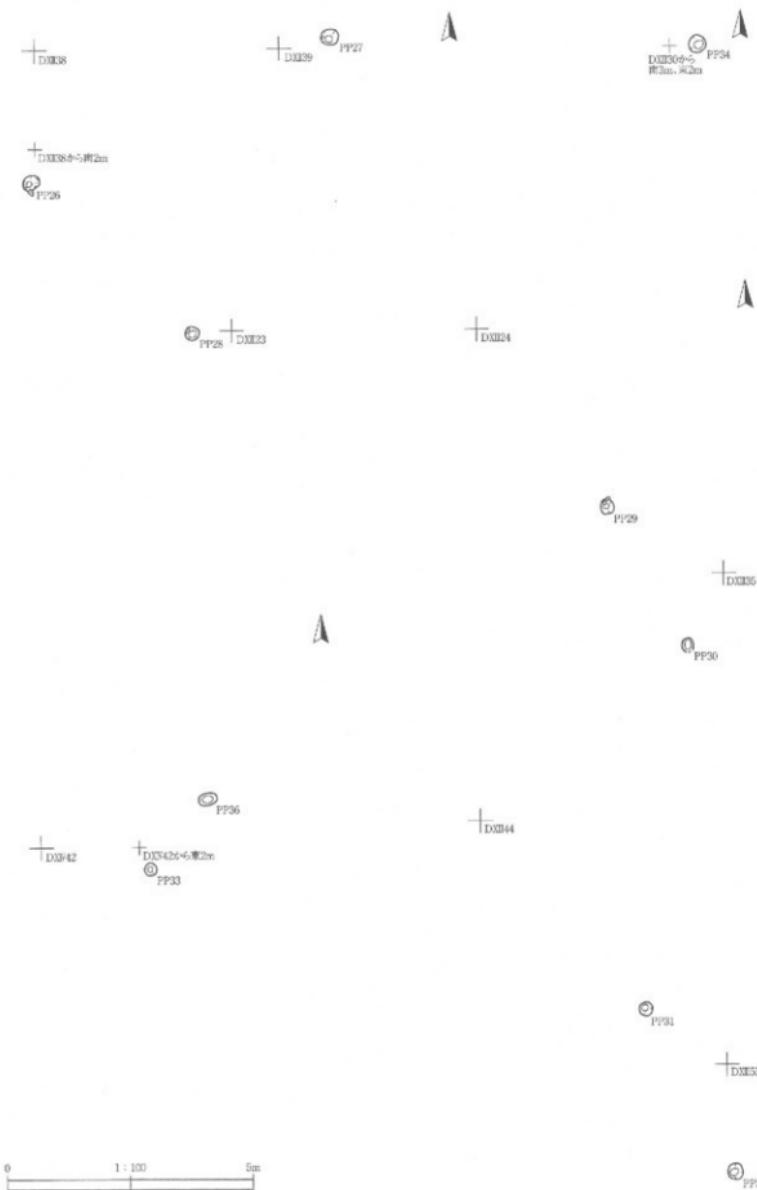


第23図 PP 1~11

1 検出遺構



第24図 PP12~25・35



第25図 PP26~34・36

2 出 土 遺 物

平成18年度の調査で出土した遺物は、縄文土器約32.5kg（中コンテナ…42×32×20cm換算約2.3箱）、石器（剥片・素材含む）230点・約14.5kg（中コンテナ換算約1.0箱）、土師器約0.4kg、土師質土器約2.2kg（中コンテナ換算約0.2箱）、骨片微量である。

以下、図の掲載方法について述べておく。なお、掲載基準については、Ⅲ章2節「遺物整理の方法」を参照いただきたい。

掲載順序

第一に出土地点を問わず遺物種別で分類し、縄文土器→石器→土師質土器の順に掲載することとした。次に各種別内で出土地点（遺構内・外）ごとに分類し、それぞれ出土層位を優先して下位から（遺構内であれば床面・底面から）順に掲載した。遺構の掲載順は、IV章の記述順である。なお、骨片については、VII章「自然科学的分析」で写真を掲載している。

（1）縄 文 土 器（第26～30図、第7表、写真図版56～58）

ア 概 要

出土総量32,540.57gのうち、遺構内出土分は9,062.07gである。このほか遺構外分も含め、すべての地点別出土量を第4表に示した。

既存の上器型式から比定される時期は、縄文時代前期前葉、中期末葉、後期後葉である。本報告では、総量の約24%にあたる7,808.65g・53組（54点）を掲載している。個々の遺物についての記載は第7表の遺物観察表に記載してあるのでそちらを参照いただきたい。ここでは各遺構・遺構外別に特徴的・代表的な遺物に絞って詳細を記載し、遺構外分については出土地点の概要についても記す。

イ 詳 細 の 記 載

a) 遺構内（1～14）

1号・2号竪穴住居状遺構、1号・2号土器埋設遺構、5号・6号・9号土坑から出土した。遺構外出土分も含め、出土地点により主体的に存在する土器型式が異なる傾向が見られる。すなわち、竪穴住居状遺構および土器埋設遺構が位置する調査区南部のDX II 90～100ライン東端付近においては、中期末葉が多数を占める。いっぽう、5号・6号・9号土坑が位置する西部のDXグリッド東部からXIグリッドにかけての地域では、後期中～後葉が主体となっている。

1a・1bは1号竪穴住居状遺構床面出土。胴張形の深鉢で、隆線、沈線、無文帯による繁球文が胴部中位以上に描かれる。無文帯には円形刺突が多数施文される。柳澤（柳澤2006）の大木10C式に当たるものと思われる。2は同遺構埋土出土。1と地紋が共通で、同一個体の可能性がある。注口状の突起である。4～7は2号竪穴住居状遺構床面出土。4～6は口縁・胴部片で、大木10式に比定されることから6の底部も同時期の所産と考えられる。4には鱗状貼付があり、大木10C式と見られる。12は1号土器埋設遺構の、13は2号土器埋設遺構の埋設土器である。いずれも深鉢であるが上半部は検出されず、元々なかった可能性がある。文様帯は見られないものの、地紋、器形、胎土は中期末葉の特徴を有する。14は5号・9号土坑埋土から出土した深鉢である。張状連結文に瘤状小突起が多数貼付される。高柳（高柳1988）の瘤付土器第II段階に比定される。

b) 遺構外

IV層（15～22）

5.040.78g出土した。調査区全域に散在するが、CXⅢグリッド南部に集中域が存在する。ただしこれらは大半が風倒木痕からの出土で、純粹なIV層ではない。

15は大木9～10式の胴部片である。16・17は山形突起を有する口縁部片で、並行および山形の沈線が多用される、後期後葉頃のものである。18・19は鉢の口縁部片である。前者は口唇が肥厚し刻日が施され、以下は無紋である。後者は羽状の地紋のみであるが、内湾する特徴的な器形を呈する。いずれも後期中葉頃の特徴と思われる。

IIIa層（23～48）

14.413.29g出土した。層自体の堆積（残存）場所も影響しているが、調査区南部のDXⅡグリッド南東部からDXⅢグリッド南西部に集中している。

23・24は胎土に纖維を含み、地紋のみ施文される。前期初頭～前葉頃と推定される。25～29・31は口縁上部が無紋で以下に沈線区画が施される。うち、26・28・32には鱗状貼付が付される。33は横長の刺突列と陰帯が付される。30は沈線こそ確認できないものの33に類似する。これらはいずれも大木10式に比定される。36も同時期の胴部片である。37は結節回転が縦位に施される。該期にも見られる施文であり、同時期と見て良かろう。38は刷毛目状の沈線が特徴的である。同時期か後期に入る可能性もある。39は後期中葉頃の口縁部片である。41～48は底部片である。48は上げ底を呈する。

IIIb層（49～50）

2.463.29g出土した。層自体の堆積場所が限定的で、出土量も少ない。一様に旧河道に流入したような状態を呈する。

49は大木10式の口縁部片、50は原体が細かく、本遺跡出土粗製土器の中では比較的新しい雰囲気がある。後期と推定される。

II層（51～53）

649.76g出土した。調査区全域に散在するが、層自体の残存範囲が狭く、出土数量も少ない。

51も50と同様に原体が細かく、後期の粗製土器と推定される。

小寒沢周辺3層（II層下砂層）

37.98g出土した。地紋のみの細片で、時期不明である。

I層・攪乱等

873.40g出土した。II～IV層出土分と異なる様相の遺物は出土していない。

（2）石 器（第31～37図、第8表、写真図版58～62）**ア 概 要**

石器の出土総数・量は230点・14.529.76gで、その内訳はトゥール類（円形碟、棒状疊含む）61点・9.707.44g、剥片および素材169点・4.822.32gである。これらの地点別出土量を第5表に示した。遺構内出土点数・量は7点・2.684.36gと少ない。地点および層位別の出土状況は、縄文土器と同様の傾向を示す。

所属時期は、1号炉跡埋土から出土した砥石（S3）と円形碟（S4）が同種遺構の年代から中世と推定される。円形碟はこのほかに4点出土しているが、すべてI層出土であり、時期の特定はできない。これら以外は、すべて縄文時代に所属するものと考えられる。

なお、本報告書では39点・5.228.29gを掲載した。これは出土総数・量の約17%・36%にあたる。

イ 石 材 分 類

石材分類の結果と出土点数・重量は第6表のとおりである。石器石材は、頁岩(13母岩)、チャート(2母岩)、めのう、凝灰岩(2母岩)、ホルンフェルス、砂岩の6石材20母岩が存在する。比率は頁岩が大半である。

また、石器石材ではないが、炉の構築材としてデイサイトと砂岩が用いられている。

ウ 器 種 分 類

前述のとおり、S 102出土のNo.1以外ははっきりと縄文時代以外の所産といえるものがないため、これらはすべて一括して器種分類を行なった。おそらく縄文石器と考えて差し支えない。以下、まずNo.1について記載し、他は器種ごとに解説していく。

エ 詳 細 の 記 載

a) 遺構内

1号竪穴住居状遺構 (S 1)

埋土から二次加工ある剥片が1点出土した。側縁の一部に急斜度調整が施されている。石材は頁岩1である。

1号炉跡 (S 3・4)

1層から砥石(S 3)が、3層から円形礫(S 4)が出土した。砥石は六角柱状で、作業面と調整面が交互に3面並ぶ。調整面には鉄器での器形調整痕跡が残る。石材は凝灰岩である。円形礫は砂岩製である。

b) 遺構外(器種毎)

石鎌 (S 5~7)

3点出土し、全点掲載している。S 5・6はめのう製有茎鎌である。S 7は頁岩1製の無茎凹基鎌である。

石錐 (S 8)

2点出土し、1点を掲載した。刃部は両面調整で長い棒状を呈する形態ではなく、2点とも片面調整で短い嘴状をなすものである。石材はいずれも頁岩1である。

石匙 (S 9~11)

4点出土し、3点を掲載した。S 9は両側縁に片面調整が施された斜形で、頁岩1製である。S 10・11および不掲載の1点は縱形で、石材はそれぞれ、頁岩1、同6、同2である。S 11のみ片面調整である。S 10は未完成と思われる。

スクレイパー (S 12~19)

調整縁・面を問わず、連続する剥離調整が1辺の2分の1以上におよぶものをスクレイパーとして登録した。16点出土している。さらに、刃部角(60度を境界とする)および刃部調整位置・形態により、削器、尖刃形削器、搔器に細分している。削器は9点出土し、3点を掲載した。すべて片面調整であり、S 14のみ2側縁調整で、他はすべて1側縁のみである。石材はすべて頁岩で、2が6点、1が2点、5が1点である。尖刃形削器は2点出土しており、すべて掲載した。いずれも片面調整である。石材は頁岩5と1である。搔器は5点出土し、3点を掲載した。S 18は末端部に調整が入り、弧刃形を呈する。他は側縁に調整が施され、直線的な刃部形態を成す。石材は頁岩1が3点、頁岩2と7が各1点である。

いずれの器種も出土層と石材の相関関係はなく、それぞれに対する石器形態・調整の相違は観察されない。

二次加工ある剥片（S20）

刃部調整が1辺の2分の1に満たないもの、もしくは連続しないものをここに登録した。8点出土し、1点を掲載した。石材は、頁岩1が4点、頁岩2が2点、頁岩6が1点、凝灰岩1が1点と頁岩が大半を占める。

ピエス・エスキュー（S21）

1点出土し、掲載した。作業面は1面で、打面は相対する2面である。めのう製である。

縦長剥片（S22）

両側縁がほぼ並行し、背面の剥離痕も同様を呈する剥片で、整然とした素材剥離工程から作出されたと思われる、旧石器的な特徴を有する剥片である。打面は相対する2面に設置されている。石材は頁岩7である。

石核（S31・32・36・37）

7点出土した。石材は、凝灰岩1が3点、頁岩1、同3、同5、めのうが各1点ずつである。凝灰岩1およびめのうは両極剥離で、後者の素材は5cm以下と小形の円盤である。他は通常剥離が行われている。S31・32・36は接合資料1あるいは2に属するものである。

凹石（S38）

7点出土し、1点を掲載した。石材は、砂岩6点、凝灰岩1点である。大半は梢円形の扁平礫を素材としており、三角柱状、輕節状のものも見られる。

石皿（S39）

1点出土し、掲載した。砂岩製で長方形の扁平礫が素材である。片面にのみ調整および使用痕が確認される。

砥石

1点出土した。破片で、大部分が欠損している。石材は頁岩2である。

円形礫・棒状礫

円形礫が4点、棒状礫が1点出土した。前者は敲打で球形に加工されたものと捉えられるが、それ以上の痕跡は確認されない。すべて砂岩製である。後者は調整が確認されず、トゥールか否か判断できない。ただし縄文時代中期における他遺跡での出土例から意図的な搬入の可能性があるためここに含めた。頁岩9製である。

オ接合資料

2組の接合資料が得られた。以下に詳述する。

接合資料1（S23～31）



C XIV28～29グリッドIII b層出土の石核1点（S31）と剥片8点（S23～30）の計9点で構成される。石材は頁岩5である。素材は角礫面を残す扁平礫で、一端が平坦面を有する。打面はこの平坦面のみで、作業面は1面である。ここから最低11回の剥片剥離を行なっている。剥片形態は平面形・厚さとも一樣でない。トゥールは含まれないが、空白の生じている部分があり、他所へ持ち出されてい

る可能性がある。

接合資料2 (S 32~36)



B X IV07~08グリッドⅢ b層出土の石核2点（S 32・36）と剥片3点（S 33~35）の計5点で構成される。石材は凝灰岩1である。前段階の剥離作業により細長くなった石核を中央付近で分割し、2つの石核を作出している。その一方（S 36）に対し、分割面およびその相対面を打面として剥離作業を行なっている。なお、分割前の剥離作業の存在は、S 32とS 34の背面に残置する作業面により確認される。

(3) 石 製 品

石製品（第31図、第8表、写真図版58）は6号土坑埋土から出土した玉類1点（S 2）のみである。磨り調整で作成されたもので、ミニチュアの磨製石斧のようであり、薄い。砂岩製である。

(4) 土 師 器

A X V67グリッドI層から出土（第38図、第9表、写真図版58）した。他地点からの出土はない。出土総量は352.86gで、そのうちの3点・131.06gを掲載した（H 6～8）。頸部に段を持ち口縁部が長い。8世紀頃の所産と思われる。

(5) 土 師 質 土 器

ア 概 要

4号炉跡、4号焼土等廐棄遺構周辺からまとまって出土（第38図、第9表、写真図版58）した。他地点からの出土はない。出土総量は2,538.57gで、そのうちの5点・1,258.85gを掲載した（H 1～5）。総量の約50%にあたる。

共通属性として、胎土が砂質でφ2mm程度の砂粒を7～10%程度含むことが挙げられる。また、いずれも劣化および摩滅が著しく、調整等についてはほとんど把握できない。これには、胎土状態のほか、炉に関連する作業で使用されたことによる劣化も考慮に入れる必要がある。

イ 詳 細 の 記 載

H 1～4は4号炉跡の周辺から出土したものである。H 1・2は鉢類の口縁部である。前者は先端が幾分先細り、内湾気味に立ち上がる。後者はこう口縁上部に段を有し、口唇部が張り出す。立ち上がりは外反している。いずれも調整は不明である。H 3は鉢類の底部である。胴部が急角度で立ち上がっており、バケツ状を呈するものと推定される。調整は外面に縦位のヘラケズリ、内面に横位のヘラナデが確認される。H 4はバケツ状の深鉢で、器厚が面により大きく異なる。意図的な作り分けか否かは不明である。調整はH 3に類する。内面および外面下位が炭化し黒色化している。H 5は4号焼土等廐棄遺構埋土2層から出土したものである。鉢類の底部片で、外面にヘラケズリ調整が確認される。

（丸山）



第26図 繩文土器 (1)



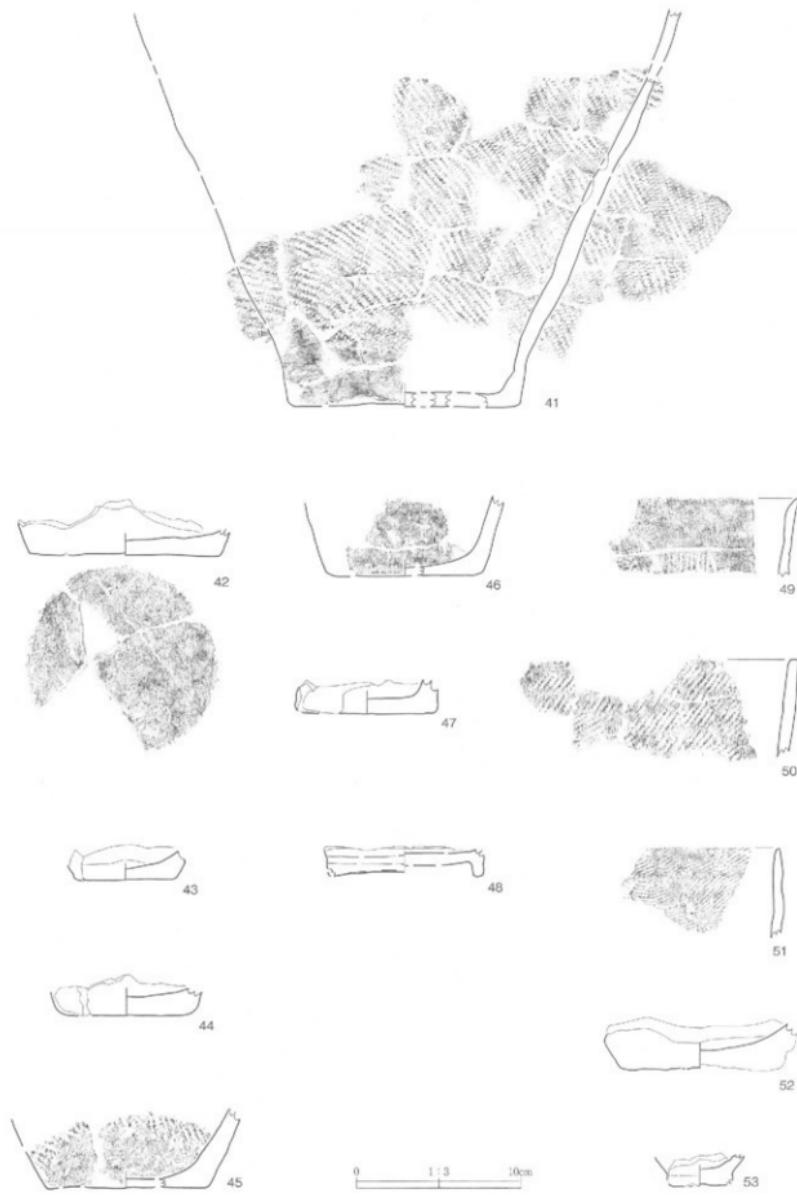
第27図 繩文土器 (2)



第28図 繩文土器 (3)



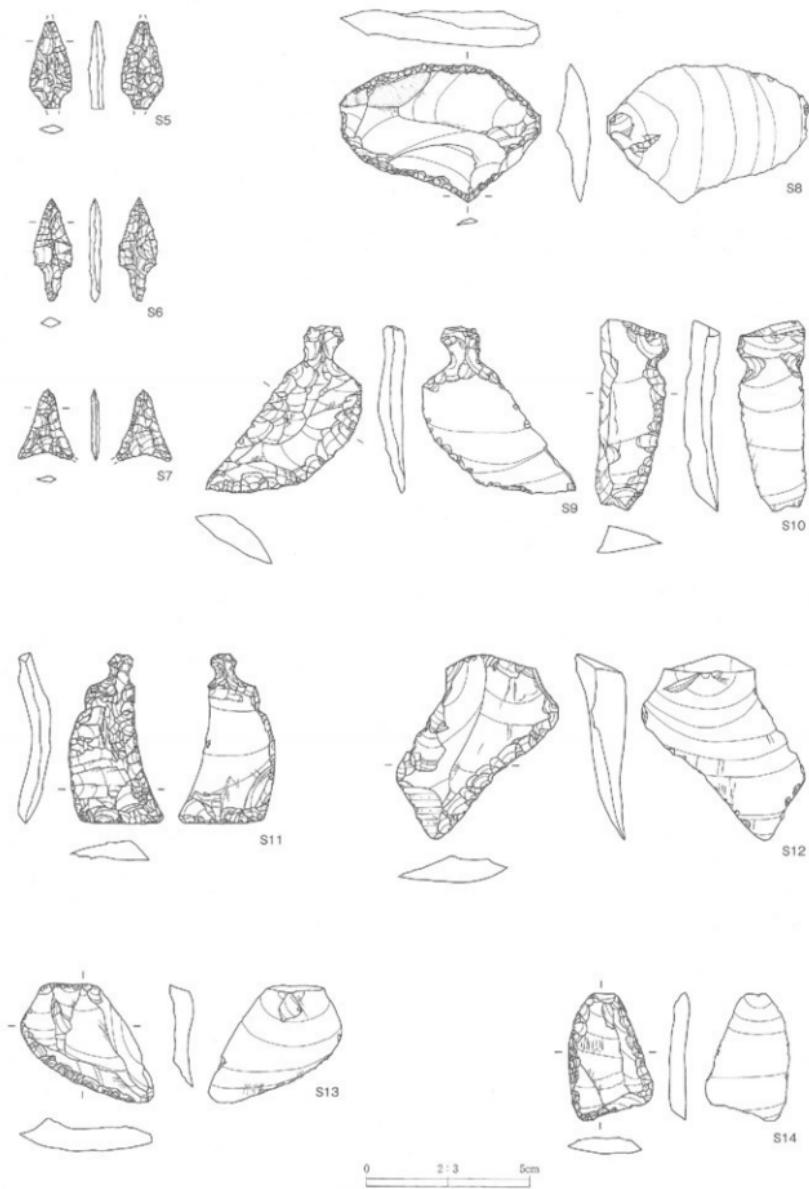
第29図 繩文土器 (4)



第30図 繩文土器 (5)



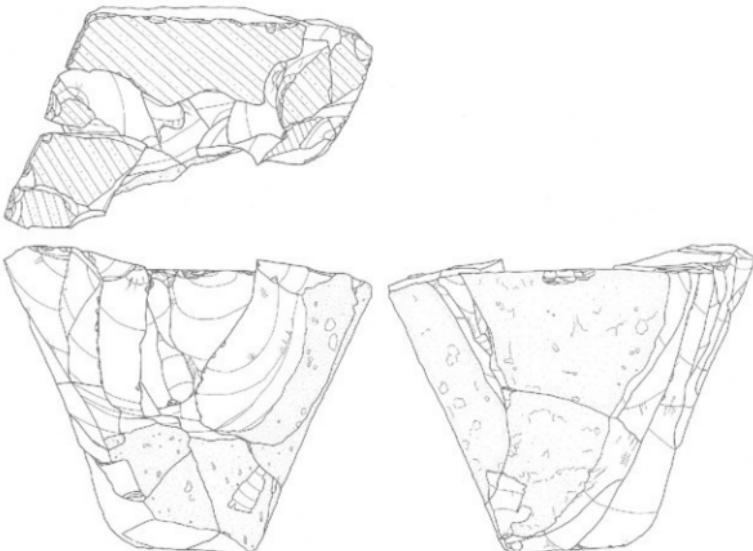
第31図 石器 (1)



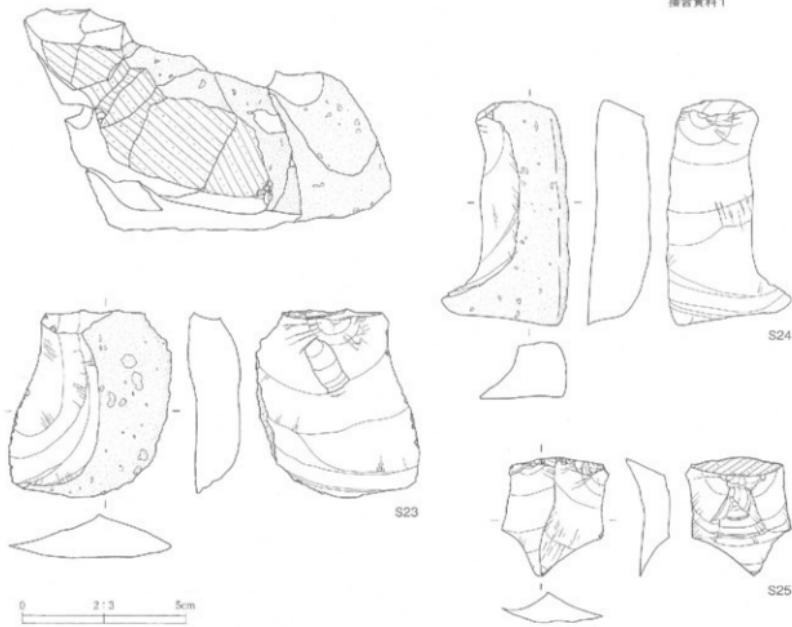
第32図 石器 (2)



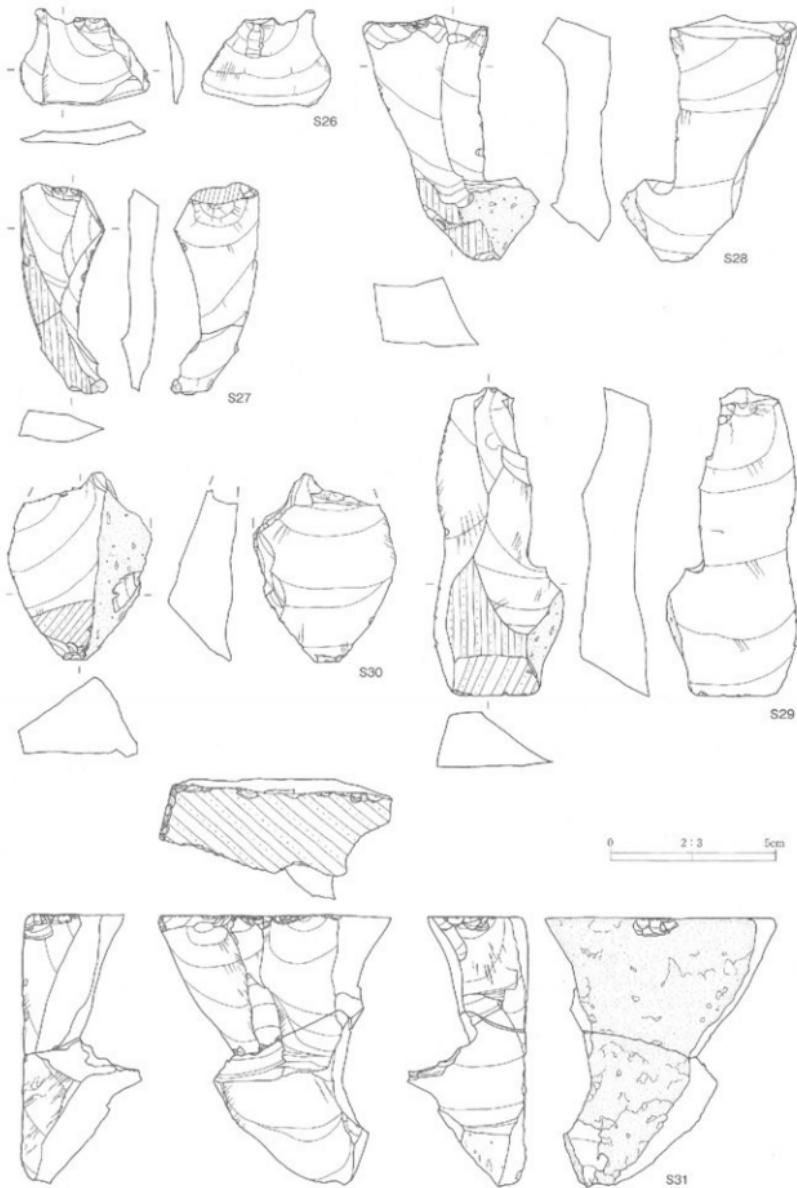
第33図 石器 (3)



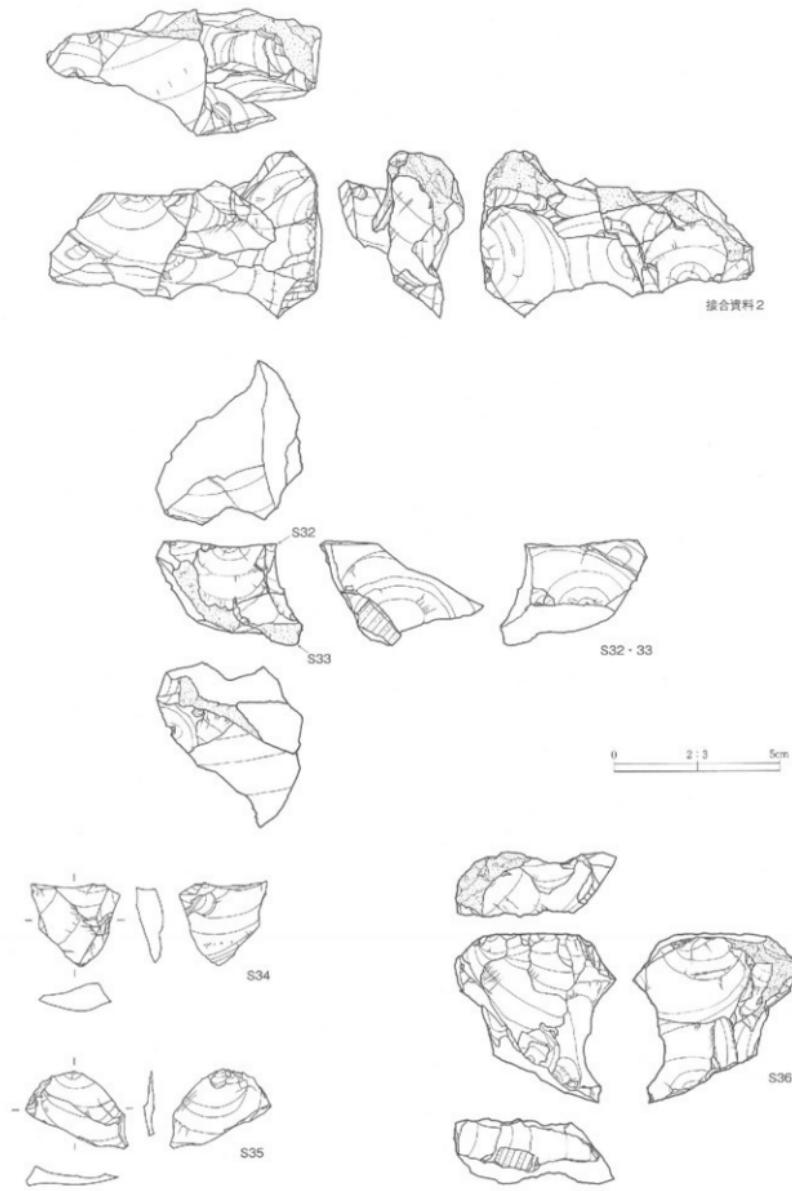
接着資料 1



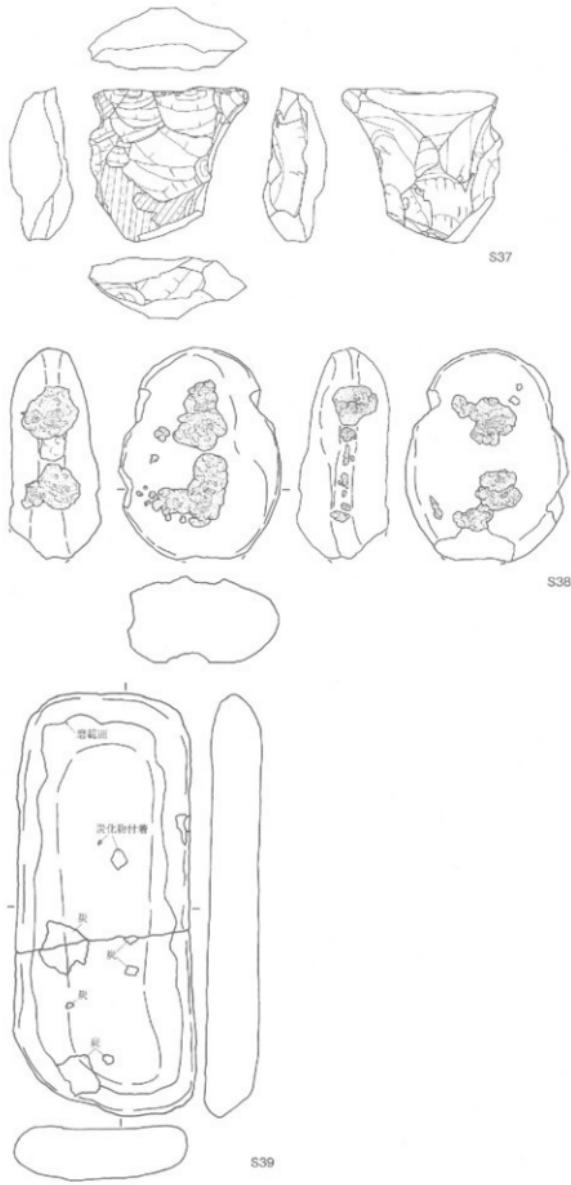
第34図 石器 (4)



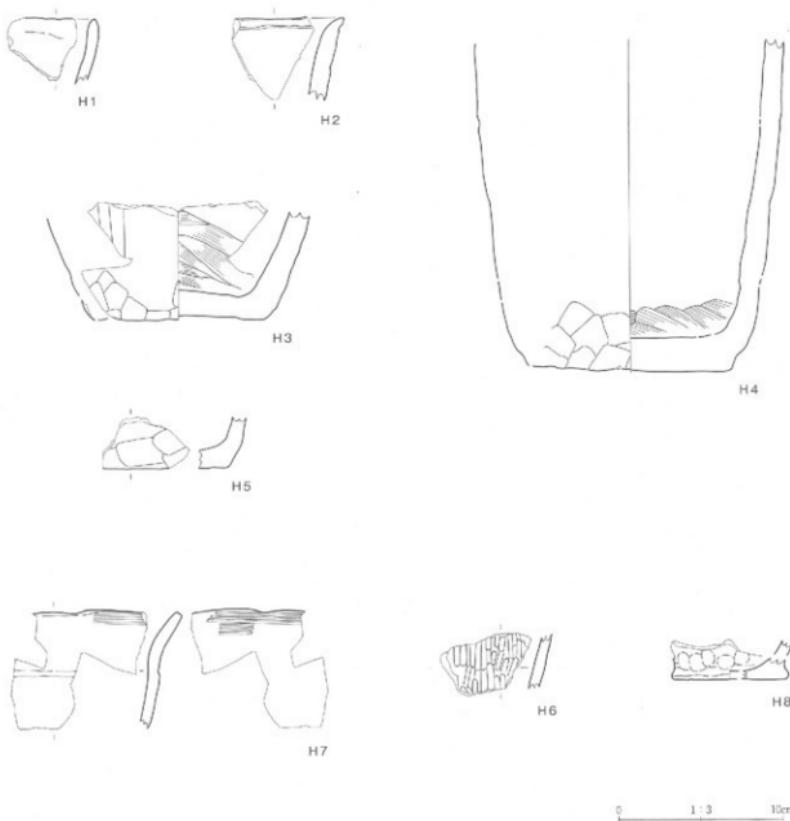
第35図 石器(5)



第36図 石器 (6)



第37図 石器 (7)



第38図 土師器・土師質土器

第4表 繪文土器地点別出土量

No.	出土地点・層位	重量(g)	No.	出土地点・層位	重量(g)
1	1号型穴住居跡遺構 底面直上	3078.09	77	E.XII.08 III a層	798
2	1号型穴住居跡遺構 地下十	489.29	78	E.X.II.01 III a層	4114.44
3	2号型穴住居跡遺構 底面中央・直上	369.22	79	E.X.II.10 III a層	257.36
4	2号型穴住居跡遺構 底面直上	1137.84	80	E.X.II.18 III a層	16.45
5	2号型穴住居跡遺構 塵土	1489.35	81	E.X.II.30 III a層	133.37
6	1号型斜土器遺構 1層	264.92	82	E.X.II.01 III a層	175.01
7	1号型斜土器遺構 1層	5.82	83	E.X.II.17 III b層	
8	欠基		84	E.X.II.18 III b層	1173.62
9	2号型斜土器遺構	843.69	85	C.X.III.4 III b層	25.64
10	2号型斜土器遺構	16.06	86	C.X.III.9 III b層	79.73
11	4号坑 4層	10.29	87	C.X.III.28 III b層	28.14
12	5号土坑 3層	404.91	88	D.X.III.4 III b層	85.10
13	5号土坑 1層	789.63	89	D.X.III.5 III b層	188.22
14	5号土坑 3層	3.23	90	D.X.III.6 III b層	26.28
15	7号土坑 2層	2.65	91	D.X.III.7 III b層	617.52
16	9号坑 2層	96.60	92	D.X.III.9 III b層	14.22
17	9号坑 1層	40.13	93	D.X.III.10 III b層	8.72
18	7号房跡 2層	7.05	94	D.X.III.19 III b層	11.90
19	4号坑等隔壁遺構 2層	29.30	95	D.X.IV.20 III b層	11.08
20	B.X.IV.87 IV層	9.45	96	D.X.IV.26 III b層	9.11
21	C.X.II.67 IV層	6.62	97	E.X.III.05 II層下砂層上面	37.98
22	C.X.II.68 IV層	8.94	98	B.X.VI.17 II層	12.16
23	C.X.II.30 IV層	15.59	99	C.X.III.30 II層	3.45
24	C.X.II.67 IV層	31.74	100	C.X.III.57 II層	7.79
25	C.X.IV.86 IV層(風鈴木)	297.21	101	C.X.III.62 II層	29.37
26	C.X.IV.94 IV層	329.56	102	C.X.III.64 II層	15.88
27	C.X.IV.95 IV層(風鈴木)	7.64	103	C.X.III.72 II層	13.69
28	C.X.IV.96 IV層(風鈴木)	759.46	104	C.X.III.74 II層	5.64
29	C.X.IV.97 IV層(風鈴木)	2199.83	105	C.X.III.81 II層	22.80
30	C.X.IV.98 IV層(風鈴木)	76.32	106	C.X.III.97 II層	17.14
31	C.X.IV.12 IV層	63.32	107	D.X.30 Ⅲ層切	195.66
32	C.X.IV.57 IV層	31.25	108	D.X.50 Ⅲ層	63.54
33	C.X.IV.58 IV層	10.96	109	D.X.I.21 II層	8.16
34	C.X.IV.58 IV層	25.93	110	D.X.I.69 II層	62.34
35	C.X.IV.45 IV層(木根発光)	186.75	111	D.X.I.10 II層	163.20
36	D.X.25 IV層	55.19	112	D.X.I.99 II層	14.58
37	D.X.29 IV層	15.27	113	D.X.III.43 II層	22.56
38	D.X.30 IV層	3.95	114	D.X.III.46 II層	12.72
39	D.X.39 IV層	13.94	115	D.X.III.54 II層	48.09
40	D.X.I.24 IV層	59.35	116	A.X.V.66 I層	37.81
41	D.X.I.37 IV層	2.93	117	A.X.V.68 I層	4.90
42	D.X.I.69 IV層	14.53	118	A.X.V.69 I層	
43	D.X.II.04 IV層	1.38	119	A.X.V.76 I層	18.65
44	D.X.II.10 IV層	25.87	120	B.X.VII.75 I層	92.14
45	D.X.II.57 IV層	66.21	121	B.V.28 I層	15.65
46	D.X.II.88 IV層	6.32	122	B.V.29 I層	2.46
47	D.X.III.04 IV層	304.42	123	C.X.V.62 I層	8.75
48	D.X.III.07 IV層	137.26	124	C.X.V.68 I層	2.11
49	D.X.III.08 IV層	25.80	125	D.X.I.69 I層	18.28
50	D.X.III.11 IV層	14.06	126	D.X.III.55 I層	34.65
51	D.X.III.16 IV層	47.85	127	D.X.IV.79 I層	7.57
52	D.X.IV.28 IV層	22.43	128	C.X.V.66 現代鐵亂	22.34
53	D.X.IV.11 IV層	7.31	129	D.X.19 木根発光	8.75
54	D.X.IV.16 IV層	1.34	130	D.X.I.41 木根発光	15.92
55	D.X.IV.44 IV層	129.88	131	D.X.I.88 鐵亂	73.54
56	E.X.II.29 IV層	15.08	132	D.X.I.89 鐵亂	62.24
57	E.X.II.30 IV層	9.69	133	D.X.I.90 鐵亂	3.24
58	D.X.50 II a層	487.13	134	D.X.I.98 鐵亂	49.86
59	D.X.60 II a層	5.71	135	D.X.IV.44 現代鐵亂	16.05
60	D.X.I.41 II a層	31.86	136	D.X.III.25 出土位置不明	13.05
61	D.X.I.76 II a層	5.67	137	D.X.III.30 出土位置不明	7.36
62	D.X.II.77 II a層	116.06	138	E.X.II.17 出土位置不明	101.06
63	D.X.II.78 II a層	472.79	139	表鉢	12.80
64	D.X.II.79 II a層	36.54	140	出土地点不明	135.28
65	D.X.II.86 II a層	17.21	141	生文筒状壺 T. C.X.III.86	20.81
66	D.X.II.87 II a層	209.79	142	生文筒状壺 T.3	6.37
67	D.X.II.88 II a層	590.33	143	生文筒状壺 T.6	24.36
68	D.X.II.89 II a層	1359.77	144	生文筒状壺 T.9	42.58
69	D.X.II.90 II a層	507.48	145	生文筒状壺 T.19	14.92
70	D.X.II.97 II a層	56.69			
71	D.X.II.98 II a層	598.57			
72	D.X.II.99 II a層	153.89			
73	D.X.II.100 II a層	2706.89			
74	D.X.III.81 II a層	59.56			
75	D.X.III.91 II a層	131.00			
76	E.X.II.07 II a層	132.73			
				合計	32540.57

第5表 石器地点別出土量

出土地点・層位	点数	重量(g)	出土地点・層位	点数	重量(g)
1号敷地住居跡構造 壁土	1	52.85	DX I 33 IV層	1	57.92
2号屋外住居跡構造 壁土	1	9.75	DX I 36 IV層	2	7.56
1号砂場 3層	1	131.13	DX I 37 II層	1	17.45
1号砂場 1層	1	297.80	DX I 41 IIIa層	5	153.56
5号土坑 1層	1	6.25	DX I 41 IIIb層	1	1.02
8号土坑 2層	2	1257	DX I 49 I層	1	1.53
B-X 16 Ⅲb層(旧河床内)	3	40.66	DX I 68 II層	2	3.48
B-X 07 Ⅲb層(旧河床内)	2	34.60	DX I 69 II層	1	13.58
B-X 08 Ⅲb層(旧河床内)	5	83.38	DX I 69 II層	1	4.65
B-X 16 Ⅲb層(旧河床内)	1	0.65	DX II 49 II層	1	8.43
B-X 17 Ⅲb層(旧河床内)	5	35.65	DX II 58 IV層	1	1.01
B-X 18 Ⅲb層(旧河床内)	3	2.35	DX II 76 IV層	1	0.24
B-X 73 I層	4	1765.32	DX II 76 IIIa層	1	0.10
B-X 39 滝丸	1	1.28	DX II 78 IV層	1	0.97
C-X 83 IV層	1	1.56	DX II 79 II層	1	1.88
C-X 07 IV層	1	1.54	DX II 85 IIIa層	1	0.94
C-X 94 Ⅲa層	1	16.45	DX II 87 IIIa層	2	6.55
C-X 96 Ⅲa層	1	12.95	DX II 88 IIIa層	10	267.25
C-X 97 II層	1	60.61	DX II 89 IV層	1	444.12
C-X 97 Ⅲb層	7	38.95	DX II 89 IIIa層	3	240.11
C-X 28 Ⅲb層(旧河床内)	10	372.78	DX II 89 II層	2	1.68
C-X 29 Ⅲb層(旧河床内)	1	72.10	DX II 90 IIIa層	2	11.05
C-X 34 IV層	1	14.05	DX II 97 IIIa層	3	56.56
C-X 40 I層	1	292.29	DX II 98 IIIa層	1	28.53
C-X 96 木根鹿角	1	14.66	DX II 98 滝丸	1	0.27
C-X 06 Ⅲb層(旧河床内)	1	6.18	DX II 99 IIIa層	13	873.50
C-X 07 Ⅲb層	1	0.60	DX II 100 IIIa層	4	1099.55
C-X 07 I層	1	482.51	DX II 65 IIIb層	1	9.62
C-X 14 Ⅲb層	1	13.23	DX II 06 IIIb層	1	5.42
C-X 30 滝丸	1	12.39	DX II 07 IIIb層	5	102.28
C-X 59 IV層	1	11.85	DX III 41 II層	1	0.48
C-X 40 IV層	1	1.46	DX III 60 II層	1	1.17
C-X 45 IV層	1	6.83	DX III 91 IIIa層	1	479.09
D-X 10 IV層	1	3.79	DX III 100 IIIa層	1	22.06
D-X 19 IV層	4	163.45	DX XIV 12 IV層	1	1.05
D-X 19 木根鹿角	1	9.90	DX II 09 IIIa層	3	16.82
D-X 28 IV層	6	1715.67	DX II 19 IIIa層	1	5.31
D-X 28 IIIa層	2	34.57	DX II 20 IV層	1	4.87
D-X 29 IV層	2	3.88	DX II 30 I層	1	22.25
D-X 30 IV層	4	75.65	DX III 01 II層	1	7.72
D-X 39 IV層	30	18.52	DX III 11 IIIa層	1	9.03
D-X 50 IIIa層	4	46.15	DX III 33 IV層	1	24.35
D-X 50 II層	2	10.83	DX V N61 II層	1	25.86
D-X 12 IV層(Ⅲ層底下)	1	11.12	生文媒試掘T6	1	10.54
D-X 14 百福	2	52.51	生文媒試掘T7(D-X 12 4)	1	33.70
D-X 21 三層	1	12.39	生文媒試掘T8	2	3.13
D-X 24 計筒	1	7.18	生文媒試掘T9	7	82.51
D-X 26 三層	1	3.88	出土地点不明	4	92.52
D-X 32 三層	1	14.30	出土地点不明 Ⅱ層	1	0.08
			合計	231	14529.72

第6表 石材別出土量(剥片・素材)

母岩名	色調等分類基準	出土地点	重量(g)		
			指標	不拘載	計
頁岩1	10YR5/3-6/1 に赤い黄褐色～鵝卵色	56	190.94	598.56	789.49
頁岩2	10YR6.2-2-25Y7/1 黄褐色～灰白色	23	61.64	250.09	311.73
頁岩3	N2/0 鵝卵色	6	0.00	42.14	42.14
頁岩4	N3/0-6/0 灰褐色～灰白色	32	0.00	32.12	32.12
頁岩5	7.5Y3/1-N3/0 オリーブ黒～暗灰色	25	457.24	1782.00	2240.14
頁岩6	25Y7/1 灰白色	9	9.03	14.00	23.03
頁岩7	10YR6.4-8/3 に赤い黄褐色～淡黃褐色	15	13.19	1244.89	1268.08
頁岩8	75YR4/3 黄褐色	1	0.00	14.79	14.79
頁岩9	25Y3/1-6/1 褐灰色	10	0.00	702.41	702.41
頁岩10	25Y5/1 灰白色	1	0.00	1.88	1.88
頁岩11	N2/0 黑色	2	0.00	41.19	41.19
赤色頁岩1	7.5R3/2-4/2 暗赤褐色～灰白色	!	0.00	57.92	57.92
赤色頁岩2	7.5R3/4-4/4 暗赤褐色～に赤い黄色	3	0.00	17.74	17.74
めのう		9	12.25	28.56	40.81
チャート	25Y5/4-6/4 黄褐色～に赤い黄色	1	0.00	15.44	15.44
赤色チャート	10R3/4 淡赤褐色	2	0.00	426.12	426.12
透灰岩1	5Y7/3 灰白色	17	84.85	131.54	216.39
透灰岩2		3	2471.80	6566.51	3128.31
カルシンフェルス		1	0.00	33.81	33.81
砂岩		13	1874.86	3239.36	5114.22
合計		230	6175.80	9053.96	14529.72

第7表 繩文土器観察表

件 號	種 類	器 形	出土地点	基準	文部の分類	地註	重量(g)	備考
60.4	1.6	26.46	弓張穴式斜軸器	未定	和田、荒尾、日向御用所	東北1(上)層	185.79	
60.5	1.6	26.56	弓張穴式斜軸器	未定	佐野、北條、内町町交界	東北1(中)層	185.79	
57	2	27.36	1号型の直筒器	未定	口	伊勢、貴賀	84.64	口?
30	3	27.36	1号型の直筒器	未定	口	山梨、貴賀	28.50	下层?
61	1	27.36	2号型の直筒器	未定	口	神奈川府	2.74	横須賀スコア
52	5	27.36	2号型の直筒器	未定	口	高知、伊豫	30.07	月野久スコア?
59	6	27.36	2号型の直筒器	未定	口	高知1(上)層	20.07	
58	2	27.36	2号型の直筒器	未定	口	高知1(下)層	21.07	
63	5	27.36	2号型の直筒器	未定	口	後藤、高坂	22.07	
65	9	27.37	2号型の直筒器	未定	口	伊丹、芦屋	30.32	伊丹スコア?
53	10	27.37	2号型の直筒器	未定	口	高崎	12.05	
60	11	27.37	2号型の直筒器	未定	口	高崎	134.30	
64	12	27.37	2号型の直筒器	未定	口	高崎、下北条	76.90	
4	13	27.37	2号型の直筒器	未定	口	高崎、下北条	175.70	
-	14	28.60	弓張穴式斜軸器	未定	口	高崎、下北条	176.52	
-	15	28.60	弓張穴式斜軸器	未定	口	高崎、下北条	30.04	高崎2?
-	16	28.60	弓張穴式斜軸器	未定	口	高崎、下北条	16.97	高崎2?
-	17	28.60	弓張穴式斜軸器	未定	口	高崎、下北条	14.07	高崎2?
-	18	28.60	弓張穴式斜軸器	未定	口	高崎、下北条	31.92	
-	47	28.60	弓張穴式斜軸器	未定	口	高崎、下北条	35.67	高崎2?
-	35	28.60	弓張穴式斜軸器	未定	口	高崎、下北条	36.36	高崎2?
-	36	28.60	弓張穴式斜軸器	未定	口	高崎、下北条	29.42	
-	22	28.60	弓張穴式斜軸器	未定	口	高崎、下北条	42.43	高崎2?
-	16	28.60	弓張穴式斜軸器	未定	口	高崎、下北条	107.23	高崎2?
-	7	28.60	2号XII	未定	口	高崎、下北条	33.90	
-	9	28.60	2号XII	未定	口	高崎、下北条	62.20	
-	20	28.60	2号XII	未定	口	高崎、下北条	45.51	
-	26	28.60	2号XII	未定	口	高崎、下北条	36.34	
-	27	28.60	2号XII	未定	口	高崎、下北条	22.71	月野久スコア?
-	28	28.60	2号XII	未定	口	高崎、下北条	17.40	
-	29	28.60	2号XII	未定	口	高崎、下北条	24.43	
-	21	29.37	2号XII	未定	口	高崎(石川山)、伊豫	25.03	西側スコア?
-	10	29.37	2号XII	未定	口	高崎、伊豫	21.34	
-	15	29.37	2号XII	未定	口	高崎、伊豫	24.43	
-	11	30.37	2号XII	未定	口	高崎、伊豫	27.06	
-	12	34.29	2号XII	口・筒	口	高崎、伊豫	25.86	西側スコア?
-	25	39.29	2号XII	口・筒	口	高崎、伊豫	111.73	伊豫スコア?
-	7	36.29	2号XII	口・筒	口	高崎、伊豫	40.05	伊豫スコア?
-	17	37.29	2号XII	口・筒	口	高崎、伊豫	210.07	西側スコア?
-	20	38.29	2号XII	口・筒	口	高崎、伊豫	2.92	
-	18	39.29	2号XII	口・筒	口	高崎、伊豫	34.81	
-	36	40.29	2号XII	口・筒	口	高崎、伊豫	16.16	
-	3	37.30	2号XII	口・筒	口	高崎、伊豫	618.55	前田坂、内園一郎スコア
-	8	42.30	2号XII	口・筒	口	高崎、伊豫	30.05	
-	13	43.30	2号XII	口・筒	口	高崎、伊豫	72.95	
-	14	44.30	2号XII	口・筒	口	高崎、伊豫	110.49	
-	22	45.30	2号XII	口・筒	口	高崎、伊豫	13.95	
-	21	46.30	2号XII	口・筒	口	高崎、伊豫	66.05	
-	6	47.30	2号XII	口・筒	口	高崎、伊豫	93.01	
-	41	48.30	2号XII	口・筒	口	高崎、伊豫	64.26	下北条
-	39	49.30	2号XII	口・筒	口	高崎1(L)層	20.56	
-	54	30.38	2号XVII	口・筒	口	高崎1(L)層	71.30	
-	33	31.38	2号XVII	口・筒	口	高崎(赤堀田)	23.58	
-	29	32.38	2号XVII	口・筒	口	高崎1(L)層	262.27	前田坂?
-	45	33.38	2号XVII	口・筒	口	高崎1(L)層	20.89	

第8表 石器観察表

番号	名前	出土地点	基準	残存状況	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	特記事項			
S-1	3	30 1分野穴付圓錐形石器	二次削りTある鉢形	黄玉1	6.60	5.36	1.43	10.66	參照地図				
S-2	5	26 土塹上縁 1の	右側面(鉄製品)	石英	4.29	2.16	0.55	6.25					
S-3	31	38 1号土塹 1番	左側面	石英	21.63	15.09	0.60	241.00	6.5cm丸 3面				
S-4	58	1号土塹 3番	右側面	安息香	6.27	3.00	0.74	131.3	光沢無				
-	-	-	右X19 石器	二次削...あら削片	一端部	直角1			102.73				
S-5	32	59 C-XV14 石器	右端	安息香 塗付 木灰	めらう	210.5	13.0	0.51	1.95	赤			
S-6	32	59 C-XV14 石器	右端	安息香	めらう	31.3	1.6	0.2	1.7	赤			
S-7	35	58 C-XV14 石器	右端	安息香	めらう	21.5	1.66	0.27	0.65	黒色斑点			
-	-	-	右X19 2号	右端	安息香	2.5			0.95	光沢調整			
S-8	32	59 D-XV10 3号	右端	安息香	めらう	6.12	4.16	1.00	22.0	光沢調整			
S-9	32	59 D-XV10 3号	右端	安息香	めらう	10.9	4.68	0.88	11.64	糸引 磨き跡付			
S-10	32	59 D-XV10 3号	右端	安息香	めらう	3.81	2.00	0.10	11.1	黑色 斑点			
S-11	37	39 左X19 1号	右端	安息香	めらう	5.22	2.9	1.0	9.03	黒色 斑点 一端部無剥落 右端無剥落			
-	-	-	D-XI 14 Y型	右端	安息香	直角2			7.18	黒色 口付調整			
S-12	32	59 左X19 2号	左端	スクリーパー(黒)	安息香	14.2	5.06	1.43	20.96	研磨面付			
S-13	32	59 左X19 2号	左端	スクリーパー(黒)	安息香	直角1	3.65	4.09	0.99	3.65	研磨面付		
S-14	32	59 左X19 2号	左端	スクリーパー(黒)	安息香	直角1	3.09	2.61	0.92	3.79	研磨面付		
-	-	-	D-XI 16 2号	左端	スクリーパー(黒)	直角2			13.38	研磨面付			
-	-	-	C-XV14 2号	左端	スクリーパー(黒)	直角2			15.7	研磨面付			
-	-	-	左X19 2号	左端	スクリーパー(黒)	直角2			40.07	研磨面付			
-	-	-	左X19 2号	左端	スクリーパー(黒)	直角2			34.20	研磨面付			
-	-	-	D-XI 15 2号	左端	スクリーパー(黒)	直角1			11.6	研磨面付			
-	-	-	E-XV10 2号	左端	スクリーパー(黒)	直角2			22.25	研磨面付			
S-15	33	39 C-XV10 2号	左端	スクリーパー(黒)	安息香	直角2	6.30	3.0	1.06	12.95	研磨面付		
S-16	33	39 D-XV10 2号	左端	スクリーパー(黒)	安息香	直角1	3.98	3.60	1.08	8.90	黒色 斑点		
S-17	33	39 D-XV10 2号	左端	スクリーパー(黒)	安息香	直角1	7.26	3.69	1.28	37.71	研磨面調整		
S-18	33	50 D-XV10 2号	左端	スクリーパー(黒)	安息香	直角1	7.91	3.23	1.64	30.35	光沢無 斑点		
S-19	33	40 D-XV10 2号	左端	スクリーパー(黒)	安息香	直角1	4.59	3.27	0.80	9.62	2.0cm研磨付		
-	-	-	C-XV10 2号	左端	スクリーパー(黒)	直角2			12.39	研磨面付			
-	-	-	D-XI 16 2号	左端	スクリーパー(黒)	直角2			32.19	1.0cm			
S-20	33	40 D-XI 16 2号	左端	スクリーパー(黒)	安息香	直角2	6.26	(8.22)	1.39	44.79			
-	-	-	地上出土物	2次削	石英	直角2			6.08				
-	-	-	C-XV14 2号	2次削	石英	直角2			13.20				
-	-	-	C-XV10 2号	2次削	石英	直角2			16.85	1.0cm研磨付			
-	-	-	左X19 2号	2次削	安息香	直角2			12.39				
-	-	-	D-XI 16 2号	2次削	安息香	直角2			41.69	直角無剥片			
-	-	-	E-XV10 2号	2次削	安息香	直角2			27.08				
-	-	-	D-XI 16 2号	2次削	安息香	直角2			24.0				
S-21	33	40 大矢頭付石器	9	ピラミッドスクエア	安息香	めらう	2.62	2.1	1.38	9.62	研磨 頭付2面 斜面付		
S-22	33	40 D-XV10 2号	左端	ピラミッドスクエア	安息香	直角2	7.96	3.10	0.95	13.19			
S-23	34	40 C-XV10 2号(右側面)	右端	ピラミッドスクエア	安息香	直角1	5.69	5.00	1.61	46.56	適合待		
S-24	31	40 C-XV10 2号(右側面)	右端	ピラミッドスクエア	安息香	直角1	6.9	3.84	1.95	53.35	適合待		
S-25	34	40 C-XV10 2号(右側面)	右端	ピラミッドスクエア	安息香	直角1	3.6	3.20	1.32	9.08	適合待		
S-26	35	40 C-XV10 2号(右側面)	右端	ピラミッドスクエア	安息香	直角1	11.52	(2.80)	3.90	0.69	3.30	適合待	
S-27	35	40 C-XV10 2号(右側面)	右端	ピラミッドスクエア	安息香	直角1	6.91	2.56	1.11	17.26	適合待		
S-28	35	40 C-XV10 2号(右側面)	右端	ピラミッドスクエア	安息香	直角1	7.01	5.32	2.10	51.7	適合待		
S-29	35	40 C-XV10 2号(右側面)	右端	ピラミッドスクエア	安息香	直角1	9.4	3.86	2.10	<2.0	適合待		
S-30	35	40 C-XV10 2号(右側面)	右端	ピラミッドスクエア	安息香	直角1	10.74	(5.74)	4.36	24.0	44.99	適合待	
S-31	26	41 C-XV10 2号(右側面)	右端	ピラミッドスクエア	安息香	直角2	8.22	7.14	3.62	144.00	適合待		
S-32	36	41 D-XV10 2号	内側	ピラミッドスクエア	安息香	直角1	3.20	4.66	5.02	31.93	適合待		
S-33	36	41 D-XV10 2号	内側	ピラミッドスクエア	安息香	直角1	2.99	3.10	0.65	20.1	適合待		
S-34	36	41 D-XV10 2号	内側	ピラミッドスクエア	安息香	直角1	2.50	2.70	0.65	5.11	適合待		
S-35	36	41 D-XV10 2号(右側面)	右端	ピラミッドスクエア	安息香	直角1	2.99	3.10	0.65	20.1	適合待		
S-36	36	41 D-XV10 2号(右側面)	右端	ピラミッドスクエア	安息香	直角1	3.14	4.91	1.98	29.74	骨衣付2面 厚壁		
S-37	37	42 D-XV10 2号	右端	ピラミッドスクエア	安息香	直角1	4.82	3.82	1.28	30.14	骨衣付2面 厚壁		
-	-	-	右X19 2号	右端	安息香	直角2			21.4	研磨面 1mm未満3面			
-	-	-	B-X19 2号	右端	安息香	直角2			12.94	小面無剥片の厚壁			
-	-	-	B-X19 2号	右端	安息香	直角2			3.91	板状形 打削3面			
S-38	37	42 C-XV10 2号	右端	ピラミッドスクエア	安息香	直角1	(12.9)	0.79	3.67	69.61	西下 斜面 二面削の厚壁		
-	-	-	C-XV10 2号	右端	安息香	直角1			432.16				
-	-	-	D-XV10 2号	右端	安息香	直角1			202.29	扁平 両面			
-	-	-	D-XV10 2号	右端	安息香	直角1			253.23	扁平 斜面			
-	-	-	D-XV10 2号	右端	安息香	直角1			414.12	垂直斜面 2面			
-	-	-	D-XV10 2号	右端	安息香	直角1			280.03	三尖形 2面			
-	-	-	D-XV10 2号	右端	安息香	直角1			37.82	薄手 斜面			
S-39	37	42 D-XV10 2号	右端	ピラミッドスクエア	安息香	直角1	25.68	11.10	3.13	109.67			
-	-	-	D-XV10 2号	右端	人海ナウ	直角2			9.90				
-	-	-	D-XV10 2号	右端	人海ナウ	直角2			479.99				
-	-	-	D-XV10 2号	右端	人海ナウ	直角2			712.99	骨衣			
-	-	-	D-XV10 2号	右端	人海ナウ	直角2			365.70				
-	-	-	D-XV10 2号	右端	人海ナウ	直角2			561.17				
-	-	-	D-XV10 2号	右端	人海ナウ	直角2			484.51				
-	-	-	C-XV10 2号	右端	人海ナウ	直角2			1020.04				

第9表 土師質土器・土師器地点別出土量

No.	出土地點・層位	重量(g)
H.1	4号坑跡 1層	56.79
H.2	4号坑跡附近Ⅱ層下砂層 ①	286.63
H.3	4号坑跡附近Ⅱ層下砂層 ②	36.39
H.4	4号坑跡附近Ⅱ層下砂層 ③	100.66
H.5	4号坑跡附近Ⅱ層下砂層 ④	44.28
H.6	4号坑跡附近Ⅱ層下砂層 ⑤	77.65
H.7	4号坑跡附近Ⅱ層下砂層 ⑥	68.33
H.8	4号坑跡附近Ⅱ層下砂層 ⑦	116.00
H.9	4号坑跡附近Ⅱ層下砂層 ⑧	87.31
H.10	4号坑跡附近Ⅱ層下砂層 ⑨	26.08
H.11	4号坑跡附近Ⅱ層下砂層 ⑩	49.12
H.12	4号坑跡附近Ⅱ層下砂層 ⑪	74.48
H.13	4号坑跡附近Ⅱ層下砂層 ⑫	69.95
H.14	4号坑跡附近Ⅱ層下砂層 ⑬	17.01
H.15	4号坑跡附近Ⅱ層下砂層 ⑭	33.23
H.16	4号坑跡附近Ⅱ層下砂層 ⑮	35.21
H.17	4号坑跡附近Ⅱ層下砂層 ⑯	48.81
H.18	4号坑跡附近Ⅱ層下砂層	170.23
H.19	4号坑跡上層陶片集 2号	27.55
H.20	A XV.67.1層	352.86
合計		2538.57
上野器		

第10表 土師器・土師質土器觀察表

No.	出土地點	種別	分類	部位	測量			径深(cm)	重量(g)	備考
					外圍	内面	口径			
H1.38	58 4号坑跡附近基本十層 3号	土器質	鉢形	口	不規	不明	—	—	12.96	立ち上がり丸窓
H2.38	58 4号坑跡附近基本十層 3号	土器質	鉢形	口	上部:弧	不規	—	—	24.79	立ち上がり外反 内面下部 黒色化
H3.38	58 1号坑跡附近基本十層 3号	土器質	鉢形	底~弧	ハラケズリ	ハナダ	—	104	279.11	
H4.38	58 4号坑跡附近基本十層 3号 ①②③④⑤	土器質	深鉢	側~底	扇下区~底:ハラケ スリ	ナタデ	—	124	91.05	内面および外周断面下部黒 化色
H5.38	58 4号坑跡附近基本十層 2号	土器質	鉢形	底	ハラケズリ	不明	—	—	27.55	
H6.38	58 A XV.67.1層	土器質	鉢形	底	ハラケズリ	不明	—	—	142.7	
H7.38	58 A XV.67.1層	土器質	鉢形	口~底	沈底	口上部: ヨコナギ 横:枝	上部:ハケメ	—	45.24	
H8.38	58 A XV.67.1層	土器質	鉢形	底	樹脂土壤	不明	—	71	71.55	底部が台状に曳き出る

V 平成19年度調査

1 検出遺構

平成19年度調査で検出された遺構は、掘立柱建物跡1棟、土坑17基、炉跡7基（カマド状遺構含む）、焼上遺構3基、炭窯跡3基、柱列6列、柱穴状土坑51個である。以下この順に記述する。なお、本文中【位置・検出状況】の項目で、遺構検出面の記載がほとんど「IV層上面」となっているが、実際は「V層上面検出」のものも含まれている。

(1) 掘立柱建物跡

当初の調査区南東側に1棟確認された。前年度は検出されていない。周辺にいくつか柱穴状の土坑があるが、それらはこれに組み込まれず関連についても不明である。

1号掘立柱建物跡

遺構（第39図、写真図版22）

【位置・検出状況】 CX I 50、CX II 31・32・41・42の各グリッドに跨る。IV層上面で検出された。

【重複】 遺構間の重複は認められない。

【平面形式・建物方位】 桁行4間×梁間3間の掘立柱建物である。14個の柱穴を使用した。間仕切柱（PP10）により2室に仕切られていたと考えられる。桁行の軸方向はN-12°-Wである。

【規模】 桁行7.18m、梁間3.90m、面積は約28m²（8.5坪）である。

【柱間寸法】 桁行は176cm（5.8尺）、梁間は127cm（4.2尺）。

【付属施設】 なし

遺物 柱穴から遺物は出土していない。

時期 近世以降に属するものと思われるが、詳細は不明である。

(2) 土 坑

土坑はそれぞれの区域に散在し、全部で17基（21～37号土坑）確認した。このうち、出土遺物から縄文時代の土坑が5基、縄文～弥生時代に属すると思われる土坑が1基あるが、それ以外は詳細な時期が不明である。

21号土坑

遺構（第40図、写真図版23）

【位置・検出状況】 CX I 23・33グリッドに跨っている。IV層上面で22号土坑とともに検出された。

【規模・平面形】 開口部径117×108cmの略円形を呈する。

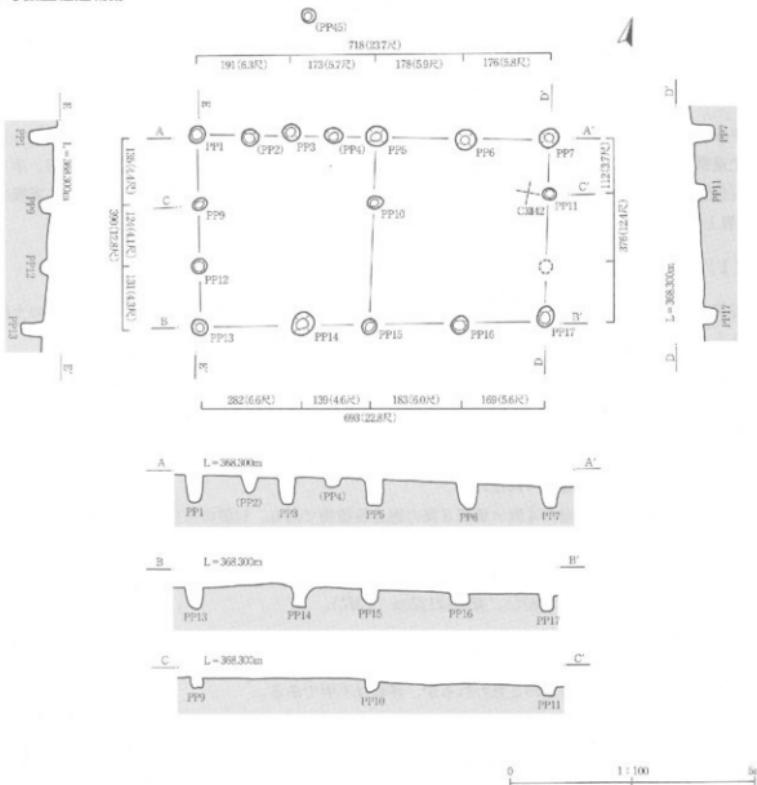
【埋土】 小礫を含む黒褐色土とにぶい黄褐色土からなる自然堆積層である。

【壁・底面】 断面形は逆台形状で東壁は緩やかに立ち上がる。底面までの深さは27cmである。

遺物（第53図、写真図版63）

【縄文土器】 縄文時代後期に属するかと思われる土器片が10点1025g出土した。いずれも胎土が悪く、文様が不明瞭である。1点掲載した（1）。

1号掘立柱建物跡



柱穴土坑土層記と計測値

遺構名	土層記	断面記述	断面幅 (cm)	深さ (cm)	地表面高 (m)
PP1(07)	15YR2.0 暗褐色 シルト 細粒砂-しまり層 黑褐色-灰化物含む	31 30 34	367.657		
PP2(07)	15YR2.0 暗褐色 シルト 細粒砂-しまり層 塩化物-灰化物土をブロック状に含む	32 33 37	367.835		
PP3(07)	15YR2.0 暗褐色 シルト 細粒砂-しまり層 塩化物-灰化物土をブロック状に含む	40 33 37	367.578		
PP4(07)	15YR2.0 暗褐色 シルト 細粒砂-しまり層 塩化物-灰化物土をブロック状に含む	35 31 18	367.322		
PP5(07)	15YR2.0 暗褐色 シルト 細粒砂-しまり層 塩化物-灰化物土-こぶし大の礫を含む	43 40 35	367.540		
PP6(07)	15YR2.0 暗褐色 シルト 細粒砂-しまり層 塩化物-灰化物土をブロック状に含む	47 42 54	367.480		
PP7(07)	15YR2.0 暗褐色 シルト 細粒砂-しまり層 塩化物-灰化物土を含む	42 37 43	367.502		
PP9(07)	15YR2.0 暗褐色 シルト 細粒砂-しまり層 小礫-灰化物含む	31 24 28	367.878		
PP10(07)	15YR2.0 暗褐色 シルト 細粒砂-しまり層 小礫-灰化物含む	31 26 22	367.670		
PP11(07)	15YR2.0 暗褐色 シルト 細粒砂-しまり層 黑褐色-灰化物土をブロック状に含む	27 23 17	367.670		
PP12(07)	15YR2.0 暗褐色 シルト 細粒砂-しまり層 小礫-灰化物含む	29 28 14	367.897		
PP13(07)	15YR2.0 砂化色 シルト 細粒砂-しまり層 黑褐色-灰化物土-こぶし大の礫を含む	34 34 46	367.467		
PP14(07)	15YR2.0 砂化色 シルト 細粒砂-しまり層 塩化物-灰化物土-こぶし大の礫を含む	50 46 37	367.498		
PP15(07)	15YR2.0 砂化色 シルト 細粒砂-しまり層 塩化物-灰化物土をブロック状に含む	59 27 30	367.541		
PP16(07)	15YR2.0 砂化色 シルト 細粒砂-しまり層 塩化物-灰化物土-こぶし大の礫を含む	35 30 25	367.518		
PP17(07)	15YR2.0 砂化色 シルト 細粒砂-しまり層 塩化物-灰化物土-こぶし大の礫を含む	41 33 29	367.430		
PP18(07)	15YR2.0 砂化色 シルト 細粒砂-しまり層 直径1~2mmの小礫-灰化物含む	29 28 15	368.157		

第39図 1号掘立柱建物跡

時期 出土遺物から縄文時代後期の造構と思われるが、詳細な時期は不明である。

22号土坑

遺構 (第40図、写真図版23)

[位置・検出状況] 21号土坑の南東側1mのCX I 34グリッドに位置する。IV層上面で検出された。

[規模・平面形] 開口部径100×93cm、ほぼ円形を呈する。底面の中央付近は小ピット状に一段低い。

[埋土] 上位は黒褐色土、中位はにぶい黄褐色土、下位は褐色土の3層からなる自然堆積層である。

[壁・底面] 断面形は逆台形状で中央部は凹む。深さは最大で38cmを測る。

遺物 (第53図、写真図版63)

[縄文土器] 縄文時代中期後半～後期かと思われる土器片が7点99.6g出土した。1点掲載した(2)。

時期 出土遺物から縄文時代中期～後期の造構と思われる。

23号土坑

遺構 (第40図、写真図版23)

[位置・検出状況] DX09グリッドに位置する。III層下～IV層上面で検出された。

[規模・平面形] 開口部径は128×90cm、不整な梢円形である。

[埋土] 上位が小礫を含む黒褐色土、下位が暗褐色土の2層に分層される自然堆積層である。

[壁・底面] 断面形はやや深い皿状で、底面までの深さは28cmを測る。

遺物 出土していない。

時期 出土遺物がなく、詳細な時期は不明である。

24号土坑

遺構 (第40図、写真図版23)

[位置・検出状況] CX I 03グリッドに位置する。IV層上面で検出した。

[規模・平面形] 開口部径は131×115cmの略円形である。

[埋土] 円礫を含む暗褐色土とにぶい黄褐色土の2層に分層される。下位層は地山に似る。

[壁・底面] 断面形は逆台形状で、底面までの深さは24cmである。

遺物 出土していない。

時期 詳細な時期は不明であるが、堆積状況から縄文時代に属する可能性が高い。

25号土坑

遺構 (第40図、写真図版24)

[位置・検出状況] CX I 81グリッドに位置する。III層下～IV層上面で検出した。

[規模・平面形] 開口部径は190×111cmの長梢円形を呈する。

[埋土] 円礫を含む暗褐色土の単層である。自然堆積と思われる。

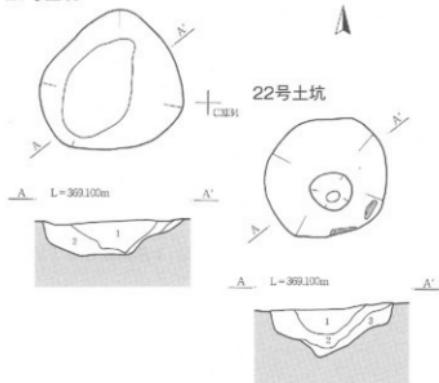
[壁・底面] 横断面形は逆台形状で、底面は凹凸が著しい。深さは最大で42cmである。

遺物 (第53図、写真図版63)

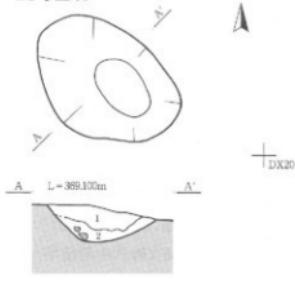
[縄文土器] 縄文時代後期～晩期、弥生の土器片が22点116.1g出土した。1点掲載した(3)。

時期 堆積状況から縄文時代後期～弥生時代に属する可能性が高い。形状は墓壙に似るが、性格は不明である。

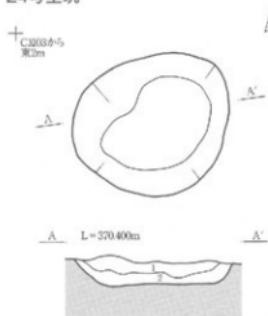
21号土坑



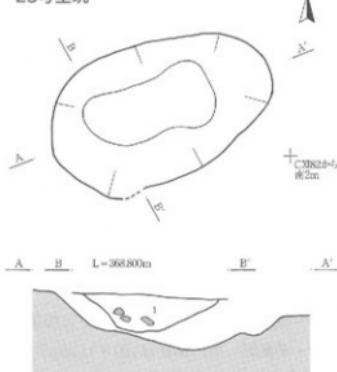
23号土坑



24号土坑



25号土坑



0 1:40 2m

第40図 21~25号土坑

26号土坑

遺構（第41図、写真図版24）

【位置・検出状況】CX55グリッドに位置する。Ⅲ層下～Ⅳ層上面で検出した。

【規模・平面形】開口部径は158×145cmで、いびつな隅丸方形をなす。

【埋土】5層に分層される自然堆積層である。上位は暗褐色土、中位は十和田中撰テフラ？を含む黒褐色土、下位は円礫を含む暗褐色土が見られる。

【壁・底面】断面形は逆台形状で、底面はほぼ平坦である。深さは最大で44cmほどである。

遺物【縄文土器】土器底部片1点22.3gが出土した。

時期 出土遺物から縄文時代に属すると思われるが、詳細な時期、性格は不明である。

27号土坑

遺構（第41図、写真図版24）

【位置・検出状況】3～6号柱列・13号炉跡・柱穴状土坑が集中するCX I 84グリッド付近に位置する。4号柱列のPP65と重複するが、本遺構のほうが旧い。それらの遺構とともにⅣ層で検出した。

【規模・平面形】開口部径は82×67cmで、不整な梢円形を呈する。PP65との重複により、平面形は不明確である。

【埋土】橙色の焼土粒や炭化物粒のほか、中位から焼けた獸骨片を含む暗褐色土の単層である。人為的に埋め戻されている様相であった。

【壁・底面】断面形は逆台形状である。底面には深さ数cmの小穴を有する。検出面から最深部までは52cmほどである。

遺物 上記の獸骨片以外は出土していない。

時期 詳細な時期・性格は不明であるが、獸を埋葬した土坑の可能性がある。

28号土坑

遺構（第41図、写真図版24）

【位置・検出状況】追加調査区FVI89グリッドに位置する。IV層上面で検出した。

【規模・平面形】開口部径79×76cmの円形をなす。

【埋土】暗褐の粗砂を含む黒褐色土の単層である。自然堆積層と思われる。

【壁・底面】断面形は逆台形状で、底面は平坦である。深さは最大で29cmである。

遺物 縄文時代と思われる薄手の土器片22点46.6gが出土した。

時期 縄文時代のいざれかの時期に属するが、詳細は不明である。

29号土坑

遺構（第41図、写真図版24）

【位置・検出状況】追加調査区GVI37グリッドに位置する。IV層上面で検出した。

【規模・平面形】開口部径112×106cm、略円形を呈する。

【埋土】ブロック状の粗砂や円礫を含む黒褐色土の単層である。自然堆積層と思われる。

【壁・底面】断面形は皿状で底面はほぼ平坦である。深さは最大で25cmである。

遺物 出土していない。

時期 詳細な時期、性格は不明である。

30号土坑

遺構（第41図、写真図版25）

【位置・検出状況】当初の調査区BX I 36グリッドに位置する。III層下～IV層上面で検出した。

【規模・平面形】開口部径118×?cmで、略円形を呈する。遺構の東側を掘りすぎている。

【埋土】炭化物粒や小礫を含む暗褐色土の単層で、自然堆積層と思われる。

【壁・底面】断面形は浅皿状で底面は緩く傾斜する。深さは最大で12cm程度である。

遺物（第55図、写真図版64）

【石器】砂岩製の凹石（S101）が1点2976g出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代のいずれかの時期に属すると思われるが、詳細は不明である。

31号土坑

遺構（第42図、写真図版25）

【位置・検出状況】当初の調査区BX I 44グリッドに位置する。III層下～IV層上面で検出した。

【規模・平面形】開口部径137×?cmで、略円形を呈する。遺構の西側は攪乱を受けている。

【埋土】上位は円礫を含む黒褐色土、下位は小礫混じりの暗褐色土からなる自然堆積層である。

【壁・底面】30号土坑同様、断面形は浅皿状で底面は緩く傾斜する。深さは最大で13cmである。

遺物 出土していない。

時期 埋土から縄文時代に属する可能性があるが、詳細な時期は不明である。

32号土坑

遺構（第42図、写真図版25）

【位置・検出状況】追加調査区GVII 36グリッドに位置する。IV層上面で検出した。

【規模・平面形】開口部径69×62cmで、略円形を呈する。

【埋土】上～中位は黒褐色土、下位は砂と小礫が混じる暗褐色土からなる。自然堆積層と思われる。

【壁・底面】断面形は逆台形状で底面は平坦である。深さは最大で33cmを測る。

遺物 出土していない。

時期 詳細な時期、性格は不明である。

33号土坑

遺構（第42図、写真図版26）

【位置・検出状況】追加調査区FVII 04グリッドに位置する。IV層上面で検出した。

【規模・平面形】開口部径180×108cm、不整な梢円形を呈する。

【埋土】小礫や炭化物粒を含む黒褐色土の単層で、自然堆積層と思われる。

【壁・底面】断面形は浅皿状で、底面には細かい凹凸が多い。深さは最大で30cmである。

遺物 出土していない。

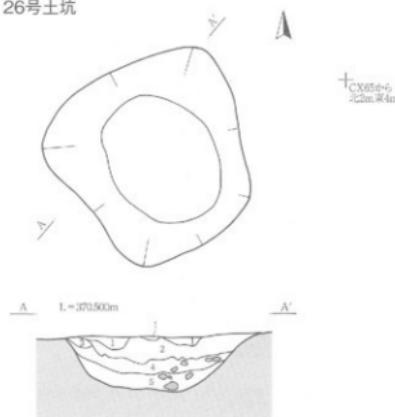
時期 詳細な時期、性格は不明である。

34号土坑

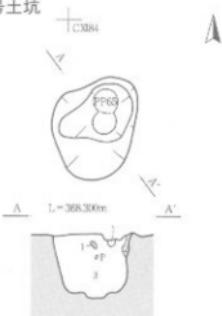
遺構（第42図、写真図版26）

【位置・検出状況】追加調査区EVII 52グリッドに位置する。III層下～IV層上面で検出した。

26号土坑



27号土坑

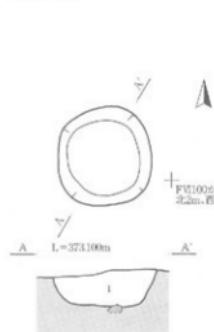


- 27号土坑
1 75TR2-6 黒褐色 シルト 粘性弱なし・しまり弱 後土ブロック
2 10YR4/4 暗褐色 粘土質シルト 粘性弱・しまり中 火山灰? (To-cl?) 含む
3 土山崩落ブロック
3 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 直径100~250mmの円錐含む
5 10YR3-3 暗褐色 粘土質シルト 粘性弱・しまり弱 円錐含む

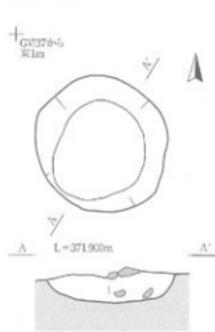
26号土坑

- 1 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中・しまり中 小塊含む
- 2 10YR3-3 暗褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり中 火山灰? (To-cl?) 含む
- 3 10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱・しまり弱 小塊を全体に含む
- 4 10YR3/2 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 直径100~250mmの円錐含む
- 5 10YR3-3 暗褐色 粘土質シルト 粘性弱・しまり弱 円錐含む

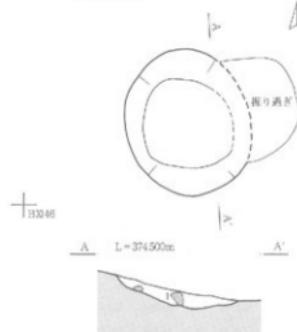
28号土坑



29号土坑



30号土坑



28号土坑

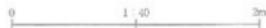
- 1 10YR2/3 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり中 母色の粉含む

29号土坑

- 1 10YR2/2 黑褐色 シルト 粘性中・しまり中 母色の砂をブロック状に含む

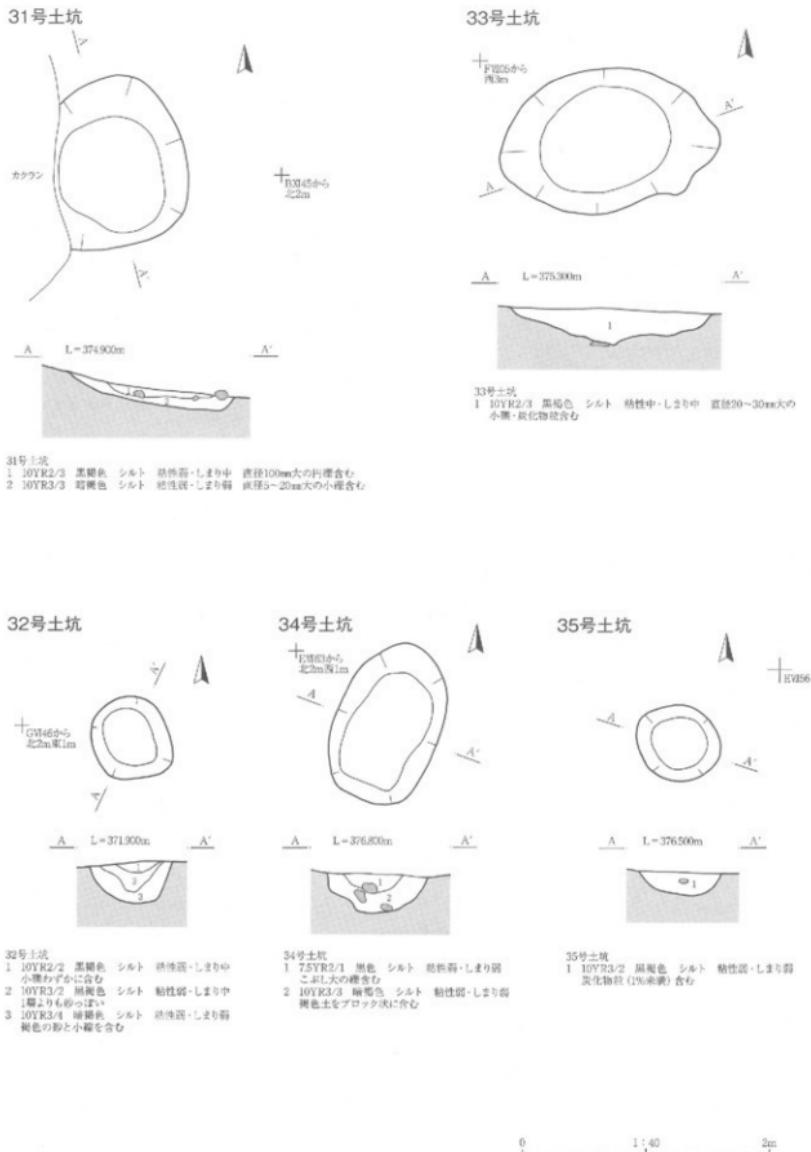
30号土坑

- 1 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 直径1m程度の炭化物塊・小礫含む



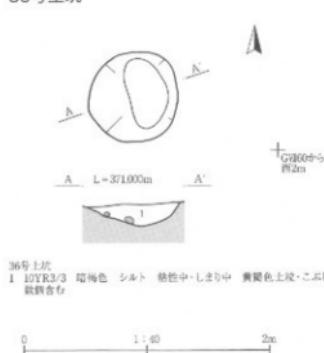
第41図 26~30号土坑

1 検出遺構

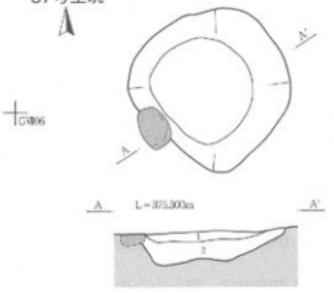


第42図 31~35号土坑

36号土坑



37号土坑



第43図 36・37号土坑

【規模・平面形】開口部径124×84cm、不整な橢円形を呈する。

【埋土】上位は拳大の礫を含む黒色土、下位は暗褐色土の2層に分層される。自然堆積層と思われる。

【壁・底面】断面形は皿状で、底面は丸みをもっている。深さは31cmを測る。

遺物 出土していない。

時期 詳細な時期、性格は不明である。

35号土坑

遺構（第42図、写真図版26）

【位置・検出状況】追加調査区E VII 57グリッドに位置する。III層下～IV層上面で検出した。

【規模・平面形】開口部径72×62cmで、略円形を呈する。

【埋土】炭化物粒を微量含む黒褐色土の単層である。自然堆積している。

【壁・底面】断面形は皿状で、底面はわずかに丸みをもつ。深さは最大で18cmである。

遺物 出土していない。

時期 詳細な時期、性格は不明である。

36号土坑（旧38号土坑）

遺構（第43図、写真図版26）

【位置・検出状況】最後に追加された調査区G VII 59グリッドに位置する。IV層上面で検出した。

【規模・平面形】開口部径76×72cm、平面形は円形である。

【埋土】黄褐色土粒を含む暗褐色土の単層で、自然堆積していると思われる。

【壁・底面】断面形は浅皿状で、壁は底面から緩やかに立ち上がる。深さは最大で17cmである。

遺物 出土していない。

時期 詳細な時期、性格は不明である。

37号土坑

遺構（第43図、写真図版27）

【位置・検出状況】最後に追加された調査区F VII 96とG VII 06グリッドに跨る。IV層上面で検出した。

【規模・平面形】開口部径121×116cm、平面形は略円形である。

【埋土】上位は黄褐色土、下位は褐色土からなる自然堆積層である。いずれにも炭化物粒が含まれる。

【壁・底面】断面形は浅皿状。深さは最大で15cmである。底面は大きく波打っている。

遺物 出土していない。

時期 詳細な時期、性格は不明である。

（3）炉跡（カマド状遺構）・焼土遺構

前年度調査では、何らかの火の使用が認められる遺構として①炉跡（カマド状遺構）②焼土遺構③焼土等廃棄遺構の3種に分けて報告しているが、今次の調査でもそれに従って記載する。なお、平成19年度調査では③焼土等廃棄遺構と認識できるものは検出されていない。

ここで、今回①炉跡（カマド状遺構）とした遺構の特徴を簡単に記述する。これらは、いずれも焼土粒や炭化物粒を含む暗褐色土の細長い広がりで確認される。長方形や稍円形という形状をなすことから炉跡（カマド状遺構）としたが、いずれもが明瞭な燃焼部や煙の排出施設を持たない。かといって、投げ込まれた焼土という雰囲気もない。

a 炉跡（カマド状遺構）

12号炉跡（カマド状遺構）

遺構（第44図、写真図版27）

【位置・検出状況】C X I 84グリッドに位置する。IV層上面において、焼土混じりの細長い輪郭が確認できた。南西側に18号炉跡、南側に14号炉跡が接続する。

【規模・平面形・底面】南北方向に長軸を持つ長楕円形をなし、開口部は110×37~66cmである。検出面から底面までの深さは最深部で11cmを測る。底面は南側が徐々に浅くなる。

【土層】3層に分層され、上位は炭化物混じりのにぶい黄褐色土が、下位は明赤褐色の焼土ブロックと焼土粒を含む暗褐色土が堆積している。

【構造など】不明である。

遺物 出土していない。

時期 土師質土器と炭化材の年代測定結果から、平成18年度調査では同種の遺構を14世紀の可能性が高いとしているが、これについては詳細不明である。

13号炉跡（カマド状遺構）

遺構（第44図、写真図版27）

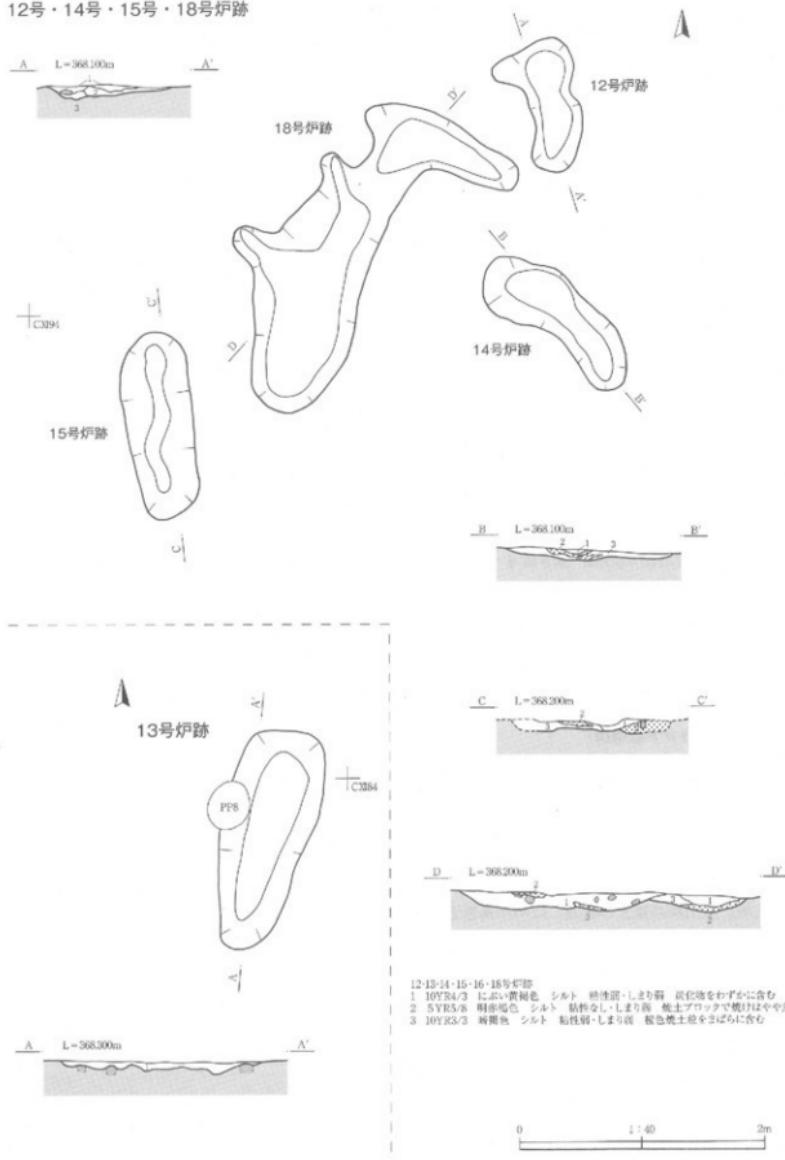
【位置・検出状況】C X I 73・83グリッドに位置する。IV層上面において、焼土粒・炭化物粒混じりの輪郭が確認できた。PP8と重複するが本遺構のほうが旧い。

【規模・平面形・底面】長軸は南北軸からわずかに東側に振れる。いびつな隅丸長方形をなし、開口部は183×44~73cmを測る。深さは4~8cmで底面は凹凸が激しい。本遺構の上部は削られている。

【土層】炭化物粒を含むにぶい黄褐色土の単層である。明瞭な焼土ブロックは認められない。

【構造など】不明である。

12号・14号・15号・18号炉跡



第44図 12~15・18号炉跡

遺物 出土していない。

時期 同種の遺構を14世紀の可能性が高いとしているが、詳細は不明である。

14号炉跡（カマド状遺構）

遺構（第44図、写真図版27）

【位置・検出状況】C X I 73・83グリッドに位置する。IV層上面において、焼土粒・炭化物粒混じりの輪郭が確認できた。PP8と重複するが本遺構のほうが若い。

【規模・平面形・底面】長軸は南北軸からわずかに東側に振れる。いびつな隅丸長方形をなし、開口部は183×44~73cmを測る。深さは4~8cmで底面は凹凸が激しい。本遺構の上部は削られている。

【土層】炭化物粒を含むにぶい黄褐色土の単層である。明瞭な焼土ブロックは認められない。

【構造など】不明である。

遺物 出土していない。

時期 同種の遺構を14世紀の可能性が高いとしているが、詳細は不明である。

15号炉跡（カマド状遺構）

遺構（第44図、写真図版28）

【位置・検出状況】C X I 94グリッドに位置する。IV層上面において、焼土粒・炭化物粒混じりの細長いプランが確認できた。検出当初のプランより掘り上がりはかなり大きくなっている。

【規模・平面形・底面】長軸は南北軸からほんのわずか西側に振れる。これもいびつな隅丸長方形をなす。開口部は153×55cm、深さは4~10cmほどである。

【土層】3層に分層され12号炉跡のそれに似る。

【構造】不明である。

遺物 出土していない。

時期 同種の遺構を14世紀の可能性が高いとしているが、詳細は不明である。

16号炉跡（カマド状遺構）

遺構（第45図、写真図版28）

【位置・検出状況】C X I 59・60グリッドに位置する。IV層上面で焼土粒を含む指円形のプランが確認できた。掘り上がりは検出時の約1.5倍になっている。

【規模・平面形・底面】長軸方向は東西軸から少し東側に振れる。いびつな長方形を呈し、開口部は207×68~78cmを測る。深さは数cm~15cmである。底面には15×35cmほどの炭化材が見られた。

【土層】検出時の焼土の範囲には明赤褐色土が、広がった部分は暗褐色土が堆積する。

【構造】不明である。

遺物 出土していない。

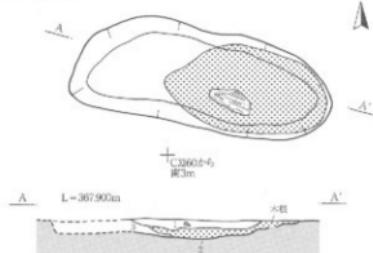
時期 同種の遺構を14世紀の可能性が高いとしているが、詳細は不明である。

17号炉跡（カマド状遺構）

遺構（第45図、写真図版28）

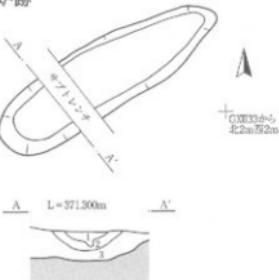
【位置・検出状況】追加調査区のGⅦ22グリッドに1基だけ検出された。IV層上面で暗褐色土の長辺円形の広がりが確認できた。検出時にその広がりの中に焼土はあまり目立たなかった。

16号炉跡

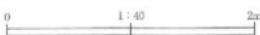


15-13-14-15-16-18号炉跡
1 10YR4/3 にぼい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 灰化物をわずかに含む
2 5YR5/8 黑赤褐色 シルト 粘性なし・しまり弱 烧上ブロックで焼けはやや良
3 10YR3/3 緑褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 煅燒灰土粒をまばらに含む

17号炉跡



17号炉跡
1 7.5YR4/6 暗色 シルト 粘性弱・しまり弱
2 7.5YR2/3 暗褐褐色 シルト 粘性弱・しまり弱
3 10YR2/2 黒褐色上 シルト 粘性中・しまり強 茶褐色底



第45図 16・17号炉跡

【規模・平面形・底面】長軸方向は南西方向に45度ほど振れている。長椭円形を呈し開口部は201×57cmを測る。深さは最大で15cmである。底面は比較的平坦である。

【土層】褐色土と極暗褐色土の2層からなる。

【構造】不明である。

遺物 出土していない。

時期 同種の遺構を14世紀の可能性が高いとしているが、詳細は不明である。

18号炉跡（カマド状遺構）

遺構（第44図、写真図版28）

【位置・検出状況】追加調査区のCX I 84・94グリッドに跨る。IV層上面で暗褐色土の広がりが確認できた。掘り上がりの形状は、検出時のプランとは全く異なった。

【規模・平面形・底面】長軸方向は南西方向に45度ほど振れる。不整形。開口部は276cmの長さをもつ。深さは最大で14cmである。

【土層】明赤褐色や橙色の焼土粒を含む暗褐色土が主体となる。これを掘り進んだところ、このような不整形となってしまった。

【構造】不明である。形もかなりいびつである。

遺物 出土していない。

時期 同種の遺構を14世紀の可能性が高いとしているが、詳細は不明である。

b 焼上遺構

18号焼土遺構

1 検出遺構

遺構（第46図、写真図版29）

【位置・検出状況】 当初の調査区C X IV83グリッドに位置する。検出面はIV層上面である。

【規模・平面形・厚さ】 $32 \times 23\text{cm}$ の楕円形で、厚さは最大で 3cm である。焼けはやや良。

遺物 なし。

時期 不明であるが、昨年度は同様の遺構を14世紀の可能性がある、としている。

19号焼土遺構

遺構（第46図、写真図版29）

【位置・検出状況】 当初の調査区C X IV84グリッドに位置する。20号焼土遺構とは西に 70cm の距離を置く。検出面はIV層上面である。

【規模・平面形・厚さ】 $34 \times 33\text{cm}$ の円形で、厚さは最大で 5cm である。焼けは良くない。

遺物 なし。

時期 不明であるが、昨年度は同様の遺構を14世紀の可能性がある、としている。

20号焼土遺構

遺構（第46図、写真図版29）

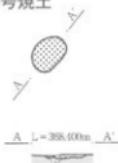
【位置・検出状況】 当初の調査区C X IV83グリッドに位置する。検出面はIV層上面である。

【規模・平面形・厚さ】 $22 \times 16\text{cm}$ の楕円形で、厚さは最大で 8cm である。焼けは良くない。

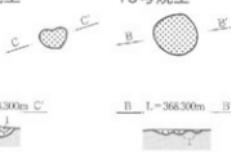
遺物 なし。

時期 不明であるが、昨年度は同様の遺構を14世紀の可能性がある、としている。

18号焼土



20号焼土



18号焼土遺構

1 7SYR4/6 茶色 シルト 粘性弱・しまり弱 焼けはやや良

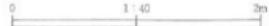
19号焼土遺構

1 7SYR4/6 茶色 シルト 粘性なし・しまり弱 焼けは良くない

20号焼土遺構

1 7SYR4/6 茶色 シルト 粘性なし・しまり弱 焼けは不良

2 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性なし・しまり弱 黑色土を含む



第46図 18~20号炉跡

(4) 炭窯跡

1号炭窯跡

遺構（第47・48図、写真図版30）

【位置・検出状況】 GV154・63・64・74グリッドに跨って位置する。本遺構は、IV層上面で圓扇形の輪郭（炭化室）とそれに付属する長方形の広がり（作業室）で確認した。さらに南側には細く延びる溝状のものも検出され、これらを一連の遺構として精査した。

【規模・平面形】 炭化室の開口部径3.90m（12.8尺）×3.16m（10.4尺）、底面径3.12m（10.2尺）×2.60m（8.5尺）の圓扇形を呈し、点火室付近は幅25cmまで窄まる。

【埋土・堆積状況】 炭化室は、褐色土や焼土混じりの赤褐色土からなる上層の崩落土が主体である。底面は4層でありタール状に硬い塊となる箇所がある。作業場の根土は概ね3層に分層され、1回ないし2回底上げになったような痕跡を残す。それが稼働した回数を示すものかはわからない。

【壁・底面】 壁は外傾して立ち上がり、壁高は22~34cmを測る。煙道口側の壁は硬く薄い板状になっている。底面は上述のとおり4層下面で、部分的に地山まで赤変しているがそこが焚き口（点火室）と思われる。炭化室中央と北西壁側には炭化した材が2本だけ横たわるが、排湿（除湿）のためのものであろう。本来は底面に敷き詰められているものらしい。

【焚き口・煙道口】 焚き口は上述のとおりである。煙道口は不明瞭で付近に円碟が2個落ち込む。タール状に囲い部分の幅は約30cmである。

【付属施設】 炭化室南西の斜面下側に作業室が接続し、そこには碟が数個散在している。規模は3.62×2.53mの隅丸長方形で、深さは最大で40cmを測る。この施設の内外に柱穴等は見られない。また、この作業場からは幅25~46cm、深さ15cmほどの溝が幅を増しながら南東側に延びている。全長は4.7mあるが排水施設であろうか。炭窯と一連のものとしたが、埋土が似ている以外に根拠はない。

遺物 「六原牛乳」とかすかに読める牛乳瓶1本出土。年代を決めるものにはならない。

時期 平面形状や底面径が明治34年考案とされる「桔崎がま」（註1）に似ることから、近・現代でも比較的旧い形態の炭窯で、黒炭の製造が行われたと思われる。実際に使用された年代は不明であるが、現場作業員（昭和13年生）に聞き取りしたところ、子供の頃にここに炭窯があった記憶はないという。

2号炭窯跡

遺構（第49図、写真図版30）

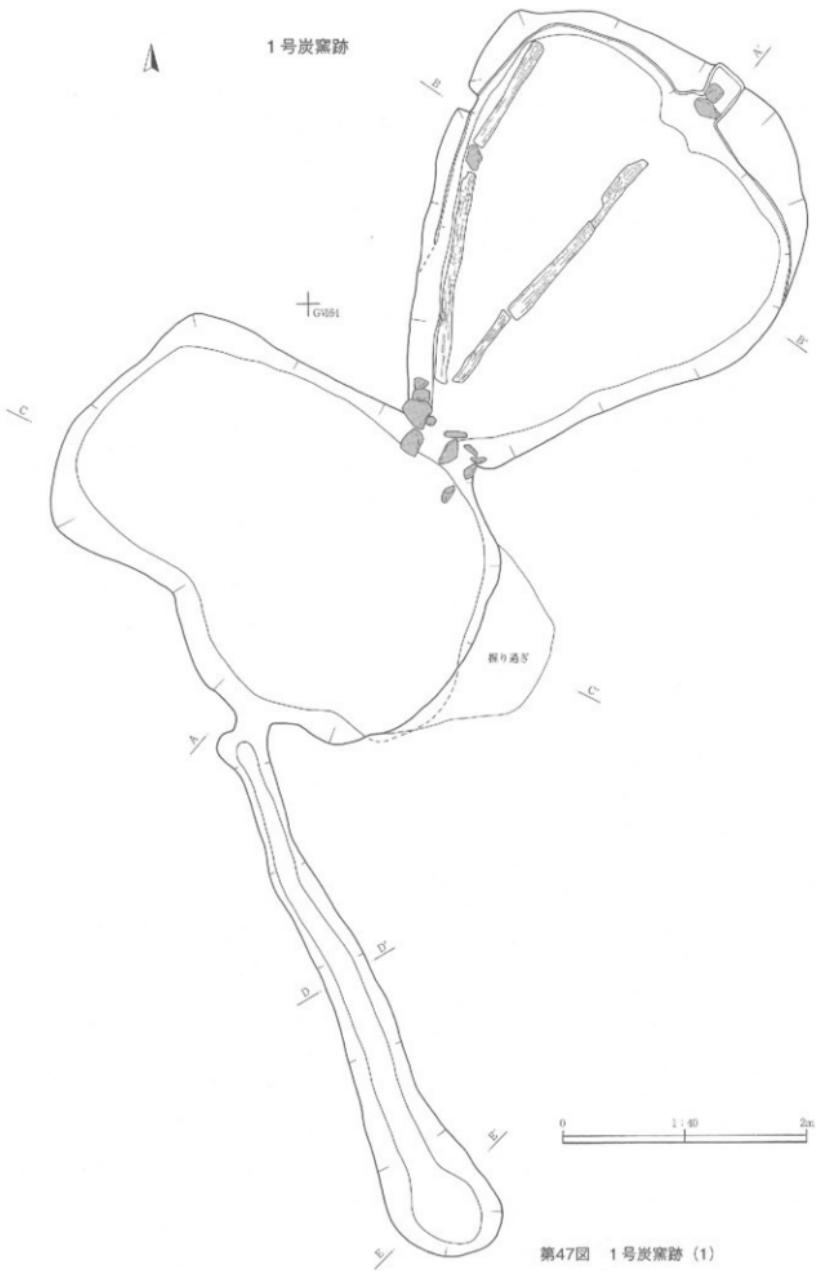
【位置・検出状況】 FV109・10・19・20グリッドに跨ってあり、IV層上面で散在する円碟と圓扇形の黒色土の広がりとして検出した。

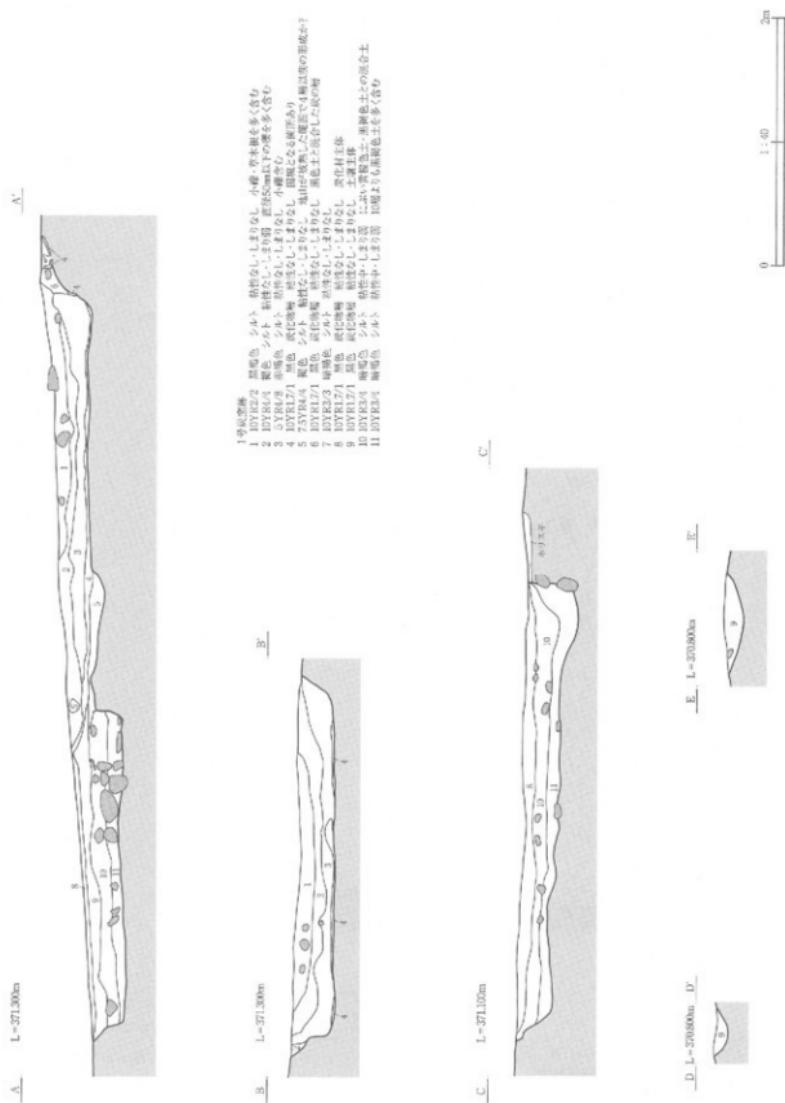
【規模・平面形】 開口部径4.17m（13.7尺）×3.23m（10.6尺）、底面径3.35m（11.0尺）×3.00m（10.0尺）の圓扇形で、わざかに張り出す焚き口（点火室）付近は幅90cm程度まで窄まる。

【埋土・堆積状況】 碟混じりの赤褐色土と炭化材を含む黒色の上層崩落土からなる。点火室付近は焼土混じりの土が堆積する。

【壁・底面】 壁は緩く外傾して立ち上がり、北壁から東西壁の中央付近まで円碟がきれいに配される。石窯と呼ばれる壁を積み上げた構造をとるのであろう。壁高は7~26cmである。

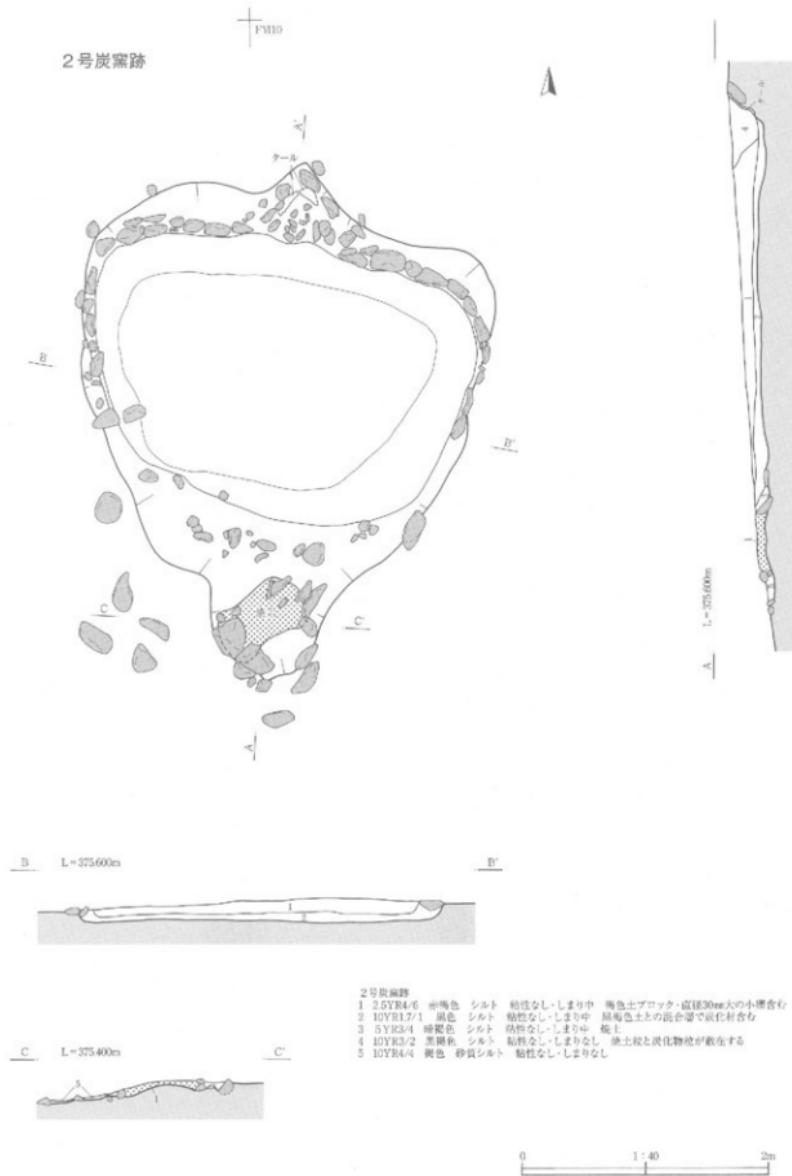
【焚き口・煙道口】 焚き口には長方形（72×38cm）の燃焼部が形成される。厚さは数cmと思われる。煙道口はわずかな張り出しを残すのみで、構造をうかがい知ることはできない。壁際には碟が配され、



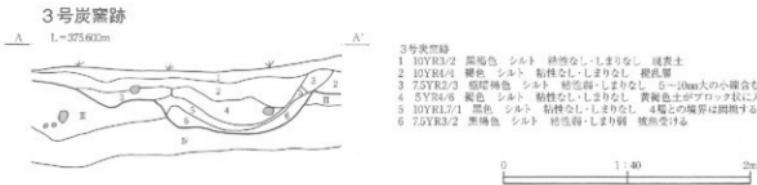


第48図 1号炭窯跡 (2)

1 検出遺跡



第49図 2号炭窯跡



第50図 3号炭窯跡

底面近くには小礫が並ぶ。タール状の塊も2箇所に観察された。

[付属施設] なし

遺物 年代を知る遺物は出土していない。

時期 本造構は、点火室の大きさをはじめとして壁に礫が組まれるなど、1号炭窯跡と構造上の違いがある。いわゆる「石がま」であれば白炭が製造されていたと思われる。これもまた使用された詳細な年代は不明である。

3号炭窯跡

遺構（第50図、写真図版30）

[位置・検出状況] FVI66グリッド、IV層上面で調査区域に確認された。重機による表土掘削の際、調査区内に存在した分を掘削してしまった。遺構のほとんどが調査区域にあるため、規模等詳細は不明である。

[埋土・堆積状況] 調査区域に残る痕跡を記録した。炭化室のいずれかの箇所を掘削してしまったものかわからない。6層に分層したが3・4・6層は赤味を帯びており、このいずれかが焼き口の燃焼部にあたる。

遺物 なし

時期 1・2号炭窯跡とは同じ時期としたいが、詳細は不明である。

(5) 柱 列

次に報告する柱穴群とともに、2列で1対と思われる柱列が6列3組確認された。これらは、掘立柱建物を構成するには至らず、また柱穴からの出土遺物もないため、詳細は不明である。

以下に、セット関係にあるものを2列ずつ記述する。

1・2号柱列

遺構（第51図、写真図版31）

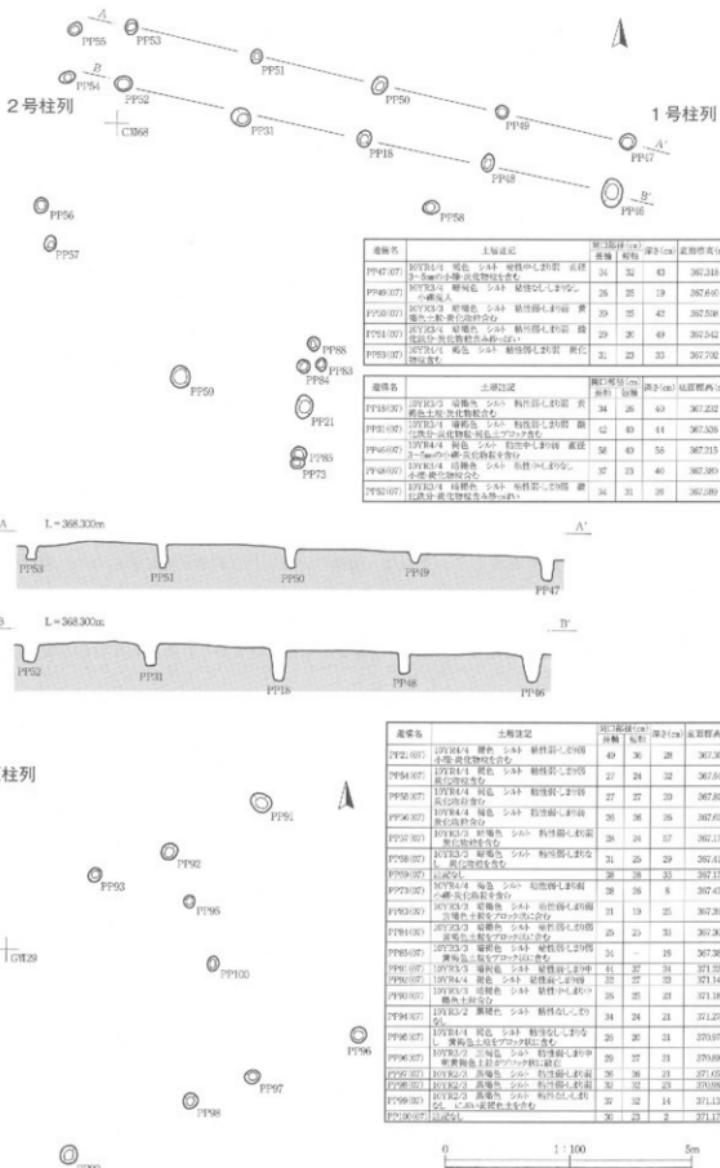
[位置・検出状況] ともにCX I 57・58・68の各グリッドに跨って位置する。IV層上面で検出した。

[重複] 他の柱穴との重複は認められない。

[方位] いずれもN-77°-W。

[規模・柱穴間距離] 1号柱列-総長10.3m、柱穴5個使用、柱穴間距離は約2.5m。2号柱列-総長10.3m、柱穴5個使用、柱穴間距離は約2.5m。

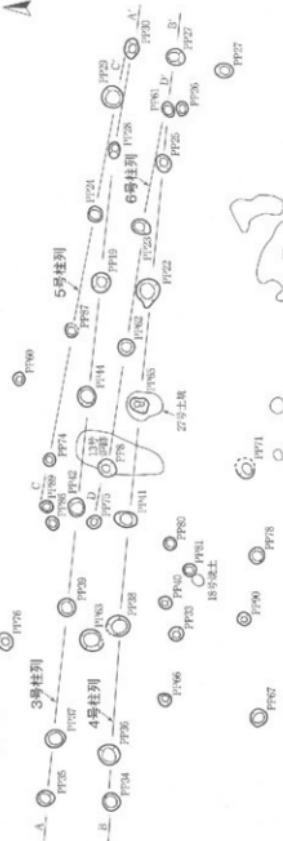
[その他] 位置的にPP54・55が本遺構と関連する可能性がある。



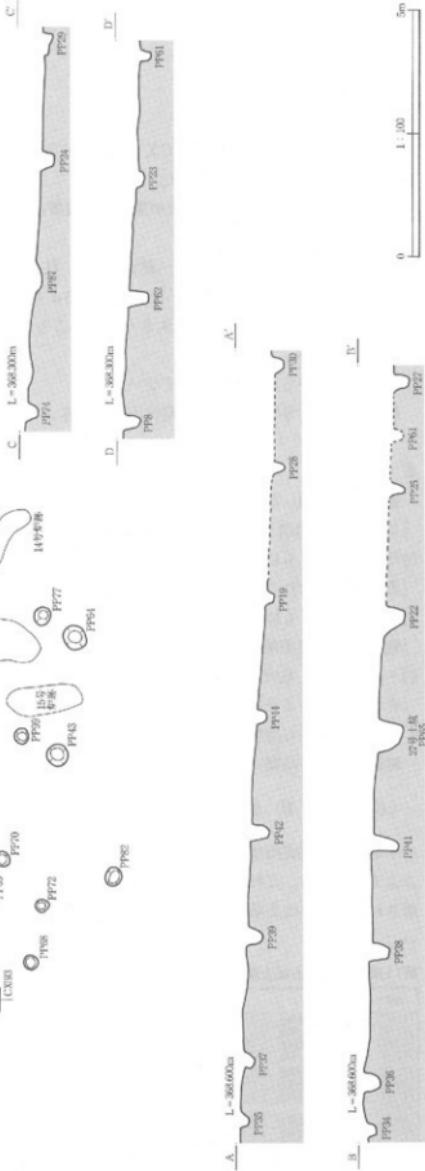
第51図 1・2号柱列、II区柱穴群

3～6号柱列

A



第52図 3～6号柱列とその周辺の柱穴群



遺物 柱穴から遺物は出土してない。

時期 時期は不明であるが、ごく最近のものであろう。

3・4号柱列

遺構 (第52図、写真図版31)

[位置・検出状況] 3号柱列はCX I 72・73・74・84に、4号柱列はCX I 82・83・84の各グリッドに位置する。IV層上面で検出した。

[重複] 4号柱列P65と27号土坑が重複し、前者が新しい。

[方位] いずれもN-80°-W。

[規模・柱穴間距離] 3号柱列-総長15.3m、柱穴8個使用、柱穴間距離およそ2.1~2.75m。4号柱列-総長15.2m、柱穴8個使用、柱穴間距離およそ2.15~2.60m。

[その他] 柱穴間の距離が他と大きく異なることから、PP34・35はこれに組み込むべきではなかったかもしれない。

遺物 柱穴から遺物は出土してない。

時期 1・2号柱列同様、時期は不明である。

5・6号柱列

遺構 (第52図、写真図版31)

[位置・検出状況] 5号柱列はCX I 73・74・84に、6号柱列はCX I 83・84グリッドに位置する。付近の柱穴とともに、IV層上面で検出した。

[重複] それぞれの柱穴は直接重複しないが、3・4号柱列とほぼ重なり合う。

[方位] いずれもN-80°-W。

[規模・柱穴間距離] 5号柱列-総長7.5m、柱穴4個使用、柱穴間距離およそ2.45~2.65m。4号柱列-総長7.4m、柱穴8個使用、柱穴間距離およそ2.15~2.60m。

[その他] 1~4号柱列よりは全長がかなり短い。

遺物 柱穴から遺物は出土してない。

時期 これも時期は不明である。

(6) 柱穴状土坑

平成18年度調査同様、概ね開口部径が50cm以下の掘立柱建物跡を構成するに至らなかった小土坑をここで一括する。これらの総数は51個（第51・52図）で、当初の調査区や最終の追加調査区などで確認された。埋土はⅡ層起源と思われるものが多く、時期は中世以降とみているがいずれも断定できない。

（濱田）

第11表 柱穴状土坑土層記と計測値

遺構名	土層記述	断面記述(cm)		深さ(m)	底面標高(m)	備考
		長軸	短軸			
PF1(07)	10YR3-3 壤褐色 シート 素性弱・しまり弱 小埋・花D付合む	31	30	54	367.657	1号掘立柱建物跡
PF2(07)	10YR3-3 壤褐色 シート 素性弱・しまり弱 埋土+黄褐色土をブロック状に含む	32	32	35	367.653	1号
PF3(07)	10YR3-3 壤褐色 シート 素性弱・しまり弱 埋土+黄褐色土をブロック状に含む	40	33	57	367.578	1号掘立柱建物跡
PF4(07)	10YR3-3 壤褐色 シート 素性弱・しまり弱 埋土+黄褐色土をブロック状に含む	35	31	18	367.522	1号
PP5(07)	10YR3-3 壤褐色 シート 素性弱・しまり弱 埋土+黄褐色土を白泥を包む	43	40	55	367.540	1号掘立柱建物跡
PF6(07)	10YR3-3 壤褐色 シート 素性弱・しまり弱 埋土+黄褐色土をブロック状に含む	37	42	54	367.650	1号掘立柱建物跡
PF7(07)	10YR3-3 壤褐色 シート 素性弱・しまり弱 埋土+黄褐色土+こじし大の礫を含む	42	37	43	367.502	1号掘立柱建物跡
PF8(07)	泥化なし			38	34	1号
PF9(07)	10YR3-3 壤褐色 シート 素性弱・しまり弱 小埋・花D付合む	31	24	28	367.678	1号掘立柱建物跡
PP10(07)	10YR3-3 壤褐色 シート 素性弱・しまり弱 小埋・花D付合む	31	26	32	367.790	1号掘立柱建物跡
PF11(07)	10YR3-3 壤褐色 シート 素性弱・しまり弱 埋土+黄褐色土をブロック状に含む	27	23	17	367.670	1号掘立柱建物跡

番号	土壌形態	面積(ha)		高さ(cm)	高さ範囲(m)	範囲
		耕野	耕作			
PP12(07)	10Y8/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	29	28	14	367.887	1号区・1号耕作地
PP3(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・青穂色・こぶししたの煙を含む	34	31	15	367.867	1号区・1号耕作地
PP14(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む・小穂褪色	50	46	15	367.857	1号区・1号耕作地
PP16(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む・小穂褪色	29	27	30	367.544	1号区・1号耕作地
PP17(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・青穂色・黄褐色・こぶししたの煙を含む	35	30	25	367.518	1号区・1号耕作地
PP18(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂褪色・青穂色・炭化物含む	41	33	29	367.430	1号区・1号耕作地
PP19(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂褪色・青穂色・炭化物含む	34	26	40	367.322	2号耕作
PP20(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 明黄色・土粒をブロック状に含む	31	40	12	367.290	3号耕作
欠番						
PP21(07)	10Y8/4 黄色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	49	36	28	367.303	0区
PP22(07)	詫配なし	60	45	10	367.293	3号耕作
PP23(07)	詫配なし	40	30	31	367.255	6号耕作
PP24(07)	詫配なし	33	27	20	367.245	6号耕作
PP25(07)	詫配なし	30	27	25	367.200	6号耕作
PP26(07)	詫配なし	34	32	28	367.052	5号耕作
PP27(07)	詫配なし	31	20	22	367.036	3号耕作
PP28(07)	詫配なし	43	43	23	367.060	5号耕作
PP29(07)	詫配なし	30	30	19	367.080	3号耕作
PP30(07)	詫配なし	42	40	11	367.507	2号耕作
PP31(07)	10Y8/4 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 明黄色・土粒をブロック状に含む	36	27	34	367.537	0区
PP32(07)	詫配なし	31	27	52	367.788	0区
PP33(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	37	35	18	368.210	4号耕作
PP34(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	31	30	18	368.180	4号耕作
PP35(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	43	38	18	368.115	4号耕作
PP36(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	40	32	20	368.352	2号耕作
PP37(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	47	40	33	367.929	4号耕作
PP38(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	40	38	25	368.010	3号耕作
PP39(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	27	23	30	368.307	0区
PP40(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	50	30	46	367.730	4号耕作
PP41(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	39	37	38	367.865	3号耕作
PP42(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	31	27	32	367.612	0区
PP43(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	37	35	18	368.210	4号耕作
PP44(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	40	36	20	367.913	3号耕作
PP45(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	29	28	15	368.157	0区
PP46(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	58	40	38	367.213	2号耕作
PP47(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	35	32	45	367.352	4号耕作
PP48(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	37	23	50	367.280	2号耕作
PP49(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	36	26	19	367.640	1号耕作
PP50(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	30	25	42	367.598	1号耕作
PP51(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	29	20	49	367.542	1号耕作
PP52(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含み・死んでる葉含む	34	31	39	367.589	2号耕作
PP53(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含み	31	21	33	367.702	1号耕作
PP54(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	27	21	32	367.647	0区
PP55(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	27	27	20	367.890	0区
PP56(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	36	26	36	367.608	0区
PP57(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	28	24	57	367.178	1号耕作
PP58(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	31	25	29	367.443	0区
PP59(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	30	25	33	367.552	0区
PP60(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含み	30	27	22	367.287	0区
PP61(07)	詫配なし	28	24	33	367.893	6号耕作
PP62(07)	詫配なし	33	33	46	367.620	6号耕作
PP63(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	45	44	35	368.002	0区
PP64(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	32	44	48	367.307	1号耕作
PP65(07)	詫配なし	45	26	35	367.896	4号耕作
PP66(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	25	24	43	367.848	0区
PP67(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	35	31	31	366.038	0区
PP68(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂・炭化物含む	27	21	33	365.920	0区
PP69(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 漢波色・1mmの大穴と炭化物含む	32	27	38	367.652	0区
PP70(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 漢波色・1mmの大穴と炭化物含む	25	25	39	367.862	0区
PP71(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 上部に、にじみの穴を含む	36	-	52	367.856	0区
PP72(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 上部に、にじみの穴を含む	27	24	37	367.911	0区
PP73(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 炭化物含む	28	26	8	367.427	0区
PP74(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 炭化物含む	26	24	38	367.732	5号耕作
PP75(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 炭化物含む	25	24	28	367.914	0区
PP76(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 小穂を多く含む	28	26	33	366.101	0区
PP77(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 炭化物含む1cm以下含む	38	33	24	367.884	0区
PP78(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 炭化物含む	30	27	34	367.893	0区
PP79(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 炭化物含む	28	27	33	367.769	0区
PP80(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 炭化物含む	27	27	42	367.799	0区
PP81(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 上部に、にじみの穴を含む	27	27	42	367.852	0区
PP82(07)	10Y7/2 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 上部に、にじみの穴を含む	31	22	40	367.884	0区
PP83(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 炭化物含む	21	19	25	367.396	0区
PP84(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 炭化物含む	35	25	33	367.300	0区
PP85(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 炭化物含む	31	-	19	367.388	0区
PP86(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 炭化物含む	26	24	35	367.907	0区
PP87(07)	詫配なし	26	-	21	367.285	5号耕作
PP88(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 炭化物含む	26	25	30	367.461	0区
PP89(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 炭化物含む	26	26	18	367.959	0区
PP90(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 炭化物含む	28	27	25	369.016	0区
PP91(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 炭化物含む	44	37	24	371.260	0区
PP92(07)	10Y7/4 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 炭化物含む	27	23	37	371.146	0区
PP93(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 炭化物含む	26	25	28	371.182	0区
PP94(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 炭化物含む	31	21	21	371.220	0区
PP95(07)	10Y7/4 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 炭化物含む	26	20	31	370.977	0区
PP96(07)	10Y7/2 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 炭化物含む	29	27	21	370.899	0区
PP97(07)	10Y7/2 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 炭化物含む	26	21	31	371.057	0区
PP98(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 炭化物含む	32	32	23	370.984	0区
PP99(07)	10Y7/3 黄褐色 シルト 種生長・しまり弱 炭化物含む	37	32	14	371.132	0区
PP100(07)	詫配なし	30	23	2	371.175	0区

2 出 土 遺 物

平成19年度調査で出土した遺物は、縄文・弥生土器8,716.7g、縄文時代と思われる石器類（剥片・素材含む）25,307.2g、骨片数gである。出土地点・層位ごとの出土重量などは第12・13表にあるので参照のこと。

なお、掲載にあたっては概ね18年度調査の基準（Ⅲ章2節「遺物整理の方法」）に従ったが、遺物番号は土器が101～、石器はS101～と表示し、他の調査時の番号と区別できるようにした。

（1）縄 文 土 器

縄文時代の土器（第53・54図、第14表、写真図版63・64）は、総重量8,716.7gのうち弥生土器分およそ800gを除く7,926.9g出土した。遺構内出土分は387.1g、遺構外は7,539.8gである。時期は、縄文時代早期中葉・末葉、前期前葉・中期後葉、後期初頭・後葉、晚期中葉などである。本報告書では、総重量の約17%にあたる1,366.3g、41点を掲載した。平成18年度同様、各遺構・遺構外別に特徴的な遺物について記載する。

a) 遺構内（101～103）

遺構内から出土したものは3点・72.3g掲載した。

101は21号土坑から出土した中期以降と思われる粗製土器の胴部破片、102は22号土坑出土の折り返し口縁を有する深鉢の破片、103は後期以降と思われる深鉢の胴部である。

b) 遺構外

III層（104～106）

III層出土の掲載遺物は、追加調査区の試掘トレンチ掘削により出土した3点・49.8gである。

104は後期初頭かと思われる口縁部破片で、口唇部に付近には隆帯内に円形の刺突がつくもの。105は後期前葉と思われる平行沈線が見られる口縁部。106は円形の刺突が並ぶが時期がよくわからないものだが後期かもしくは弥生か？

IV層（107～121、127～132、139・140）

26点・1,114.0g掲載した。これにはグリッド単位で取り上げたもの（107～118）と、試掘トレンチ内から出土したもの（119～140）があり、いずれも重機により第IV層上面まで掘削後に取り上げたものである。

107は口唇部の山形沈線と沈線に沿う貝殻腹縁が特徴的なもので、早期中葉物見台式に相当しよう。この他に、同一個体の胴部破片が9点・131.0g出土している。108は表裏縄文土器の同一個体を3点掲載した。いずれも植物繊維を含んでいる。108aは口縁部で、口唇部に5mmほどの間隔で刺突が施される。108cは胴部破片だが、底に近い部分であろう。これらは早期後葉・赤御堂式の新段階相当と思われる。同一個体の破片は、この他に450gほど出土している。109も胎土に繊維を多く含むもので、口唇部には指頭による圧痕が付く。内面には縄文が見られない。前期初頭～前葉ごろか。110は器表の剥落が著しいが、繊維の混入が見られることから、早期末～前期初頭としておく。111～115は中期後葉から末葉にかけてのものである。111は低い2列の隆帯をもつことから大木8b式、112は円形の隆帯の特徴から大木8b～9式、113・114は垂下する沈線の様相から大木9式相当と判断した。115は斜め上方に突き出すとげ状の突起を有するもので、中期末葉としておく。116・117はいずれも中期中葉～後葉に属すると思われるもの。118は網代痕を有する底部の一部である。網代は荒木ヨシ「雷文」

(註2)と呼ばれるものらしい。119～122は中期後半から後期前葉くらいかと思われるが定かでない。119は幅広の口縁部を持つもの。120は器表にコゲが付着している個体である。121・122は地文に撚糸文が施されている。127～132はいずれもT61から出土したもので、中期後葉から後期初頭にかけてのものが多い。127は鉢の口縁部で内面はきれいに磨かれ、大木9か10式に相当しよう。128は平行沈線を有する口縁部、129は地文が単軸絡状体の回転によるもので後期初頭と思われるもの。130は脚付きの小型壺形土器で、黒色の外面はよく磨かれている。時期は後期前葉か。131・132はいずれも地文のみ施文されるが、細かい原体が使われている。139・140は、平行沈線とその中に地文が見られるもので、時期は後期初頭ごろかと思われる。

排土中(123～126、133～138)

重機によるトレンチ掘削により、T59(123～126)・T61(133～138)の各排土中から発見された一群である。10点・130.2g掲載した。

123はLR縞文の地文のみ、124は撚糸文の地文のみが施される。125は単軸絡状体圧痕が見られる個体で、いずれも中・後期と思われるもの。126は晩期中葉の鉢形土器か? 133は地文の単軸絡状体の回転が交差している。134は円形の隆帯の一部が観察されるもの。135は平行沈線、136は撚糸文が付くもの。137・138は小型の鉢形土器の口縁部で付される縞文の原体がかなり細かい。後者は平行沈線が付され、晩期に属するものと思われる。

(2) 弥生土器

弥生時代の土器(第54図、第14表、写真図版64)は、試掘eトレント中央部の第Ⅲ層から1個体789.8g出土した。出土地点の周辺には、当該期の遺構は確認できなかった。復元個体1点を掲載した。

Y1は弥生時代後期の天王山式、あるいは赤穴式と思われる個体で、口唇部と胴部には整然とした撚糸文状の斜縞文が、口縁部には原体圧痕による速弧文が施され、頸部の搦れ部分だけが無文帯となっている。この撚糸文状の文様を表す原体は、それ自体を軸として他を緩く巻き付けたものであることが解明されている。(村上:2006)

(3) 石器

石器類(第55～59図、第15表、写真図版64～66)の出土点数および総重量は67点・25307.20gで、いずれも縞文時代に属するものと思われる。内訳はトゥール類23点・25,083.80g、剥片ほか44点・223.4gであるが、前者の重量は石皿2点でそのほとんどを占める。

なお、本報告書では総重量の97%、20点・24550.30g(剥片石器12点、礫石器8点)を掲載した。不掲載としたものは、敲打による成形痕以外に明瞭な痕跡が認められない円形の砾(砂岩製)3点である。石材は、頁岩、砂岩、ホルンフェルス、砂岩の4種である。剥片石器は全てが頁岩である。

a) 遺構内

30号土坑(S101)

埋土から完形の凹石が1点出土した。石質は砂岩である。

b) 遺構外(器種毎)

尖頭器(S102～S104)

3点出土し全点掲載した。S102は先端と基部を欠く縞文時代草創期の有舌尖頭器と思われるもの。S103は右鍛としたほうが適切だったかもしれないもの。S104はS102とは形態を異にする尖頭器で、両面から調整が施される。範状になるか。

石鎌 (S105)

1点出土した。凹基鎌である。

石匙 (S106)

1点出土した。縦型、片面加工の石匙である。

石箒 (S107)

トレンチから出土した完形品を1点掲載した。両面から調整が施されている。

スクレイパー (S108・S109)

削器様の急角度を持つものをスクレイパーとして登録した。2点出土しているが、いずれも完形品で両側縁を片面からそれぞれ調整している。

二次加工ある剥片 (S110～S112)

刃部調整が1辺の2分の1に満たないものを一括した。3点出土し全て掲載した。

剥片 (S113)

頁岩を石材とする剥片で、1点掲載した。

打製石斧 (S114)

1点出土し掲載した。ホルンフェルス製で調整は粗い。

凹石 (S115・S116)

2点出土しいずれも掲載した。S115は磨面の痕跡も観察される。

磨石 (S117)

砂岩製で1個出土した。

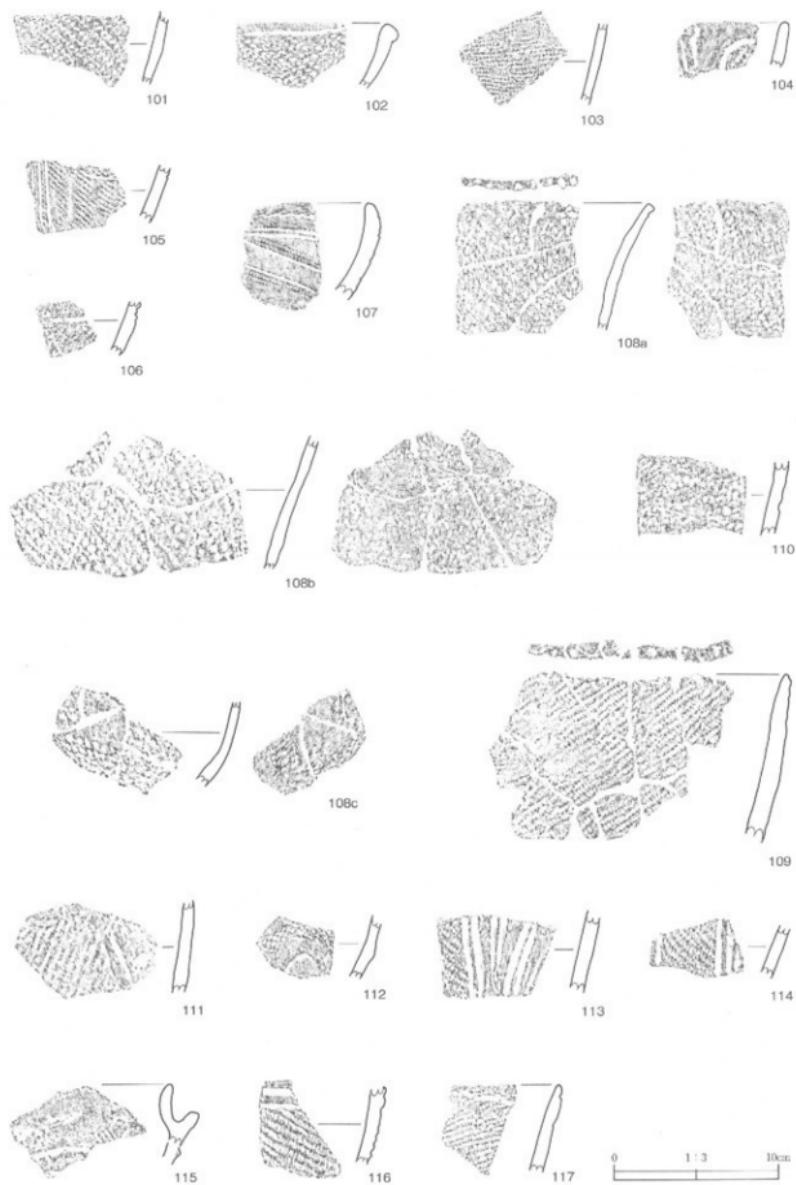
石皿 (S118・S119)

2点掲載した。S118は全体の2/3を欠く。

砥石 (S120)

1点出土した。石材は砂岩で、3面に大きな凹みを有する。

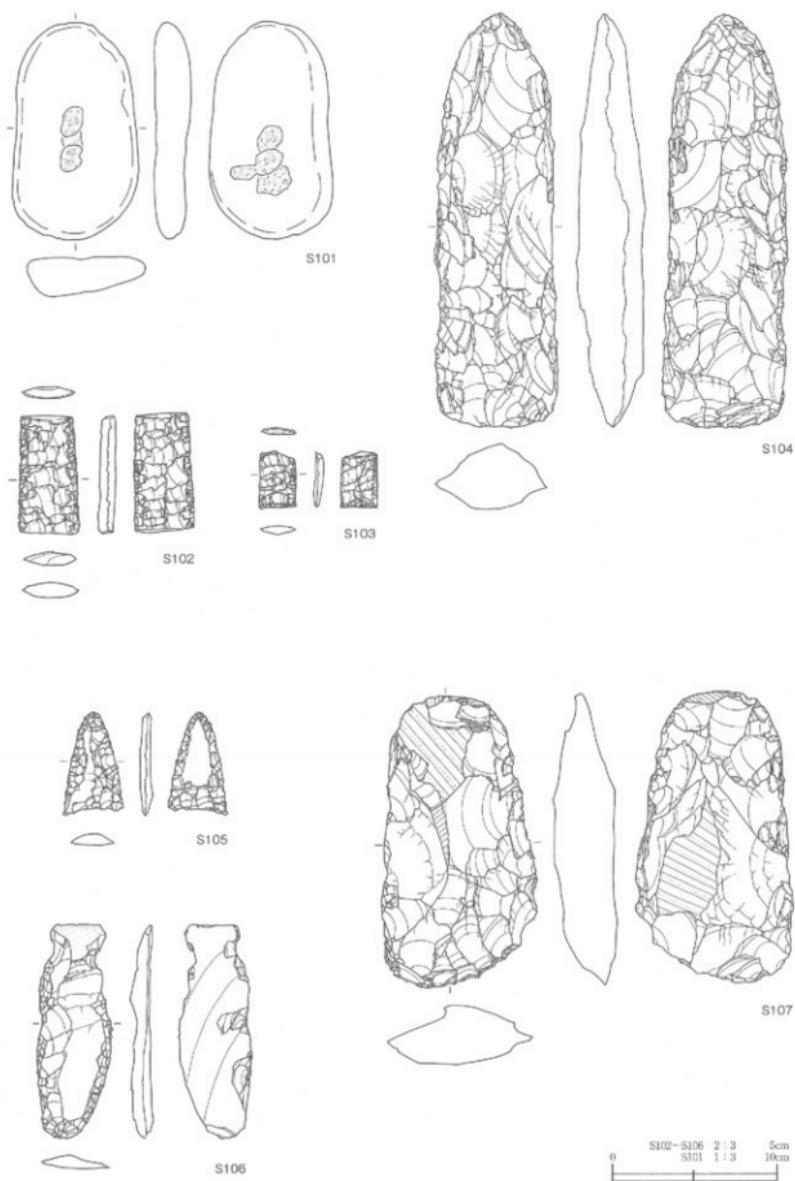
(濱田)



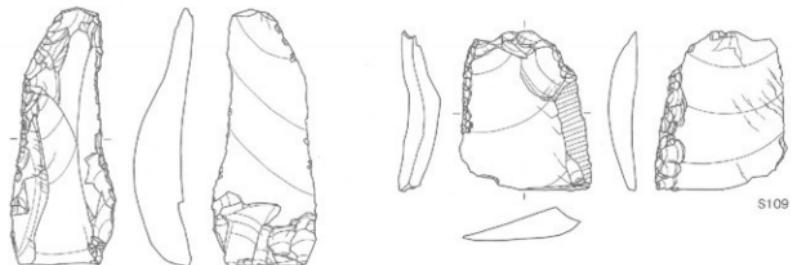
第53図 繩文土器 (6)



第54図 繩文土器 (7)



第55図 石器(8)



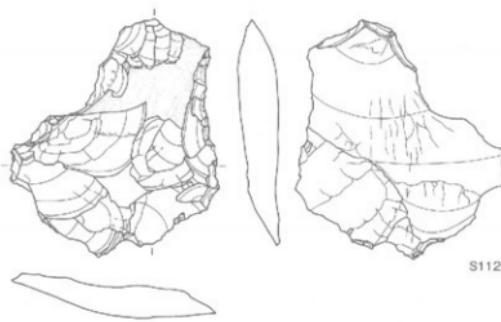
S108

S109

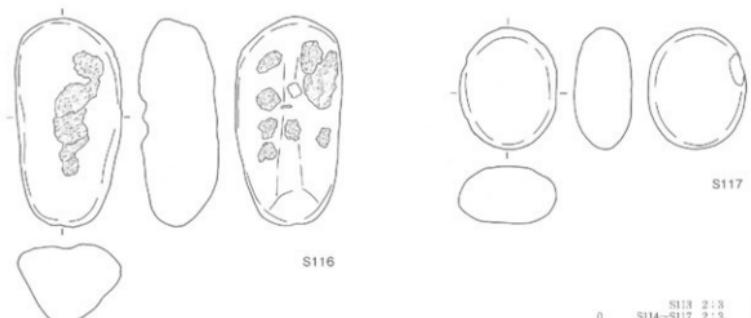
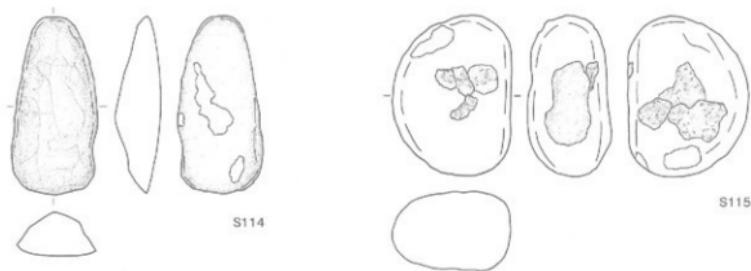
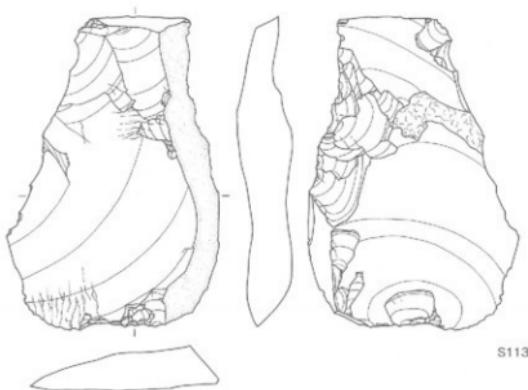


S110

S111

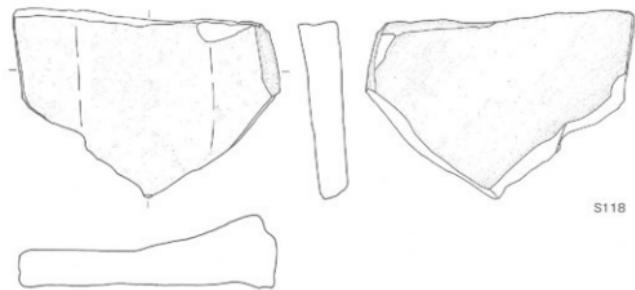


第56図 石器 (9)

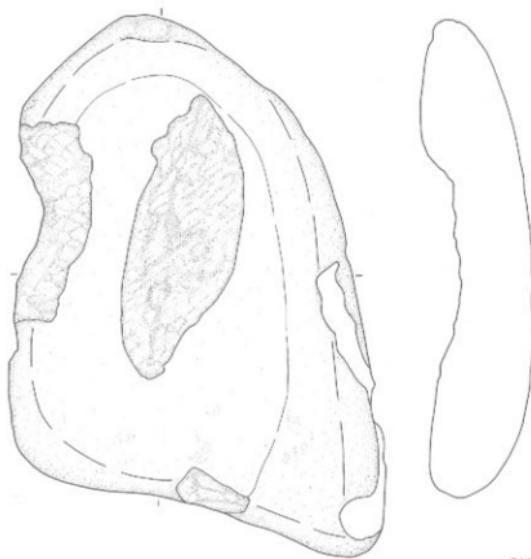


0 S113 2 : 3 5cm
S114-S117 2 : 3 10cm

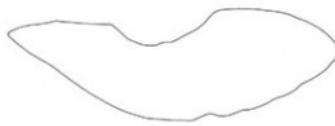
第57図 石器 (10)



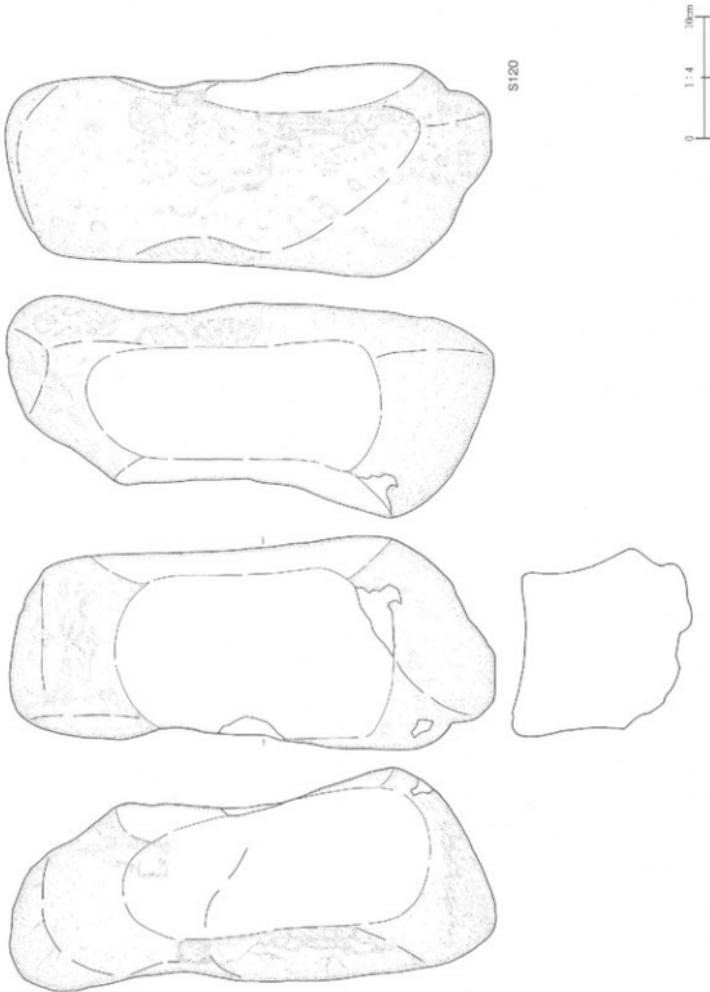
S118



S119



第58図 石器 (11)



第59図 石器 (12)

第12表 繩文土器地点別出土量

出土場所・層位	重量(g)
2号土坑 残土	102.30
2号土坑 地上	99.60
2号土坑 地下	116.30
2号土坑 残土	22.30
2号土坑 地上	66.60
B.IX.62 IV層	15.80
C.X.66 面層	54.40
C.X.107 IV層	39.00
C.X.135 IV層	4.60
C.X.145 IV層	30.90
C.X.178 IV層	74.20
C.X.184 V層	108.80
D.V.裏2	1.90
D.X.05 B層	77.00
D.X.06 Ⅳ層	30.00
D.X.09 Ⅳ層	7.90
D.X.18 Ⅳ層	16.30
D.X.26 Ⅳ層	13.30
E.V.II.2 Ⅳ層	1.20
E.V.II.4 Ⅳ層	292.40
E.V.II.46 Ⅳ層	55.10
E.V.II.56 Ⅳ層	3.30
E.V.II.57 Ⅳ層	14.80
E.V.III.1 Ⅳ層	2.40
E.V.III.2 Ⅳ層	13.50
E.V.III.11 Ⅳ層	126.00
F.V.II.97 Ⅳ層	627.40
F.V.III.99 Ⅳ層	5.80
G.V.I.37 Ⅳ層	11.80
G.V.II.59 Ⅳ層	23.30
G.V.III.47 Ⅳ層	12.20
G.V.IV.49 Ⅳ層	45.60
G.V.III.62 Ⅳ層	272.20
G.V.III.12 Ⅳ層	3.00
上区	18.70
I.IX.-J.IX.区	269.60
J.2 Ⅳ層	13.70
T.10 Ⅳ層	3.70
T.14 Ⅳ層	222.30
T.31 Ⅳ層	578.30
T.37 Ⅳ層	600.70
T.59 Ⅳ層	606.00
T.61 Ⅳ層	2056.80
ミトレンチ 皿底	42.90
ミトレンチ 皿面	44.70
ミトレンチ 皿底	881.00
ミトレンチ	47.00
(合計)	8716.70

第13表 石器地点別出土量

出土場所・層位	点数	重量(g)
30号+4号 残土	1	297.60
B.I.X.41 Ⅳ層	1	91.00
B.I.X.136 Ⅳ層	1	1.10
B.I.X.175 Ⅳ層	1	17.90
C.X.83 Ⅳ層	1	16.80
C.X.97 塵丸帶	1	8.10
C.X.202 Ⅳ層	1	1.54
C.X.111 Ⅳ層	1	57.50
C.X.128 Ⅳ層	1	119.30
C.X.178 Ⅳ層	1	2.10
C.X.183 Ⅳ層	1	389.50
D.X.03	1	160.10
D.X.101 雜石層	1	356.70
E.V.E.55 Ⅳ層	1	4.30
A.V.96 Ⅳ層	1	29.10
E.V.201 Ⅳ層	5	28.10
E.V.012 Ⅳ層	1	6.10
F.V.2.2	1	35.80
G.V.34 Ⅳ層	1	100.90
T.11 Ⅳ層	2	12.00
T.57 残土中	4	22810.66
T.58 Ⅳ層	1	35.20
T.59 Ⅳ層	1	7.20
T.61 残土中	8	649.30
T.62 Ⅳ層	1	81.20
T.65 Ⅳ層	1	1.70
T.66	1	19.90
ミトレンチ	1	161.00
ミトレンチ	1	3.40
合計	44	2507.20

第14表 繩文・弥生土器観察表

No.	出土場所	層位	器種	部位	文様の特徴	地紋	重量(g)	備考	時期
101	1 53 63	21号土坑	残土	縦條		L.R.縦	24.60	菅原、中野山等	
102	2 53 63	22号土坑	粘土	葉跡	口～腹	L.R.縦	28.30	中野	
103	3 53 63	25号土坑	板二	縫		L.R.縦	19.40	菅原、復興山等	
104	15 53 63	63 ミトレンチ	面層	口	帶状、網目、沈殿物	L.R.縦?	16.10	内面縦2から	
105	17 53 63	63 ミトレンチ	面層	口	平行による平行化粧	L.R.縦?	23.50	復興期?	
106	16 53 63	63 ミトレンチ	面層	口	円形網目、沈殿物	不明	10.20	中野一帯	
107	4 53 63	T.14	面層	口	自然風呂目、平行沈殿		41.20	中野中野(物見台)	
108a	5a 53 63	F.V.II.97	IV層	縦條	口～側口部網目、水波純丸	R.L.縦?	57.10	a～c 同一側体、物上織部 早期後縫(赤面網目複縫)	
108b	5a 53 63	F.V.II.97	IV層	縦條	口	表裏成文	94.40	粘土織部 早期後縫(赤面網目複縫)	
108c	5c 53 63	F.V.II.97	IV層	縦條	口	表裏成文	23.70	粘土織部 中期後縫(赤面網目複縫)	
109	6 53 63	G.V.02	IV層	縦條	口、縫	口縫、口縫網目直	155.00	黏土織部多量 中期後縫(赤面網目複縫)	
110	7 53 63	I.IX.-IX.区	IV層	縦條	口	口縫、口縫直	34.00	粘土織部 中期後縫(赤土)	
111	9 53 63	I.V.3.1.0	IV層	縦條	口	口縫直、横縫直(隙縫2本)	43.80	中期後縫(大土8b)	
112	14 53 63	I.IX.区	IV層	縦條	口	縦縫	15.30	中期後縫(大土8b～9a)	
113	11 53 63	C.X.I.78	面層	縦條	口	口縫直	36.10	大面直ガキ	
114	12 53 63	C.X.I.33	面層	縦條	口	口縫直	15.20	中期後縫(大土9-10)	
115	8 53 63	I.3.0	縦條	口	口縫、沈殿		32.80	粘土織部多い	
116	10 53 63	R.V.II.1.0	IV層	縦條	口	口縫直(隙縫2本)	21.80	中野後縫～復興期	
117	13 53 63	I.IX.-IX.区	IV層	縦條	口	口縫直	21.20	中野後縫(大土8b)	
118	18 53 63	C.X.I.67	面層	縦條	口	外縫に斜め痕	50.70	荒木ゴヨー「實義」	中野後縫
119	21 54 63	T.31	面層	縦條	口	單縫跡?	33.90	中東～後	

順位	目	回	年	出土地点	層位	器種	形態	文様の特徴	地紋	重量(g)	備考	時期	
												前期	後期
120	21	回	55	63	T59	IV層	漆鉢	口	L.R縞・L.R縞	36.90	外黒コガ、胎上赤多岐	根室、中期後半以降か	
121	25	54	63	T59	IV層	漆鉢	口	虎彫	L.吉綱	30.30	外黒赤落	根室、中期後半以降	
122	28	54	63	T59	IV層	漆鉢	側	小口状撲示文	单脚鉢 1 A	23.70		中期後半以降	
123	22	54	63	T59梯子上	漆鉢	口			L.吉綱	12.00	新十枚粉多い	山東～後初	
124	23	54	63	T59梯子下	漆鉢	口		熱水文	单脚鉢 1 (L) ?	11.10		中期後半以降	
125	27	54	63	T59梯子下	漆鉢	側	蓋	磁石の特徴列		6.70	内黒ミガキ	山東～後期	
126	36	54	63	T59梯子中	漆鉢	側	虎彫		R.L.縞(1段多岐)	9.00		既知中～後(C1～A1)	
127	39	54	63	T59	IV層	鉢	口～側		R.L.縞	25.80	内黒ミガキ	中期小中(大木・Sai)	
128	32	54	63	T61	IV層	鉢	口	平行虎彫	R.L.縞?	9.40		中期前葉	
129	35	54	63	T61	IV層	鉢	口	虎彫・熱水文	单脚鉢 1 (R)	31.70		中期～後初	
130	20	54	64	T61	IV層	漆鉢	側	小口由直向(新・虎彫)		196.70	外黒ミガキ	(未記載)・初期	
131	36	54	64	T61	IV層	鉢	口		L.R.縞?	8.00		既知、後期に據	
132	38	54	64	T61	IV層	漆鉢	側		L.R.縞	26.10		中期、中期	
133	29	54	64	T61梯子中	漆鉢	側	熱水文		单脚鉢 1 (L)	20.10		山東～後期	
134	31	54	64	T61梯子下	漆鉢	側	虎彫	熱水文による同文		15.90		門司	
135	32	54	64	T61梯子上	漆鉢	口	平行虎彫	L.R.縞?		13.30		(未記載)・前葉	
136	34	54	64	T61梯子中	漆鉢	口	虎彫・熱水文	单脚鉢 1 (R) 縞	21.40	外黒コガ	中期～後期		
137	33	54	64	T61梯子上	鉢	口			L.R.縞(1段多岐)	11.30		中期、後期	
138	39	54	64	T61梯子下	鉢	口	平行虎彫	L.R.縞	9.40		既・朝期?		
139	40	54	64	T63	IV層	漆鉢	側	平行虎彫	L.R.縞	42.30	外黒コガ	中期末葉(大木10)	
140	41	54	64	T65	IV層	漆鉢	側	串7字する虎彫	Z.L.?	16.00		中期後～次(大木9・10)	
Y1	19	54	64	eトレント中央	三層	鉢	口～側	目録に萬文符、漆鉢(虎彫)	L.R.縞(1段多岐)?	351.50		参考底跡(天王山・赤穴)	

第15表 石器観察表

順位	名	出土地點	層位	器種	残存状態	石質・産地	奥さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	式量 (g)	右記事項			
											古	新		
S101	1	55	61	30号二重	砾土	石頭	完形	砂岩 黒羽川原 航生代新第三紀	11.30	750	240	397.60		
S102	9	55	61	E.1055	II層	矛尖頭櫛	基部・勾端浅溝	河岸 岩山川原 新生代新第三紀	325	180	0.50	430	菅原湖?	
S103	10	55	61	E.10601	II層	骨頭(有否?)	?	?	?	170	130	0.20	0.60	
S104	11	55	61	E.10634	II層	骨頭	骨頭	?	?	1250	230	210	100.90	
S105	12	55	61	B.X.186	II層	石頭	完形	日吉山原 山頭 新生代新第三紀	315	180	0.40	235	四番	
S106	13	55	61	C.X.97	砾土	石頭	完形	日吉山原 山頭 新生代新第三紀	650	220	0.70	81.00	兩面削・片削鑿	
S107	14	55	61	T62	IV層	石頭	完形	日吉山原 山頭 新生代新第三紀	890	470	150	81.20	兩面削	
S108	15	55	61	T58	II層	スクレイバー(頭)	完形	日吉山原 山頭 新生代新第三紀	750	320	130	35.20	兩面削・山腹型	
S109	17	56	65	C.X.85	II層	スクレイバー(頭)	完形	日吉山原 山頭 新生代新第三紀	450	400	0.85	16.80	圓輪形	
S110	16	56	65	E.10644	II層	二次加工ある刮削片	完形	日吉山原 山頭 新生代新第三紀	720	520	130	35.80		
S111	18	56	65	T61	II層	二次加工ある刮削片	完形	日吉山原 山頭 新生代新第三紀	680	240	0.60	10.00		
S112	19	56	65	T61南	II層	刮削片	完形	日吉山原 山頭 新生代新第三紀	730	630	120	47.50		
S113	20	57	65	B.CX.74	II層	刮削片	完形	日吉山原 山頭 新生代新第三紀	9.00	640	170	91.00		
S114	4	57	66	トレンチb	豆層	打痕石斧	完形	日吉山原 山頭 新生代新第三紀	10.90	320	270	163.00	中生代白堊紀に蒙皮	
S115	2	57	66	T61	砾土中	凹石?	完形	砂岩 白山山原 新生代新第三紀	9.90	720	490	463.50	杏田1面	
S116	3	57	66	C.X.105	豆層	石頭	完形	麻灰岩 黒羽川原 新生代新第三紀	12.60	650	480	389.50		
S117	5	57	66	D.X.01	豆層	凹石?	完形	砂岩 黒羽川原 新生代新第三紀	7.40	590	350	560.10		
S118	6	58	66	T57	砾土中	石頭	2/3欠	砂岩 白山山原 新生代新第三紀	15.30	2140	580	1253.00		
S119	8	58	66	T57	砾土中	石頭	完形	砂岩 黒羽川原 新生代新第三紀	43.50	30.80	8.10	1600.00		
S120	7	59	66	T57	砾土中	石頭	完形	砂岩 黒羽川原 新生代新第三紀	39.40	1760	1410	11400.00	3面削用	

VI 平成20年度調査

1 検出遺構

平成20年度調査で検出された遺構は、竪穴住居跡9棟、竪穴住居状遺構1棟、土器埋設遺構1基、土坑44基、焼土遺構1基、柱穴状土坑1個、沢沿いに形成された遺物包含層7箇所である。このうち72・73号土坑については、当該年度にセクション図まで作製し、完掘と平面実測は次年度に繰り延べている。また、この他IV区では旧石器時代の石器集中区が1箇所確認されている。

(1) 竪穴住居跡

竪穴住居跡は、I区小宗沢沿いに5棟、III区南側に1棟、遺跡南西部の工事用道路分（以下IV区と表す）に3棟確認された。共伴する遺物から、前者は概ね縄文時代中期末葉から後期前葉に、後者は中期後葉に属するものと考えられる。本遺跡における竪穴住居跡の特徴としては、礫が實際に配される3棟の配石住居が挙げられる。

1号竪穴住居跡

遺構（第60図、写真図版34）

【位置・検出状況】F X II 32・33・42・43グリッドに跨って位置し、北側2mには2号竪穴住居跡が、南東1mには59号土坑がある。重機による表土掘削の際、基盤の礫層とそれとの区別がつかず、抜いてしまった礫の痕跡が円形に巡ることで確認した。竪穴状の掘り込みは認められず、礫の外側に柱穴も見あたらない。

【微地形】沢の南側に広がる北向きの緩斜面。

【規模・平面形】礫が円形に据えられた痕跡が15箇所ほど認められ、その範囲は南北290m、東西330mを測る。わずかに東西方向に長い。平面形は橢円形を呈していたものと思われる。

【埋土】土器片や炭化物紋を含む黒褐色土と褐色土の混合土（単層）である。既にこれが床面である可能性もあるが、定かでない。

【壁・底面】底面は平坦で、長さ13~57cmほどの数個の礫が床面に散在している。壁は立ち上がりが認められない。

【炉】幅10cm前後、長さ13~27cmの礫8個からなる石窯が検出された。68×55cmほどの大きさで、遺構の中央からわずかに東側に寄る。炉の東側は礫が途切れている。炉内に焼土は形成されておらず、煮炊きの機能を有したものか判然としない。

【柱穴・ピット】検出されていない。

遺物（第85・113図、写真図版67・83）

石で囲まれていたと思われる籠所から出土したものである。

【縄文土器】底面およびわずかにある埋土から496.3g出土し3点（201~203）掲載した。

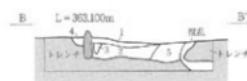
【石器】台石2点と石棒状のもの1点（S205~S207）、あわせて3点のほか28.71kg出土した。剥片類は出土しなかった。

時期 出土遺物から、縄文時代中期後半から後期初頭の遺構と思われる。

1号堅穴住居跡

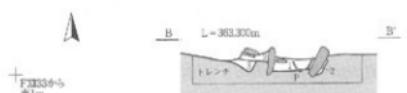


1号堅穴住居跡
1 IOYR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 細色土との混合土
炭化物をまばらに含む 覆土なのが明瞭でない



1号堅穴住居跡 炙
1 IOYR3/3 暗褐色 シルト 粘性なし・しまり中 炭化物を含むが焼土が形成されず
2 IOYR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 細色土との混合
3 IOYR4/3 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 焼土の塊
4 IOYR4/3 深い黄褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 焼の握り方
5 IOYR3/4 黒褐色 砂質シルト 粘性中・しまり弱 黒色土ブロック含む

2号堅穴住居跡



2号堅穴住居跡 炙
1 IOYR3/3 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 炭化物を含む
2 IOYR4/4 暗褐色 砂質シルト 粘性中・しまり中 焼の握り方
3 IOYR3/3 暗褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり中 黑色土との混合土



第60図 1・2号堅穴住居跡

2号竪穴住居跡

遺構（第60図、写真図版35）

【位置・検出状況】F X II 22・23・32・33グリッドに跨って位置する。南側にある1号竪穴住居跡のほかは周辺に遺構が存在しない。これも1号竪穴住居跡同様、抜いてしまった礫の痕跡で確認した。遺構の東側は礫の痕跡が途切れており、出入り口になる可能性があろう。

【微地形】沢の南側に広がる北向きの緩斜面。

【規模・平面形】礫の痕跡は15箇所あまりで、その間に幅13cm長さ90cmの巨礫が1個認められる。痕跡の広がる範囲は、南北が2.50m、東西が2.72mであり、これもわずかに東西方向が長い。平面形は円形をなしていたであろう。

【埋土】これも土器片と炭化物粒を含む黒褐色土と褐色土の混合土（単層）である。

【壁・底面】底面は大きく波打つ。床面には、炉の構成礫のほかに長さ22~30cmほどの礫が7~8個散在する。明瞭な壁の立ち上がりは認められない。

【炉】幅7~13cm、長さ25~37cmの礫4、5個からなる石囲炉を1基検出した。52×44cmの大きさで、これも遺構の中央からわずかに東側に寄る。炉自体は、扁平な細長い礫で四角く囲むことによって作られ、その西側には数個の礫が重なるようある。この炉にも焼土は形成されていないが、土器の底部が1個体確認できた。

【柱穴・ピット】検出されていない。

遺物（第85・114図、写真図版67・83）

これも配石で囲まれていた箇所から出土したものである。

【縄文土器】底面および埋土から470.7g出土した。3点（204・205a・205b）掲載した。

【石器】炉の構成礫として出土した石皿（S209）ほか2点掲載した。この他、剥片類が2点14.7g。

時期 出土遺物から、縄文時代中期後半から後期初頭の遺構と思われる。

3号竪穴住居跡

遺構（第61図、写真図版36）

【位置・検出状況】F X II 34・35グリッドに跨って位置し、本遺構の南東側にある4号竪穴住居跡とは約1.5mの距離がある。これも抜いてしまった礫の痕跡が検出の契機となった。1・2号竪穴住居跡よりは壁際に巡る礫の残りもよく、遺構自体の掘り込みもそれらより深い。重複する遺構はない。

【微地形】沢の南側に広がる北向きの緩斜面。

【規模・平面形】15個ほどの礫と礫の抜けた痕跡5箇所ほどから円形のプランを想定した。その範囲は北西-南東3.96m、北東-南西3.64mである。平面形は円形基調である。

【埋土】3層に分けたが、主体は上位の黒褐色土と下位のにぶい黄褐色土である。いずれも小礫や炭化物粒を含む。

【壁・底面】底面に細かな凹凸をもつが、全体的には平坦である。長さ12~36cmの礫が床面に散在する。壁の立ち上がりはいずれも緩やかで、壁高は10~20cmである。

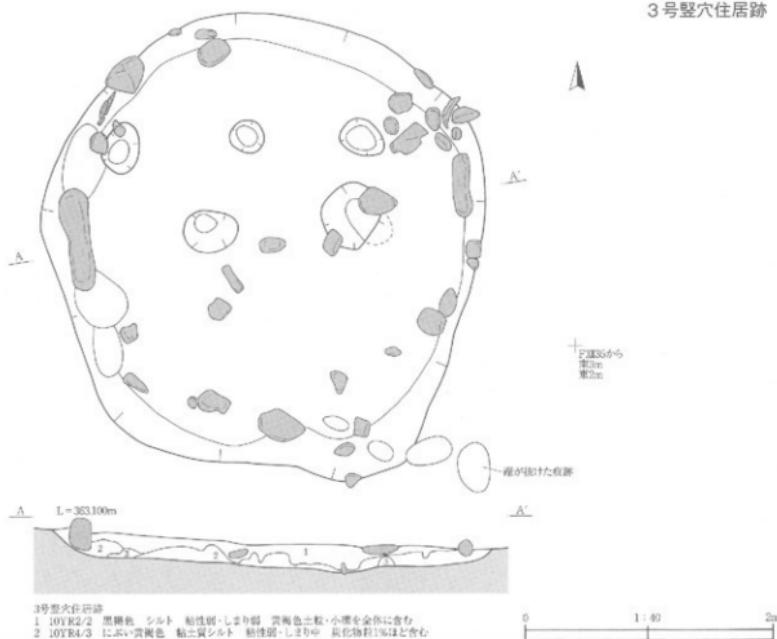
【炉】検出されない。

【柱穴・ピット】P P 1~5の5個検出された。大きさは直径30~50cm、底面からの深さは25~43cmである。これら5個の柱穴だけでは成り立たない。

遺物（第85・114~117図、写真図版67・84・85）

竪穴状の埋土から出土したものである。

3号竪穴住居跡



第61図 3号竪穴住居跡

〔縄文土器〕 底面および埋土から4,397.8g出土した。7点(206~212)掲載した。

〔石器〕 比較的石器類が多い。台石や四石、磨石など11点(S210~S220)掲載した。この他、剥片類が12点205.5g出土している。

時期 出土遺物から、縄文時代中期後半から後期初頭の遺構と思われる。

4号竪穴住居跡

遺構(第62図、写真図版37)

〔位置・検出状況〕 F X II 35・45・46グリッドに跨って位置し、63号土坑と遺構の北東側で重複する。本遺構のほうが古い。

〔微地形〕 沢の南側に広がる北向きの緩斜面。

〔規模・平面形〕 重複する63号土坑とともに、黒褐色土の円形の広がりが確認できた。遺構の北側は2箇所に擾乱が見られる。規模は4.18×4.04m、平面形は円形をなす。

〔埋土〕 7層に分けたが、上位は黒褐色土、中位は炭化物粒を多く含む褐色土、下位は地山の崩落ブロックを含む褐色土の3層が主体となる。

〔壁・底面〕 底面は全体的に平坦で、壁の立ち上がりはいずれも緩やかである。壁高は35~45cmを測る。

1 検出遺構

〔炉〕 ほぼ中央に地床炉を検出した。焼土の南側に35×24cmの礫が1個だけ横たわる。燃焼部の厚さは最大で6cmである。

〔柱穴・ピット〕 確認できなかった。

遺物（第85～87・117・118図、写真図版67・68・85・86）

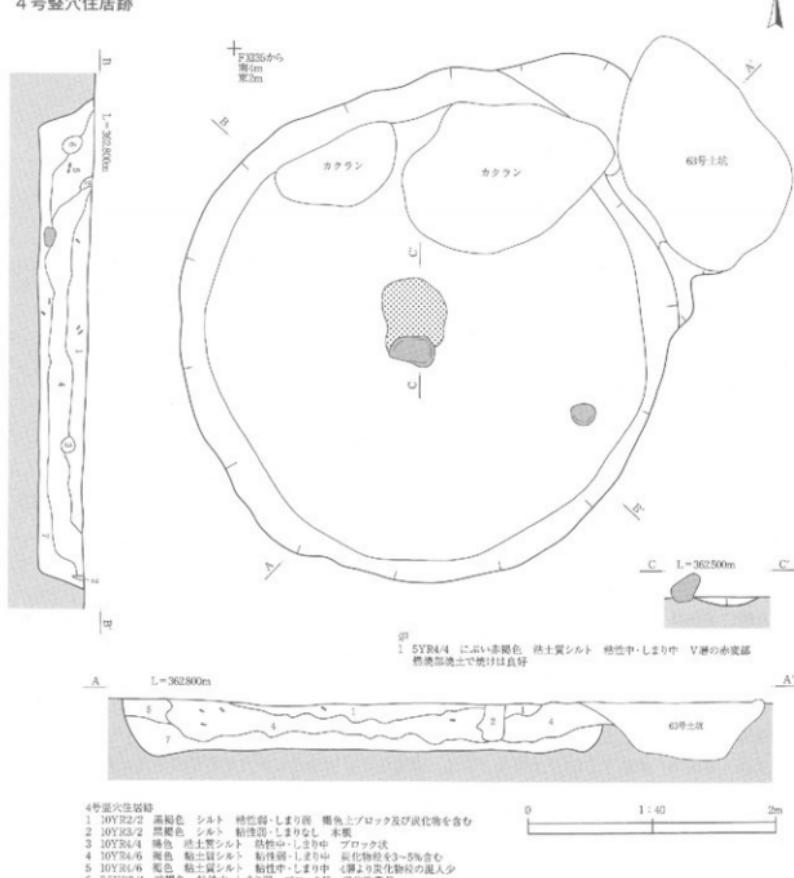
遺構に伴う遺物量では最も多いが、埋土から出土したもののが主体である。

〔純文土器〕 埋土を主体として14,961.2g出土した。22点（213～234）掲載した。

〔石器〕 四石と台石（S228・S230）のほか4,317.3g出土、10点掲載した。フレイク類は191.3g。

〔石製品〕 石製円盤（S231）が出土している。

4号竪穴住居跡



第62図 4号竪穴住居跡

時期 出土遺物から、縄文時代後期中葉の遺構と思われる。

5号竪穴住居跡

遺構（第63図、写真図版38）

【位置・検出状況】 F X II 1・2・11・12グリッドに跨る。最寄りの遺構は67号土坑で、北西方向におよそ6.5mの距離を置く。重複する遺構はない。

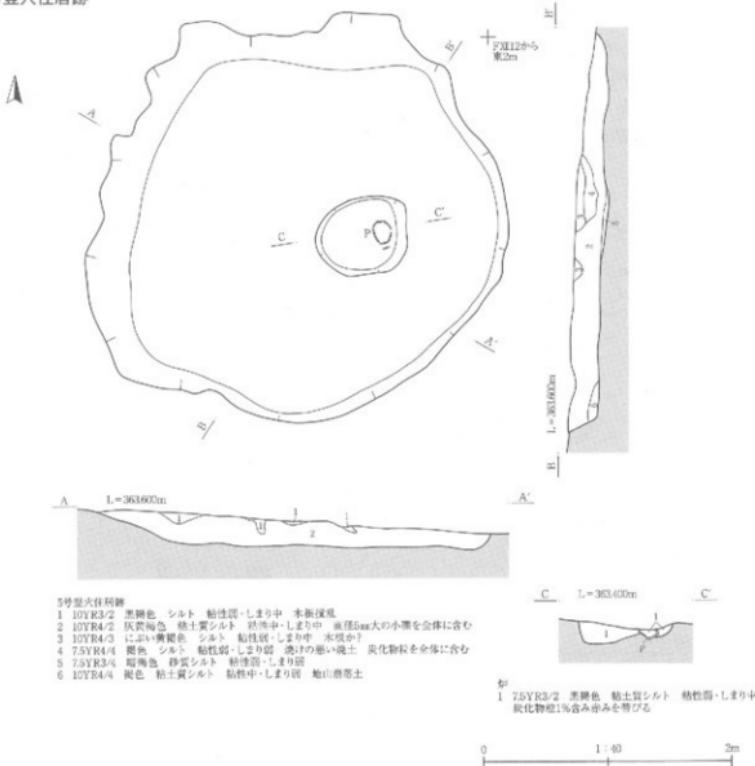
【微地形】 沢の南側に広がる北向き緩斜面の肩部付近。

【規模・平面形】 灰黄褐色土の円形の広がりで確認した。規模は3.60×3.40mで、平面形は円形を呈するが、北東側のプランは凹凸が著しい。

【埋土】 6層に分層したが、直径5mm程度の小砾を含む灰黄褐色土の単層が主体である。全体的に炭化物粒の混入がみられる。

【壁・底面】 底面は細かい凹凸があるものの、全体的に平坦である。壁は北西側が緩く立ち上がり、

5号竪穴住居跡



第63図 5号竪穴住居跡

他は外傾気味に見える。壁高は12~24cmである。

[炉] 中央やや東寄りに土器埋設炉が確認できた。掘り方と思われる掘り込みの大きさは76×60cmの楕円形で、深鉢形と思われる土器の底部が東側に埋められている。

[柱穴・ピット] 確認できなかった。

遺物（第87・118図、写真図版68・86）

[縄文土器] 埋土および炉から2,954.5g出土した。8点（235~242）掲載した。

[石器] 敵石？（S233）と使用痕のある剥片（S232）のほか、フレイク1点4.0gが出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代中期後半から後期初頭の遺構と思われる。

6号竪穴住居跡

遺構（第64図、写真図版39）

[位置・検出状況] III区J IX X 5グリッドに位置し、本遺構の北側から東側を中心に4基の土坑が点在する。重複する遺構はない。当初は直径1mほどの円形の土坑を想定し精査したが、その周りの地山によく似る黄褐色土まで広がり、さらに石窯炉を作うことから住居跡とした。

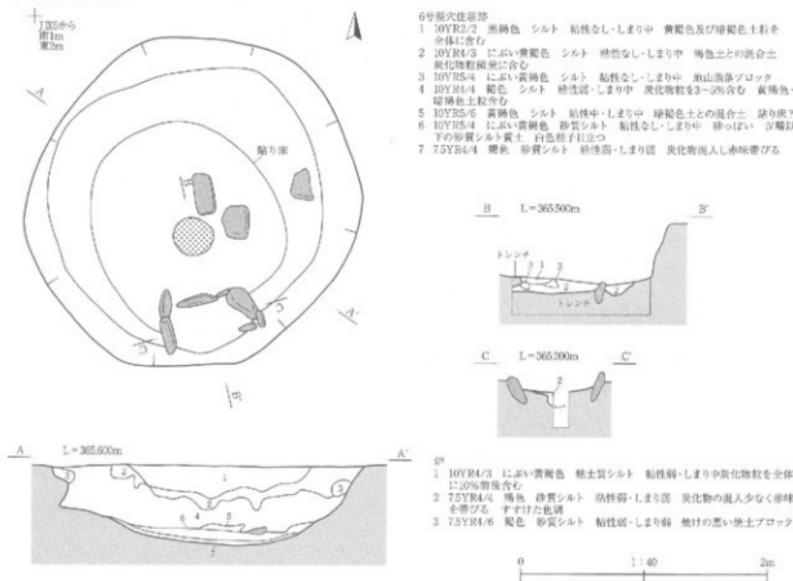
[微地形] 南側にある埋没沢に傾斜する南西向き緩斜面の肩部付近。

[規模・平面形] 規模は2.74×2.36m、平面形は円形を呈する。

[埋土] 7層に分層した。埋土は上位が黒褐色土、中～下位は炭化物粒を含む褐色土が主体であるが、その下に赤味のある貼り床的な層が2枚あり、これらはいずれも砂を感じる褐色基調の層である。

[壁・底面] 底面はほぼ平坦で10個ほどの躙が散在する。南壁際にある大小7個の躙は、壁以外の三

6号竪穴住居跡



第64図 6号竪穴住居跡

方を囲むように配され、一見石囲炉のように見える。また、長さ30cmを超える礫2個は地床炉の周辺にあり、がとの関連を思わせる。壁は、北西壁の一部がオーバーハングする以外は外傾しながら立ち上がり、壁高は37~53cmである。

〔炉〕 床面の中央に地床炉を検出した。燃焼部は、直径32cm、厚さ4cmほどの円形をなす。焼け具合はあまり良くない。

〔柱穴・ピット〕 確認できなかった。

遺物（第87図、写真図版68）

〔縄文土器〕 埋土から844.9g出土し、1点掲載した（243）。

〔石器〕 石器類は出土していないが、長辺が30cm前後の礫3個が床面直上に見られた。

時期 出土遺物から、縄文時代中期後半から後期初頭の遺構と思われる。

7号竪穴住居跡

遺構（第65図、写真図版40）

〔位置・検出状況〕 IV区のS I 7・17グリッドに位置し、北東方向に8号竪穴住居跡が隣接する。重複する遺構はないが、遺構の北西部に一部搅乱がみられる。IV層上面で検出した。

〔微地形〕 前川に向かう東向きの緩斜面上にある。

〔規模・平面形〕 規模は3.58×3.33mを測り、平面形は隅丸の台形状をなす。

〔埋土〕 4層に分層した。主体は上位の黒褐色土と下位の灰黄褐色土の2層で、壁際に地山崩落土を含む。

〔壁・底面〕 底面はほぼ平坦で、一部高めとなる箇所がある。壁はいずれも外傾して立ち上がり、壁高は12~20cmを測る。

〔炉〕 検出されない。

〔柱穴・ピット〕 北西寄りに土坑が1基検出された。80×65cmほどの大きさで、深さは10cm弱である。柱穴は確認できなかった。

遺物（第88・118・119図、写真図版68・86・87）

〔縄文土器〕 埋土を主体として1,946.1g出土している。6点（244~249）掲載した。

〔石器〕 半円状扁平打製石器ほか2点（S234・S235）掲載した。この他、フレイク・チップ類は8点、85.7g出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代中期初頭から中葉にかけての遺構と思われる。

8号竪穴住居跡

遺構（第66図、写真図版41）

〔位置・検出状況〕 IV区R I 97・98、S I 7・8グリッドに跨り、西側1.2mほどに80号土坑がある。重複する遺構はない。IV層上面で検出した。

〔微地形〕 前川に向かう東向きの緩斜面上にある。

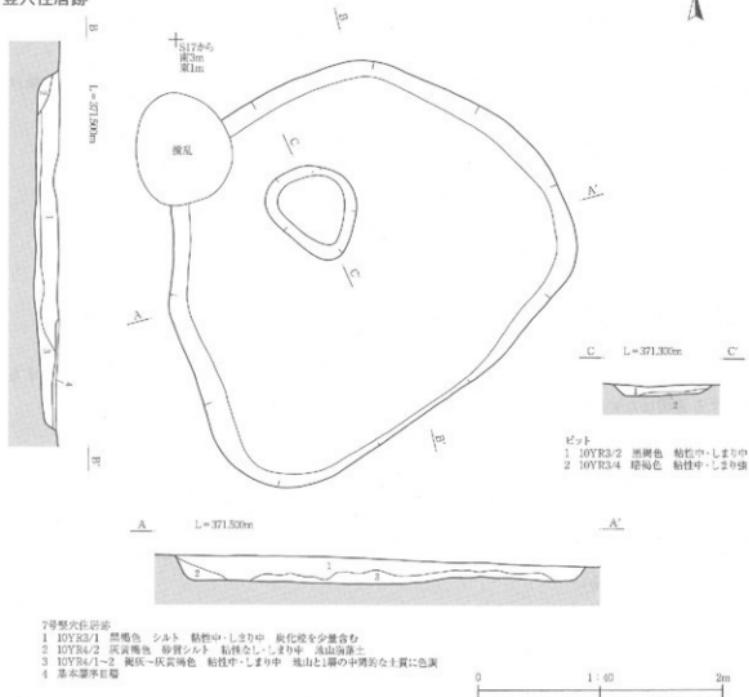
〔規模・平面形〕 規模は6.44×4.88m、平面形は楕円形をなす。

〔埋土〕 上下2枚の暗褐色土と下位の一部に堆積する灰黄褐色土からなる。遺構のプラン内に、基本層序Ⅱ層が落ち込んでいる。

〔壁・底面〕 底面は全体的に平坦である。壁はいずれも緩く立ち上がる。壁高は15~30cmを測る。

〔炉〕 検出されない。

7号竪穴住居跡



第65図 7号竪穴住居跡

【柱穴・ピット】中央北寄りにPit 1（規模：95×77cm、深さ：18cm）、同じく南東寄りにPit 2（規模：135×135cm、深さ：12cm）、柱穴状の土坑PP1（規模：直径30cm）をPit 1の南側に確認した。

遺物（第88・89・119～121図、写真図版69・70・87・88）

【縄文土器】床面および埋土、Pit 1から全部で11,398.1g出土した。20点（250～269）掲載した。

【石器】凹石、磨石など11点（S236～S246）掲載した。剥片類は水晶など30点あまり、582.3g出土している。

時期 出土遺物から、縄文時代中期初頭から中葉にかけての遺構と思われる。

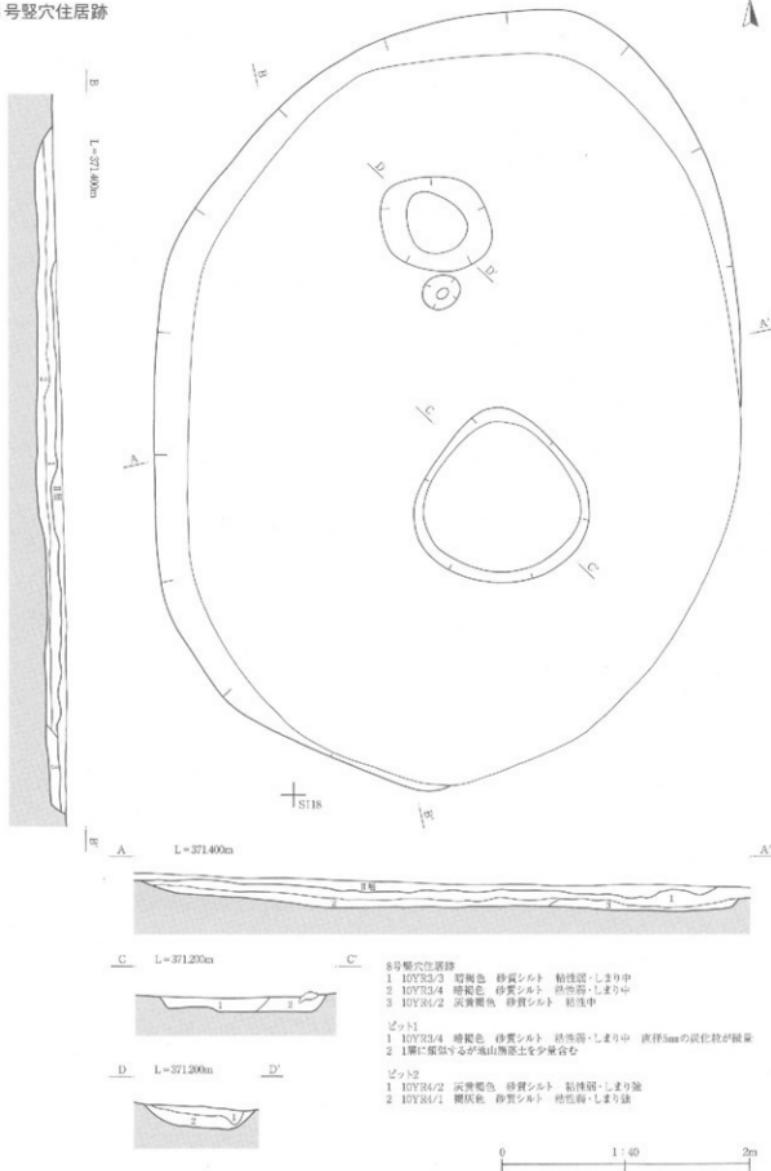
9号竪穴住居跡

遺構（第67図、写真図版42）

【位置・検出状況】IV区 R 185・86・95・96グリッドに跨る。最寄りの遺構は、南東4mほどにある81号土坑である。IV層上面で検出した。重複する遺構はないが、南東壁の一部に搅乱がみられる。

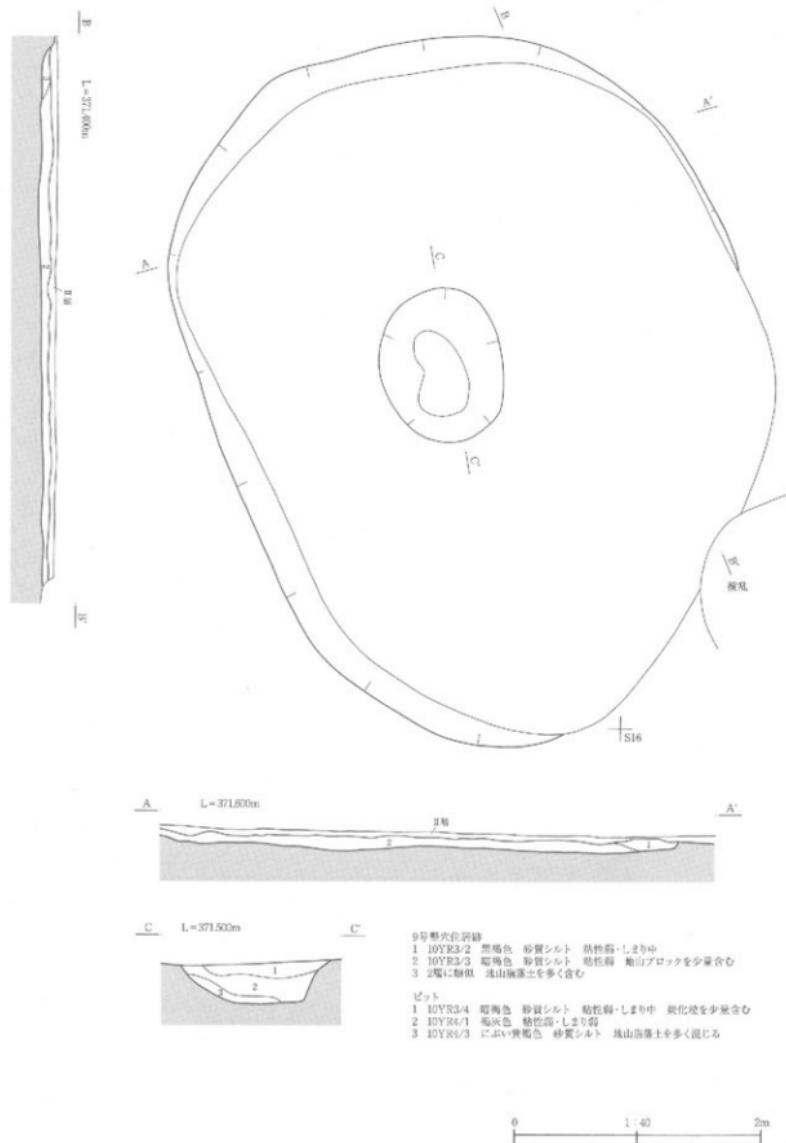
【微地形】前川に向かう東向きの緩斜面上にある。

8号竪穴住居跡



第66図 8号竪穴住居跡

9号竪穴住居跡



第67図 9号竪穴住居跡

〔規模・平面形〕 規模は5.85×4.48mで、平面形は不整な梢円形である。

〔埋土〕 3層に分けた。褐色の單層で、壁際に黒褐色土がみられる箇所がある。

〔壁・底面〕 底面は全体的に平坦である。壁は緩く外傾して立ち上がる。壁高は15cm前後を測る。

〔炉〕 検出されない。

〔柱穴・ピット〕 中央部にPit 1（規模：126×100cm、深さ：36cm）を確認した。貯蔵穴か。

遺物（第89・90・122図、写真図版70・88）

〔縄文土器〕 床面や埋土、Pit 1から4.172.1g出土した。9点（270～278）掲載した。

〔石器〕 磨面と凹みを有する礫石器（S247）、使用痕のある剥片（S248）など2点掲載した。剥片類は4点、49.8g出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代中期初頭から中葉にかけての遺構と思われる。

（2）竪穴住居状遺構

I区小寒沢沿いに1棟確認された。沢側へ大きく傾斜が変わる地点にあり、ほんのわずかのところで浸食を免れている。

3号竪穴住居状遺構

遺構（第68図、写真図版43）

〔位置・検出状況〕 FXII 25グリッド付近に位置する。IV層上面で検出された。本遺構西側の床面に68号土坑が確認された。本遺構のほうが新しいと判断した。

〔微地形〕 沢の南側に広がる北向き緩斜面の肩部。

〔規模・平面形〕 開口部径5.39×3.85mの不整な梢円形をなす。

〔埋土〕 層下部に黄褐色土ブロックを含む黒褐色土の單層である。土器・石器を多く含むが、とりわけ門石の出土が目立つ。

〔壁・底面〕 底面はIV層下の礫層が主体で、全体に凹凸が著しい。壁は緩くダラダラと立ち上がる。検出面から底面までの深さは最大で41cmである。

〔柱穴・ピット〕 柱穴状の小ピットをPP 1～6の6個検出した。直径30～40cm前後、床面からの深さは15～40cmである。配置があまりに不規則であり、柱穴の機能を持つものでない可能性がある。68号土坑との関係も判然としない。

遺物（第90・91・122～126図、写真図版70・88～90）

土器・石器とも4号竪穴住居跡に次ぐ遺物量である。特に石器は凹石の出土が目立つ。

〔縄文土器〕 埋土から14.961.2g出土した。22点掲載した（279～300）。

〔石器〕 凹石15点（S252～S266）のほか、尖頭器（S250）・石礫（S249）など、20点掲載した。フレイク・チップ類は50点あまり、192.8g出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代中期末葉から後期初頭に属すると思われる。作業場か。

（3）土器埋設遺構

3号土器埋設遺構

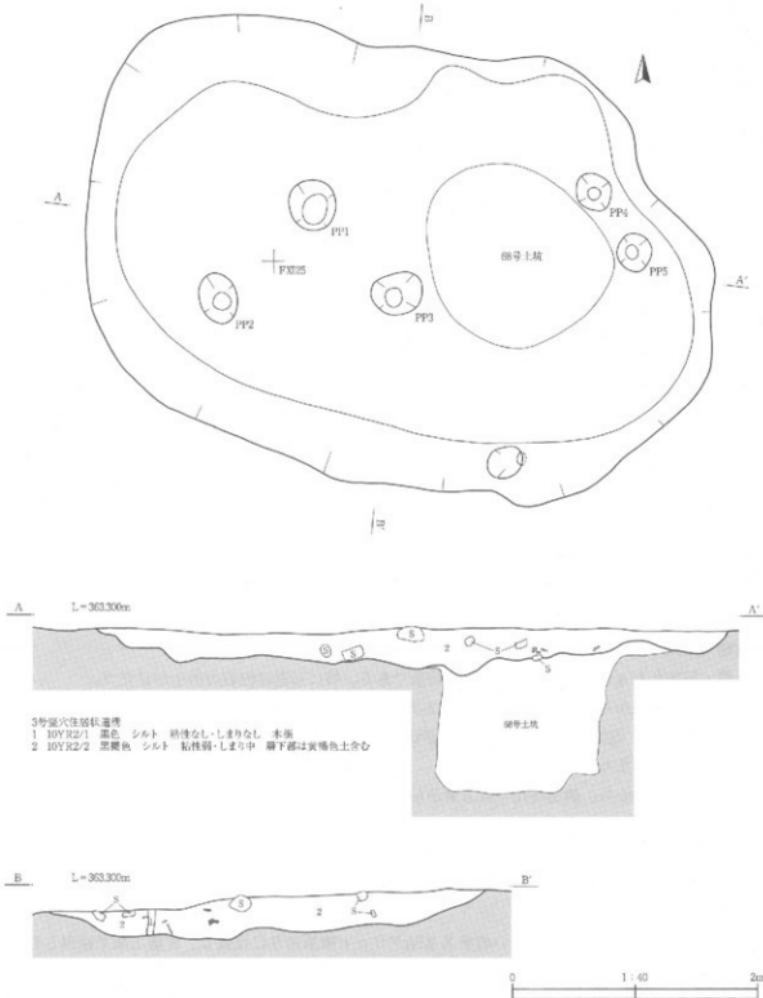
遺構（第69図、写真図版48）

〔位置・検出状況〕 I区小寒沢沿いのFX II 55グリッド南東寄りに位置し、IV層上面で検出された。竪穴住居跡や土坑が集中する区域の高位部分にある。

[規模・平面形] 埋設された土器は、後世の掘削により上部を欠く。検出面では、北一南24×東一西28cmの不整な楕円形に土器が確認できた。断ち割りした状態で見た掘り方の直径は42cmであるが、平面プランは不明瞭であった。

[構築方法] 掘り方は、埋設土器よりも5~10cm大きく掘られ、その深さは検出面から20cmほどと思われる。そこに深鉢形土器を正立状態で据え、地山によく似た暗褐色土を埋め戻している。

遺物（第91図、写真図版71）



第68図 3号壁穴住居状遺構

〔縄文土器〕301の深鉢形土器が埋め込まれていた。土器の上部は削りとられている。

〔石器〕埋設土器内に黒曜石が1点0.8g入っていた。

時期 土器の特徴、周辺にある遺構との関係から、縄文時代中期末葉から後期初頭としておく。

(4) 土 坑

土坑は、I区小寒沢沿いに20基、III区に17基、IV区に7基の全部で44基（38～81号土坑）確認した。出土した遺物の特徴から、概ねI区は縄文時代中期後葉から後期前葉、III区は前期後葉、中期前葉の年代が与えられる。これらの周辺にある竪穴住居跡の年代もほぼそれに近いことから、各集落内で同時に使用されたものと思われる。

38号土坑

遺構（第69図、写真図版44）

〔位置・検出状況〕I I X73・83グリッドに跨る。IV層上面で検出した。

〔規模・平面形〕開口部径140×129cmの不整椭円形を呈する。

〔埋土〕上位は小礫を含む黒褐色土、下位はにぶい黄褐色土の2層からなる。

〔壁・底面〕断面形は逆台形状で西壁は緩く立ち上がる。底面までの深さは54cmである。

遺物

〔縄文土器〕8.5g出土した。

〔石器〕出土していない。

時期 縄文時代のいずれかに属するが、中期末葉から後期初頭の可能性が高い。

39号土坑

遺構（第69図、写真図版44）

〔位置・検出状況〕J I X25グリッド北東隅に位置し、IV層上面で40号土坑に隣接して検出された。

〔規模・平面形〕開口部径135×122cmで、平面形は円形である。

〔埋土〕上位は黒褐色土、中～下位は礫を多く含むにぶい黄褐色土からなり、壁際に褐色土を含む。礫は人為的に入れられたものか。

〔壁・底面〕断面形は浅いバケツ形で底面はわずかに傾斜がある。壁は直立気味に立ち上がる。深さは82cmを測る。

遺物（第91・127図、写真図版71・91）

〔縄文土器〕136.5g出土し1点（302）掲載した。

〔石器〕石棒状の石製品1点2,800g（S269）。

時期 縄文時代のいずれかに属するが、中期末葉から後期初頭の可能性が高い。

40号土坑

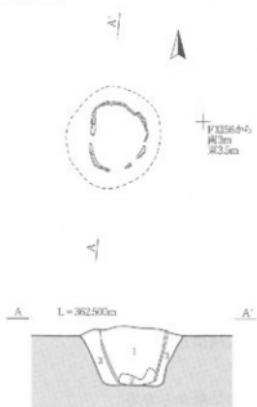
遺構（第69図、写真図版44）

〔位置・検出状況〕J I X6・16グリッドに跨っている。IV層上面で39号土坑とともに検出した。

〔規模・平面形〕開口部径196×175cmの円形である。

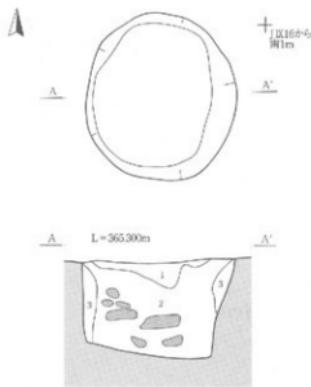
〔埋土〕3層に分層した。上位は礫を多く含む黒褐色土、中位は炭化物粒を含むにぶい黄褐色土、下位は小礫を含む褐色土である。これらの礫も人為的に入れられたものと思われる。

3号土器埋設遺構



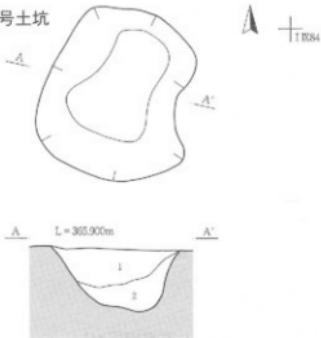
- 3号土器埋設遺構
 1 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 黄褐色土塊
 を全幅に含む
 2 10YR4/4 黑褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 黑褐色土塊含む
 3 10YR3/3 黒褐色 粘土質シルト 粘性弱・しまり中 通じて区別しにくいが
 やや黒味を帯びる

39号土坑



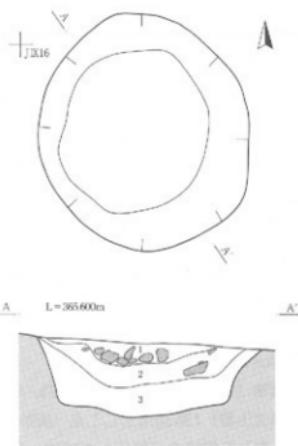
- 39号土坑
 1 10YR4/2 黑褐色 シルト 粘性なし・しまり弱 黑褐色土との混合土
 2 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 豆羅を数個含む
 それ以外混入物なし
 3 10YR4/4 黑色 粘土質シルト 粘性弱・しまり弱 2層より若干明るい色調

38号土坑



- 38号土坑
 1 10YR4/2 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり中 黑色ブロック
 及び木棒を含む
 2 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中
 層上面に1層のブロック層入

40号土坑



- 40号土坑
 1 10YR3/2 黑褐色 粘土質シルト 粘性弱・しまり中 直径50~200mm
 大の羅多い
 2 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性弱・しまり中 黄褐色土塊含む
 黄褐色土塊含む
 3 10YR4/4 黑色 粘土質シルト 粘性弱・しまり弱 小羅含む



第69図 3号土器埋設遺構、38~40号土坑

〔壁・底面〕断面形は逆台形状で東壁は外反する。底面までの深さは66cmである。

遺物（第91図、写真図版71）

〔縄文土器〕埋土から1,077.6g出土し7点（303～309）掲載した。

〔石器〕剥片類が10点118.2g出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代中期中葉から後葉にかけての遺構と思われる。

41号土坑

遺構（第70図、写真図版44）

〔位置・検出状況〕J I X6グリッドの北西隅にあり、IV層上面で6号堅穴住居跡とともに検出した。その距離は南西方向におよそ2mである。

〔規模・平面形〕開口部径198×162cmの略円形で、遺構北西側の一部を掘りすぎている。プラスコ状にはならない。深さは78cmである。

〔埋土〕7層に分層した。人為的に埋め戻された様相である。上位は炭化物粒を含む黒褐色土、中位はにぶい黄褐色と褐色土、下位はにぶい黄褐色土と灰黄褐色土で、最下部は砂っぽく堅く締まる。

〔壁・底面〕断面形は逆台形状で、いずれの壁も内溝気味に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

遺物（第92・127図、写真図版71・91）

〔縄文土器〕埋土から1,647.7g出土した。1点（310）掲載した。

〔石器〕石匙、石皿など3点（S270～S272）掲載した。その他、フレイクが1点1.9g出土した。

時期 出土遺物から、中期末葉の遺構と思われる。

42号土坑

遺構（第70図、写真図版45）

〔位置・検出状況〕I I X95・J I X5グリッドに跨って位置する。同じくIV層上面で検出され、6号堅穴住居跡とは南に3mの距離を置く。

〔規模・平面形〕開口部径184×168cmの略円形で、深さは66cmを測る。

〔埋土〕5層に分層した。上位は暗褐色土、中位は褐色土、下位は暗褐色土粒を含む褐色土からなる。南東側の壁際は、粘性の強い褐色土が入り込む。自然堆積と思われる。

〔壁・底面〕断面形は逆台形状であるが、壁の立ち上がりが乱れている。底面はほぼ平坦である。

遺物（第92・127図、写真図版71・91）

〔縄文土器〕埋土から636.1g出土した。2点（311・312）掲載した。

〔石器〕石匙（S273）が1点出土した。

時期 出土遺物から、中期末葉の遺構と思われる。

43号土坑

遺構（第70図、写真図版45）

〔位置・検出状況〕I I X68グリッド北側中央に位置し、IV層上面で検出された。最寄りの遺構は、北東方向1mにある44号土坑である。

〔規模・平面形〕開口部径96×89cmの不整形で、深さは26cmである。

〔埋土〕褐色のブロックを含む黒褐色土の単層である。

〔壁・底面〕断面形は浅いバケツ状で、底面はプラスコ状に広がる部分がある。上部が削られたフラ

1 検出遺構

スコ状のものか。

遺物〔縄文土器〕〔石器〕ともに出土していない。

時期 出土遺物から、中期末葉の遺構と思われる。

44号土坑

遺構（第70図、写真図版45）

〔位置・検出状況〕 I I X 68グリッドの北東隅に位置する。IV層で検出した。

〔規模・平面形〕 開口部径106×95cmの円形で、深さは34cmである。

〔埋土〕 3層に分けた。主体は炭化物粒を含む黒褐色土で、西側の壁際には暗褐色土がみられる。

〔壁・底面〕 断面形は皿状で、西壁は直立気味に立ち上がる。底面にはわずかに凹凸がみられ、長さ10~35cmの躰が9個あまり折り重なるように入れられていた。

遺物

〔縄文土器〕 埋土から細片2点16.9g。

〔石器〕 出土していない。

時期 出土遺物は少ないが、縄文時代中期末葉から後期初頭の墓壙の可能性があるものとしておく。

45号土坑

遺構（第70図、写真図版45）

〔位置・検出状況〕 I I X 59グリッドの北西側に位置する。IV層で検出した。

〔規模・平面形〕 開口部径116×125cm、底部部径124×114cm、深さ57cm。不整な円形をなす。

〔埋土〕 大きく2層に分層した。これも主体は炭化物粒を含む黒褐色土で、壁際ににぶい黄褐色土が堆積する。部分的に橙色焼土粒を含む。

〔壁・底面〕 断面形はフラスコ状をなすが、深さがなく遺構の上部は削られた様相である。底面は平坦であるが、わずかに傾斜している。

遺物（第92・128図、写真図版71・91・92）

〔縄文土器〕 埋土から624.4g出土し2点（313・314）掲載した。

〔石器〕 凹石3点（S276~S278）を掲載した。この他には出土していない。

時期 出土遺物から、縄文時代中期末葉から後期初頭の土坑と思われる。

46号土坑

遺構（第71図、写真図版46）

〔位置・検出状況〕 I I X 38グリッドの北西側に位置する。最寄りの遺構は南側12mほどにある45号土坑である。IV層で検出した。

〔規模・平面形〕 開口部径135×124cmで、深さは29cmを測る。平面形は隅丸方形状である。

〔埋土〕 上位は褐色土粒を含む黒褐色土、中位は暗褐色土、下位はにぶい黄褐色土の3層に分層した。

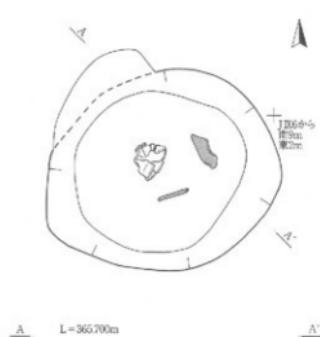
〔壁・底面〕 断面形は浅皿状で、底面は丸みをもつ。壁はいずれも直立気味に立ち上がっている。

遺物〔縄文土器〕〔石器〕ともに出土していない。

時期 縄文時代に属するが、詳細な時期は不明である。

47号土坑

41号土坑



41号土坑

- 1 10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 黄褐色土粒・鉄化物微
まばらに含む。
- 2 10YR3/3 に赤い黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 土器片や
直径200mm以上の埋有
- 3 10YR5/4 に赤い黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 黄褐色土の小
塊を多く含む
- 4 10YR4/4 黄色 多量シルト 粘性弱・しまり中 鉄化物少量含む
- 5 10YR4/5 黄色 多量シルト 粘性弱・しまり中 4cmより高さあり
- 6 10YR4/3 に赤い黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 湿入物なし
- 7 10YR4/2 沼黃褐色 細質シルト 粘性中・しまり強 精っぽいが
かたく継まる

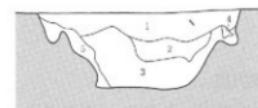
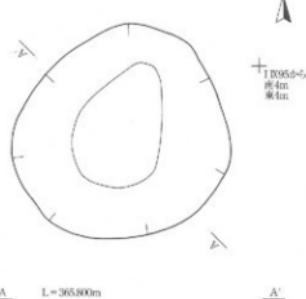
43号土坑



43号土坑

- 1 10YR2/2 黒褐色 粗土質シルト 粘性弱・しまり中
鉄化物をわずかに含む 入れこまれたような様子を含む
- 2 10YR4/1 黄色 シルト 粘性弱・しまり中
黄褐色土との混合土

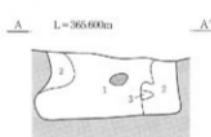
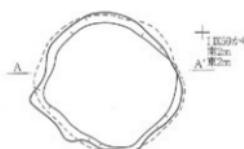
42号土坑



42号土坑

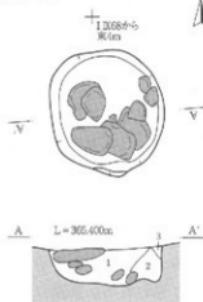
- 1 10YR5/3 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 黄褐色土粒・黄褐色土粒を全体に含む
- 2 10YR5/5 黄褐色 細質シルト 粘性弱・しまり弱 黄褐色土粒と鉄化物を含む
- 3 10YR4/6 黄色 シルト 粘性弱・しまり中 黄褐色土粒の混合土 駆け足しない
- 4 10YR4/4 に赤い黄褐色 粗土質シルト 粘性弱・しまり中 ロームブロック
- 5 10YR4/6 沼色 粗質シルト 粘性強・しまり中 移を感じず粘性が強い

45号土坑



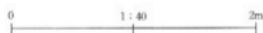
- 1 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性なし・しまりなし
鉄化物を5~7%程度含む
- 2 10YR5/3 に赤い黄褐色 細質シルト 粘性なし・
しまり中 黄褐色土粒及び鉄化物を含む
- 3 10YR4/3 紅色 シルト 粘性中・しまり中
鉄化物土粒を全体に含む

44号土坑



44号土坑

- 1 10YR2/2 黒褐色 粗土質シルト 粘性弱・しまり中
鉄化物をわずかに含み 入れこまれたような様子を含む
- 2 10YR3/3 黄褐色 粗土質シルト 粘性中・しまり中
黄褐色土粒をまばらに含む
- 3 10YR4/4 黄色 シルト 粘性弱・しまり中
地山ブロック



第70図 41~45号土坑

遺構（第71図、写真図版46）

【位置・検出状況】 I X41グリッドの北東隅に位置し、本遺構の南西方向約4mに48号土坑がある。とともにIV層で検出された。

【規模・平面形】 開口部径136×140cm、底部径93×84cmの不整円形を呈する。検出面からの深さは78cmである。底面の中央部には直径20cm弱、深さ4cmの削穴を1個有する。

【埋土】 5層に分層された。上～中位は中央に炭化物を含む黒褐色土、それを囲むように暗褐色土が堆積し、下位は橙色の焼土ブロックや炭化物粒を含む褐色土からなる。

【壁・底面】 西壁は崩落のためか一部フ拉斯コ状を呈し、東壁は直立気味に立ち上がっている。

遺物（第92・128図、写真図版71・92）

【縄文土器】 墓土から553.3g出土した。2点（315・316）掲載した。

【石器】 台石1点（S279）9,820.0g。その他フレイクが1点18.0g出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代中期末葉から後期初頭に属すると思われる。

48号土坑

遺構（第71図、写真図版46）

【位置・検出状況】 I X40・I X41グリッドに位置する。

【規模・平面形】 開口部径216×152cmの隅丸長方形をなす。検出面からの深さは19cmである。

【埋土】 大きく3層に分層された。上位は炭化物粒を含む暗褐色土、それ以下は黒褐色土や暗褐色土が人為的に入れられている様相である。耳栓も出土しており、形状などからも墓の可能性がある。

【壁・底面】 壁はいずれも直立気味に立ち上がる。底面は細かい凹凸もなく平坦である。

遺物（第93図、写真図版71・72）

【縄文土器】 墓土から688.5g出土した。4点（317～320）掲載した。

【土製品】 上述の土製品1点（321）。

【石器】 出土していない。

時期 出土遺物から、後期前葉から中葉に属する土坑である。

49号土坑

遺構（第71図、写真図版46）

【位置・検出状況】 I I X60グリッドに位置する。本遺構と重複する51号土坑とともにIV層で検出しが、当初重複していることには気付かなかった。本遺構のほうが新しいと思われるが、不確かである。

【規模・平面形】 開口部径126×116cm、底部径125×112cmの略円形をなす。深さは64cmである。

【埋土】 6層に分層した。上位は炭化物粒を含む暗褐色土、中～下位は褐色土や暗褐色土が主体である。最下部には、炭化物粒や焼土粒を含む黒色土が、實際にはIV層起源の地山崩落土がみられる。

【壁・底面】 壁はいずれも内頬気味に立ち上がり、いわゆるフ拉斯コ形をなす。残存する深さやその形状からみて、遺構上部は削られていると思われる。底面にはわずかに凹凸があり、中央部やや南寄りには24×20cm、深さ11cmほどの削穴を有する。

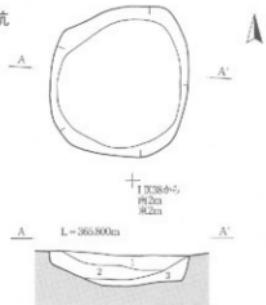
遺物（第93・129図、写真図版72・92）

【縄文土器】 墓土から246.5g出土している。かなり摩滅しているが1点（322）掲載した。

【石器】 石鏃、磨石、石皿の3点（S280～S282）を掲載した。この他にフレイク1点114.0g。

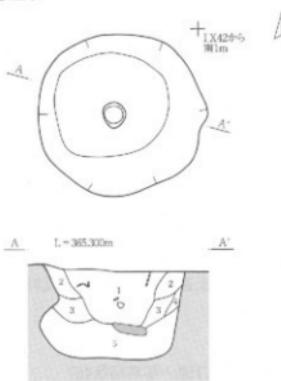
時期 出土遺物から、縄文時代中期末葉から後期初頭ごろの遺構と思われる。

46号土坑



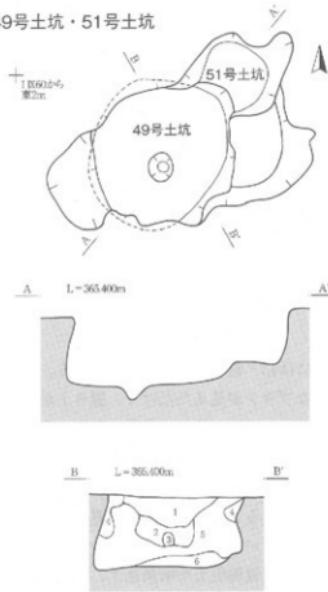
- 46号土坑
 1 10YR3/2 黑褐色 シルト 粘性なし・しまりなし 黒色土柱をわずかに含む
 2 10YR2/3 墓褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 1層よりもわずかに黒色が混れる
 3 10YR4/4 黒褐色 黏質シルト 粘性弱・しまり弱 小程度含む

47号土坑



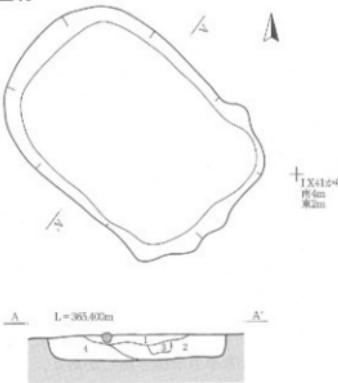
- 47号土坑
 1 10YR2/2 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり中 直径5~70mmの炭化物粒含む
 2 10YR3/3 墓褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 黑褐色土小ブロックを含む山形層底
 3 10YR3/4 墓褐色 粘土質シルト 粘性弱・しまり中 炭化物粒をまばらに含む
 4 10YR4/4 黒褐色 黏土質シルト 粘性弱・しまり中 黑褐色土二疊
 5 7.5YR4/4 黒褐色 粘土質シルト 粘性弱・しまり中 黑褐色土ブロック・炭化物粒を全体に含み 赤みを帯びている部分には褐色土を含む

49号土坑・51号土坑



- 49号土坑
 1 10YR2/3 墓褐色 シルト 粘性なし・しまり中 炭化物粒をわずかに含む
 2 10YR4/4 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり中 黑褐色土ブロック・炭化物粒・鐵土柱を含む
 3 7.5YR4/4 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり中 濃けたくろい塊土ブロック
 4 10YR3/4 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり中 濃青色(山形層底?)
 5 10YR2/2 黑褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり弱 黑褐色土ブロック及び
 無機物・炭化物粒を含む
 6 10YR2/2 黑褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり弱 炭化物粒と桃太郎を全量に含む

48号土坑



- 48号土坑
 1 10YR2/3 墓褐色 粘土質シルト 粘性弱・しまり弱 炭化物粒(直徑5mm
 径度)を含む
 2 10YR2/3 墓褐色 粘土質シルト 粘性弱・しまり中 黑褐色土小ブロック・
 炭化物粒含む
 3 10YR4/4 黑褐色 粘土質シルト 粘性弱・しまり中 及觸記濃青層底土
 4 10YR2/2 黑褐色 土質シルト 粘性中・しまり弱 炭化物粒・黑褐色土粒
 を全量に含む

第71図 46~49・51号土坑

0 1:40 2m

50号土坑

遺構（第72図、写真図版47）

【位置・検出状況】 I IX70グリッドの北西隅に位置し、本遺構の北約1mに53号土坑がある。ともにIV層で検出された。

【規模・平面形】 開口部径81×78cmの円形を呈し、深さは33cmである。

【埋土】 2層に分層された。黄褐色土粒を含む暗褐色土を基調とし、黒褐色土のブロックがその中にみられる。

【壁・底面】 底面はわずかに丸みをもち、壁はそこから直立気味に立ち上がる。

遺物 [縄文土器] [石器] ともに出土していない。

時期 出土遺物はないが、縄文時代中期末葉から後期初頭の可能性が高い。

51号土坑

遺構（第71図、写真図版46）

【位置・検出状況】 49号土坑で記載のとおりである。I IX50・I IX60グリッドに跨っている。

【規模・平面形】 開口部径72×?cmの不整形、深さは46cmである。

【埋土】 記録せずに掘り上げてしまったため不明。

【壁・底面】 底面は平坦である。残存する北東壁は直立気味に立ち上がっている。

遺物（第129図、写真図版92）

[縄文土器] 出土していない。

[石器] 挿削器2点（S283・S284）が出土した。この他には出土していない。

時期 出土遺物がなく詳細な時期は不明であるが、重複関係にある49号土坑よりも旧い可能性があることから、縄文時代後期初頭以前に属するものとしておく。

52号土坑

遺構（第72図、写真図版47）

【位置・検出状況】 I IX79グリッドに位置し、北側8~9mには43・44・53号土坑などがある。本遺構もIV層面で確認されたが、検出時には形の整わない不明瞭なプランが見えただけで、掘り上がりがこのように大きく広がるものとは思わなかった。埋土の状況から、壁際が徐々に崩落し埋まったことがわかる。ただし、南側・東側への広がりは掘り過ぎの可能性がある。

【規模・平面形】 開口部径432×336cm、底部径210×210cm、深さ132cmを測る。掘り上がった状況から、本来は240×280cm位の円形基調のプランをなしていたものと思われる。また、東側と西側の壁に2個で1対になる小さな張り出しがあり、太い柱状のものが据えられていた痕跡と考えている。

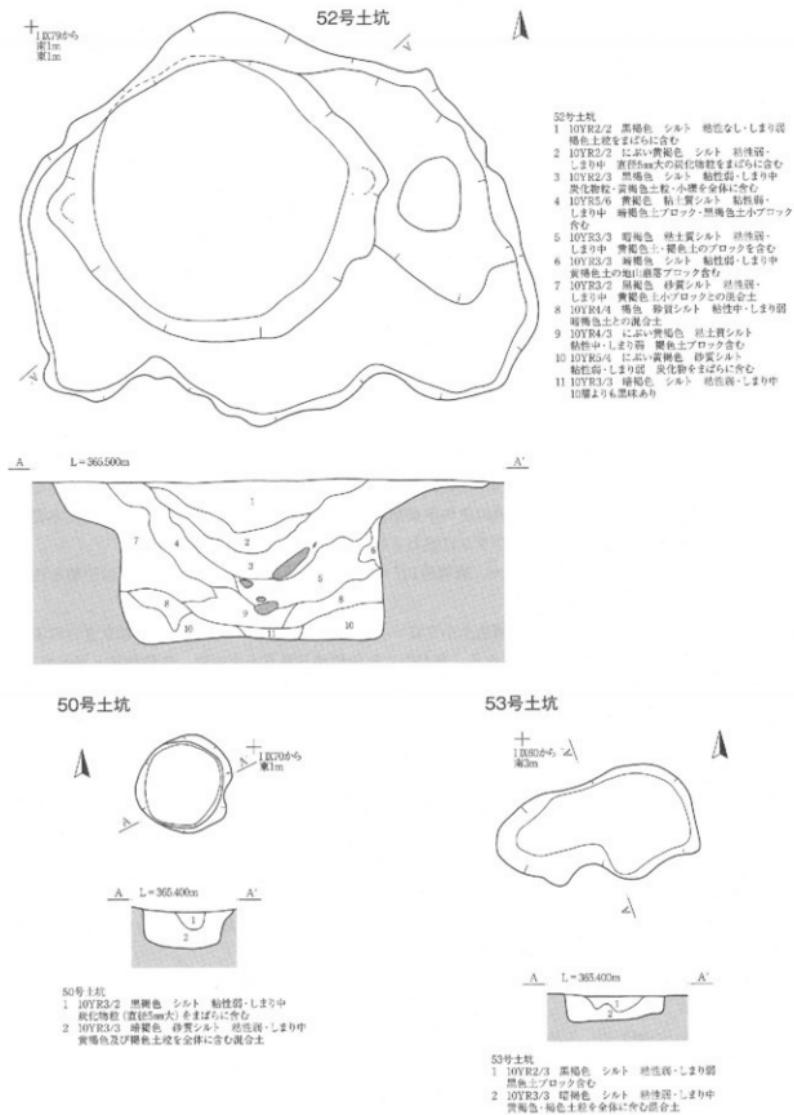
【埋土】 11層に分層した。上位は褐色土粒を含む黒褐色土、中位は黄褐色土や暗褐色土、下位は炭化物粒を含むにぶい黄褐色土などからなる。部分的に炭化物粒を含む層がある。自然堆積と思われる。

【壁・底面】 底面は中央部がわずかに高くなり、壁際に向けて下がる。壁はそこから直立気味に立ち上がりその後大きく外反する。

遺物（第93・130図、写真図版72・92）

[縄文土器] 埋土から703.4g出土した。うち1点（323）のみ掲載した。

[石器] 台石1点（S285）6,540.0g出土した。この他、剥片類の出土は2点14.7g。



第72図 50・52・53号土坑

時期 縄文時代中期末葉から後期初頭に属する土坑である。前述したように、柱状のものが据えられた痕跡は、この土坑の用途に関係するとと思われる。橋状に材木を渡した跡の可能性もある。

53号土坑

遺構（第72図、写真図版47）

【位置・検出状況】 I I X59・I I X60グリッドに跨り、南側1mほどに50号土坑がある。これもIV層で検出された。

【規模・平面形】 開口部径166×99cmの不整規円形をなす。深さは23cmである。

【埋土】 上位は黒褐色土、上位から下位は黄褐色土と褐色土粒の混合土からなる。

【壁・底面】 底面には小さな凹凸があるが、全体に平坦である。壁は直立気味に立ち上がっている。

遺物 〔縄文土器〕〔石器〕ともに出土していない。

時期 出土遺物がなく時期は不明である。

54号土坑

遺構（第73図、写真図版47）

【位置・検出状況】 I I X94グリッドに位置し、その南東4mほどには42号土坑がある。本遺構もIV層で確認された。これも52号土坑同様、住居跡かあるいは土坑が複数個重複すると思われるような極めて不明瞭なプランであったが、結果はその中央部にフ拉斯コ形の土坑が1基だけとなった。本遺構の周辺550×400cmほどはその不整形プランに惑わされ、IV層を広く掘削してしまった。

【規模・平面形】 開口部径144×125cm、底部径127×117cm、深さ124cmである。平面形は不整な円形をなす。

【埋土】 6層に分層した。上位は黄褐色土小ブロックを含む黒褐色土、中位は炭化物粒を含むにぶい黄褐色土、最下部は砂質の褐色土からなる。部分的にIV層起源の崩落土を含む。自然堆積と思われる。

【壁・底面】 北壁はフ拉斯コ状で、南壁は外反しながら立ち上がる。底面は北側に大きく傾斜する。

遺物（第93・130図、写真図版72・92）

〔縄文土器〕 墓土から107.5g出土した。4点（324～327）掲載した。

〔石器〕 凹石1点（S286）536.0g。その他フレイク類が3点12.7g出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代中期末葉から後期初頭に属するものと思われる。

55号土坑

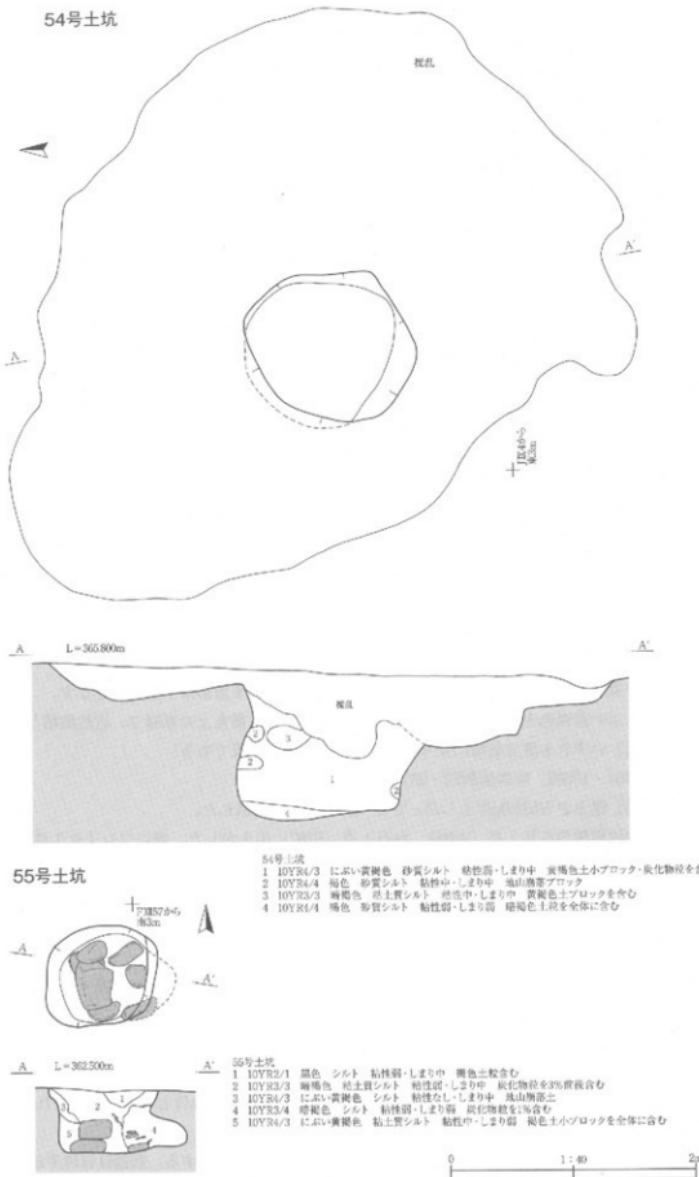
遺構（第73図、写真図版48）

【位置・検出状況】 小寒沢沿いのI区F X II 57・58グリッドに跨って位置し、北西方向約1mには3号土器埋設遺構がある。IV層上面で確認された。

【規模・平面形】 開口部径102×84cm、底部径95×73cm、深さ54cmを測る。平面形は隅の丸い方形状である。

【埋土】 5層に分層した。上位の中央に黑色土、以下炭化物粒を含む暗褐色土がみられ、壁際には地山崩落土やにぶい黄褐色土が堆積する。中位以下に長さ12～40cmほどの礫が7個入れられ、その後人为的に埋め戻されているようである。

【壁・底面】 西壁は直立気味に、東壁は一部フ拉斯コ状に広がっている。底面はほぼ平坦で、上述の礫は底面付近から積み重なるように入れられている。



第73図 54・55号土坑

遺物（第93・94図、写真図版72）

〔縄文土器〕 墓土から2,380.0g出土した。5点（328～332）掲載した。

〔石器〕 フレイク 1点2.3g。

時期 出土遺物から、縄文時代中期末葉から後期初頭に属するものと思われる。

56号土坑

遺構（第74図、写真図版48）

〔位置・検出状況〕 I区F X II 48グリッドの西側に位置し、I区の遺構群の中では最も東側にある。IV層上面で確認された。

〔規模・平面形〕 開口部径90×74cm、底部径79×65cm、深さは60cmである。平面形は不整円形。

〔埋土〕 5層に分けた。北西壁には土器を含む。上位は炭化物粒を含む黒褐色土、中位はにぶい黄褐色土や褐色土、下位は砂を感じるにぶい黄褐色土が薄く堆積する。自然堆積と思われる。これも底面直上に長さ23×18cmの縁が1個入れられている。

〔壁・底面〕 いずれも直立気味に立ち上がる。若干オーバーハングしている箇所もある。

遺物（第94図、写真図版72）

〔縄文土器〕 墓土および底面から488.6gほど出土した。3点（333～335）掲載した。

〔石器〕 出土していない。

時期 出土遺物から、縄文時代中期末葉から後期初頭に属するものと思われる。

57号土坑

遺構（第74図、写真図版48）

〔位置・検出状況〕 I区F X II 26・27グリッドに跨り、この北側約1mには60号土坑がある。IV層上面で確認された。

〔規模・平面形〕 開口部径116×108cm、深さは27cmである。平面形は不整円形をなす。

〔埋土〕 にぶい黄褐色土や褐色土の崩落土ブロックを含む暗褐色土の単層で、自然堆積と思われる。

〔壁・底面〕 いずれも直立気味に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

遺物（第94・130図、写真図版72・93）

〔縄文土器〕 墓土から535.0g出土した。2点（336・337）掲載した。

〔石器〕 蛇紋岩製の石斧1点（S288）、台石1点（S287）出土がした。他にフレイク1点2.8g。

時期 出土遺物から、縄文時代中期末葉から後期初頭に属する墓壙と考えられる。

58号土坑

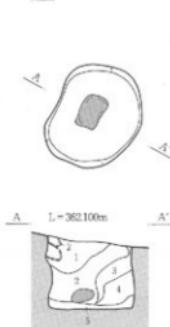
遺構（第74図、写真図版49）

〔位置・検出状況〕 I区F X II 43・44グリッドに跨る。1～4号堅穴住居跡、59・61号土坑が本遺構の周辺を取り囲むように位置する。これもIV層上面で確認された。

〔規模・平面形〕 開口部径126×117cm、底部径99×98cm、深さ44cm。平面形は円形基調である。

〔埋土〕 5層に分層された。上位は黒色土、中位は焼土粒・炭化物粒を含む黒褐色土とにぶい黄褐色土、下位は小縁を含む暗褐色土からなる。底面付近には長さ10～38cmほどの縁が6個入れられており、人為堆積と思われる。

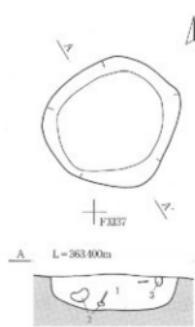
〔壁・底面〕 いずれも直立気味に立ち上がり、一部オーバーハングする。底面はほぼ平坦である。

F3348b-6 56号土坑
幅2m

56号土坑

- 1 IOYR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中
炭化物を5%前後含む
- 2 IOYR4/3 に赤い黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中
炭化物、黄褐色土塊を含む
- 3 IOYR4/4 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中
炭化物を多く含む
- 4 IOYR4/3 に赤い黄褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり弱
粘性土ブロックを全体に含む
- 5 IOYR5/4 に赤い黄褐色 形質シルト 粘性弱・しまり中
砂っぽい 挿りすさびの可塑性あり

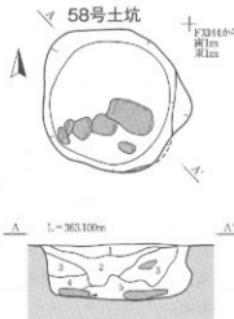
57号土坑



57号土坑

- 1 IOYR3/3 墓地色 砂質シルト
粘性弱・しまり中 赤褐色土ブロック・炭化物を含む
- 2 IOYR4/3 に赤い黄褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり中
炭化物、粘性土ブロックを含む
- 3 IOYR4/4 に赤い黄褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり中
炭化物、細かい砂を含む

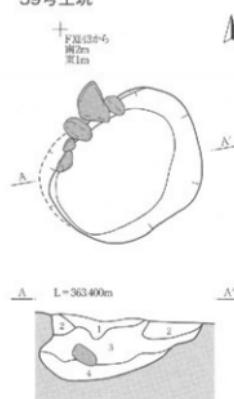
58号土坑



58号土坑

- 1 IOYR2/1 黒色 シルト 粘性中・しまり中
炭化物を全分に含む
- 2 IOYR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中
炭化物、焼土ブロックを含む
- 3 IOYR4/3 に赤い黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中
炭化物、細かい砂を含む
- 4 IOYR4/4 黒色 粘土質シルト 粘性弱・しまり弱
炭化物、細かい砂を含む
- 5 IOYR3/3 黑褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり中
細長い5cm程度の巣含む

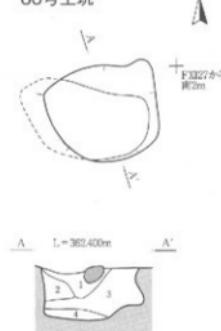
59号土坑



59号土坑

- 1 IOYR2/2 黑褐色 シルト 粘性中・しまり中
泥入りなし
- 2 IOYR3/3 黑褐色 形質シルト 粘性弱・しまり中
地山崩落ブロック・漂浮
- 3 IOYR4/4 黑褐色 粘土質シルト 粘性弱・しまり中
小塊弱
- 4 IOYR4/3 に赤い黄褐色 砂質シルト
粘性弱・しまり弱 地下以下の砂層の崩落形

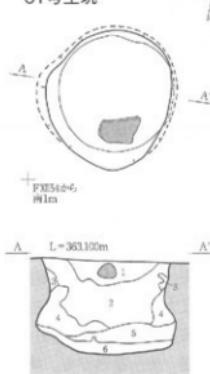
60号土坑



60号土坑

- 1 IOYR2/2 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり中
炭化物を含む
- 2 IOYR4/4 黑褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり中
小塊含む 地山崩落ブロック
- 3 IOYR2/2 黑褐色 形質シルト 粘性弱・しまり中
土層片・炭化物を全分に含む
- 4 IOYR4/3 に赤い黄褐色 砂質シルト
粘性弱・しまり弱 地下以下の砂層の崩落形

61号土坑



61号土坑

- 1 IOYR2/1 黑色 シルト 粘性弱・しまり弱
地山崩落する。白土粉を含む
- 2 IOYR3/3 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり中
炭化物を10~20%・小塊含む
- 3 IOYR4/4 黑色 粘土質シルト 粘性弱・しまり中
地山崩落ブロック
- 4 IOYR4/4 黑色 粘土質シルト 粘性弱・しまり中
地山崩落する
- 5 IOYR4/4 黑色 粘土質シルト 粘性弱・しまり中
地山崩落する。白土粉を含む
- 6 IOYR4/3 に赤い黄褐色 砂質シルト
粘性弱・しまり中 炭化物を1%含む



第74図 56~61号土坑

遺物（第94図、写真図版72）

【縄文土器】 墓土から1,160.3g出土している。7点（338～344）掲載した。

【石器】 フレイクが1点2.4g出土している。

時期 出土遺物から、縄文時代中期末葉から後期中葉に属する墓壙と考えられる。

59号土坑

遺構（第74図、写真図版49）

【位置・検出状況】 I区F X II 43グリッドの中央西側に位置し、北西方向1mほどに1号堅穴住居跡がある。IV層上面で検出された。

【規模・平面形】 開口部径134×106cm、底部径113×80cm、深さ54cmを測る。平面形は不整な橢円形である。

【埋土】 4層に分層された。上位は黒褐色土と暗褐色土、中位は小礫を含む黒褐色土、下位はにぶい黄褐色土で、人為堆積と思われる。

【壁・底面】 西壁は一部オーバーハングし、東壁は底面から緩くダラダラと立ち上がる。北西側の壁はわずかにフ拉斯コ状をなすが、その部分に長さ10～32cmほどの礫が5個並べられたようにある。

遺物（第94図、写真図版72）

【縄文土器】 墓土から313.0g出土した。2点（345・346）掲載した。

【石器】 フレイク 1点21.3g。

時期 出土遺物から、縄文時代中期末葉から後期中葉に属する。墓壙の可能性がある。

60号土坑

遺構（第74図、写真図版49）

【位置・検出状況】 I区F X II 26グリッド東寄りに位置し、その南1mほどには57号土坑がある。本遺構もIV層で確認された。

【規模・平面形】 開口部径99×92cm、深さ35cmである。平面形は不整な円形である。

【埋土】 4層に分層した。上位は炭化物粒を含むや褐色土で、下位のにぶい黄褐色土はIV層以下の砂礫の崩落か。自然堆積と思われる。

【壁・底面】 直立気味に立ち上がりわずかにフ拉斯コ状となる。底面は一様に平坦ではない。

遺物（第94・131図、写真図版72・93）

【縄文土器】 墓土から747.6g出土した。うち5点（347～351）掲載した。

【石器】 凹石1点（S289）のほか、フレイク 1点10.0g出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代中期末葉から後期初頭に属する土坑と思われる。

61号土坑

遺構（第74図、写真図版49）

【位置・検出状況】 I区F X II 44・54グリッドに跨り、北方向2.5mほどに58号土坑がある。IV層上面で検出された。

【規模・平面形】 開口部径114×102cm、底部径116×113cm、深さ78cmを測る。平面形は略円形である。

【埋土】 6層に分層された。上位は白色の粒子を含む黑色土、中位は小礫を含む暗褐色土と地山崩落ブロック、下位は暗褐色土とにぶい黄褐色土からなり、全体的に炭化物粒を含む。自然堆積であろう。

〔壁・底面〕断面形はいわゆるフラスコ状で、遺構上部は多少削られているものと思われる。底面は丸みをもち、南壁寄りに17~30cmほどの礫が1個確認された。

遺物（第95図、写真図版72・73）

〔縄文土器〕埋土から563.2g出土した。うち4点（352~355）掲載した。

〔石器〕出土していない。

時期 出土遺物から、縄文時代後期前葉に属すると考えられる。礫が入れられることなどから墓壙の可能性がある。

62号土坑

遺構（第75図、写真図版50）

〔位置・検出状況〕I区F X II 55・56グリッドに跨り、南東方向1.8mほどに3号土器埋設遺構がある。これもIV層上面で検出された。

〔規模・平面形〕開口部径145×136cm、底部径102×101cm、深さ96cmである。平面形は略円形である。

〔埋土〕8層に分層した。上位は小礫を含む黒色土・黒褐色土、中位は炭化物粒や礫を含む黒褐色土と暗褐色土、下位は炭化物の有無が異なる二つの褐色土からなる。壁際には地山崩落ブロックを含んでいる。自然堆積と思われる。

〔壁・底面〕いずれも壁は直立気味に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。礫はみられない。

遺物（第95・131図、写真図版73・93）

〔縄文土器〕埋土から1,730.3g出土した。うち6点（356~361）掲載した。

〔石器〕凹石2点（S290・S291）磨石（S292）のほか、フレイク2点10.8g出土した。

〔石製品〕凝灰質砂岩製の石製円盤（S293）が1点出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代中期末葉から後期初頭に属する貯蔵穴に類する土坑と思われる。

63号土坑

遺構（第75図、写真図版50）

〔位置・検出状況〕I区F X II 36・46グリッドに跨る。IV層上面において、4号竪穴住居跡と重複して確認された。本遺構のほうが新しい。

〔規模・平面形〕開口部径198×134cm、深さ47cm。平面形は不整梢円形である。

〔埋土〕3層に分けた。主体は2層の黒褐色土で、北東壁際に地山崩落土が入る。

〔壁・底面〕いずれも壁は外反して立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

遺物（第95・132図、写真図版73・93）

〔縄文土器〕埋土から139.8g出土した。2点（362・363）掲載した。

〔石器〕凹石（S294）が1点出土した。

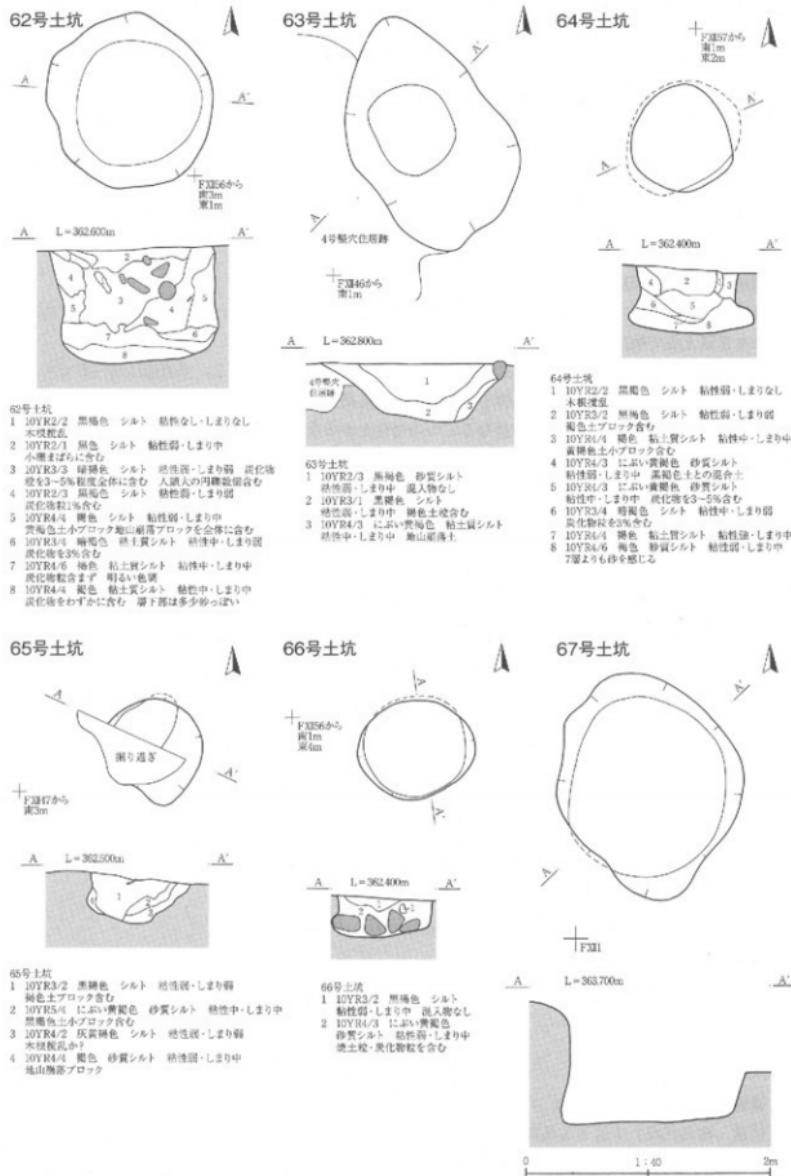
時期 竪穴住居跡との新旧関係から、縄文時代中期末葉以降の土坑としておく。詳細な時期や用途は不明である。

64号土坑

遺構（第75図、写真図版50）

〔位置・検出状況〕I区F X II 57グリッドの中央からやや北西に位置する。本遺構の北西1.2mほどには66号土坑がある。ともにIV層上面で検出した。

1 検出遺構



第75図 62~67号土坑

〔規模・平面形〕開口部径88×85cm、底部径102×87cm、深さ54cm、平面形は略円形である。

〔埋土〕8層に分層した。上位は黒色土と壁際に褐色土、中位にはにぶい黄褐色土と暗褐色土、下位は砂っぽい褐色土が堆積する。中位に炭化物粒を多く含む。自然堆積と思われる。

〔壁・底面〕断面形はいわゆるフ拉斯コ状である。壁は外反して立ち上がる。底面は丸みをもつ。

遺物（第95・132図、写真図版73・94）

〔縄文土器〕埋土から800.3g出土した。うち4点（364～367）掲載した。

〔石器〕磨石1点（S296）、石皿・台石1点（S295）掲載した。

時期 出土遺物から、縄文時代中期末葉から後期初頭に属する。貯蔵穴に類する土坑であろう。

65号土坑

遺構（第75図、写真図版50）

〔位置・検出状況〕I区FXII47グリッド西寄りに位置し、5m西には4号竪穴住居跡がある。IV層上面で検出した。掘りすぎたため、南西部を欠くため全体規模が不明である。

〔規模・平面形〕開口部径？×88cm、深さ42cm。平面形は円形基調であったか。

〔埋土〕4層に分層した。全体に褐色土ブロックを含む黒褐色土が主体であり、その下にはにぶい黄褐色土が、壁際には地山崩落土が入る。

〔壁・底面〕部分的にフ拉斯コ状を呈する箇所がある。南東側の壁は緩やかに立ち上がる。底面は丸みをもつ。

遺物（第95図、写真図版73）

〔縄文土器〕埋土を主体に1,044.2g出土した。うち2点（368・369）掲載した。

〔石器〕フレイク2点10.2g出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代中期末葉から後期初頭に属する貯蔵穴と思われる。

66号土坑

遺構（第75図、写真図版51）

〔位置・検出状況〕I区FXII56・57グリッドに跨り、1mほど北東側に64号土坑がある。IV層上面で検出した。

〔規模・平面形〕開口部径97×80cm、底部径84×82cm、深さ34cmを測る。平面形は円形である。

〔埋土〕2層に分層した。上位は黒褐色土、中～下位は焼土粒や炭化物粒を含むにぶい黄褐色土である。底面近くには、20cm前後の円礫が数個入れられている。人為的堆積か。

〔壁・底面〕壁は直立気味に立ち上がる。底面は凹凸を有する。

遺物（第95図、写真図版73）

〔縄文土器〕埋土から276.6g出土した。うち4点（370～373）掲載した。

〔石器〕フレイク1点5.9g出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代中期末葉から後期初頭に属する。、墓壙の可能性がある。

67号土坑

遺構（第75図）

〔位置・検出状況〕I区EXII91グリッドの南西に位置する。沢の氾濫部B内にあり、遺構に気付かぬまま掘りきってしまった土坑である。南東方向約6.5mに5号竪穴住居跡がある。

〔規模・平面形〕開口部径188×154cm、底部径145×130cm、深さ100cmを測る。平面形は不整な楕円形である。

〔埋土〕不明である。

〔壁・底面〕南西壁は内傾した後直立気味に立ち上がる。底面はほぼ平坦であるがわずかに波打つ箇所も認められる。

遺物 〔縄文土器〕〔石器〕とも出土していない。

時期 出土遺物はないが、縄文時代中期末葉から後期初頭に属する可能性が高い。

68号土坑

遺構 (第76図、写真図版51)

〔位置・検出状況〕I区F X II 25・35グリッドに跨る。IV層上面で3号堅穴住居状遺構を検出し、その精査中に床面で確認した土坑である。よって、本遺構のほうが古い可能性が高い。

〔規模・平面形〕開口部径160×141cm、底部径130×119cm、掘り込み面からの深さ113cmである。平面形は円形基調の楕円形である。

〔埋土〕5層に分層した。上位は炭化物粒・円礫を含む暗褐色土、中位はにぶい黄褐色土と褐色土、下位は4層よりも明るい色調のにぶい黄褐色土からなる。自然堆積か。

〔壁・底面〕壁はいずれも直立気味に立ち上がる。底面は大きな凹凸をもつ。

遺物

〔縄文土器〕埋土から264.6g出土した。いずれも細片であり掲載していない。

〔石器〕出土していない。

時期 遺構間の重複関係から、中期末葉以前の土坑としておく。

69号土坑

遺構 (第76図、写真図版51)

〔位置・検出状況〕I区F X II 37グリッド中央に位置する。北東方向1mほどに74号土坑がある。IV層上面で検出した。重複する遺構はない。

〔規模・平面形〕開口部径156×140cm、底部径112×97cm、深さは55cmで、平面形は円形基調である。

〔埋土〕混入物の少ない黒褐色土が主体で、壁際に褐色土やにぶい黄褐色土がブロック状に入る。

〔壁・底面〕壁はいずれも外傾して立ち上がっている。底面には凹凸があり、北西側に34×50cmあまりの副穴を有する。底面からの深さは15cmである。また、その副穴の北側に炉とも思われるような円形に配された礫が6個確認された。焼土等は形成されない。

遺物 (第96・97・132図、写真図版73・74・94)

〔縄文土器〕土坑の中では最も出土量が多い。埋土を主体として7,850.7g出土した。このうち21点(374~394)掲載した。

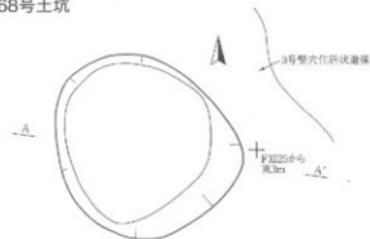
〔石器〕凹石1点(S297)、石棒状の製品1点(S298)のほか、フレイク類9点25.7g出土した。

時期 出土遺物などから、縄文時代中期末葉から後期中葉に属する土坑と思われる。炉状に組まれる礫や副穴の存在などから、特殊な機能を考えられるが詳細は不明である。

70号土坑

遺構 (第76図、写真図版51)

68号土坑



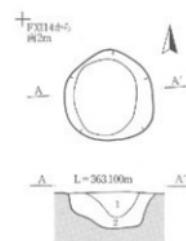
A L=363.000m



68号土坑

- 1 10YR5/3 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 腐化物質1% 円錐含む
- 2 10YR4/4 に赤い黄褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり中 円錐含む
- 3 10YR4/4 暗色 シルト 粘性中・しまり中 4期よりも色調明るい
- 4 10YR4/3 に赤い黄褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり弱
- 5 10YR5/3 黒褐色 砂質シルト 粘性なし・しまり中 腐化物質をわずかに含む
- 6 10YR5/3 黒褐色 砂質シルト 粘性中・しまり弱

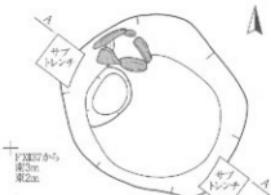
70号土坑



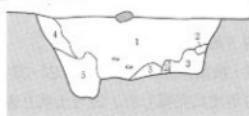
A L=363.100m A'

- 1 10YR2/2 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり中 混入後なし
- 2 10YR3/3 黑褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり中 黃褐色土の小ブロック含む

69号土坑



A L=362.700m A'

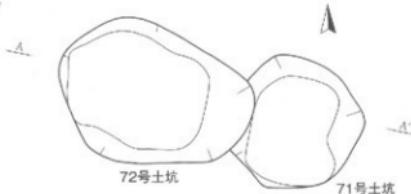


69号土坑

- 1 10YR2/2 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり中 腐化物質を5%含む
- 2 10YR4/4 黑褐色 シルト 粘性中・しまり中 ブロック状 黄褐色土含む
- 3 10YR4/3 に赤い黄褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり中 黄褐色土含む
- 4 10YR3/3 黑褐色 砂質シルト 粘性なし・しまり中 砂っぽい
- 5 10YR3/3 黑褐色 砂質シルト 粘性中・しまり中 腐化物質を3~5%含む

71・72号土坑

+ FX337

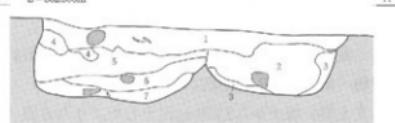


72号土坑

71号土坑

71・72号土坑

+ FX337



71・72号土坑

- 1 10YR2/2 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 土器片多い
- 2 10YR3/3 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり中 上部片・小塊を全体に含む
- 3 10YR5/4 に赤い黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 浸入物あまりなし
- 4 10YR4/3 黑褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり中 砂っぽい
- 5 10YR4/4 黑褐色 砂質シルト 粘性中・しまり中 土器片含む
- 6 10YR4/3 に赤い黄褐色 砂質シルト 粘性中・しまり弱
- 7 10YR3/2 黑褐色 砂質シルト 粘性中・しまり弱 腐化物質まさに中に含む

0 1:40 2m

第76図 68~72号土坑

【位置・検出状況】 I 区 F X II 14グリッドの西寄りに位置する。西側 8m に 5号竪穴住居跡が、南西 9m に 2号竪穴住居跡がある。IV層上面で検出した。

【規模・平面形】 開口部径 76×73cm、深さ 29cm を測る。平面形は円形である。

【埋土】 2層に分層した。上位中央部は黒褐色土、その下には暗褐色土が自然堆積している。

【壁・底面】 直立気味か、あるいは外反して立ち上がる。底面は凹凸を有する。

遺物（第132図、写真図版94）

【縄文土器】 埋土から 25.4g 出土している。

【石器】 敵石と思われるもの 1点（S299）のみ。

時期 出土遺物から、縄文時代中期に属する土坑と思われる。

71号土坑

遺構（第76図、写真図版52）

【位置・検出状況】 I 区 F X II 27・37グリッド北側に位置する。平成20年度調査で断面実測まで終え、平成21年度に完掘した。72号土坑と重複している。新旧関係が掴みにくいが、本遺構のほうが古いと思われる。

【規模・平面形】 開口部径 ? × 110cm（直径 110cm 前後）、深さ 48cm で、平面形は円形と思われる。

【埋土】 3層に分層した。上位は72号土坑とともに埋まつた黒褐色土で、主体はその下の小礫・土器片を含む暗褐色土である。壁際から最下部にかけては、にぶい黄褐色土の地山崩落土がみられる。

【壁・底面】 外傾して立ち上がる。底面はわずかに凹凸をもつ。

遺物（第97図、写真図版74）

【縄文土器】 埋土を主体として 3,440.8g 出土した。8点（395～402）掲載した。

【石器】 フレイク類が 9 点 41.8g 出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期前葉から中葉に属する土坑である。

72号土坑

遺構（第76図、写真図版52）

【位置・検出状況】 71号土坑と同様である。本遺構のほうが新しい。

【規模・平面形】 開口部径 163×111cm、深さは最大で 60cm である。平面形は長楕円形である。

【埋土】 5層に分層した。上位は71号土坑と同じ黒褐色土、中位は褐色～にぶい黄褐色土、下位は炭化物粒を含む黒褐色砂質土が堆積する。

【壁・底面】 西壁は内渦気味に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

遺物（第97、132・133図、写真図版74、94）

【縄文土器】 埋土から 2,575.4g 出土した。うち 6 点（403～408）掲載した。

【石器】 磨石 2 点（S304・S305）、石鏃 2 点（S300・S301）など製品 7 点のほか、フレイク類 10 点 22.5g が出土した。

【石製品】 石棒（S306）1 点。

時期 出土遺物から、縄文時代後期前葉から中葉に属する土坑である。

73号土坑

遺構（第77図、写真図版52）

〔位置・検出状況〕 I 区 E X I 90 グリッドに位置する。平成19年度の試掘調査の際、重機による掘削で、遺構の一部を壊してしまった。本来はⅢ層下～Ⅳ層上面で検出できるものと思われる。

〔規模・平面形〕 開口部径？×144cm、深さ74cm、平面形は円形である。

〔埋土〕 5層に分層した。最上部はⅢ層の一部かとも思われる黒色土、その下は黄褐色土が主体となる。中位以下は小礫を含む暗褐色土がみられる。

〔壁・底面〕 外傾して立ち上がるが直立気味の箇所もある。底面はほぼ平坦である。

〔遺物〕 (第97図、写真図版4)

〔縄文土器〕 埋土から318.1g出土した。うち1点(409)のみ掲載した。

〔石器〕 出土していない。

〔時期〕 出土遺物から、縄文時代後期前葉ごろの土坑と思われる。

74号土坑

〔遺構〕 (第77図、写真図版52)

〔位置・検出状況〕 I 区 F X II 37 グリッドの北東隅に位置し、南西方向約1mに69号土坑がある。Ⅳ層上面で検出した。

〔規模・平面形〕 開口部径134×102cm、深さ64cmで、平面形は稍円形である。

〔埋土〕 4層に分けたが、上～中位は黒褐色土や暗褐色土が主体となる。下位は黄褐色土ブロックを含む黒褐色土が堆積する。中～下位にかけては、縄文時代後期を主体とする遺物を含む。

〔壁・底面〕 丸みのある底面から、緩く外傾しながら立ち上がる。

〔遺物〕 (第98、133図、写真図版74・75・94)

〔縄文土器〕 埋土から2,840.8g出土した。うち7点(410～416)掲載した。

〔石器〕 石刀1点(S307)、凹石1点(S308)のほか、フレイク1点6.1gが出土した。

〔時期〕 出土した遺物から、縄文時代後期初頭から中葉に属する土坑と判断される。

75号土坑

〔遺構〕 (第77図、写真図版53)

〔位置・検出状況〕 IV 区 S I 16 グリッド中央に位置する。北側で76・77号土坑と隣接する。これもⅣ層上面で検出した。

〔規模・平面形〕 開口部径220×186cm、深さ15cmを測る。平面形は不整な円形である。

〔埋土〕 上位は黒褐色土、下位は黄褐色土ブロックを含む暗褐色土で、自然堆積と思われる。

〔壁・底面〕 壁は緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

〔遺物〕

〔縄文土器〕 出土していない。

〔石器〕 フレイク類5点27.5g出土。

〔時期〕 縄文時代のいずれかに属するが、周辺の状況から、中期前葉ころかと思われる。

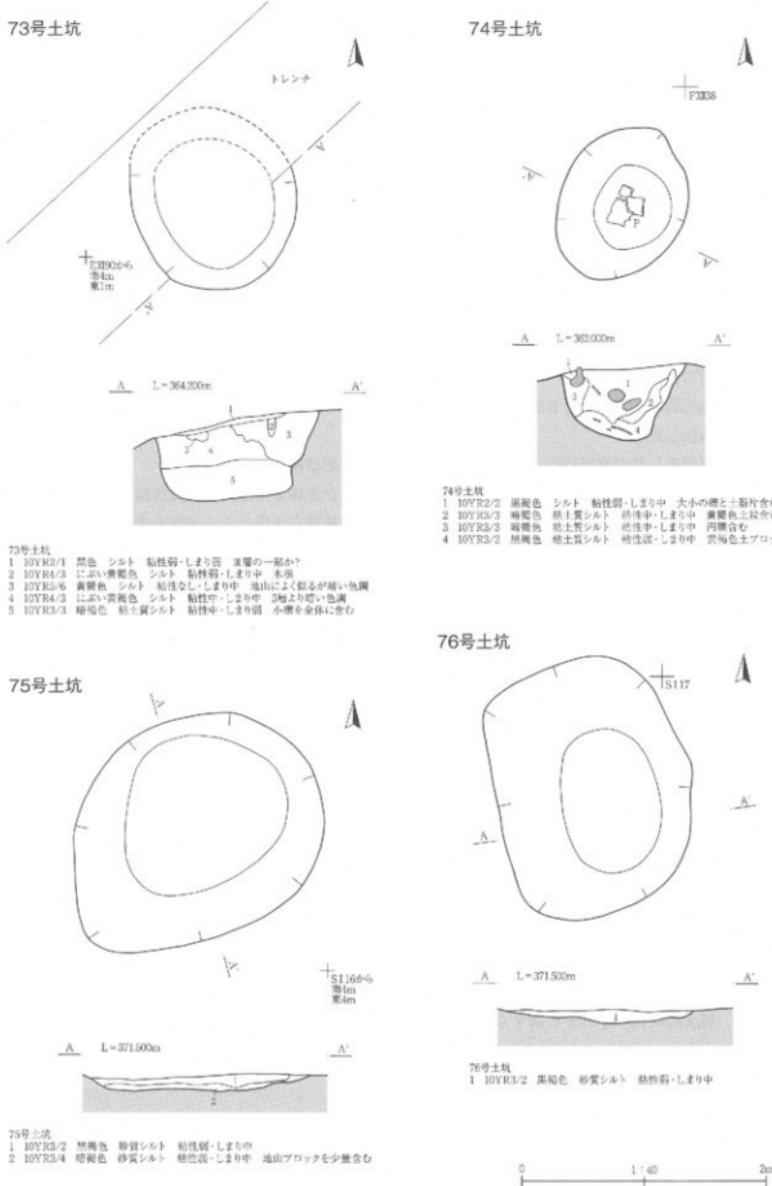
76号土坑

〔遺構〕 (第77図、写真図版53)

〔位置・検出状況〕 IV 区 S I 6・16・17 グリッドに跨り、西側で77号土坑と隣接する。IV層上面で検出。

〔規模・平面形〕 開口部径204×170cm、深さ13cm。平面形は不整な長方形である。

1 検出遺構



第77図 73~76号土坑

〔埋土〕 砂質の黒褐色土の単層である。

〔壁・底面〕 壁は緩やかに立ち上がる。底面は細かな凹凸を有する。

遺物（第98図、写真図版75）

〔縄文土器〕 墓土から259.3g出土した。2点（417・418）掲載した。

〔石器〕 フレイク1点3.7g。

時期 出土した遺物から、縄文時代中期のいずれかに属する土坑である。

77号土坑

遺構（第78図、写真図版53）

〔位置・検出状況〕 IV区S I 16グリッド北寄りに位置する。北側に81号土坑や21号焼土がある。IV層上面で検出した。

〔規模・平面形〕 開口部径255×184cm、深さ14cm。平面形は梢円形である。

〔埋土〕 砂質の黒褐色土の単層である。

〔壁・底面〕 壁は緩やかに外傾して立ち上がる。底面には細かな凹凸がある。

遺物（第98図、写真図版75）

〔縄文土器〕 墓上から551.4g出土した。これも2点（419・420）掲載した。

〔石器〕 フレイク1点3.7g。

時期 出土した遺物から、縄文時代中期前葉から中葉に属する土坑である。

78号土坑

遺構（第78図、写真図版53）

〔位置・検出状況〕 IV区S I 37グリッドの南側に位置する。周辺に他の遺構は見あたらない。IV層上面で検出した。

〔規模・平面形〕 開口部径114×110cm、深さ27cm。平面形は円形である。

〔埋土〕 3層に分けた。地山ブロックを含む黒色土の単層である。

〔壁・底面〕 壁は緩やかに外傾して立ち上がる。底面には凹凸がある。

遺物

〔縄文土器〕 墓土から20.7g出土した。

〔石器〕 出土しなかった。

時期 出土した遺物から、縄文時代中期前葉か中葉の可能性が高い。

79号土坑

遺構（第78図、写真図版54）

〔位置・検出状況〕 IV区R I 77・87グリッドに跨っている。これの周辺にも他の遺構が存在しない。IV層上面が後出面である。

〔規模・平面形〕 開口部径96×81cm、深さ18cm。平面形は円形である。

〔埋土〕 2層に分層した。ともに暗褐色土であるが、下位は地山ブロックを多く含んでいる。

〔壁・底面〕 壁は緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

遺物（第98図、写真図版75）

〔縄文土器〕 墓上から160.5g出土した。1点（421）掲載した。

〔石器〕 出土していない。

時期 出土した遺物から、縄文時代中期前葉から中葉の可能性が高い。

80号土坑

遺構（第78図、写真図版54）

〔位置・検出状況〕 IV区 S I 7グリッド北側に位置し、この東1.2mほどに8号竪穴住居跡がある。IV層上面で確認された。

〔規模・平面形〕 開口部径62×54cm、深さ43cmで、平面形は不整な円形である。

〔埋土〕 4層に分層した。上位から暗褐色土、黒色土、にぶい黄褐色土の順である。

〔壁・底面〕 壁は丸みのある底面から外傾して立ち上がる。

遺物 〔縄文土器〕〔石器〕ともに出土していない。

時期 出土遺物がなく時期は不明である。

81号土坑

遺構（第78図、写真図版54）

〔位置・検出状況〕 IV区 S I 6グリッド中央から南西寄りにあり、本遺構の南東側で21号焼土と隣接している。これもIV層で検出した。

〔規模・平面形〕 開口部径141×78cm、深さ49cm。平面形は不整な長楕円形である。

〔埋土〕 5層に分層した。上位は焼土粒を含むにぶい褐色土、中位は褐灰色土、下位は礫を多く含むにぶい黄褐色土などからなる。

〔壁・底面〕 壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

遺物（第98図、写真図版75）

〔縄文土器〕 埋土から747.3g出土した。4点（422～425）掲載した。

〔石器〕 フレイク2点のみ3.3g。

時期 出土した遺物から、縄文時代中期のいずれかに属する土坑である。

(5) 焼 土 遺 構

遺跡南西部IV区で1基検出された。

21号焼土遺構

遺構（第78図、写真図版54）

〔位置・検出状況〕 IV区のS I 6グリッドに位置する。検出面はIV層上面である。

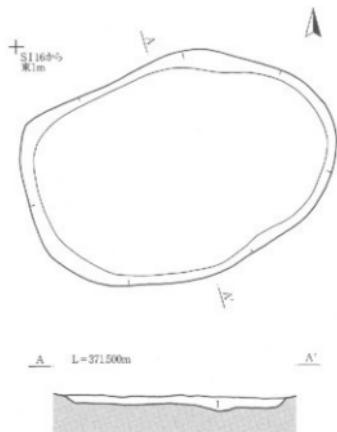
〔規模・平面形・厚さ〕 150×80cmの長楕円形をなしている。焼土の厚さは最大15cm前後で、焼け具合は良くない。

遺物（第99図、写真図版75）

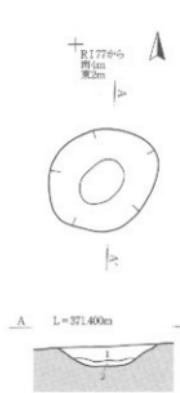
〔縄文土器〕 この周辺から399.4g出土した。2点（432・433）掲載した。

時期 詳細な時期は不明であるが、周辺の状況から縄文時代に属する可能性がある焼土である。

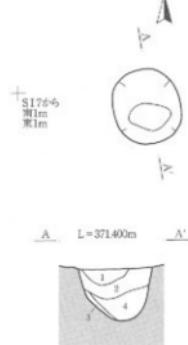
77号土坑



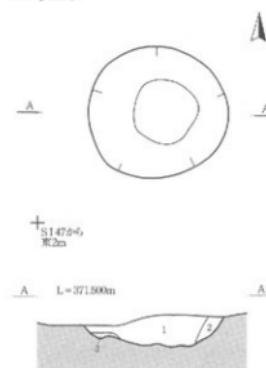
79号土坑



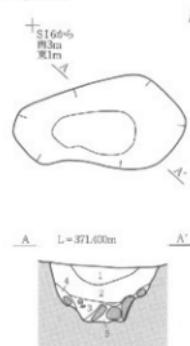
80号土坑



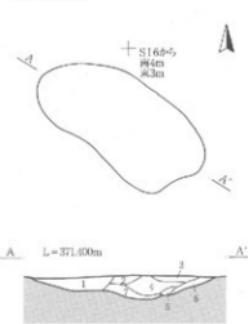
78号土坑



81号土坑

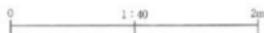


21号焼土



- 78号土坑
1 IGYR2/1 黒色 粘性中・しまり中
2 IGYR3/4 暗褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり中
3 IGYR3/4 暗褐色 砂質シルト 粘性中・しまり中
地山ブロックを多く含む

- 81号土坑
1 7.5YR3/3 にじみ褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり中
2 5YV4/3 暗オリーブ 砂質シルト 粘性弱・しまり中
3 5YR4/3 にじみ褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり中
4 5YR6/3 にじみ暗褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり中
5 10YR6/2 暗黄褐色 粘性中・しまり中
6 5YR4/3 暗褐色 地山ブロックを多く含む
7 4YR4/2 にじみ褐色 地山ブロックを多く含む
直徑2-3cm小石多



第78図 77~81号土坑、21号焼土構造

(6) 旧石器時代の石器集中区

【位置・検出状況】IV区S I・R Iグリッドに跨って位置している。前川へ向かう標高約370mの緩斜面上で検出している。IV層上面において、旧石器時代に属する可能性がある石器が散漫的に出土したことから、8×8mのトレンチを設定して掘り下げを行った。しかし、それらの下位から縄文時代に属する石器が出土したため、これらは縄文期に流れ込んで形成された集中区であると結論付けた。

旧石器時代の石器は、出土事例が稀であることから、それらを示しておく。これらの石器は、周辺の縄文時代の石器材料と比較して抽出した結果である。

【出土層位】IV層からV層で出土している。

【出土石器】(第79図、写真図版83)

4点掲載した(S201~204)。詳細は以下に記載する。

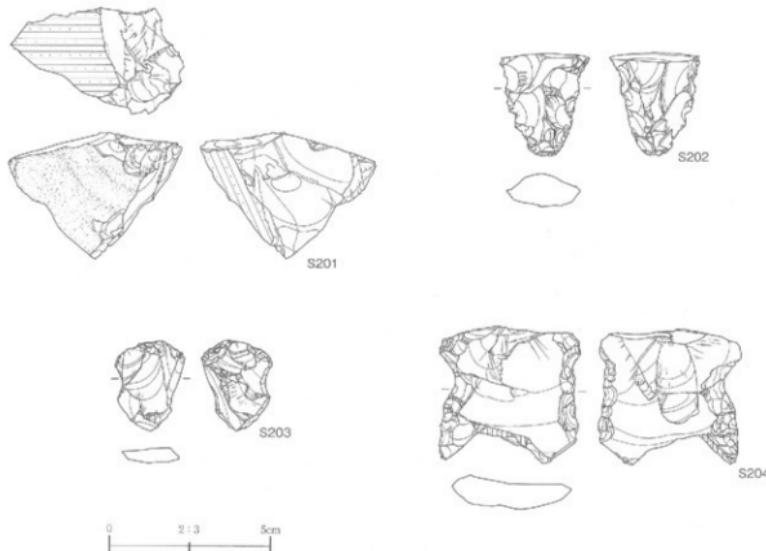
【備考】ローム中の炭化物2点の年代測定を行ったが、 $3,460 \pm 30$ yrBP・ $3,360 \pm 30$ yrBPとの年代が得られている。

(村木)

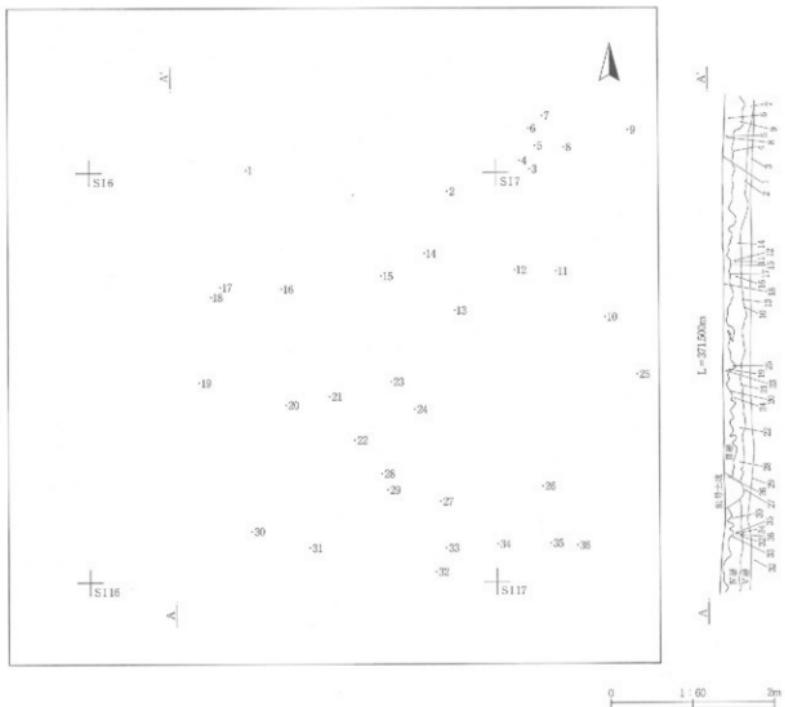
2 出土遺物

(1) 掲載遺物について

平成20年度調査では、小寒沢氾濫部の遺物包含層から予想を遙かに上回る遺物が出土し、冬期間の室内整理ではすべての作業を終えることが出来なかった。当該年度の遺物整理については、次年度の野外調査と並行する形で実施したが、その期間は平成21年7~9月の3か月間、室内作業員5名体制



第79図 石器 (13)



0 1:1,500 50m

第80図 旧石器分布図

であった。

編集の都合上、ここでは以下に旧石器時代の石器についてのみ記載し、それ以外の遺物については平成21年度分とあわせて「第Ⅶ章、2.出土遺物」で報告する。

(2) 旧石器時代の遺物（第79図、写真図版83）

旧石器時代の石器は、風化度合い及び使用石材から判断しており、二次加工を有するものを優先的に掲載している。石材はいずれも頁岩である。

S201は細石刃核である。剥片を素材としているが、摺理や自然面で覆われ、さらに欠損しているためその素材形状までは判断できない。摺理面を打面側に据え打面調整をした後に、自然に形成された角礫の稜をそのまま利用し、細石刃を連続的に剥離している。細石刃は剥離から幅5mm前後のものと想定される。

S202は尖頭器である。先端部は欠損し、基部のみ残存している。剥離が粗く中央部分で折れていることから、製作工程中に欠損したものと思われる。

S203は楔形石器である。上下に剥離痕が認められる。

S204は擗器である。素材末端部は欠損しているため全体形状は不明である。両側縁に刃部を形成され、両面から加工を加えている。整理後に確認できたことだが、周辺の旧石器時代の石器には、このような加工が施される石器は認められていないことから、縄文時代に属する可能性が極めて高いものと思われる。

(村木)

VII 平成21年度調査

1 検出遺構

平成21年度調査では、土坑3基（82・83・84号）、集石1箇所（1号）を新たに検出した。また、前年度に終了できなかった遺物包含層の掘削と、中途にしていた71・72号土坑の精査、柱穴状小土坑30基の平面実測も併せて行った。

（1）土 坑

3基の土坑の時期は、出土遺物の特徴から縄文時代中期後葉から後期前葉と考えられる。

82号土坑

遺構（第81図、写真図版53）

【位置・検出状況】FX II 35グリッドに位置し、IV層上面で検出した。3号竪穴住居跡の西側で重複する。本遺構が新しい。

【規模・平面形】開口部径117×93cmの不整楕円形をなす。

【埋土】上位は黄褐色土粒を含む黒褐色土、下位はにぶい黄褐色土の2層からなる。

【壁・底面】断面形は皿状で東壁は緩く立ち上がる。深さは26cmである。底面は凹凸がある。

遺物

【縄文土器】埋土から94.3g出土した。掲載した遺物はない。

【石器】出土していない。

時期 重複する遺構との関係から、縄文時代後期初頭以降の土坑としておく。

83号土坑

遺構（第81図、写真図版53）

【位置・検出状況】FX II 15グリッドに位置する。本遺構の南東側に3号竪穴住居跡遺構が隣接する。

【規模・平面形】開口部径136×93cmの不整楕円形である。

【埋土】上位は直径50～70mmの円礫を含む黒褐色土、下位は大小の礫を含む暗褐色土からなる。

【壁・底面】断面形は中央部が深い皿状である。深さは最大41cm。底面は丸みをもつ。

遺物（第98図、写真図版75）

【縄文土器】埋土から286.9g出土した。2点（426・427）掲載した。

【石器】黒曜石のフレイク1点7.3g。

時期 出土遺物から、縄文時代中期末葉から後期初頭に属すると思われる。

84号土坑

遺構（第81図、写真図版53）

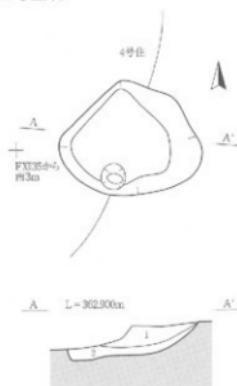
【位置・検出状況】FX II 16グリッドの中央に位置し、本遺構の南東およそ4mに83号土坑がある。

沢の氾濫部を掘削中に検出したが、遺構の北東側はそれにより一部失われている。

【規模・平面形】開口部径153×?cmの円形である。

1 検出遺構

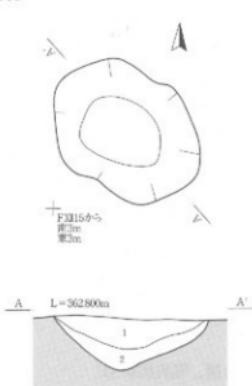
82号土坑



82号土坑

- 1 10YR2/2 黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 黄褐色土被まばらに含む
2 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 黑褐色土被全体に含む

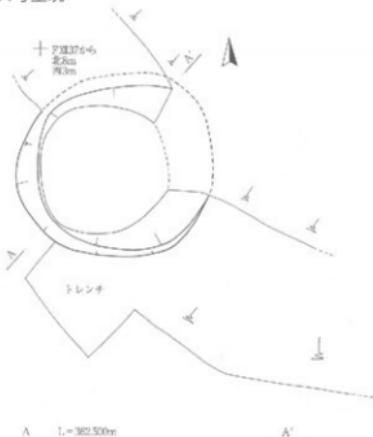
83号土坑



83号土坑

- 1 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性なし・しまり中 固結含む
2 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中・しまり中 小礫含む

84号土坑



- 84号土坑
1 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性弱・しまり中 水化後粒全体に含む
2 10YR4/4 楢色 彩繪 粘性中・しまり中 水化物ブロック含む

1号集石



0 1:40 2m

第81図 82~84号土坑、1号集石

[埋土] 遺構の存在に気づかず、上位は掘り切ってしまった。中位は炭化物粒を含むにぶい黄褐色土、下位は炭化物ブロックを含む褐色の砂疊層である。

[壁・底面] 斷面形は掘り上がりがフラスコ状であるが、本来は深バケツ形か。確認面からの深さは113cm。底面は概ね平坦である。

[その他] 埋土中より炭化種子（乾燥0.1g）が1点出土したため、放射性炭素年代測定（AMS測定）を行った。結果は「C14年代は4,120±30yrBP、縄文時代中期末葉頃に相当する」。

遺物（第99図、写真図版53）

〔縄文土器〕 埋土から1,501.1g出土した。4点（428~431）掲載した。

〔石器〕 出土していない。

時期 縄文時代中期末葉から後期初頭に属すると思われる。

（2）集 石

1号集石

遺構（第81図、写真図版53）

〔位置・検出状況〕 F X II 33・34グリッドに跨る。東側1.5mに3号竪穴住居跡が、南西側5mに1号竪穴住居跡がある。重複はない。

〔規模・礫の特徴〕 50~60cm四方に8個の礫が配される。礫の大きさは15~30cm、形は長方形をなすものが多いが、長軸方向を同じにするなどの状況は認められない。

[その他] 既述のとおり燃焼部は観察されず、礫を据えるための掘り込みも確認されない。

遺物 出土していない。

時期 縄文時代のいずれかの時期に属するが、出土遺物がなく詳細は不明である。

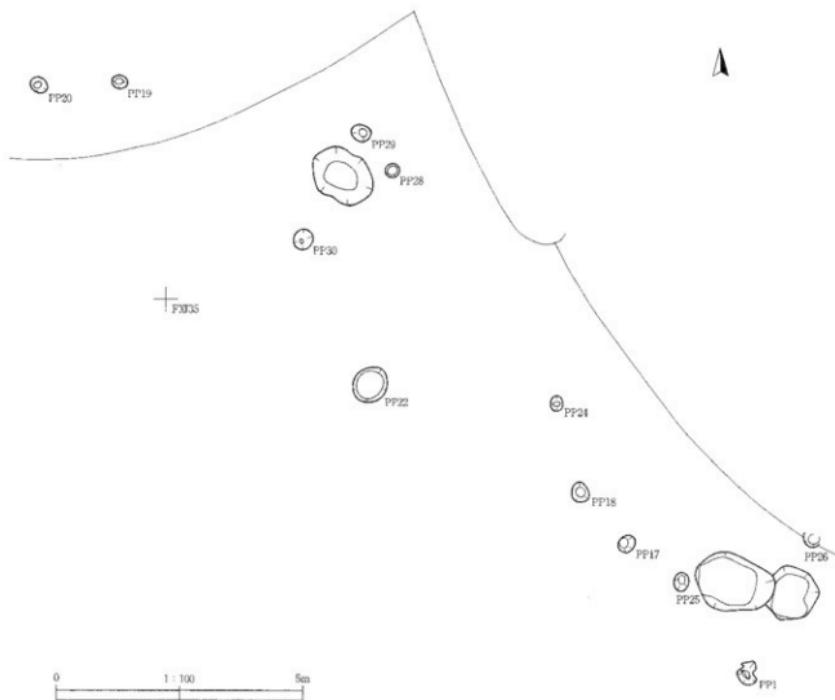
（3）柱 穴 状 上 坑

開口部径が50cm以下の小土坑について記述する（第82・83図）。平成20年度調査時に検出・精査し、平面実測は平成21年度に行ったもので、総数は28個である。うち、土器片が含まれているものは13個あった。詳細については、下の第16表を参照されたい。

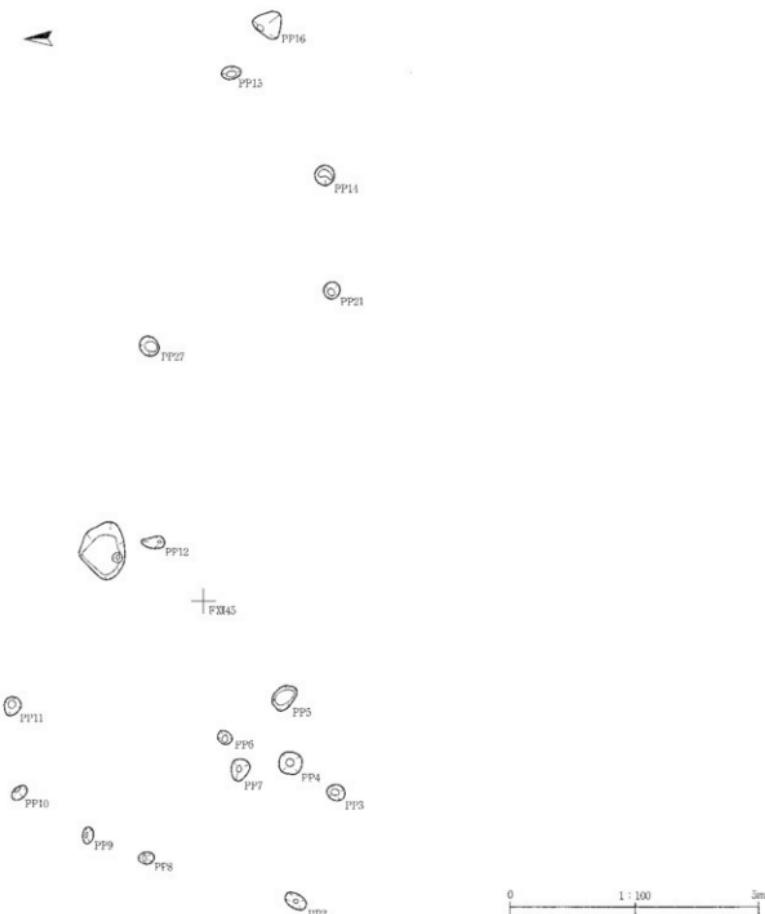
第16表 平成21年度調査柱穴状土坑観察表

遺物名	位置	土器片	開口部径(cm)		深さ(cm)	底面深さ(cm)	備考
			長さ(cm)	幅(cm)			
PP1(09)	10YR2/3	黒褐色 シルト	50	30	-	-	アーチなし
PT2(08)	10YR2/3	黒褐色 シルト	45	29	29	36.2700	
PP3(09)	10YR2/3	黒褐色 シルト	33	31	54	36.2430	
PP4(09)	10YR2/3	黒褐色 シルト	35	42	41	36.2570	
PT5(09)	10YR3/3	暗褐色 シルト	55	38	18	36.2740	
PP6(09)	10YR2/2	黒褐色 シルト	31	21	36	36.2380	
PT7(09)	10YR3/3	暗褐色 シルト	47	39	39	36.2380	
PT8(09)	10YR2/2	黒褐色 シルト	32	24	20	36.2860	
PP9(09)	10YR2/2	黒褐色 シルト	33	21	20	36.2880	
PP10(09)	10YR2/2	黒褐色 シルト	32	25	43	36.2580	
PP11(09)	10YR2/3	鶴色 シルト	40	32	22	36.2750	
PP12(09)	10YR3/2	黒褐色 シルト	45	22	18	36.2580	
欠番							
PP14(09)	10YR2/2	黒褐色 シルト	50	44	-	-	36.2010
PT5(09)	10YR3/3	暗褐色 シルト	50	44	-	-	36.2010
PT16(09)	10YR3/2	黒褐色 豆腐目	51	50	74	36.1780	
PT21(09)	10YR2/2	黒褐色 シルト	25	31	59	36.1860	
PT18(09)	10YR3/3	鶴色 シルト	39	32	30	36.2110	
PT19(09)	10YR3/3	鶴色 シルト	32	28	49	36.1930	
PP20(09)	10YR3/2	鶴色 シルト	31	31	18	36.2200	
PP21(09)	10YR4/3	にぶい鶴色 シルト	35	31	43	36.1960	
PT22(09)	10YR3/3	暗褐色 シルト	75	63	22	36.2640	

遺構名	上層柱形	開口部径(cm)		深さ(cm)	底面標高(m)	備考
		長軸	短軸			
PP23(09)	矢器					
PP24(09)	10TR2/2 黒褐色 シルト 粘性なし・しまり強 帯下部に褐色土を含む	29	24	23	362.310	
PP25(09)	10TR4/3 墓場色 シルト 粘性弱・しまり有 薄褐色土粒を含む	35	30	20	362.190	
PP26(09)	10TR2/2 黒褐色 シルト 粘性なし・しまり強 褐色土粒を含む	39	-	45	362.650	
PP27(09)	10TR4/3 墓場色 砂質シルト 粘性弱・しまり有 薄褐色土粒を含む	40	32	49	362.160	
PP28(09)	10TR2/2 墓場色 シルト 粘性弱・しまり有	26	24	49	362.150	
PP29(09)	10TR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 腐化物少ない	40	32	48	362.150	
PP30(09)	10TR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり有	39	37	62	362.160	



第82図 柱穴状土坑 (1)



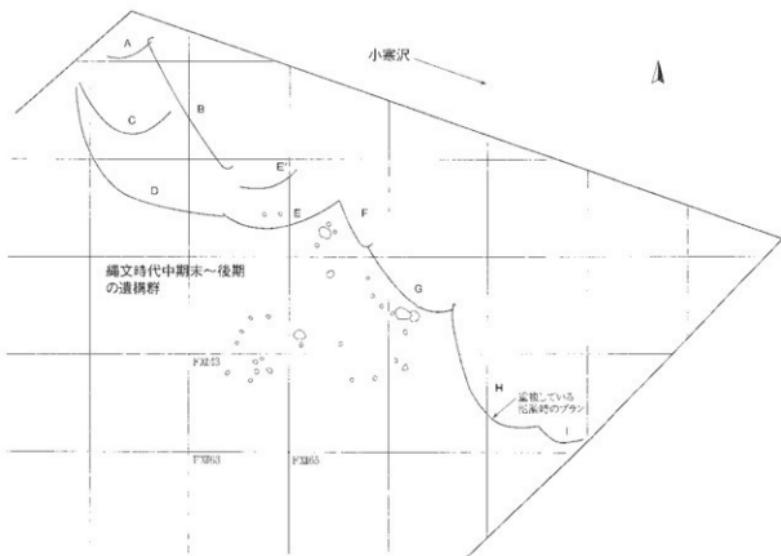
第83図 柱穴状土坑（2）

(4) 小寒沢氾濫部の遺物包含層について

前川に流れ込む小寒沢が本遺跡を二分する位置にあること、そしてこの両岸に時期を異にする縄文時代の集落が構成されていたことは既に述べてきたとおりである（第84図）。

筆者が調査に通った3カ年の間、台風や低気圧に伴う大雨によってこの沢が氾濫・蛇行を繰り返し、周辺の地形に変化を与えることを目撃した回数は…、二度ではない。小寒沢がいつも簡単に暴れる様を見ていると、これまで何度それを繰り返してきたのか想像もつかないが、調査では第84図にあるように、平面的にA～E、E'～Jの10箇所の氾濫プランを確認、それぞれについて遺物の有無を調査した。各氾濫部からは、後期前葉・晚期後葉などの土器片や石器・石製品の出土が定量認められたが、最終的には想定以上の出土をみた。

本来、平面図とあわせてプランの重複関係を断面図で図示すべきであったが、上述したようにごく最近形成された包含層であることは間違いないと思われたため、野外調査ではそれを作製せず、遺物の回収のみを行った。大半の出土遺物は、出土地点のみを示してグリッド単位で取りあげ、氾濫部内における層位については記載しなかった。



第84図 小寒沢氾濫部平面図 (S = 1 : 500)

2 出土遺物

(1) 繩文土器

平成20・21年度調査で出土した土器・土製品（第85～112図、第18表、写真図版67～82）の総重量は305,536.80gで、地点別の重量は第17表に掲げたとおりである。掲載にあたり、土器は201から番号を付したが、土製品である321・745・746については次項で扱う。

土器は以下の基準で分類し、第18表「分類」にそれを記載した。括弧内には土器型式名等を示したが、すべてがそれにあたるわけではない。Ⅲ群土器の一部については、既存の土器編年により細分類している。

I群土器…早期中葉に属するもの（物見台式、明神峯Ⅲ式）

II群土器…前期前葉に属するもの（大木2a・2b式）

III群土器…中期に属するもの

1類 初頭～前葉

a 細沈線、沈刻文、重層山形文（大木7a式）

b 区画文、原体压痕文、交互刺突（大木7b式）

2類 中葉（大木8式→原体压痕、橋状把手、渦巻文）

3類 後葉（大木9式→渦巻文と逆U字状の区画文様帶）

4類 末葉

a アルファベット文、横位展開の文様（大木10a式）

b ヒレ状、ノの字状文、撚糸文多用（大木10b式）

IV群土器…後期に属するもの

1類 初頭（門前式など）

2類 前葉～中葉（宮戸1b・2式、宝ヶ峯1・2式など）

3類 後葉（瘤付土器第Ⅱ～Ⅲ段階、宮戸3a式など）

V群土器…晩期末葉に属するもの（人洞A'式）

遺構の内外を問わず、調査地点により出土する土器の時期は限定される。平成18・19年度調査区では中期から後期後葉など、平成20年度I区では中期末葉から後期前葉、同じくII区では早期や後期、III区では中期末から後期前葉、IV区では中期初頭から中葉が区域毎の主体となる時期となっている。

a) 遺構内（201～439、321除く）

遺構内出土の掲載土器は238点である。それらは、竪穴住居跡（201～278）、竪穴住居状遺構（279～300）、上器埋設遺構（301）、土坑（302～431、321除く）、焼土（432・433）、柱穴（434～439）の各遺構から得られたものである。

1・2号住居跡の遺物では詳細な時期がわからないが、周辺の出土状況から中期後葉以降のものとした。3号住居跡では円形刺突を有するもの（208～210）があることから、中期末～後期初頭の時期とした。4号住居跡では214のような中期後葉と思われるものや、218・219などの平行沈線文をもつ後期前葉から中葉のものが見られる。5号住居跡の土器（236・237など）は、3号住と同じ時期のも

のとした。6号住居跡の243は中期末葉か後期初頭。7～9号住居跡から出土した土器は、大木7a・7b・8a・8b式と思われるものが主体で、この周辺からの遺構外土器も、この型式以外はほとんど出土していない。

3号堅穴住居状遺構では、大木10式から門前式にかけてと思われるもの(280・281・288・289・292など)と、もう少し新しい後期前葉(296・300など)に属するものが出土した。286は有孔把手が付くミニチュア製品、289は後期前葉、華燭土器の突起部である。

土坑では、①中期末葉から後期初頭②後期前葉から中葉③後期後葉の3つに時期が大別出来そうである。例えば、①は41号土坑310や84号土坑428などの、横位に展開するアルファベット文が付く中期末葉の個体、②は72号土坑出土の408で、クランク状の沈線区画を有する単孔土器底部、③は55号土坑出土329の後期後葉深鉢などが挙げられよう。42号土坑の311や48号土坑の317は、透かしが入る台付きの浅鉢で、311よりは317が若干新しめかと思われる。58号土坑出土339～341は平行沈線文を有する後期前葉のもの、62号土坑の356・357は後期初頭と思われる深鉢の口縁部破片である。

21号焼土出土の432は、方形区画をもち口唇内面にも粘土紐が貼り付けられている。大木8a式に相当するものとした。柱穴出土のものは、中期末葉から後期初頭に属するものが多い。

b) 遺構外(440～744)

遺構外から出土した土器は307点掲載した。ここでは、出土地点が小寒沢搅乱部の包含層が主体であることから、層位ごとではなく時期別に記載する。なお、土器はグリッドごと掲載しているため、多少探しにくいことをお断りしておく。

I群土器(早期中葉)

いわゆる幾何学様の貝殻腹縁文をもつ早期中葉の土器である。684～690の7破片1個体と思われるもので、東北北部の物見台式、南部の明神裏Ⅲ式に相当しよう。焼成は良く、胎土も密である。

II群土器(前期前葉)

植物繊維を胎土に含む大木2a・2b式の土器で、557・560・565・568・574・655・662・666・678・681の10破片を掲載した。S字状連鎖沈文あるいは結節回転文などと呼ばれる文様が特徴である。これらは、主に小寒沢氾濫部から出土しており、当該期の遺構は確認されていない。

III群土器(中期各期)

中期初頭から前葉の大木7a式は、口縁部に付く縦位の原体圧痕や粘土紐の貼り付けが特徴(707・712・713・717など)で、口唇部に刻みをもつもの(720・721など)もある。7b式は、胴部に波状の隆帯が垂下するもの(695・719など)などが加わる。口縁部把手の装飾も大きく(692など)なるようである。中葉の大木8式では、把手は更に大型化(697など)し、橋状となるもの(718)もある。胴部には平行沈線や浮線により、クランク状の文様(704など)が描かれる。大木8a式が主体と思われる。後葉の大木9式は、同一個体と思われる493・494・496のように、逆U字状に展開する縦長の文様構成をもつものである。630は口縁部文様が簡素化した大木9b式か。大木10式は、アルファベット文が横位に展開する10a式(445・485)と、「コ」の字やヒレ状突起や刺突が付く「ノ」の字状文(470・474・563など)が主体となる10b式に分けた。後者には有孔突起の付くもの(446・544・553・601・665)もある。

IV群土器(後期各期)

沈線と斜縄文からなるもの(483・509など)、沈線による曲線文(625・641・664など)を後期初頭門前式相当とした。この他に口縁部に刺突が入るものもここに含めた。後期前葉から中葉は、平行沈線文(476・528・558・638・639など)をもつものとそれに付く耳状の突起(527・675など)、華燭土

器の突起（610）などが挙げられる。東北南部の宝ヶ峯1・2式、宮戸1b・2式相当のものである。後葉はいわゆる瘤付土器であるが、遺構外からは出土していない。

V群土器（晩期末業）

744の1点のみ出土した。大洞A'式、工字文をもつ浅鉢である。

この他、詳細な時期を与えることが出来なかったものについて記載する。451は晩期後葉から末葉あたりに属するかと思われる蓋状のものだが、器種を含め詳細は不明である。465は後期前葉から中葉あたりの広口の壺形土器。578は蓋としたが確認はない。上部に把手状のものが付いていた痕跡を残している。数珠状、鎖状につながる文様から、時期は後期初頭から前葉あたりか。

（2）土 製 品

土製品は、遺構内では48号土坑から出土した耳栓（321）1点、遺構外では底部の残る箱珍土器（745）と土製円盤（746）の合計3点が出土した。

（3）石 器

平成20・21年度調査で出土した石器（第113～144図、第19～21表、写真図版83～101）の総重量は266,628.90gで、うちトゥール類は200点・158,724.40gである。これらの出土量は第19・20表に遺構内外の別に示した。遺構内外を問わず、トゥールについてはすべて掲載した。

遺構内から出土した石器の点数・総重量は92点・123,750.90gで、この他に本書に不掲載の剥片類が1,764.5gほどある。一方、遺構外出土の総重量は152,253.30gで、重量の割合で見ると遺構内51.3%、遺構外は48.7%となっている。

a) 遺構内

竪穴住居跡（S205～S248）

石器は第6号住居跡以外、すべての住居跡から出土した。砾石器では、石皿や台石、凹石・磨石などが見られ、中でも第8号竪穴住居跡の凹石の出土が目立つ。石材は凝灰質砂質が主体である。剥片石器は、第4号住居跡から石鎚とスクレイパー類が複数個出土している。ここからは磨製石斧・台石・凹石・磨石、石製品では石製円盤も出土しておりバリエーションに富む。

竪穴状遺構（S249～S268）

3号竪穴状遺構からのみ出土している。凹石15点をはじめ、磨石・台石、石鎚や尖頭器が見られる。凹石の多さは特筆に値するが、3号竪穴状遺構は何らかの作業場の可能性があろう。

土坑（S269～308）

大半が磨石・凹石・台石などの砾石器で、主たる石材は凝灰質砂岩・凝灰岩・ディサイトである。石鎚・石匙・スクレイパー類などの剥片石器は、7点出土した。288は57号土坑出土の蛇紋岩製磨製石斧である。

b) 遺構外（器種毎・S309～S400）

尖頭器（S309）

小寒沢沿いの搅乱部から1点出土した。頁岩製で長さは8.2cm、厚さは1.9cmを計る。

石鎚（S310～S334）

25点出土した。石材は赤色頁岩・珪質頁岩を含む頁岩が多く黒曜石製のものは5点ある。S310～S314は凹基有茎鎚でS312・314は基部が平らなもの。S315～S328は凹基無茎鎚である。大きさはまばらで先端部や基部の一部を欠くものが多い。S329～S332は平基無茎鎚、S334は基部を失っているが、

黒曜石製の石鏃である。

石匙 (S335～S342)

縦型 6 点、横型 2 点の計 8 点出土した。S340・S342はノッチ以外の刃部も両面から加工される。すべて頁岩製である。

石箋 (S343～S350)

主要刃部を下端に有し範状に作られるもので、8 点出土した。いずれも両面から加工され、下端部に向かって広がる撥形のものが多い。

スクレイパー (S351～S372)

これまでの定形分類に属さないいわゆる搔削器類と不定形石器類をスクレイパーとして一括した。22点出土した。素材には縦長、横長、円形・椭円形基調の剥片が用いられ、刃部は 1 ないし 2 個縁加工のものが多く、片面のみ加工される個体が目立つ。S363は不適切かもしれない。

二次加工ある剥片 (S373～S377)

刃部調整が小さく、1 個縁の半分に満たないものを一括した。5 点出土した。

使用痕のある剥片 (S378～S384)

縁辺に何らかの使用痕が観察されるものを一括した。7 点掲載した。S384は二次加工か。

凹石 (S385・S386)

2 点出土しいずれも掲載した。いずれも凝灰質砂岩製で、両面に凹部が認められる。

磨石 (S387～390)

4 点出土した。S387以外は安山岩製である。

磨製石斧 (S391・S392)

刃部を欠くものが 2 点出土した。いずれも頁岩製である。

石皿 (S393)

1 点出土した。凝灰岩製で、使用された面は浅い。

不明石器 (S394・S395)

S394は両端を欠くが石質から砥石の可能性があるもの。S395はなめらかな凹部を有するが、用途が不明であるもの。

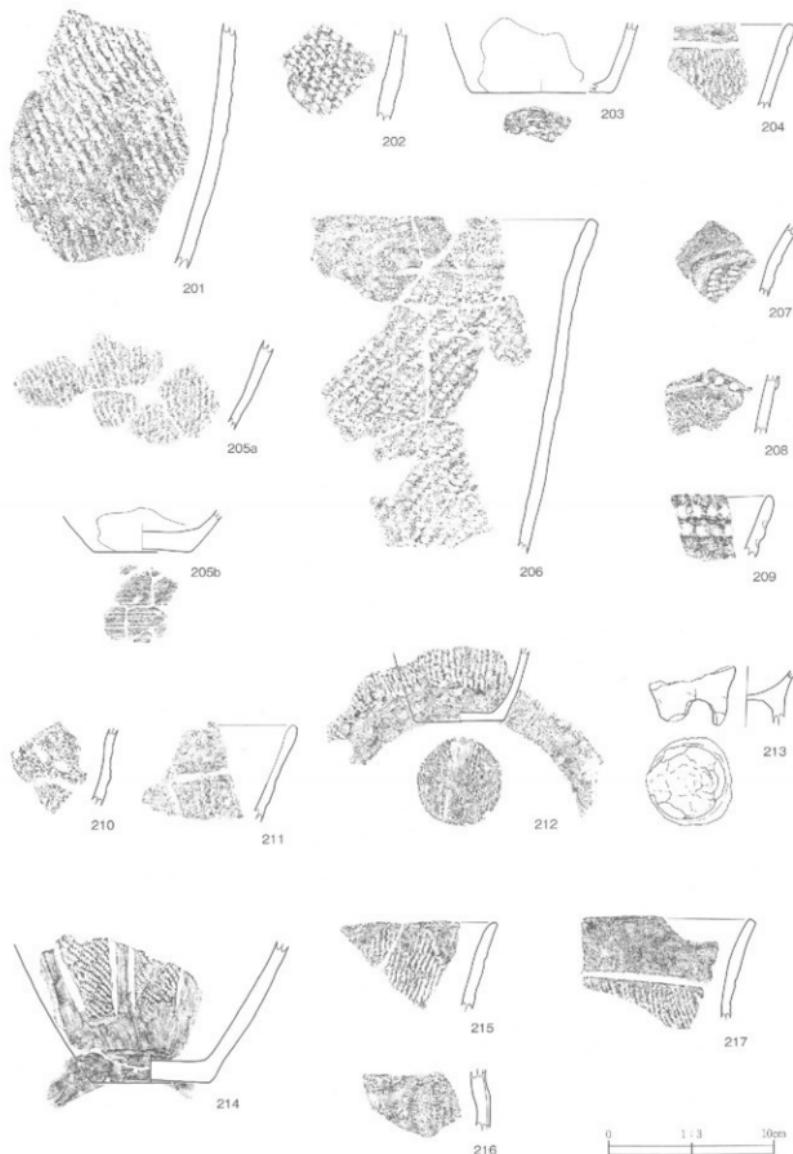
(4) 石 製 品

遺構内外あわせて 12 点 (第 143・144 図、第 21 表、写真図版 101)、総重量 46,050.70g 出土した。

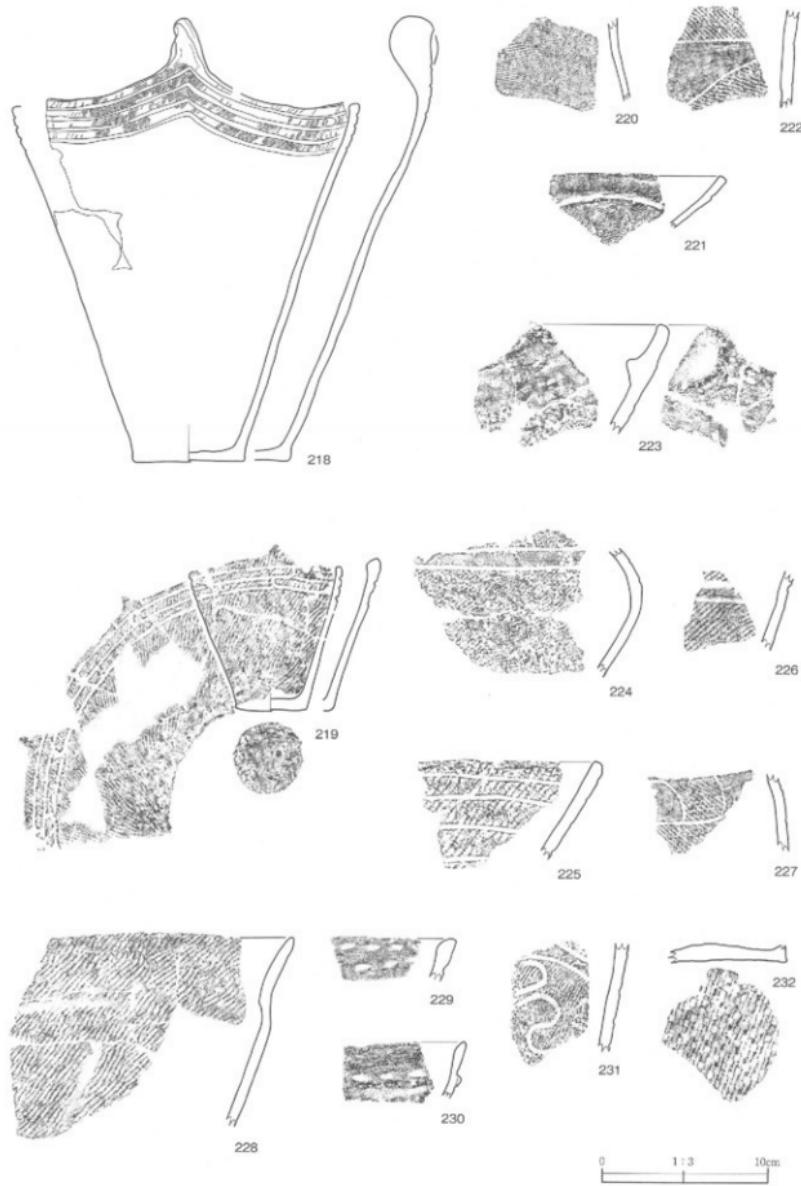
遺構内では、1・3・8 号竪穴住居跡 (S207・220・231・246)、39 号土坑 (S269)、69 号土坑 (S298) の 5 点の石棒あるいは石棒状の製品のはか、4 号竪穴住居跡 (S231) と 62 号土坑 (S293) から石製円盤が 1 点ずつ出土した。7 点の総重量は 34,9109g である。

遺構外からは、遺物包含層から出土した大形の石棒 1 点 (S252)、同じく石棒を意図したと思われるミニチュア製品 1 点 (S253)、石製円盤 (S398) 1 点、線刻のある碟 (S399・400) 2 点の計 5 点出土した。これらの総重量は 11,139.8g である。S253が頁岩製である以外は、加工・成形が比較的容易な凝灰岩を素材としている。

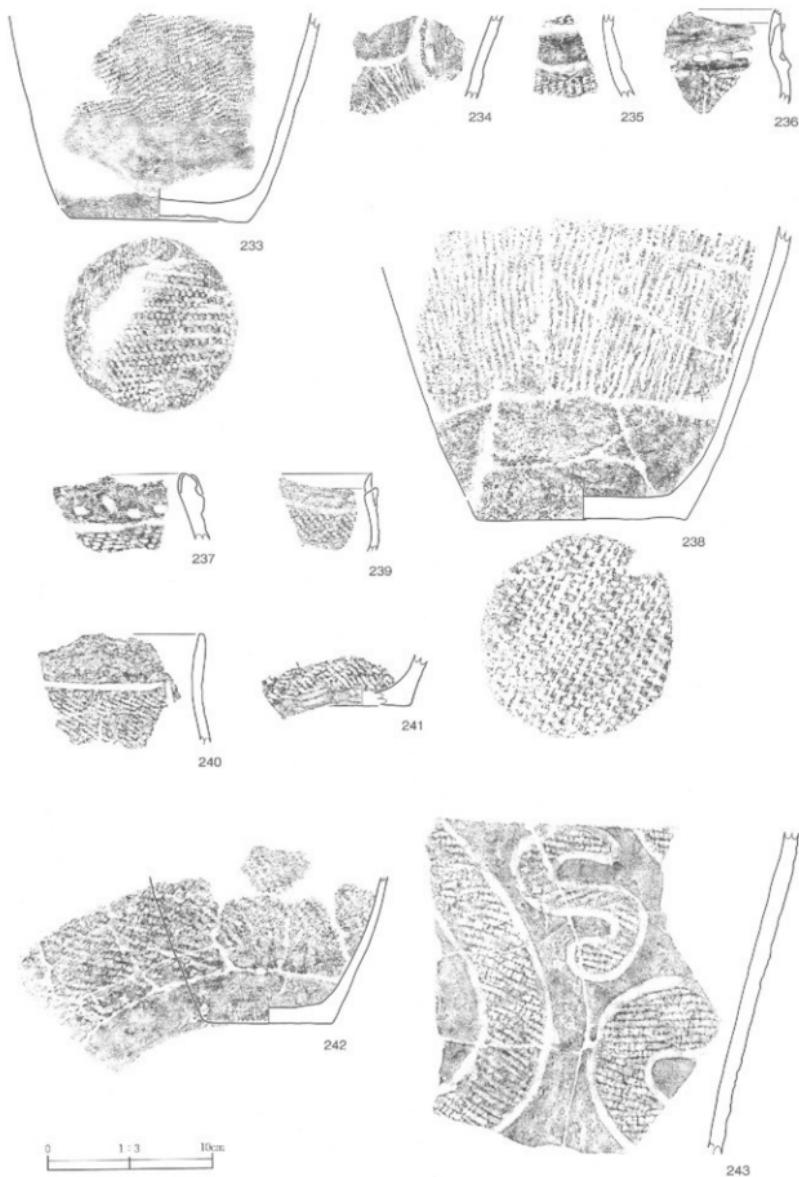
(濱田)



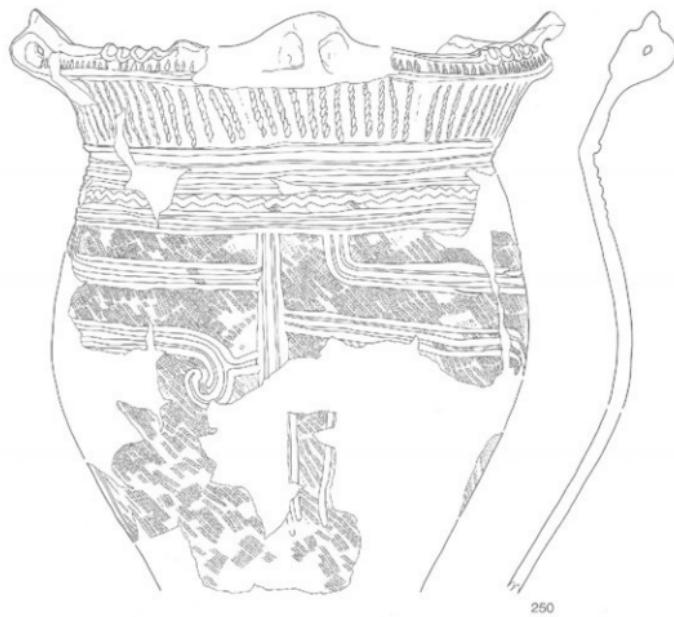
第85図 繩文土器 (8)



第86図 繩文土器 (9)

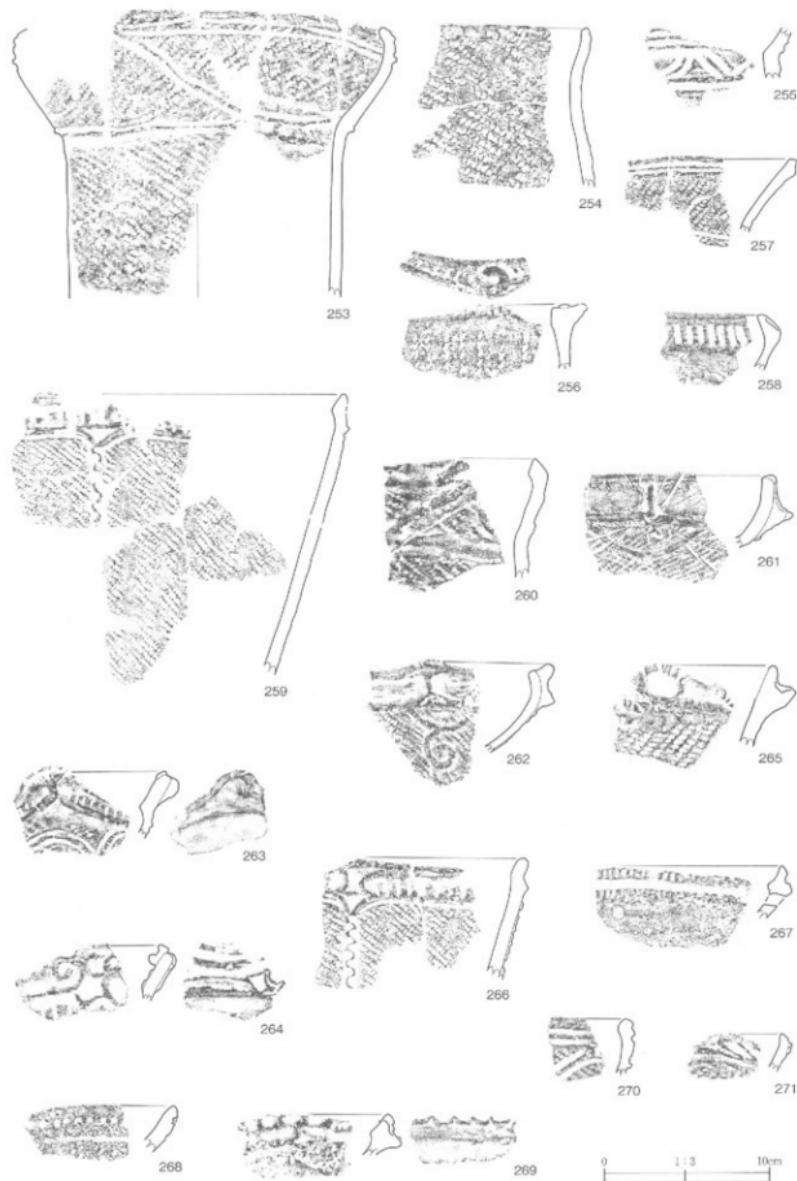


第87図 陶文土器 (10)

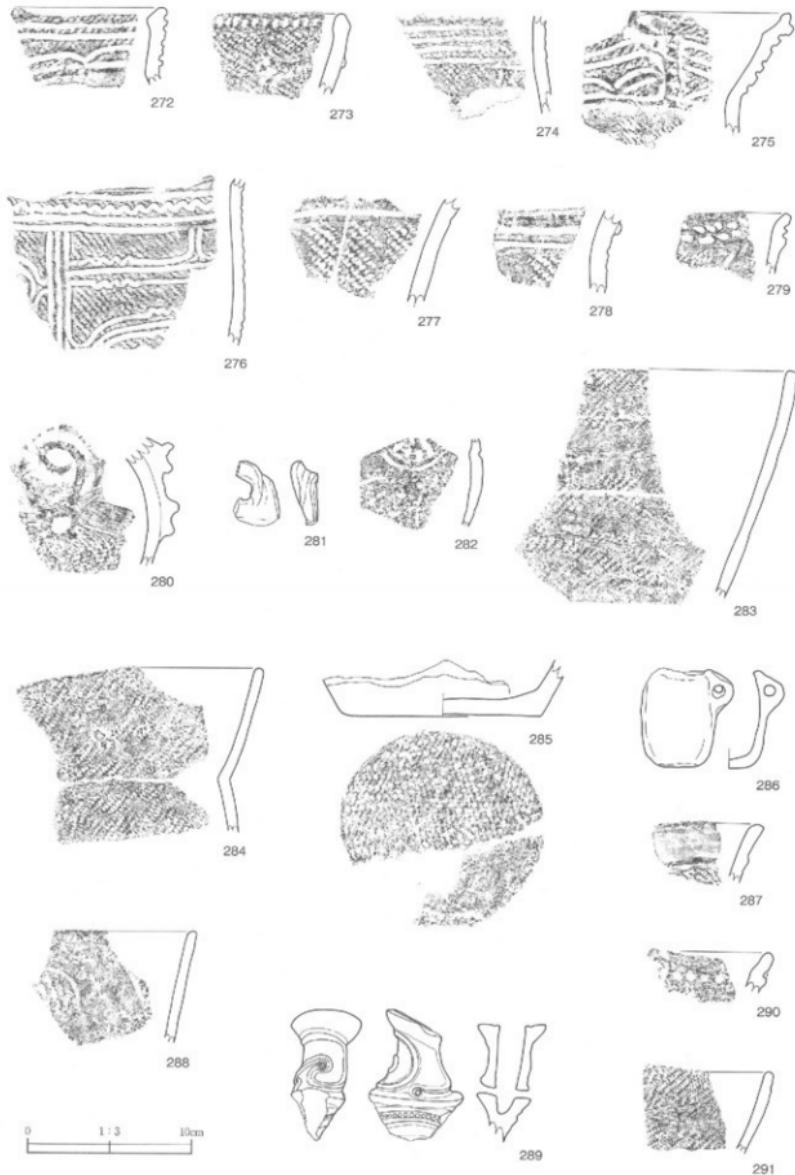


0 1:3 10cm

第88図 繩文土器 (11)



第89図 挽文土器 (12)



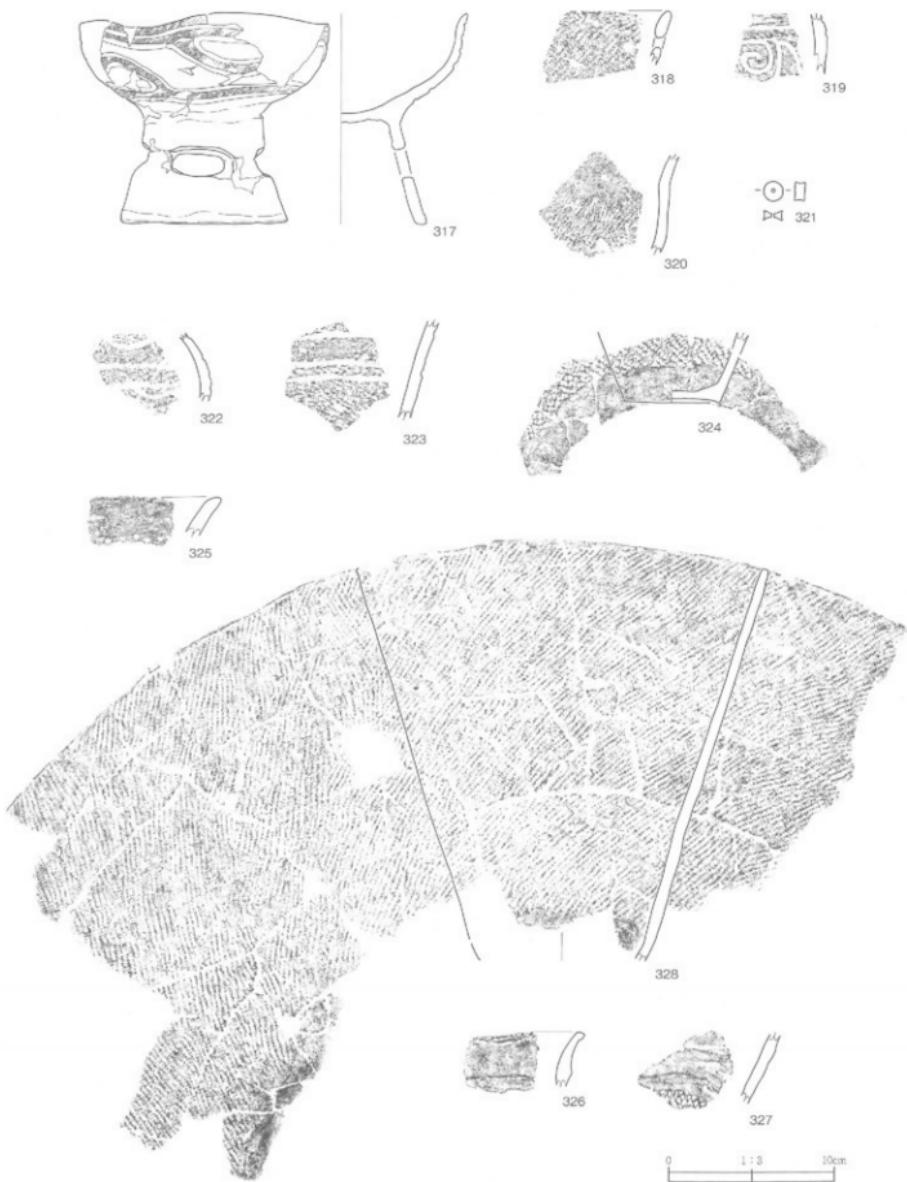
第90図 繩文土器 (13)



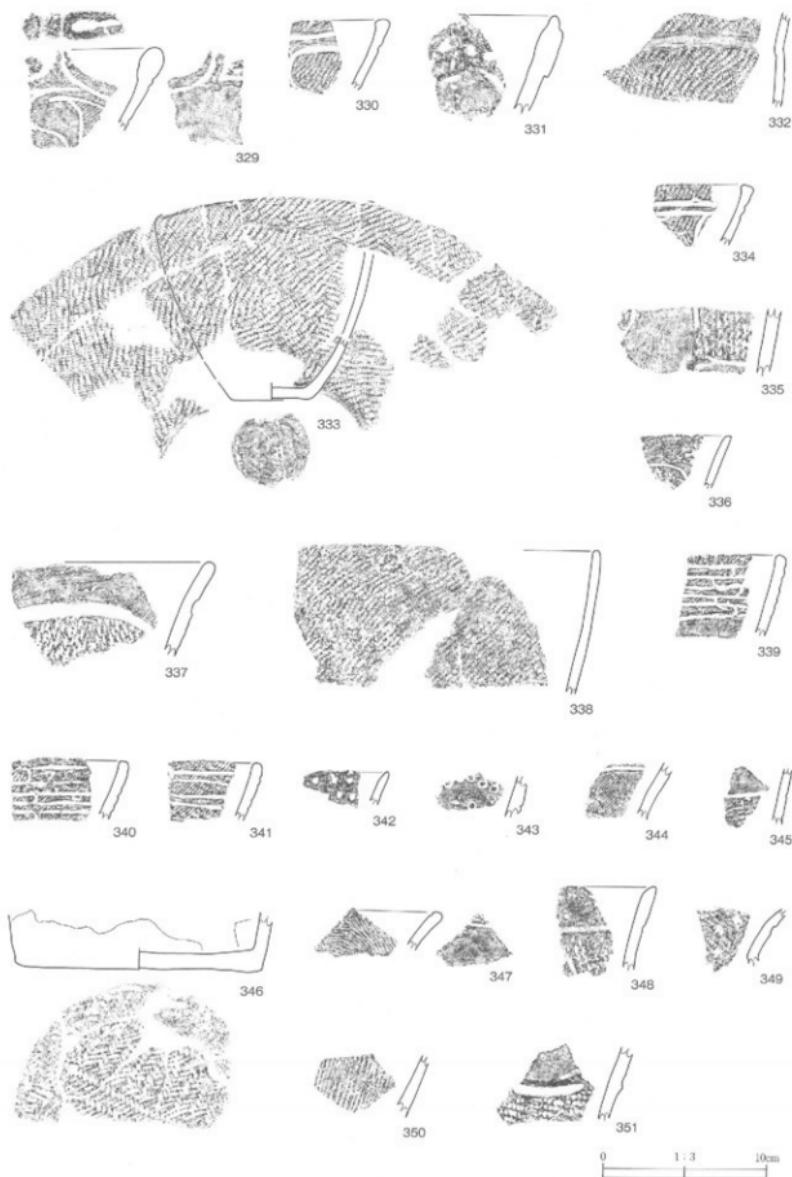
第91図 挿文土器 (14)



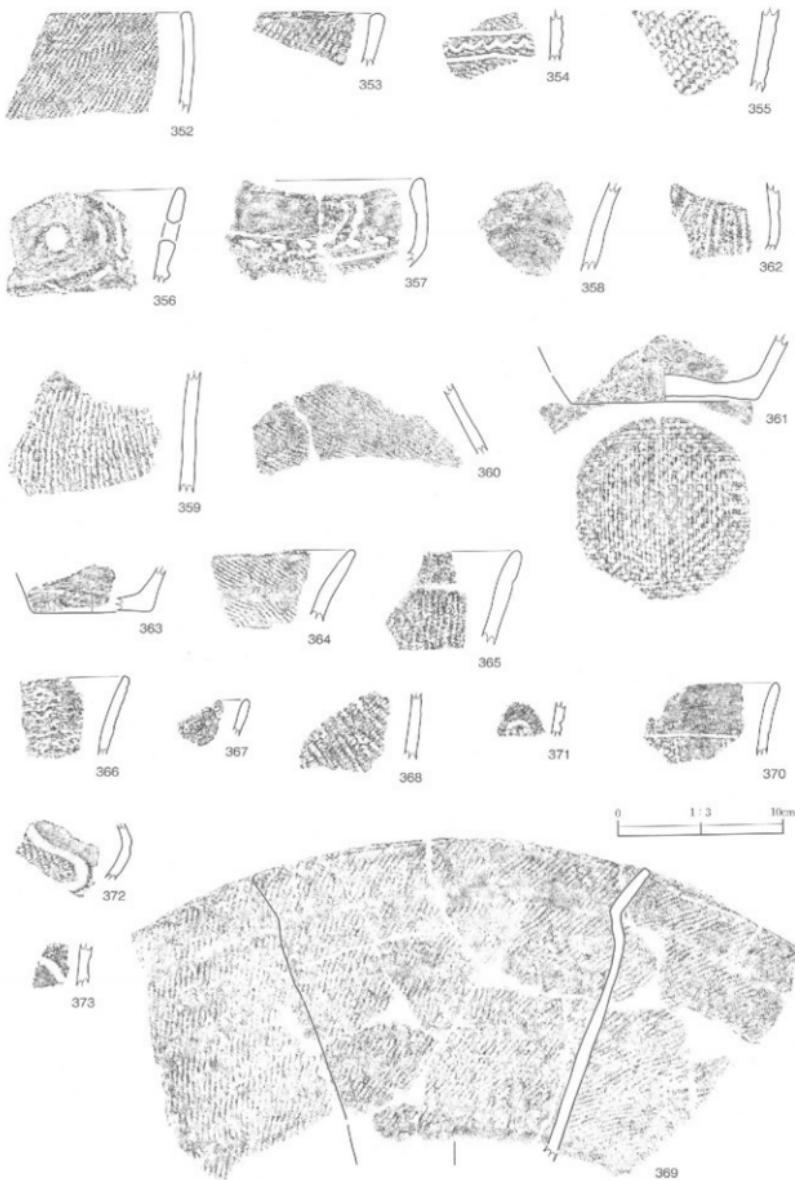
第92図 捕文土器 (15)



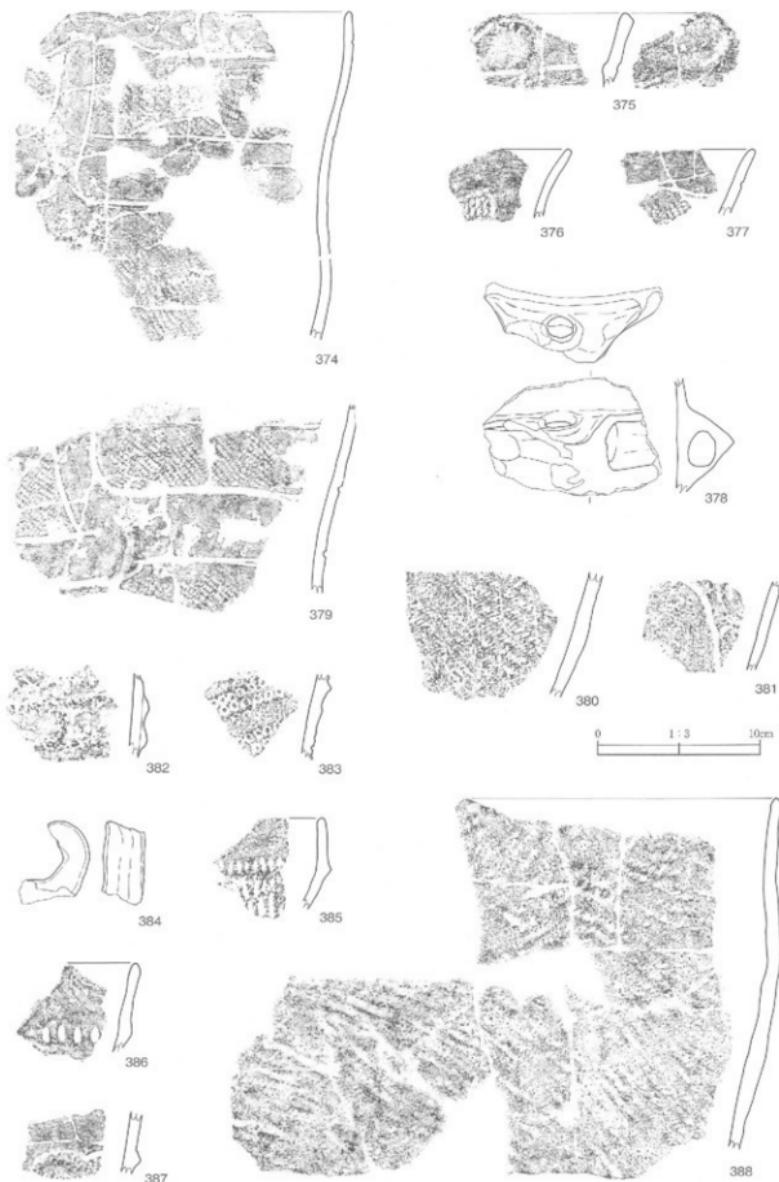
第93図 捺文土器 (16)



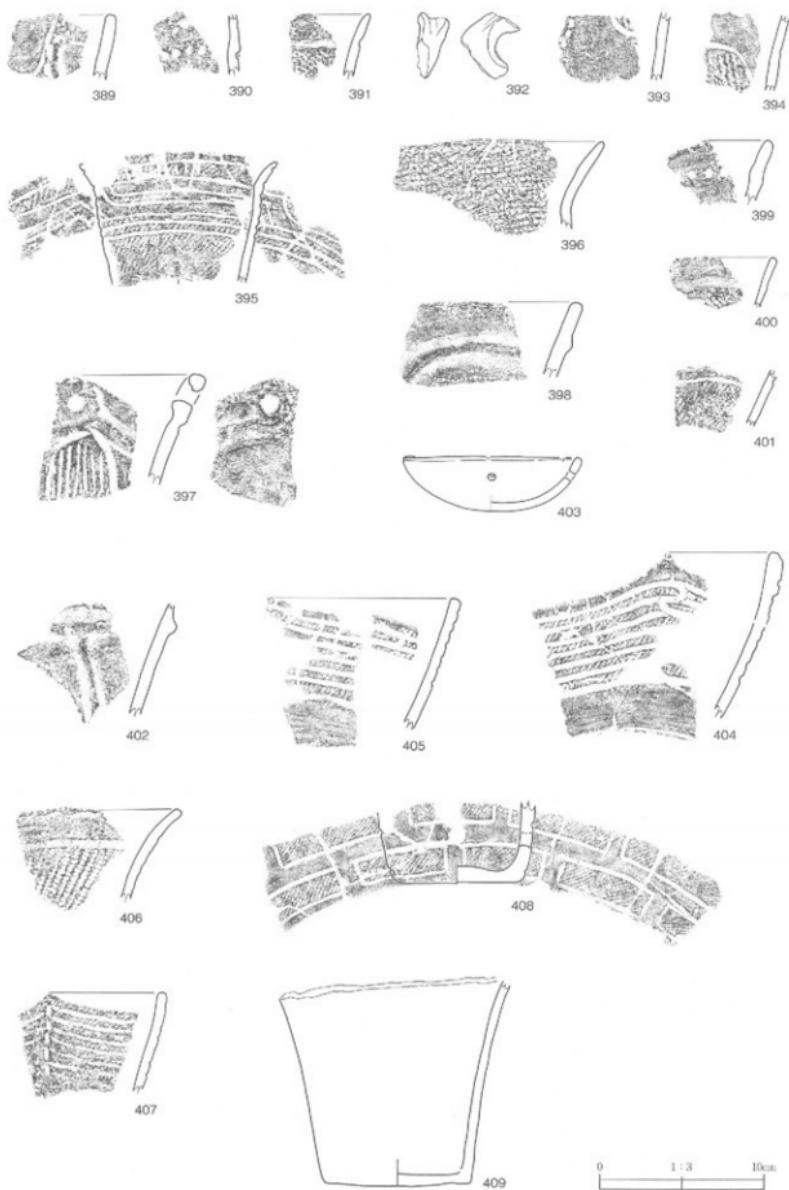
第94図 繩文土器 (17)



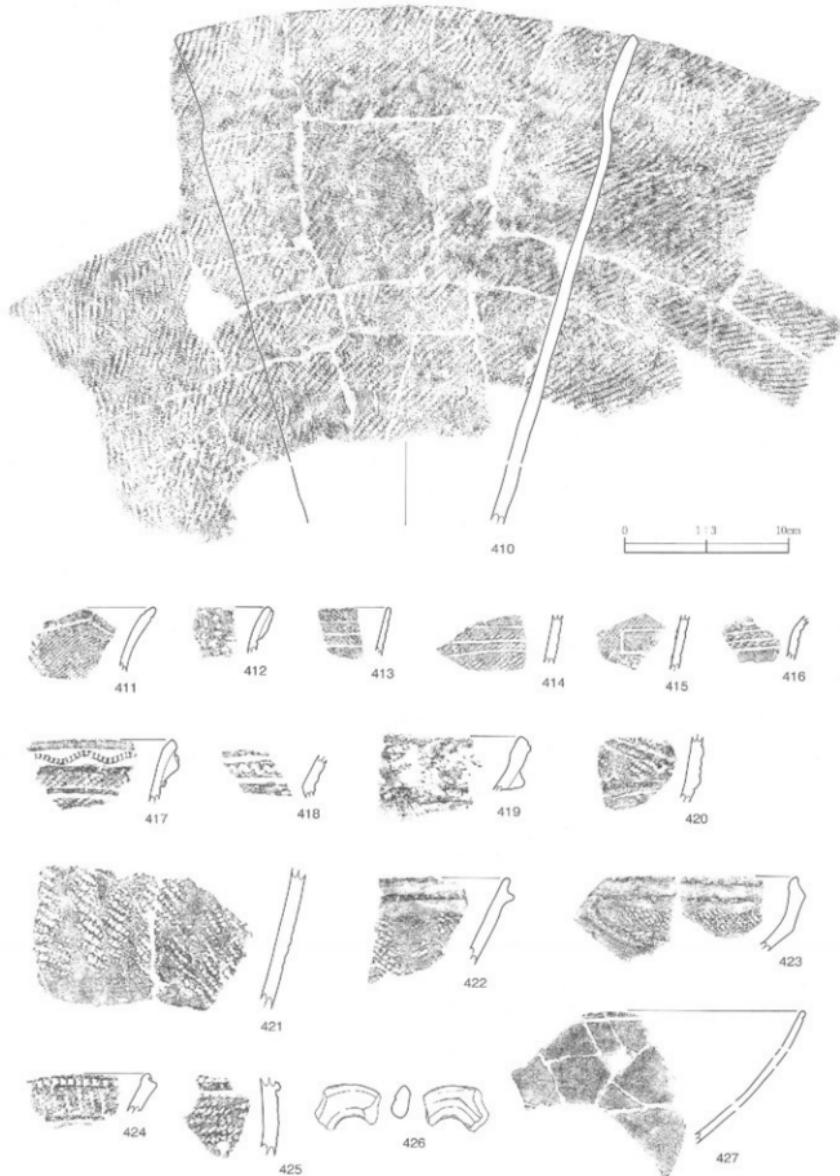
第95図 繩文土器 (18)



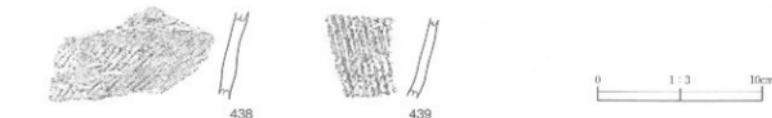
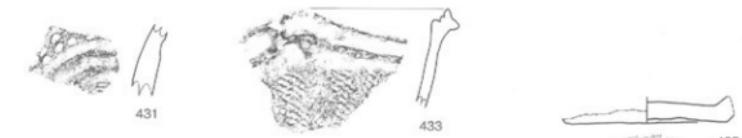
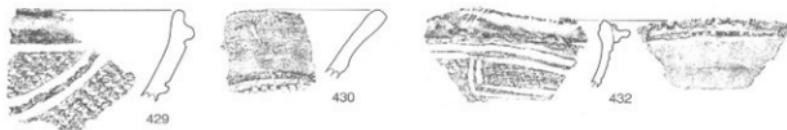
第96図 繩文土器 (19)



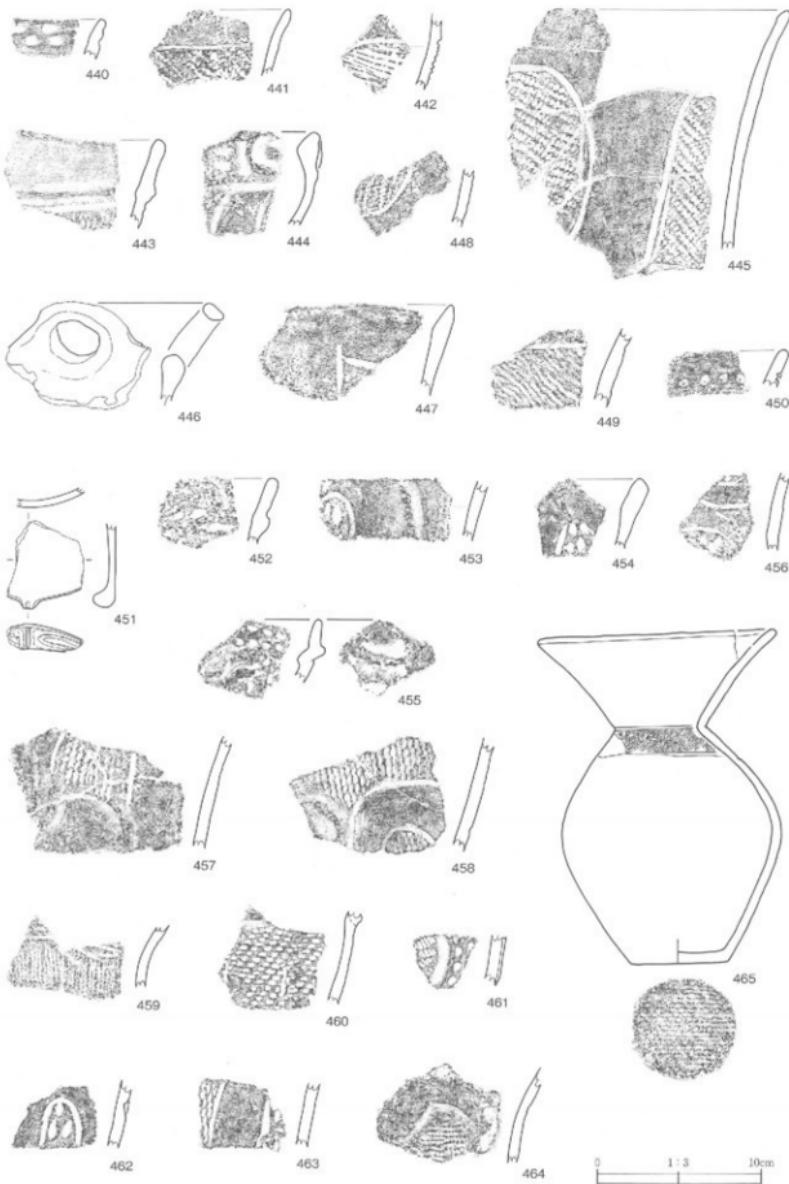
第97図 繩文土器 (20)



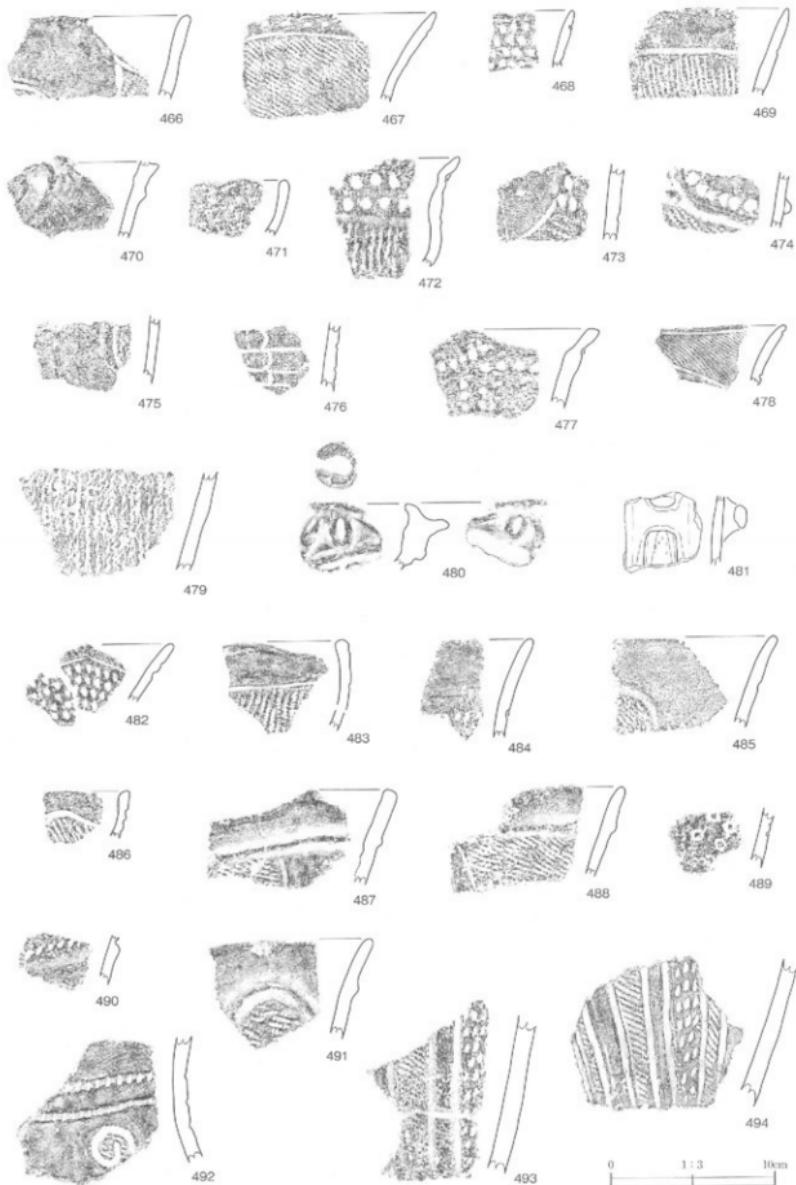
第98図 繩文土器 (21)



第99図 繩文土器 (22)



第100図 繩文土器 (23)



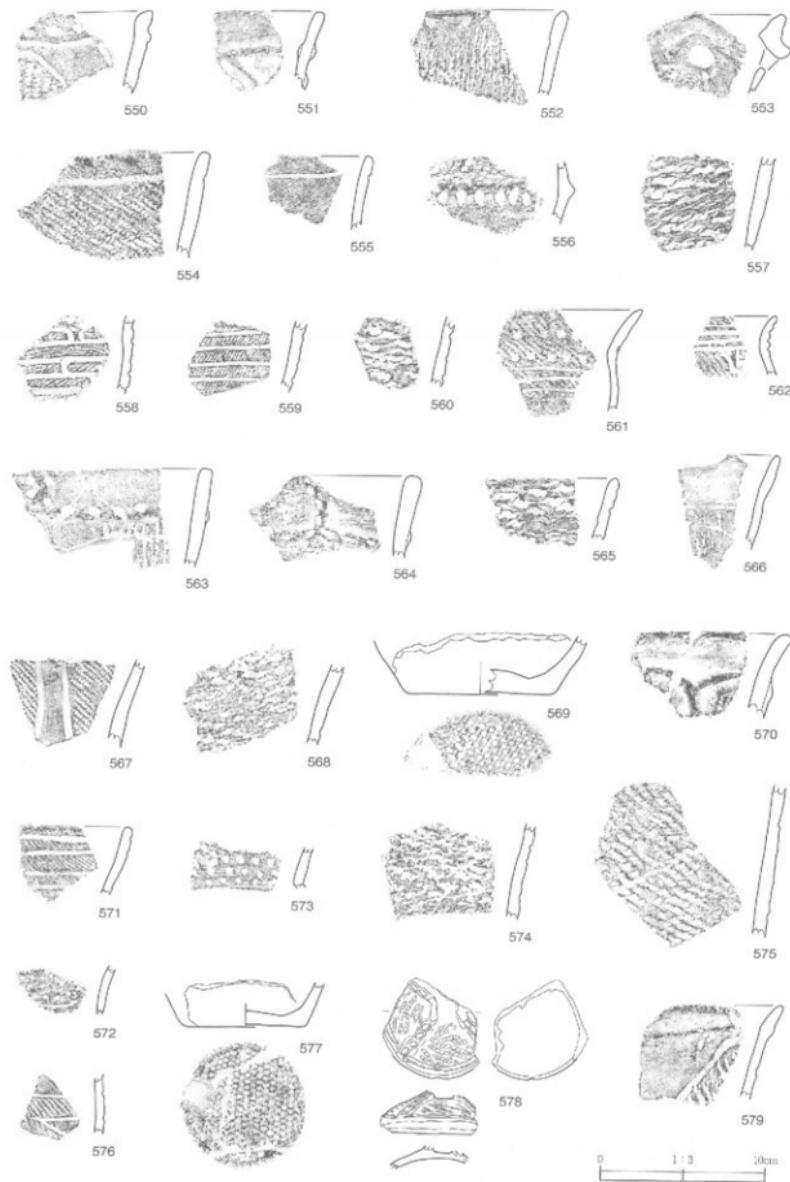
第101図 繩文土器 (24)



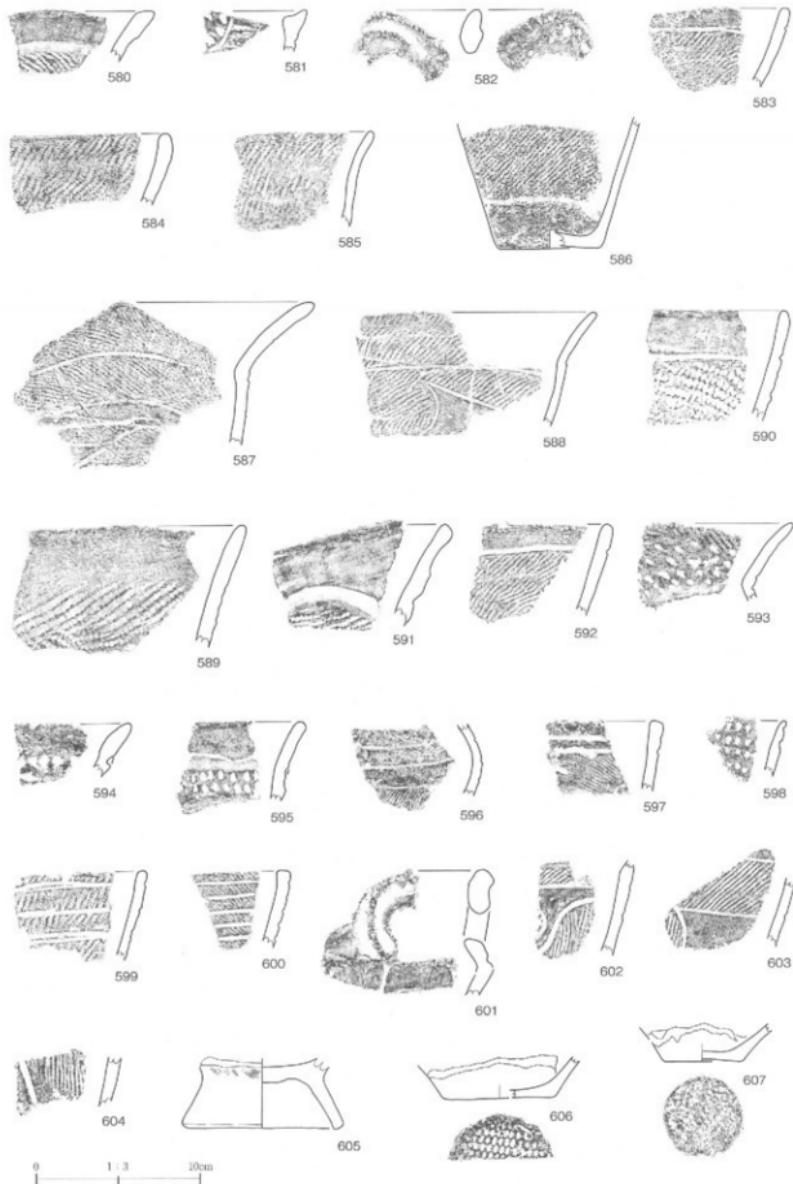
第102図 繩文土器 (25)



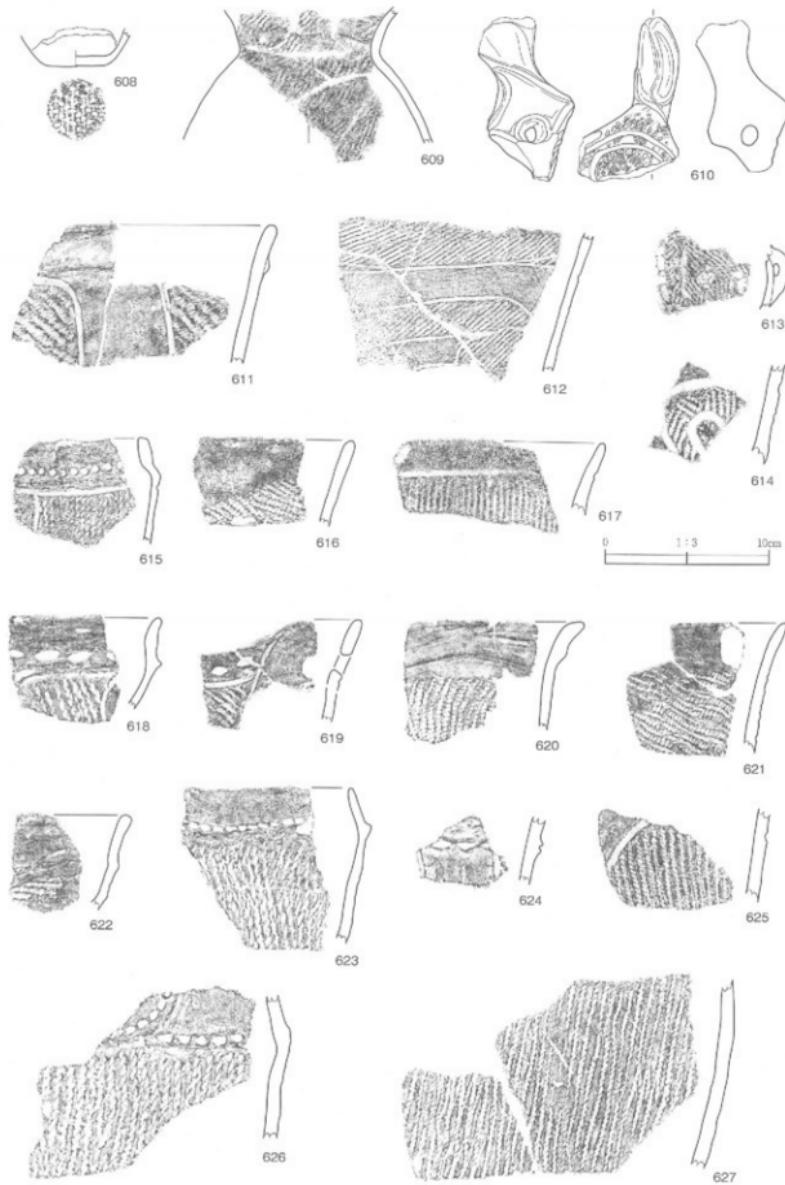
第103図 繩文土器 (26)



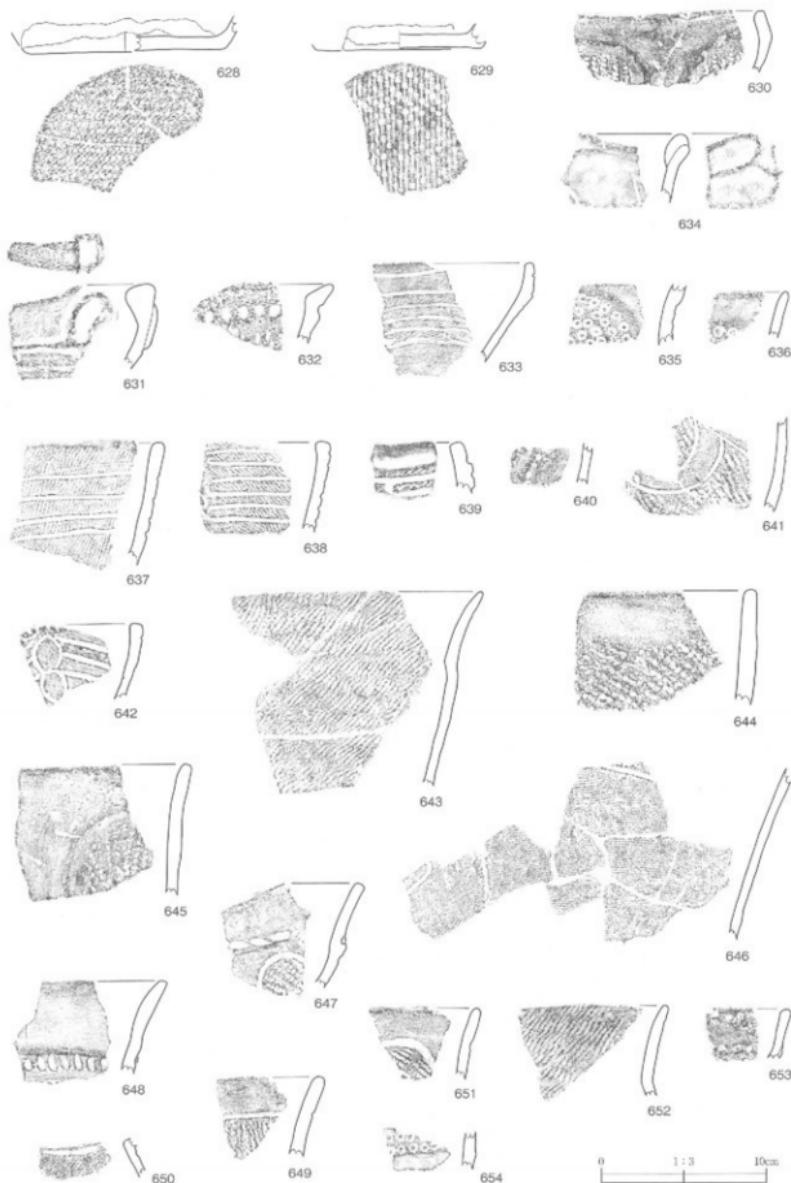
第104図 繪文土器 (27)



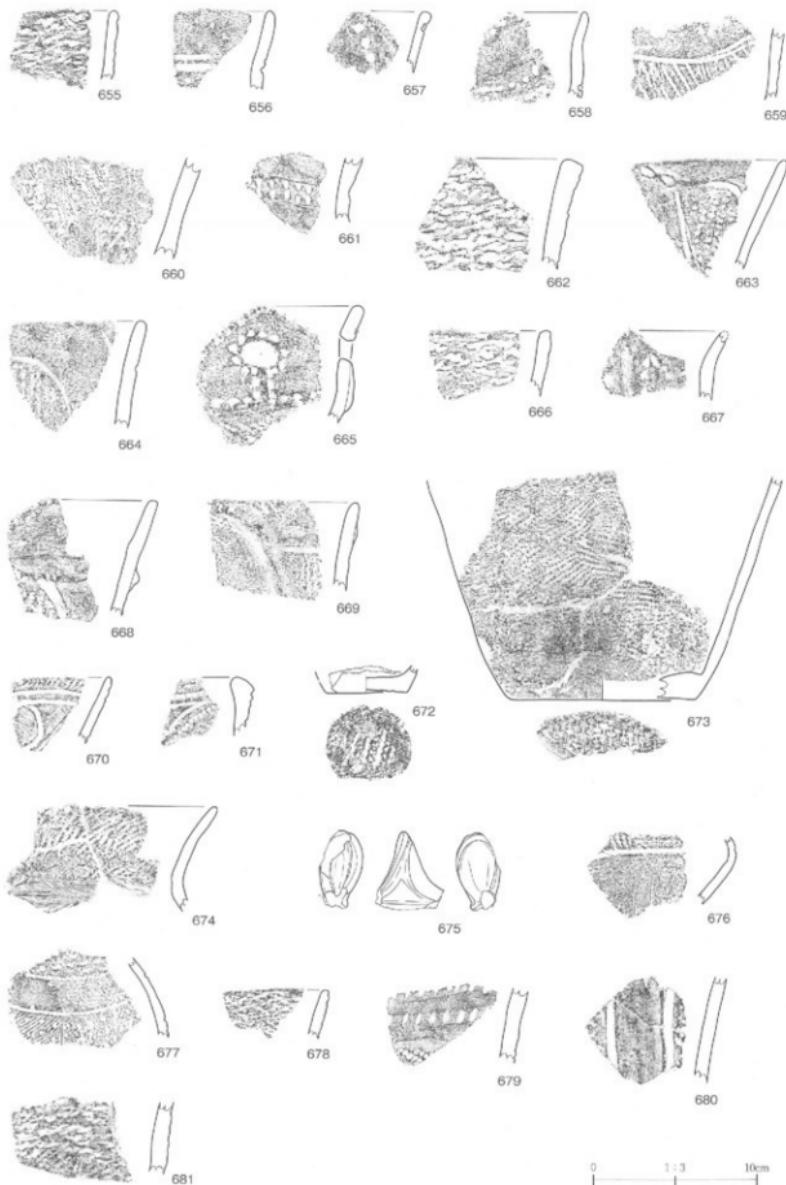
第105図 繩文土器 (28)



第106図 繩文土器 (29)



第107図 繩文土器 (30)



第108図 繩文土器 (31)

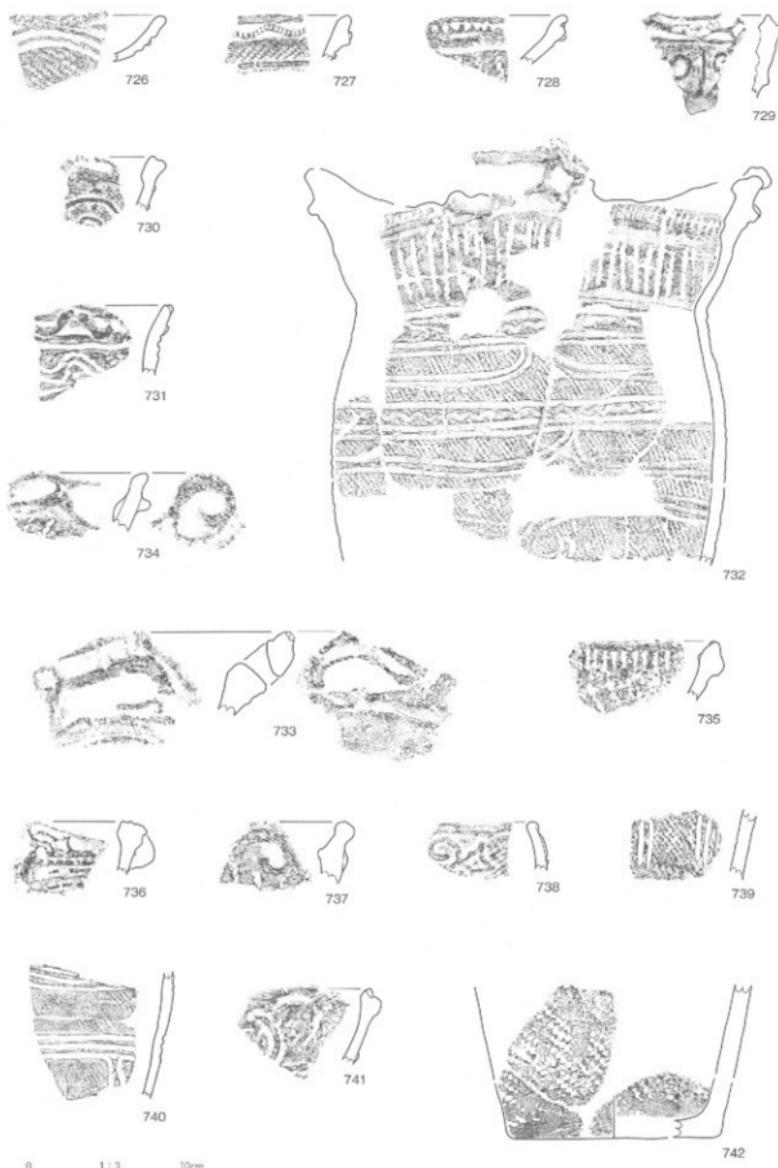
0 1:3 10cm



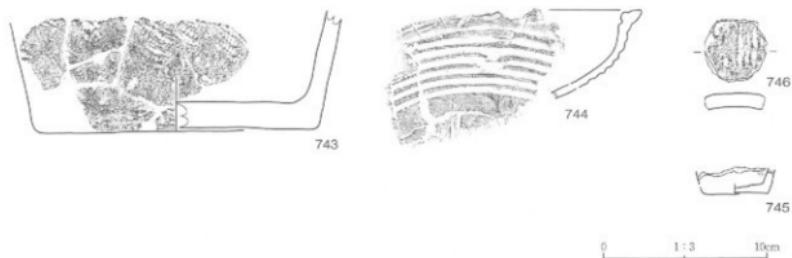
第109図 織文土器 (32)



第110図 繩文土器 (33)



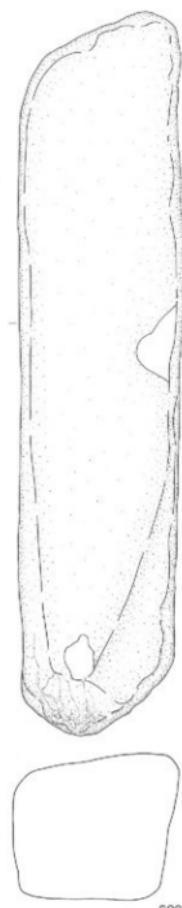
第111図 繩文土器 (34)



第112図 繩文土器 (35)



S205



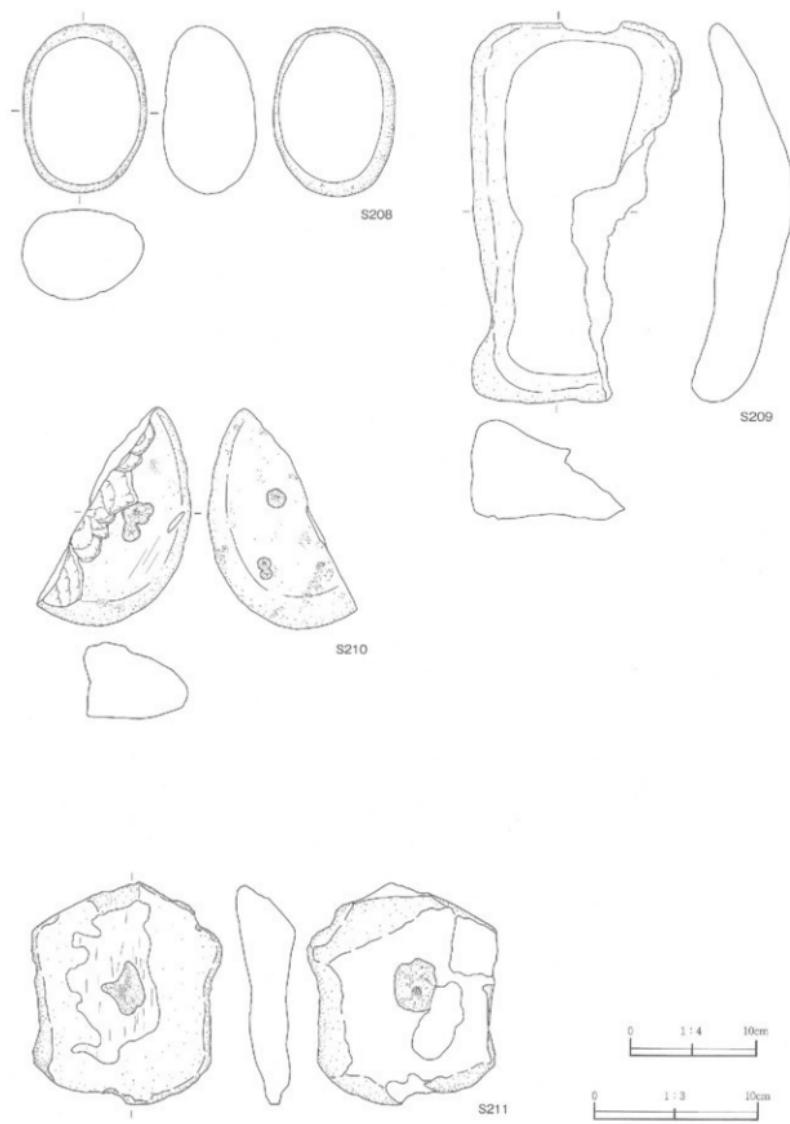
S207



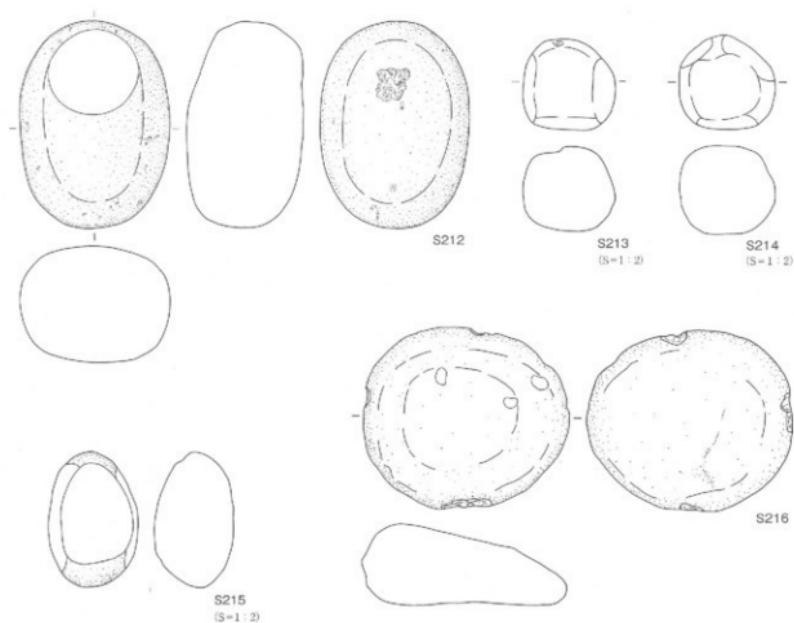
S206

0 1:4 10cm

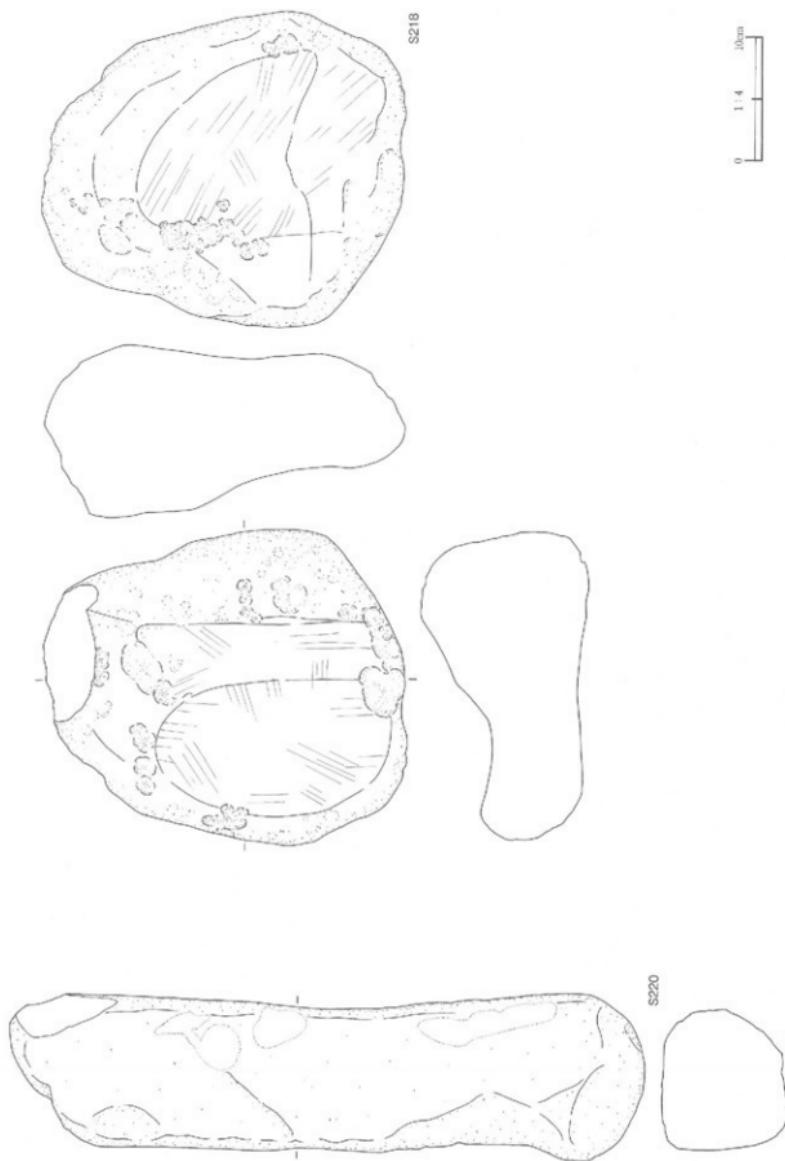
第113図 石器 (14)



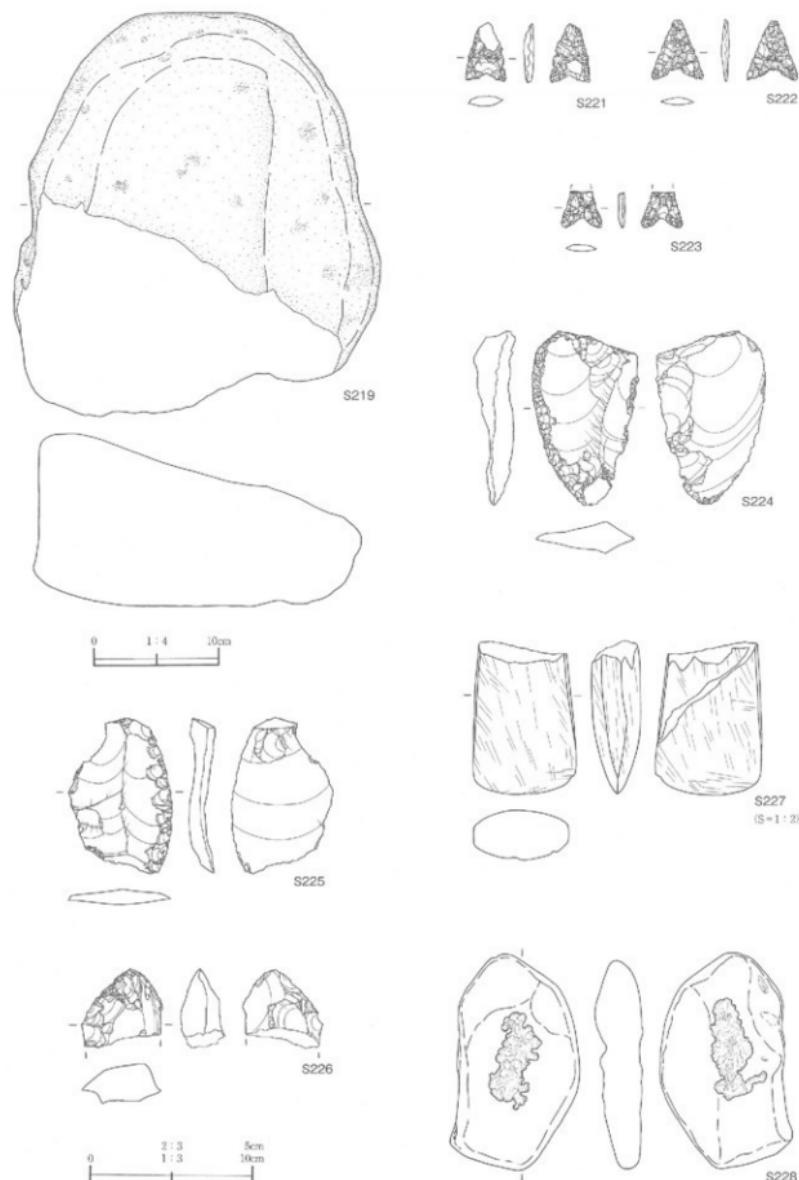
第114図 石器 (15)



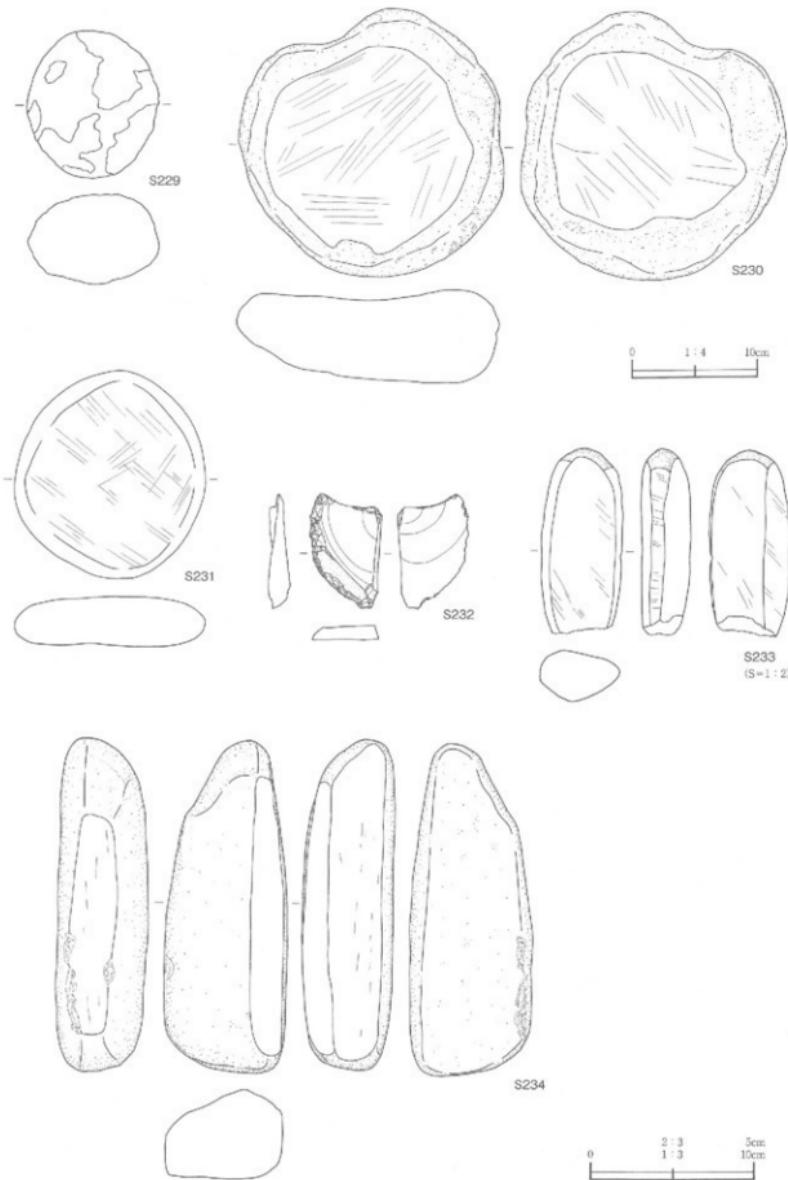
第115図 石器 (16)



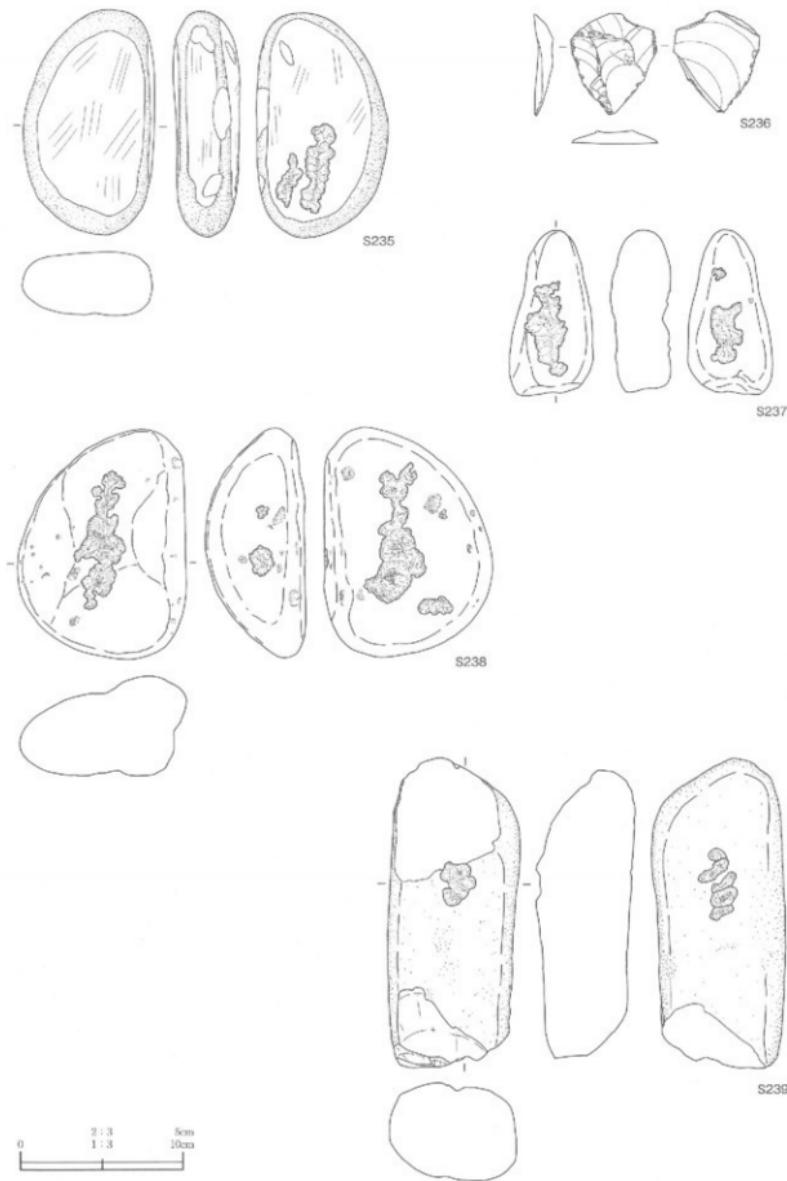
第116図 石器 (17)



第117図 石器 (18)



第118図 石器 (19)



第119図 石器 (20)



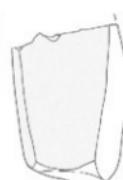
S240



S241



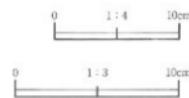
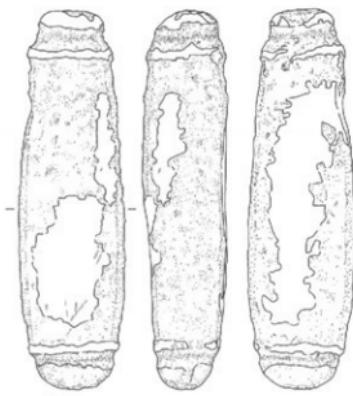
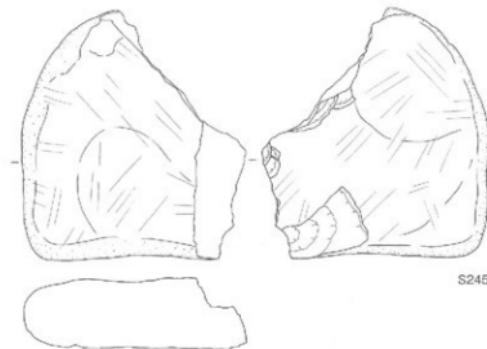
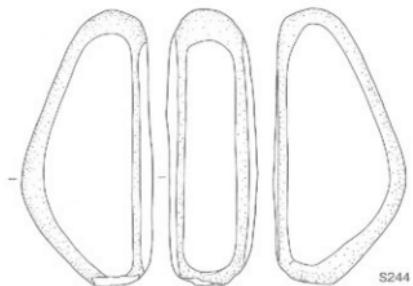
S242



S243

0 1 : 3 10cm

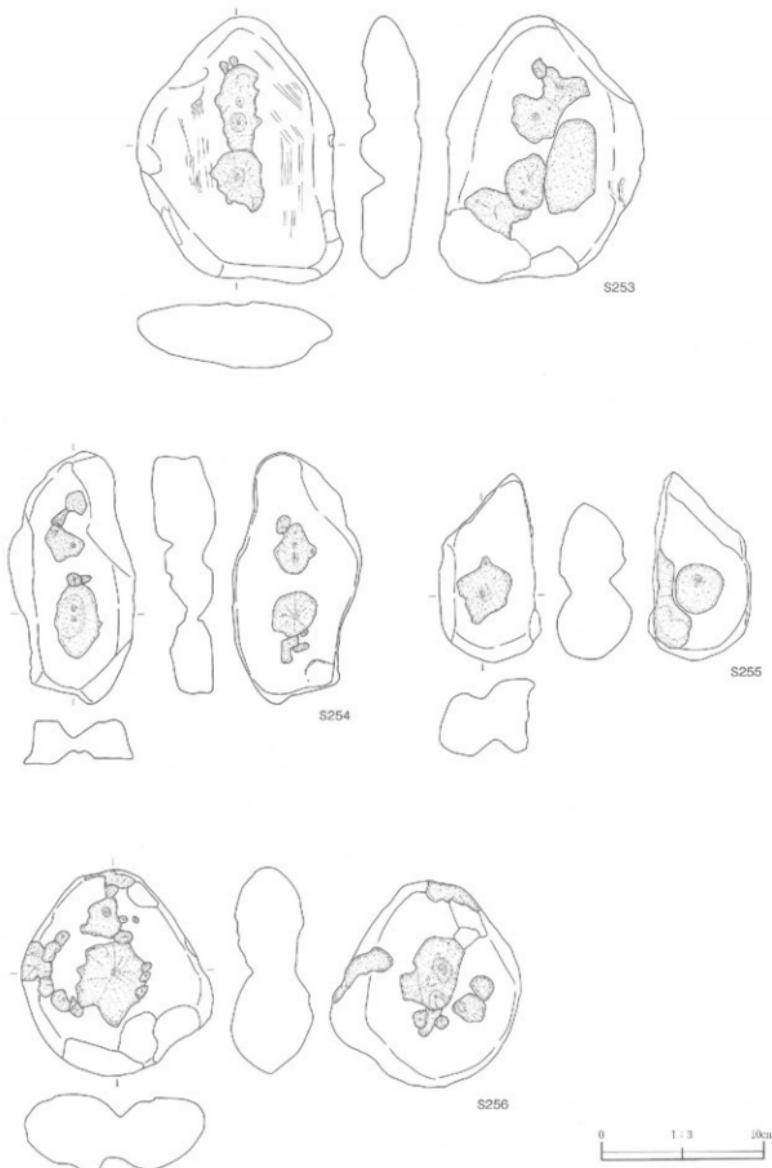
第120図 石器 (21)



第121図 石器 (22)



第122図 石器 (23)



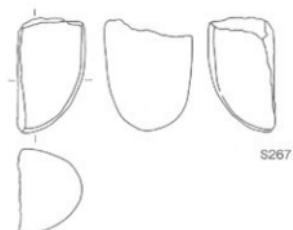
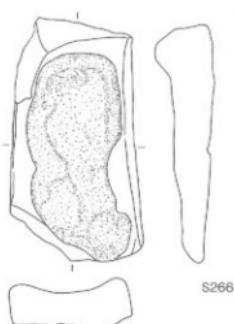
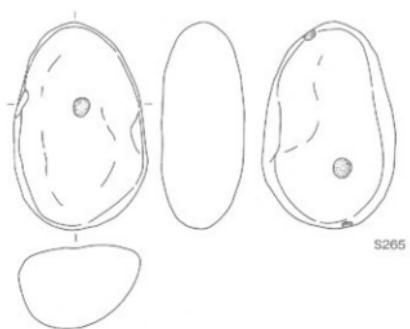
第123図 石器 (24)



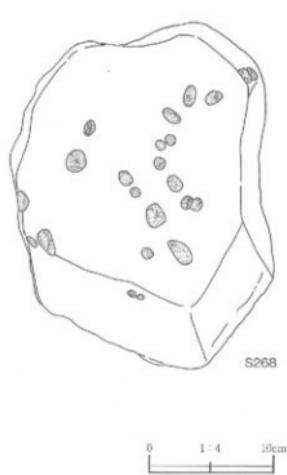
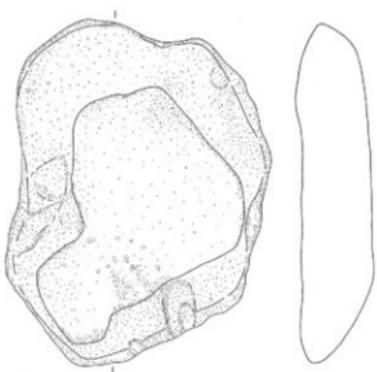
第124図 石器 (25)



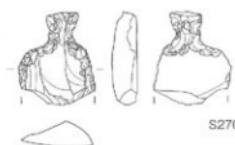
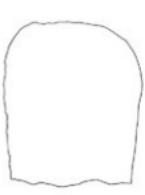
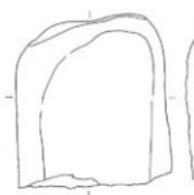
第125図 石器 (26)



0 1 : 3 10cm



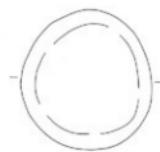
第126図 石器 (27)



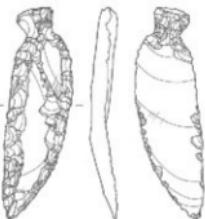
S269



S269



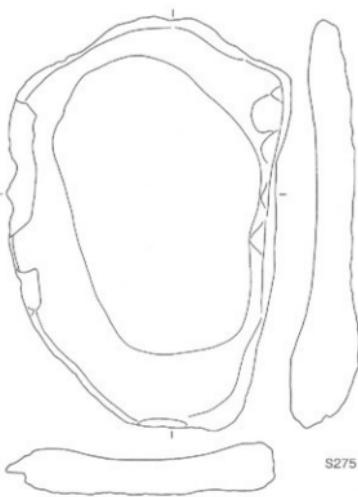
S271
(S=1:2)



S273



S274

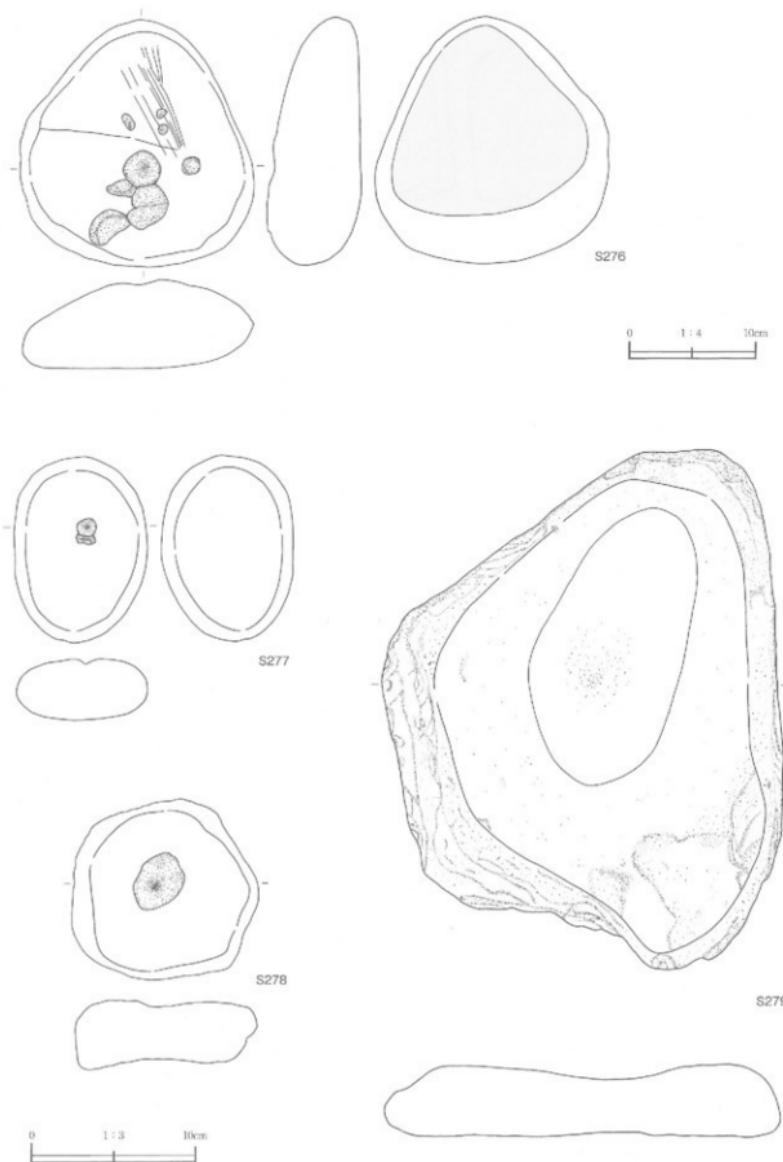


S275

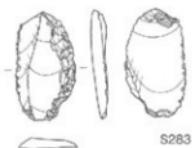
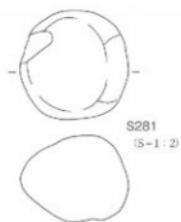
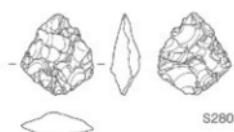
0 2:3 1:3 5cm 10cm

0 1:4 10cm

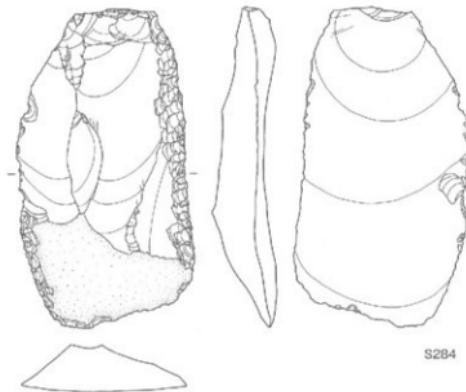
第127図 石器 (28)



第128図 石器 (29)

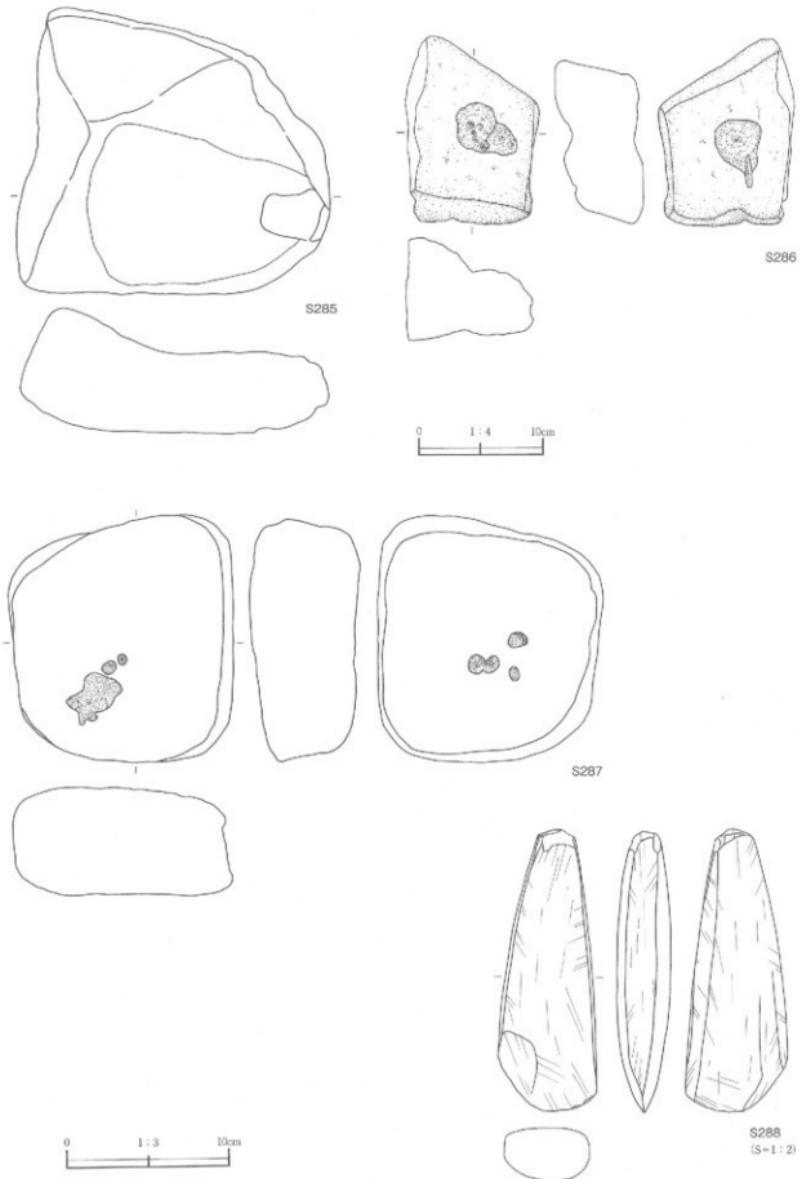


0 1:4 10cm

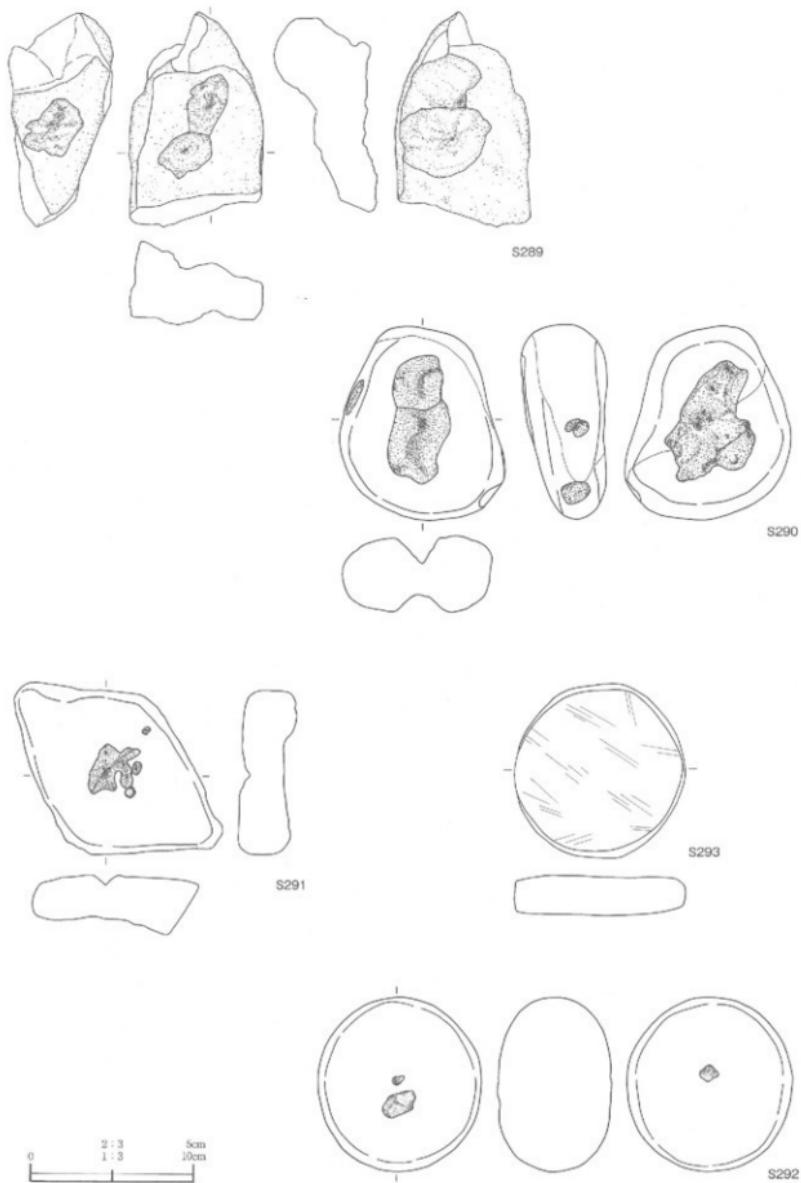


0 2:3 5cm

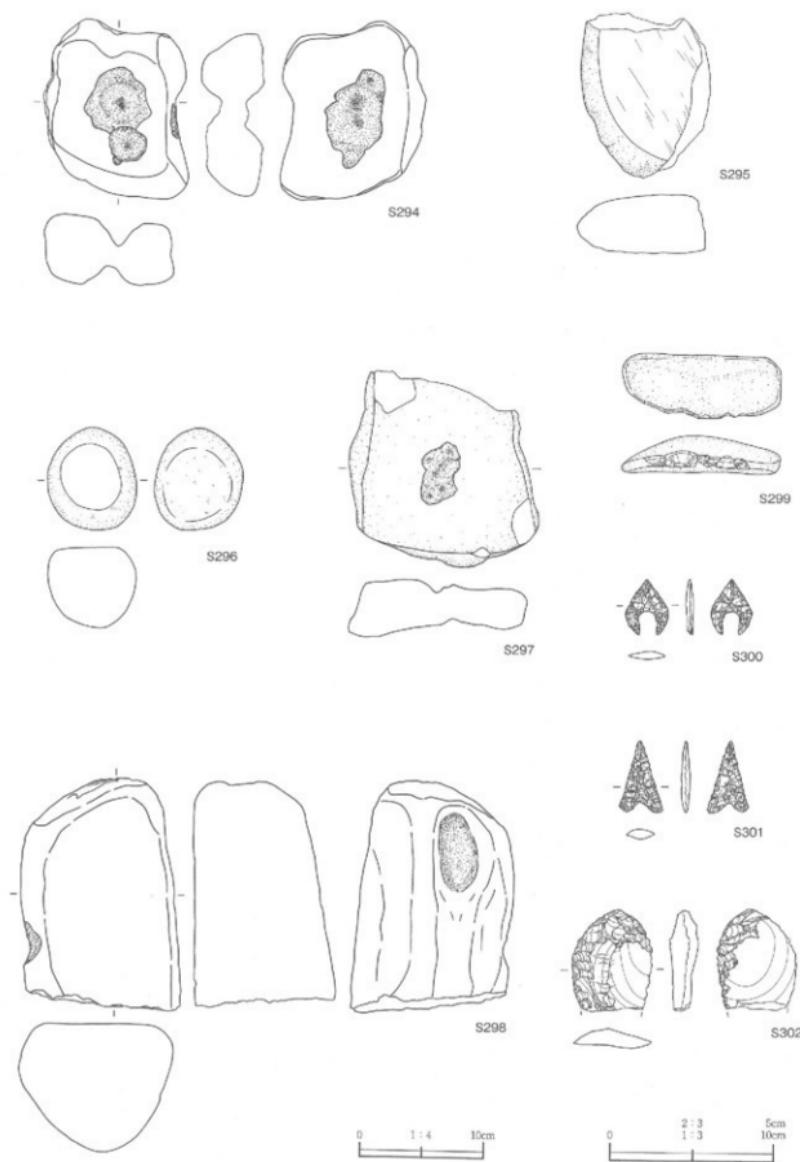
第129図 石器 (30)



第130図 石器 (31)



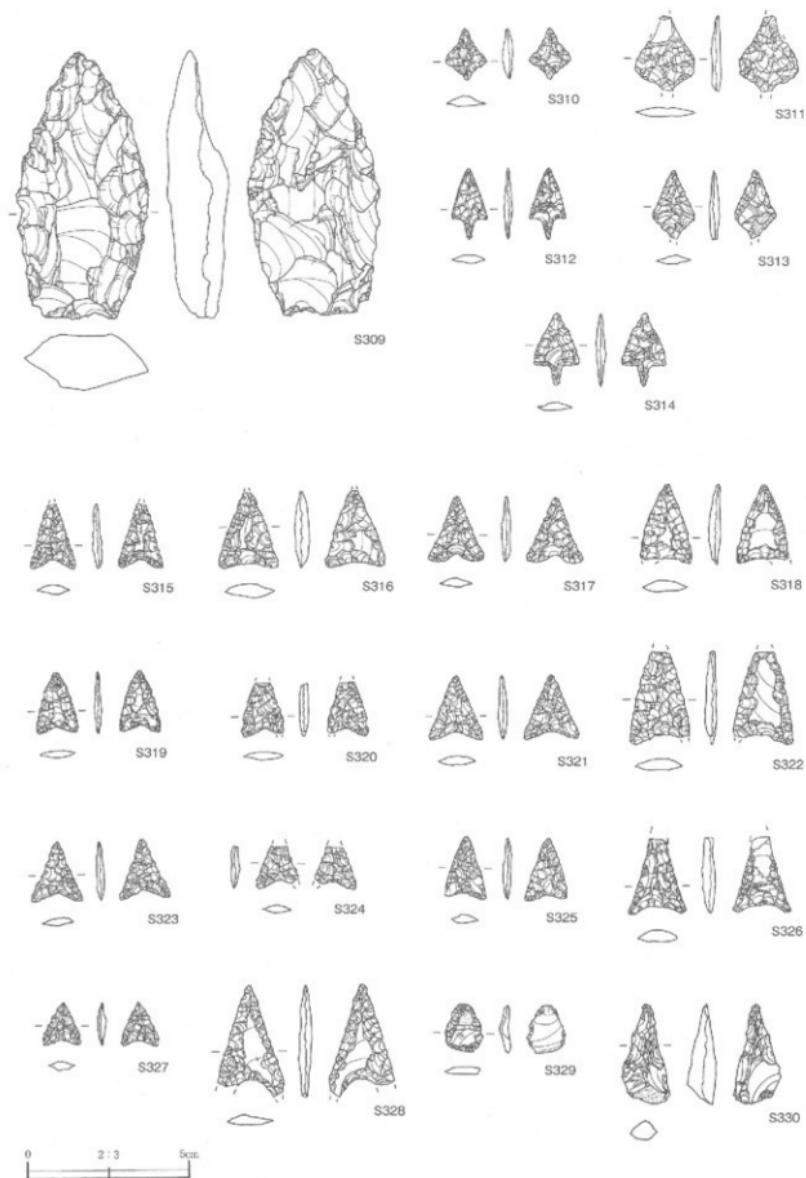
第131図 石器 (32)



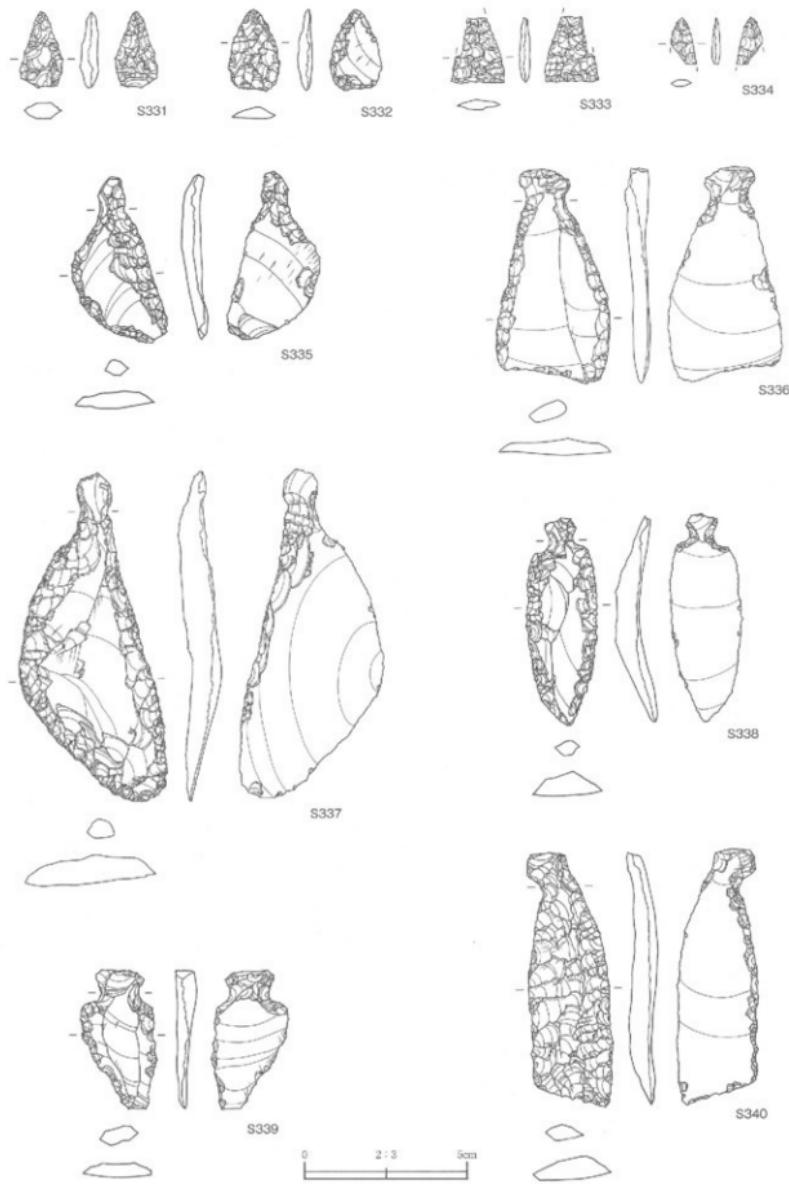
第132図 石器 (33)



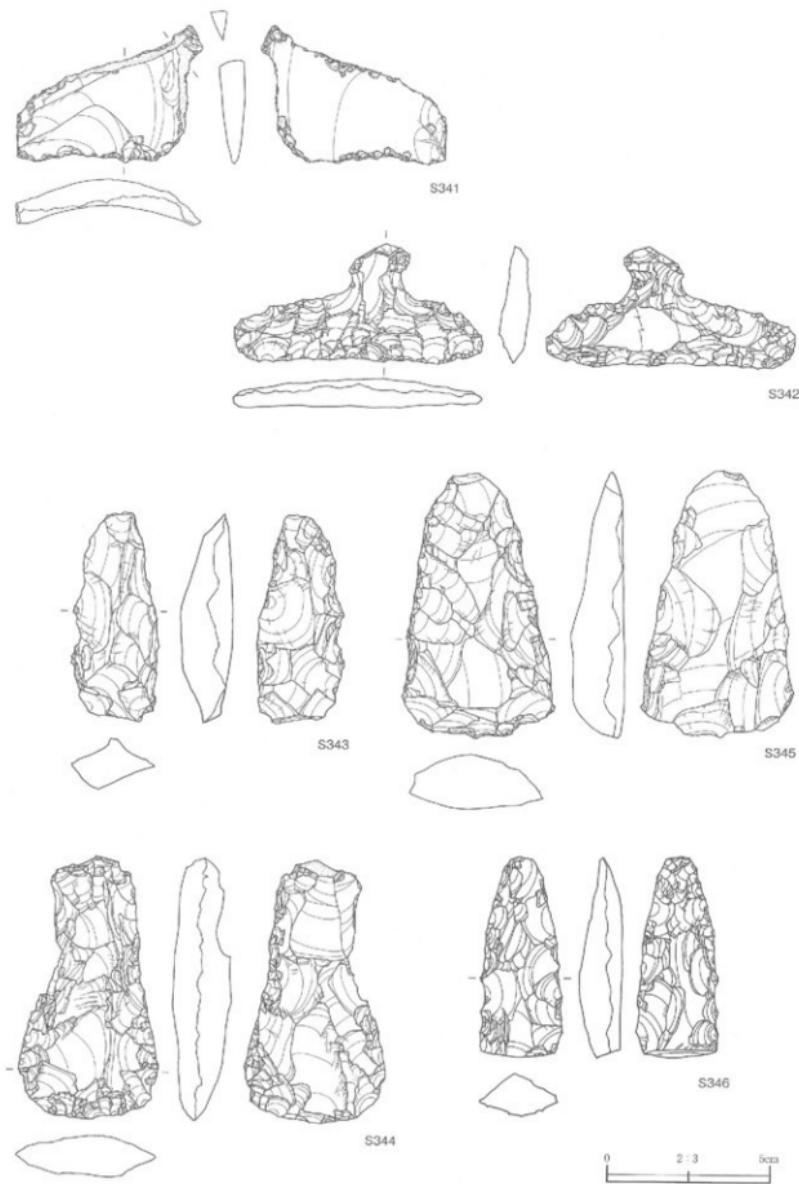
第133図 石器 (34)



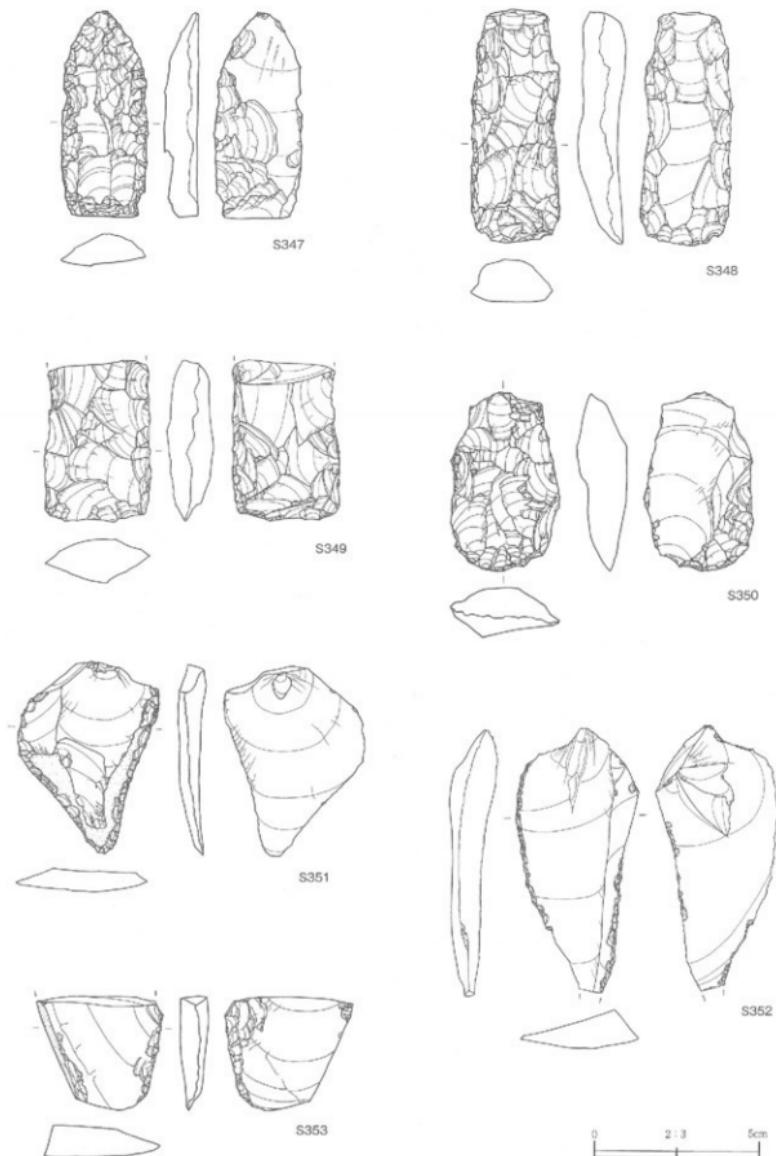
第134図 石器 (35)



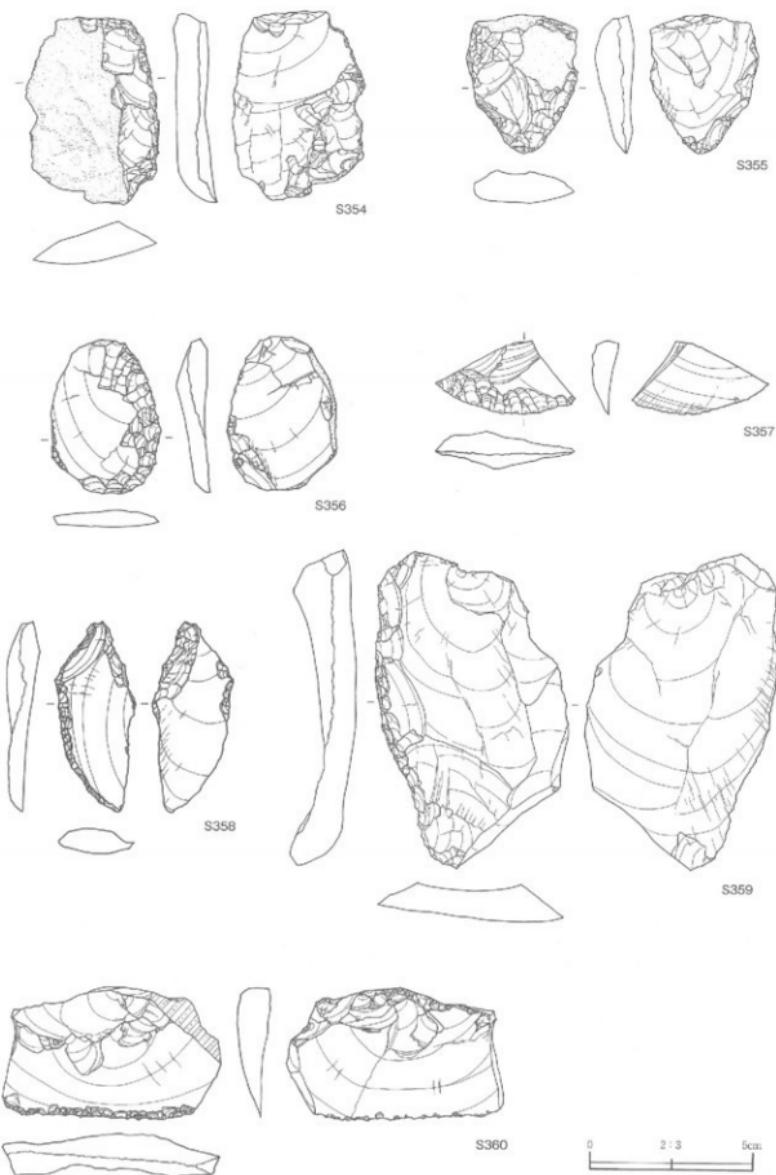
第135図 石器 (36)



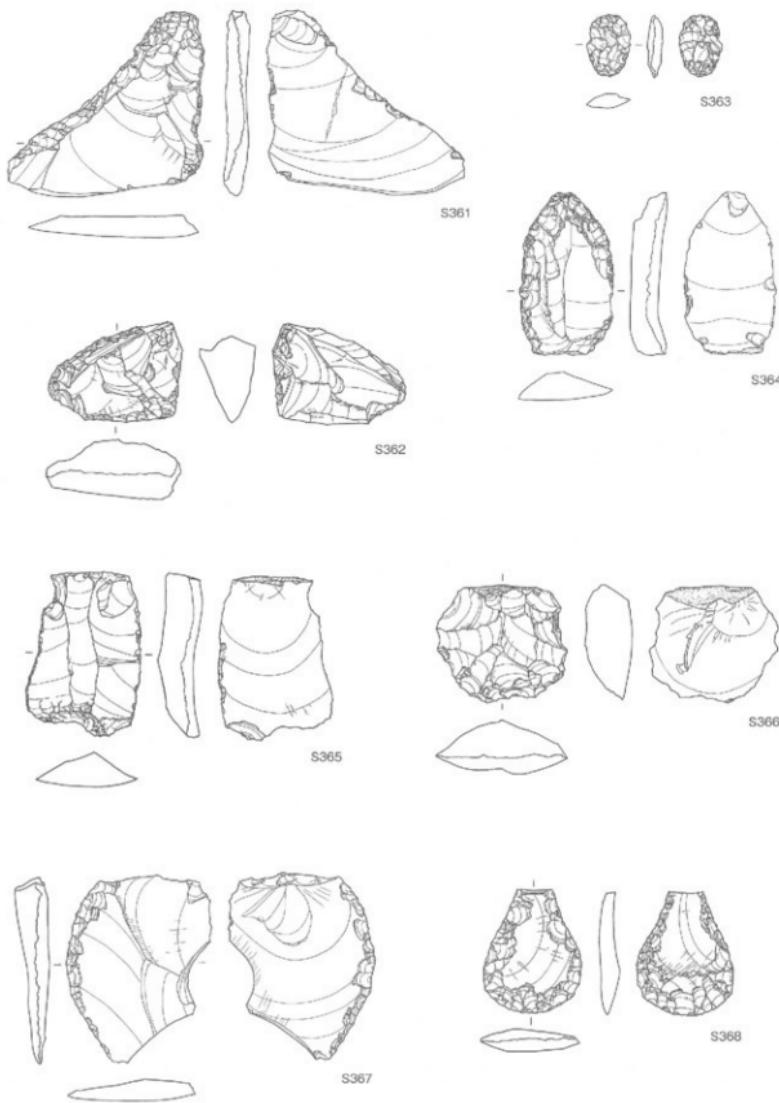
第136図 石器 (37)



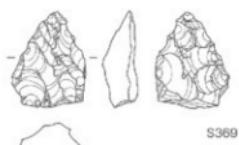
第137図 石器(38)



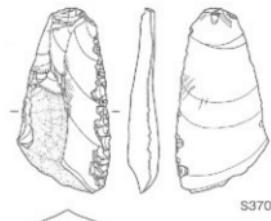
第138図 石器 (39)



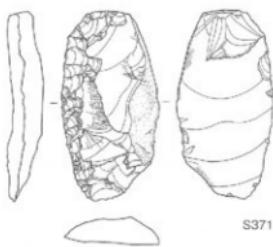
第139図 石器 (40)



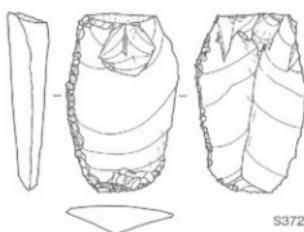
S369



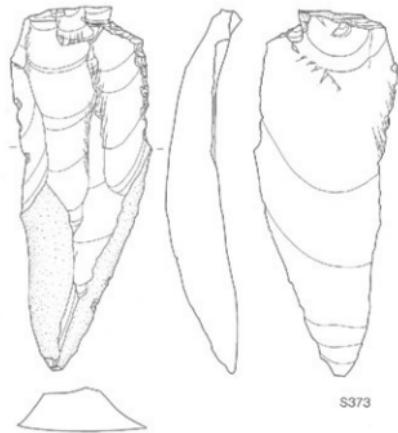
S370



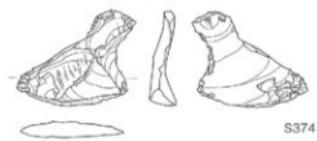
S371



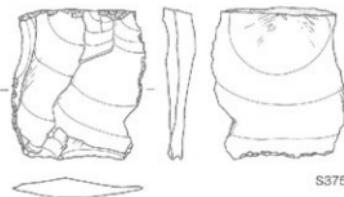
S372



S373



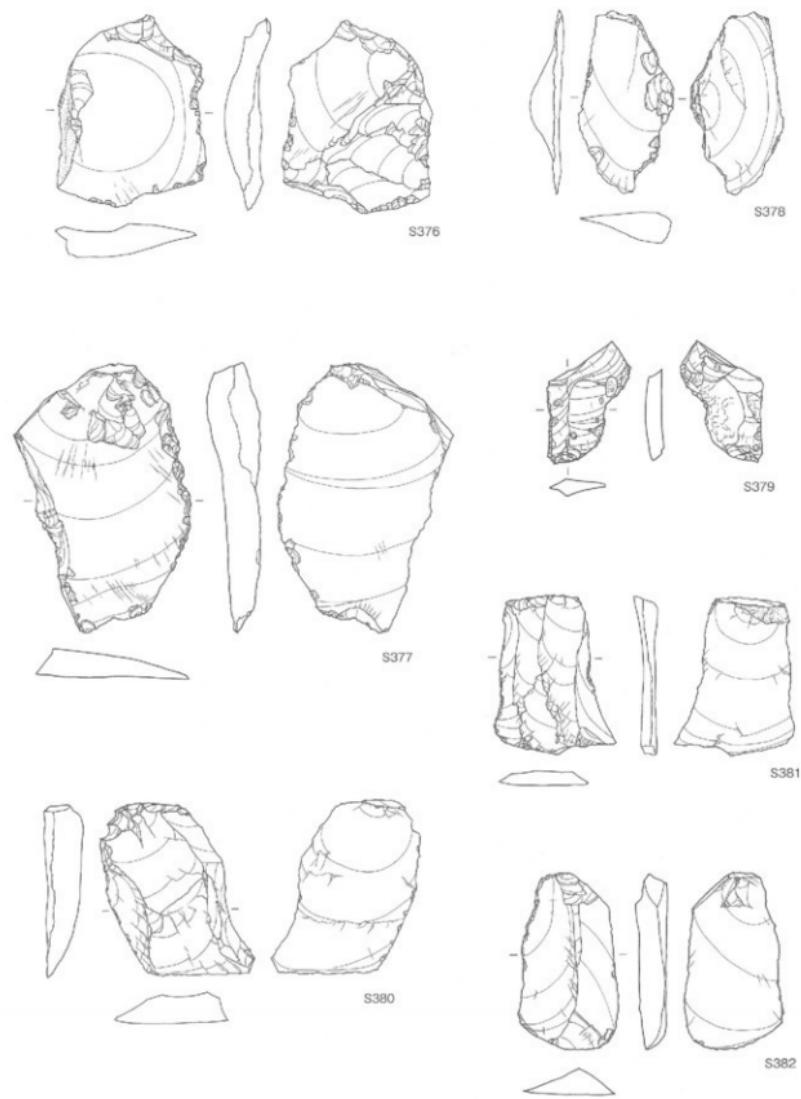
S374



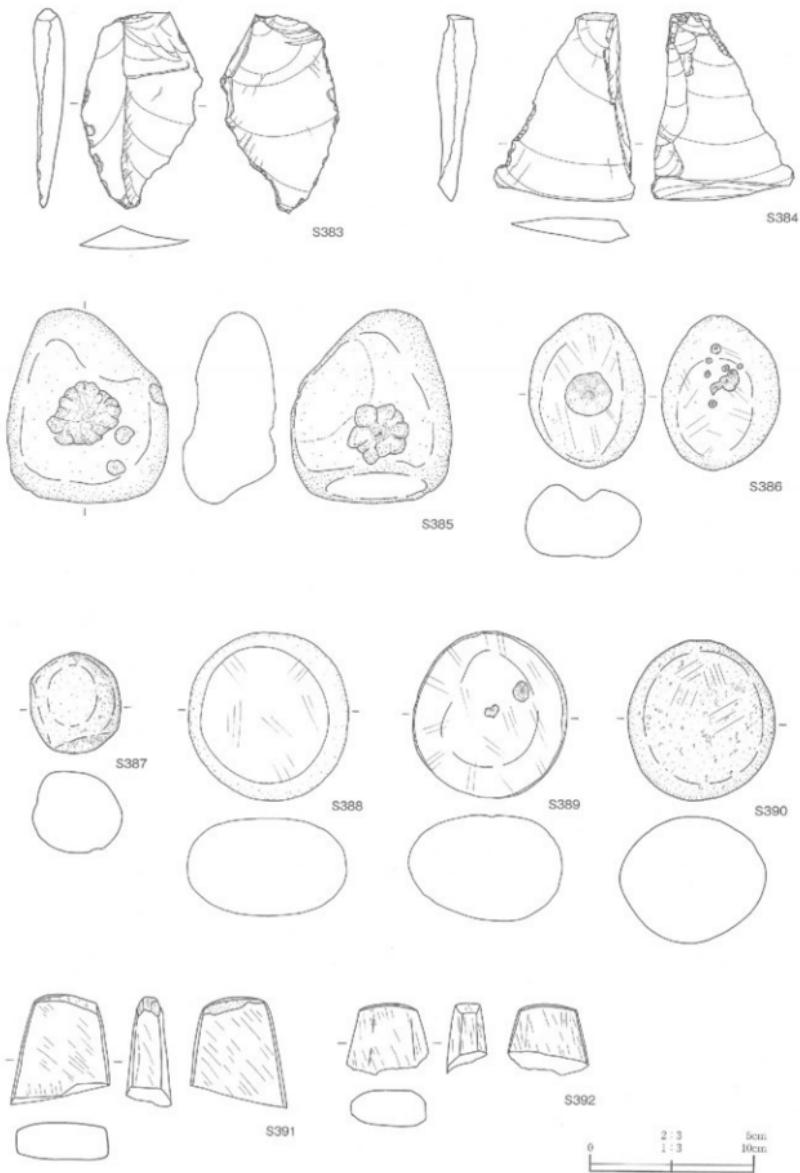
S375

0 2 : 3 5cm

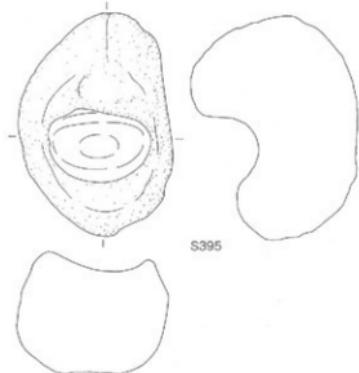
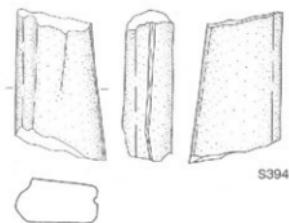
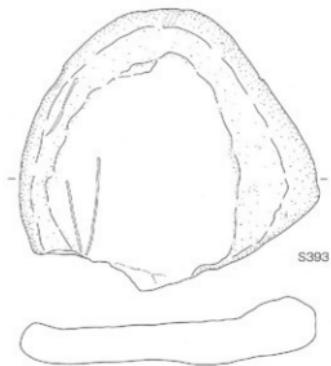
第140図 石器 (41)



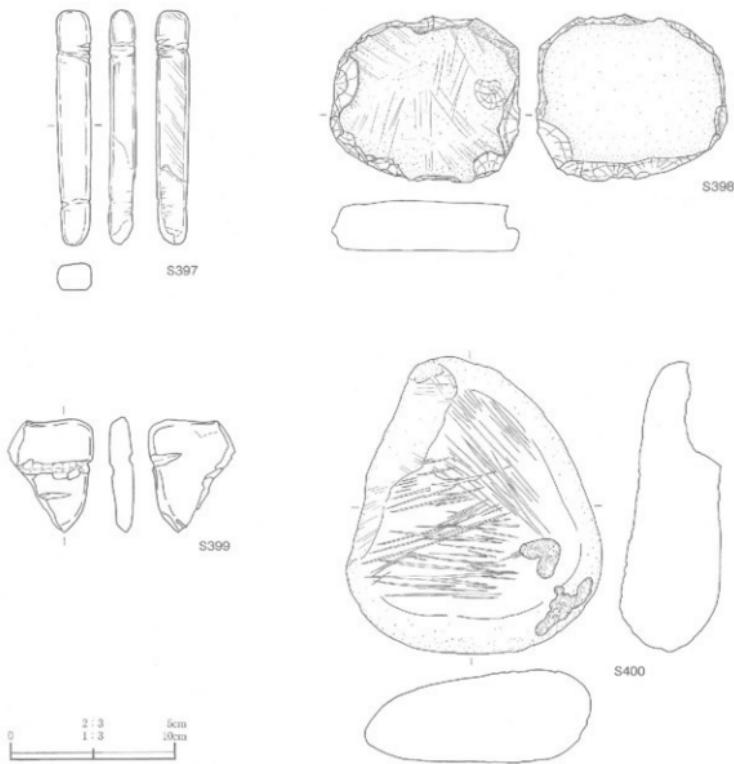
第141図 石器 (42)



第142図 石器 (43)



第143図 石器 (44)



第144図 石器 (45)

第17表 繪文土器地点別出土量

出土地点・部位	重量(g)	出土地点・部位	重量(g)
1号住	406.20	PP220/99	210.60
2号住	479.70	PP240/99	15.30
3号住	4397.00	PP250/99	39.10
4号住	14961.20	PP270/99	37.00
5号住	2954.50	PP280/99	8.20
6号住	844.90	PP290/99	22.30
7号住	2996.30	PP300/99	21.50
8号住	11396.10	K X 90	36.20
9号住	4172.30	E X I 90	617.60
3号壁穴六呂付	14734.80	E X I 81	56.60
3号土盤柱頭施飾	14427.0	E X I 9.1	533.00
38号七坑	850	E X I 92	8.10
39号土坑	136.00	F X I 91	2883.10
40号土坑	1077.60	F X I 02	307.00
41号土坑	1647.70	F X I 02	3296.40
42号土坑	656.10	F X I 03	7166.60
43号土坑	16.90	F X I 04	6376.40
47号土坑	624.0	F X I 05	10798.60
48号土坑	688.50	F X I 06	1079.50
49号土坑	246.90	F X I 13	120.00
50号土坑	703.30	F X I 12	925.50
54号土坑	1075.0	F X I 13	2221.00
55号土坑	2380.00	F X I 14	2047.50
56号土坑	488.60	F X I 15	1283.90
57号土坑	535.00	F X I 16	9363.60
58号土坑	1160.30	F X I 17	4055.70
59号土坑	313.00	F X I 21	51.30
60号土坑	747.60	F X I 22	648.50
62号土坑	663.20	F X I 23	1979.00
63号土坑	1730.30	F X I 24	5429.40
65号土坑	439.00	F X I 25	7825.50
66号土坑	800.30	F X I 26	4297.40
67号土坑	1044.20	F X I 27	32902.90
68号土坑	276.60	F X I 28	12246.60
68号土坑	264.60	F X I 31	23.00
69号土坑	7860.70	F X I 32	214.00
70号土坑	25.90	F X I 33	825.50
71号土坑	3440.60	F X I 34	1555.60
72号土坑	2575.40	F X I 35	2125.30
73号土坑	318.00	F X I 36	3633.30
74号土坑	2840.80	F X I 37	6467.20
76号土坑	259.30	F X I 38	6544.00
77号土坑	551.40	F X I 41	63.30
78号土坑	20.70	F X I 42	89.40
79号土坑	160.50	F X I 43	380.00
81号土坑	747.00	F X I 44	1944.20
82号土坑	94.30	F X I 45	2320.00
83号土坑	288.90	F X I 46	4423.00
84号土坑	1591.10	F X I 46・F X I 47	632.40
21号柱頭施飾	399.40	F X I 47	3396.50
PP203/99	20.00	F X I 48	350.00
PP030/99	490	F X I 49	249.00
PP040/99	18.20	F X I 51	30.60
PP050/99	246.0	F X I 53	333.60
PP100/99	10.50	F X I 54	727.20
PP160/99	214.90	F X I 55	8499.10
		F X I 56	3523.60
		(合計)	305536.80

第18表 繡文土器・土製品観察表

No.	出土地点	器種	認定	文様の群義は?	地紋	傷跡	分類
201. 558 85 67 1号住	深鉢	刷		無地	外側にコゲ	II	
202. 559 85 67 1号住	深鉢	刷		無地	脚上に模様深入	II	
203. 560 85 67 1号住	鉢	刷	幾何文、ミガキ				II
204. 561 85 67 2号住 壁土	鉢	口	弦紋	單輪轆I(R)輪?			II
205. 562a 85 67 2号住 壁土	鉢	刷		單輪轆I(R)輪			II
206. 562b 85 67 2号住 壁土	鉢	刷	素-波	弱代表(すだれ状)			II-IV?
207. 563 85 67 2号住	深鉢	口-波			RL	側面、脚上に頸項進入	II-IV?
208. 564 85 67 2号住	深鉢	刷	波	進化波、沈海底先焼	RL		II-IV?
209. 565 85 67 2号住	深鉢	口		蓋革上に羽翼			II-IV?
210. 566 85 67 2号住	深鉢	口	網文列2列				II
211. 567 85 67 2号住 バルト壁土	深鉢	口	網文、波道				II
212. 568 85 67 2号住 バルト壁土	深鉢	刷	波				II
213. 569 85 67 2号住 バルト壁土	鉢	口-波		單輪轆I(R)輪		内面コゲ	II-IV?
214. 570 85 67 2号住 漢土Q1	深鉢	口-波	進	弱代表(すだれ状)			II-IV?
214. 571 85 67 2号住 漢土Q1	深鉢	刷-波	進(=波)付き			内面コゲ	II-IV?
215. 572 85 67 2号住 漢土Q1	鉢	口		蓋革上に羽翼	LR	内外面ミガキ	II-IV?
216. 573 85 67 2号住 漢土Q2	深鉢	刷	漢	進(=波)に沿う羽形利尻	LR	内面コゲ	II-IV?
217. 574 85 67 4号住 Q3-Q4ベルト内壁土	深鉢	口-波		單輪轆I(R)斜			II-IV?
218. 575 86 67 4号住 漢土Q3	深鉢	口-唐	回旋波、平行沈海底、網文直		LR	内面ミガキ	II-IV?
219. 576 86 67 4号住 漢土Q3	深鉢	口-唐	幾何文、平行沈海底				II-IV?
220. 577 86 67 4号住 漢土Q3	鉢	刷	唐	二つの类型	RL	内面ミガキ、578と同	IV
221. 578 86 67 4号住 漢土Q3	鉢	刷	波、波状山形		RL	内面ミガキ、577と同	IV
222. 579 86 67 4号住 漢土Q3	深鉢	刷	波		RL		IV
223. 580 86 67 4号住 漢土Q3	深鉢	刷	口	突起		數十枚	II-IV
224. 581 86 67 4号住 漢土Q3	深鉢	刷	平行沈海底		LR		IV
225. 582 86 67 4号住 Q3-Q4ベルト壁土	深鉢	口	平行沈海底		LR	内面ミガキ	II-IV?
226. 583 86 67 4号住 Q3-Q4ベルト壁土	深鉢	刷	刷		LR	内面ミガキ	II-IV?
227. 584 86 67 4号住 Q3-Q4ベルト壁土	鉢	刷	波		RL	外面ミガキ	II-IV?
228. 585 86 67 4号住 壁土Q4	深鉢	口-波		單輪轆I(R)斜			II-IV?
229. 586 86 67 4号住 壁土Q4	深鉢	刷	口	刺突列2列	LR	内面ミガキ	II-IV
230. 587 86 67 4号住 壁土Q4	深鉢	刷	口	進(=波)による刺突			II-IV
231. 588 86 67 4号住 壁土Q4	深鉢	刷	口	波脈による唇曲	LR		II-IV?
232. 589 86 67 4号住 壁土Q4	深鉢	刷	口	波			II-IV?
233. 590 87 68 4号住 壁土Q4	深鉢	刷	口	唇代波	LR		II-IV?
234. 591 87 68 4号住 Q1-Q4ベルト壁土	深鉢	刷	口	唇代波	LR	内面ミガキ	II-IV?
235. 592 87 68 4号住 Q1-Q4	深鉢	刷	刷	波、波状山形	LR	手彌輪I(R)斜	II-IV?
236. 593 87 68 5号住 Q1-Q2ベルト壁土	深鉢	口	山形波、進(=波)による唇曲		RL(=多量)		II-IV?
237. 594 87 68 5号住 Q2壁土	深鉢	刷	口	小突起、刻	LR(=多量)		II-IV?
238. 595 87 68 5号住 Q2壁土	深鉢	刷	口	波谷部に沿う唇曲	LR(=多量)		II-IV?
239. 596 87 68 5号住 Q2壁土	鉢	刷	口	唇代波	LR		II-IV?
240. 597 87 68 5号住 Q2壁土	深鉢	刷	口	小突起	LR		II-IV?
241. 598 87 68 5号住 Q1-Q4ベルト壁土	深鉢	刷	口	波			II-IV?
242. 599 87 68 5号住 内面	深鉢	刷	口-周				II-IV?
243. 600 87 68 6号住 壁土	深鉢	刷	口	波状区段、アルファベット文、幽洞	LR	外面にコゲ	II-IV?
244. 601 88 68 7号住	深鉢	口	進(=波)、進(=波)、内面に唇波状の斜り移				II-IV?
245. 602 88 68 7号住 壁土	深鉢	刷	口	切り落とし、平行沈海底、ミガキ	LR	外面上にコゲ	II-IV?
246. 603 88 68 7号住 壁土	深鉢	刷	口	進(=波)上に斜目、沈海底			II-IV?
247. 604 88 68 7号住 壁土	深鉢	刷	口	波谷部に沿う凸凹	LR		II-IV?
248. 605 88 68 7号住 壁土	鉢	刷	口	圓錐形	RL		II-IV?
249. 606 88 68 7号住 壁土	深鉢	刷	口	進(=波)内に唇波、全体に波状			II-IV?
250. 607 88 68 7号住 壁土	深鉢	刷	口	刺突列(番号)、平行沈海底による唇曲文	LR		II-IV?
251. 608 88 68 8号住 N627	深鉢	口	進(=波)				II-IV?
252. 609 88 68 8号住 N627	深鉢	刷	口	切り落とし、平行沈海底	RL		II-IV?
253. 610 88 68 8号住 正面一端	深鉢	刷	口-周	進(=波)	RL	口面内面、外面コゲ	II-IV?
254. 611 88 68 8号住 正面一端	深鉢	刷	口	進(=波)	RL	外面上にコゲ多い	II
255. 612 88 68 8号住 正面一端	深鉢	刷	口	進(=波)	RL		II
256. 613 89 69 9号住 床面直上	深鉢	刷	口	波腹間に唇波、波谷に唇曲			II-IV?
257. 614 89 69 9号住 床面直上	深鉢	刷	口	口-周に唇波と斜目、底本米字彙	RL	内面ミガキ	II
258. 615 89 69 9号住 床面直上	深鉢	刷	口	底本彙字(横位)、波谷			II
259. 616 89 69 9号住 床面直上	深鉢	刷	口	波谷(=波)による唇波状の粘土層、原厚物江	LR	内面彙字	II-IV?
260. 617 89 69 9号住 床面直上	深鉢	刷	口	刺突	LR	内面彙字、内溝	II
261. 618 89 69 9号住 床面直上	深鉢	刷	口	波、葉井作例、幽洞、波谷に沿う唇波直江	LR	内面丁寧なミガキ	II-IV?
262. 619 89 69 9号住 床面直上	深鉢	刷	口	波谷、進(=波)、平行沈海底、波谷に近縁の突	RL	内面丁寧なミガキ	II-IV?
263. 620 89 69 9号住 床面直上	深鉢	刷	口	波谷、進(=波)、平行沈海底	RL		II-IV?
264. 621 89 69 9号住 床面直上	深鉢	刷	口	波谷の唇波と斜目付			II-IV?
265. 622 89 69 9号住 床面直上	深鉢	刷	口	口-周に波谷と斜目付	RL		II-IV?
266. 623 89 69 9号住 床面直上	深鉢	刷	口	波谷の刺突直下、底本米字彙	LR		II-IV?
267. 624 89 70 9号住 床面直上	深鉢	刷	口	刺突(=口)刺突直下、波谷に沿う唇波直江			II-IV?
268. 625 89 70 9号住 床面直上	深鉢	刷	口	波谷、刃形斜波、原厚物直江			II-IV?
269. 626 89 70 9号住 床面直上	深鉢	刷	口	波谷、進(=波)、平行沈海底	RL		II-IV?
270. 627 89 70 9号住	深鉢	刷	口	刺突			II-IV?
271. 628 89 70 9号住 N43	深鉢	刷	口	刺突			II-IV?
272. 629 90 70 9号住 床面直上	深鉢	口	平行沈海底、進(=波)		RL?	内面彙字	II-IV?
273. 630 90 70 9号住 床面直上	深鉢	口	唇谷に連続的波谷と斜目直江、底本直江		RL?	内面彙字	II-IV?
274. 631 90 70 9号住 床面直上	深鉢	刷	口	平行沈海底	RL?	内面ミガキ	II-IV?
275. 632 90 70 9号住 床面直上	深鉢	刷	口	刺突、波谷による唇波直江、等高上に斜目	RL?		II-IV?
276. 633 90 70 9号住 床面直上	深鉢	刷	口	波谷、山形波、波谷直江、平行沈海底			II
277. 634 90 70 9号住 床面直上	深鉢	刷	口	波谷	RL	内面ミガキ	II-IV?

No	書名	著者	出版社	出版年	版元	所蔵地	文庫の蔵書登録番号	地図	参考	分類
228	625 90 70	9号佐藤 上巻 1 集	南都	朝	北緯	LK		出1b		
229	626 90 70	3号多田伸作著 ベルト押十	井	口	通航制限別2列、北緯	LK?		出1		
230	627 90 70	3号多田伸作著 ベルト押十	井	口	通航、航行、運航、区域化、ミサキ	LK?		内面ミサキ		
231	628 90 70	3号多田伸作著 ベルト押十	井	口	通航、航行	LK?		内面ミサキ		
232	629 90 70	3号多田伸作著 ベルト押十	井	口	通航、航行	LK?		内面ミサキ		
233	630 90 70	3号多田伸作著 ベルト押十	井	口	通航、航行	LK		出1b?		
234	631 90 70	3号多田伸作著 鹿一	井	口	通航、航行	LK		外面コゲ		
235	642 90 70	3号多田伸作著 Q1 黒色土	井	通	黒、特代農	LK		出1?		
236	643 90 70	3号多田伸作著 Q1 黒色土	井	通	黒、特代農	LK?		外面コゲ		
237	644 90 70	3号多田伸作著 Q1 黒色土	井	通	黒、通航	LK		内面ミサキ		
238	645 90 70	3号多田伸作著 Q1 黒色土	井	通	黒、通航	LK?		外面コゲ		
239	646 90 70	3号多田伸作著 Q1 黒色土	井	通	黒、通航	LK		出1		
240	647 90 70	3号多田伸作著 Q1 黒色土	井	通	黒、通航	LK?		内面通航		
241	648 90 70	3号多田伸作著 Q1 黒色土	井	通	黒、通航	LK		出1?		
242	649 91 20	2号多田伸作著 Q2	井	通	黒(浦崎) 区域内を望	LK		出1b?		
243	650 91 20	2号多田伸作著 Q2	井	通	黒(浦崎) とそれに沿う地形地図	LK		出1?		
244	651 91 20	2号多田伸作著 Q2	井	通	黒(浦崎)	LK		出1?		
245	652 91 20	2号多田伸作著 Q2	井	通	黒(浦崎) 以下の判別用	LK?		出1?		
246	653 91 20	2号多田伸作著 Q2	井	通	黒(浦崎)、地形	LK?		出1?		
247	654 91 20	2号多田伸作著 Q2	井	通	黒(浦崎)による地図文	LK?		内面ミサキ		
248	655 91 20	2号多田伸作著 Q2	井	通	黒(浦崎)による地図文	LK?		出1?		
249	656 91 20	2号多田伸作著 Q2	井	通	黒(浦崎)による地図文	LK?		内面ミサキ		
300	657 91 20	2号多田伸作著 Q2	井	体	小島、浦崎	LK?		社1に記、雲舟合む		
301	658 91 71	71-3号多田伸作著 機構	井	通	円筒の通航交差2列	LK		社1に記、雲舟合む		
302	661 91 71	71-3号多田伸作著 機構	井	通	円筒、通航、運送、通航	LK		社1に記、雲舟合む		
303	662 91 71	71-3号多田伸作著 機構	井	通	円筒、地形、アラバティーブ	LK		社1に記、雲舟合む		
304	663 91 71	71-3号多田伸作著 機構	井	通	円筒、地形、アラバティーブ	LK		社1に記、雲舟合む		
305	665 91 71	71-3号多田伸作著 機構	井	通	円筒、地形、アラバティーブ	LK		社1に記、雲舟合む		
306	666 91 71	71-3号多田伸作著 機構	井	通	円筒、地形、アラバティーブ	LK		社1に記、雲舟合む		
307	667 91 71	71-3号多田伸作著 機構	井	通	円筒、地形、アラバティーブ	LK		社1に記、雲舟合む		
308	668 91 71	71-3号多田伸作著 機構	井	通	円筒、地形、アラバティーブ	LK		社1に記、雲舟合む		
309	669 91 71	71-3号多田伸作著 機構	井	通	円筒、地形、アラバティーブ	LK		社1に記、雲舟合む		
310	670 92 71	41号多田伸 煙子・	井	通	第1回、煙子 Iに円形刺繡	LK(0段多)		出3セ4		
311	671 92 71	41号多田伸 煙子・	井	通	第1回、煙子 IIにアバット文	LK		出4a		
312	672 92 71	41号多田伸 煙子・	井	通	第1回、煙子 Iにアバット文	LK		出5		
313	673 92 71	41号多田伸 煙子・	井	通	第1回、煙子 IIにアバット文	LK		出5a		
314	674 92 71	41号多田伸 煙子・	井	通	第1回、煙子 Iにアバット文	LK		出5b		
315	675 92 71	41号多田伸 煙子・	井	通	第1回、煙子 IIにアバット文	LK		出5c		
316	676 92 71	41号多田伸 煙子・	井	通	第1回、煙子 Iにアバット文	LK		出5d		
317	677 92 71	41号多田伸 煙子・	井	通	第1回、煙子 IIにアバット文	LK		出5e		
318	678 92 71	41号多田伸 煙子・	井	通	第1回、煙子 Iにアバット文	LK		出5f		
319	679 92 71	41号多田伸 煙子・	井	通	第1回、煙子 IIにアバット文	LK		出5g		
320	680 92 71	41号多田伸 煙子・	井	通	第1回、煙子 Iにアバット文	LK		出5h		
321	681 92 71	41号多田伸 煙子・	井	通	第1回、煙子 IIにアバット文	LK		出5i		
322	682 92 71	41号多田伸 煙子・上位	井	通	第1回、煙子 Iにアバット文	LK		出5j		
323	683 92 71	41号多田伸 煙子・	井	通	第1回、煙子 IIにアバット文	LK		出5k		
324	684 92 71	41号多田伸 煙子・	井	通	第1回、煙子 Iにアバット文	LK		出5l		
325	685 92 71	41号多田伸 煙子・	井	通	第1回、煙子 IIにアバット文	LK		出5m		
326	686 92 71	41号多田伸 煙子・	井	通	第1回、煙子 Iにアバット文	LK		出5n		
327	687 92 71	41号多田伸 煙子・	井	通	第1回、煙子 IIにアバット文	LK		出5o		
328	688 92 71	41号多田伸 煙子・	井	通	第1回、煙子 Iにアバット文	LK		出5p		
329	689 92 71	41号多田伸 煙子・	井	通	第1回、煙子 IIにアバット文	LK		出5q		
330	690 92 71	41号多田伸 煙子・	井	通	第1回、煙子 Iにアバット文	LK		出5r		
331	691 92 71	41号多田伸 煙子・	井	通	第1回、煙子 IIにアバット文	LK		出5s		
332	692 92 71	41号多田伸 煙子・	井	通	第1回、煙子 Iにアバット文	LK		出5t		
333	693 92 71	41号多田伸 煙子・	井	通	第1回、煙子 IIにアバット文	LK		出5u		
334	694 92 71	41号多田伸 煙子・	井	通	第1回、煙子 Iにアバット文	LK		出5v		
335	695 92 71	41号多田伸 煙子・	井	通	第1回、煙子 IIにアバット文	LK		出5w		
336	696 92 71	41号多田伸 煙子・	井	通	第1回、煙子 Iにアバット文	LK		出5x		
337	697 92 71	41号多田伸 煙子・	井	通	第1回、煙子 IIにアバット文	LK		出5y		
338	698 92 71	41号多田伸 煙子・	井	通	第1回、煙子 Iにアバット文	LK		出5z		
339	699 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出6a		
340	700 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出6b		
341	701 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出6c		
342	702 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出6d		
343	703 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出6e		
344	704 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出6f		
345	705 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出6g		
346	706 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出6h		
347	707 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出6i		
348	708 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出6j		
349	709 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出6k		
350	710 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出6l		
351	711 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出6m		
352	712 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出6n		
353	713 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出6o		
354	714 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出6p		
355	715 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出6q		
356	716 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出6r		
357	717 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出6s		
358	718 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出6t		
359	719 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出6u		
360	720 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出6v		
361	721 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出6w		
362	722 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出6x		
363	723 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出6y		
364	724 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出6z		
365	725 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出7a		
366	726 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出7b		
367	727 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出7c		
368	728 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出7d		
369	729 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出7e		
370	730 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出7f		
371	731 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出7g		
372	732 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出7h		
373	733 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出7i		
374	734 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出7j		
375	735 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出7k		
376	736 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出7l		
377	737 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出7m		
378	738 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出7n		
379	739 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出7o		
380	740 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出7p		
381	741 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出7q		
382	742 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出7r		
383	743 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出7s		
384	744 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出7t		
385	745 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出7u		
386	746 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出7v		
387	747 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出7w		
388	748 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出7x		
389	749 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出7y		
390	750 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出7z		
391	751 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出8a		
392	752 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出8b		
393	753 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出8c		
394	754 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出8d		
395	755 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出8e		
396	756 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出8f		
397	757 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出8g		
398	758 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出8h		
399	759 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出8i		
400	760 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出8j		
401	761 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出8k		
402	762 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出8l		
403	763 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出8m		
404	764 92 71	72-2号多田伸 煙子・	井	通	平成23文	LK		出8n		

通 数 量	目 名	出土地点	形種	部位	文様の特徴ほか	紙紋	器形	分類
357	717 95	73 62号上坑 横上	漆鉢	口	縦状模様、連続山吹			Ⅲ-4b
303	718 95	73 62号上坑 横上	漆鉢	腹	虎斑			Ⅲ-5
359	719 95	73 62号上坑 底二	漆鉢	底		単輪縞1(L)縦		Ⅲ-7
360	720 95	73 62号上坑 底二	漆鉢	底		RL		Ⅲ-7
361	721 95	73 62号上坑 横上	漆鉢	底	虎			Ⅲ-7
362	722 95	73 63号上坑 バルト壙上	漆鉢	底	虎	単輪縞1(L)縦		Ⅲ-7
363	723 95	73 63号上坑 バルト壙上	漆鉢	底	虎 文字、ミガキ		内面ミガキ	Ⅲ-7
364	724 95	73 64号上坑 底上	漆鉢	口		RL		Ⅳ
365	725 95	73 64号上坑 底上	漆鉢	口	波綱			Ⅲ-7
366	726 95	73 64号上坑 第十	漆鉢	底	波綱 四字文(5字文は濃緑色)	単輪縞1(H)縦		Ⅲ-7
367	727 95	73 64号上坑 第十	漆鉢	底	波綱 口内割		地上に織錦入道、青字	Ⅲ-7
368	728 95	73 65号上坑 横上	漆鉢	口		単輪縞1(L)縦		Ⅲ-4?
369	729 95	73 65号上坑 横上	漆鉢	口	地文刀彫刻文、波綱	LR(波多多条)	内面ミガキ1 東	Ⅳ
370	730 95	73 65号上坑 横上	漆鉢	口	波綱(波山吹)	単輪縞1		Ⅲ-4初
371	731 95	73 66号上坑 横上	漆鉢	口	波綱、正絹	RL		Ⅳ
372	732 95	73 66号上坑 横上	漆鉢	口	波綱、正絹	RL		Ⅳ
373	733 95	73 66号上坑 横上	漆鉢	口	波綱			Ⅳ
374	734 95	73 66号上坑 横上	漆鉢	口	波綱(アルファベット文)	単輪縞1(L)縦		Ⅳ
375	735 95	73 66号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫、虎子、丸縫		Ⅳ-4b
376	736 95	73 66号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫、虎子、丸縫		Ⅳ-5
377	737 95	73 66号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫、虎子、丸縫		Ⅳ-6
378	738 95	73 66号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫、虎子、丸縫		Ⅳ-7
379	739 95	73 66号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫、虎子、丸縫		Ⅳ-8
380	740 95	73 66号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫、虎子、丸縫		Ⅳ-9
381	741 95	73 66号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫、虎子、丸縫		Ⅳ-10
382	742 95	73 66号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫、虎子、丸縫		Ⅳ-11
383	743 95	73 66号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫、虎子、丸縫		Ⅳ-12
384	744 95	73 66号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫、虎子、丸縫		Ⅳ-13
385	745 95	73 66号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫、虎子、丸縫		Ⅳ-14
386	746 95	73 66号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫、虎子、丸縫		Ⅳ-15
387	747 95	73 66号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫、虎子、丸縫		Ⅳ-16
388	748 95	73 66号上坑 横上(北)	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-17
389	749 97	71 66号上坑 横上(北)	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-18
390	750 97	71 66号上坑 横上(北)	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-19
391	751 97	71 66号上坑 横上(北)	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-20
392	752 97	71 66号上坑 横上(北)	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-21
393	753 97	71 66号上坑 横上(北)	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-22
394	754 97	71 66号上坑 横上(北)	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-23
395	755 97	71 66号上坑 横上(北)	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-24
396	756 97	71 66号上坑 横上(北)	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-25
397	757 97	71 66号上坑 横上(北)	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-26
398	758 97	71 66号上坑 横上(北)	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-27
399	759 97	71 66号上坑 横上(北)	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-28
400	760 97	71 66号上坑 横上(北)	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-29
401	761 97	71 66号上坑 横上(北)	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-30
402	762 97	71 66号上坑 横上(北)	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-31
403	763 97	71 66号上坑 横上(北)	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-32
404	764 97	71 66号上坑 横上(北)	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-33
405	765 97	71 66号上坑 横上(北)	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-34
406	766 97	71 66号上坑 横上(北)	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-35
407	767 97	71 66号上坑 横上(北)	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-36
408	768 97	71 66号上坑 横上(北)	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-37
409	769 97	71 66号上坑 横上(北)	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-38
410	770 98	24 74号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-39
411	771 98	25 74号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-40
412	772 98	25 74号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-41
413	773 98	25 74号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-42
414	774 98	25 74号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-43
415	775 98	25 74号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-44
416	776 98	25 74号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-45
417	777 98	25 74号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-46
418	778 98	25 74号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-47
419	779 98	25 74号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-48
420	780 98	25 74号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-49
421	781 98	25 74号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-50
422	782 98	25 74号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-51
423	783 98	25 74号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-52
424	784 98	25 74号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-53
425	785 98	25 74号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-54
426	786 98	25 74号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-55
427	787 98	25 74号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-56
428	788 98	25 74号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-57
429	789 99	25 74号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-58
430	790 99	25 74号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-59
431	791 99	25 74号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-60
432	792 99	25 74号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-61
433	793 99	25 74号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-62
434	794 99	25 74号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-63
435	795 99	25 74号上坑 横上	漆鉢	口	波綱	波入口縫による区画とそれそれに沿う剥離		Ⅳ-64

%	地名	面積	地籍	西番	東番	北側の界番ほか	地放	南北	分類
436	203	99	PP16009	樺上	谷	平行沈澱	SL	内面ミガキ	IV2
437	204	99	PP16009	樺上	河井	沈澱	LR	ミガキ	IV2
438	205	99	PP16009	樺上	河井	第	LR	ミガキ	IV
439	206	99	PP16009	樺上	河井	第	風切頭(1)R前	IV	
440	211	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	斜め上から下の雨突	SL	ミガキ
441	222	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	沈澱	LR	IV
442	223	100	PP16009	ホカラクラン	河井	第	平行する沈澱(余根模様)による光沢	SL	IV
443	207	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次山形、沈澱、屋根帶	風切L?	内面化粧
444	208	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	沈澱、壁面、荷葉	SL	IV3
445	222	100	PP16009	ホカラクラン	河井	第	透次アルファベット状大	LR	IV4
446	233	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	実ね、赤乳	SL	IV4b
447	234	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	沈澱、内面に段	SL	ミガキ
448	235	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	沈澱頭(1)R前	SL	IV
449	236	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	沈澱	SL	IV1
450	237	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	行齊による刀彫刻突	SL	IV-IV?
451	238	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次山形、沈澱のもの壁、ミガキ	SL	V
452	239	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	葉茎とそれに沿う刻痕	SL	IV4b
453	240	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次、沈澱、内面	SL	IV4b
454	241	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	叶形突起、透次、刻痕	SL	IV4b
455	242	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	山形突起、横に透次	SL	IV4b
456	243	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次、刻痕	SL	IV?
457	245	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次、垂下する沈澱、又黒内光塊	三耕頭1(1)R前	241と区一固体
458	246	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次区間に内面透次、陰沈	三耕頭1(1)R前	IV4a
459	247	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次	三耕頭1(L)前	IV1?
460	248	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次	SL	IV?
461	249	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次内光块、剥離	SL(0很多)	IV4b
462	250	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次、内面透次	SL	IV4b
463	251	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次、垂下する沈澱、又黒内光塊	三耕頭1(1)R前	IV3?
464	252	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次(透次内光塊)、透次	SL(0很多)	IV3?
465	253	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次(透次内光塊)、透次	SL(0很多)	IV3?
466	254	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次	SL	IV?
467	255	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次内光块、剥離	SL(0很多)	IV4b
468	256	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次、透次	SL	IV4b
469	257	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次(透次内光塊)、透次	SL(0很多)	IV4b
470	258	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次	SL	IV4b
471	259	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次内光块、透次	SL(0很多)	IV4b
472	260	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次内光块、透次	SL(0很多)	IV4b
473	262	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次、透次、透次	SL(0很多)	IV4b
474	263	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次とそれに沿う刻痕	無記	IV4b
475	265	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次	SL	IV4b
476	266	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次	SL	IV2
477	267	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次透次透次、透次とそれに沿う透次	SL	IV2
478	270	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次、透次	SL	IV?
479	273	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次、透次透次透次	透次内光块?	透土に多く貼り
480	274	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次、透次、透次内光块	SL	II
481	275	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次	SL	II?
482	277	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次透次、透次、下方からの剥離	透次内光块	II
483	278	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次透次、透次	SL(0很多)	II1
484	279	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次内光块、透次	SL(0很多)	II1
485	280	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次区間に内光块	SL?	II4a
486	281	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次区間に内光块	单耕頭1(1)R前	大貫ヨリ
487	282	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次透次透次透次	無記	II2
488	283	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次	SL	II2
489	285	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次透次	SL	II3
490	286	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次とそれに沿う透次	SL?	II3?
491	287	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次内光块、透次内光块	透次区間に内光块	II3?
492	288	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次内光块、透次内光块	透次内光块?	II3
493	289	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次内光块、透次内光块	透次内光块?	II3
494	290	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次内光块、透次内光块	透次内光块?	II3
495	291	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次内光块、透次内光块	透次?	II3
496	292	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次内光块、透次内光块	透次?	II3
497	293	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次内光块、透次内光块	透次内光块?	II3
498	294	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次内光块、透次内光块	透次内光块?	II3
499	295	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次内光块、透次内光块	透次内光块?	II3
500	296	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次内光块、透次内光块	透次内光块?	II3
501	298	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次内光块、透次内光块	透次内光块?	II4b
502	299	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次上に透次、透次	SL	II4
503	300	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次透次透次透次	SL	II4
504	301	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次透次透次透次	SL	II4?
505	302	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次透次透次透次	SL	II4?
506	304	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次透次透次透次	SL	II4
507	305	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次透次透次透次	SL	II4b
508	306	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次透次透次透次	透次?	II3
509	307	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次透次透次透次	透次?	II3
510	308	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次透次透次透次	透次?	II3
511	309	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次透次透次透次	透次?	II3
512	310	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次透次透次透次	透次?	II3
513	314	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次透次透次透次	透次?	II3
514	315	100	PP16009	ホカラクラン	河井	口	透次透次透次透次	透次?	II3

件名	出土地点	基準	部位	文様の有無はか	地紋	備考	分類
515 316 102 77 FX11 Dカクラン	深鉢	口	判別不可能(充て)				III-4
516 317 102 77 FX14 Dカクラン	深鉢	側	北朝瓦面内夷滿	單輪輪1(R)輪			III-2
517 318 102 77 FX15 梅出頭上	深鉢	裏鉢	米粒による回文				IV-2
518 319 102 77 FX16 梅出頭	深鉢	口	一例・梅丸	RL			N
519 321 102 77 FX16 梅出頭	深鉢	口	段落上に連続する刺突			内面口部側溝	II-4?
520 322 102 77 FX16 梅出頭	深鉢	側	瓦・瓦被	LR			III-3
521 319 102 77 FX16 Gカクラン	深鉢	口	平行沈文	LR		内面ミガキ	IV-2
522 320 103 77 FX16 Gカクラン	深鉢	底	瓦・瓦被				II-3?
523 321 103 77 FX16 Gカクラン	深鉢	口	沈文	單輪輪1(R)輪			IV-1?
524 322 103 77 FX16 Gカクラン	深鉢	口	例・口部ミガキ	RL(既多)		内面ミガキ	IV
525 323 103 77 FX16 Gカクラン	深鉢	口	朝	LR			IV
526 324 103 77 FX16 Gカクラン	深鉢	裏	文・ミガキ			内面ミガキ	IV
527 325 103 77 FX16 Gカクラン	深鉢	口	充て				IV-2
528 327 103 77 FX16 Gカクラン	深鉢	口	平行沈文、突出、ミガキ	LR		内面ミガキ	IV-2
529 328 103 77 FX16 Gカクラン	深鉢	底	次第による円形区画	RL		内面ミガキ	II-3?
530 329 103 77 FX16 Gカクラン	深鉢	底	斜い沈文	LR		内面ミガキ	IV?
531 330 103 77 FX16 Gカクラン	深鉢	底	平行沈文	LR		内面ミガキ	IV-2
532 331 103 77 FX16 Gカクラン	深鉢	底	例・下さる波文			LR充満?	III-3
533 333 103 77 FX16 Gカクラン	深鉢	底	北朝による円形区画	LR			III-3&4
534 334 103 77 FX17 神山面	深鉢	底	代代灰				II?
535 335 103 77 FX17 横凹面	深鉢	口	平				II?
536 336 103 77 FX17 横山面	深鉢	底	無				II?
537 338 103 77 FX17 Gカクラン	深鉢	口	無・無文、ミガキ				IV
538 339 103 77 FX17 Gカクラン	深鉢	口	平行沈文	LR			IV-2
539 340 103 77 FX17 Gカクラン	深鉢	底	折	RL		内面ミガキ	IV-1
540 341 103 77 FX17 Gカクラン	深鉢	底	平行沈文	LR		内面ミガキ	IV-2
541 342 103 77 FX17 Gカクラン	深鉢	口	平行沈文			掌握?	IV
542 343 103 77 FX17 Gカクラン	深鉢	口	平行沈文				IV?
543 345 103 77 FX17 Gカクラン	深鉢	底	無				IV
544 346 103 77 FX23 梅山面	深鉢	口	孔充て、往復	LR		内面ミガキ	II
545 347 103 77 FX23 梅山面	深鉢	底	斜め、外周丁寧なミガキ			II-3&4	II-4?
546 348 103 78 FX24 梅山面	深鉢	口	斜め	RL			II-3?
547 349 103 78 FX24 梅出頭	深鉢	口	斜め竹管による區画			掌握?	II-3&4
548 350 103 78 FX24 梅出頭	深鉢	底	折				IV-2
549 351 103 78 FX24 梅出頭	深鉢	底	平行沈文	LR			IV-2
550 352 103 78 FX24 梅出頭	深鉢	口	平行沈文	LR		掌握?	IV
551 353 103 78 FX24 梅出頭	深鉢	底	斜め、花瓶X面				II-3?
552 354 103 78 FX24 梅出頭	深鉢	底	葉帯			内面に斜	II-3?
553 355 103 78 FX24 梅出頭	深鉢	底	無				II?
554 356 103 78 FX24 梅出頭	深鉢	底	有孔充て			内面コゲ、360と同一	II-4b
555 357 103 78 FX24 梅出頭	深鉢	底	沈文	LR		内面コゲ	IV
556 358 103 78 FX24 梅出頭	深鉢	底	小夜狀口縁、沈文	LR		内面コゲ	IV-?
557 359 103 78 FX24 梅出頭	深鉢	底	隨意、刺突	LR?			II-4
558 360 103 78 FX24 梅出頭	深鉢	底	荷葉口縁				II
559 361 103 78 FX24 梅出頭	深鉢	底	平行沈文	LR		内面コゲ?	IV-2
560 362 103 78 FX24 梅出頭	深鉢	底	平行沈文	LR		内面コゲ	IV-2
561 363 103 78 FX25 梅山面	深鉢	口	斜め	RL?			II
562 364 103 78 FX25 梅山面	深鉢	底	斜め、波文	RL?			IV-1?
563 365 103 78 FX25 梅山面	深鉢	底	斜め	RL?		单輪輪(R)波?	II-4b
564 366 103 78 FX25 梅山面	深鉢	底	斜め	RL?		单輪輪(R)波?	II-4b
565 367 103 78 FX25 梅出頭	深鉢	口	平行沈文	RL?		单輪輪(L)波?	II
566 368 103 78 FX25 梅山面	深鉢	底	斜め	RL?		单輪輪(L)波?	II
567 369 103 78 FX25 Gカクラン	深鉢	口	斜め、波文	RL		单輪輪(L)波?	II-3?
568 370 103 78 FX25 梅出頭	深鉢	底	斜め	RL		单輪輪(L)波?	II
569 371 103 78 FX25 梅山面	深鉢	底	斜め	RL		单輪輪(L)波?	II-4
570 372 103 78 FX25 Gカクラン	深鉢	口	斜め	RL		单輪輪(L)波?	II-4
571 373 103 78 FX25 Gカクラン	深鉢	底	斜め	RL		单輪輪(L)波?	II-4
572 374 103 78 FX25 Gカクラン	深鉢	口	平行沈文	RL		单輪輪(L)波?	II-4
573 375 103 78 FX25 Gカクラン	深鉢	底	平行沈文	RL		单輪輪(L)波?	II-4
574 376 103 78 FX25 Gカクラン	深鉢	口	平行沈文	RL		单輪輪(L)波?	II
575 378 103 78 FX25 Gカクラン	深鉢	底	斜め	RL		单輪輪(L)波?	II
576 379 103 78 FX25 Gカクラン	深鉢	口	斜め	RL		单輪輪(L)波?	II
577 381 103 78 FX25 Gカクラン	深鉢	底	斜め	RL		单輪輪(L)波?	II
578 382 103 78 FX27	深鉢	口	斜め	RL		单輪輪(L)波?	II
579 383 103 78 FX27	深鉢	底	斜め	RL		单輪輪(L)波?	II-3?
580 384 103 78 FX27	深鉢	口	斜め	RL		单輪輪(L)波?	II-4
581 385 103 78 FX27	深鉢	底	斜め	RL		单輪輪(L)波?	II-4
582 386 103 78 FX27	深鉢	口	斜め	RL		单輪輪(L)波?	II-4
583 387 103 78 FX27 梅出頭	深鉢	底	斜め	RL		单輪輪(L)波?	II-4
584 388 103 78 FX27 梅出頭	深鉢	口	斜め	RL		单輪輪(L)波?	II-4
585 389 103 78 FX27 梅出頭	深鉢	底	斜め	RL		单輪輪(L)波?	II-4
586 390 103 78 FX27 Gカクラン	深鉢	口	斜め	RL		单輪輪(L)波?	II-4
587 391 103 78 FX27 Gカクラン	深鉢	底	斜め	RL		单輪輪(L)波?	II-4
588 392 103 78 FX27 Gカクラン	深鉢	口	斜め	RL		单輪輪(L)波?	II-4
589 393 103 78 FX27 Gカクラン	深鉢	底	斜め	RL		单輪輪(L)波?	II-4
590 394 103 78 FX27 Gカクラン	深鉢	口	斜め	RL		单輪輪(L)波?	II-4
591 395 103 78 FX27 Gカクラン	深鉢	底	斜め	RL		单輪輪(L)波?	II-4
592 396 103 78 FX27 Gカクラン	深鉢	口	斜め	RL		单輪輪(L)波?	II-4
593 397 103 78 FX27 Gカクラン	深鉢	底	斜め	RL		单輪輪(L)波?	II-4

No.	出土地点	形態	部位	文様の特徴ほか	地紋	書号	分類
673	492 108 80 FX156 横須賀	管状	近	側面絞	LR	III-B?	
674	493 108 80 FX156 横須賀	管状	中		防護式?	内側ミガキ	
675	494 108 80 FX156 横須賀	管状	先端	波紋		IV2	
676	495 108 81 FX156 横須賀	管状	口	平行波紋?		III?	
677	496 108 81 FX156 横須賀	管状	口	LR+平行波紋? 平行波紋	LR	IV2	
678	497 108 81 FX157 カクラン	管状	口	平行波紋?		III?	
679	498 108 81 FX157 カクラン	管状	中	波紋	LR	III?	
680	499 108 81 FX166 カクラン	管状	中	曲下する波紋		III?	
681	219 109 81 IX14 横須賀	管状	中	S字彫刻波紋		船上に植物模様混入	II
682	221 109 81 IX50 横須賀	管状	口	波紋状凹凸	LR	内面ミガキ	
683	220 109 81 IX55 横須賀	管状	口	波浪状	LR	III-B?	
684	221 109 81 IX56 横須賀	管状	口	直角彫刻? 異形文字		III?	
685	225 109 81 IX58 横須賀	管状	口	直角彫刻? 異形文字		III?	
686	226 109 81 IX59 横須賀	管状	口	直角彫刻? 異形文字		III?	
687	227 109 81 IX58 横須賀	管状	口	直角彫刻? 異形文字		III?	
688	228 109 81 IX58 横須賀	管状	口	直角彫刻? 異形文字		III?	
689	229 109 81 IX58 横須賀	管状	口	直角彫刻? 異形文字		III?	
690	230 109 81 IX58 横須賀	管状	口	直角彫刻? 異形文字		III?	
691	500 109 81 IX25 三島	管状	口	波紋	LR	外側ミガキ、力押に成	III-B
692	301 109 81 IX36-87 藤原	管状	中	波紋、螺旋、波渦状	RL	内面ミガキ	III-B
693	502 109 81 IX36-87 藤原	管状	中	波紋、螺旋状	RL	無歯先丸	III-B
694	503 109 81 IX36-87 藤原	管状	口	斜上彎曲	RL		
695	504 109 81 IX37 三島	管状	中	波紋	RL		
696	505 109 81 IX37 三島	管状	中	波紋、螺旋状	RL		
697	506 109 81 IX37 三島	管状	中	波紋、螺旋状	RL		
698	507 109 81 IX37 三島	管状	中	波紋、螺旋状	RL		
699	508 109 81 IX37 三島	管状	中	波紋、螺旋状	RL		
700	510 109 81 IX37 三島	管状	中	波紋、螺旋状	RL	内面ミガキ	III?
701	511 109 81 IX36-06 長崎	管状	中	波紋、斜方に並ぶ平行凹部直進	RL	外側ミガキ	III?
702	512 109 81 IX36-06 長崎	管状	中	波紋、斜方に並ぶ平行凹部直進	RL	III?	
703	513 109 81 IX36-06 長崎	管状	口	斜上彎曲	RL	無歯先丸	III?
704	514 109 81 IX36-06 長崎	管状	中	波紋、斜方彎曲	RL	内面ミガキ、力押	III-B
705	515 109 81 IX36-06 長崎	管状	中	波紋、斜方彎曲	RL	III?	
706	516 109 81 IX36-06 長崎	管状	中	波紋、斜方彎曲	RL	無歯先丸	III?
707	517 109 81 IX36-06 長崎	管状	中	波紋、斜方彎曲	RL	内面に波状彌散	III?
708	518 110 81 IX37-06 日暮	管状	中	波紋、斜方に並ぶ平行凹部直進	RL	内面ミガキ	III?
709	519 110 81 IX37-06 日暮	管状	中	波紋、斜方彎曲	RL	III?	
710	520 110 81 IX37-06 日暮	管状	中	波紋、斜方彎曲	RL	III?	
711	521 126 S1506 2-IV 濱	管状	中	波紋、斜方彎曲	RL	内面ミガキ	III?
712	522 110 81 IX36 日暮	管状	中	波紋、斜方彎曲	RL	III?	
713	523 110 81 IX36 日暮	管状	中	波紋、斜方彎曲	RL	III?	
714	524 110 81 IX37 日暮	管状	中	波紋、斜方彎曲	RL	内面に波状彌散	III?
715	525 110 81 IX37 日暮	管状	中	波紋、斜方彎曲	RL	内面に波状彌散	III?
716	526 110 81 IX37 日暮	管状	中	波紋、斜方彎曲	RL	内面ミガキ	III?
717	527 110 81 IX37 日暮	管状	中	波紋、斜方彎曲	RL	III?	
718	528 110 81 IX37 日暮	管状	中	波紋、斜方彎曲	RL	内面に波状彌散	III?
719	529 110 82 S208	管状	中	波紋、斜方彎曲	RL	III?	
720	530 110 82 S208	管状	中	波紋、斜方彎曲	RL	III?	
721	531 110 82 S116	管状	中	波紋、斜方彎曲	RL	III?	
722	532 110 82 S116	管状	中	波紋、斜方彎曲	RL	III?	
723	533 110 82 S116	管状	中	波紋、斜方彎曲	RL	III?	
724	535 110 82 S116	管状	中	波紋、斜方彎曲	RL	III?	
725	536 110 82 S116 2-IV 濱	管状	中	波紋、斜方彎曲	RL	III?	
726	538 111 82 S116 2-IV 濱	管状	中	波紋、斜方彎曲	RL	III?	
727	539 111 82 S116 2-IV 濱	管状	中	波紋、斜方彎曲	RL	III?	
728	540 111 82 S116 2-IV 濱	管状	中	波紋、斜方彎曲	RL	III?	
729	541 111 82 S116 2-IV 濱	管状	中	波紋、斜方彎曲	RL	III?	
730	542 111 82 S116 2-IV 濱	管状	中	波紋、斜方彎曲	RL	III?	
731	543 111 82 S116 2-IV 濱	管状	中	波紋、斜方彎曲	RL	III?	
732	544 112 82 S126 楓葉水	管状	中	波紋	LR	内面に波状彌散	III?
723	545 111 82 S128 日暮	管状	中	波紋	RL	内面ミガキ	III?
734	546 111 82 S128 日暮	管状	中	波紋	RL	内面ミガキ	III?
735	548 111 82 S128 日暮	管状	中	波紋	RL	内面ミガキ	III?
736	549 111 82 S128 日暮	管状	中	波紋	RL	内面ミガキ	III?
737	550 111 82 S128 日暮	管状	中	波紋	RL	内面ミガキ	III?
738	551 111 82 S128 日暮	管状	中	波紋	RL	内面ミガキ	III?
739	552 111 82 S128 日暮	管状	中	波紋	RL	内面ミガキ	III?
750	553 111 82 S228 日暮	管状	中	波紋	RL	内面ミガキ	III?
741	554 111 82 S317 日暮	管状	中	波紋	RL	内面ミガキ	III?
742	555 111 82 S318 日暮	管状	中	波紋	RL	内面ミガキ	III?
743	556 111 82 S318 日暮	管状	中	波紋	RL	内面ミガキ	III?
744	557 112 82 カクラン	管状	中	波紋	RL	内面ミガキ	III?
745	558 112 82 1347 梶出町	管状?	底	底代謝		V	
746	571 112 82 1346 梶出町	管状?	底	底代謝		—	
747	572 112 82 1346 梶出町	管状?	底	底代謝		III?	

第19表 遺構内石器・石製品出土量

出土点・施設	施設			不拘		表T-1量
	銅行水道	剥片類(枚)	麻布袋	箆(重さ)(g)	箆(重さ)(g)	
1号井	0	0.00	3	28710.00	0.00	28710.00
2号井	0	0.00	2	36112.00	11.73	36112.00
3号井	0	0.00	11	3266.80	208.50	3265.50
4号井	6	324.00	5	5002.70	199.30	5244.40
5号井	1	3.90	1	51.40	4.00	55.40
3号土坑	3	11.10	17	15826.40	192.60	16023.00
7号井(S 1.0.1)	0	0.00	2	160.20	85.70	0.00
8号井(S 1.0.2)	1	3.50	20	9657.30	582.30	10243.00
9号井(S 1.0.4)	1	13.30	1	1123.70	49.80	1186.80
3号廻取上附(山羊角石)	0	0.00	0	0.00	0.80	0.00
30号土坑	0	0.00	1	2800.00	0.00	2800.00
40号土坑	0	0.00	0	0.00	118.20	0.00
41号土坑	1	1.20	2	216.20	1.90	222.20
42号土坑	1	7.20	0	0.00	0.00	7.20
43号土坑	0	0.00	2	4129.40	7.70	0.00
47号土坑	0	0.00	1	9630.00	18.00	9838.00
48号土坑	1	3.00	2	7899.10	111.00	8006.10
51号土坑	2	80.80	0	0.00	0.00	80.80
52号土坑	0	0.00	1	6540.00	14.70	6554.20
54号土坑	0	0.00	1	356.00	32.70	0.00
55号土坑	0	0.00	0	0.00	2.30	0.00
57号土坑	0	0.00	2	1966.70	2.80	1969.50
58号土坑	0	0.00	0	0.00	2.40	0.00
59号土坑	0	0.00	0	0.00	2.30	0.00
60号土坑	0	0.00	1	456.60	10.00	476.60
62号土坑	0	0.00	4	2024.20	10.80	2033.00
64号土坑	0	0.00	2	497.70	0.00	497.70
65号土坑	0	0.00	0	0.00	10.20	0.00
66号土坑	0	0.00	0	0.00	5.90	0.00
69号土坑	0	0.00	3	4249.90	25.70	4275.60
70号土坑	0	0.00	1	104.80	0.00	104.80
72号土坑	4	14.10	3	5897.90	4.80	5916.80
76号土坑	1	0.90	1	35.80	6.10	0.00
75号土坑(S K 0.1)	0	0.00	0	0.00	27.30	0.00
76号土坑(S K 0.2)	0	0.00	0	0.00	3.70	0.00
27号土坑(S X 0.3)	0	0.00	0	0.00	3.20	0.00
8号土坑(S K 0.7)	0	0.00	0	0.00	3.20	0.00
45号土坑	0	0.00	3	3994.40	2.90	4066.80
合計	22	174.40	82	158487.40	17645.00	160426.50

第20表 石器地点別出土量

出土地名・場所	点数	重量(g)
遺構内全量	89	158116.20
E X 9.0	1	6.30
E X 1.9.0	4	1036.00
E X 2.9.1	1	12.20
F X 1.9.1	2	6.40
F X 2.0.2	9	60.00
F X 2.0.3	29	35.50
F X 3.0.4	4	91.00
F X 3.0.5	6	34.00
F X 3.0.6	4	7.80
F X 3.0.7	4	7.80
F X 3.1.1	1	17.80
F X 3.1.2	2	2.50
F X 3.1.3	6	31.90
F X 3.1.4	18	78.00
F X 3.1.5	3	1.90
F X 3.1.6	12	137.60
F X 3.1.7	16	71.00
F X 3.1.8	1	1.80
F X 3.2.3	3	24.20
F X 3.2.4	29	45.00
F X 3.2.5	4	4.80
F X 3.2.6	5	4.90
F X 3.2.7	54	539.50
F X 3.2.8	34	297.00
F X 3.3.3	1	5.30
F X 3.3.4	4	86.60
F X 3.3.5	4	32.20
F X 3.3.6	22	120.30
F X 3.3.7	15	136.20
F X 3.3.8	2	70.90
F X 3.4.2	1	2.60
F X 3.4.3	3	14.40
F X 3.4.4	13	57.00
F X 3.4.5	7	27.40
F X 3.4.6	19	57.70
F X 3.4.7	6	11.00
F X 3.4.8	8	15.40
F X 3.4.9	1	20.40
F X 3.5.3	1	0.40
F X 3.5.4	1	7.30
F X 3.5.5	11	57.20
F X 3.5.6	5	22.70
F X 3.5.7	7	6.30
F X 3.6.5	1	0.30
I I X 9.0	1	2.30
I I X 9.4	11	82.70
J J X 0.6	6	22.10
J J X 1.7	2	11.20
R 1.9.6 S 1.0.6	1	8.70
S 1.0.5 Ⅲ層	1	36.80
S 1.0.6	10	233.40
S 1.0.7 Ⅳ層	6	26.50
S 1.0.7.08	2	5.70
S 1.0.8	3	25.20
S 1.10	3	91.60
S 1.15	2	3.90
S 1.18 Ⅲ層	3	24.70
S 1.18 瓦礫木	1	1.10
S 1.25	5	61.90
S 1.28 Ⅲ層	8	127.20
S 1.30	3	137.70
S 1.38	12	322.10
Ⅱ区 収納引岩石壁(5面數)	4	66.20
Ⅱ区 収納引岩石壁(6段級)	9	48.90
Ⅱ区 収納引岩石壁(7段級)	17	149.00
トレッキ	3	84.70
瓦包縛グリッド②	2	28.20
Hカラコン	1	7.50
I カラコン	1	7.60
セ埋	1	14.70
地點不明	18	100.80
(合計)		152253.30

第21表 石器・石製品觀察表

名	出土地点	古種	石質	形状	年代	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	特徴記述
S201 413 79 83 N区50m25(田石難)	石核	真耶	圓盤形	新代後新第三紀	390	5.30	3.30	38.30		
S202 412 79 83 N区50m24(田石難)	地先尖端器	石核	白山山脈	新代後新第三紀	3.10	2.20	1.00	6.70		
S203 413 79 83 N区50m24(田石難)	地先尖端器	石核	西羽山脈	新代後新第三紀	2.70	2.10	0.90	2.80		
S204 414 79 83 2区608(田石難)	擦器	真耶	扇形	新代後新第三紀	4.20	4.20	1.10	18.40		
S205 201 113 85 1年生	石片(方型)	麻耶	圓盤形	新代後新第三紀	24.00	21.40	6.60	1460.00	即彌成器	
S206 203 113 85 1年生	台石?	麻耶	圓盤形	新代後新第三紀	34.50	21.90	8.90	9150.00		
S207 202 113 85 1年生	石破狀	テノイド	圓盤形	新代後新第三紀	58.60	13.40	3.10	15200.00	即彌成器	
S208 203 114 85 2年生	磨石	安井曾	圓盤形	新代後新第三紀	19.30	7.10	5.50	571.20		
S209 204 114 85 2年生	石研(新瓦)	麻耶	圓盤形	新代後新第三紀	30.70	14.90	8.00	3040.00	即彌成器	
S210 214 114 85 3年生	磨石	板状灰岩	圓盤形	新代後新第三紀	13.40	9.20	4.90	413.70		
S211 211 114 85 3年生	磨石	麻耶	圓盤形	新代後新第三紀	17.80	15.10	4.60	110.170		
S212 210 115 85 3年生	磨石	テノイド	圓盤形	新代後新第三紀	12.60	9.10	7.10	1132.70		
S213 217 115 85 3年生	磨石	麻耶	圓盤形	新代後新第三紀	3.80	3.80	4.00	51.50		
S214 280 115 85 3年生	磨石	板状灰岩	圓盤形	新代後新第三紀	2.80	3.80	3.60	61.20		
S215 281 115 85 3年生	磨石	板状灰岩	圓盤形	新代後新第三紀	5.50	3.70	3.20	63.80		
S216 309 115 85 3年生	石核?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第三紀	11.00	12.50	4.90	652.20		
S217 213 115 85 3年生	石片	板状灰岩	圓盤形	新代後新第三紀	26.70	22.50	5.80	4200.00		
S218 208 116 85 3年生	台石刮削用	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	29.10	25.20	14.40	9790.00	即彌成器	
S219 212 117 85 3年生	台石?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第二紀	32.40	29.30	10.70	10700.00		
S220 207 116 85 3年生	梯狀狀	テノイド	圓盤形	新代後新第三紀	61.30	15.60	12.10	10000.00	即彌成器	
S221 297 117 85 4年生	石核?	風呂山脈	圓盤形	新代後新第三紀	1.75	1.25	0.30	0.50		
S222 298 117 85 4年生	石核?	赤色頁岩	圓盤形	新代後新第三紀	1.80	1.30	0.25	0.60		
S223 299 117 85 4年生	石核?	青石	圓盤形	新代後新第三紀	1.10	1.25	0.20	0.30		
S224 300 117 85 4年生	石核?	赤色頁岩	圓盤形	新代後新第三紀	5.40	3.20	1.00	14.30		
S225 301 117 85 4年生	擦削器	片打	風呂山脈	新代後新第三紀	4.80	3.15	0.5	7.80		
S226 302 117 85 4年生	擦削器	真耶	圓盤形	新代後新第三紀	(2.40)	2.45	1.20	5.50		
S227 303 117 85 4年生	石核?	板状灰岩	圓盤形	古吉ラオルディス紀	6.20	4.20	2.00	83.70		
S228 215 117 85 4年生	石核?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第三紀	13.00	12.40	2.80	29.70		
S229 283 118 86 1年生	磨石	板状灰岩	圓盤形	新代後新第三紀	9.00	8.10	3.50	525.20		
S230 216 118 86 1年生	台石?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第三紀	21.60	21.10	7.50	4020.00		
S231 284 118 86 1年生	石製内筒	鶴見山脈	圓盤形	新代後新第三紀	6.40	5.80	1.50	6.20		
S232 203 118 86 5年生	Uフレ	貴巣	奥羽山脈	新代後新第一紀	3.55	2.15	3.00	3.30		
S233 296 118 86 5年生	鉢形?	道戸丘	奥羽山脈	新代後新第一紀	7.60	3.30	2.10	51.40		
S234 254 118 86 7年生(5.10)	磨石?	道戸丘	奥羽山脈	新代後新第一紀	20.20	7.50	5.50	92.80		
S235 251 119 87 7年生(5.10)	半円形扁平打削器	ダサイリ	奥羽山脈	新代後新第一紀	13.70	8.00	3.90	582.20		
S236 308 119 87 8年生(5.01)	片打	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	3.10	2.60	0.60	3.20		
S237 258 119 87 8年生(5.01)	内石	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	9.90	3.10	3.80	2038.00	No.19	
S238 261 119 87 8年生(5.01)	内石	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	14.00	10.20	5.00	789.90	No.16	
S239 252 119 87 8年生(5.01)	内石?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	18.90	7.90	5.50	979.00	No.7	
S240 263 120 87 8年生(5.02)	内石?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	11.70	7.20	4.80	4290.00	No.8	
S241 264 120 87 8年生(5.02)	内石?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	14.30	7.10	4.70	4730.00	No.9	
S242 266 120 87 8年生(5.02)	内石?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	13.50	9.20	5.30	572.00		
S243 270 120 87 8年生(5.02)	内石?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	9.50	7.00	5.20	371.10	米西	
S244 267 121 88 8年生(5.02)	内石?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	16.80	8.00	5.30	999.80	No.13	
S245 289 121 88 8年生(5.02)	内石?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	20.10	18.00	8.60	2810.00	No.13	
S246 271 121 88 8年生(5.02)	内石?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	30.40	8.10	6.60	21200.00	No.11	
S247 207 122 88 8年生(5.03)	Uフレ	貴巣	奥羽山脈	新代後新第一紀	5.10	3.60	0.95	15.30		
S248 250 122 88 8年生(5.03)	石核?	越後黄砂岩	圓盤形	新代後新第一紀	16.10	8.20	7.20	11220.00	No.10	
S249 304 122 88 8年生(5.03)	石核?	真耶	鳥羽山脈	新代後新第一紀	1.40	1.40	0.25	0.40		
S250 305 122 88 8年生(5.03)	尖端削器	真耶	鳥羽山脈	新代後新第一紀	5.50	1.15	0.65	3.60		
S251 306 122 88 8年生(5.03)	刮削器	真耶	鳥羽山脈	新代後新第一紀	5.85	2.05	0.50	7.10		
S252 217 122 88 8年生(5.03)	刮削器	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	23.10	16.30	10.00	4000.00		
S253 218 123 88 8年生(5.03)	刮削器?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	16.20	17.50	4.00	765.90		
S254 219 123 88 8年生(5.03)	刮削器?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	15.40	7.80	3.00	399.20		
S255 220 123 88 8年生(5.03)	刮削器?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	11.50	6.20	4.50	322.00		
S256 221 123 88 8年生(5.03)	刮削器?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	12.60	11.80	4.90	629.40		
S257 222 123 88 8年生(5.03)	刮削器?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	10.10	9.30	4.90	472.00		
S258 223 123 88 8年生(5.03)	刮削器?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	16.80	9.30	4.60	655.90		
S259 224 123 88 8年生(5.03)	刮削器?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	9.10	8.80	6.00	326.30		
S260 225 123 88 8年生(5.03)	刮削器?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	10.10	7.70	5.20	406.60		
S261 226 125 90 8年生(5.04)	刮削器?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	11.10	9.40	3.00	290.50		
S262 227 125 90 8年生(5.04)	刮削器?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	12.90	12.10	4.60	715.90		
S263 228 125 90 8年生(5.04)	刮削器?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	(11.50)	13.00	4.70	924.60		
S264 229 125 90 8年生(5.04)	刮削器?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	14.00	11.30	5.50	812.50		
S265 230 125 90 8年生(5.04)	刮削器?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	12.70	8.00	5.00	515.70		
S266 231 126 90 8年生(5.04)	刮削器?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	23.90	8.10	3.50	406.70		
S267 232 126 90 8年生(5.04)	刮削器?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	(7.00)	(4.00)	(5.30)	188.00		
S268 233 126 90 8年生(5.04)	刮削器?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	27.80	21.30	5.80	4000.00		
S269 235 127 91 8年生(5.04)	刮削器?	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	(13.90)	12.40	11.20	2800.00		
S270 309 127 91 91号土坑	石核?	真耶	鳥羽山脈	新代後新第一紀	2.85	2.35	0.80	4.20		
S271 296 127 91 41号土坑	磨石	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	5.70	5.40	3.70	116.00		
S272 297 127 91 41号土坑	磨石	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	(35.00)	43.30	3.20	2200.00	写真薄紙	
S273 310 127 91 41号土坑	磨石	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	6.50	2.10	0.80	7.20		
S274 229 127 91 44号土坑	刮削器	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	11.30	6.70	3.70	214.00		
S275 240 127 91 44号土坑	刮削器	板状灰岩	圓盤形	新代後新第一紀	33.50	22.70	5.80	2920.00		

名	地	層位	石質	産地	年代	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	特記事項		
湯瓶	瓦 土	94 等上	凹石	淡灰質砂岩	新生代新第三紀	19.90	18.0	7.40	2560.00			
S276	235	128	91	55等上	凹石	淡灰質砂岩	新生代新第三紀	11.40	8.00	3.70	4860.00	
S277	236	128	91	45等上	凹石	淡灰質砂岩	新生代新第三紀	11.00	11.20	4.00	678.40	
S278	237	128	92	45等上	凹石	淡灰質砂岩	新生代新第三紀	12.00	31.60	5.90	9820.00	
S279	238	128	92	47等上	凹石	淡灰質砂岩	新生代新第三紀	1.40	4.50	4.10	36.00	
S280	211	129	92	49等上	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	2.50	2.25	0.90	300
S281	228	129	92	19等上	凹石	淡灰質砂岩	新生代新第三紀	1.40	4.50	4.10	36.00	
S282	241	129	92	49等上	凹石	淡灰質砂岩	新生代新第三紀	23.80	(32.60)	12.20	7820.00	
S283	312	129	92	51等上	孫原鷺	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	3.35	1.80	0.30	230
S284	312	129	92	51等上	14崩鷺	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	9.75	5.20	2.00	78.80
S285	242	130	92	52等上	凹石	淡灰質砂岩	新生代新第三紀	2.30	25.10	5.20	654.00	
S286	289	130	92	54等上	凹石	淡灰質砂岩	新生代新第三紀	11.40	8.20	6.30	536.00	
S287	243	130	92	57等上	凹石?	淡灰質砂岩	新生代新第三紀	15.00	13.90	6.60	1713.50	
S288	290	130	93	57等上	石繩	灰岩	奥羽山脈	新生代カムチャツ紀	11.50	4.10	2.20	153.20
S289	291	131	93	60等上	凹石	淡灰質砂岩	新生代新第三紀	12.50	8.10	5.90	656.80	
S290	246	131	93	62等上	凹石	淡灰質砂岩	新生代新第三紀	12.00	10.00	5.20	596.40	
S291	247	131	93	62等上	凹石	安山岩	新生代新第三紀	10.50	10.00	3.40	466.80	
S292	218	131	93	63等上	突灯	ガリイ	美山脈	新生代新第三紀	10.60	9.90	7.00	934.40
S293	292	131	93	63等上	(玄武)煙	烟灰岩	新生代新第三紀	6.30	5.20	4.70	43.70	
S294	244	132	93	63等上	凹石	淡灰質砂岩	新生代新第三紀	10.90	10.10	4.10	117.40	
S295	294	132	94	64等上	石繩	石繩	奥羽山脈	新生代新第三紀	(16.00)	7.80	3.70	317.20
S296	293	132	94	64等上	磨石	淡灰質砂岩	新生代新第三紀	6.30	5.40	4.90	180.40	
S297	255	132	94	68等上	凹石	淡灰質砂岩	新生代新第三紀	11.90	11.60	3.50	582.20	
S298	243	132	94	68等上	石棒狀	デライ	美山脈	新生代新第三紀	(16.60)	13.00	11.40	3760.00
S299	226	132	94	70等上	鉢形	淡灰質砂岩	新生代新第三紀	3.90	9.60	2.30	1018.00	
S300	314	132	94	72等上	石繩	頁岩	美山脈	新生代新第三紀	1.70	1.30	0.30	0.30
S301	315	132	94	72等上	石繩	頁岩	美山脈	新生代新第三紀	2.20	1.30	0.30	0.30
S302	316	132	94	72等上	孫原鷺	頁岩	美山脈	新生代新第三紀	(3.15)	2.45	0.90	349
S303	77	133	94	72等上	Rフレ	頁岩	美山脈	新生代新第三紀	5.05	2.30	1.00	7.90
S304	219	133	94	72等上	孙石	ガリイ	美山脈	新生代新第三紀	9.30	8.80	5.10	666.20
S305	250	133	94	72等上	凹石	淡灰質砂岩	新生代新第三紀	9.80	6.50	5.30	511.70	
S306	49	133	94	72等上	石繩	安山岩	新生代新第三紀	29.00	14.05	11.20	4720.00	
S307	318	133	94	74等上	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	2.10	1.30	0.45	0.90
S308	251	133	94	74等上	凹石	淡灰質砂岩	新生代新第三紀	(8.90)	8.80	5.00	375.80	
S309	388	134	95	7X.3.26	尖端(夢)	頁岩	北上川沿い(?)	古生代泥盆紀	8.20	6.00	1.90	55.10 カクラン
S310	320	134	95	EX.2.93	石繩	黑鷲石	奥羽山脈	古生代泥盆紀	1.55	1.25	0.30	0.40
S311	324	134	95	EX.2.23	石繩	桂陽石	奥羽山脈	古生代泥盆紀	(2.30)	1.80	0.30	1.00
S312	326	135	95	FX.2.34	石繩	頁岩	美山脈	新生代新第三紀	2.15	1.10	0.25	0.40
S313	308	134	95	FX.2.36	石繩	頁岩	美山脈	新生代新第三紀	(2.10)	1.20	0.30	0.50
S314	336	134	95	FX.2.57	石繩	頁岩	美山脈	新生代新第三紀	2.20	1.35	0.30	0.50
S315	321	134	95	FX.8.02	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	(2.00)	1.35	0.30	0.90
S316	322	134	95	FX.2.03	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	(2.30)	1.80	0.40	1.20
S317	323	134	95	FX.2.21	石繩	祉賢黃岩	西因山脈	新生代新第三紀	2.00	1.70	0.30	0.90
S318	364	134	95	FX.2.23	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	2.40	1.60	0.30	1.00
S319	335	134	95	FX.2.23	石繩	黑魔石	鬼石不明	1.85	1.30	0.30	0.40	
S320	325	134	95	FX.2.26	石繩	赤色頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	(1.80)	1.30	0.25	0.60
S321	326	134	95	FX.2.26	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	1.95	1.60	0.30	0.60
S322	327	134	95	FX.2.36	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	(2.80)	1.80	0.30	1.50
S323	320	134	95	FX.4.65	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	1.80	1.50	0.20	0.40
S324	333	134	95	FX.5.27	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	(1.30)	(1.20)	0.30	0.30
S325	335	134	95	FX.5.27	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	1.90	1.30	0.25	0.50
S326	378	134	95	J.1.06	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	(2.30)	1.75	0.40	1.10
S327	337	134	95	S.1.06	黑魔石	鬼石不明	奥羽山脈	新生代新第三紀	1.30	1.10	0.25	0.20
S328	338	134	95	鬼	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	(3.40)	(2.00)	0.40	1.70
S329	331	134	95	S.X.46	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	1.45	1.20	0.30	0.50
S330	337	134	95	FX.3.35	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	3.05	1.43	0.50	2.40
S331	373	135	95	S.1.06 (S33)	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	2.35	1.30	0.55	1.80
S332	316	135	95	FX.2.27	石繩	中色頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	2.50	1.60	0.45	1.90
S333	334	135	95	FX.2.37	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	(2.00)	1.60	0.50	0.90
S334	329	135	95	Y.4.46	石繩	鬼脚石	鬼石不明	(1.60)	(0.60)	(0.20)	0.20	
S335	340	135	95	FX.2.25	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	5.10	2.85	0.75	6.20
S336	379	135	95	FX.2.27	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	6.65	3.45	0.75	13.00
S337	300	135	95	S.1.06	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	10.00	5.15	1.20	34.10
S338	329	135	95	11.X.94	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代安第一紀	6.00	2.20	1.20	8.60
S339	341	135	95	グリッド②空巣	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	4.25	2.45	0.70	5.00
S340	374	135	95	S.1.06 (S29)	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	7.80	2.50	0.90	14.50
S341	389	136	95	FX.2.28	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	4.20	3.65	1.40	18.30 カクラン
S342	342	136	95	S.1.29	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	3.70	7.50	0.95	18.20
S343	344	136	95	S.1.06	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	5.30	2.70	1.60	22.30
S344	348	136	95	グリッド②空巣	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	8.00	4.30	1.80	59.60
S345	346	136	95	FX.2.27	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	8.10	4.70	1.60	61.20
S346	375	136	95	トレナ (括弧不明)	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	6.15	2.50	1.20	17.80
S347	319	137	95	FX.2.26	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	6.00	2.60	1.00	19.60
S348	345	137	95	S.1.02	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	7.10	2.80	1.40	30.20
S349	347	137	95	S.1.28	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	4.90	2.30	1.40	26.10
S350	363	137	95	S.1.06	石繩	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	2.40	3.30	1.50	26.60
S351	329	137	95	FX.8.02	粘土物	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	5.80	4.30	0.65	16.30

番号	種類	時代	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	特記等項
S262	459 137 97 FX II.02	後奈良	真岩	吳羽山脈	新生代新第三紀	(8.10)	3.75 1.30 27.60 ゴカクラン
S263	350 137 97 FX II.03	後奈良	真岩	吳羽山脈	新生代新第三紀	3.10	3.90 0.90 14.40
S264	351 138 97 FX II.03	後奈良	真岩	吳羽山脈	新生代新第三紀	5.70	4.10 2.90 29.10
S265	352 138 97 FX II.03	後奈良	真岩	吳羽山脈	新生代新第三紀	4.20	3.30 1.20 16.30 Dカクラン
S266	363 138 97 FX II.04	後奈良	真岩	吳羽山脈	新生代新第二紀	4.70	3.30 1.00 10.40 Dカクラン
S267	381 138 97 FX II.05	後奈良	真岩	吳羽山脈	新生代新第三紀	2.20	3.80 0.70 6.90
S268	364 128 97 FX II.17	後奈良	真岩	吳羽山脈	新生代新第二紀	5.80	2.40 1.00 10.20 Gカクラン
S269	355 128 97 FX II.24	後奈良	真岩	吳羽山脈	新生代新第三紀	9.60	5.80 2.00 60.80
S270	380 128 96 FX II.27	後奈良	真岩	吳羽山脈	新生代新第一紀	4.10	6.60 1.30 32.10
S261	392 128 98 FX II.27	後奈良	真岩	吳羽山脈	新生代新第三紀	5.70	4.00 0.80 18.50
S262	356 129 98 FX II.27	後奈良	真岩	吳羽山脈	新生代新第三紀	2.00	4.10 1.85 19.00 Gカクラン
S263	367 129 98 FX II.28	後奈良	真岩	吳羽山脈	新生代新第二紀	1.50	1.35 0.45 1.10 Gカクラン
S264	352 129 98 FX II.28	後奈良	真岩	吳羽山脈	新生代新第三紀	4.90	2.86 1.10 15.30
S265	357 129 98 FX II.28	後奈良	真岩	吳羽山脈	新生代新第一紀	5.00	3.99 1.35 19.30
S266	366 129 98 FX II.36	後奈良	真岩	吳羽山脈	新生代新第三紀	3.60	3.95 1.65 22.20
S267	359 129 98 FX II.44	後奈良	真岩	吳羽山脈	新生代新第一紀	(5.70)	(4.45) 1.05 12.30
S268	360 129 98 FX II.46	後奈良	真岩	吳羽山脈	新生代新第二紀	3.80	2.95 0.70 7.10
S269	352 140 98 FX II.47	後奈良	真岩	吳羽山脈	新生代新第三紀	2.90	2.30 1.10 3.60
S270	361 140 98 FX II.47	後奈良	真岩	吳羽山脈	新生代新第二紀	3.65	2.80 0.95 11.80
S271	362 140 98 FX II.50	後奈良	真岩	吳羽山脈	新生代新第二紀	3.80	2.95 1.15 19.00
S272	309 140 98 地点不明	後奈良	真岩	吳羽山脈	新生代新第三紀	5.50	3.40 0.90 18.10
S273	363 140 99 FX II.05	Rフレ	真岩	吳羽山脈	新生代新第三紀	11.10	4.30 2.30 58.50
S274	364 140 99 FX II.27 Gカクラン Rフレ	ガラ	吳羽山脈	新生代新第三紀	2.90	3.30 0.80 4.50	
S275	366 140 99 FX II.27	後奈良	真岩	吳羽山脈	新生代新第一紀	4.60	4.00 1.00 14.00
S276	365 141 99 R.I.97	Rフレ	真岩	吳羽山脈	新生代新第二紀	5.95	<5.0 1.30 20.30
S277	394 141 99 立石不詳	Rフレ	真岩	吳羽山脈	新生代新第三紀	8.20	3.40 1.60 41.00
S278	367 141 99 FX II.02	Uフレ	真岩	吳羽山脈	新生代新第二紀	3.55	2.85 0.90 7.90
S279	366 141 99 FX II.28	Uフレ	真岩	吳羽山脈	新生代新第二紀	3.70	2.50 0.50 3.90
S280	368 141 99 FX II.35	Uフレ	真岩	吳羽山脈	新生代新第三紀	5.30	4.70 1.20 22.60
S281	369 141 99 FX II.36	Uフレ	真岩	吳羽山脈	新生代新第一紀	4.80	3.70 0.80 11.60
S282	370 141 99 FX II.57	Uフレ	真岩	吳羽山脈	新生代新第二紀	5.40	3.10 1.00 15.20
S283	371 142 99 R.I.97	Uフレ	真岩	吳羽山脈	新生代新第一紀	6.00	3.20 0.90 15.70
S284	372 142 100 FX II.16	Uフレ	真岩	吳羽山脈	新生代新第二紀	3.30	4.30 1.20 16.50
S285	373 142 100 FX II.17	Rフレ	真岩	吳羽山脈	新生代新第二紀	11.80	9.70 5.60 61.60
S286	383 142 100 FX II.27	石	吳羽山脈	新生代新第三紀	9.30	7.10 4.80 32.70	
S287	380 142 100 FX II.25	石	吳羽山脈	新生代新第一紀	6.10	5.50 2.95 26.20	
S288	383 142 100 FX II.26	石	吳羽山脈	新生代新第一紀	10.50	9.80 6.00 48.90	
S289	384 142 100 FX II.26	石	吳羽山脈	新生代新第一紀	10.70	9.30 6.40 94.30	
S290	387 142 100 Eカクラン砂凝層	石	吳羽山脈	新生代新第三紀	9.70	8.80 7.70 998.30	
S291	397 142 100 FX II.25	後奈良	真岩	北・山地あるいは 吳羽山脈	古生代後期	3.35	3.00 1.10 18.70
S292	398 142 100 FX II.04	後奈良	真岩	北・山地あるいは 吳羽山脈	古生代後期	2.20	3.00 1.10 9.00
S293	408 143 100 ピカクランの礫層	石	後奈良	吳羽山脈	新生代新第一紀	23.80	22.70 3.50 2080.00
S294	200 143 100 FX II.36	石	後奈良	吳羽山脈	新生代新第三紀	4.15	2.70 1.30 21.50
S295	403 143 100 Gカクラン	石	後奈良	吳羽山脈	新生代新第一紀	13.60	9.40 10.30 1133.20
S296	226 143 100 FX II.02	石	後奈良	吳羽山脈	新生代新第二紀	61.60	11.20 10.20 9490.00 Cカクラン
S297	399 144 101 FX II.28 Gカクラン	石	後奈良	吳羽山脈	古生代後期	7.10	1.00 0.80 12.70
S298	398 144 101 FX II.26	石	後奈良	吳羽山脈	新生代新第三紀	5.05	5.70 1.50 57.90
S299	410 144 101 FX II.25	石	後奈良	吳羽山脈	新生代新第三紀	3.50	2.60 0.70 5.20
S300	406 144 101 FX II.26	石	後奈良	吳羽山脈	新生代新第一紀	13.20	15.60 6.10 1664.00

VII 自然科学的分析

1 平成18年度放射性炭素年代測定(AMS測定)結果報告書

(株) 加速器分析研究所

(1) 遺跡の位置

大平野Ⅱ遺跡は、岩手県奥州市胆沢区若柳字大平野1-132（北緯 $39^{\circ} 05' 33''$ 、東経 $140^{\circ} 52' 03''$ ）に位置する。

(2) 遺跡の立地

前川左岸の河岸段丘上であり、同河川の支流である小寒沢により形成された扇状地上に立地する。

(3) 測定の意義

同一遺跡内に複数存在する各炉跡の使用年代と、焼土の形成年代を推定する。

(4) 測定対象試料

2号炉跡埋土10層から出土した木炭（No 1 : IAAA-61887）、5号炉跡埋土10層から出土した木炭（No 2 : IAAA-61888）、17号焼土埋土1層から出土した木炭（No 3 : IAAA-61889）、合計3点である。測定対象となる遺構が検出されたのは、縄文時代中期末や後期後葉の遺構検出面であるIV層およびその下位のV層である。

(5) 化学処理工程

(6) 測定方法

(7) 算出方法

* (5) ~ (7) は略

(8) 測定結果

2号炉跡埋土10層から出土した木炭（No 1 : IAAA-61887）が 580 ± 30 yrBP、5号炉跡埋土10層から出土した木炭（No 2 : IAAA-61888）が 610 ± 30 yrBP、17号焼土埋土1層から出土した木炭（No 3 : IAAA-61889）が 610 ± 30 yrBPの14C年代である。曆年校正年代（ 1σ ）から判断すれば、すべて14世紀の年代であり、鎌倉時代後半から室町時代初頭に相当する。

測定対象となる遺構が検出されたのは、縄文時代中期末や後期後葉の遺構検出面であるIV層およびその下位のV層であるが、14C年代はより新しい年代を示している。

各遺構の年代値が近似すること、化学処理・測定内容、炭素含有量に問題がないことから、妥当な年代であると考えられる。

2 平成20年度放射性炭素年代測定(AMS測定)結果報告書

(株) 加速器分析研究所

(1) 測定対象試料

大平野Ⅱ遺跡は、岩手県奥州市胆沢区若柳字大平野地内(北緯39°05'35"、東経140°52'05")に所在する。測定対象試料は、旧石器ブロックから出土した木炭2点(C-1:IAAA-82508、C-2:IAAA-82509)、41号土坑の埋土中から出土した木炭(C-3:IAAA-82510)、48号土坑の埋土中から出土した木炭(C-4:IAAA-82511)、49号土坑の埋土上～中位から出土した木炭(C-5:IAAA-82512)、64号土坑の埋土中から出土した木炭(C-6:IAAA-82513)、合計6点である。

*(2)～(6)は略。測定結果のみ掲載

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法 (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-82508	C-1	遺構: 旧石器ブロック	木炭	AAA	-24.10 ± 0.83	3,460 ± 30	65.02 ± 0.28
IAAA-82509	C-2	遺構: 旧石器ブロック	木炭	AAA	-31.35 ± 0.56	3,360 ± 30	65.81 ± 0.26
IAAA-82510	C-3	遺構: 41号土坑 層位: 埋土中	木炭	AAA	-23.84 ± 0.80	4,090 ± 40	60.07 ± 0.27
IAAA-82511	C-4	遺構: 48号土坑 層位: 埋土中	木炭	AAA	-28.02 ± 0.80	3,470 ± 40	64.93 ± 0.31
IAAA-82512	C-5	遺構: 49号土坑 層位: 埋土上～中位	木炭	AAA	-23.86 ± 0.62	3,700 ± 30	63.06 ± 0.26
IAAA-82513	C-6	遺構: 64号土坑 層位: 埋土中	木炭	AAA	-24.99 ± 0.80	3,450 ± 30	65.08 ± 0.27

[#2676]

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		曆年校正用(yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-82508	3,440 ± 30	65.14 ± 0.25	3,458 ± 34	1876BC - 1842BC (20.1%) 1820BC - 1798BC (11.2%) 1781BC - 1737BC (29.1%) 1711BC - 1696BC (7.8%)	1881BC - 1691BC (95.4%)
IAAA-82509	3,470 ± 30	64.96 ± 0.25	3,360 ± 32	1727BC - 1721BC (2.8%) 1691BC - 1614BC (65.4%) 2847BC - 2814BC (14.3%) 2865BC - 2805BC (20.2%)	1740BC - 1604BC (83.8%) 1587BC - 1535BC (11.6%)
IAAA-82510	4,070 ± 30	60.22 ± 0.25	4,093 ± 36	2692BC - 2690BC (0.8%) 2678BC - 2576BC (53.1%)	2761BC - 2566BC (70.7%) 2525BC - 2496BC (4.5%)
IAAA-82511	3,520 ± 40	64.53 ± 0.28	3,469 ± 37	1877BC - 1841BC (23.5%) 1826BC - 1795BC (17.9%) 1783BC - 1742BC (26.8%)	1887BC - 1691BC (95.4%)
IAAA-82512	3,690 ± 30	63.21 ± 0.25	3,703 ± 33	2138BC - 2111BC (19.0%) 2104BC - 2036BC (49.2%)	2200BC - 2016BC (92.7%) 1996BC - 1980BC (2.7%)
IAAA-82513	3,450 ± 30	65.09 ± 0.24	3,450 ± 32	1872BC - 1845BC (16.8%) 1812BC - 1803BC (5.0%) 1777BC - 1734BC (32.7%) 1715BC - 1694BC (13.8%)	1881BC - 1688BC (95.4%)

[参考値]

3 平成21年度放射性炭素年代測定(AMS測定)結果報告書

(株) 加速器分析研究所

(1) 測定対象試料

大平野II遺跡は、岩手県奥州市胆沢区若柳字大平野地内(北緯39°05'34"、東経140°52'04")に所在する。測定対象試料は、84号土坑出土の炭化種子と見られるもの(No.1:IAAA-91976)1点である。

* (2) ~ (5) は省略

(6) 測定結果

84号土坑出土試料の14C年代は 4120 ± 30 yrBPである。縄文時代中期末葉頃に相当する。
炭素含有率は60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

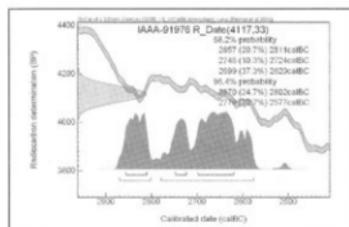
測定番号	試料名	採取場所		試料 形態	処理 方法	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
		道場: 84号土坑	層位: 塚土中			(AMS)	Libby Age(yrBP)	pMC(%)
IAAA-91976	No.1			種子?	AaA	-23.82 ± 0.66	4,120 ± 30	59.89 ± 0.25

[#3292]

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		曆年較正用(yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-91976	4,100 ± 30	60.04 ± 0.23	4,117 ± 33	2857BC - 2811BC (20.7%) 2748BC - 2724BC (10.3%) 2699BC - 2620BC (37.3%)	2870BC - 2802BC (24.7%) 2779BC - 2577BC (70.7%)

[参考値]

* 参考文献は平成18年度に同じ



[参考] 曆年較正年代グラフ

IX 総括

1 時代別の様相

(1) 旧石器時代

調査区南東部IV区において、後期旧石器時代終末期の石器が見つかった。層準的には、縄文時代の遺物が出土する層と同じ層から見つかっており、このことから山側の緩斜面から流れ込んだものと判断した。これらの石器は、本遺跡と併行して調査を行っていた下嵐江遺跡の石器群と時期をほぼ同じとするものであるが、両遺跡の関連については今後検討したい。

(2) 縄文時代

縄文時代では、小寒沢南岸に中期後葉から後期中葉にかけての堅穴住居跡と土坑群が確認された。この中でも外周に礫を配する住居跡や、大きめの礫を入れ込まれた墓と思われる土坑が多数認められるなど、何かこの集落全体に祭祀的な様相が窺われる。前者の住居跡について、それに後続する一般的な半地下式の掘り込みを有する堅穴住居も近くに存在することから、多少の時期差はあるものの、両者には明確な使い分けがあったと考えられる。

土器は、早期・前期前葉・後葉、中期中葉から末葉、後期初頭から中葉、後期後葉、晚期後葉などの時期のものが出土した。早期以外では、小寒沢氾濫部からの出土が8割を越す。これらは磨滅した網片が多く、復元できないものが大半であった。造構に伴う遺物は、前期後葉・中期初頭から中葉、中期後葉から後期中葉が主体となる。石器では、草創期に属する有舌尖頭器の欠損品が2点出土しており、縄文時代でも古い段階の遺物が確認された。

(3) 弥生時代

調査区中央部の山裾側で弥生時代後期の鉢形土器が1点出土した。天王山式、赤穴式に比定されよう。造構は確認できずまた遺物も少ないとから、その広がりはあまり大きくないものと思われる。

(4) 中世

カマド状造構が17基確認されている。この造構から出土した炭化物の放射性炭素測定(AMS測定)で、14世紀の年代が複数出ているのが根拠である。これらの一帯に伴って土師質土器が若干出土しているが、土師器とは異なり器表がかなりガサガサとした質感をもつ。これ以外の遺物は確認されなかつた。

(5) 近世以降

調査区中央部山側に掘立柱建物が1棟検出された。間尺などを見ても詳細な年代は特定出来ない。このほか、現代の炭窯が2基確認された。うち1基は、窯内の温度を高くできるよう壁に礫が用いられる白炭窯と思われる。もう1基は半地下式の掘り込みを有する黒炭窯である。いずれも、煙出し部分にタール状の物質が付着している。何度か触れたが、その後現代には釣り堀、テニスコート、食堂などが付属するレジャー施設(名称:鹿の里?)が造成されたとのことである。現場作業員の一人か

らだったか。養豚場もあったようにも聞いたが定かではない。

日の前には尺ヤマメがいつも簡単に手に入る前川が流れ、そしてまわりを見回すと山菜やキノコが豊富に採れる山々が聳え立つ。旧石器時代の終わりから現代まで、ここに暮らす人々の生活の痕跡は色濃く残されていた。この大平野地区は、今後もダム底に沈むことなく新たな歴史を刻むことになるが、豊かな自然がいつまでも消えないことを願う。

2 配石住居について

最後に「縄文時代中期末葉から後期初頭に属する周囲に礫を巡らす住居」について述べる。以降、これらを配石住居と呼ぶ。

まず、本遺跡における配石住居と周辺の遺構の特徴について。

- ① 円形のプランに沿って大小複数の礫が配されたと思われる住居を3棟検出。
- ② 3棟とも石閉炉様の石組みをもつが、いずれも焼土が形成されない。
- ③ これに後続する（後期中葉）一般的な（半地下式）の住居が存在する。

岩手県内における配石住居の検出例は、まず花巻市（旧東和町）安俵6区V遺跡が挙げられる。ここで確認された住居は石圍炉を持つ平地式のタイプで、平面形状には円形と方形があり、中には明瞭な張り出し部が確認されているものもある。また、県外では秋田県北秋田市の深渡遺跡に、周囲に配石を廻らせた住居とそれと同時期と考えられる円形堅穴住居の両者が存在する事例がある。

明瞭ではないが平地式とは言い難いわずかな掘り込みを有する点、そして方形の住居が存在しないことから、安俵6区遺跡と本遺跡の事例は相違点も見受けられる。一方、配石住居と一般的な半地下式住居が同時存在する北秋田市の事例は、両者の使い分けを想定する上で参考となるものである。

本遺跡の配石住居では、上記②に挙げたように炉内の燃焼部に焼土の発達がほとんど認められない。これについては、安俵6区遺跡でも同様の指摘がなされている（瀬川：2000）。燃焼部焼土の発達が悪い炉は使用された期間が短いと解釈されることがあるが、その点から言えば、やはり配石住居と通常の掘り込みを持つ住居とは使われ方が異なると考えた方が良いのではないか。そして、深渡遺跡に認められた二つの形態の住居が同時に存在する状況は、更にそれを裏付けることはならないか。

石井寛は、礫沿いの敷石・配石を「周石型」と呼び（石井：2003）、特に東北地方北部における「周石型」はそれ自体で完結し、その出自は東北南部の住居址に求められたとした。配石を縦横的に「環状配石壁」などの祭祀遺構、あるいは特殊な遺構として扱う傾向に対して、あくまでも関東の敷石住居や柄鏡形住居の系譜を踏むものと考えた。

本遺跡の事例をどう結論づけるか。先に述べたように、半地下式の構造をもつ堅穴住居がこれらと同時存在する可能性があること、いずれの炉にも使用された痕跡が薄いことなどは、居住空間としての住居の機能を超えた何かがそこにあるような気がしてならない。

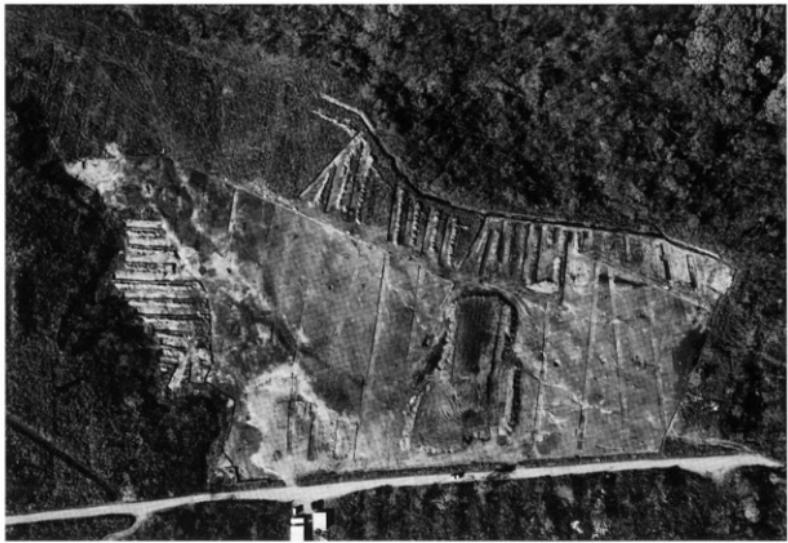
参考・引用文献

- * (財) 岩文振は岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書の略
- 石井 寛 2003 「東北地方における繩石附帶施設を有する住居址とその評価－中期最終末期以降を対象として－」『縄文時代』第14号 縄文時代文化研究会
- 稻村光嗣 2008 「門前式土器」「絶覧 縄文土器」(株)アム・プロモーション
- 小保内裕之 2008 「陸奥大木系土器(楕円形・最花式・大木10式併行土器)」「絶覧 縄文土器」(株)アム・プロモーション
- 金子昭彦 1993 『新山権現社遺跡発掘調査報告書』(財)岩文振第188集
- 北山 敏 2007 『里古墳遺跡発掘調査報告書』(財)岩文振第499集
- 興野義一 1969 「大木式土器理解のために〈V〉」『考古学ジャーナル』No.32 ニューサイエンス社
- 熊谷常正 1986 「門前式の検討」「岩手県立博物館研究報告」第5号
- 小林圭一 1999 「東北地方 後期(縦付土器)」「縄文時代』10 縄文時代文化研究会
- 鈴木义彦 2009 「且東北地方の縄文集落の社会組織と村落」「集落の変遷と地域性」シリーズ縄文集落の多様性1 篠山閣
- 鈴木克彦 2001 「第6章 東北地方中・南部の縄文後期の上器型式」『北日本の縄文後期土器編年の研究』雄山閣出版
- 瀬川司男はか 2000 「安佐後6区V遺跡発掘調査報告書－遺構編－」 東和町文化財調査報告書第26号 東和町教育委員会
- 高橋圭一 1988 「仙台湾周辺の縄文時代後期後葉から晩期初頭にかけての編年動向」「古代』第85号 早稻田大学考古学会
- 酒清二郎・北村忠昭 2008 「戸仲遺跡第1次・宇曾沢遺跡第2次発掘調査報告書」(財)岩文振第519集
- 丹波 茂 1989 「中期大木上器様式」「縄文土器大綱1」 小学館
- 中野幸大 2008 「大木7a~8b式土器」「絶覧 縄文土器」(株)アム・プロモーション
- 星 雅之・菅野紀子 2009 「川口A遺跡第6次発掘調査報告書」(財)岩文振第525集
- 丸山浩治・菅野紀子 2009 「戸仲遺跡第3次発掘調査報告書」(財)岩文振第559集
- 村上 扰 2006 「大西遺跡発掘調査報告書」(財)岩文振第479集
- 村木 敬 2010 「ダム建設に伴う旧石器時代遺跡」「考古学ジャーナル』No.604 ニューサイエンス社
- 森 幸彦 2008 「大木9-10式土器」「絶覧 縄文土器」(株)アム・プロモーション
- 山本暉久 2000 「外縁部の楕円形(敷石)住居」「縄文時代』第11号 縄文時代文化研究会

写 真 図 版



遺跡遠景（南から）



平成18年度調査区全景（上が北西）



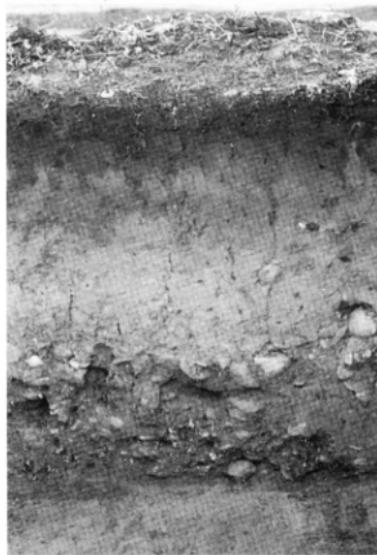
調査前風景（東から）



調査前風景（南西から）



基本土層北（南から）



基本土層中央（東から）



基本土層旧小寒沢左岸（北東から）

写真図版2 調査前風景、基本土層



平面（南から）



断面B-B'（南から）

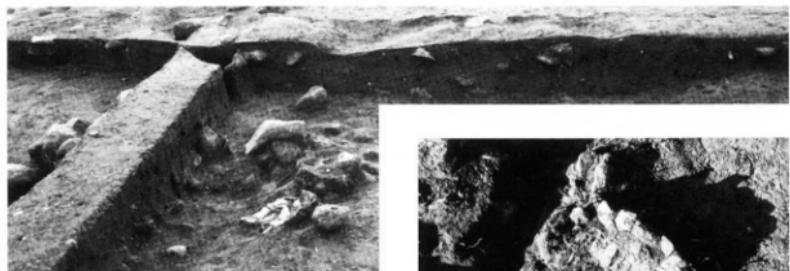


断面A-A'（西から）と遺物出土状況

写真図版3 1号竖穴住居状遺構



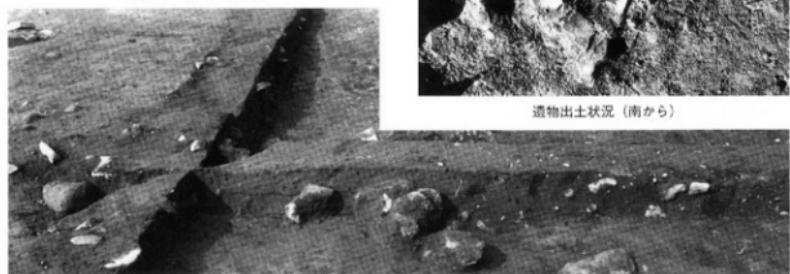
平面（南から）



断面A-A'（東から）



遺物出土状況（南から）



断面B-B'（南から）

写真図版4 2号竪穴住居状遺構



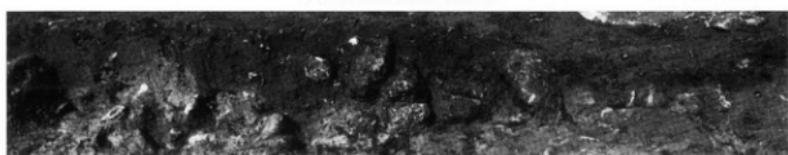
1号土器埋設遺構平面（東から）



1号土器埋設遺構断面（東から）



2号土器埋設遺構平面（東から）

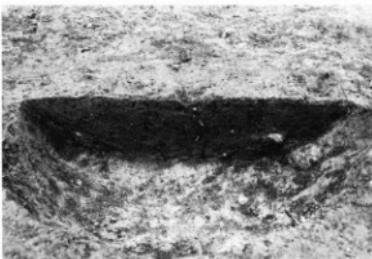


2号土器埋設遺構断面（南から）

写真図版 5 1・2号土器埋設遺構



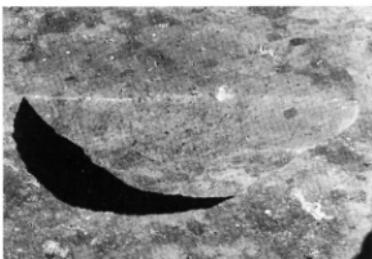
1号土坑平面（南西から）



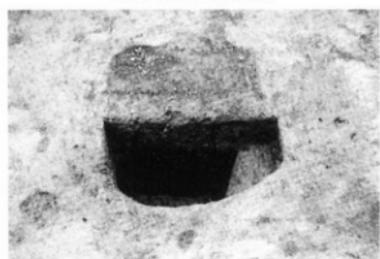
1号土坑断面（南西から）



2号土坑平面（南西から）



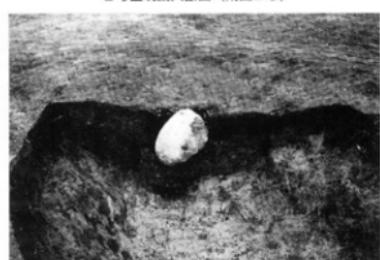
2号土坑断面（南西から）



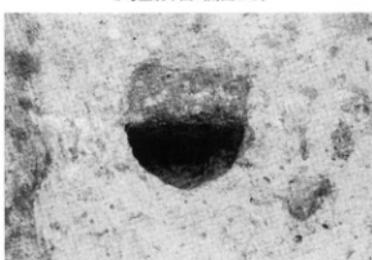
2号土坑副穴断面（南西から）



3号土坑平面（南西から）



3号土坑断面（南西から）



3号土坑副穴断面（南西から）

写真図版6 1～3号土坑



4号土坑平面（南西から）



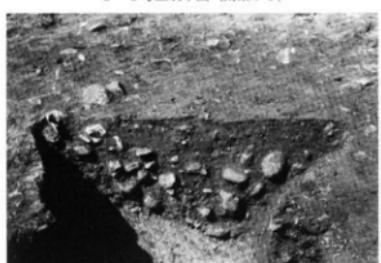
4号土坑断面（南西から）



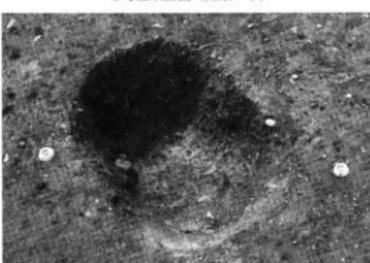
5・9号土坑平面（南東から）



5号土坑断面（南東から）



9号土坑断面（東から）



6号土坑平面（北東から）

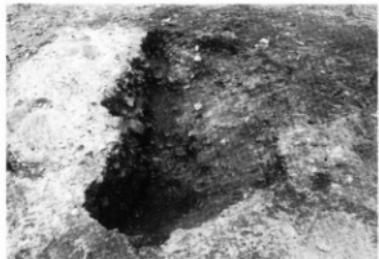


7号土坑平面（南東から）



7号土坑断面（南西から）

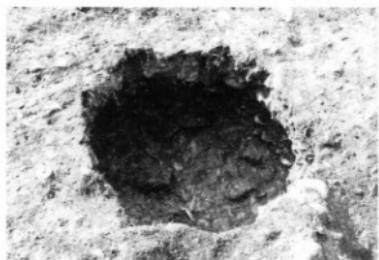
写真図版7 4～7・9号土坑



8号土坑平面（南東から）



8号土坑断面（南西から）



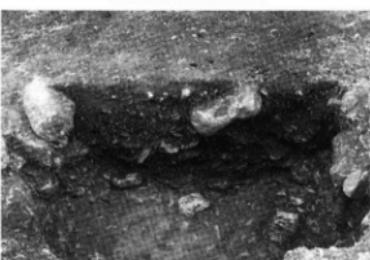
10号土坑平面（南から）



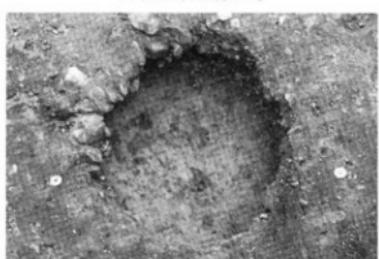
10号土坑断面（南西から）



11号土坑平面（東から）



11号土坑断面（北東から）

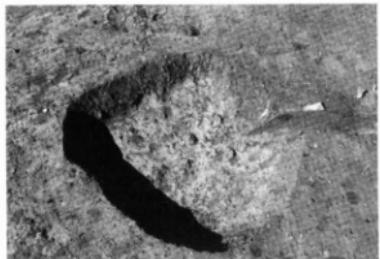


12号土坑平面（南東から）

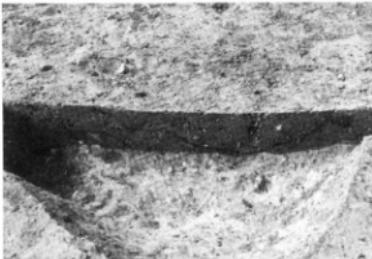


12号土坑断面（南東から）

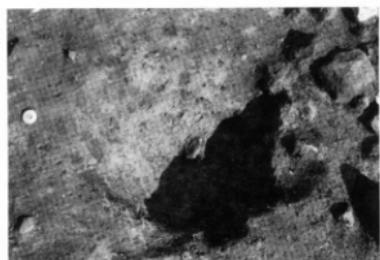
写真図版8 8・10~12号土坑



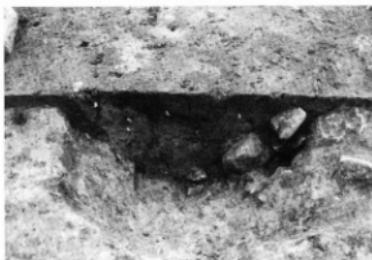
13号土坑平面（南東から）



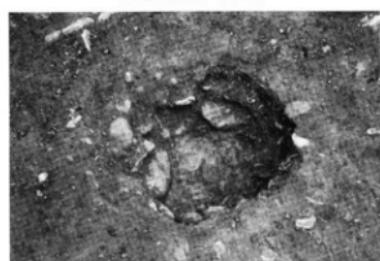
13号土坑断面（南東から）



14号土坑平面（西から）



14号土坑断面（西から）



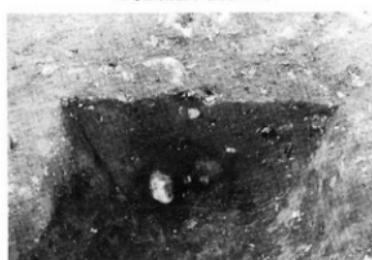
15号土坑平面（南から）



15号土坑断面（南東から）

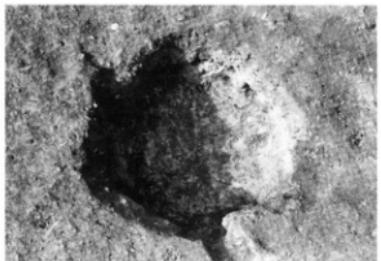


16号土坑平面（南から）

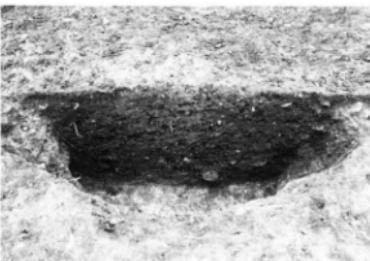


16号土坑断面（南から）

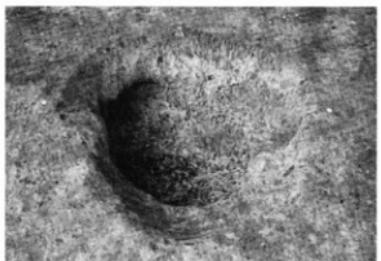
写真図版9 13~16号土坑



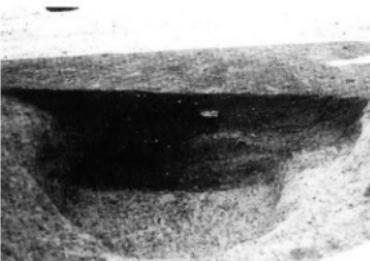
17号土坑平面（南から）



17号土坑断面（南西から）



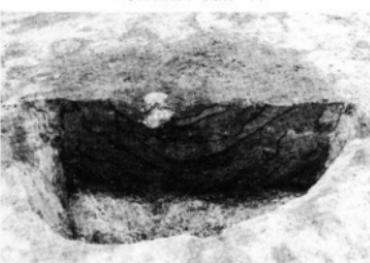
18号土坑平面（南東から）



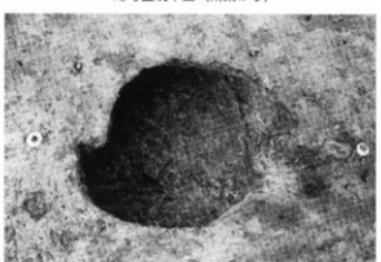
18号土坑断面（南東から）



19号土坑平面（南東から）



19号土坑断面（南東から）



20号土坑平面（南西から）



20号土坑断面（南西から）

写真図版10 17~20号土坑



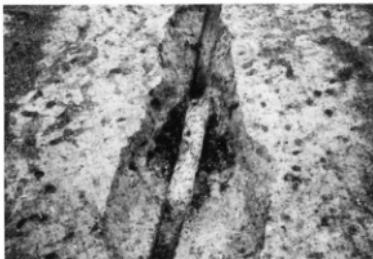
1号炉跡平面（南東から）



1号炉跡断面B-B'（南東から）



2号炉跡平面（北東から）



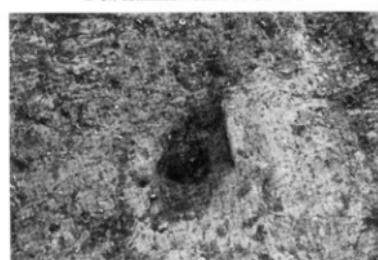
2号炉跡炭化物露出状況（北東から）



2号炉跡焼土露出状況平面（北から）



2号炉跡断面（西から）



3号炉跡平面（南西から）

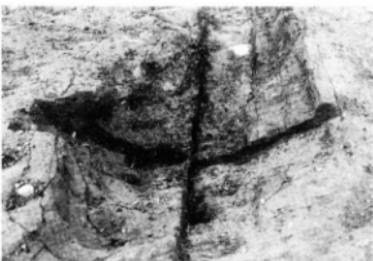


3号炉跡断面（南東から）

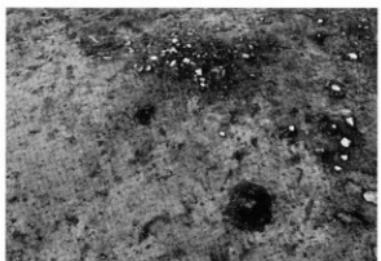
写真図版11 1～3号炉跡



3号炉跡焼土断面（南東から）



3号炉跡焼土断面（南西から）



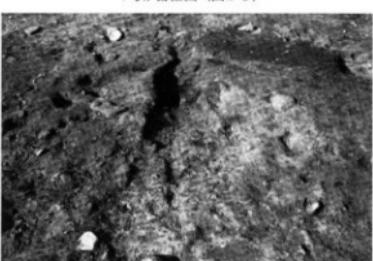
4号炉跡検出状況（南西から）



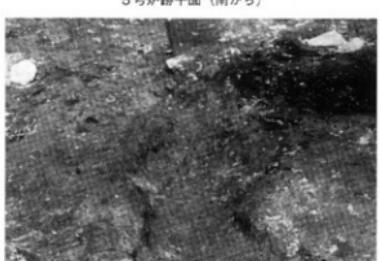
4号炉跡断面（西から）



5号炉跡平面（南から）



5号炉跡焼土露出状況（南から）



5号炉跡断面B-B'（南から）

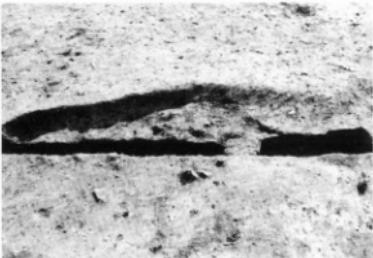


5号炉跡断面A-A'（西から）

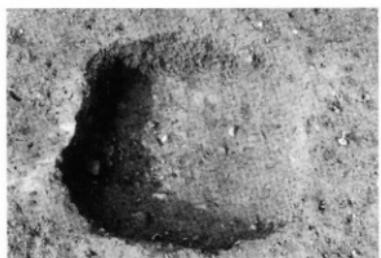
写真図版12 3～5号炉跡



6号炉跡平面（南西から）



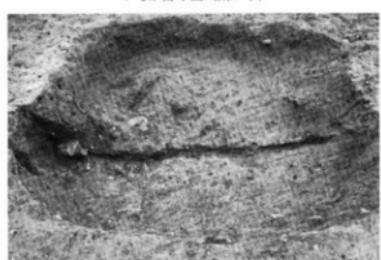
6号炉跡断面（北西から）



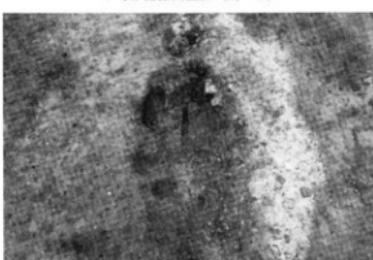
7号炉跡平面（南から）



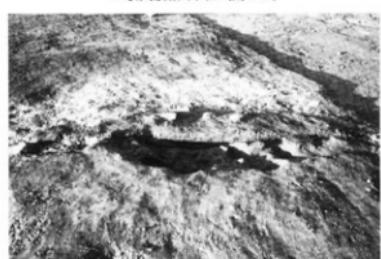
7号炉跡断面上位（南から）



7号炉跡断面下位（南から）



8号炉跡平面（東から）



8号炉跡断面A-A'（南から）



8号炉跡断面B-B'（東から）

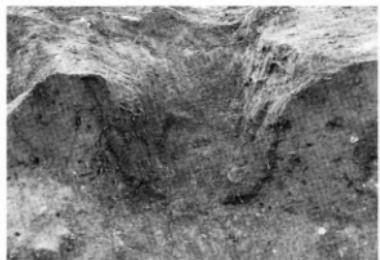
写真図版13 6～8号炉跡



9号炉跡平面（北から）



9号炉跡断面A-A'（東から）



9号炉跡断面B-B'（北から）



10号炉跡平面（北東から）



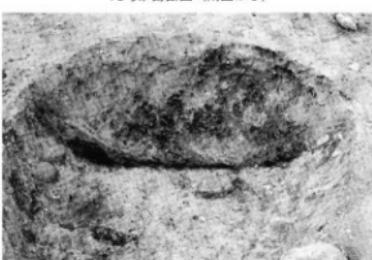
10号炉跡断面（北東から）



10号炉跡断面（南西から）

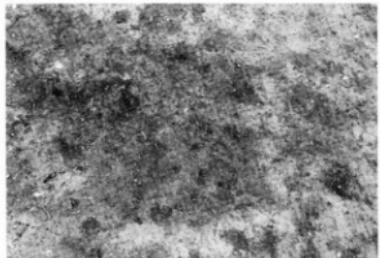


11号炉跡断面上位（南東から）



11号炉跡断面下位（南東から）

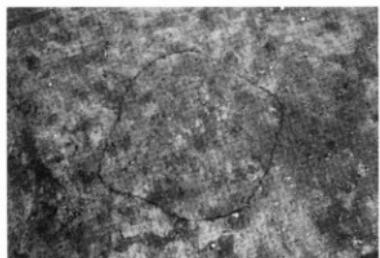
写真図版14 9~11号炉跡



1号焼土遺構検出状況（南西から）



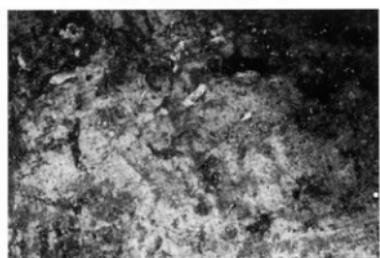
1号焼土遺構断面（南西から）



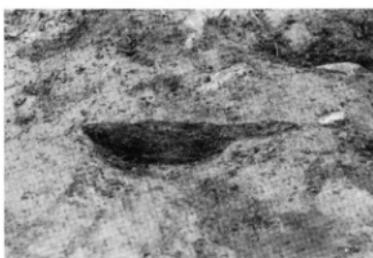
2号焼土遺構検出状況（南から）



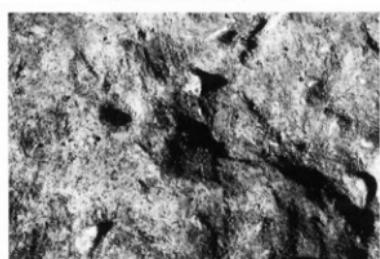
2号焼土遺構断面（南西から）



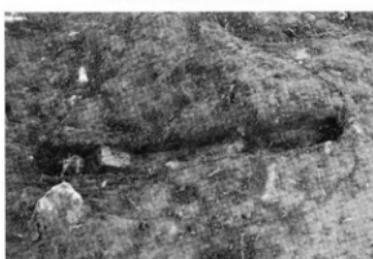
3号焼土遺構検出状況（東から）



3号焼土遺構断面（北東から）

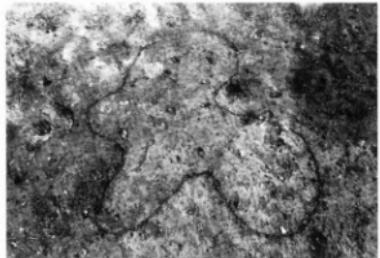


4号焼土遺構検出状況（東から）



4号焼土遺構断面（南西から）

写真図版15 1～4号焼土遺構



5号焼土遺構検出状況（北東から）



5号焼土遺構断面（南から）



7号焼土遺構検出状況（南から）



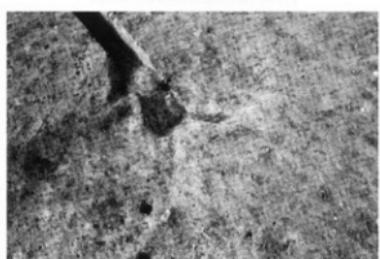
7号焼土遺構断面（西から）



8号焼土遺構検出状況（南東から）



8号焼土遺構断面（西から）



9号焼土遺構検出状況（南から）

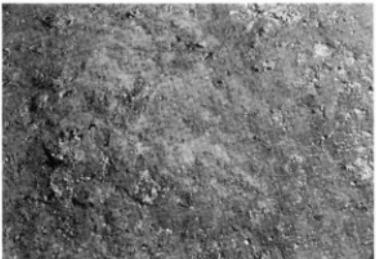


9号焼土遺構断面（南東から）

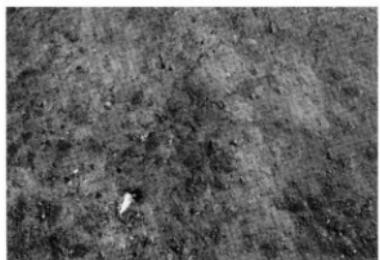
写真図版16 5・7～9号焼土遺構



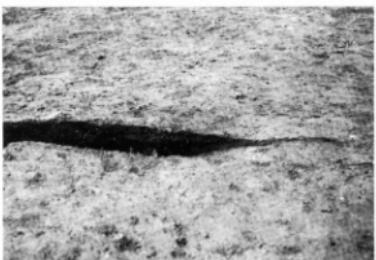
10号焼土遺構検出状況（南から）



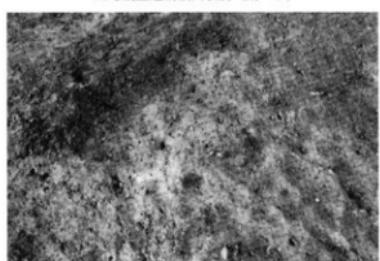
11号焼土遺構検出状況（南西から）



12号焼土遺構検出状況（南から）



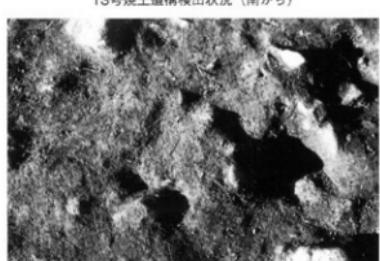
12号焼土遺構断面（南東から）



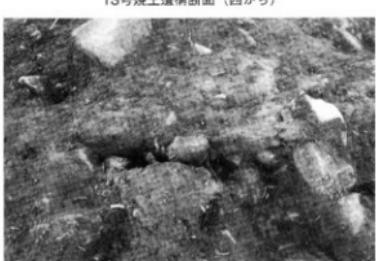
13号焼土遺構検出状況（南から）



13号焼土遺構断面（西から）

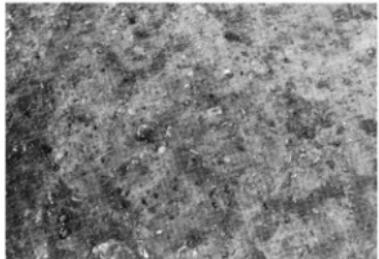


15号焼土遺構検出状況（南から）



15号焼土遺構断面（南東から）

写真図版17 10~13・15号焼土遺構



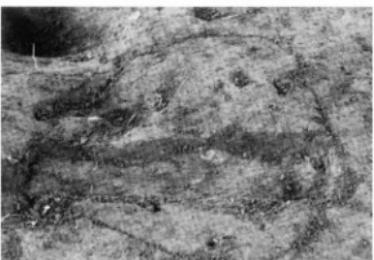
16号焼土造構検出状況（南東から）



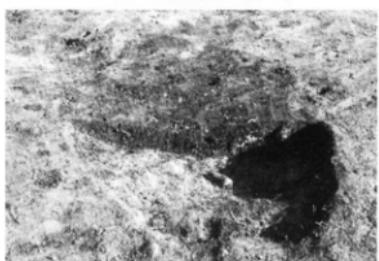
16号焼土造構断面（東から）



17号焼土造構検出状況（東から）



17号焼土造構断面（南東から）



1号焼土等廃棄造構断面（南から）



1号焼土等廃棄造構平面（南から）

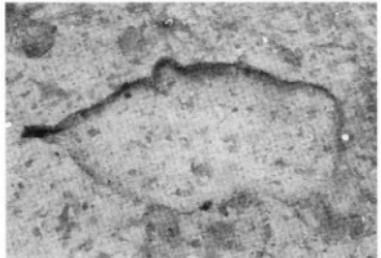


2号焼土等廃棄造構検出状況（北東から）



2号焼土等廃棄造構断面（西南から）

写真図版18 16・17号焼土造構、1・2号焼土等廃棄造構



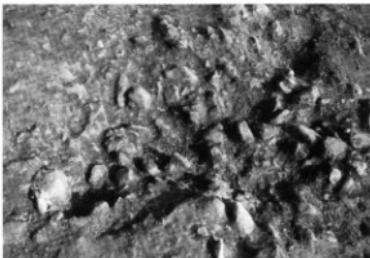
2号焼土等廃棄遺構平面（南西から）



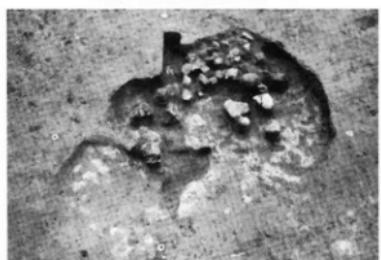
3号焼土等廃棄遺構露出状況（南から）



3号焼土等廃棄遺構断面（西から）



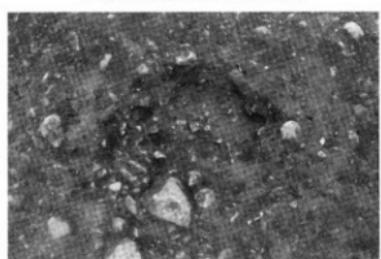
3号焼土等廃棄遺構平面（西から）



4号焼土等廃棄遺構平面（南西から）



4号焼土等廃棄遺構断面（南西から）



5号焼土等廃棄遺構平面（南西から）



5号焼土等廃棄遺構断面（南西から）

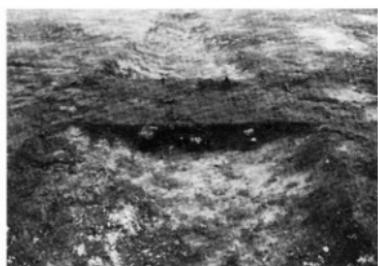
写真図版19 2～5焼土等廃棄遺構



1号溝跡平面（東から）



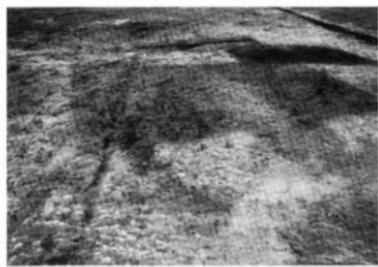
2号溝跡平面（南西から）



1号溝跡断面B-B'（西から）



2号溝跡断面（南西から）



4号溝跡平面（南東から）



4号溝跡断面B-B'（南東から）

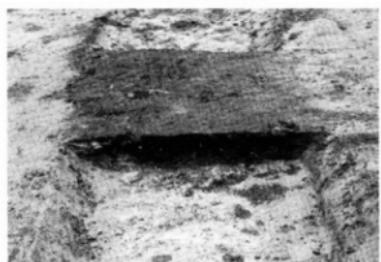
写真図版20 1・2・4号溝跡



3号溝跡平面（南西から）



5号溝跡平面（南西から）



3号溝跡断面 A-A'（西から）



5号溝跡断面（南西から）

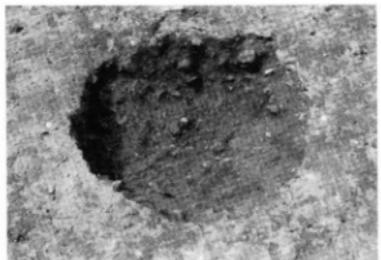


遺跡遺景（南から）

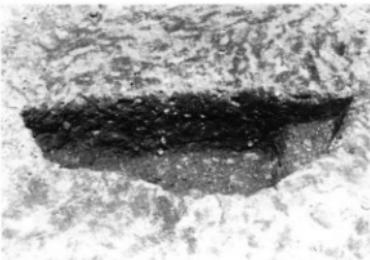


1号掘立柱建物跡平面（東から）

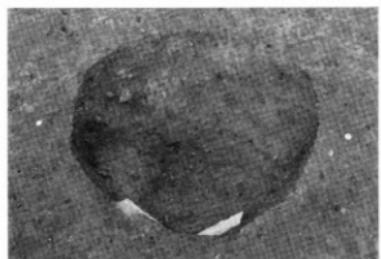
写真図版22 平成19年度航空写真、1号掘立柱建物跡



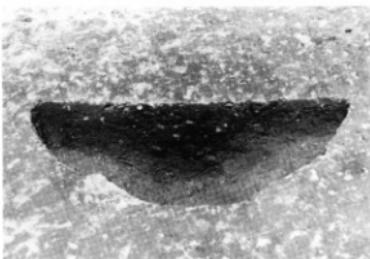
21号土坑平面（南東から）



21号土坑断面（南東から）



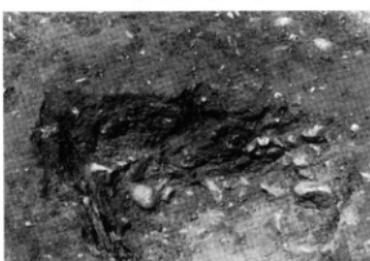
22号土坑平面（南から）



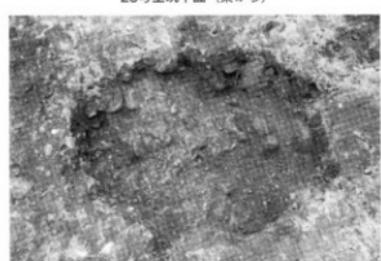
22号土坑断面（南から）



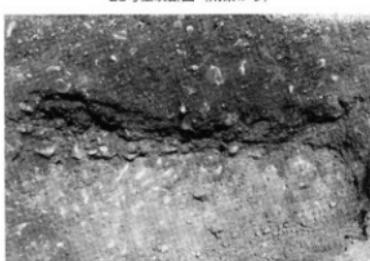
23号土坑平面（東から）



23号土坑断面（南東から）

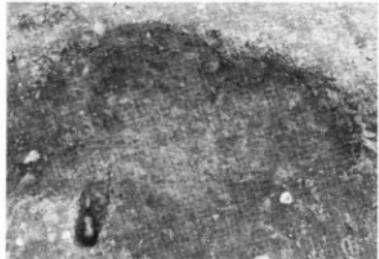


24号土坑平面（南から）

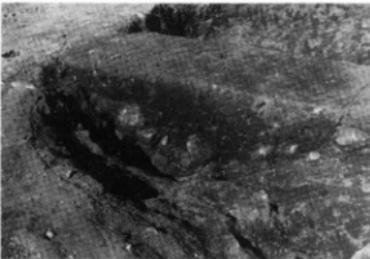


24号土坑断面（南東から）

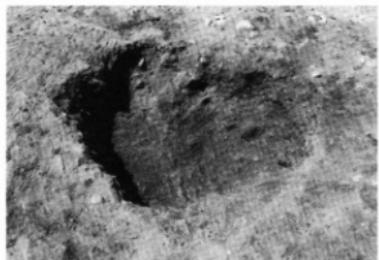
写真図版23 21~24号土坑



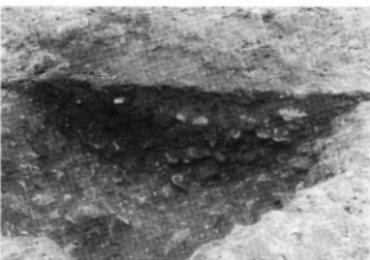
26号土坑平面（東から）



25号土坑断面（南西から）



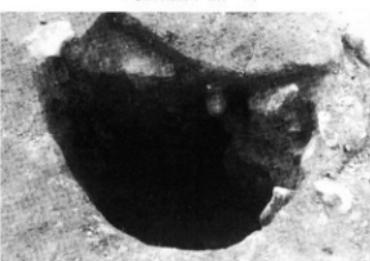
26号土坑平面（北から）



26号土坑断面（東から）



27号土坑平面（北東から）



27号土坑断面（北東から）

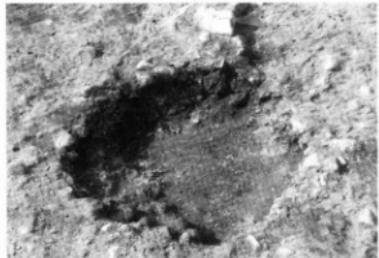


28号土坑平面（南東から）

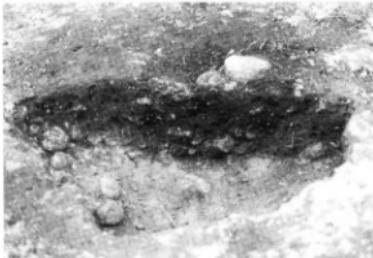


28号土坑断面（南東から）

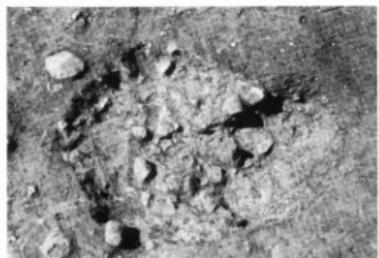
写真図版24 25~28号土坑



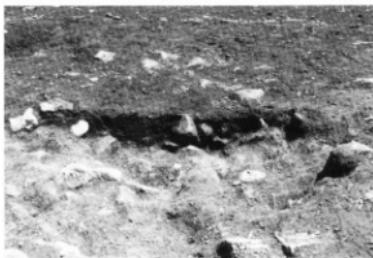
29号土坑平面（南東から）



29号土坑断面（南東から）



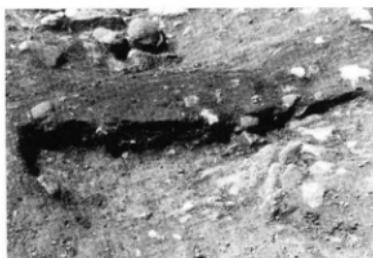
30号土坑平面（南から）



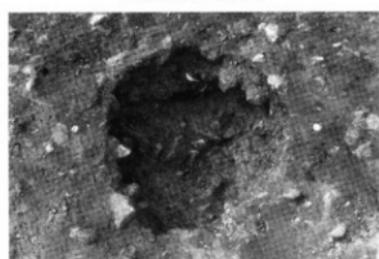
30号土坑断面（西から）



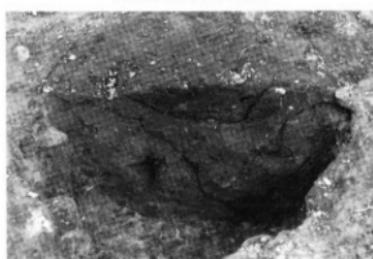
31号土坑平面（南から）



31号土坑断面（北東から）

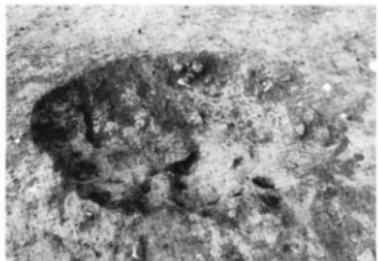


32号土坑平面（南東から）



32号土坑断面（南東から）

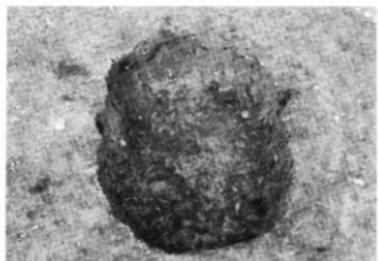
写真図版25 29~32号土坑



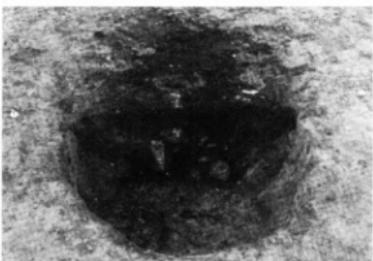
33号土坑平面（南から）



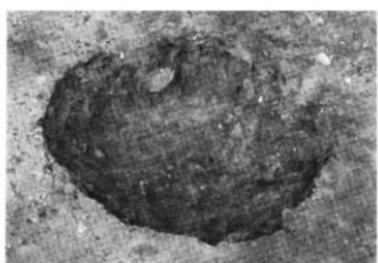
33号土坑断面（南から）



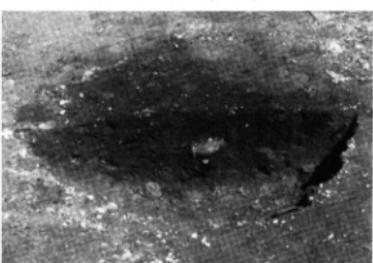
34号土坑平面（南から）



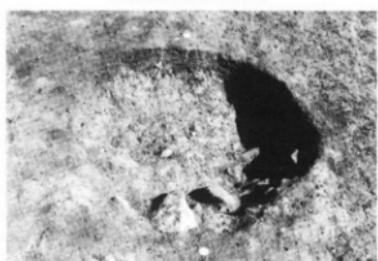
34号土坑断面（南から）



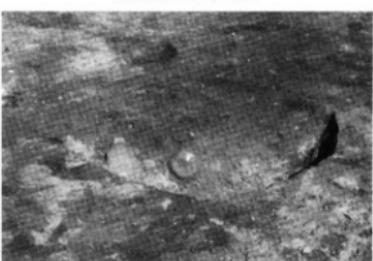
35号土坑平面（南から）



35号土坑断面（南から）

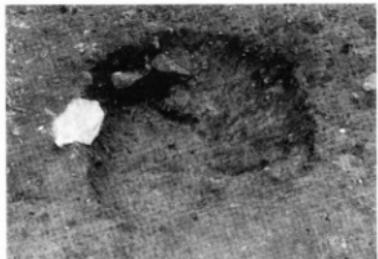


36号土坑平面（西から）

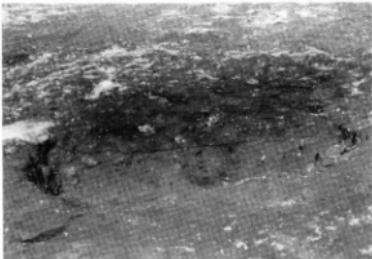


36号土坑断面（南から）

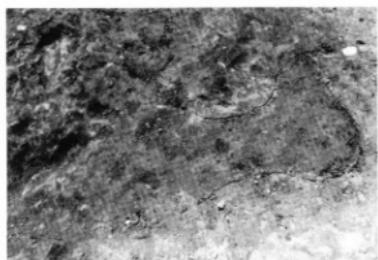
写真図版26 33~36号土坑



37号土坑平面（南から）



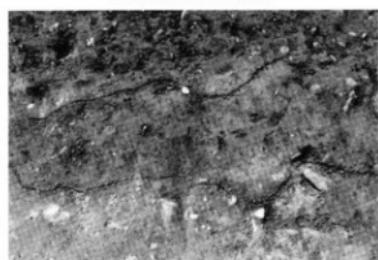
37号土坑断面（南から）



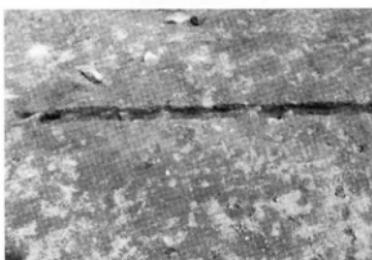
12号炉跡検出状況（東から）



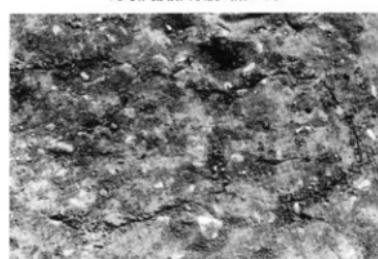
12号炉跡断面（南西から）



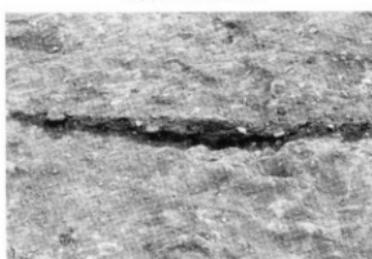
13号炉跡検出状況（東から）



13号炉跡断面（東から）



14号炉跡検出状況（東から）

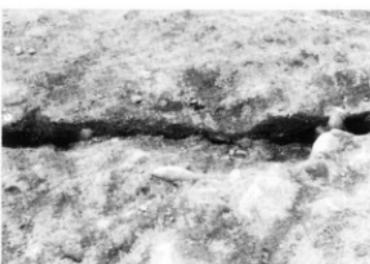


14号炉跡断面（南西から）

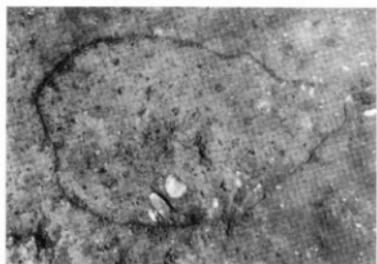
写真図版27 37号土坑、12~14号炉跡



15号炉跡検出状況（東から）



15号炉跡断面（東から）



16号炉跡検出状況（南から）



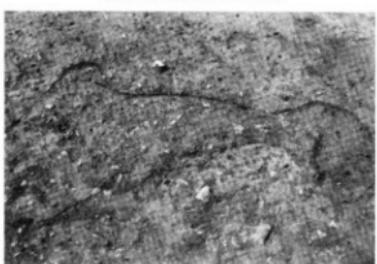
16号炉跡断面（南から）



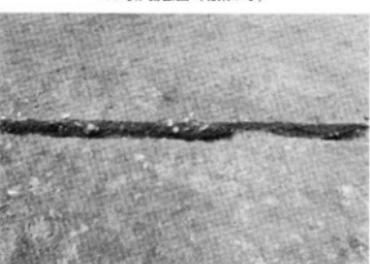
17号炉跡検出状況（北東から）



17号炉跡断面（北東から）



18号炉跡検出状況（南東から）

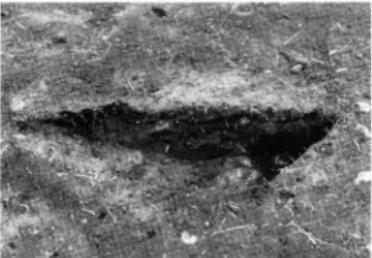


18号炉跡断面（南東から）

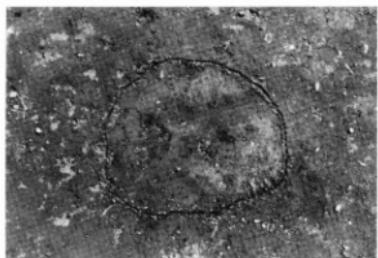
写真図版28 15~18号炉跡



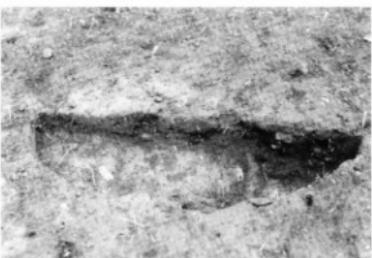
18号焼土遺構検出状況（南から）



18号焼土遺構断面（東から）



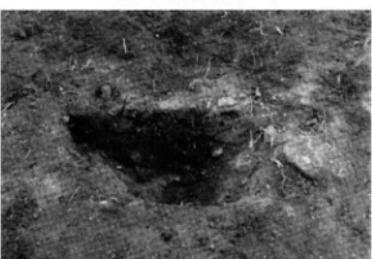
19号焼土遺構検出状況（南から）



19号焼土遺構断面（南東から）



20号焼土遺構検出状況（南から）



20号焼土遺構断面（南東から）



BX区基本層序



作業風景（西から）



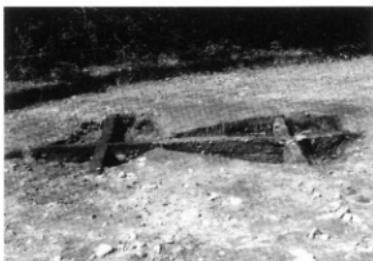
1号炭窑跡全景（南西から）



1号炭窑跡断面（南西から）



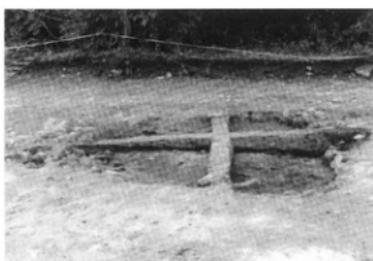
1号炭窑跡全景（南から）



1号炭窑跡断面（南から）



2号炭窑跡全景（南から）



2号炭窑跡断面（東から）

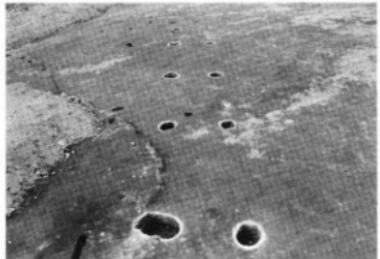


2号炭窑跡断面（南から）

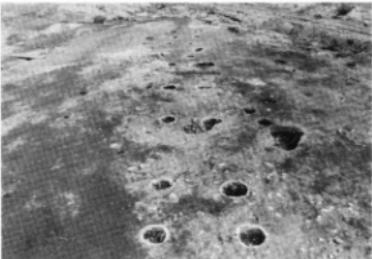


3号炭窑跡断面（南東から）

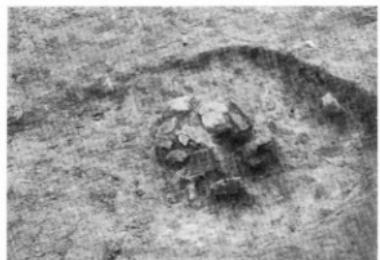
写真図版30 1～3号炭窑跡



1・2号柱列（東から）



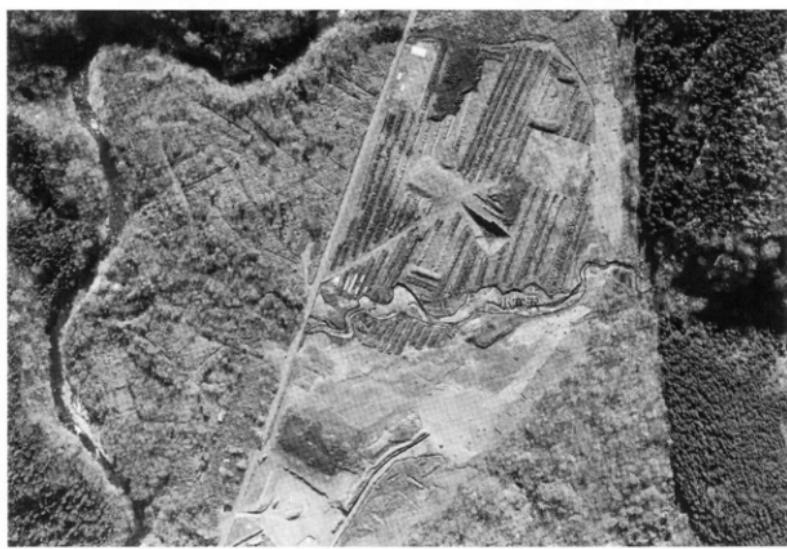
3～6号柱列（東から）



遺物出土状況（北から）

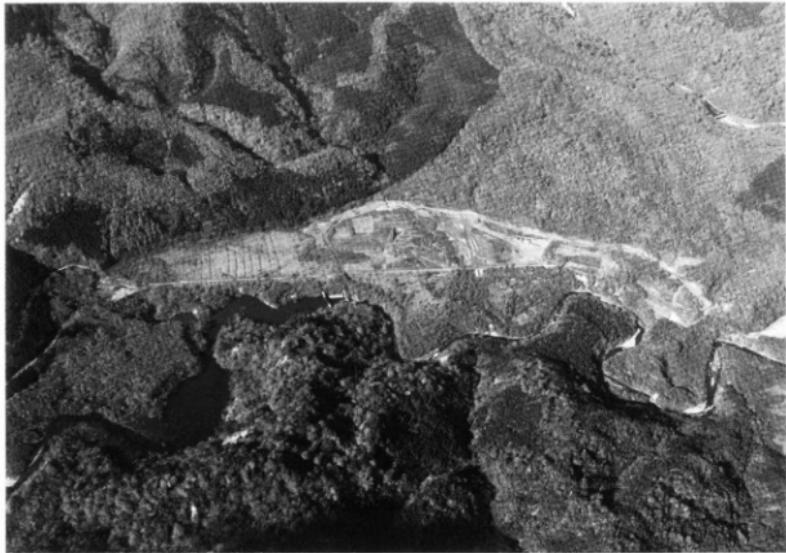


小塞沢の浸食の様子（西から）



平成19年度調査区全景（上がほば南）

写真図版31 1～6号柱列ほか



遺跡遠景（南東から）



平成20年度調査区Ⅰ・Ⅲ区全景

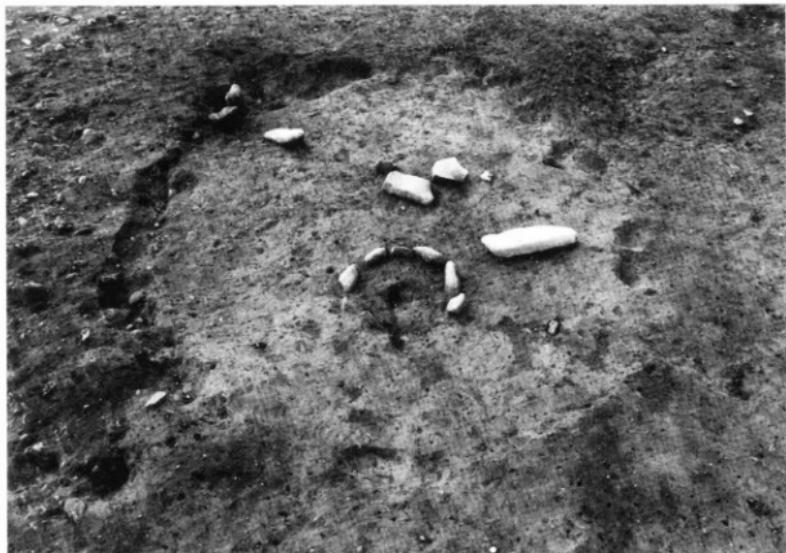
写真図版32 平成20年度航空写真



平成20年度調査区IV区全景



旧石器出土状況（北から）



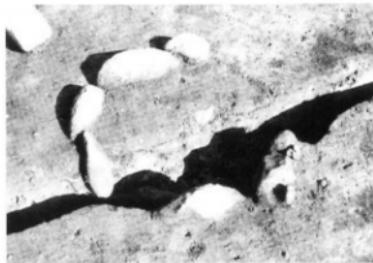
平面（東から）



断面（南から）



炉平面（東から）



炉断面（南から）

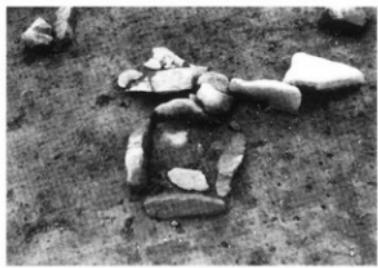
写真図版34 1号竪穴住居跡



平面（東から）



断面（南から）



炉平面（東から）

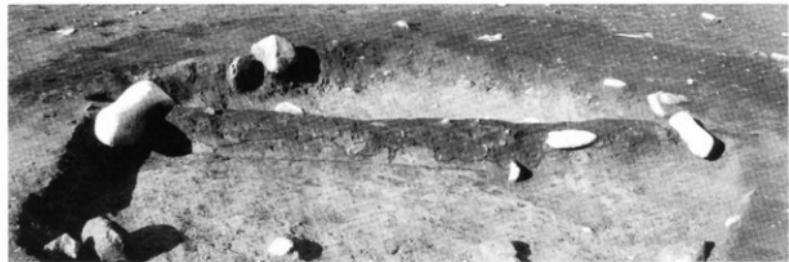


炉断面（南から）

写真図版35 2号竪穴住居跡



平面（東から）



断面（南から）



小寒沢の氾濫部



検出状況

写真図版36 3号竪穴住居跡



平面（南東から）



断面A-A'（南東から）



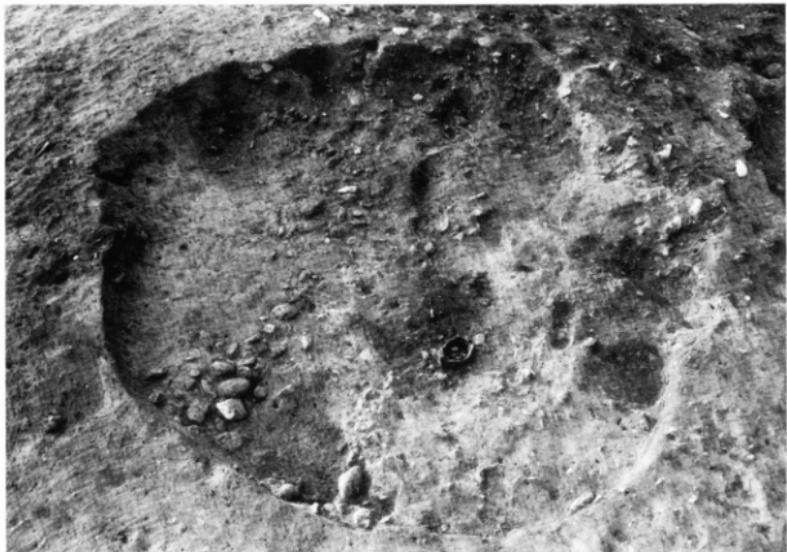
断面B-B'（南西から）



地床炉（東から）



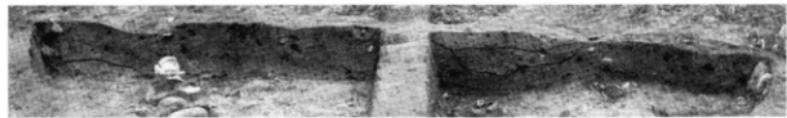
地床炉断面（東から）



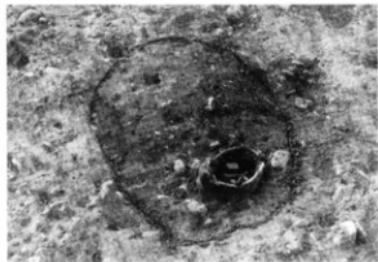
平面（東から）



断面A-A'（南から）



断面B-B'（東から）



炉平面（東から）

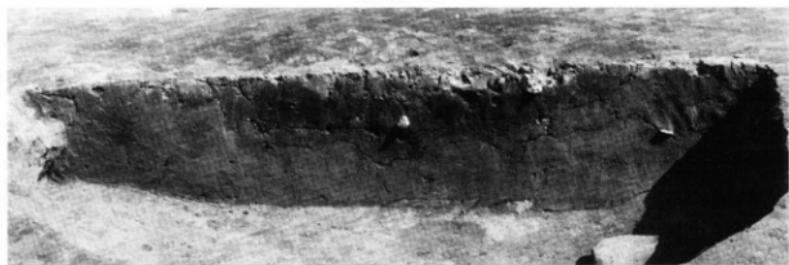


炉断面（南から）

写真図版38 5号竪穴住居跡



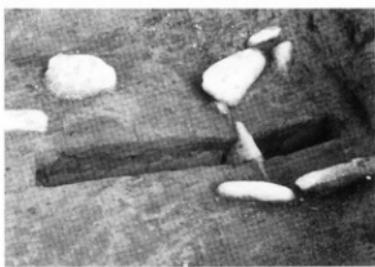
平面（南から）



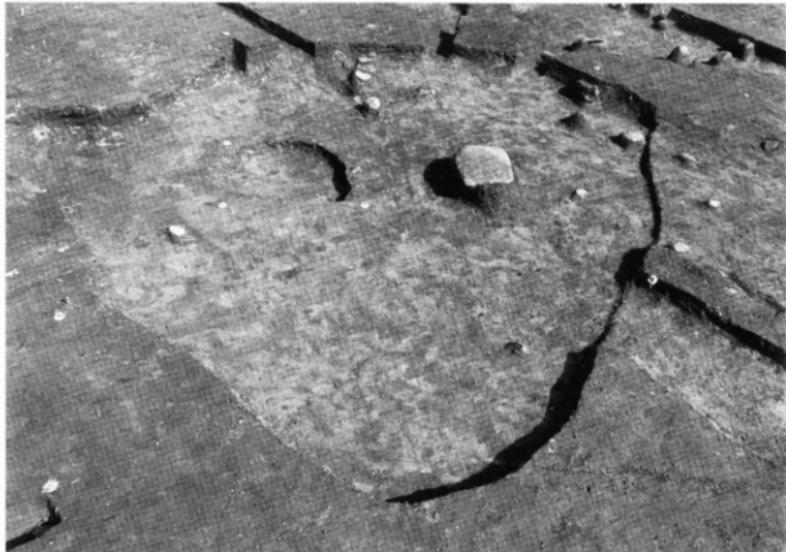
断面（南西から）



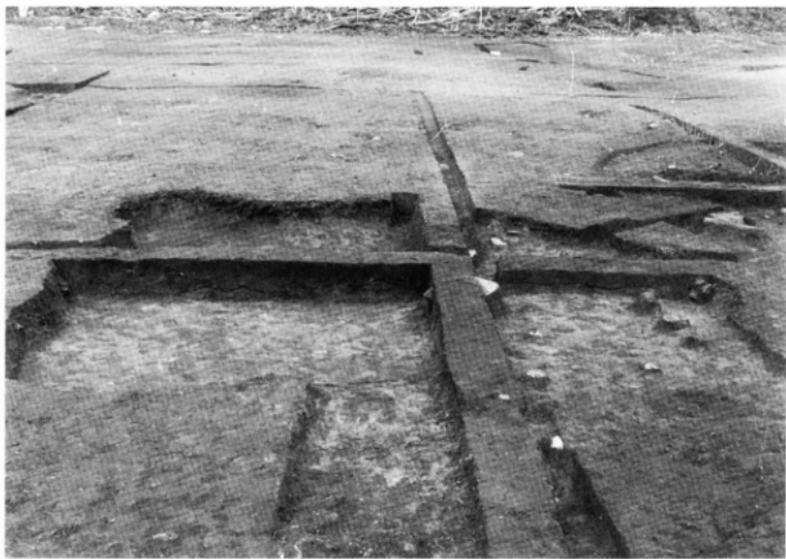
炉平面（南西から）



炉断面（西から）



平面（南から）



断面A-A'（南から）

写真図版40 7号竪穴住居跡



平面（南から）



断面A-A'（南から）



平面（南から）



断面A-A'（南から）

写真図版42 9号竪穴住居跡



平面（南東から）

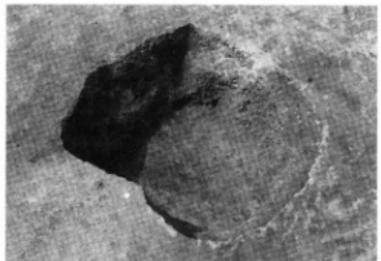


断面A-A'（西から）



断面B-B'（北西から）

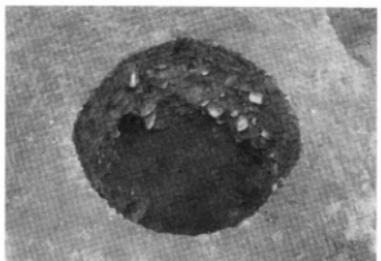
写真図版43 3号竪穴住居状遺構



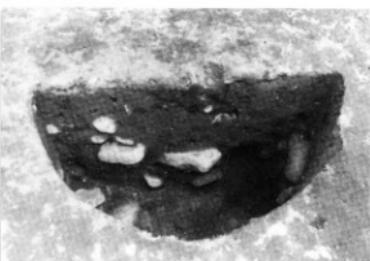
38号土坑平面（東から）



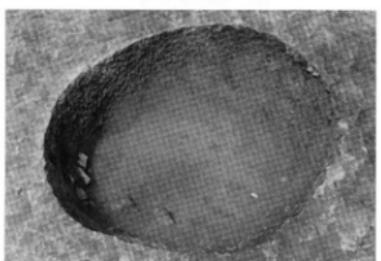
38号土坑断面（南から）



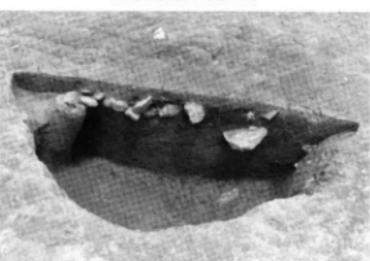
39号土坑平面（南から）



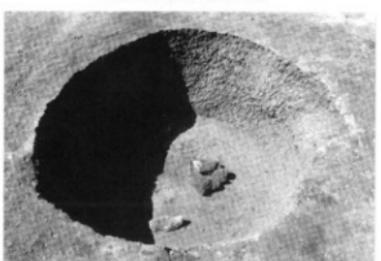
39号土坑断面（南から）



40号土坑平面（南から）



40号土坑断面（南西から）

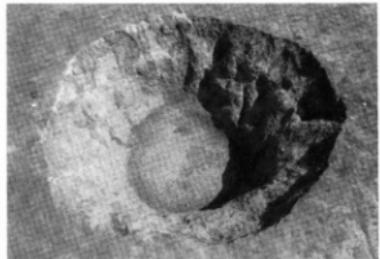


41号土坑平面（東から）



41号土坑断面（南西から）

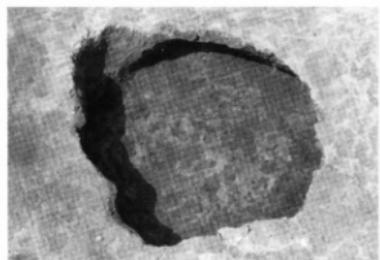
写真図版44 38~41号土坑



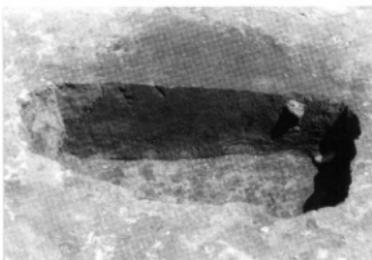
42号土坑平面（西から）



42号土坑断面（北東から）



43号土坑平面（南西から）



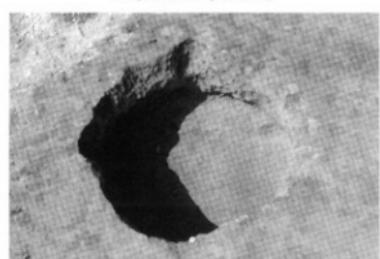
43号土坑断面（南から）



44号土坑平面（南西から）



44号土坑断面（北から）

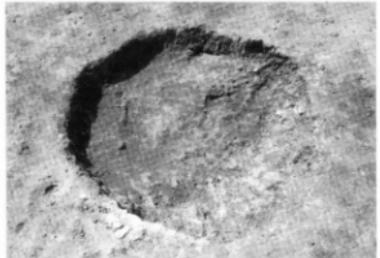


45号土坑平面（東から）



45号土坑断面（南から）

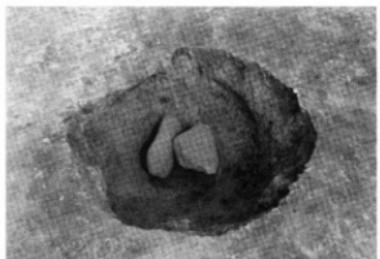
写真図版45 42~45号土坑



47号土坑平面（東から）



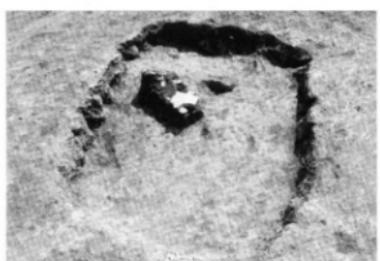
46号土坑断面（南から）



47号土坑平面（西から）



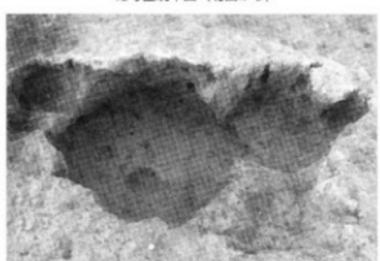
47号土坑断面（南から）



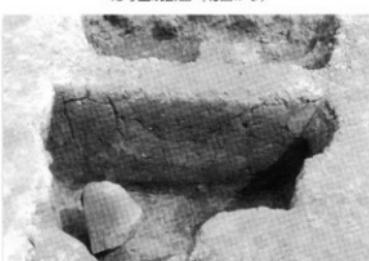
48号土坑平面（北西から）



48号土坑断面（北西から）

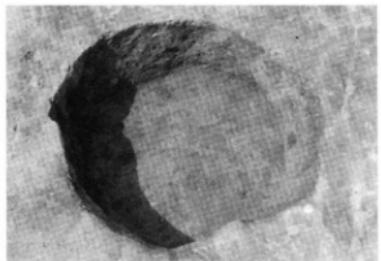


49・51号土坑平面（南から）

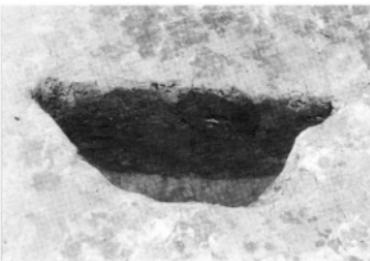


49号土坑断面（南西から）

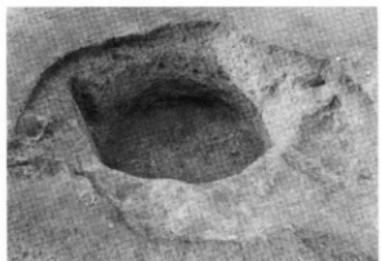
写真図版46 46~49・51号土坑



50号土坑平面（東から）



50号土坑断面（南東から）



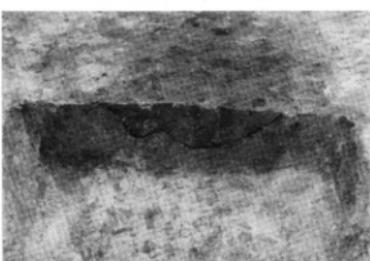
52号土坑平面（南から）



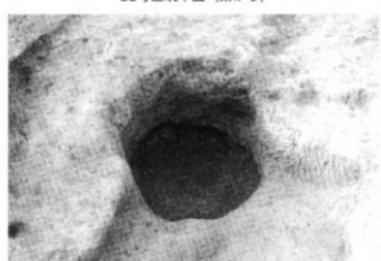
52号土坑断面（北西から）



53号土坑平面（東から）



53号土坑断面（西から）

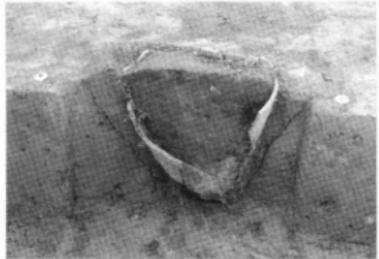


54号土坑平面（南から）



54号土坑断面（西から）

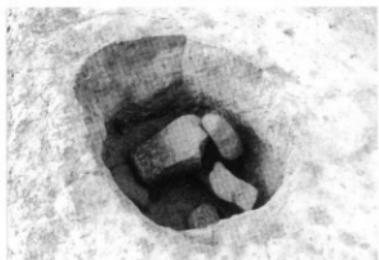
写真図版47 50・52~54号土坑



3号土器埋設遺構断面（南東から）



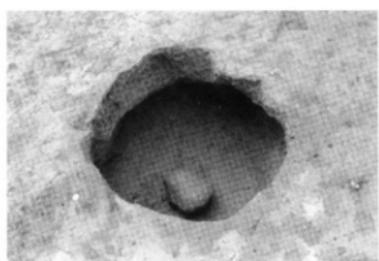
作業風景



55号土坑平面（東から）



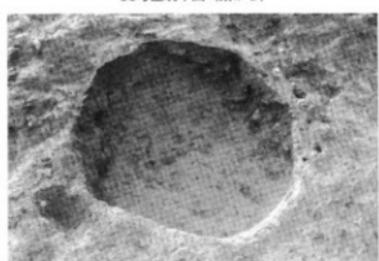
55号土坑断面（南から）



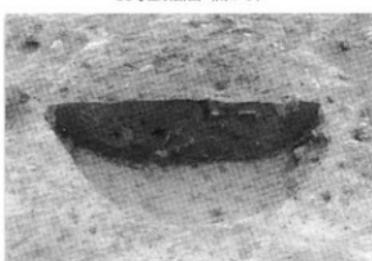
56号土坑平面（東から）



56号土坑断面（南から）

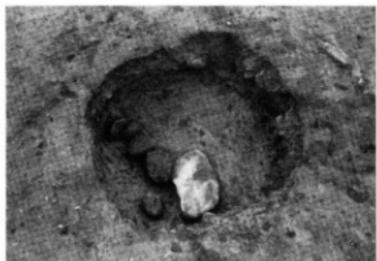


57号土坑平面（東から）



57号土坑断面（東から）

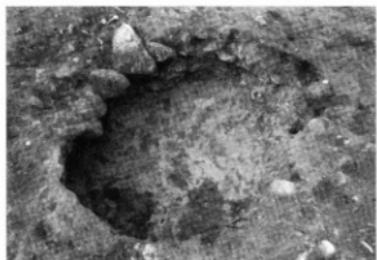
写真図版48 3号土器埋設遺構、55~57号土坑ほか



58号土坑平面（南東から）



58号土坑断面（南西から）



59号土坑平面（西から）



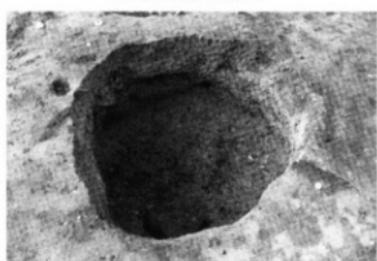
59号土坑断面（南から）



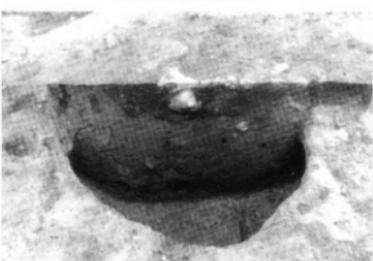
60号土坑平面（東から）



60号土坑断面（東から）

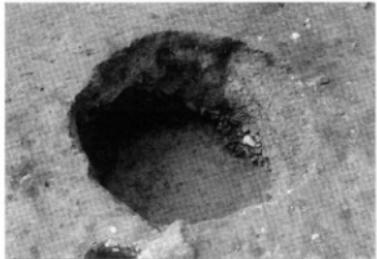


61号土坑平面（南から）

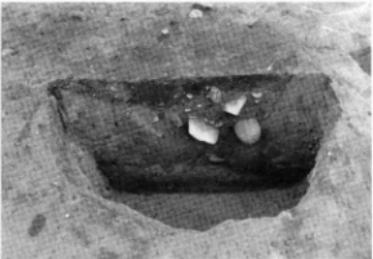


61号土坑断面（南から）

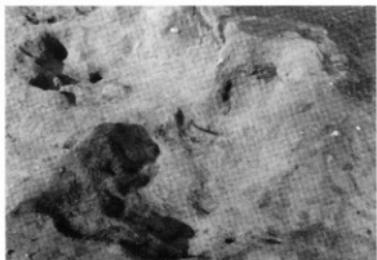
写真図版49 58~61号土坑



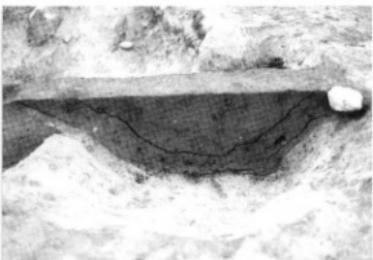
62号土坑平面（東から）



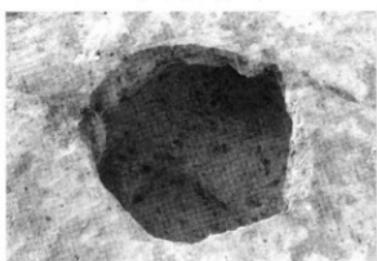
62号土坑断面（南から）



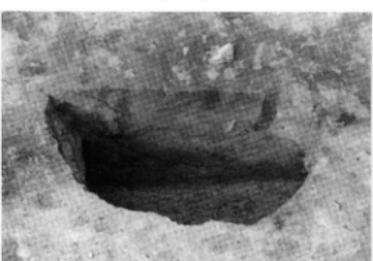
63号土坑平面（南から）



63号土坑断面（南東から）



64号土坑平面（東から）



64号土坑断面（南から）

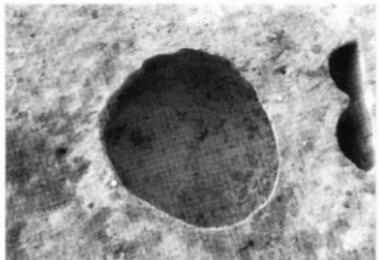


65号土坑平面（東から）



65号土坑断面（南から）

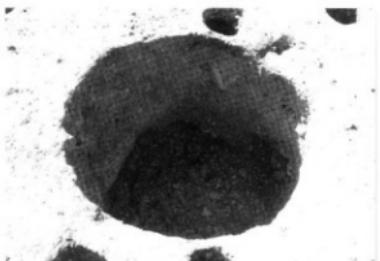
写真図版50 62~65号土坑



66号土坑平面（東から）



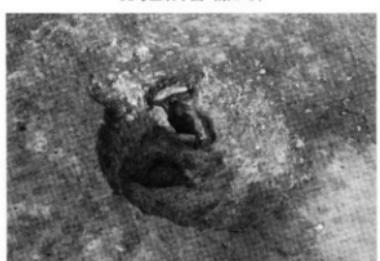
66号土坑断面（西から）



68号土坑平面（東から）



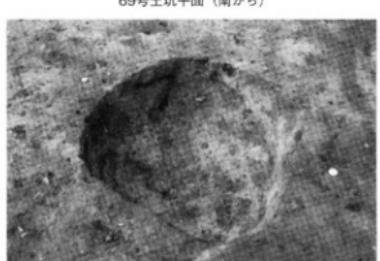
68号土坑断面（北から）



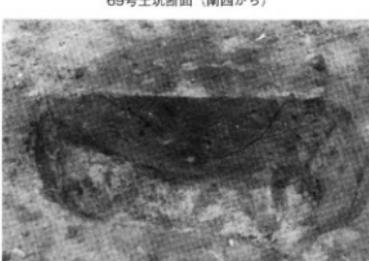
69号土坑平面（南から）



69号土坑断面（南西から）

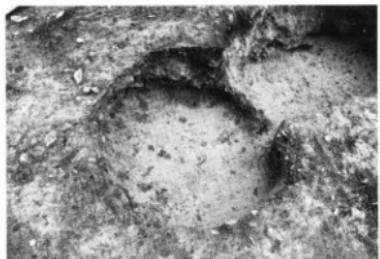


70号土坑平面（南から）



70号土坑断面（南から）

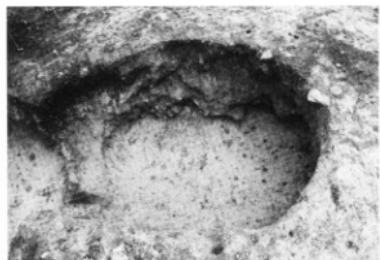
写真図版51 66・68~70号土坑



71号土坑平面（北西から）



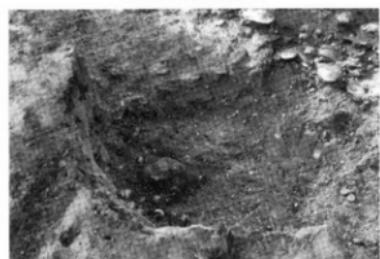
71・72号土坑の重複（北東から）



72号土坑平面（北から）



小寒沢の氾濫部



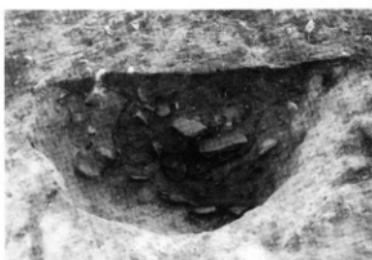
73号土坑平面（東から）



73号土坑断面（北西から）

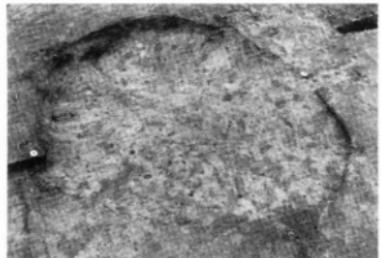


74号土坑平面（西から）



74号土坑断面（東から）

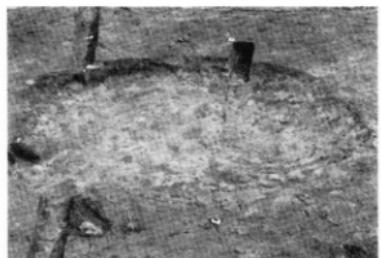
写真図版52 71～74号土坑



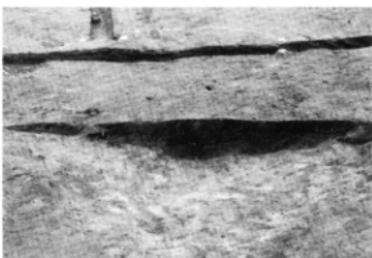
75号土坑平面（西から）



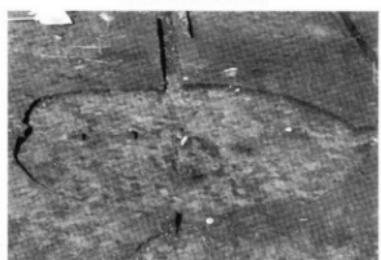
75号土坑断面（西から）



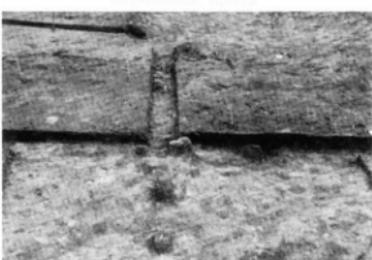
76号土坑平面（西から）



76号土坑断面（南から）



77号土坑平面（西から）



77号土坑断面（西から）

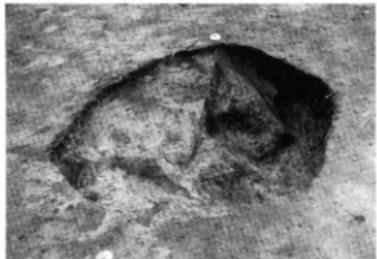


78号土坑平面（南から）

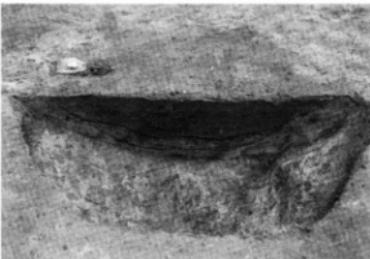


78号土坑断面（南から）

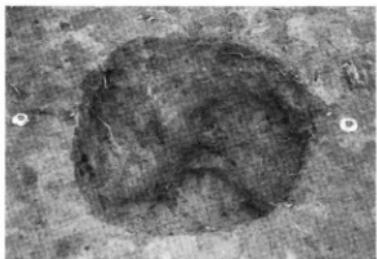
写真図版53 75~78号土坑



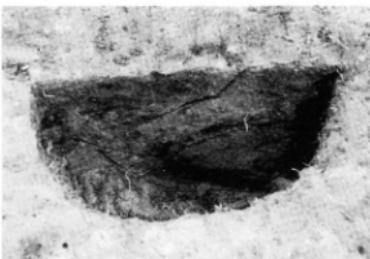
79号土坑平面（北から）



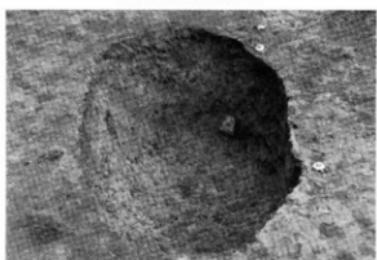
79号土坑断面（西から）



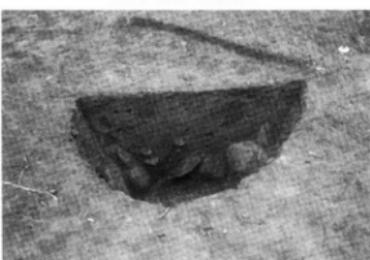
80号土坑平面（西から）



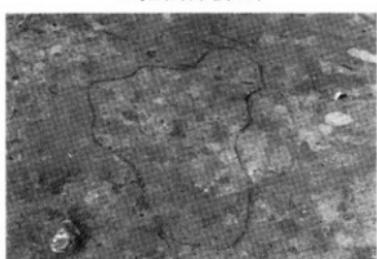
80号土坑断面（西から）



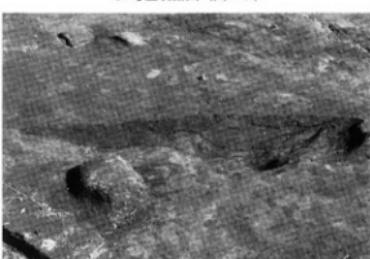
81号土坑平面（西から）



81号土坑断面（西から）

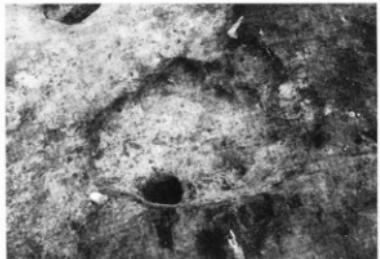


21号焼土平面（東から）



21号焼土断面（南から）

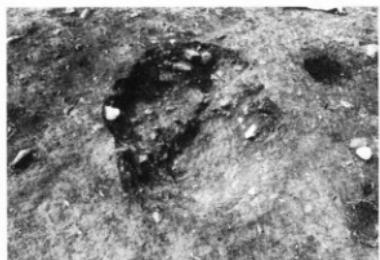
写真図版54 79～81号土坑、21号焼土



82号土坑平面（南から）



82号土坑断面（南東から）



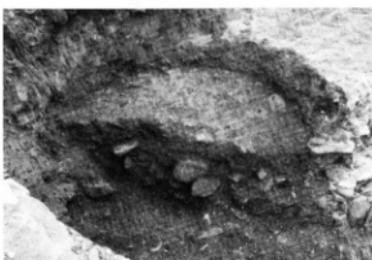
83号土坑平面（東から）



83号土坑断面（北東から）



84号土坑平面（南北から）



84号土坑断面（南東から）

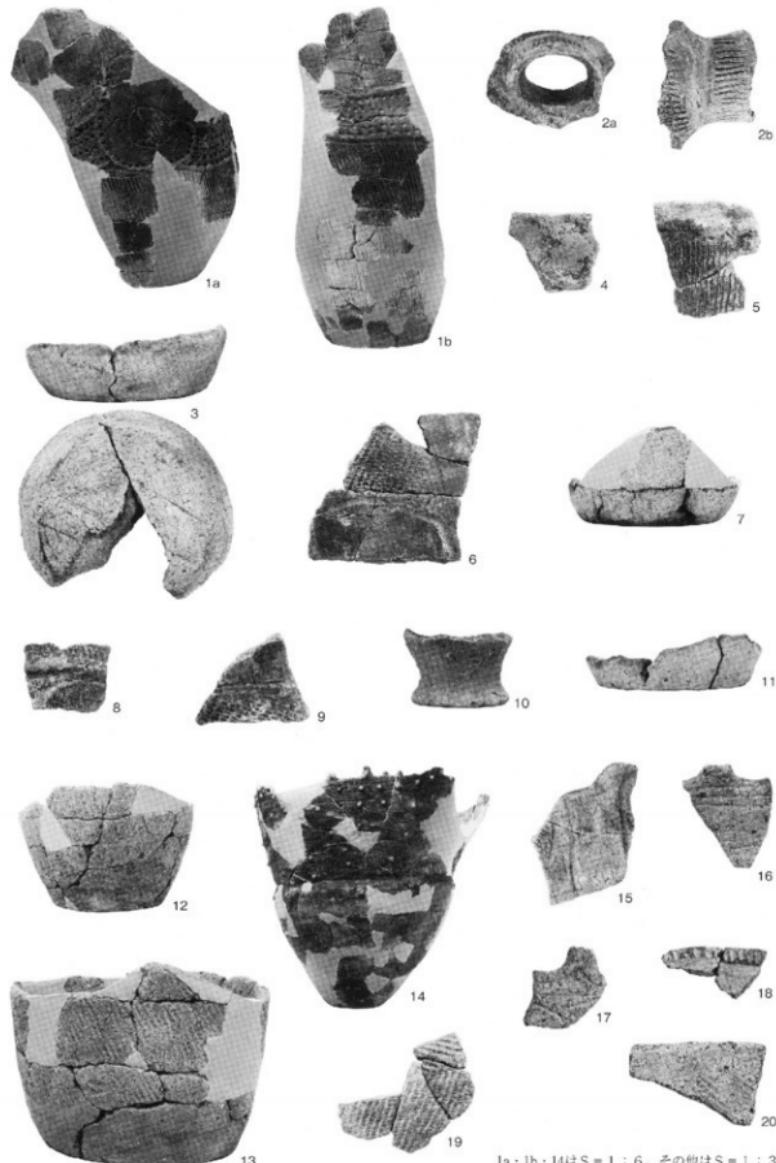


1号集石検出（東から）



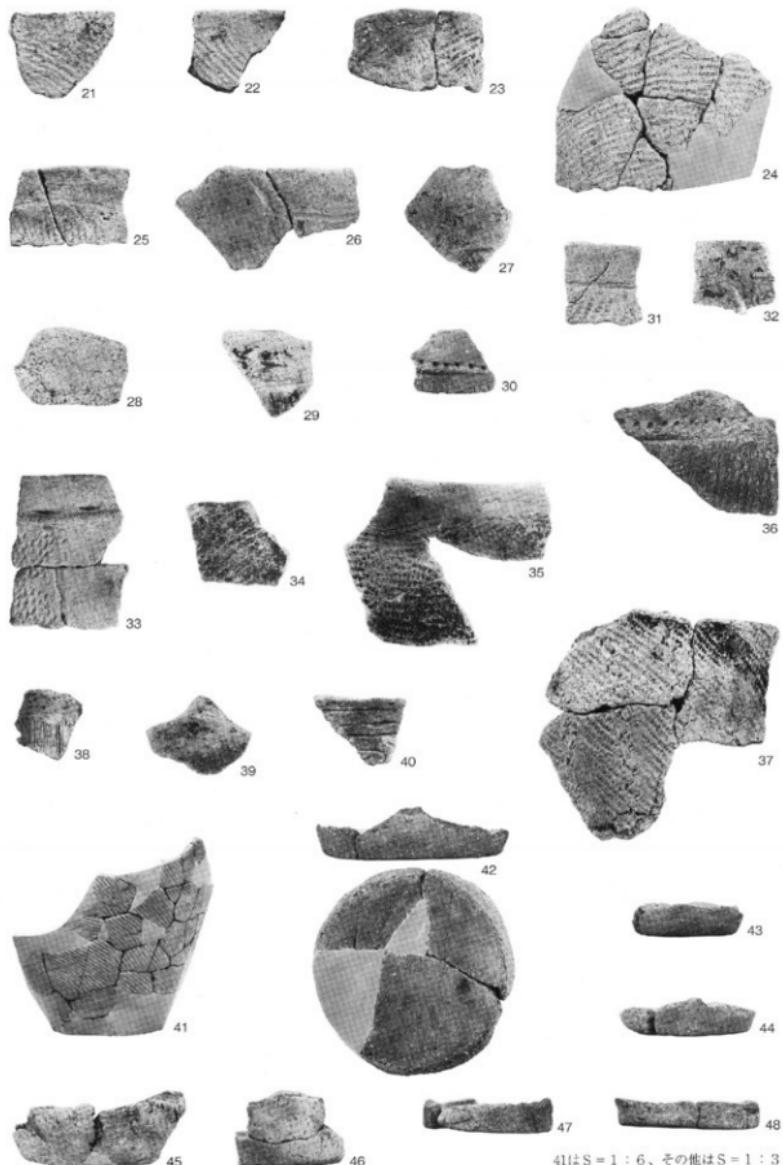
遺物包含層の調査風景

写真図版55 82~84号土坑、1号集石



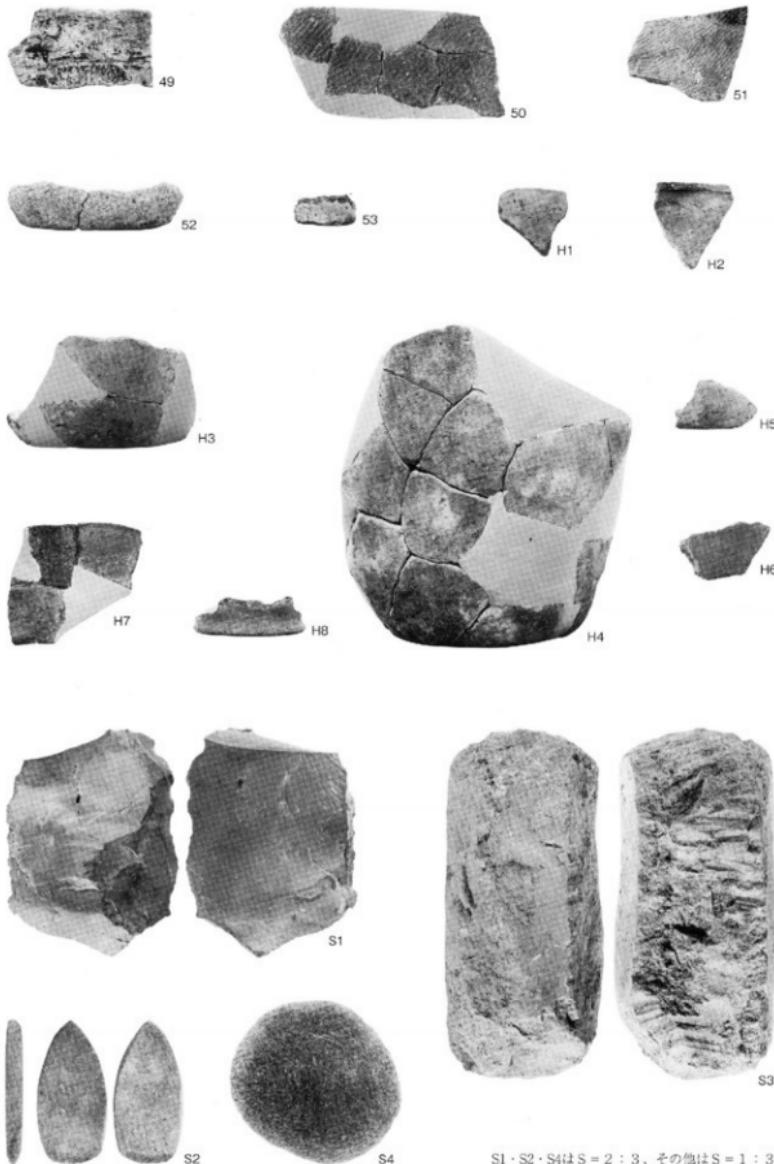
1a・1b・14はS=1:6、その他はS=1:3

写真図版56 平成18年度調査出土遺物（1）



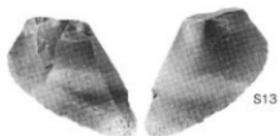
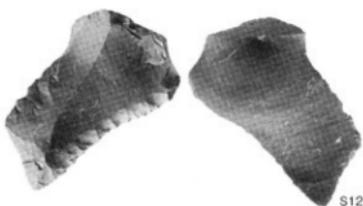
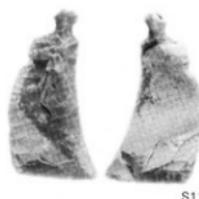
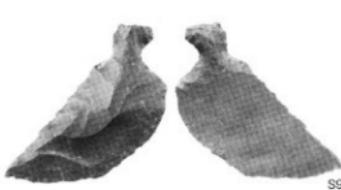
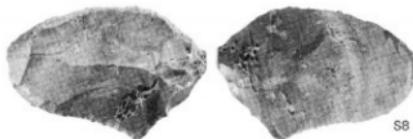
41は $S = 1 : 6$ 、その他は $S = 1 : 3$

写真図版57 平成18年度調査出土遺物（2）



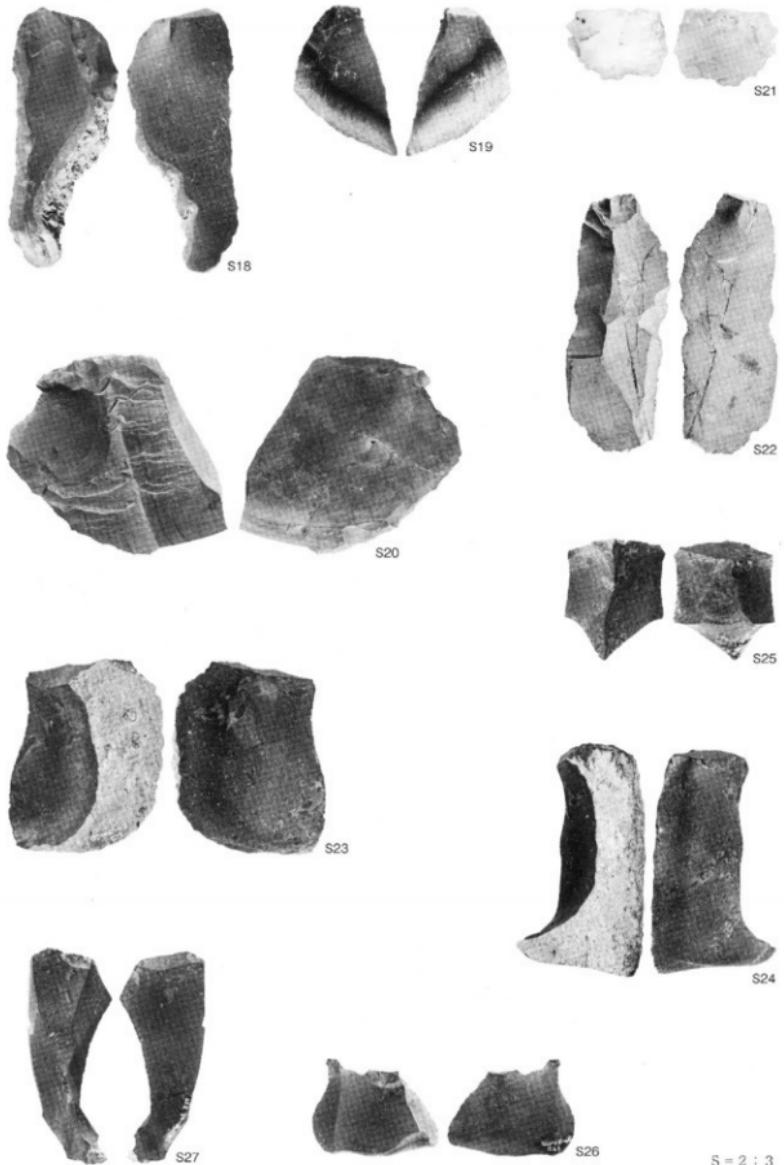
S1・S2・S4はS = 2 : 3、その他はS = 1 : 3

写真図版58 平成18年度調査出土遺物（3）

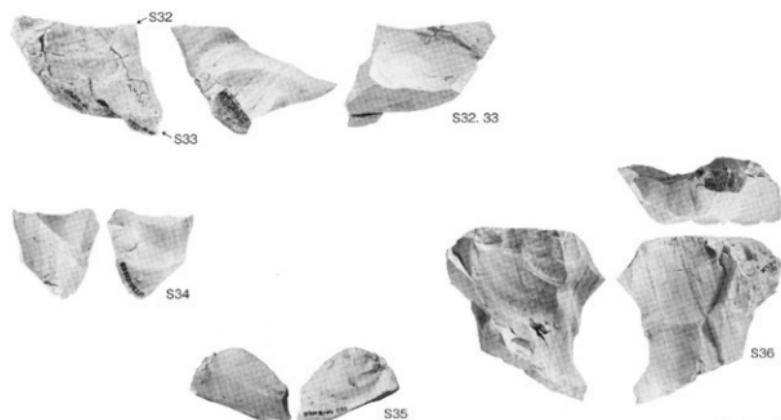
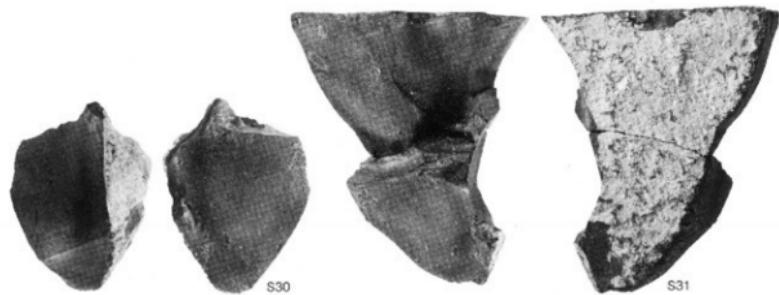


S = 2 : 3

写真図版59 平成18年度調査出土遺物（4）



写真図版60 平成18年度調査出土遺物（5）



S = 2 : 3

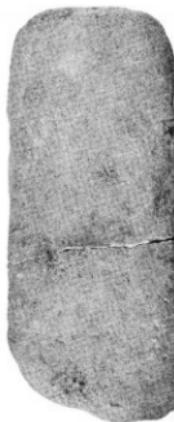
写真図版61 平成18年度調査出土遺物（6）



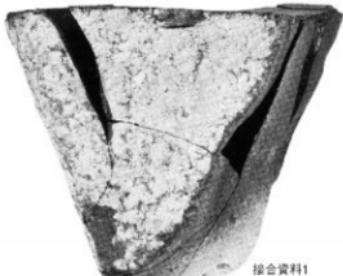
S37



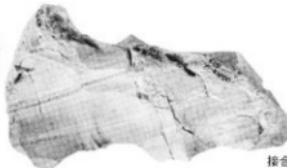
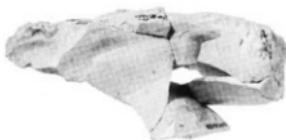
S38



S39



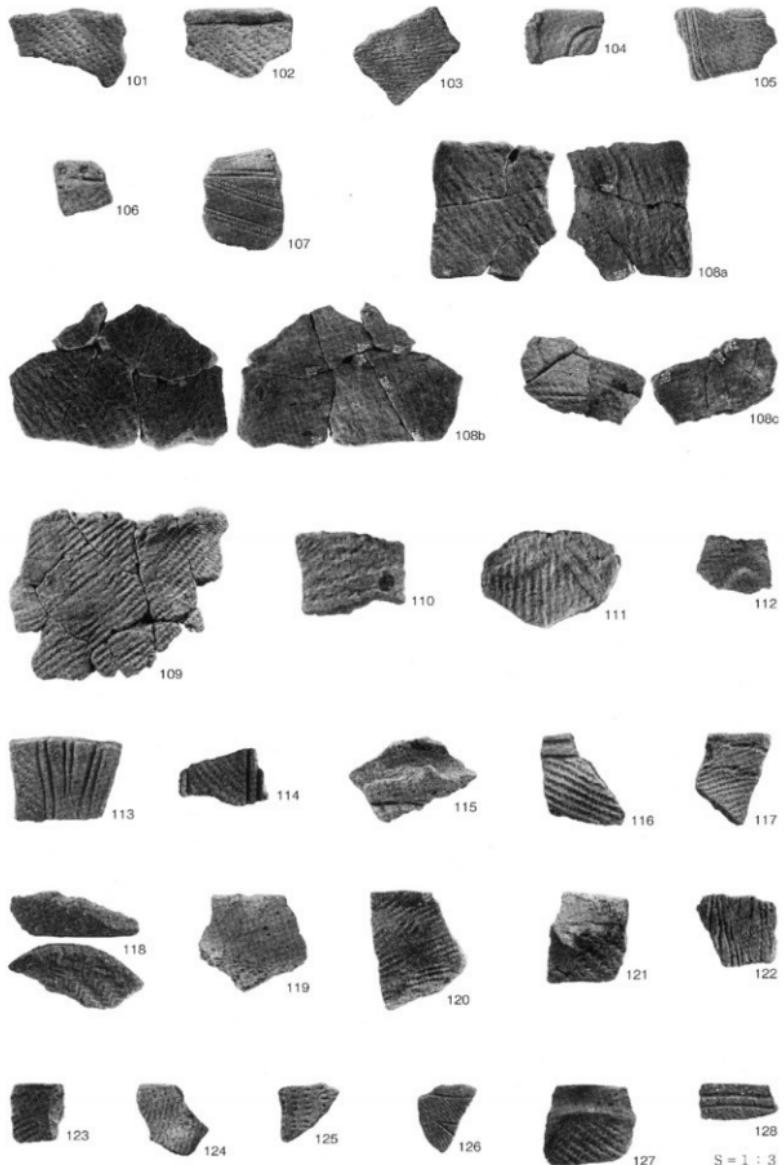
接合資料1



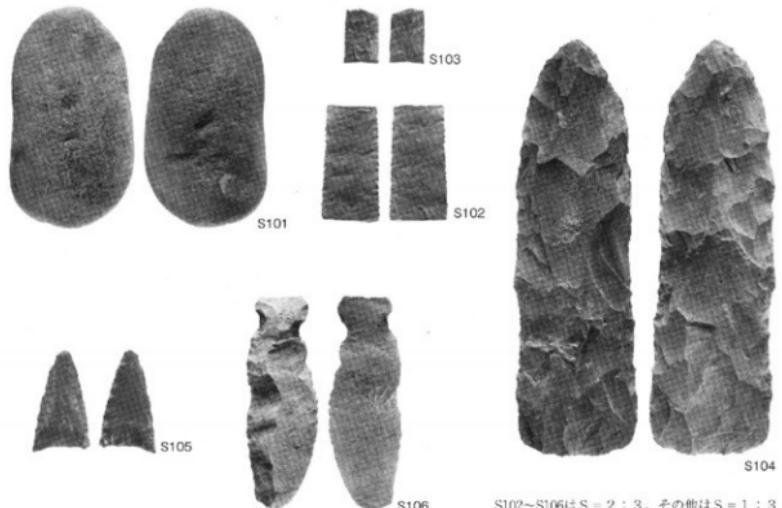
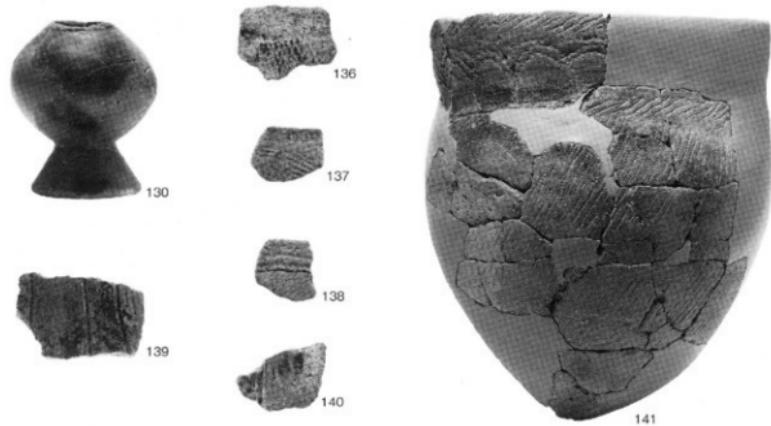
接合資料2

S37・38はS = 1 : 3、その他はS = 2 : 3

写真図版62 平成18年度調査出土遺物（7）

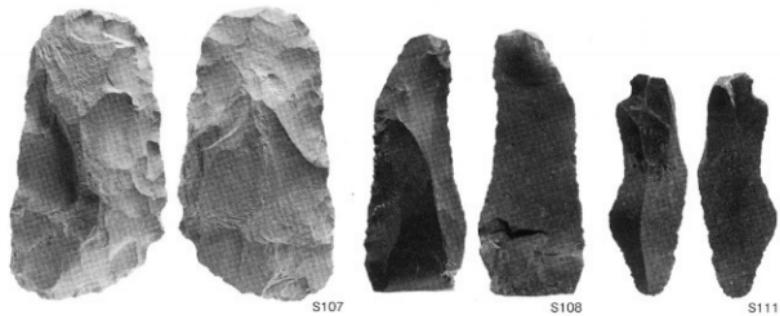


写真図版63 平成19年度調査出土遺物（1）



S102~S106はS=2:3、その他はS=1:3

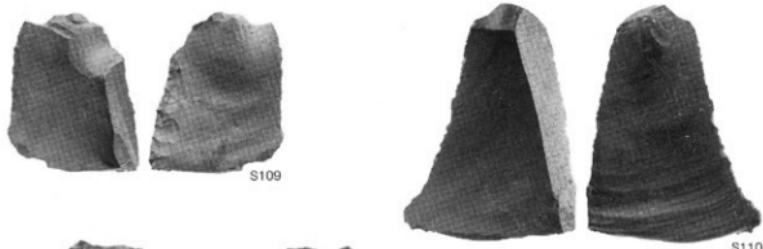
写真図版64 平成19年度調査出土遺物（2）



S107

S108

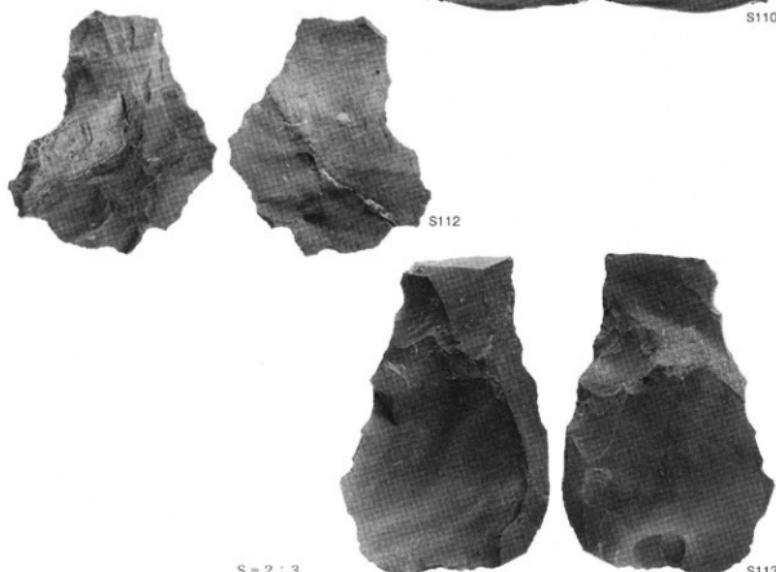
S111



S109

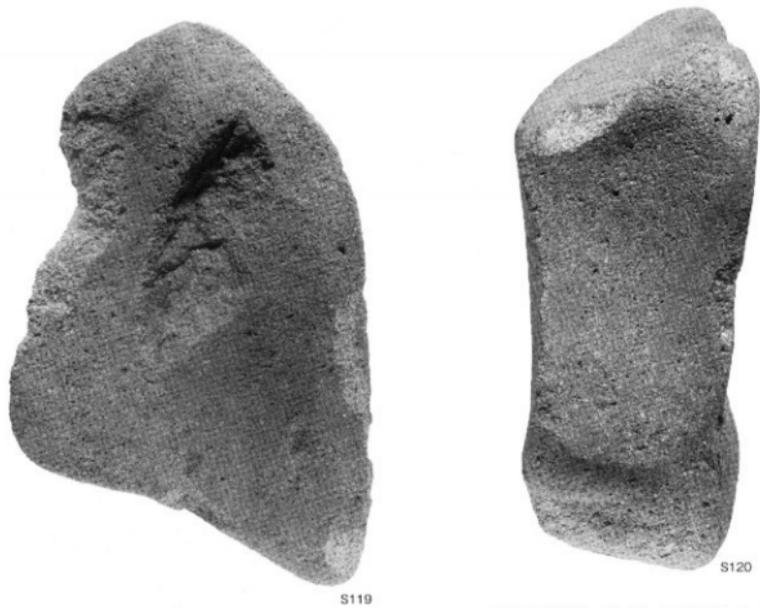
S112

S110



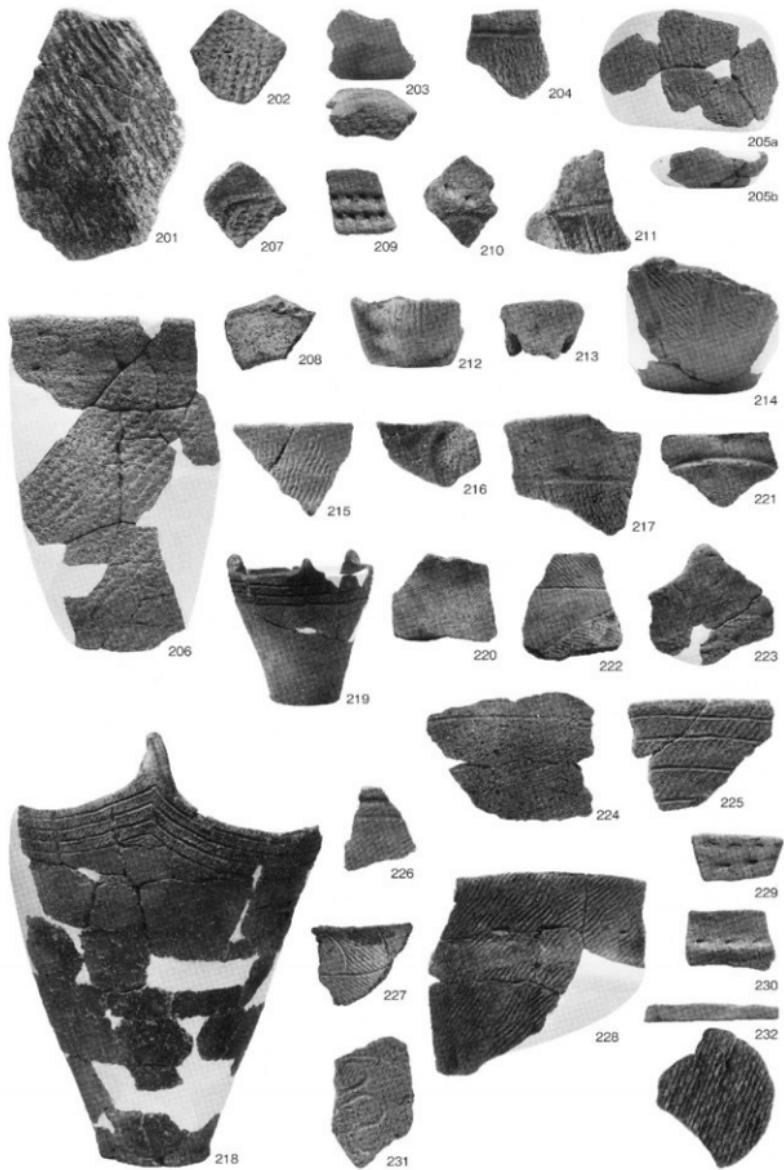
S = 2 : 3

S113



S118・S119はS=1:4、その他はS=1:3

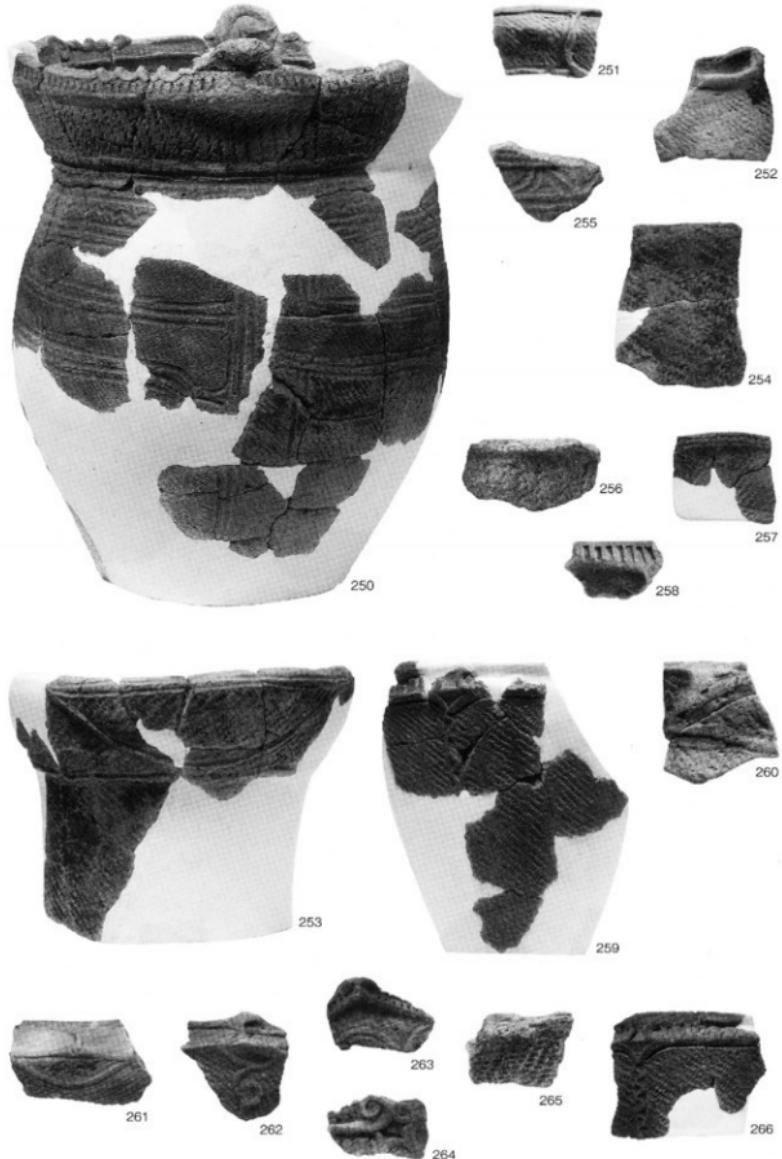
写真図版66 平成19年度調査出土遺物（4）



写真図版67 平成20・21年度出土遺物（1）



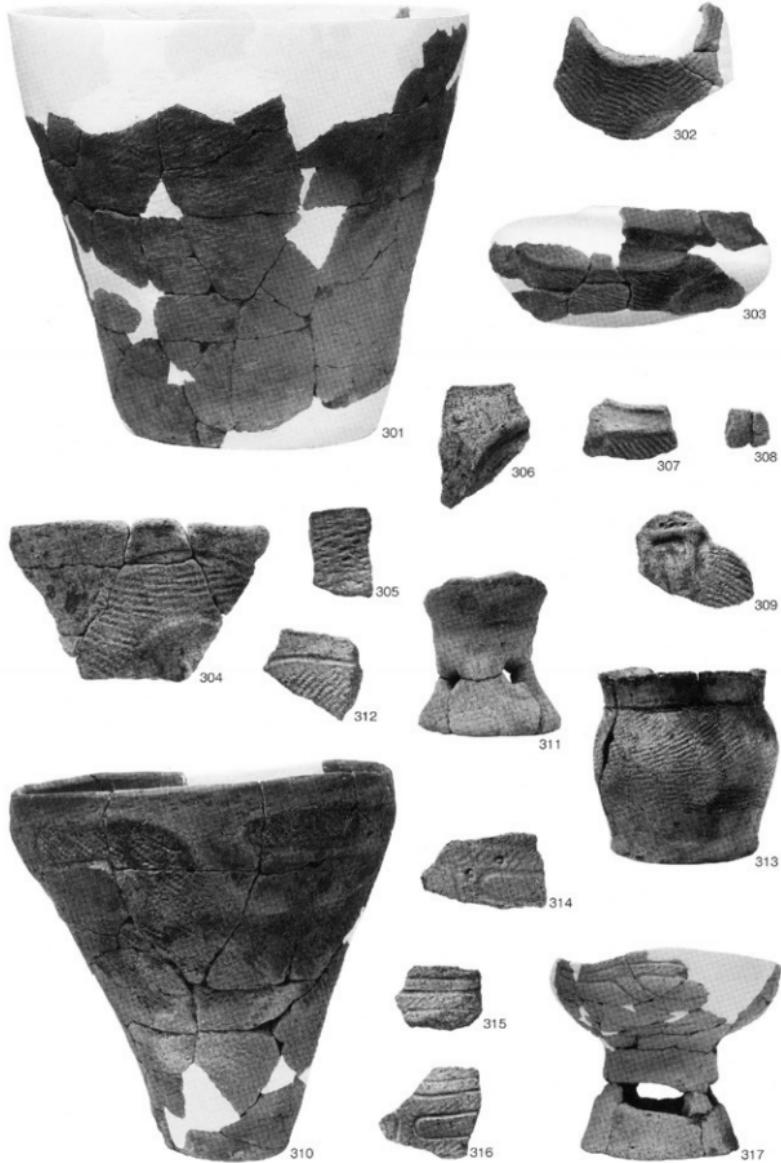
写真図版68 平成20・21年度出土遺物（2）



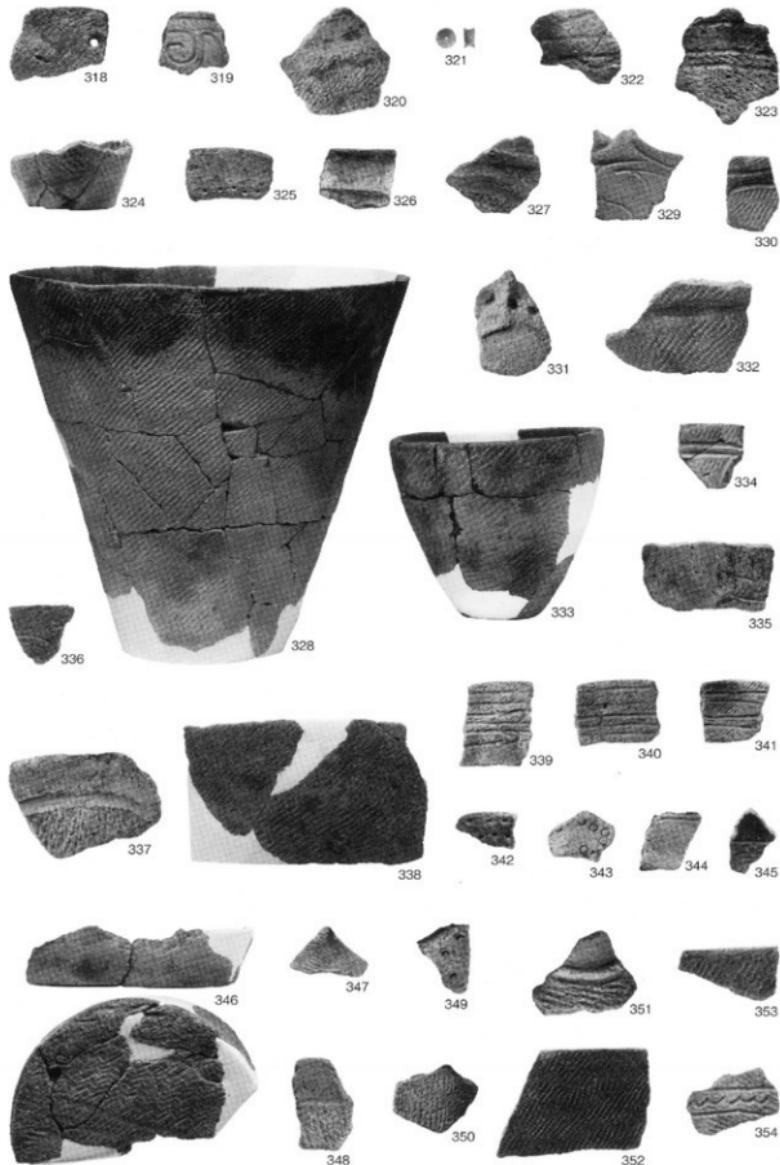
写真図版69 平成20・21年度出土遺物（3）



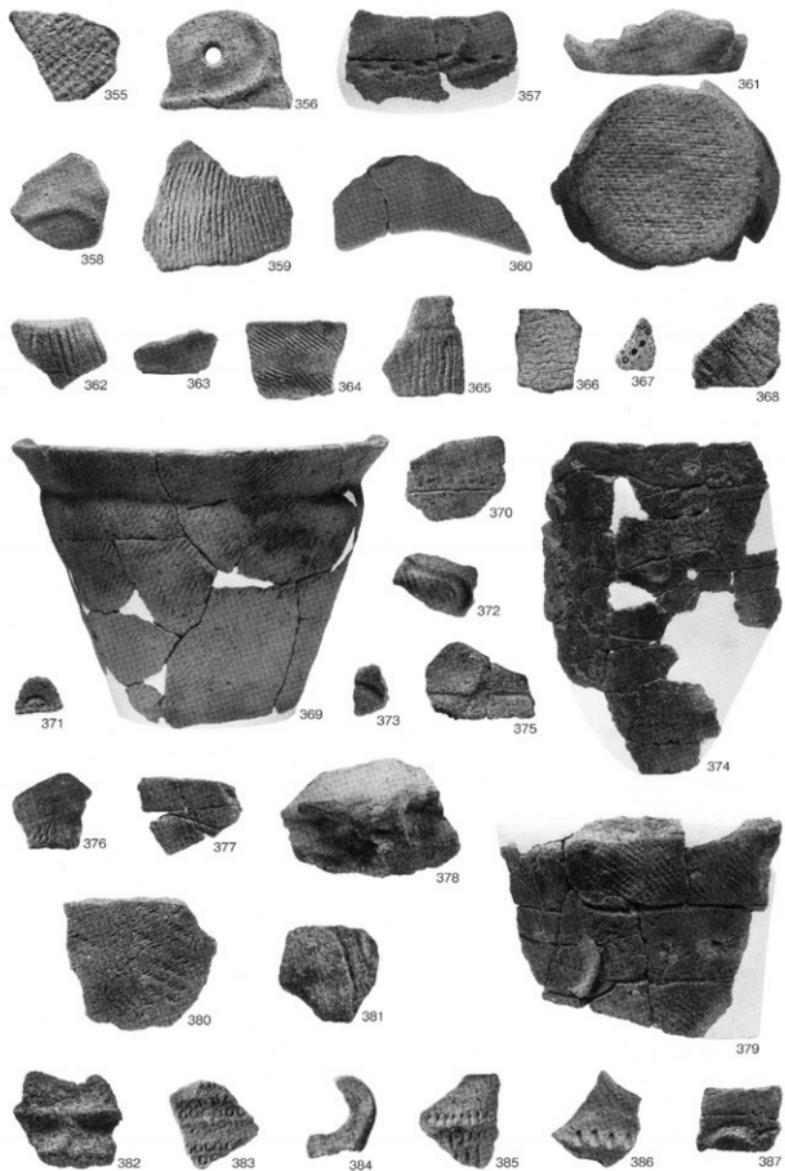
写真図版70 平成20・21年度出土遺物（4）



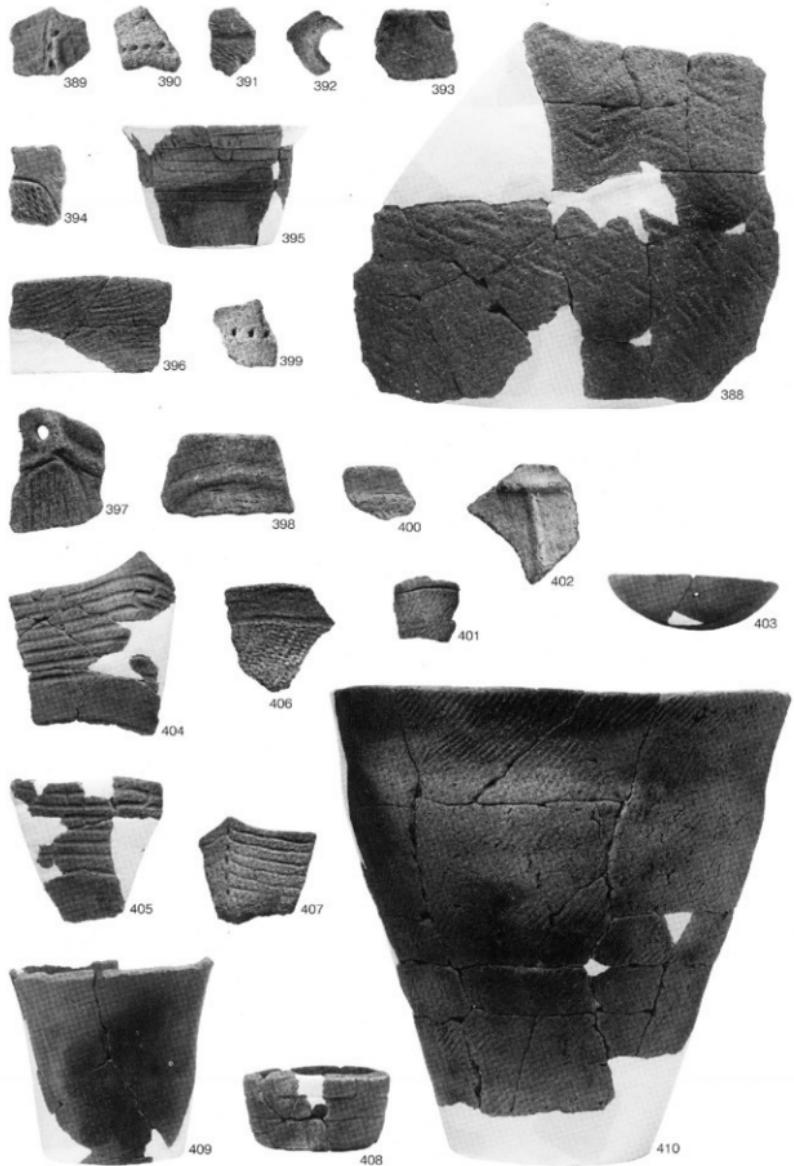
写真図版71 平成20・21年度出土遺物（5）



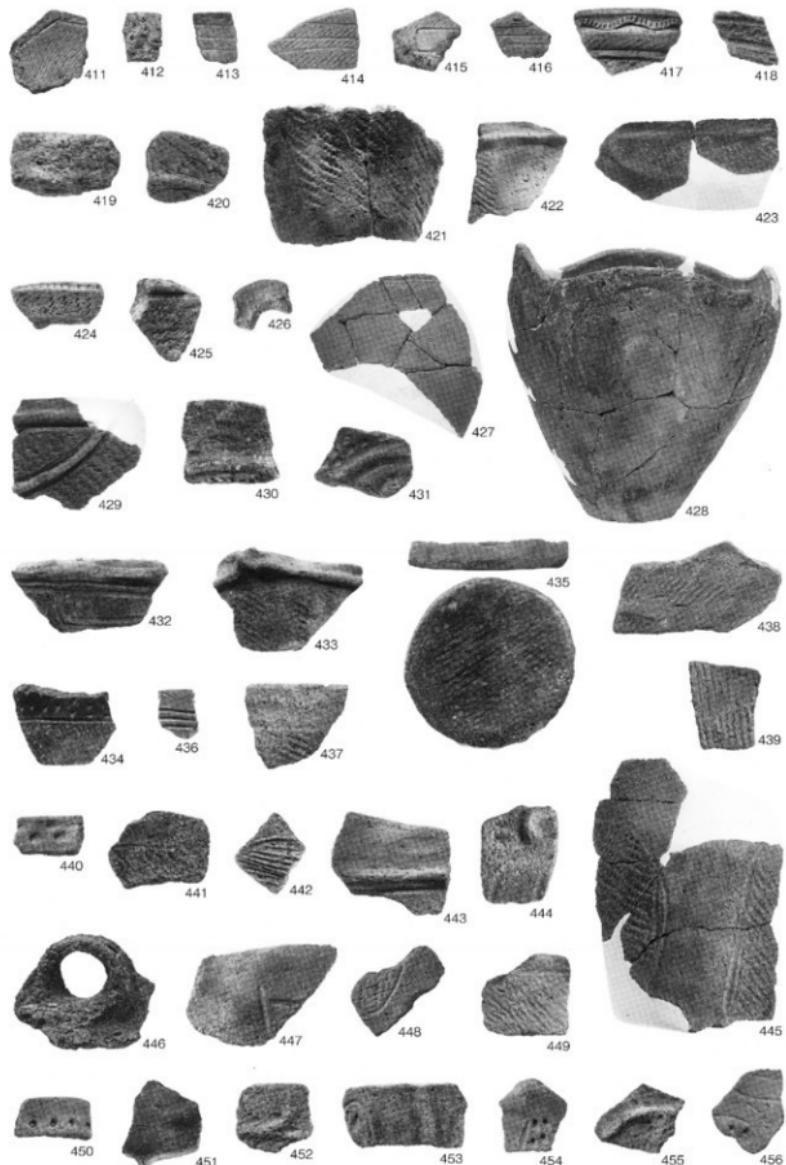
写真図版72 平成20・21年度出土遺物（6）



写真図版73 平成20・21年度出土遺物（7）



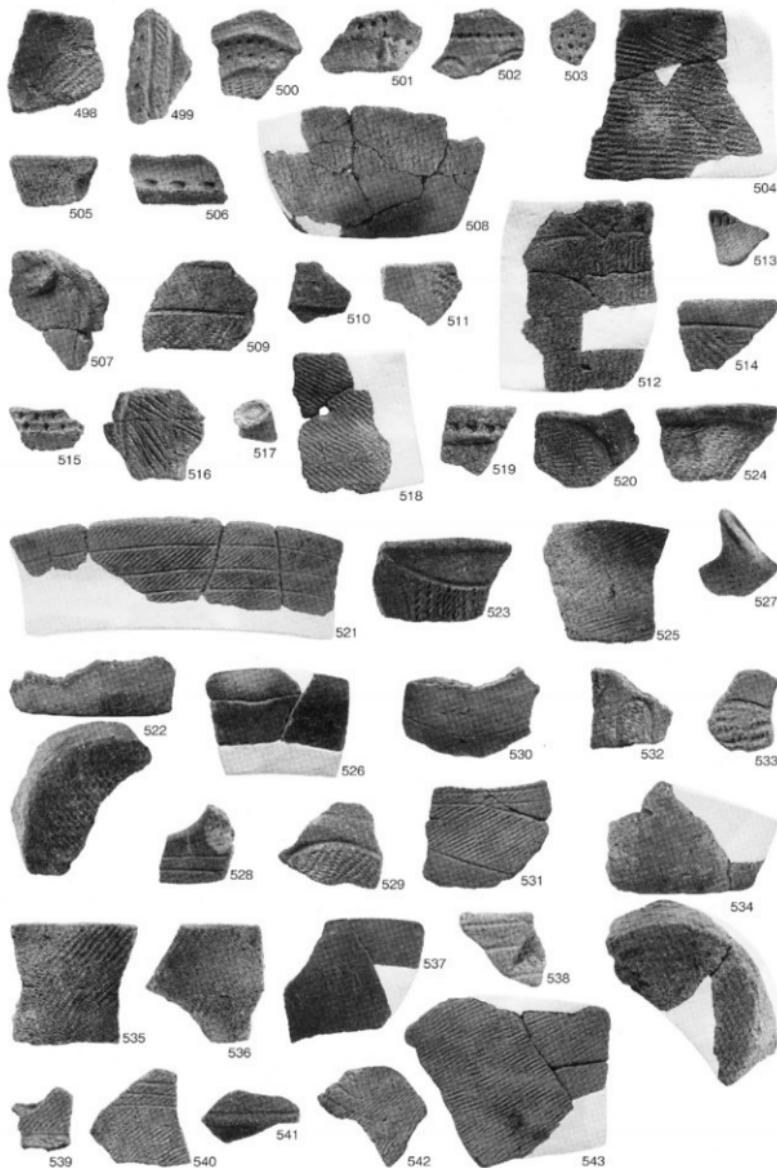
写真図版74 平成20・21年度出土遺物（8）



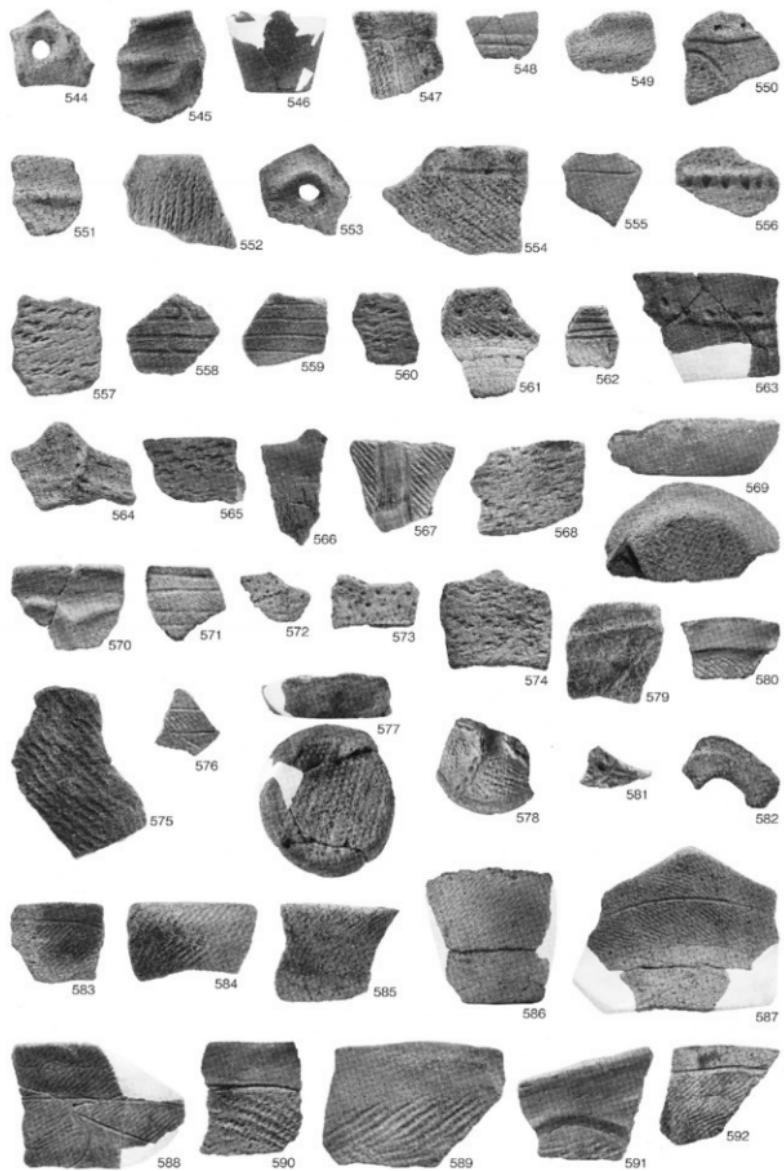
写真図版75 平成20・21年度出土遺物（9）



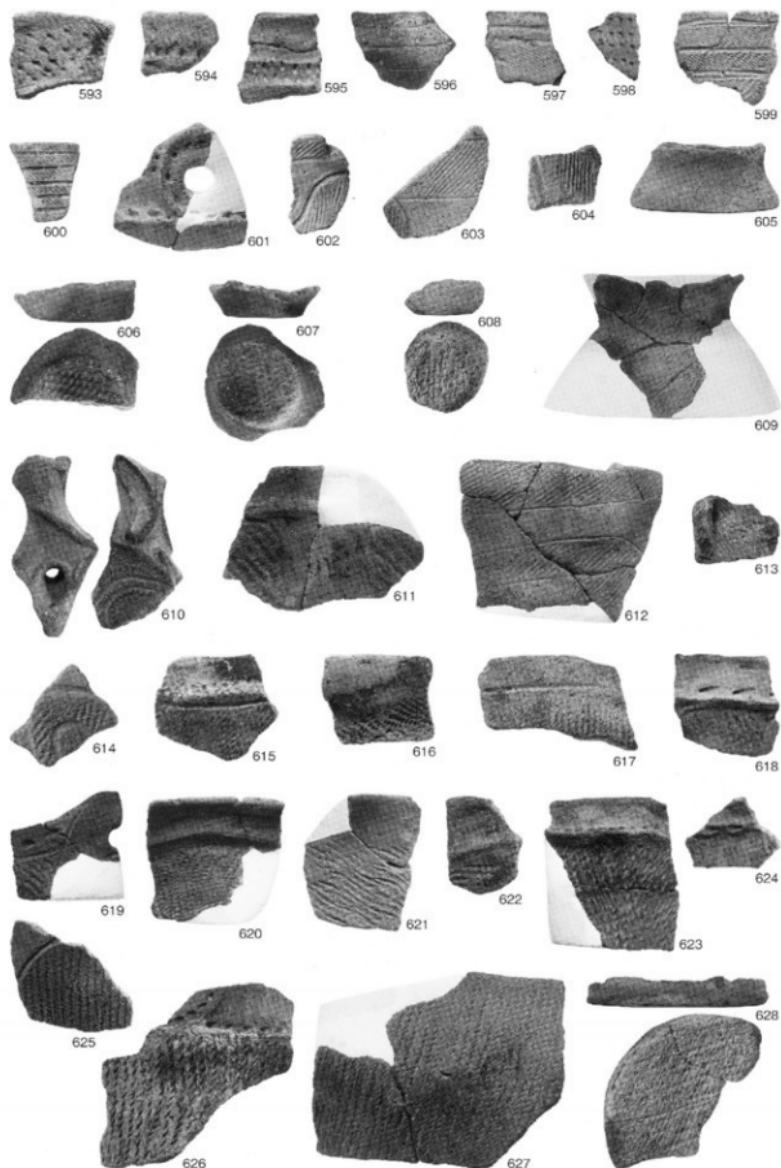
写真図版76 平成20・21年度出土遺物（10）



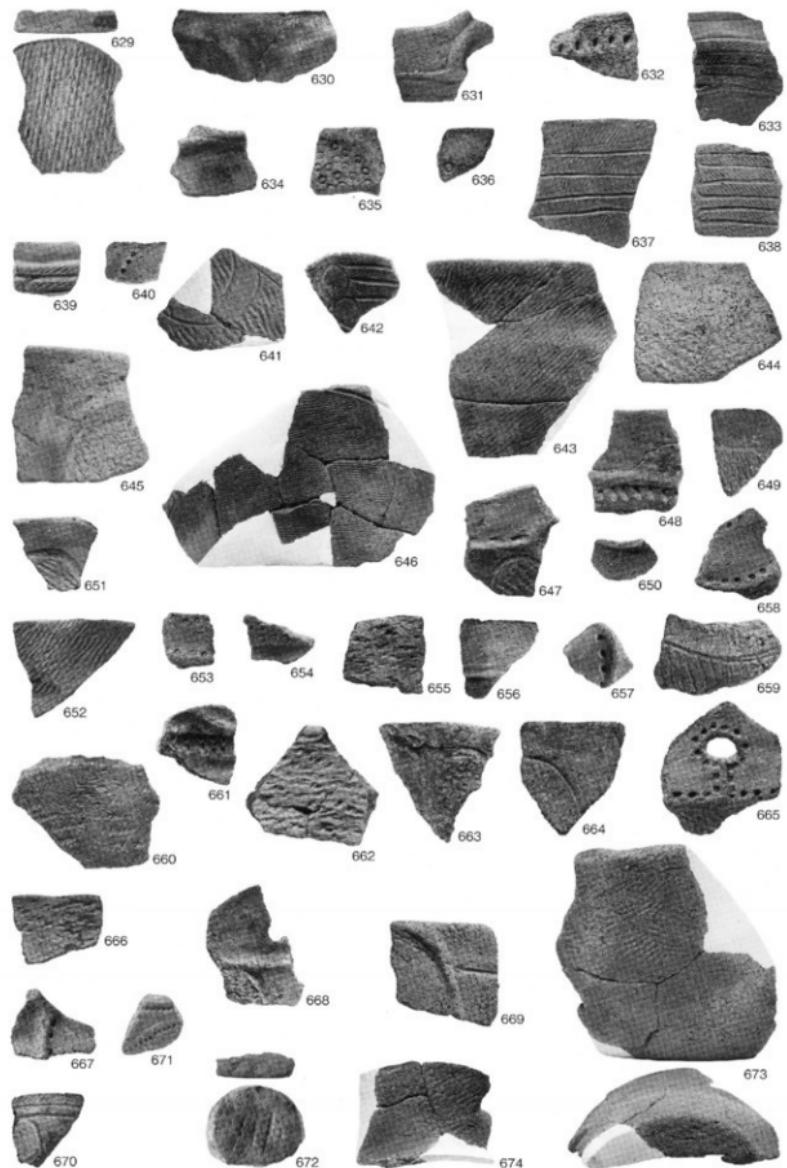
写真図版77 平成20・21年度出土遺物（11）



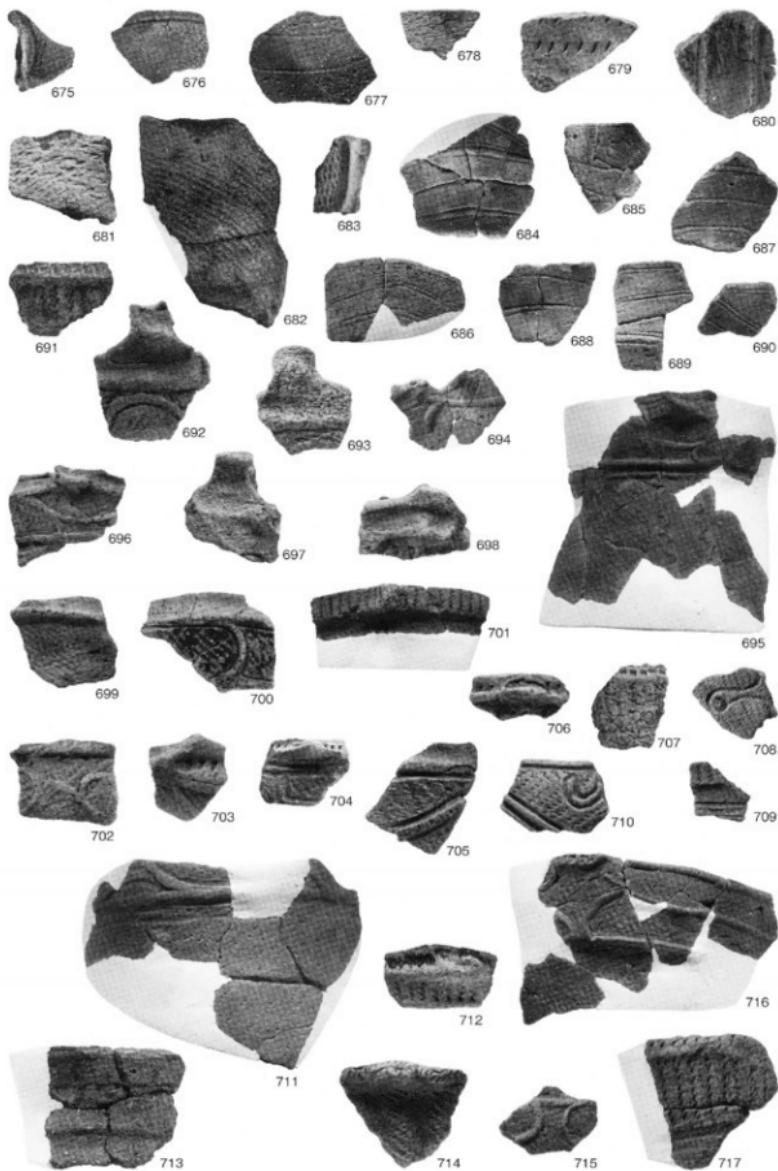
写真図版78 平成20・21年度出土遺物（12）



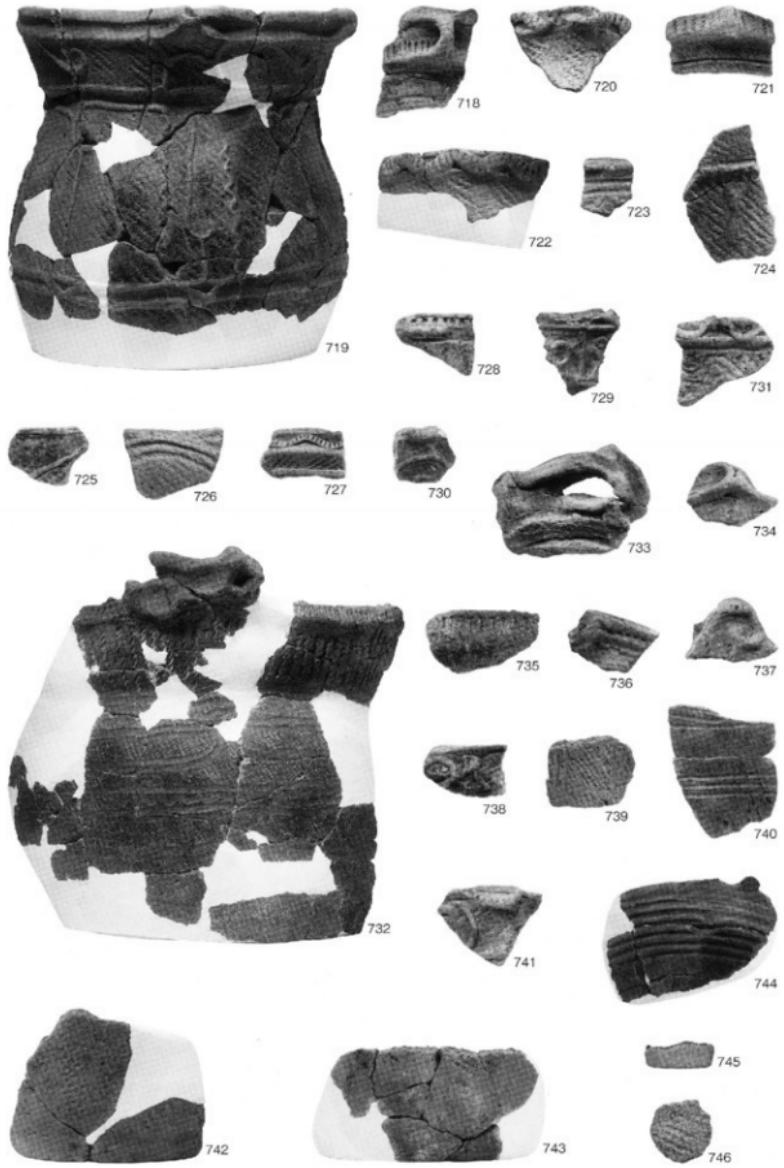
写真図版79 平成20・21年度出土遺物（13）



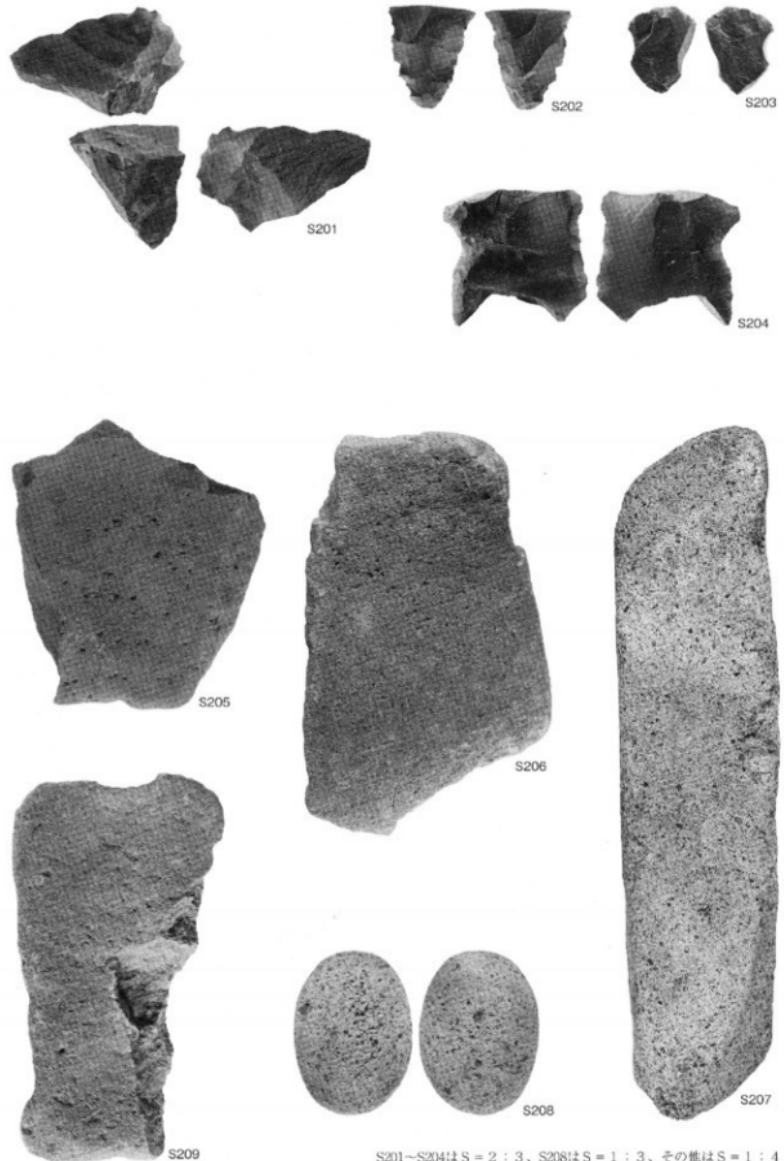
写真図版80 平成20・21年度出土遺物 (14)



写真図版81 平成20・21年度出土遺物（15）

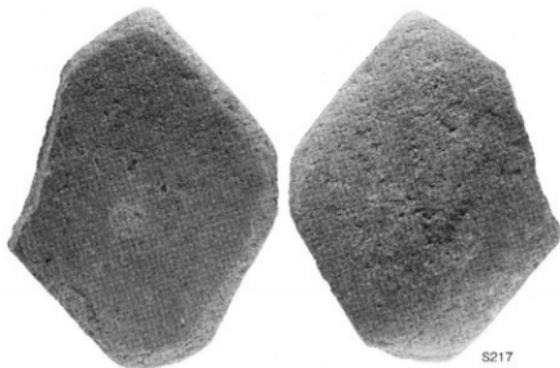
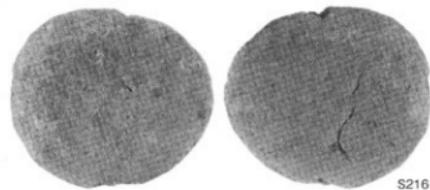
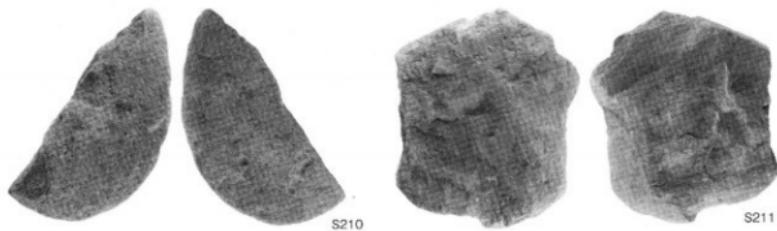


写真図版82 平成20・21年度出土遺物（16）



S201～S204は $S = 2 : 3$ 、S208は $S = 1 : 3$ 、その他は $S = 1 : 4$

写真図版83 平成20・21年度出土遺物 (17)



S211・S217はS = 1 : 4、S213～S215はS = 1 : 2、その他はS = 1 : 3

写真図版84 平成20・21年度出土遺物 (18)



S218



S219



S220



S221



S223



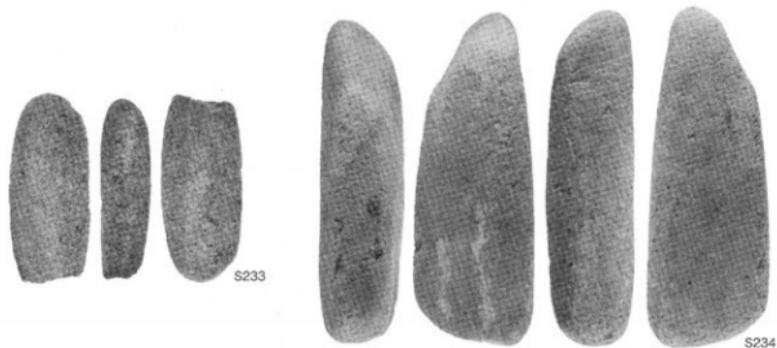
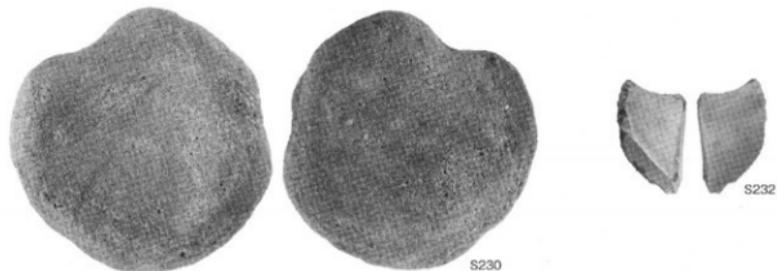
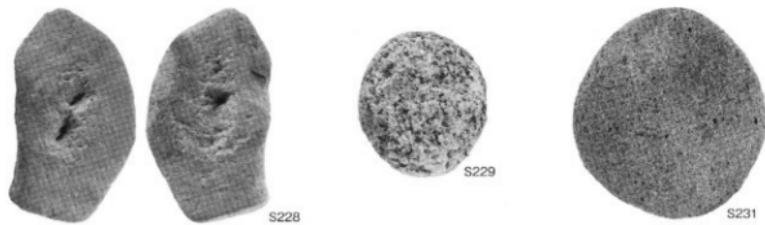
S222



S224

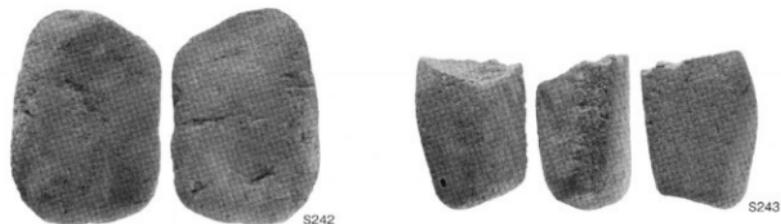
S218~S220はS=1:4、その他はS=2:3

写真図版85 平成20・21年度出土遺物 (19)



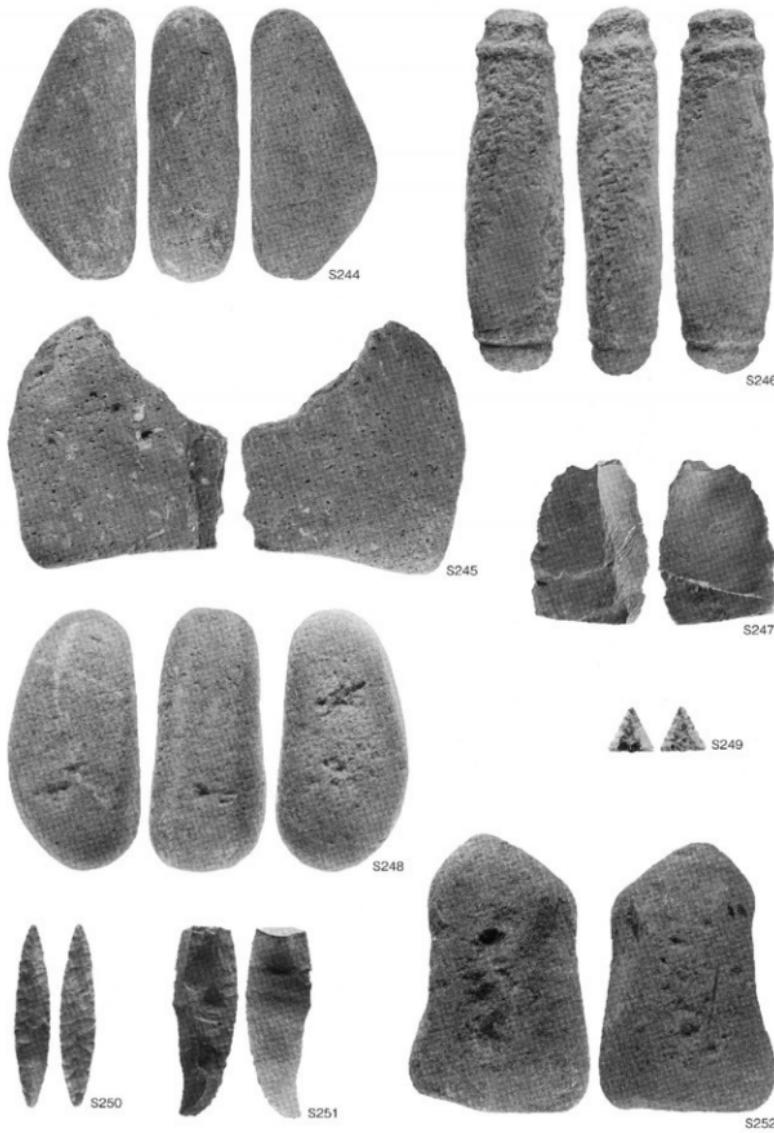
S225・S226・S231・S232はS = 2 : 3、S227・S233はS = 1 : 2、S230はS = 1 : 4、その他はS = 1 : 3

写真図版86 平成20・21年度出土遺物 (20)



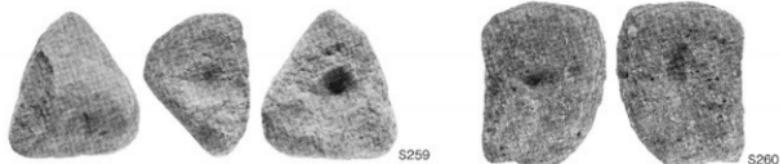
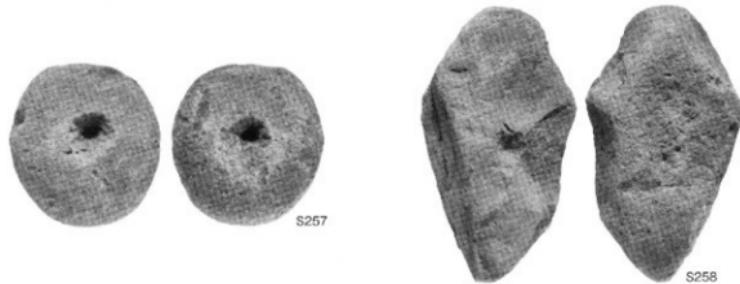
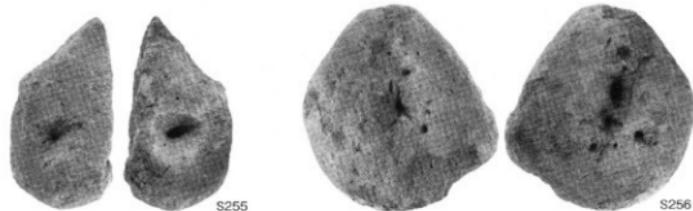
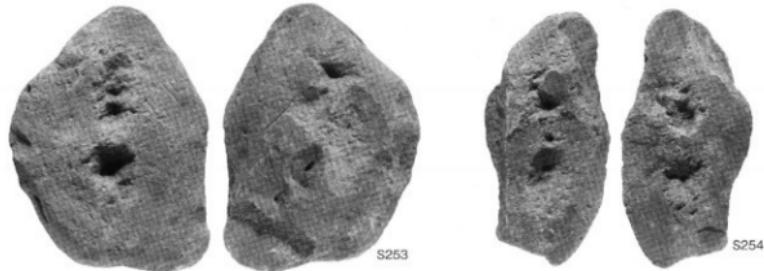
S236はS=2:3、その他はS=1:3

写真図版87 平成20・21年度出土遺物（21）

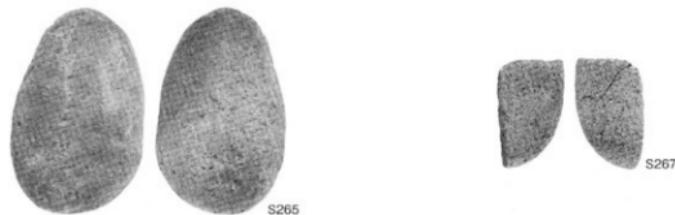
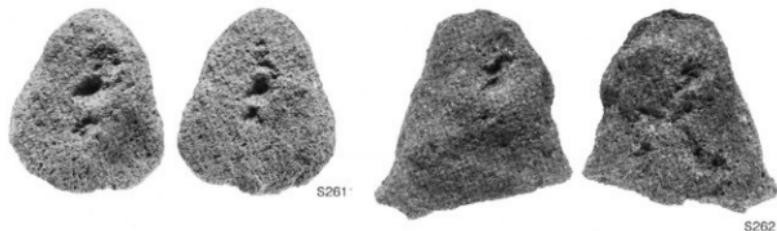


S247・S249・S250・S251は $S = 2 : 3$ 、S245・S246・S252は $S = 1 : 4$ 、その他の $S = 1 : 3$

写真図版88 平成20・21年度出土遺物 (22)

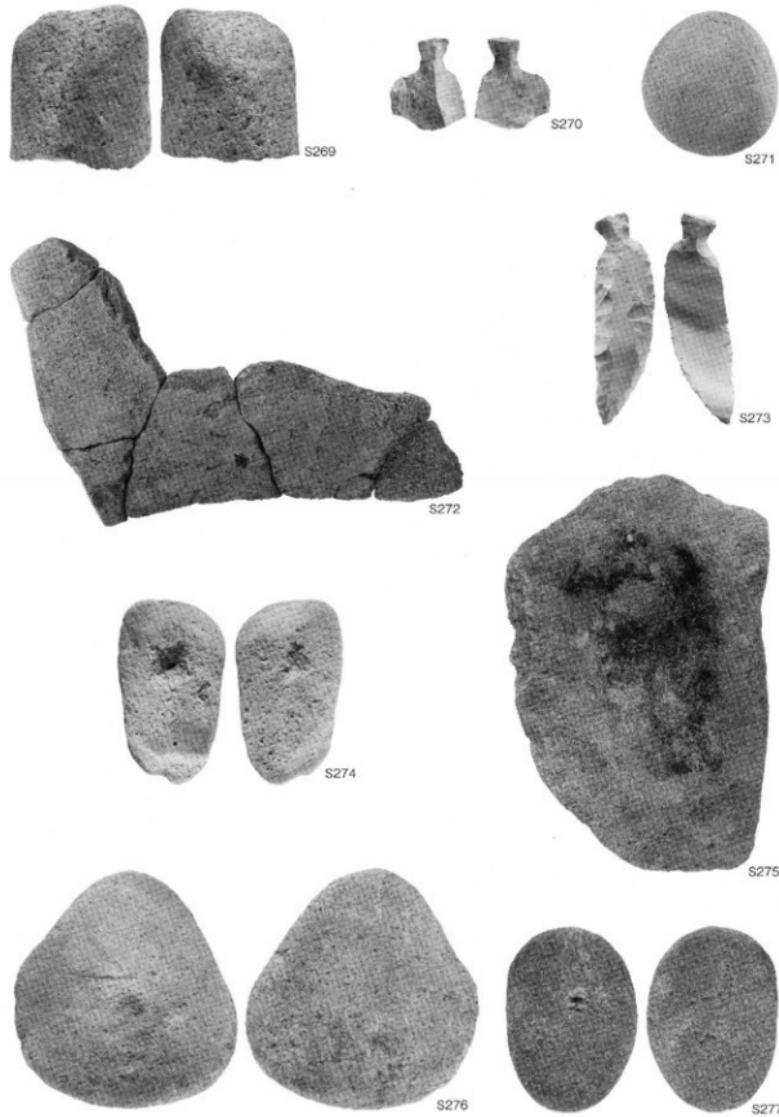


写真図版89 平成20・21年度出土遺物 (23)



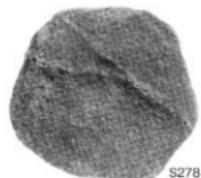
S268はS=1:4、その他はS=1:3

写真図版90 平成20・21年度出土遺物 (24)

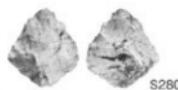


S269・S275・S276はS = 1 : 4、S270・S273はS = 2 : 3、S271はS = 1 : 2、S272はS = 1 : 6、その他はS = 1 : 3

写真図版91 平成20・21年度出土遺物 (25)



S278



S280



S281



S279



S283



S282



S285



S284



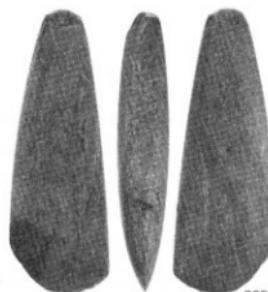
S286

S279・S282・S285はS = 1 : 4、S280・S283・S284はS = 2 : 3、S281はS = 1 : 2、その他はS = 1 : 3

写真図版92 平成20・21年度出土遺物 (26)



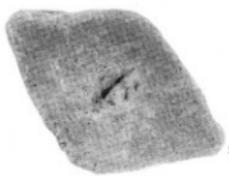
S287



S288



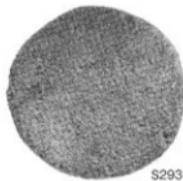
S289



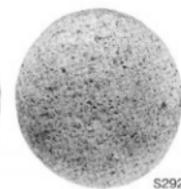
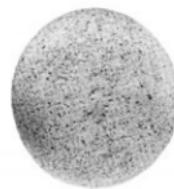
S291



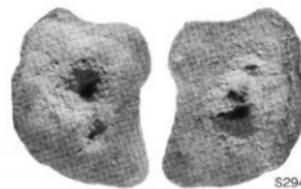
S290



S293



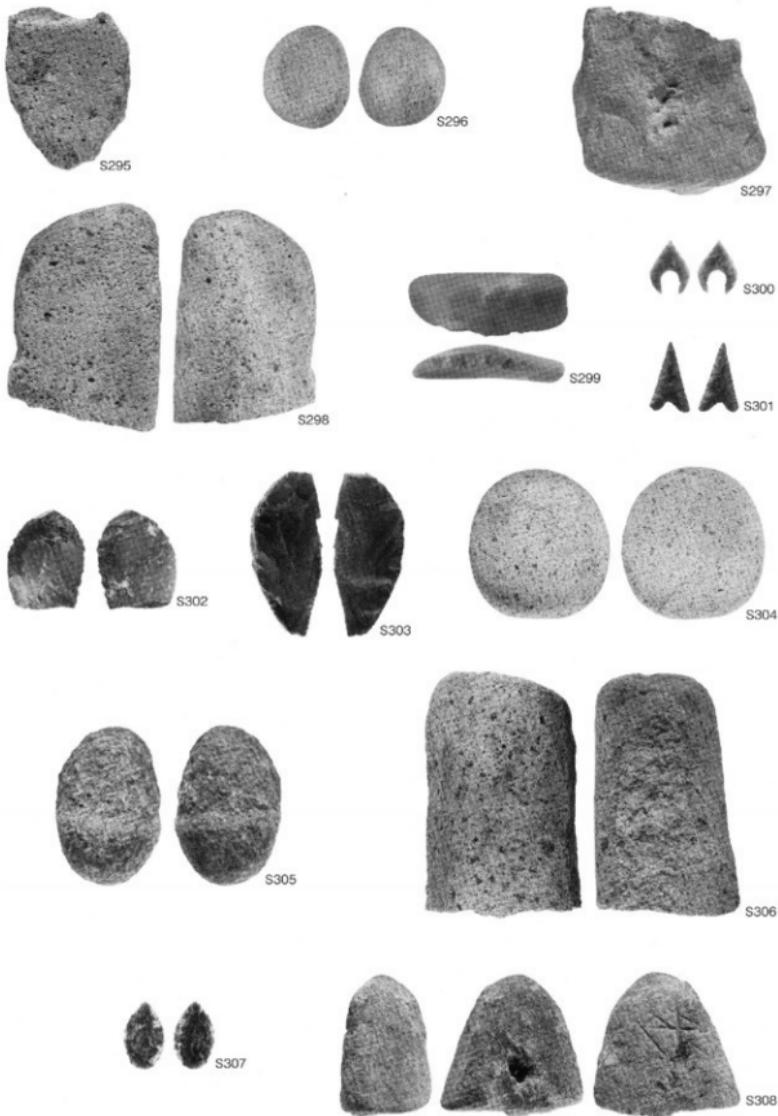
S292



S294

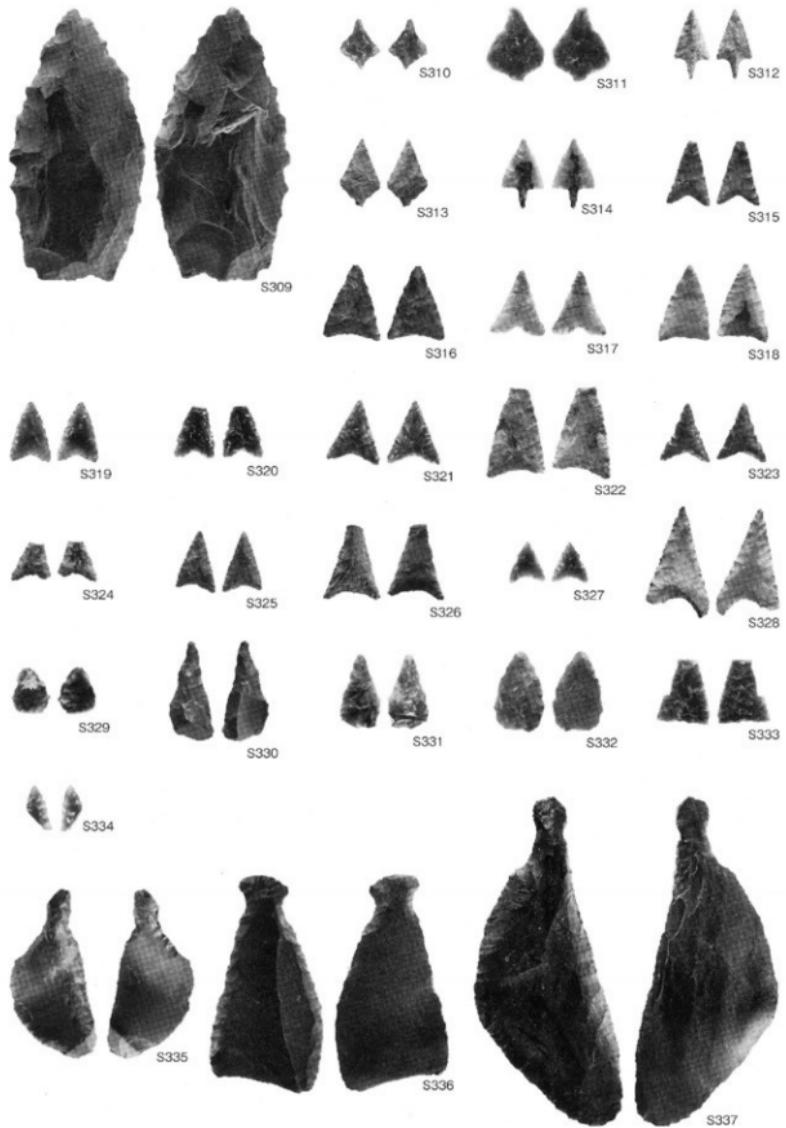
S288はS = 1 : 2、S293はS = 2 : 3、その他はS = 1 : 3

写真図版93 平成20・21年度出土遺物 (27)

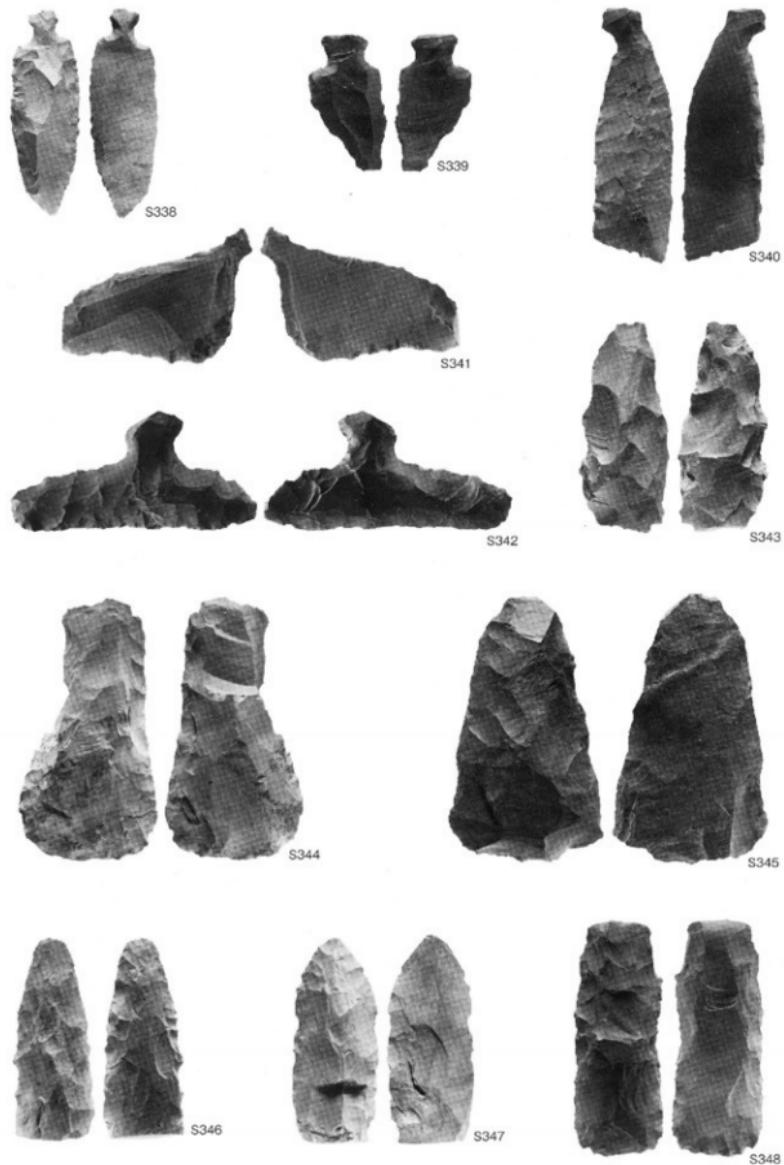


S298・S306はS=1:4、S300～S302・S307はS=2:3、その他はS=1:3

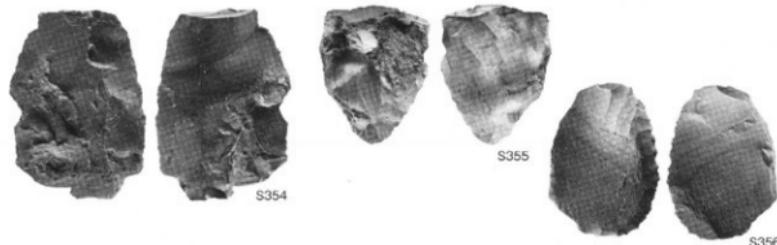
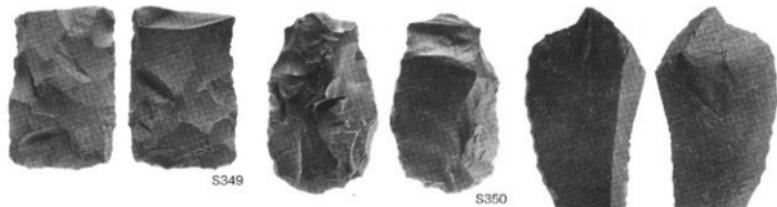
写真図版94 平成20・21年度出土遺物（28）



写真図版95 平成20・21年度出土遺物 (29)



写真図版96 平成20・21年度出土遺物（30）

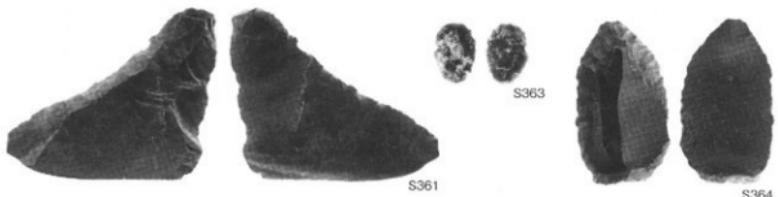


写真図版97 平成20・21年度出土遺物 (31)



S360

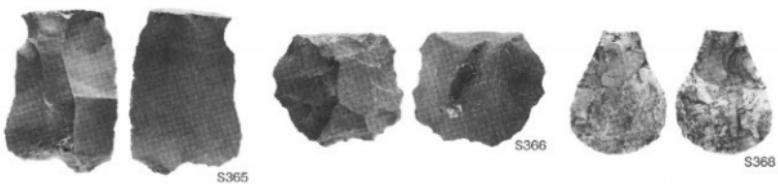
S362



S361

S363

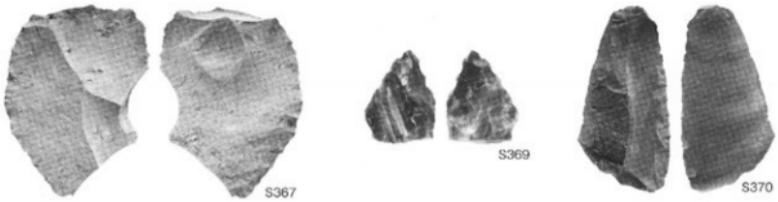
S364



S365

S366

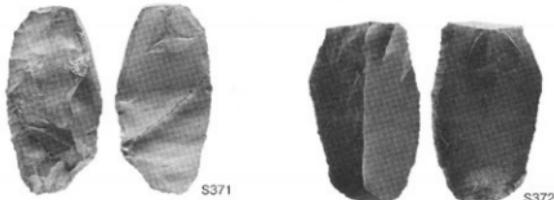
S368



S367

S369

S370



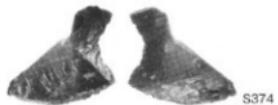
S371

S372

写真図版98 平成20・21年度出土遺物（32）



S373



S374



S375



S376



S377



S378



S379



S380



S381

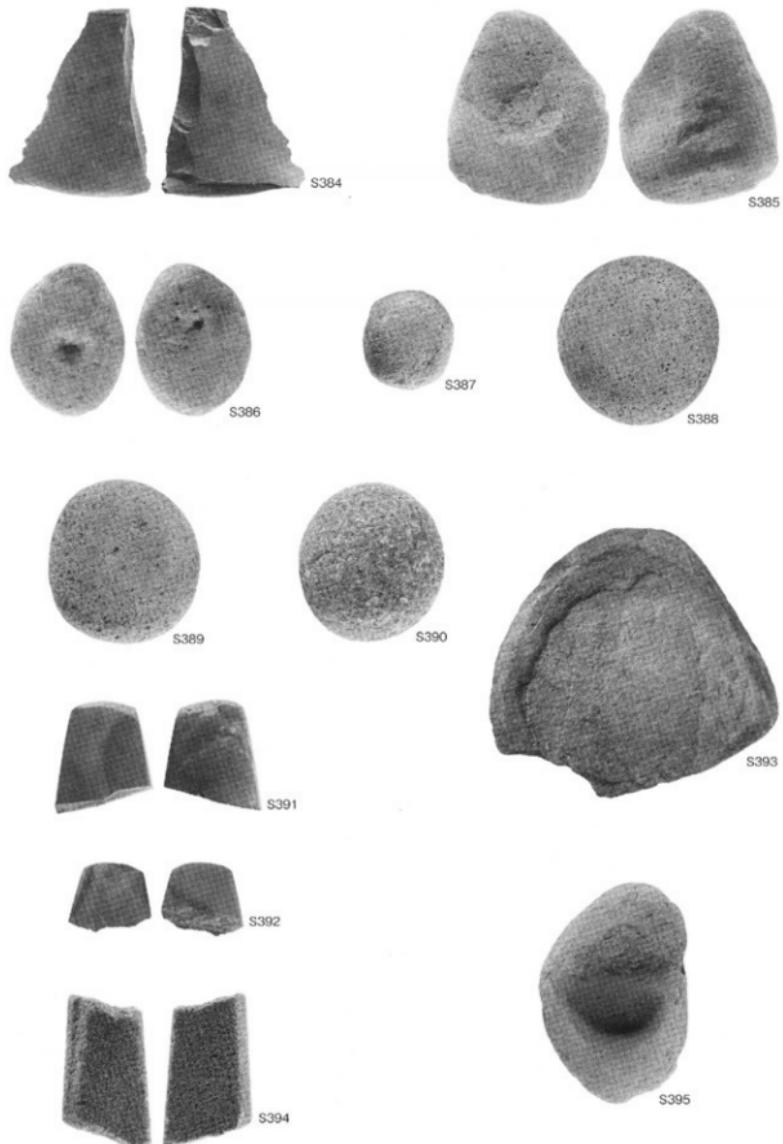


S382



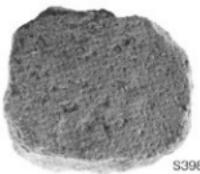
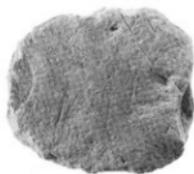
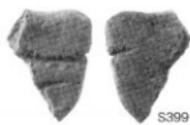
S383

写真図版99 平成20・21年度出土遺物（33）



S384・S391・S392・S394はS = 2 : 3、S393はS = 1 : 4、その他はS = 1 : 3

写真図版100 平成20・21年度出土遺物（34）



S396はS = 1 : 4、S397～S399はS = 2 : 3、その他はS = 1 : 3

写真図版101 平成20・21年度出土遺物（35）

報告書抄録

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第576集

大平野Ⅱ遺跡発掘調査報告書

胆沢ダム建設事業関連遺跡発掘調査

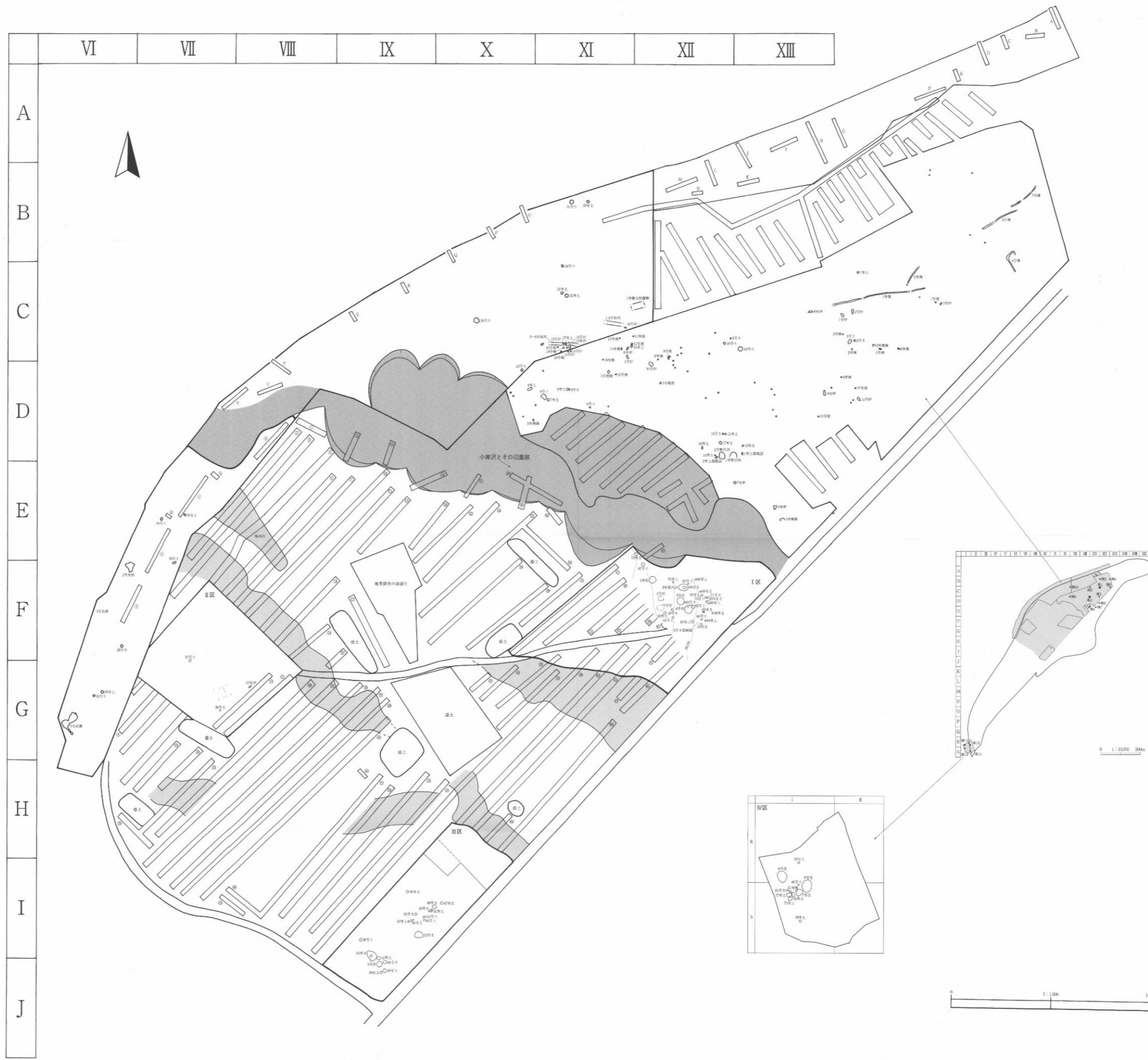
印 刷 平成23年3月17日

発 行 平成23年3月22日

編 集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電話 (019) 638-9001

発 行 國土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所
〒023-0403 岩手県奥州市胆沢区若柳字下松原77
電話 (0197) 46-4711
(財)岩手県文化振興事業団
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号
電話 (019) 654-2235

印 刷 (有)ジロー印刷企画
〒020-0066 岩手県盛岡市上田二丁目17番4号
電話 (019) 651-6644



附図 遺構配置図

